

情報処理学会 創立50周年記念(第72回)全国大会
言語処理学会 第16回年次大会

大会共通プログラム

— Sponsors —



株式会社NTTデータ



— Supporters —



— 主催 —

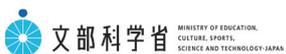


<http://www.ipsj.or.jp/>

— 共催 —



<http://www.nak.ics.keio.ac.jp/NLP/>



※文部科学省の共催は3月12日のみ

— 協賛 —

社団法人 電子情報通信学会
情報・システムソサイエティ



Information Processing Society of Japan 50th Anniversary
72nd National Convention of IPSJ
March 9-11, 2010
The University of Tokyo (Hongo Campus)

2010

コンピュータの無い社会を想像出来ますか?

2010年3月8~12日

プレイベント8日・本大会9~11日・ポストイベント12日

同時開催:ソフトウェアジャパン2010

東京大学本郷キャンパス
東京都文京区本郷 7-3-1

Since 1960

プログラム目次

情報処理学会創立 50 周年記念 (第 72 回) 全国大会プログラム	
インフォメーション	1
会場案内図	2
東京大学本郷キャンパス周辺案内図	3
東京大学本郷キャンパス図	4
東京大学本郷キャンパス 食堂/売店ガイド	6
館内案内図	7
タイムテーブル	18
講演論文集分類と内容	27
全国大会イベント企画 (会場別プログラム)	28
全国大会イベント企画概要	42
全国大会スポンサー展示のご案内	114
全国大会一般/学生/デモ セッションプログラム詳細	117

(第 1 分冊 アーキテクチャ)

1A 計算機アーキテクチャ (一般セッション)	117
2A 仮想化技術 (1) (一般セッション)	117
3A ハイパフォーマンスコンピューティング (一般セッション)	117
4A 設計・検証技術 (一般セッション)	117
1L メニーコア・並列ソフトウェア (学生セッション)	117
2L 並列システムソフトウェア (学生セッション)	117
3L 分散・並列 OS (学生セッション)	117
4L ファイルシステム・I/O (学生セッション)	117
5L 組込み OS (学生セッション)	118
6L 仮想化技術 (2) (学生セッション)	118
1M モデリング・上流設計 (学生セッション)	118
2M ネットワークアーキテクチャ (学生セッション)	118
3M プロセッサアーキテクチャ (学生セッション)	118
4M チップマルチプロセッサ (学生セッション)	118
5M マルチスレッドと分岐 (学生セッション)	119
6M 計算機システム (学生セッション)	119
2T 論理・物理設計 (学生セッション)	119

(第 1 分冊 ソフトウェア科学・工学)

5A 数理モデルとデータマイニング (一般セッション)	119
6A アルゴリズム (一般セッション)	119
1B テスト・検証 (一般セッション)	119
2B システム評価 (一般セッション)	119
3B 数理モデルとシミュレーション (一般セッション)	119
4B ソフトウェアプロダクトライン・アーキテクチャ (一般セッション)	120
5B プロジェクトの定量的管理 (一般セッション)	120
6B 開発支援技術 (一般セッション)	120
1N システム評価 (学生セッション)	120
2N グラフやネットワークに関するアルゴリズム (学生セッション)	120
3N 数理モデルとデータマイニング (学生セッション)	120
4N 数理モデルとシミュレーション (学生セッション)	120
5N アルゴリズム (学生セッション)	121
6N 群知能と複雑ネットワーク (学生セッション)	121
1P ソフトウェアプロセス・開発管理 (学生セッション)	121
2P ソフトウェアの検査・検証 (学生セッション)	121
3P ソフトウェアアーキテクチャ・設計 (学生セッション)	121
4P プログラミング言語 (学生セッション)	121
5P プログラミング環境・教育 (学生セッション)	122
6P ソフトウェア理解支援 (学生セッション)	122
1Q 開発環境・開発支援 (学生セッション)	122
デモセッション	122

(第 1 分冊 データベースとメディア)

1C 情報検索・情報推薦 (一般セッション)	122
2C 情報抽出 (一般セッション)	122
3C Web 検索支援 (一般セッション)	122
4C ソーシャル Web (一般セッション)	123
5C データベース技術一般 (一般セッション)	123
2Q 可視化・Web 情報統合 (学生セッション)	123
3Q 情報抽出 (学生セッション)	123
4Q ストリーム・空間検索 (学生セッション)	123
5Q 情報アクセス技術 (学生セッション)	123
6Q 文書作成支援 (学生セッション)	123
1R Web 検索支援 (学生セッション)	124
2R 文書管理 (学生セッション)	124
3R Web 応用 (学生セッション)	124
4R マルチメディアデータ検索 (学生セッション)	124
5R Web システム (学生セッション)	124
6R データベース技術 (学生セッション)	124
1S ソーシャル Web (学生セッション)	125
2S マイニング・地理情報 (学生セッション)	125
3S 情報推薦 (1) (学生セッション)	125
4S マルチメディア (学生セッション)	125

5S 情報推薦 (2) (学生セッション)	125
6S XML・グラフデータベース (学生セッション)	125
デモセッション	126

(第 2 分冊 人工知能と認知科学)

6C 画像認識応用 (一般セッション)	127
1D 顔・人物画像処理 (1) (一般セッション)	127
2D 音声・音楽情報処理 (一般セッション)	127
3D 自然言語処理 (1) (一般セッション)	127
4D 画像処理・認識 (2) (一般セッション)	127
5D 自然言語処理 (2) (一般セッション)	127
6D 人工知能一般 (2) (一般セッション)	127
1E 学習 (一般セッション)	127
2E 画像処理・認識 (1) (一般セッション)	128
3E 人工知能一般 (1) (一般セッション)	128
1T 音楽分析・生成 (学生セッション)	128
3T 音楽情報の推定と理論 (学生セッション)	128
4T ゲーム (学生セッション)	128
5T 音楽信号処理 (学生セッション)	128
6T 音楽推薦・演奏支援 (学生セッション)	128
1U 音声分析・強調 (学生セッション)	129
2U ニューラルネット (学生セッション)	129
3U 音声認識・理解 (学生セッション)	129
4U 遺伝的アルゴリズム (1) (学生セッション)	129
5U 音声インタフェース・システム (学生セッション)	129
6U 音声・歌声合成 (学生セッション)	129
1V マルチエージェント (1) (学生セッション)	130
2V マルチエージェント (2) (学生セッション)	130
3V 文章・感情 (学生セッション)	130
4V 言語処理支援システム (学生セッション)	130
5V 人工知能一般 (4) (学生セッション)	130
6V 遺伝的アルゴリズム (2) (学生セッション)	130
1W 最適化 (学生セッション)	131
2W 学習 (1) (学生セッション)	131
3W 学習 (2) (学生セッション)	131
4W 機械翻訳 (学生セッション)	131
5W 言語情報抽出 (学生セッション)	131
6W 構文解析・生成・学習 (学生セッション)	131
1X 意味・談話解析 (学生セッション)	132
2X 人工知能と社会 (学生セッション)	132
3X 3次元画像処理・認識 (学生セッション)	132
4X 画像処理 (学生セッション)	132
5X 画像処理・認識 (3) (学生セッション)	132
6X 対話 (学生セッション)	132
1Y 画像生成 (学生セッション)	133
2Y 物体認識 (学生セッション)	133
3Y 線画像・画像検索・映像処理 (学生セッション)	133
4Y 顔・人物画像処理 (2) (学生セッション)	133
5Y ロボットビジョン (学生セッション)	133
6Y 画像応用システム (学生セッション)	133
1Z 人工知能・応用システム (学生セッション)	134
2Z 人工知能一般 (3) (学生セッション)	134
デモセッション	134

(第 3 分冊 ネットワーク)

4E 映像サービスと P2P (一般セッション)	135
5E ユビキタス (一般セッション)	135
6E クラウドと分散処理 (一般セッション)	135
1F モバイル通信と ITS (1) (一般セッション)	135
2F モバイル通信と ITS (2) (一般セッション)	135
3F センシングシステム (1) (一般セッション)	135
4F センシングシステム (2) (一般セッション)	135
5F 社会システムと Web (一般セッション)	135
6F 非常時通信・災害・長遅延 NW (一般セッション)	136
3Z アドホックネットワーク (1) (学生セッション)	136
4Z アドホックネットワーク (2) (学生セッション)	136
5Z 無線通信方式とアクセス制御 (学生セッション)	136
6Z インタラクティブシステム (学生セッション)	136
1ZA 運転支援 (学生セッション)	136
2ZA ITS 応用 (学生セッション)	137
3ZA ナビゲーションシステム (学生セッション)	137
4ZA 交通管理 (学生セッション)	137
5ZA システム運用・管理 (1) (学生セッション)	137
6ZA システム運用・管理 (2) (学生セッション)	137
1ZB ユビキタスデータ管理 (学生セッション)	137
2ZB ユビキタスネットワーク (学生セッション)	138
3ZB ユビキタス応用 (1) (学生セッション)	138
4ZB ユビキタス応用 (2) (学生セッション)	138
5ZB ネットワーク応用 (1) (学生セッション)	138
6ZB ネットワーク応用 (2) (学生セッション)	138
1ZC クラウドコンピューティング (学生セッション)	138

2ZC	P2P (学生セッション).....	139
3ZC	災害時通信 (学生セッション).....	139
4ZC	社会システムと Web (1) (学生セッション).....	139
5ZC	社会システムと Web (2) (学生セッション).....	139
1ZD	位置・コンテキスト推定 (1) (学生セッション).....	139
2ZD	位置・コンテキスト推定 (2) (学生セッション).....	139
3ZD	位置・コンテキスト推定 (3) (学生セッション).....	140
4ZD	マルチメディア情報システム (学生セッション).....	140
5ZD	画像符号化とその応用 (学生セッション).....	140
デモセッション.....140		

(第3分冊 セキュリティ)

1G	セキュリティ基盤 (一般セッション).....	140
2G	ネットワークセキュリティ (一般セッション).....	140
6ZD	ID 連携・アクセス制御 (学生セッション).....	140
1ZE	ネットワークセキュリティ (学生セッション).....	141
2ZE	認証プラットフォーム, 要求仕様 (学生セッション).....	141
3ZE	暗号実装・解析 (学生セッション).....	141
4ZE	システムセキュリティ (学生セッション).....	141
5ZE	プライバシー保護・トラスト (学生セッション).....	141

(第4分冊 インタフェース)

3G	知的ヒューマンインタフェース (一般セッション).....	142
4G	入出力インタフェース (一般セッション).....	142
5G	ユーザインタフェース (一般セッション).....	142
6G	CG 一般 (一般セッション).....	142
1H	グループウェア一般 (一般セッション).....	142
6ZE	ユーザインタフェース評価 (学生セッション).....	142
1ZF	ペンとタッチ (学生セッション).....	142
2ZF	入出力インタフェース (学生セッション).....	143
3ZF	実世界指向 (学生セッション).....	143
4ZF	ロボットとエージェント (学生セッション).....	143
5ZF	Web 応用 (学生セッション).....	143
6ZF	知的ヒューマンインタフェース (学生セッション).....	143
1ZG	コミュニケーション支援 (学生セッション).....	143
2ZG	グループウェア一般 (学生セッション).....	144
3ZG	知的活動支援 (学生セッション).....	144
4ZG	協調基盤と意思決定支援 (学生セッション).....	144
5ZG	組織知 (学生セッション).....	144
6ZG	医療支援 (学生セッション).....	144
1ZH	モデリングとレンダリング (学生セッション).....	144
2ZH	ビジュアルシミュレーションと可視化 (学生セッション).....	145
3ZH	IBR と NPR (学生セッション).....	145
4ZH	情報可視化 (学生セッション).....	145
5ZH	アニメーション (学生セッション).....	145
6ZH	CG システム・応用 (学生セッション).....	145
1ZJ	VR とセンサ・ディスプレイ (学生セッション).....	145
2ZJ	AR 基礎 (学生セッション).....	146
3ZJ	AR システム・応用 (学生セッション).....	146
デモセッション.....146		

(第4分冊 コンピュータと人間社会)

2H	コンピュータと社会 (一般セッション).....	146
3H	教育学習支援システム (一般セッション).....	146
4H	情報技術教育, 教育情報システム (一般セッション).....	146
5H	初中等情報教育, 情報リテラシー (一般セッション).....	146
6H	大学の情報教育 (一般セッション).....	147
1J	情報システムの構築 (一般セッション).....	147
2J	企業活動と情報 (一般セッション).....	147
3J	社会への応用 (一般セッション).....	147
4J	医療のインフォマティクス (一般セッション).....	147
4ZJ	社会情報システム (学生セッション).....	147
5ZJ	幼児・児童教育 (学生セッション).....	147
6ZJ	語学教育・芸能教育 (学生セッション).....	148
1ZK	モバイル学習, e-learning (学生セッション).....	148
2ZK	子育て・高齢者・介護 (学生セッション).....	148
3ZK	教育情報システム, PBL (学生セッション).....	148
4ZK	情報科学工学教育 (学生セッション).....	148
5ZK	プログラミング教育 (学生セッション).....	148
6ZK	教育支援システム (学生セッション).....	149
1ZL	防災, 防犯と情報 (学生セッション).....	149
2ZL	バイオインフォマティクスと医療 (学生セッション).....	149
3ZL	医療情報システム (学生セッション).....	149
4ZL	地域社会 (学生セッション).....	149
5ZL	マーケティング・情報抽出 (学生セッション).....	149
6ZL	商業活動 (学生セッション).....	150
1ZM	ソーシャルネットワーク (学生セッション).....	150
2ZM	企業活動と情報 (学生セッション).....	150
3ZM	大学・芸術 (学生セッション).....	150
4ZM	ゲーム技術・評価 (学生セッション).....	150
5ZM	エンタテインメントの認知・心理 (学生セッション).....	150
6ZM	農業・地域社会 (学生セッション).....	150
1ZN	コンテンツ制作 (学生セッション).....	151
デモセッション.....151		

(第5分冊 「情報爆発」時代に向けた新 IT 基盤技術)

5J	情報爆発時代における知識社会形成ガバナンス (一般セッション).....	152
6J	情報爆発時代における対話ロボティクス (一般セッション).....	152
1K	情報爆発時代における大規模画像処理システム (一般セッション).....	152
2K	情報爆発時代におけるアルゴリズム高効率化 (一般セッション).....	152
3K	情報爆発時代におけるテキスト処理・Wikipedia (一般セッション).....	152
4K	情報爆発時代におけるライフログ・センサー処理 (一般セッション).....	152
5K	情報爆発時代における Web 解析 (一般セッション).....	152
6K	情報爆発時代における並列分散処理技術 (一般セッション).....	153
6ZC	情報爆発時代における Web パーティカル検索 (学生セッション).....	153
2ZN	情報爆発時代における対話インタラクション (学生セッション).....	153
3ZN	情報爆発時代におけるビジュアルデザイン (学生セッション).....	153
4ZN	情報爆発時代におけるインタラクティブアプリケーション (学生セッション).....	153
5ZN	情報爆発時代における Web マイニング (学生セッション).....	153
6ZN	情報爆発時代におけるマルチメディア処理 (学生セッション).....	153
1ZP	情報爆発時代におけるネットワーク技術 (学生セッション).....	154
2ZP	情報爆発時代における分散処理と運用技術 (学生セッション).....	154
3ZP	情報爆発時代におけるデータマイニング・アルゴリズム (学生セッション).....	154
4ZP	情報爆発時代における Web 検索技術 (学生セッション).....	154
5ZP	情報爆発時代におけるストレージ管理 (学生セッション).....	154
6ZP	情報爆発時代における位置情報処理 (学生セッション).....	154
デモセッション.....155		

言語処理学会第 16 回年次大会プログラム

言語処理学会第 16 回年次大会 委員名簿.....	158
開催案内・会場案内.....	159
発表者へのご案内.....	160
本会議プログラム.....	161
Plenary session.....	162
一般発表.....	162
A1 解析.....	162
B1 要約・質問応答.....	162
C1 情報抽出 (1).....	163
D1 情報爆発特別セッション (1).....	163
S1 「言語表現」と「言語」のあいだ.....	164
A2 評判・感情.....	164
B2 機械翻訳 (1).....	165
C2 対話・音声言語処理.....	165
D2 Web 応用.....	165
S2 協調的な自然言語処理.....	166
PA1 ポスター (1).....	166
PB1 ポスター (2).....	168
PA2 ポスター (3).....	169
PB2 ポスター (4).....	171
A3 語彙・辞書 (1).....	171
B3 文書分類.....	172
C3 言い換え・生成.....	172
D3 文脈処理.....	173
E3 意味論・意味解析.....	173
A4 教育・応用.....	174
B4 機械翻訳 (2).....	174
C4 言語資源・コーパス.....	174
D4 情報爆発特別セッション (2).....	175
E4 心理・認知言語学.....	175
A5 語彙・辞書 (2).....	176
B5 機械翻訳 (3).....	176
C5 情報抽出 (2).....	176
D5 テキスト・データマイニング.....	177
E5 言語学的分析.....	177

- インフォメーション -

■大会総受付（インフォメーションコーナー）工学部新2号館2F フォーラム

受付時間：8日（月）8:30-17:00 9日（火）8:30-17:00 10日（水）8:30-17:00
11日（木）8:30-16:00 12日（金）8:30-16:00
各種受付、講演論文集・DVD-ROM販売、各種問合せ窓口

■大会本部・手荷物預かり 工学部新2号館2F 222号講義室（23A）

臨時電話兼FAX番号：03-5841-1274（通話可能期間3月8日～12日）

■聴講参加無料【大会共通プログラム・参加章付き】

情報処理学会創立50周年記念（第72回）全国大会、言語処理学会第16回年次大会、ソフトウェアジャパン2010全て無料で聴講参加できます。

■論文集・DVD-ROM・CD-ROM等販売（税込）

【情報処理学会】

講演論文集セット（全論文集・DVD-ROM・カバー付き）：43,000円
講演論文集各分冊：9,000円
大会共通講演論文集DVD-ROM：7,000円
*大会共通講演論文集DVD-ROMには両学会の一般講演全論文とプログラム収録

【言語処理学会】

発表論文集：6,000円
第16回年次大会CD-ROM：1,000円

■懇親会

【情報処理学会】

日時：2010年3月10日（水）18:00-20:00
会場：本郷キャンパス内 山上会館 B1F 食堂
参加費（税込）：社会人2,000円 学生1,000円

【言語処理学会】

日時：2010年3月10日（水）18:30～21:00
会場：東京大学本郷キャンパス 医学部研究棟 13F Capo PELLICANO 本郷店
参加費（税込）：一般5,000円 学生4,000円

■その他お知らせ事項

【連絡掲示板】

大会会場での周知および伝言等は、大会総受付前に設置する「連絡掲示板」に掲示しますのでご注意ください。
各会場への個別の連絡や館内アナウンス等は致しません。

【インターネット接続（無線LAN）】

利用可能エリア：工学部2号館内の各会場および2号館フォーラム
ご希望の方は、大会総受付に利用申込書がございますので、必要事項をご記入のうえ総受付に提出してください。
ご希望の方は、大会総受付に利用申込書がございますので必要事項をご記入のうえ総受付に提出してください。
利用申込書と引き換えにアカウントとパスワードを記載した用紙をお渡し致します。

【食堂・売店】*以下以外にも食堂・売店等キャンパス内に多数ございます。

安田講堂前地下 生協 中央食堂（営業時間 11:00-21:00）
工学部新2号館2F SUBWAY（営業時間 8:30-20:00）
工学部2号館1Fレストラン松本楼（営業時間 11:00-21:00）
法文2号館B1F 生協 银杏メトロ食堂（営業時間 11:00-20:00）

【喫煙について】

キャンパス内は、指定された喫煙場所以外は全て禁煙です。

【最寄り駅】

- ・本郷三丁目駅（地下鉄丸の内線） 徒歩8分
- ・本郷三丁目駅（地下鉄大江戸線） 徒歩6分
- ・湯島駅又は根津駅（地下鉄千代田線） 徒歩8分
- ・東大前駅（地下鉄南北線） 徒歩1分
- ・春日駅（地下鉄三田線） 徒歩10分

■今後の全国大会・FIT情報

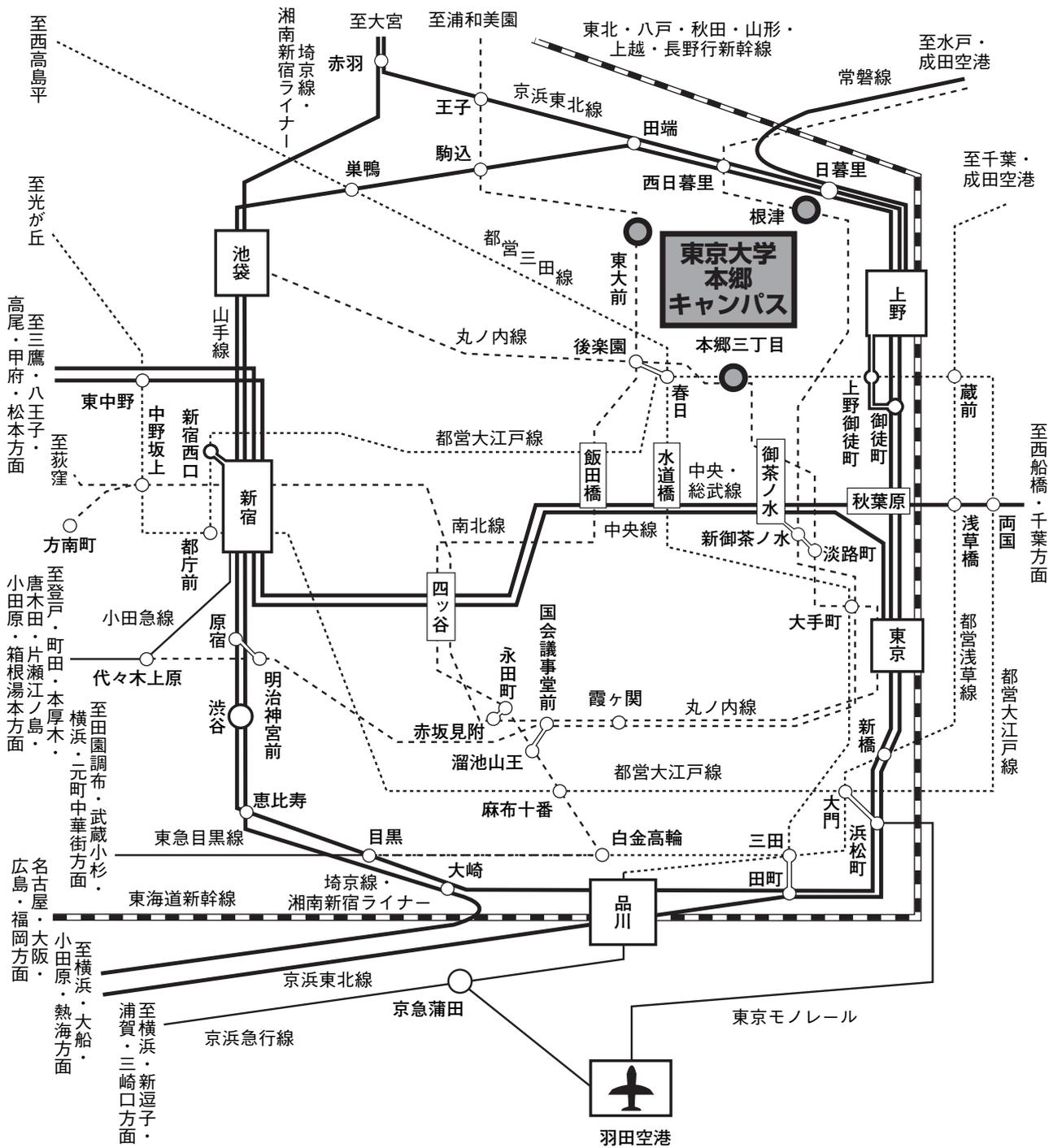
FIT2010 第9回情報科学技術フォーラム
会期：2010年9月7日（火）～9日（木）
会場：九州大学 伊都キャンパス
第73回全国大会
会期：2011年3月2日（水）～4日（金）
会場：東京工業大学 大岡山キャンパス

会場案内図

- 電車 [東大前駅 (東京メトロ南北線) → 徒歩約6分]
 [根津駅 (東京メトロ千代田線) → 徒歩約8分]
 [本郷三丁目駅 (東京メトロ丸ノ内線 / 都営地下鉄大江戸線) → 徒歩約8分]

◎最寄駅までのアクセス

- ・東京駅 (東京メトロ丸ノ内線) → 本郷三丁目駅
- ・新宿駅 (都営地下鉄大江戸線「新宿西口」駅) → 本郷三丁目駅
- ・池袋駅 (東京メトロ丸ノ内線) → 本郷三丁目駅
- ・上野駅 (徒歩6分) → 上野御徒町駅 (都営地下鉄大江戸線) → 本郷三丁目駅
- ・羽田空港 (京浜急行線・都営地下鉄浅草線直通) → 三田駅 (都営地下鉄三田線) → 春日駅 (都営地下鉄大江戸線) → 本郷三丁目駅



東京大学本郷キャンパス周辺案内図



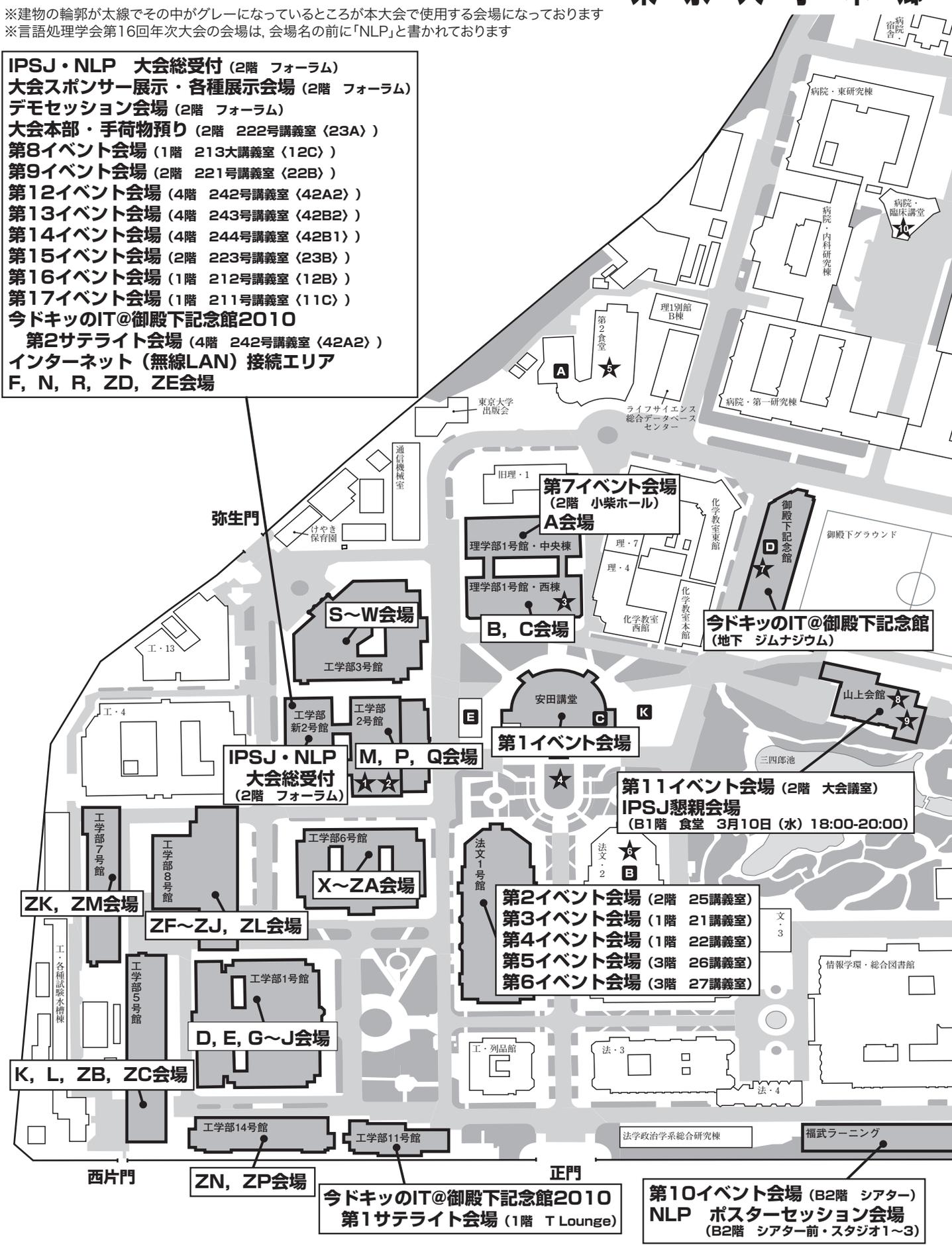
**情報処理学会
 創立50周年記念
 (第72回) 全国大会
 ソフトウェアジャパン 2010**
 ・
**言語処理学会
 第16回年次大会
 会場**

注：10日は赤門付近は入試合格発表のため混雑が予想されますので正門または懐徳門をご利用ください。

東京大学本郷

※建物の輪郭が太線でその中がグレーになっているところが本大会で使用する会場となっております
 ※言語処理学会第16回年次大会の会場は、会場名の前に「NLP」と書かれております

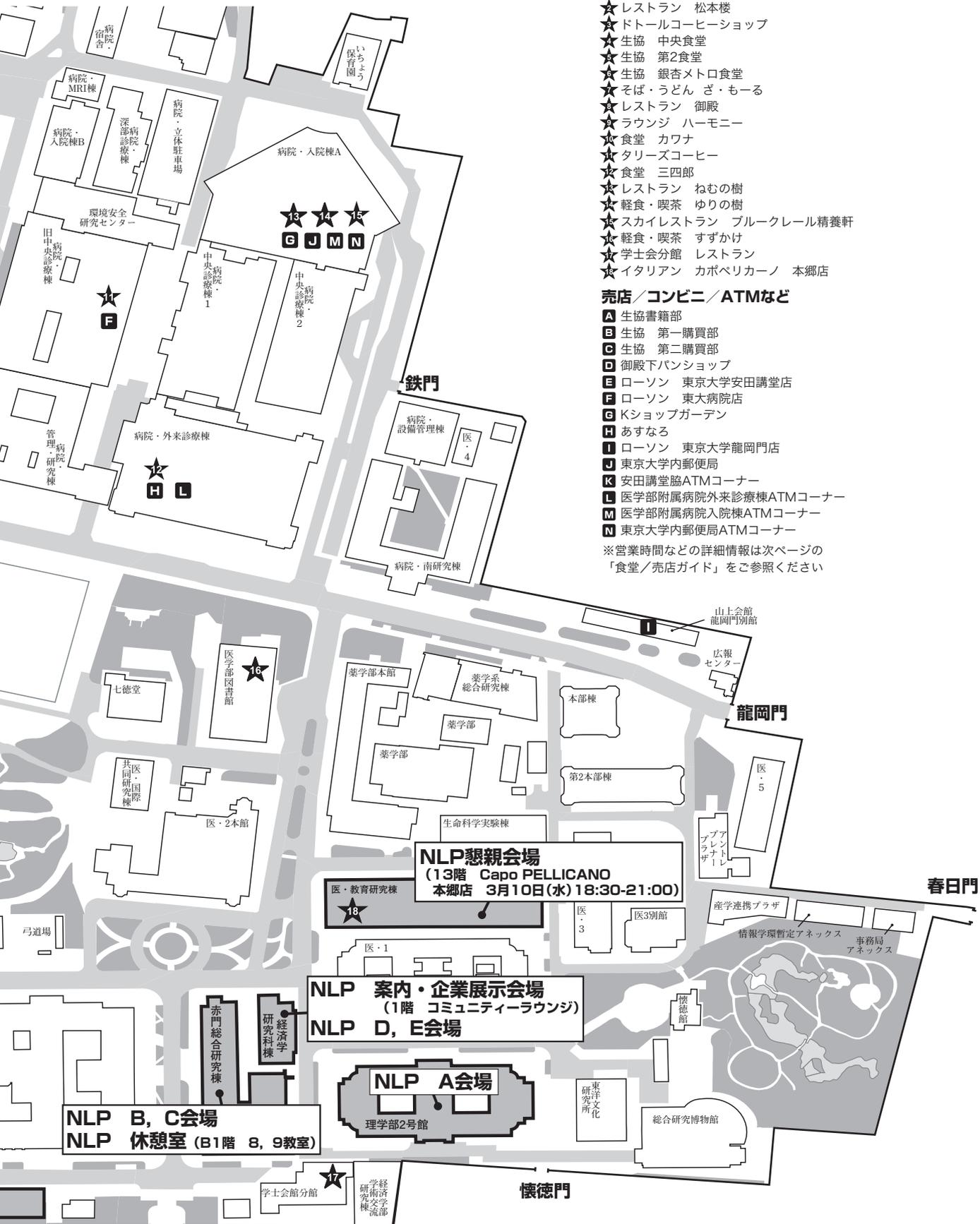
- IPSJ・NLP 大会総受付 (2階 フォーラム)
- 大会スポンサー展示・各種展示会場 (2階 フォーラム)
- デモセッション会場 (2階 フォーラム)
- 大会本部・手荷物預り (2階 222号講義室 (23A))
- 第8イベント会場 (1階 213号講義室 (12C))
- 第9イベント会場 (2階 221号講義室 (22B))
- 第12イベント会場 (4階 242号講義室 (42A2))
- 第13イベント会場 (4階 243号講義室 (42B2))
- 第14イベント会場 (4階 244号講義室 (42B1))
- 第15イベント会場 (2階 223号講義室 (23B))
- 第16イベント会場 (1階 212号講義室 (12B))
- 第17イベント会場 (1階 211号講義室 (11C))
- 今ドキッのIT@御殿下記念館2010
- 第2サテライト会場 (4階 242号講義室 (42A2))
- インターネット (無線LAN) 接続エリア
F, N, R, ZD, ZE会場



今ドキッのIT@御殿下記念館2010
 第1サテライト会場 (1階 T Lounge)

第10イベント会場 (B2階 シアター)
 NLP ポスターセッション会場
 (B2階 シアター前・スタジオ1~3)

キャンパス図



食堂/レストラン

- ★ サブウェイ
- ★ レストラン 松本楼
- ★ ドトールコーヒーショップ
- ★ 生協 中央食堂
- ★ 生協 第2食堂
- ★ 生協 銀杏メトロ食堂
- ★ そば・うどん ん・もーる
- ★ レストラン 御殿
- ★ ラウンジ ハーモニー
- ★ 食堂 カワナ
- ★ タリーズコーヒー
- ★ 食堂 三四郎
- ★ レストラン ねむの樹
- ★ 軽食・喫茶 ゆりの樹
- ★ スカイレストラン ブルークレール精養軒
- ★ 軽食・喫茶 すずかけ
- ★ 学生会分館 レストラン
- ★ イタリアン カボベリカーノ 本郷店

売店/コンビニ/ATMなど

- A 生協書籍部
- B 生協 第一購買部
- C 生協 第二購買部
- D 御殿下パンショップ
- E ローソン 東京大学安田講堂店
- F ローソン 東大病院店
- G Kショップガーデン
- H あすなる
- I ローソン 東京大学龍岡門店
- J 東京大学内郵便局
- K 安田講堂脇ATMコーナー
- L 医学部附属病院外来診療棟ATMコーナー
- M 医学部附属病院入院棟ATMコーナー
- N 東京大学内郵便局ATMコーナー

※営業時間などの詳細情報は次ページの「食堂/売店ガイド」をご参照ください

NLP懇親会場
(13階 Capo PELLICANO)
本郷店 3月10日(水) 18:30-21:00

NLP 案内・企業展示会場
(1階 コミュニティーラウンジ)
NLP D, E会場

NLP A会場
理学部2号館

NLP B, C会場
NLP 休憩室 (B1階 8, 9教室)

注：10日は赤門付近は入試合格発表のため混雑が予想されますので正門または懐徳門をご利用ください。

東京大学 本郷キャンパス 食堂/売店ガイド

	<p>1 サブウェイ SUBWAY</p> <p>工学部2号館 2階 営業時間：8:30-20:00 TEL：03-3814-4556 (87539) ※イベントにあわせて臨時営業・臨時休業の場合があります。</p>		<p>2 レストラン 松本楼 Restaurant "Matsumoto-ro"</p> <p>工学部2号館 2階 営業時間：11:00-21:00 (L.O. 20:30) TEL：03-5805-5608</p>		<p>3 ドトールコーヒESHOP Doutor Coffee Shop</p> <p>理学部1号館西棟 1階 営業時間：8:30-19:00 TEL：03-5684-7735</p>
	<p>4 生協 中央食堂 Co-op Refectory "Chuo Shokudo"</p> <p>安田講堂前広場 地下1階 営業時間：11:00-21:00 TEL：03-3812-7336 (27997)</p>		<p>5 生協 第2食堂 Co-op Refectory "Daini Shokudo"</p> <p>第二食堂建物 2階 営業時間：8:00-14:30 TEL：03-3811-4889 (27995)</p>		<p>6 生協 銀杏メトロ食堂 Co-op Refectory "Ichio-Metro Shokudo"</p> <p>法文2号館 地下1階 営業時間：11:00-20:00 TEL：03-3811-5297 (27996)</p>
	<p>7 そば・うどん ざ・もーる Noodle Restaurant "The Mall"</p> <p>御殿下記念館附属棟 1階 営業時間：11:00-15:00 TEL：03-5841-7947 (27947)</p>		<p>8 レストラン 御殿 Restaurant "Goten"</p> <p>山上会館 地下1階 営業時間：11:00-14:00 (L.O. 13:30) TEL：03-3818-8888 (22344)</p>		<p>9 ラウンジ ハーモニー Lounge "Harmony"</p> <p>山上会館 1階 営業時間：9:30-15:30 TEL：03-3818-0193 (22329)</p>
	<p>10 食堂 カワナ Restaurant "Kawana"</p> <p>医学部附属病院 臨床講堂 1階 営業時間：8:30-18:00 TEL：03-3811-4381 (35922)</p>		<p>11 タリーズコーヒー Tully's Coffee</p> <p>医学部附属病院 旧中央診療棟 1階 営業時間：7:00-20:00 TEL：03-5842-2166</p>		<p>12 食堂 三四郎 Restaurant "Sanshiro"</p> <p>医学部附属病院 外来診療棟 地下1階 営業時間：8:30-17:00 TEL：03-3811-1955 (35924)</p>
	<p>13 レストラン ねむの樹 Restaurant "Nemu-no-Ki"</p> <p>医学部附属病院 入院棟A 1階 営業時間：8:00-21:00 TEL：03-3811-7557 (31873)</p>		<p>14 軽食・喫茶 ゆりの樹 Restaurant "Yuri-no-Ki"</p> <p>医学部附属病院 入院棟A 1階 営業時間：8:00-19:00 TEL：3815-5411 (31867)</p>		<p>15 スカイレストラン ブルークレール精養軒 Sky Restaurant "Blue Clair Seiyoken"</p> <p>医学部附属病院 入院棟A 15階 営業時間：11:00-20:00 (L.O. 19:30) TEL：03-5842-8261</p>
	<p>16 軽食・喫茶 すずかけ Restaurant "Suzukake"</p> <p>医学部図書館 地下1階 営業時間：10:00-15:00 17:00-21:00 TEL：03-5802-5146 (83685)</p>		<p>17 学生会分館 レストラン Restaurant "Gakushi Club Annex"</p> <p>学生会分館 1階 営業時間：11:30-14:00 16:30-20:30 TEL：03-3814-5541 (87969)</p>		<p>18 イタリアン カポペリカーノ 本郷店 Italian "Capo PELLICANO"</p> <p>医学部教育研究棟 13階 営業時間：11:00-15:00 15:00-18:00 18:00-22:00 (L.O. 21:00) TEL：03-5841-1527 (21527)</p>

★～★18 は前ページの「東京大学本郷キャンパス図」の番号と対応しております。

売店・コンビニ・郵便局		ATMコーナー（銀行・郵便局）	
A 生協書籍部 第二食堂建物 1階 営業時間：10:00-19:00	G Kショップガーデン 医学部附属病院入院棟A 1階 営業時間：7:00-20:00	K 安田講堂脇ATMコーナー 安田講堂脇（南側） 三井住友銀行 8:45-19:00 三菱東京UFJ銀行 8:45-19:00 みずほ銀行 8:45-19:00	L 医学部附属病院外来診療棟ATMコーナー 医学部附属病院外来診療棟 1階 みずほ銀行 9:00-18:00
B 生協 第一購買部 法文2号館 1階 営業時間：10:00-18:30	H あすなろ 医学部附属病院外来診療棟 1階 営業時間：8:00-16:30	M 医学部附属病院入院棟ATMコーナー 医学部附属病院入院棟A 1階 みずほ銀行 9:00-18:00	N 東京大学内郵便局ATMコーナー 医学部附属病院入院棟A 1階 ゆうちょ銀行 8:00-20:00
C 生協 第二購買部 安田講堂脇（南側） 営業時間：8:00-21:00	I ローソン 東京大学龍岡門店 山上会館龍岡門別館 1階 営業時間：24時間営業	※キャンパス内のローソン各店舗にもATMコーナーが設置されております	
D 御殿下パンショップ 御殿下記念館附属棟 1階 営業時間：9:00-16:00	J 東京大学内郵便局 医学部附属病院入院棟A 1階 郵便業務：9:00-17:00 貯金・保険：9:00-16:00 ATM：8:00-20:00		
E ローソン 東京大学安田講堂店 安田講堂脇（北側） 営業時間：24時間営業			
F ローソン 東大病院店 医学部附属病院中央診療棟 地下1階 営業時間：24時間営業			

A～**N** は前ページの「東京大学本郷キャンパス図」の番号と対応しております。

※掲載されている情報は平成18年5月現在のものです。年末年始・夏季休暇等により一部変更が生じる場合もございます。

工学部2号館

2階

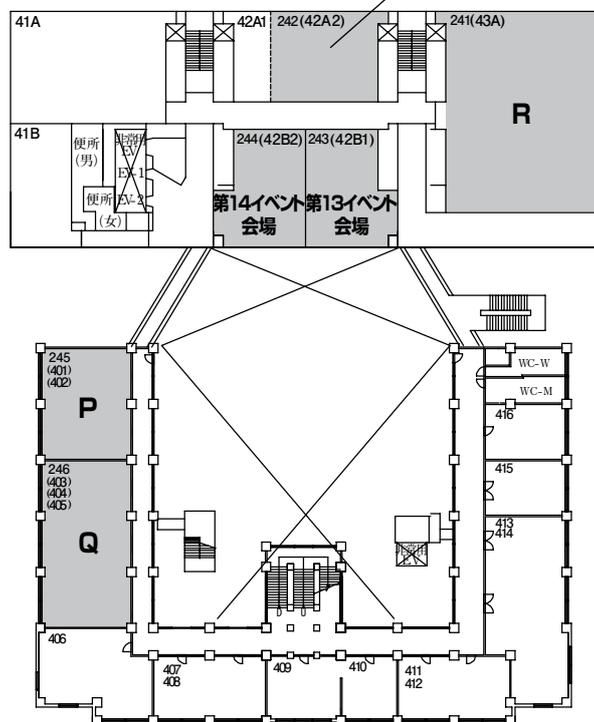


新2号館

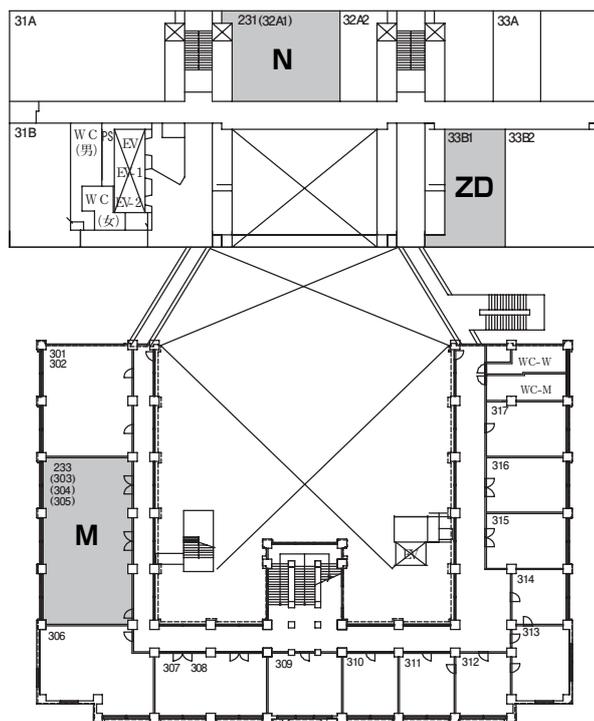
2号館

4階

3/9-10:今ドキッのIT@御殿下記念館2010
第2サテライト会場
3/11:第12イベント会場



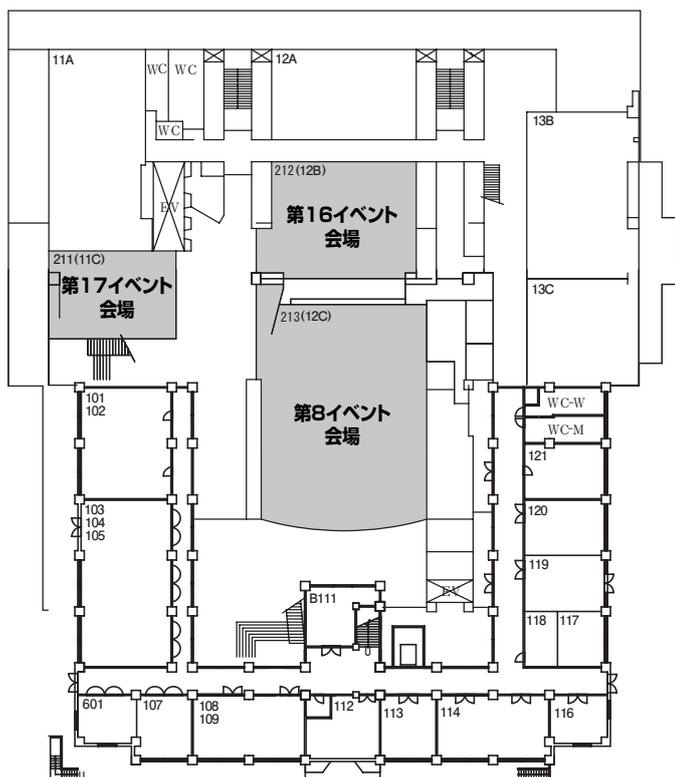
3階



新2号館

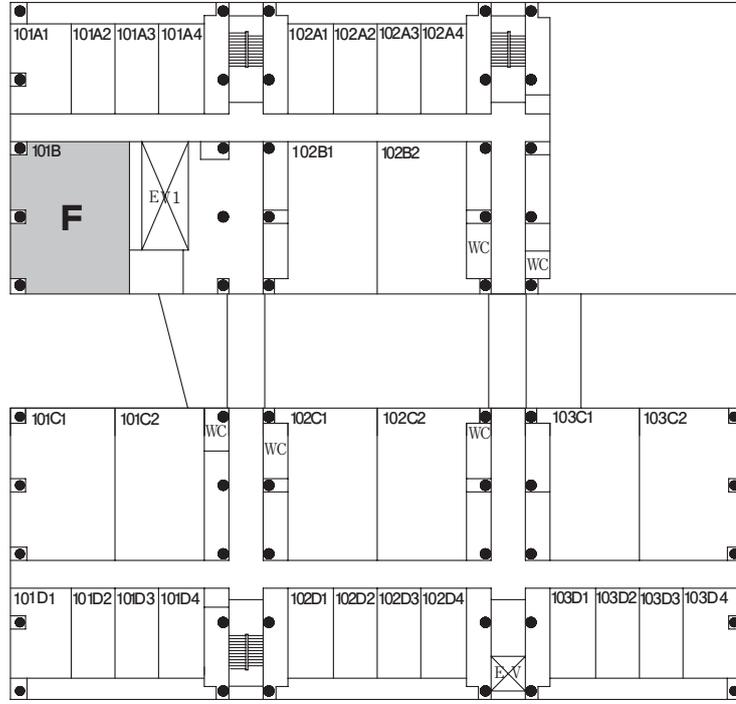
2号館

1階

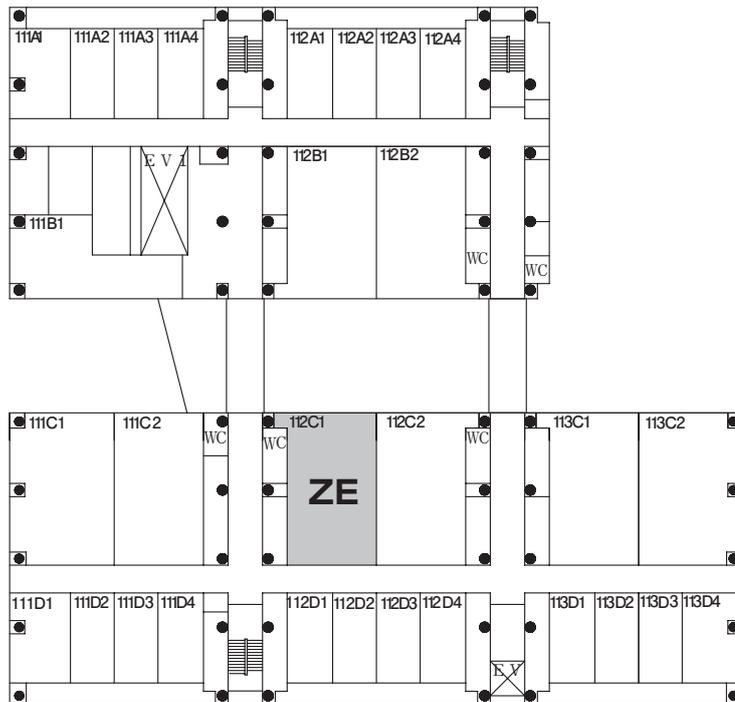


工学部2号館

10階

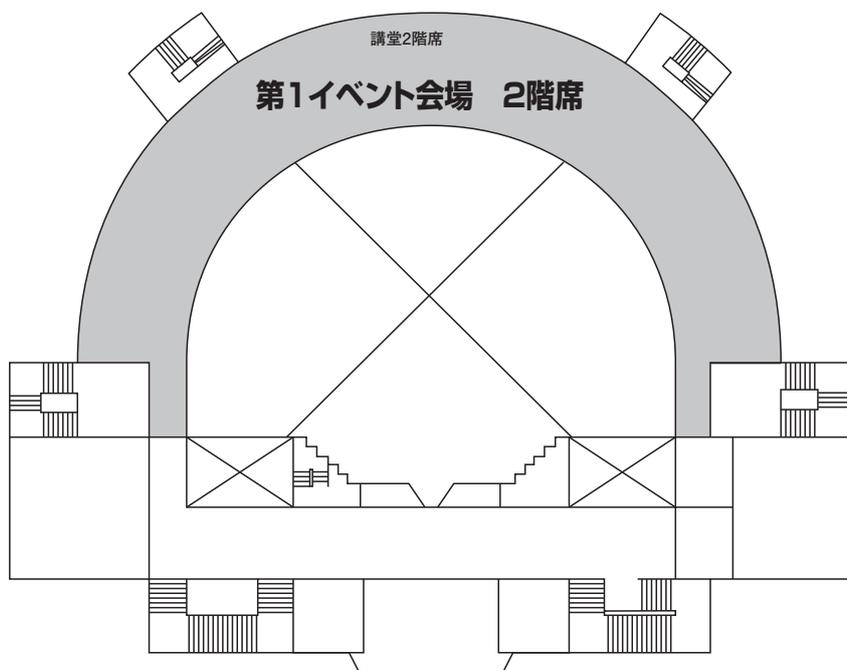


11階

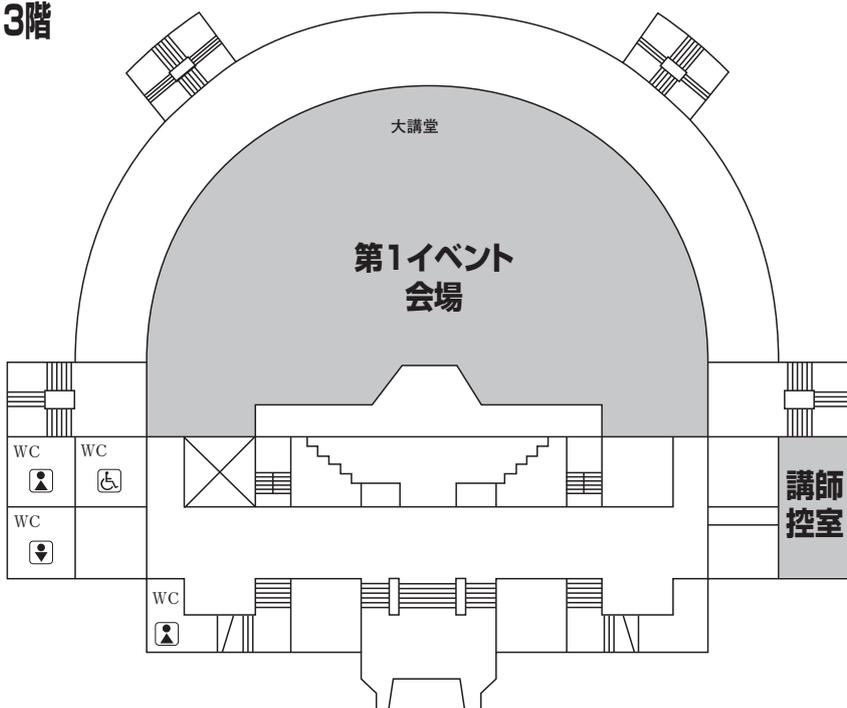


安田講堂

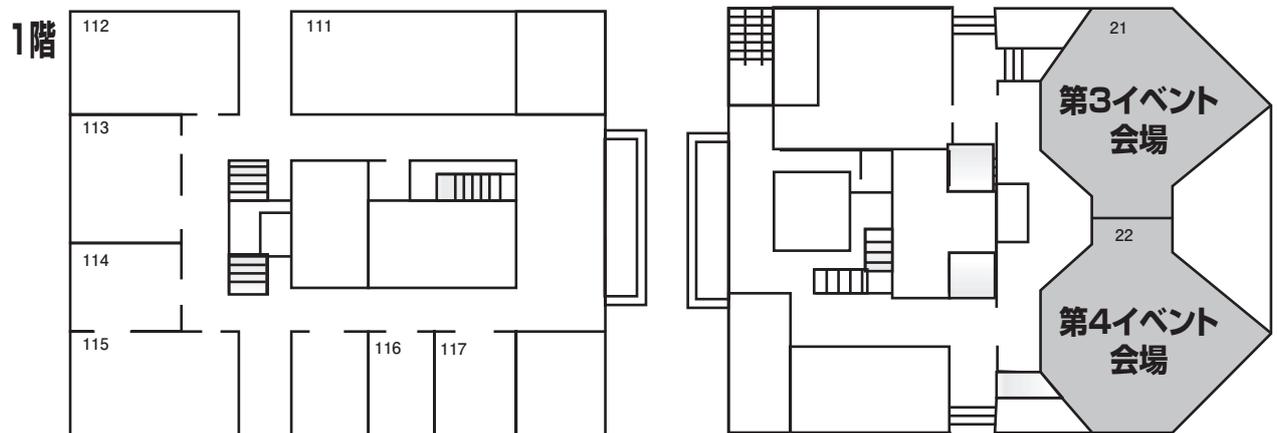
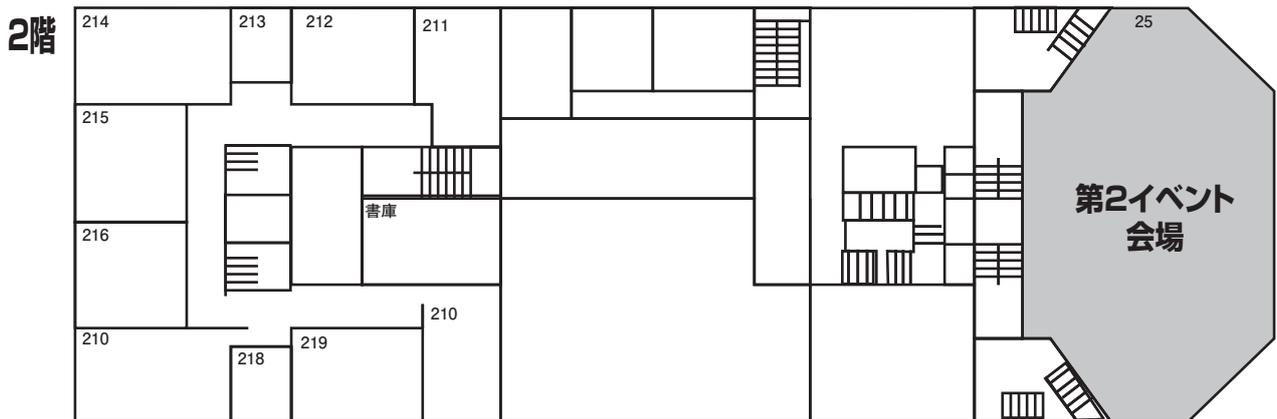
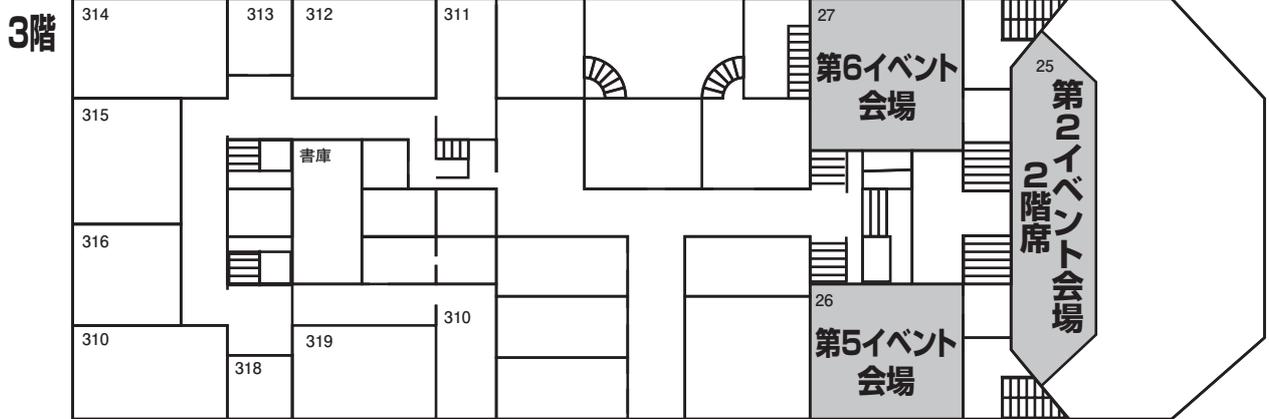
4階



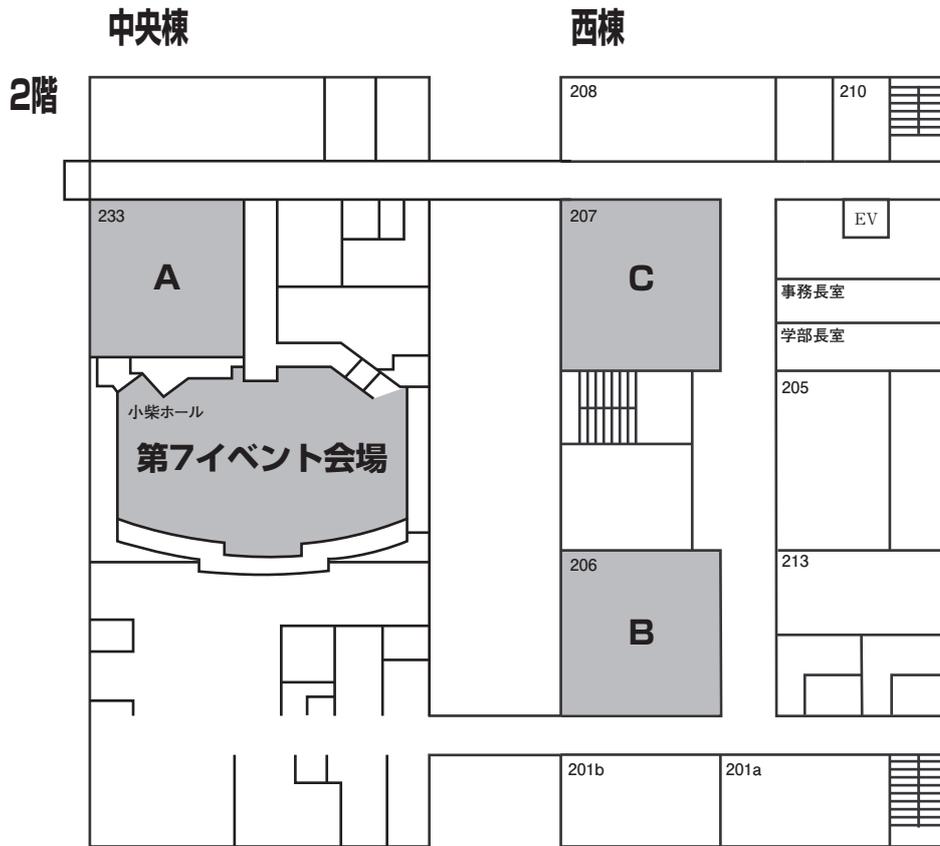
3階



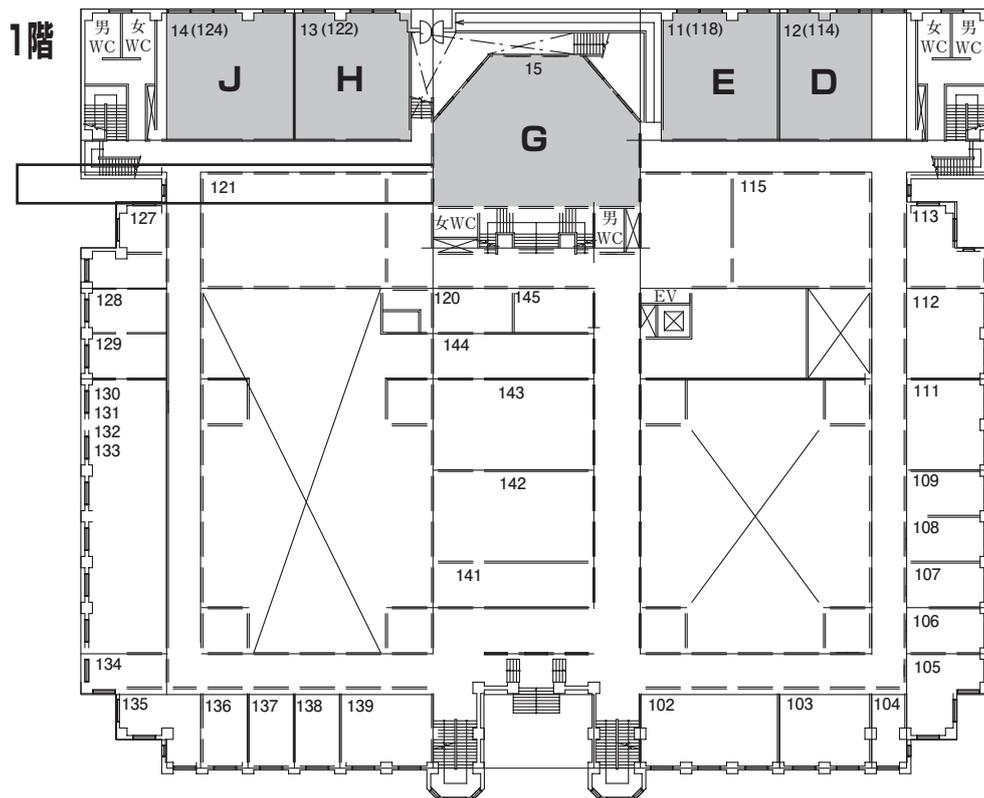
法文1号館



理学部1号館

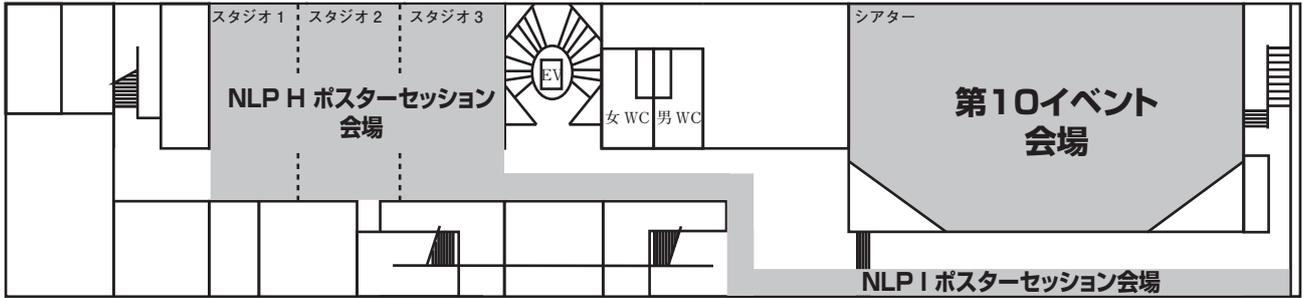


工学部1号館



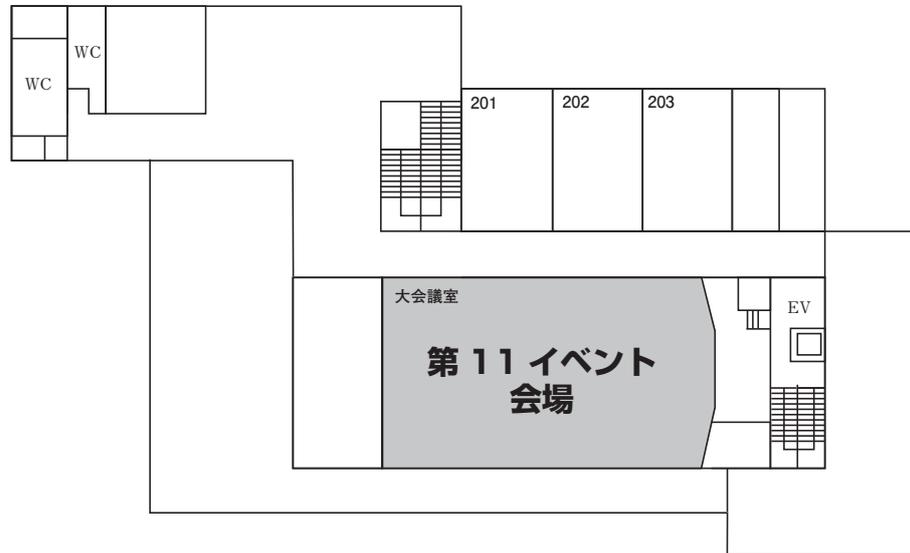
福武ラーニング

B1階



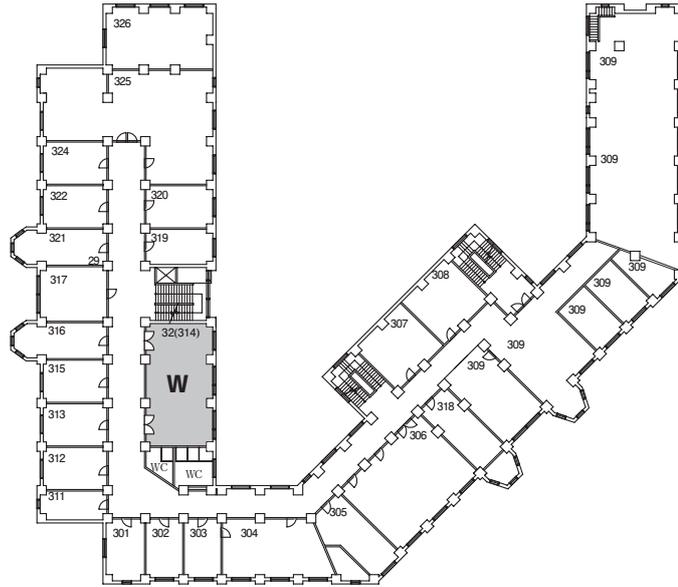
山上会館

2階

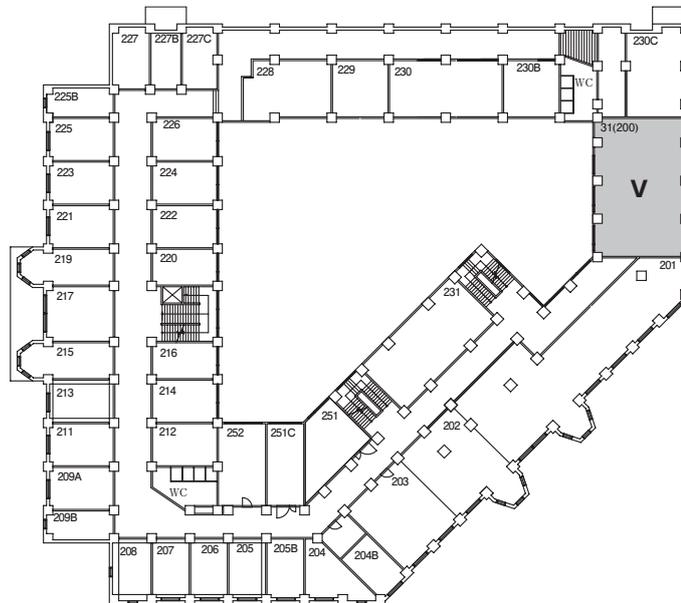


工学部3号館

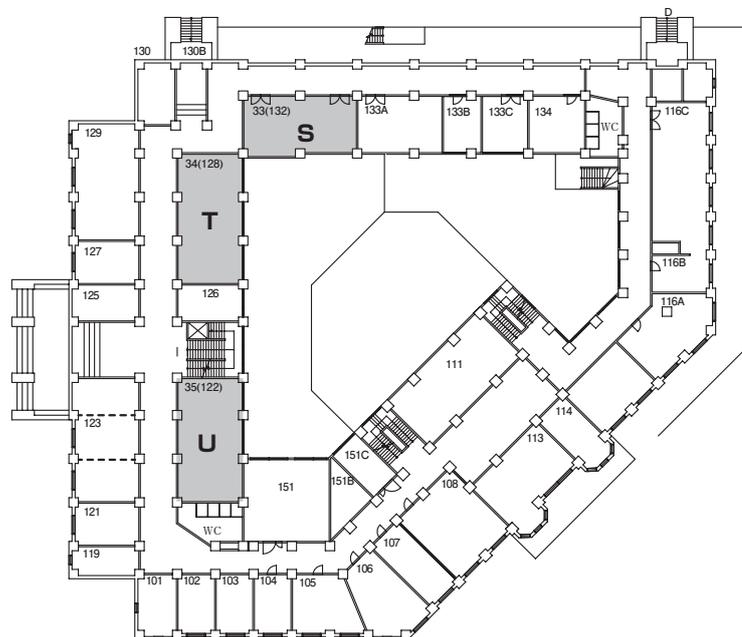
3階



2階

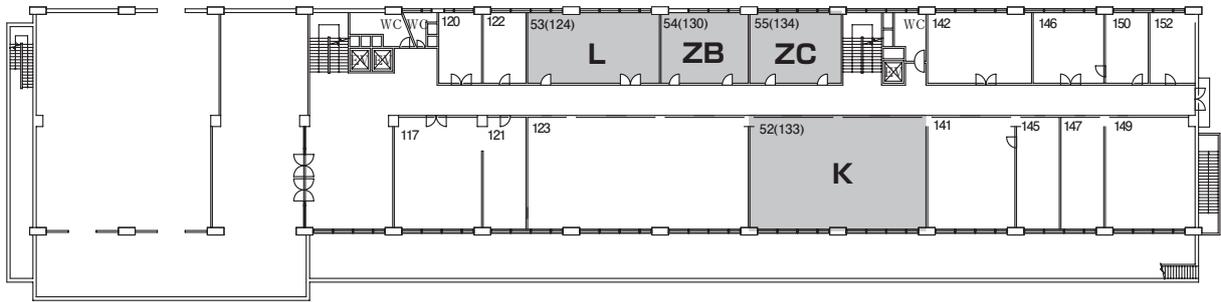


1階



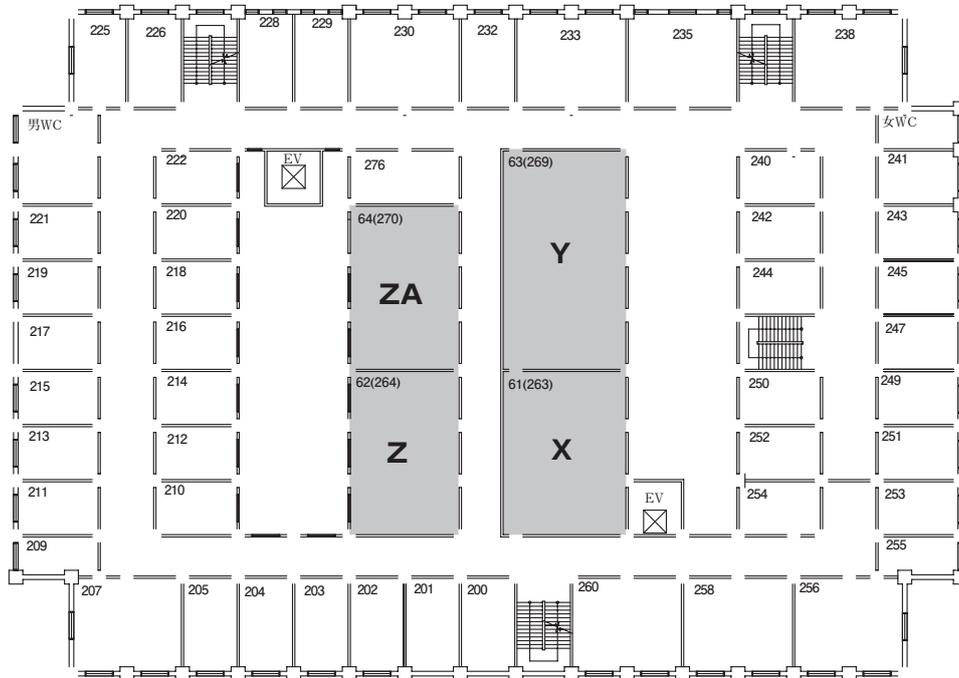
1階

工学部5号館



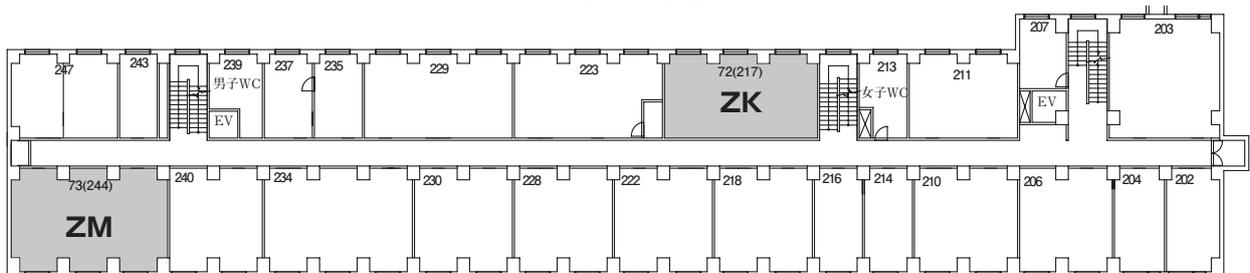
工学部6号館

2階



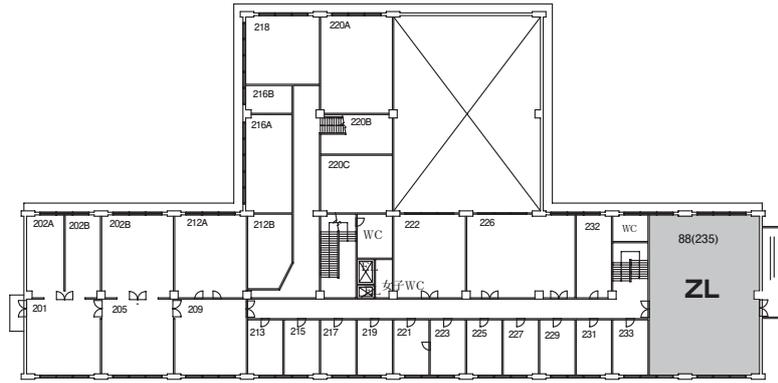
2階

工学部7号館



工学部8号館

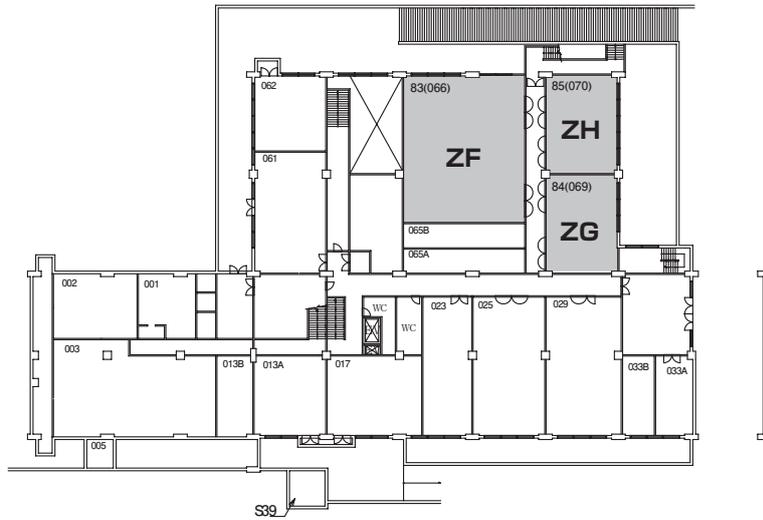
2階



1階

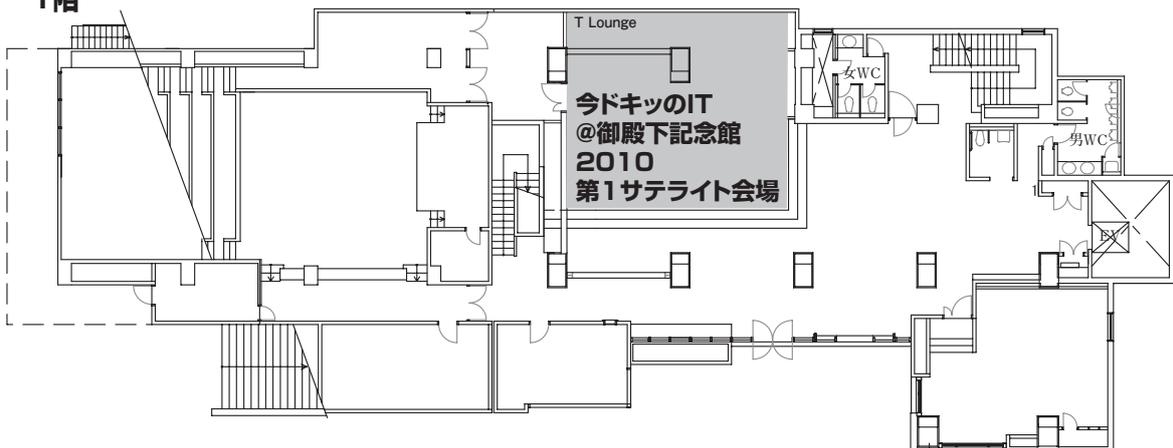


B1階



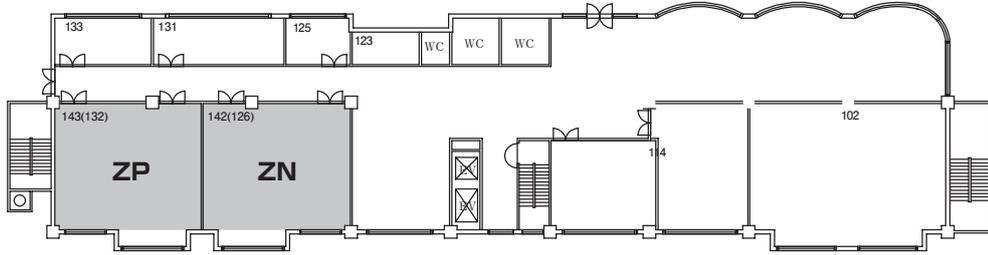
工学部11号館

1階



工学部14号館

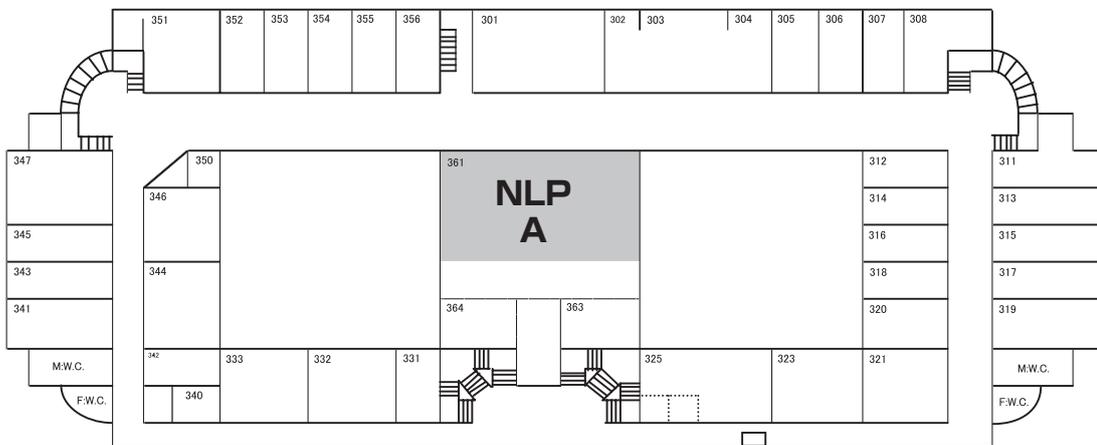
1階



理学部2号館

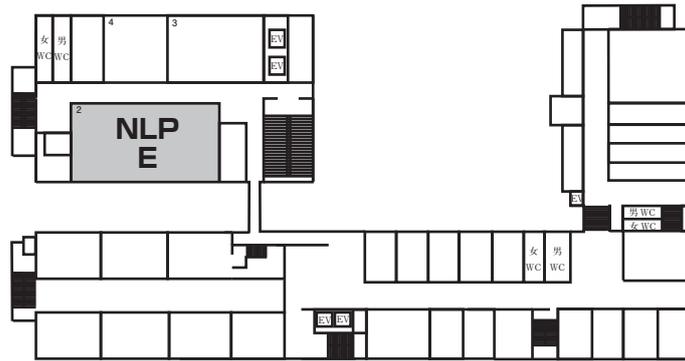
(言語処理学会第16回年次大会会場)

3階

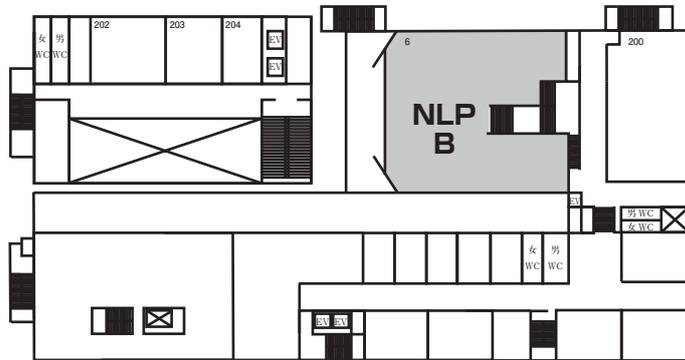


経済学研究科棟 赤門総合研究棟

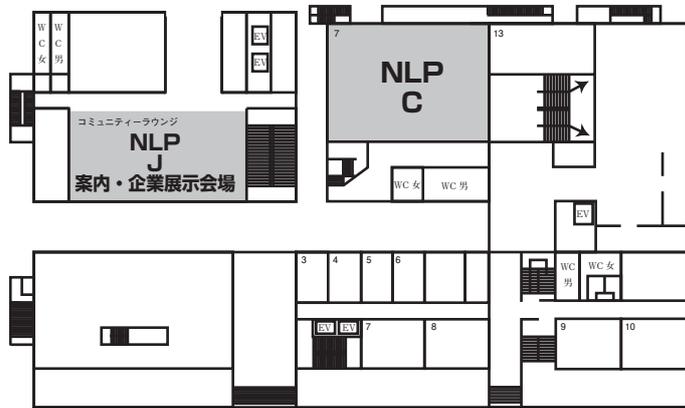
3階



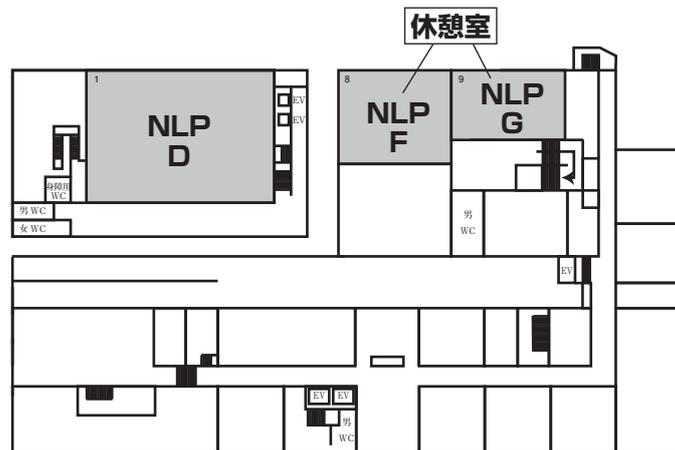
2階



1階



地下1階



情報処理学会 創立 50 周年記念 (第 72 回) 全国大会 タイムテーブル

日	会場	第1イベント会場	第2イベント会場	第3イベント会場	第4イベント会場	第5イベント会場	第6イベント会場	第7イベント会場	
		安田講堂	法文1号館 2F 25教室	法文1号館 1F 21教室	法文1号館 1F 22教室	法文1号館 3F 26教室	法文1号館 3F 27教室	理学部1号館中央棟 2F 小柴ホール	
3月8日(月)	10:00 17:30	平成 21 年度 情報大航海 プロジェクト シンポジウム							
		44							
3月9日(火)	9:30	1 9:15-12:15 来るべきクラウド コンピューティングの 世界	21 世紀のライフ・ ロング・ラーニングへ 向けて	人間環境センシングの 可能性と将来	9:35-11:35 企業活動に役立つ数理 科学へサービシ化に 向けて			9:30-12:30 私の詩と真実	
									46
	13:00	13:50	大会挨拶 表彰式 認証式						
	13:50	14:50	招待講演 (1) 情報に対する権利 濱田 純一 (東京大学 総長)						
	15:30	17:30	2 15:30-18:00 言語と知識 —最新言語処理研究の 射程— 共同企画：言語処理学会	50 年後の情報社会を 豊かに育てるために —情報処理学会 教育・人材育成 ビジョン 2010 —	我が国における新世代 ネットワーク	セキュリティと ディベンダビリティ	未来を切り拓く最先端 VLSI テクノロジー	情報爆発時代における 情報の信頼性と データ品質	CHANGE! Yes, we can! Past, Present, Future of Women in Information Technology 共催：情報処理学会ソフトウェ アジャパン IT Diversity Forum IEEE Japan Council Women in Engineering Affinity Group 社団法人 情報サービス産業協会 協賛：東大男女共同参画室
	3月10日(水)	9:30	3 低炭素社会の実現に 向けた産官学による グリーン IT の取組	ディベンダブル システム —新しい原理から 実装まで—	e-Health 時代の 医療情報 処理アプローチを 考える	9:40-12:00 学会誌「情報処理」の 未来	誰が、何を、いつ、 どこで、なぜ、 どうやって 翻訳するか？	改正著作権法と IT	
13:00		14:00	招待講演 (2) The Challenge of the Multicores Fran Allen (IBM 名誉フェロー)						
14:15		15:15	招待講演 (3) Realizing the Future Jim Isaak (IEEE-CS 会長)						
15:30	17:30	4 情報処理の「夢」 (情報処理学会 会長セッション)	CGM の現在と未来： 初音ミク、 ニコニコ動画、 ピアプロの 切り拓いた世界	人工知能研究の新展開 —日本発世界へ—	15:30-17:50 今ドキッの IT@ 御殿下記念館 2010 展示関連講演 センシング Web と プライバシーマネジメント —プライバシーに配慮した センサ情報の社会的利用— 科学技術振興機構 (内閣府総合科学技術会議) ※詳細は今ドキッの IT@ 御殿下記念館 2010 資料参照	情報システム論文執筆 ワークショップ —情報システムの 論文を書こう—			
								50	60
3月11日(木)	9:30	5 ソフトウェアジャパン 2010 全体セッション サステナブル社会を 実現する IT	パネル討論： 情報処理ランド チャレンジ	JST さきがけ セッション (1) 社会応用 (2) 要素技術 をテーマに発表・討論	大学院人材育成に おける情報教育 —これからの 大学院教育—				
									51
	12:00	13:00	招待講演 (4) 「課題先進国」から 「課題解決先進国」へ 小宮山 宏 (三菱総研 理事長)						
14:15	14:30	6 ソフトウェアジャパン 2010 全体セッション サステナブル社会を 実現する IT		JST さきがけ セッション (3) 基礎研究 パネル討論 をテーマに発表・討論	人材育成における 情報教育 — IT を活用した教育—				
									53
3月12日(金)	9:30 17:45	9:30-16:00 計算科学技術と次世代 スーパーコンピューティング基盤 共催：文部科学省 (独) 理化学研究所							
									54

※表中の○囲み数字は講演論文集の掲載分冊番号です。また、右下の数字は当プログラム冊子の詳細掲載ページ番号です。

第8イベント会場	第9イベント会場	第10イベント会場	第11イベント会場	第12イベント会場	第13イベント会場	第14イベント会場
工学部新2号館 1F 213大講義室(12C)	工学部新2号館 2F 221号講義室(22B)	福武ラーニング B2F シアター	山上会館 2F 大会議室	工学部新2号館 4F 242号講義室(42A2)	工学部新2号館 4F 243号講義室(42B2)	工学部新2号館 4F 244号講義室(42B1)
9:35-12:00 ビデオゲーム開発の 現場では今何が 起きている？ 90		フィールド情報学 セミナー 共催：社会情報学会 98				
13:10-17:30 イマジンカップ 日本大会						
	今ドキッのIT@ 御殿下記念館2010 展示関連講演 第1回「人ロボット共生学」 シンポジウム ～人とロボットの共生による 協創社会の創成～ 人とロボットの共生による 協創社会の創成 (人ロボット共生学領域) ※詳細は今ドキッのIT@ 御殿下記念館2010資料参照 92	フィールド情報学 セミナー 共催：社会情報学会 100	今ドキッのIT@ 御殿下記念館2010 展示関連講演 超臨場感技術は 21世紀に生活・産業 革命をもたらすか？ 産学官フォーラム URFC ※詳細は今ドキッのIT@ 御殿下記念館2010資料参照		今ドキッのIT@ 御殿下記念館2010 展示関連講演 生活の中のセンサ 慶應義塾大学他 ※詳細は今ドキッのIT@ 御殿下記念館2010資料参照	今ドキッのIT@ 御殿下記念館2010 展示関連講演 “2020年代のテレビ”を 考える ～超臨場感映像技術の展開～ KDDI 研究所 ※詳細は今ドキッのIT@ 御殿下記念館2010資料参照
	今ドキッのIT@ 御殿下記念館2010 展示関連講演 「しる」から「わかる」へ ～価値創造のための 知識処理技術 情報通信研究機構 ※詳細は今ドキッのIT@ 御殿下記念館2010資料参照 101	プログラミング コンテストにより 情報系人材を育てる			今ドキッのIT@ 御殿下記念館2010 展示関連講演 生活の中のセンサ 慶應義塾大学他 ※詳細は今ドキッのIT@ 御殿下記念館2010資料参照	
理数系人材育成 プログラム 「ロボットを作ろう・ 動かそう」						
	今ドキッのIT@ 御殿下記念館2010 展示関連講演 MASTAR プロジェクト 情報通信研究機構 ※詳細は今ドキッのIT@ 御殿下記念館2010資料参照 92	プログラミング コンテストにより 情報系人材を育てる	今ドキッのIT@ 御殿下記念館2010 展示関連講演 「デジタルパブリック アートを創出する技術」 プロジェクト 東京大学 ※詳細は今ドキッのIT@ 御殿下記念館2010資料参照 101			
次世代ネットワークを 変容させる ネットワーク セキュリティ技術： トラクタブルネット ワークの実現へむけて 93	10:00-12:00 「情報処理」を探究する ～学会コンテンツから 見えてくるもの～ 96				10:00-12:00 情報システム教育コンテスト -ISECON2009 インタラクション審査 103	
	ICT生活の核の一つか？ ライフログ 97				情報システム教育コンテスト -ISECON2009 インタラクション審査 103	
10:00-17:45 平成21年度 科研 特定領域 「情報発信 IT 基盤」 プロジェクトシンポジウム 94						

日	会場	今ドキッのIT@御殿下記念館2010						大会スポンサー デモセッション 工学部新2号館 2F フォーラム		
		第15イベント会場 工学部新2号館 2F 223号講義室(23B)	第16イベント会場 工学部新2号館 1F 212号講義室(12B)	第17イベント会場 工学部新2号館 1F 211号講義室(11C)	メイン 御殿下記念館 ジムナジウム	第1サテライト 工学部11号館 1F T lounge	第2サテライト 工学部新2号館 4F 242号講義室(42A2)			
3月8日(月)	12:30									
	17:30									
本 大 命 3月9日(火)	1	9:30	大会スポンサーセッション 10:00-11:00 KDDI 研究所 KDDI 研究所における ユーザインタフェース技術 大会スポンサーセッション 11:00-12:00 インテリクチュアル・ベンチャーズ 情報通信分野における オープン・イノベーションと、 知的財産の流動化	11:00-12:00 今ドキッのIT@ 御殿下記念館 2010 展示関連講演 t-Room 日本電信電話 ※詳細は今ドキッのIT@ 御殿下記念館 2010 資料参照		出展者 情報通信研究機構 MASTARプロジェクト ATR 知能ロボティクス研究所 人とロボットの共生による 協働社会の創成 ----- 東京大学 IRIT 研究機構 パーソナルモビリティロボット(PMR)	出展者 日本電信電話 t-room	出展者 NHK "かぐや"映像による 立体ハイビジョン ぐるっとビジョン	大会スポンサー展示 日本電信電話 日立製作所 KDDI 研究所 とめ研究所 富士通 インテリクチュアル・ ベンチャーズ・ ジャパン 東芝 マイクロソフト ----- デモセッション 9件 ----- 書籍等出展	
		12:00		103						
	13:00					産業技術総合研究所 情報技術研究部門 HPC GIS/VocalListener/ 仮想化によるクラウド型電力 ----- 超臨場感コミュニケーション 産学官フォーラム URCF 4K 超高精細全天ドーム映像上映 ----- Future Performance on Stage 「情報発信 IT 基盤」				
	13:50									
	14:50					日本電信電話 ネットワークセキュリティ ----- 総合科学技術会議 科学技術産学連携 情報IT大戦略 利活用基盤技術開発 ----- 文部科学省科学研究費補助金 特定領域研究 「情報発信時代に開けた新しい IT 基盤技術の研究」 ----- 電子情報技術産業協会 グリーン IT の取り組み				
	15:30	大会スポンサー セッション 15:30-16:30 富士通 情報漏えい防止 セキュリティ技術開発 への取り組み	今ドキッのIT@ 御殿下記念館 2010 展示関連講演 ネットワーク セキュリティ 日本電信電話 ※詳細は今ドキッのIT@ 御殿下記念館 2010 資料参照	今ドキッのIT@ 御殿下記念館 2010 展示関連講演 高度通信・ 放送研究開発委託研究 情報通信・エネルギー統合 技術の研究開発 京都大学他 ※詳細は今ドキッのIT@ 御殿下記念館 2010 資料参照						
	17:30		103							
	3月10日(水)	3	9:30	大会スポンサーセッション 10:00-11:00 グーグル Google 日本語入力を支える 情報処理技術 大会スポンサーセッション 11:00-12:00 日本電気 クラウドコンピューティング 基盤へのOpenFlow 技術適用	10:00-12:00 ソフトウェアジャパン 2010 IT フォーラムセッション サービスサイエンス 日本情報システム・ ユーザ協会 サービスサイエンスがIT サービスの顧客満足度を 向上する	10:00-12:00 情報分野における 教育の国際化 ーグローバル 30 を 中心にー	東京大学 「デジタルバリアフリー」を 創出する技術 / プロジェクト ----- 京都大学 / 神戸大学 / 大和ハウス工業 / エネゲート / トランス・ニュー・テクノロジー 情報通信・エネルギー統合技術の 研究開発 ----- 東京大学 情報理工 G30+ ロボット競技ゼミ + ロボテック			大会スポンサー展示 日本電信電話 日立製作所 KDDI 研究所 とめ研究所 富士通 インテリクチュアル・ ベンチャーズ・ ジャパン 東芝 マイクロソフト ----- デモセッション 19件 ----- 書籍等出展
			12:00		104	105	109			
		13:00					KDDI 研究所 超臨場感映像技術 ----- 国立情報学研究所 映像の盗撮防止技術 他3件 ----- 慶徳義塾大学 / 東京電機大学 / 東京大学 生活の中のセンサ ----- 戦略的創造研究推進事業 (CREST) 「食」に関するライフログ 共有技術基盤」 ----- 情報通信研究機構 知識地理グループ 情報信頼性分析システム WISDOM/ ナレッジクラウドシステム			
		14:00								
		14:15								
15:15										
4	15:30	大会スポンサー セッション 15:30-16:30 日立製作所 環境配慮型データ センタに向けた 省電力化技術	ソフトウェアジャパン 2010 IT フォーラムセッション プロジェクトマネジメント学会 サステナブルな組織のための プロジェクトマネジメント - IT プロジェクトへの 高度化するニーズに 応えるために -	ソフトウェアジャパン 2010 IT フォーラムセッション XML コンソーシアム 気象庁防災情報 XML を使っ た実証実験 ~災害から住民一人ひとりの 命を守るために~	国立情報学研究所 / 早稲田大学 / 東京大学生産技術研究所 多メディア Web 分析テスト ベッドシステム ----- 日立コンサルティング 情報大航海プロジェクト ----- 理化学研究所 次世代スーパーコンピュータの 開発利用					
	17:30		104	106	110				114	
3月11日(木)	5	9:30	大会スポンサーセッション 10:00-11:00 東芝 組込みソフトウェアの 信頼性向上を考える 大会スポンサーセッション 11:00-12:00 マイクロソフト マイクロソフト最新 技術動向	10:00-12:00 ソフトウェアジャパン 2010 IT フォーラムセッション ユーザスタディフォーラム ビジネス・ エスノグラフィの普及 ~イノベーション人材の育成 に向けて~	10:00-11:55 ソフトウェアジャパン 2010 IT フォーラムセッション 情報処理推進機構 ソフトウェア・ エンジニアリング・センター ソフトウェア開発の パラダイム・チェンジ in マインド - IPA/SEC における 新しい取組み -			大会スポンサー展示 日本電信電話 日立製作所 KDDI 研究所 とめ研究所 富士通 インテリクチュアル・ ベンチャーズ・ ジャパン 東芝 マイクロソフト ----- デモセッション 6件 ----- 書籍等出展		
		12:00		104	107	111				
	13:00									
	14:15									
	14:30									
	6	14:30		14:30-16:30 ソフトウェアジャパン 2010 IT フォーラムセッション 高度 IT 人材育成フォーラム 高度 IT 資格制度に関する 取り組みの現状：日本と世界	14:30-16:30 ソフトウェアジャパン 2010 IT フォーラムセッション 情報サービス産業協会 要求工学の実践的な 取り組みと要求工学知識 体系 REBOK					
17:00			108	112				114		
ポストイベント 3月12日(金)	10:00									
	16:00									

一般セッション A 理学部1号館 中央棟 2F 233	一般セッション B 理学部1号館 西棟 2F 206	一般セッション C 理学部1号館 西棟 2F 207	一般セッション D 工学部1号館 1F 12号講義室	一般セッション E 工学部1号館 1F 11号講義室	一般セッション F 工学部新2号館 10F 電気系会議室5	一般セッション G 工学部1号館 1F 15号講義室	一般セッション H 工学部1号館 1F 13号講義室	一般セッション J 工学部1号館 1F 14号講義室
計算機 アーキテクチャ 中村 宏 (東大) ① 117	テスト・検証 吉浦 紀見 (埼玉大) ① 119	情報検索・情報推薦 小山 聡 (北大) ① 122	顔・人物画像処理 (1) 金子 正秀 (電通大) ② 127	学習 福田 直樹 (静岡大) ② 127	モバイル通信と ITS (1) 石原 進 (静岡大) ③ 135	セキュリティ基盤 菊池 浩明 (東海大) ③ 140	グループウェア 一般 市村 哲 (東京工大) ④ 142	情報システムの 構築 児玉 公信 (情報システム総研) ④ 147
仮想化技術 (1) 千葉 滋 (東工大) ① 117	システム評価 木下 俊之 (東京工大) ① 119	情報抽出 中島 伸介 (京産大) ① 122	音声・音楽情報処理 西村 拓一 (産総研) ② 127	画像処理・認識 (1) 田中 正行 (東工大) ② 128	モバイル通信と ITS (2) 屋代 智之 (千葉工大) ③ 135	ネットワーク セキュリティ 松浦 幹太 (東大) ③ 140	コンピュータと 社会 野田五十樹 (産総研) ④ 146	企業活動と情報 金田 重郎 (同志社大) ④ 147
ハイパフォーマンス コンピューティ ング 朴 泰祐 (筑波大) ① 117	数理モデルと シミュレーショ ン 富永 和人 (東京工大) ① 119	Web 検索支援 土方 嘉徳 (阪大) ① 122	自然言語処理 (1) 伊東 秀夫 (リコー) ② 127	人工知能一般 (1) 岸本 章宏 (東工大) ② 128	センシング システム (1) 大村 廉 (慶大) ③ 135	知的ヒューマン インタフェース 江渡浩一郎 (産総研) ④ 142	教育学習支援 システム 中村 純 (広島大) ④ 146	社会への応用 阿部 昭博 (岩手県大) ④ 147
設計・検証技術 瀬戸 謙修 (京都市大) ① 117	ソフトウェア プロダクトライ ン・ アーキテクチャ 野田 夏子 (NEC) ① 120	ソーシャル Web 大塚 真吾 (物質・材料研) ① 123	画像処理・認識 (2) 船富 卓哉 (京大) ② 127	映像サービスと P2P 小池 淳 (成蹊大) ③ 135	センシング システム (2) 川島 英之 (筑波大) ③ 135	入出力 インタフェース 高橋 伸 (筑波大) ④ 142	情報技術教育, 教育情報システム 皆月 昭則 (鋼路公大) ④ 146	医療のインフォ マティクス 廣安 知之 (同志社大) ④ 147
数理モデルと データマイニング 鈴木 智也 (茨城大) ① 119	プロジェクトの 定量的管理 阿萬 裕久 (愛媛大) ① 120	データベース 技術一般 藤原 靖宏 (NTT) ① 123	自然言語処理 (2) 長田 誠也 (NEC) ② 127	ユビキタス 岩井 将行 (東大) ③ 135	社会システムと Web 金井 敦 (法大) ③ 135	ユーザ インタフェース 栗原 一貴 (産総研) ④ 142	初中等情報教育, 情報リテラシー 辰己 丈夫 (農工大) ④ 146	情報爆発時代 における知識社会 形成ガバナンス 後藤 玲子 (茨城大) ⑤ 152
アルゴリズム 天野 一幸 (群馬大) ① 119	開発支援技術 紫合 治 (電機大) ① 120	画像認識応用 原田 達也 (東大) ② 127	人工知能一般 (2) 和泉 憲明 (産総研) ② 127	クラウドと分散 処理 上原 稔 (東洋大) ③ 135	非常時通信・災害・ 長遅延 NW 重野 寛 (慶大) ③ 136	CG 一般 岩崎 慶 (和歌山大) ④ 142	大学の情報教育 角田 博保 (電通大) ④ 147	情報爆発時代 における 対話ロボティクス 角 康之 (京大) ⑤ 152

日	会場	一般セッション	学生セッション	学生セッション	学生セッション	学生セッション	学生セッション	学生セッション	学生セッション		
		K 工学部5号 1F 52号講義室	L 工学部5号 1F 53号講義室	M 工学部2号館 3F 233号講義室	N 工学部新2号館 3F 231号講義室	P 工学部2号館 4F 245号講義室	Q 工学部2号館 4F 246号講義室	R 工学部新2号館 4F 241号講義室	S 工学部3号館 1F 33号講義室		
3月8日(月)	12:30 17:30										
		アンソイ									
本 大 命	3月9日(火)	9:30	情報爆発時代における大規模画像処理システム 岡田 義広 (九大) ⑤	メモリーコア・並列ソフトウェア 成瀬 彰 (富士通研) ①	モデリング・上流設計 星 直之 (三菱) ①	システム評価 櫻庭 健年 (日立) ①	ソフトウェアプロセス・開発管理 菊地奈穂美 (沖電気) ①	開発環境・開発支援 松浦佐江子 (芝浦工大) ①	Web 検索支援 波多野賢治 (同志社大) ①	ソーシャル Web 福原 知宏 (東大) ①	
		12:00	152	117	118	120	121	122	124	125	
		13:00									
		13:50									
		14:50									
		15:30	情報爆発時代におけるアルゴリズム高率化 山口 実靖 (工学院大) ⑤	並列システムソフトウェア 中田 秀基 (産総研) ①	ネットワークアーキテクチャ 森 敦司 (富士通) ①	グラフやネットワークに関するアルゴリズム 黒木 裕介 (東芝) ①	ソフトウェアの検査・検証 中島 震 (国立情報学研) ①	可視化・Web 情報統合 石川 大介 (国立情報学研) ①	文書管理 垂水 浩幸 (香川大) ①	マイニング・地理情報 大森 匡 (電通大) ①	
	17:30	152	117	118	120	121	123	124	125		
	3月10日(水)	9:30	情報爆発時代におけるテキスト処理・Wikipedia 乾 健太郎 (東北大) ⑤	分散・並列 OS 田端 利宏 (岡山大) ①	プロセッサアーキテクチャ 佐々木 広 (東大) ①	数理モデルとデータマイニング 上田 修功 (NTT) ①	ソフトウェアアーキテクチャ・設計 鷺崎 弘宜 (早大) ①	情報抽出 高久 雅生 (物質・材料研) ①	Web 応用 安藤 一秋 (香川大) ①	情報推薦 (1) 灘本 明代 (甲南大) ①	
		12:00	152	117	118	120	121	123	124	125	
		13:00									
		14:00									
		14:15									
15:15											
3月11日(木)	15:30	情報爆発時代におけるライフログ・センサー処理 須藤 修 (東大) ⑤	ファイルシステム・I/O 盛合 敏 (NTT) ①	チップマルチプロセッサ 西 宏章 (慶大) ①	数理モデルとシミュレーション 高階 知巳 (ニコンシステム) ①	プログラミング言語 高田 眞吾 (慶大) ①	ストリーム・空間検索 渡辺 陽介 (東工大) ①	マルチメディアデータ検索 熊本 忠彦 (千葉工大) ①	マルチメディア 堀 幸雄 (香川大) ①		
	17:30	152	117	118	120	121	123	124	125		
	9:30	情報爆発時代における Web 解析 山名 早人 (早大) ⑤	組込み OS 早川 栄一 (拓大) ①	マルチスレッドと分岐 木村 啓二 (早大) ①	アルゴリズム 河野 泰人 (NTT) ①	プログラミング環境・教育 吉川 隆英 (富士通研) ①	情報アクセス技術 宇陀 則彦 (筑波大) ①	Web システム 浦本 直彦 (日本 IBM) ①	情報推薦 (2) 上田真由美 (京大) ①		
	12:00	152	118	119	121	122	123	124	125		
	13:00										
	14:15										
3月12日(金)	14:30	情報爆発時代における並列分散処理技術 河野 健二 (慶大) ⑤	仮想化技術 (2) 清水 正明 (日立) ①	計算機システム 吉瀬 謙二 (東工大) ①	群知能と複雑ネットワーク 坂野 鋭 (NTT) ①	ソフトウェア理解支援 福田 浩章 (慶大) ①	文書作成支援 建石 由佳 (工学院大) ①	データベース技術 井上 潮 (電機大) ①	XML・グラフデータベース 牛尼 剛聡 (九大) ①		
	17:00	153	118	119	121	122	123	124	125		
3月12日(金)	10:00 16:00										

学生セッション T 工学部3号館 1F 34号講義室	学生セッション U 工学部3号館 1F 35号講義室	学生セッション V 工学部3号館 2F 31号講義室	学生セッション W 工学部3号館 3F 32号講義室	学生セッション X 工学部6号館 2F 61号講義室	学生セッション Y 工学部6号館 2F 63号講義室	学生セッション Z 工学部6号館 2F 62号講義室	学生セッション ZA 工学部6号館 2F 64号講義室	学生セッション ZB 工学部5号館 1F 54号講義室
音楽分析・生成 片寄 晴弘 (関西学院大) ② 128	音声分析・強調 福田 隆 (日本IBM) ② 129	マルチ エージェント (1) 伊藤 孝行 (名工大) ② 130	最適化 有田 隆也 (名大) ② 131	意味・談話解析 内山 将夫 (NICT) ② 132	画像生成 岡部 孝弘 (東大) ② 133	人工知能・ 応用システム 熊野 雅仁 (龍谷大) ② 134	運転支援 桐村 昌行 (三菱) ③ 136	ユビキタスデータ 管理 白石 陽 (はこだて未来大) ③ 137
論理・物理設計 田宮 豊 (富士通研) ① 119	ニューラルネット 片山 大輔 (東工大) ② 129	マルチ エージェント (2) 松尾 徳朗 (山形大) ② 130	学習 (1) 鶴岡 慶雅 (北陸先端大) ② 131	人工知能と社会 松尾 豊 (東大) ② 132	物体認識 柳井 啓司 (電通大) ② 133	人工知能一般 (3) 小谷 善行 (農工大) ② 134	ITS応用 関 馨 (日本自動車研) ③ 137	ユビキタスネット ワーク 南 正輝 (東大) ③ 138
音楽情報の推定と 理論 酒向 慎司 (名工大) ② 128	音声認識・理解 伊藤 克亘 (法大) ② 129	文章・感情 知野 哲朗 (東芝) ② 130	学習 (2) 中川 哲治 (NICT) ② 131	3次元画像処理・ 認識 松田 一朗 (東理大) ② 132	線画像・画像検索・ 映像処理 佐藤 真一 (国立情報学研) ② 133	アドホックネット ワーク (1) 柳生 智彦 (NEC) ③ 136	ナビゲーション システム 谷越浩一郎 (日立) ③ 137	ユビキタス応用 (1) 新井イスマイル (立命館大) ③ 138
ゲーム 田中 哲朗 (東大) ② 128	遺伝的 アルゴリズム (1) 羽山 徹彩 (北陸先端大) ② 129	言語処理支援 システム 岡崎 直観 (東大) ② 130	機械翻訳 熊野 正 (NHK 技研) ② 131	画像処理 横山 大作 (東大) ② 132	顔・人物画像処理 (2) 今井 順一 (電通大) ② 133	アドホックネット ワーク (2) 長谷川輝之 (KDDI 研) ③ 136	交通管理 梅津 高朗 (阪大) ③ 137	ユビキタス応用 (2) 三末 和男 (筑波大) ③ 138
音楽信号処理 伊藤 彰則 (東北大) ② 128	音声インタフェース・ システム 西本 卓也 (東大) ② 129	人工知能一般 (4) 牧野 貴樹 (東大) ② 130	言語情報抽出 三輪 誠 (東大) ② 131	画像処理・認識 (3) 杉山 岳弘 (静岡大) ② 132	ロボットビジョン 川本 一彦 (千葉大) ② 133	無線通信方式と アクセス制御 横田 英俊 (KDDI 研) ③ 136	システム運用・管理 (1) 今野 将 (千葉工大) ③ 137	ネットワーク応用 (1) 地引 昌弘 (NEC) ③ 138
音楽推薦・演奏支援 帆足啓一郎 (KDDI 研) ② 128	音声・歌声合成 岩野 公司 (東京都市大) ② 129	遺伝的 アルゴリズム (2) レオン末松豊インテ イ (NICT) ② 130	構文解析・生成・ 学習 颯々野 学 (ヤフー) ② 131	対話 清田 陽司 (東大) ② 132	画像応用システム 市村 直幸 (産総研) ② 133	インタラクティブ システム 高橋 伸 (筑波大) ③ 136	システム運用・管理 (2) 土井 裕介 (東芝) ③ 137	ネットワーク応用 (2) 鈴木 亮一 (NTT) ③ 138

	日	会場 時間	学生セッション ZC	学生セッション ZD	学生セッション ZE	学生セッション ZF	学生セッション ZG	学生セッション ZH	学生セッション ZJ	学生セッション ZK	
			工学部5号館 1F 55号講義室	工学部新2号館 3F 電気系会議室3	工学部新2号館 11F 電気系会議室4	工学部8号館 B1F 83号講義室	工学部8号館 B1F 84号講義室	工学部8号館 B1F 85号講義室	工学部8号館 1F 81号講義室	工学部7号館 2F 72号講義室	
オンライン	3月8日(月)	12:30									
		17:30									
本 大 命	3月9日(火)	9:30	クラウドコンピューティング 佐藤 文明 (東邦大) ③	位置・コンテキスト推定 (1) 岩本 健嗣 (富山県大) ③	ネットワークセキュリティ 竹森 敬祐 (KDDI 研) ③	ペンとタッチ 加藤 直樹 (学芸大) ④	コミュニケーション支援 綾塚 祐二 (クウジツ) ④	モデリングとレンダリング 三谷 純 (筑波大) ④	VRとセンサ・ディスプレイ 大倉 典子 (芝浦工大) ④	モバイル学習、e-learning 高岡 詠子 (上智大) ④	
		12:00	138	139	141	142	143	144	145	148	
		13:00									
		13:50									
		13:50									
		14:50									
	15:30	P2P 田上 敦士 (KDDI 研) ③	位置・コンテキスト推定 (2) 桐村 昌行 (三菱) ③	認証プラットフォーム、要求仕様 津田 宏 (富士通研) ③	入出力インタフェース 宮下 芳明 (明大) ④	グループウェア一般 金井 秀明 (北陸先端大) ④	ビジュアルシミュレーションと可視化 竹島由里子 (東北大) ④	AR基礎 水口 充 (京産大) ④	子育て・高齢者・介護 佐々木 淳 (岩手県大) ④		
	17:30	139	139	141	143	144	145	146	148		
	3月10日(水)	9:30	災害時通信 土屋 隆司 (鉄道総研) ③	位置・コンテキスト推定 (3) 小林 亜令 (KDDI 研) ③	暗号実装・解析 鈴木幸太郎 (NTT) ③	実世界指向 暦本 純一 (東大) ④	知的活動支援 小林 一郎 (お茶の水女子大) ④	IBRとNPR 茅 暁陽 (山梨大) ④	ARシステム・応用 太田 高志 (東京工科大) ④	教育情報システム、PBL 板東 宏和 (イーテック研) ④	
		12:00	139	140	141	143	144	145	146	148	
		13:00									
		14:00									
		14:15									
		15:15									
	15:30	社会システムとWeb (1) 小山 和也 (NEC) ③	マルチメディア情報システム 高木 幸一 (KDDI 研) ③	システムセキュリティ 朴 美娘 (三菱) ③	ロボットとエージェント 坂本 大介 (東大/JSPS) ④	協調基盤と意思決定支援 由井蘭隆也 (北陸先端大) ④	情報可視化 伊藤 貴之 (お茶の水女子大) ④	社会情報システム 木野 泰伸 (筑波大) ④	情報科学工学教育 兼宗 進 (大阪電通大) ④		
	17:30	139	140	141	143	144	145	147	148		
	3月11日(木)	9:30	社会システムとWeb (2) 村井 信哉 (東芝) ③	画像符号化とその応用 上倉 一人 (NTT) ③	プライバシー保護・トラスト 小松 文子 (IPA) ③	Web 応用 小林 稔 (NTT) ④	組織知 関 良明 (NTT) ④	アニメーション 栗原 恒弥 (日立) ④	幼児・児童教育 大即 洋子 (清和大) ④	プログラミング教育 長 慎也 (一橋大) ④	
		12:00	139	140	141	143	144	145	147	148	
		13:00									
		14:15									
		14:30	情報爆発時代におけるWebパーソナル検索 豊田 正史 (東大) ⑤	ID連携・アクセス制御 須賀 祐治 (IIJ) ③	ユーザインタフェース評価 増井 俊之 (慶大) ④	知的ヒューマンインタフェース 渡辺奈夕子 (東芝) ④	医療支援 仲谷 善雄 (立命館大) ④	CGシステム・応用 安藤 英俊 (山梨大) ④	語学教育・芸能教育 和田 勉 (長野大) ④	教育支援システム 渡辺 博芳 (帝京大) ④	
		17:00	153	140	142	143	144	145	148	149	
	オンライン	3月12日(金)	10:00								
			16:00								

学生セッション ZL 工学部8号館 2F 88講義室	学生セッション ZM 工学部7号館 2F 73号講義室	学生セッション ZN 工学部14号館 1F 精密142講義室	学生セッション ZP 工学部14号館 1F 精密143講義室
防災、防犯と情報 畑山 満則 (京大) ④ 149	ソーシャルネット ワーク 池辺 正典 (文教大) ④ 150	コンテンツ制作 角 薫 (一橋大) ④ 151	情報爆発時代 における ネットワーク技術 石川 佳治 (名大) ⑤ 154
バイオインフォ マティクスと医療 山口 敦子 (DBCLS) ④ 149	企業活動と情報 児玉 公信 (情報システム総研) ④ 150	情報爆発時代 における対話 インタラクション 川嶋 宏彰 (京大) ⑤ 153	情報爆発時代 における分散処理と 運用技術 遠藤 敏夫 (東工大) ⑤ 154
医療情報システム 瀬々 潤 (お茶の水女子大) ④ 149	大学・芸術 辻 秀一 (東海大) ④ 150	情報爆発時代 におけるビジュアル デザイン 佐藤 洋一 (東大) ⑤ 153	情報爆発時代 におけるデータ マイニング・ アルゴリズム 高須 淳宏 (国立情報学研) ⑤ 154
地域社会 高山 毅 (岩手県大) ④ 149	ゲーム技術・評価 常盤 拓司 (東大) ④ 150	情報爆発時代 における インタラクティブ アプリケーション 宮下 敬宏 (ATR) ⑤ 153	情報爆発時代 における Web 検索技術 江口 浩二 (神戸大) ⑤ 154
マーケティング・ 情報抽出 大場みち子 (日立) ④ 149	エンタテイン メントの認知・心理 高田 明典 (フェリス女学院大) ④ 150	情報爆発時代 における Web マイニング 中野美由紀 (東大) ⑤ 153	情報爆発時代 における ストレージ管理 藤原 真二 (日立) ⑤ 154
商業活動 戸沢 義夫 (産業技術大) ④ 150	農業・地域社会 川村 秀憲 (北大) ④ 150	情報爆発時代 におけるマルチ メディア処理 森嶋 厚行 (筑波大) ⑤ 153	情報爆発時代 における 位置情報処理 原 隆浩 (阪大) ⑤ 154

日	会場 時間	NLP 第1イベント 安田講堂	NLP A 理学部2号館 3F 講堂	NLP B 赤門総合研究棟 2F 6番教室	NLP C 赤門総合研究棟 1F 7番教室	NLP D 経済学研究科棟 B1F 1番教室	NLP E 経済学研究科棟 3F 2番教室	NLP F 赤門総合研究棟 B1F 8番教室	NLP G 赤門総合研究棟 B1F 9番教室	NLP H 福武ホール (スタジオ)	NLP I 福武ホール (ロビー)	NLP J 経済学研究科棟 1F コミュニティラウンジ	
チュートリアル	3月8日(月)	10:00		推薦システム -機械学習の 視点から- 神高 敏弘	超高速テキスト 処理のための アルゴリズムと データ構造 岡野原大輔								
		12:00											
		13:00	IPSJ イベント企画 開催あり	並列テキスト 処理のための 環境・ツール 田浦健次朗	NICT 発の 言語資源 -ALAGIN フォーラムの活動を 中心に- 風間 淳一 山田 一郎				休憩室	休憩室			案内 企業展示
		15:30		はてなで利用 している言語 処理技術 伊藤 直也	「現代思想」と 言葉・脳・認知 から遠く離れて 影浦 峯								
本大会	3月9日(火)	9:30	IPSJ イベント企画 開催あり	解析	要約・質問応答	情報抽出 (1)	特別セッション: 情報爆発 (1)	テーマ セッション: 「言語表現」と 「言語」のあいだ					
		12:00		162	162	163	163	164					
		13:00	IPSJ イベント企画 開催あり	評判・感情	機械翻訳 (1)	対話・ 音声言語処理	Web 応用	テーマ セッション: 協調的な 自然言語処理		休憩室	休憩室		案内 企業展示
		15:00		164	165	165	165	166					
		15:30	Plenary session 言語と知識 -最新言語処理研 究の射程- 長尾 浩一 橋田 哲 中村										
		18:00	162										
本大会	3月10日(水)	9:30	IPSJ イベント企画 開催あり								ポスター (1)	ポスター (2)	
		12:00									166	168	
		13:00	招待講演 The Challenge of the Multicores Frances Allen (IBM 名誉 フェロー)										
		14:00	42							休憩室	休憩室		案内 企業展示
		14:30	IPSJ イベント企画 開催あり		言語処理学会総会								
		15:20											
		15:30								ポスター (3)	ポスター (4)		
		18:00								169	171		
本大会	3月11日(木)	9:00	IPSJ イベント企画 開催あり	語彙・辞書 (1)	文書分類	言い換え・生成	文脈処理	意味論・意味解析					
		12:00		171	172	172	173	173					
		13:00		教育・応用	機械翻訳 (2)	言語資源・ コーパス	特別セッション: 情報爆発 (2)	心理・認知言語学		休憩室	休憩室		案内 企業展示
		15:00		174	174	174	175	175					
		15:30		語彙・辞書 (2)	機械翻訳 (3)	情報抽出 (2)	テキスト・ データマイニング	言語学的分析					
		18:00		176	176	176	177	177					
ポスターイベント	3月12日(金)	10:00											
		16:00											

情報処理学会創立 50 周年記念（第 72 回）全国大会講演論文集の分類と内容 (括弧内はセッション会場名)

●第 1 分冊

- ・アーキテクチャ
計算機アーキテクチャ, システムソフトウェアとオペレーティングシステム, ハイパフォーマンスコンピューティング, エレクトロニクス用設計自動化・CAD
(1A～4A, 1L～6L, 1M～6ML, 2T)
- ・ソフトウェア科学・工学
アルゴリズム, 数理モデル化と問題解決, ソフトウェア工学, プログラミング
(5A～6A, 1B～6B, 1N～6N, 1P～6P, 1Q)
(デモセッション: デ-03, デ-07, デ-25)
- ・データベースとメディア
データベース, 情報検索, メディアと情報開発・共有・流通
(1C～5C, 2Q～6Q, 1R～6R, 1S～6S)
(デモセッション: デ-01, デ-04, デ-05, デ-11, デ-26)

●第 2 分冊

- ・人工知能と認知科学
人工知能, 自然言語処理, 音声言語情報処理, 視覚情報処理, 音楽情報科学
(6C, 1D～6D, 1E～3E, 1T, 3T～6T, 1U～6U, 1V～6V, 1W～6W, 1X～6X, 1Y～6Y, 1Z～2Z)
(デモセッション: デ-02, デ-10, デ-14)

●第 3 分冊

- ・ネットワーク
マルチメディア通信と分散処理, 分散システム運用, マルチメディア符号化, モバイルコンピューティング, ITS
(4E～6E, 1F～6F, 3Z～6Z, 1ZA～6ZA, 1ZB～6ZB, 1ZC～5ZC, 1ZD～5ZD)
(デモセッション: デ-13, デ-15, デ-19, デ-22)
- ・セキュリティ
セキュリティ基盤技術, ネットワークセキュリティ, システムセキュリティ, セキュリティと社会, 危機管理とリスク管理, 信頼性
(1G～2G, 6ZD, 1ZE～5ZE)

●第 4 分冊

- ・インタフェース
ヒューマンコンピュータインタラクション, グループウェア, グラフィクスと CAD, 仮想現実感
(3G～6G, 1H, 6ZE, 1ZF～6ZF, 1ZG～6ZG, 1ZH～6ZH, 1ZJ～3ZJ)
(デモセッション: デ-06, デ-16, デ-17, デ-18, デ-20, デ-21)
- ・コンピュータと人間社会
情報システム, コンピュータと教育・学習, コンピュータと社会, 医療分野への応用, 企業活動への応用, バイオ情報学, エンタテインメントコンピューティング, 標準化, その他
(2H～6H, 1J～4J, 4ZJ～6ZJ, 1ZK～6ZK, 1ZL～6ZL, 1ZM～6ZM, 1ZN)
(デモセッション: デ-09)

●第 5 分冊

- ・「情報爆発」時代に向けた新 IT 基盤技術
情報管理・融合・活用基盤, 安全・安心 IT システム基盤, ヒューマンコミュニケーション基盤, 知識社会形成ガバナンス
(5J～6J, 1K～6K, 6ZC, 2ZN～6ZN, 1ZP～6ZP)
(デモセッション: デ-08, デ-12, デ-23, デ-24, デ-27)

—全国大会 会場別プログラム—

【第1 イベント会場 (安田講堂)】		
日	時間	内容
8 日 (月)	平成21年度情報大航海プロジェクトシンポジウム	
	10:00-11:30	説明会 平成21年著作権法改正のポイント 壇 俊光 (北尻総合法律事務所 弁護士)
	12:30-12:35	挨拶 経済産業省
	12:35-13:25	招待講演 First industrial and technical results from Quaero. ~欧州検索エンジンプロジェクト Quaero の成果と今後の方向性~ Pieter van der Linden (Thomson Program Manager)
	13:25-14:35	講演 (1) : 情報大航海プロジェクトの取組と成果 喜連川 優 (東京大学 生産技術研究所 教授) 開発実証企業 (NTT ドコモ, 沖電気工業, キューデンインフォコム, 日本航空インターナショナル)
	14:50-15:40	講演 (2) : 情報大航海プロジェクトにおける共通技術開発の取組と成果 長谷山 美紀 (北海道大学 情報科学研究科 メディアネットワーク専攻 教授) 他 (共通技術開発企業, 等)
	15:40-16:40	講演 (3) : 情報大航海プロジェクトの制度面での取組と成果 堀部 政男 (一橋大学 名誉教授) 牧野 二郎 (牧野総合法律事務所 弁護士) 壇 俊光 (北尻総合法律事務所 弁護士) 小向 太郎 (情報通信総合研究所 法制度研究グループ部長 主席研究員) 坂下 哲也 (日本情報処理開発協会 データベース振興センター 副センター長) 他
	16:40-17:10	講演 (4) : 成長戦略とポスト情報大航海 (仮題)
9 日 (火)	来るべきクラウドコンピューティングの世界	
	司会 : 後藤 厚宏 (日本電信電話株式会社 所長)	
	9:15-10:00	講演 (1) : Virtualization Renaissance <<VMware 創業者が いま語る仮想化技術>> Mendel Rosenblum (Computer Science Department Stanford University Associate Professor)
	10:00-10:45	講演 (2) : Cloud Computing in Government : Standards, Security, and Early Experience <<クラウド標準化の仕掛け人が見極める 米政府クラウド>> Charlie Catlett (U.S. Department of Energy's Argonne National Laboratory Chief Information Officer)
	10:45-11:15	講演 (3) : クラウドでさらに近づくコンピュータとネットワーク <<ICTの重鎮が描く クラウドを支えるネットワークとは>> 宮原 秀夫 (情報通信研究機構 理事長)
11:15-12:15	講演 (4) : Hadoop at Yahoo, Today and Tomorrow <<Hadoop エキスパートが抱く 野心的な取り組み>> Owen O'Malley (Yahoo! Hadoop Architect at Yahoo!)	
情報処理学会 創立 50 周年記念 (第 72 回) 全国大会 大会挨拶・表彰式・認証式		
13:00-13:50	挨拶 ・白鳥 則郎 (情報処理学会 会長) ・喜連川 優 (情報処理学会 創立 50 周年記念 (第 72 回) 全国大会 組織委員会 委員長) ・坂井 修一 (情報処理学会 創立 50 周年記念 (第 72 回) 全国大会 プログラム委員会 委員長) 表彰式・認証式 ・第 71 回全国大会 大会優秀賞・大会奨励賞 表彰式 ・平成 21 年度山下記念研究賞 表彰式 ・平成 21 年度情報処理学会フェロー認証式 ・平成 21 年度学会活動貢献賞 表彰式・感謝状 贈呈 ・平成 21 年度優秀教育賞・教材賞 表彰式	
13:50 - 14:50	大会全体 招待講演 (1) 情報に対する権利 濱田 純一 (東京大学 総長)	
言語と知識 —最新言語処理研究の射程— 共同企画 : 言語処理学会		
司会 : 鳥澤 健太郎 (情報通信研究機構 MASTAR プロジェクト, 言語基盤グループ グループリーダー)		
15:30-15:35	本イベントについて 鳥澤 健太郎 (情報通信研究機構 MASTAR プロジェクト, 言語基盤グループ グループリーダー)	
15:35-16:30	講演 (1) : これからの言語処理とその応用 長尾 真 (国立国会図書館 館長)	
16:30-17:15	講演 (2) : 総合学術オントロジー 橋田 浩一 (産業技術総合研究所 社会知能技術研究ラボ長)	
17:15-18:00	講演 (3) : MASTAR プロジェクト & ALAGIN フォーラム 中村 哲 (情報通信研究機構 知識創成コミュニケーション研究センター 副研究センター長)	

【第1 イベント会場 (安田講堂)】		
日	時間	内 容
10 日 (水)	低炭素社会の実現に向けた産官学によるグリーンITの取組 共催：電子情報技術産業協会 司会：長谷川 英一 (社団法人電子情報技術産業協会 常務理事)	
	9:30-10:10	講演 (1)：グリーンIT イニシアティブの推進について 石黒 憲彦 (経済産業省 商務情報政策局長)
	10:10-10:50	講演 (2)：グリーンIT 推進協議会の活動と企業のグリーンIT への取り組みについて 下村 節宏 (三菱電機株式会社 代表執行役 執行役社長)
	10:50-11:20	講演 (3)：ITの活用によるグリーンIT への取り組みについて 海堀 周造 (横河電機株式会社 代表取締役社長)
	11:20-12:00	講演 (4)：グーグルとスマートグリッド 村上 憲郎 (グーグル株式会社 名誉会長)
	13:00-14:00	大会全体 招待講演 (2) The Challenge of the Multicores Fran Allen (IBM 名誉フェロー チューリング賞受賞者)
	14:15-15:15	大会全体 招待講演 (3) Realizing the Future Jim Isaak (IEEE-Computer Society 会長)
	情報処理の「夢」(情報処理学会会長セッション) 司会：坂井 修一 (東京大学 情報理工学系研究科 教授)	
	15:30-17:30	パネリスト：白鳥 則郎 (東北大学 電気通信研究所 教授) 青山 友紀 (慶応大学 デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構 教授) 三木谷 浩史 (楽天株式会社 代表取締役会長兼社長) 井辻 朱美 (白百合女子大学 文学部 教授) 谷島 宣之 (日経BP 日経コンピュータ 編集部長) 喜連川 優 (東京大学 生産技術研究所 教授)
	11 日 (木)	ソフトウェアジャパン2010 サステイナブル社会を実現するIT 第1セッション：キーノートセッション 司会：徳田 英幸 (情報処理学会 技術応用運営委員会 委員 (前委員長) / 慶応義塾大学環境情報学部教授兼政策・メディア研究科委員長)
9:30-9:35		IT フォーラムのイントロダクション 丸山 宏 (情報処理学会 技術応用運営委員会 委員長/キヤノン (株) デジタルプラットフォーム開発本部 副本部長)
9:35-10:10		招待講演 (1)「ポスト京都時代」をどう生き抜くのか 末吉 竹二郎 (国連環境計画・金融イニシアティブ 特別顧問)
10:10-10:45		招待講演 (2)「Smarter Planet - IT が拓く持続可能な社会」 久世 和資 (日本アイ・ピー・エム (株) 執行役員 開発製造担当)
10:50-11:25		招待講演 (3)「i-MiEV で開く低炭素社会 - 持続可能な社会を目指して」 早船 一弥 (三菱自動車工業 (株) 商品戦略本部 副本部長 兼 EV ビジネス本部 上級エキスパート 兼 開発本部 本部長補佐)
11:25-12:00		招待講演 (4)「低炭素社会の実現に向けて加速するグリーンIT」 関口 智嗣 ((独) 産業技術総合研究所 情報技術研究部門 研究部門長)
13:00-14:15		大会全体 招待講演 (4)「課題先進国」から「課題解決先進国」へ 小宮山 宏 (三菱総合研究所 理事長)
ソフトウェアジャパン2010 サステイナブル社会を実現するIT 第2セッション：パネルセッション		
14:30-16:00		パネル討論 「サステイナブル社会を実現するIT」 司 会：丸山 宏 (キヤノン (株) デジタルプラットフォーム開発本部) パネリスト：末吉 竹二郎 (国連環境計画・金融イニシアティブ) 久世 和資 (日本アイ・ピー・エム (株) 開発製造担当) 早船 一弥 (三菱自動車工業 (株) 商品戦略本部) 関口 智嗣 ((独) 産業技術総合研究所 情報技術研究部門) 徳田 英幸 (慶応義塾大学 環境情報学部)
ソフトウェアジャパン2010 サステイナブル社会を実現するIT 第3セッション：ザ・ジャパンソフトウェアセッション ～次世代スマートフォンで世界を目指す～		
16:10-16:15	ソフトウェアジャパンアワード 表彰式	
16:15-16:30	招待講演 (1)「『LightBike』のヒットに至るまでと今後の展開 ～全米 No.1 iPhone アプリになった経緯とその要因～」 柳澤 康弘 ((株) パンカク 代表取締役社長)	
16:30-16:45	招待講演 (2)「個人で制作し世界に配信する」 深津 貴之 ((株) Art & Mobile 代表取締役)	
16:45-17:10	鼎談 「日本発のソフトで世界を目指す」 司 会：林 信行 (フリーランス) パネリスト：柳澤 康弘 ((株) パンカク 代表取締役社長) 深津 貴之 ((株) Art & Mobile 代表取締役)	
17:10-17:15	クロージング	

【第1 イベント会場 (安田講堂)】		
日	時間	内 容
12 日 (金)		「計算科学技術と次世代スーパーコンピューティング基盤」 ～革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラの構築～ 共催：文部科学省 (独) 理化学研究所
	9:30-9:35	主催者挨拶 喜連川 優 (東京大学 生産技術研究所 教授)
	9:35-9:50	政策講演：(仮題) 革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラの構築に向けて 文部科学省
	9:50-10:40	基調講演：スパコンを活用した計算科学技術の意義について 立花 隆 (評論家・ジャーナリスト)
	10:50-11:30	招待講演 (1)：The U.S. approach to enabling Exascale Science and Engineering リック・スティープズ (アルゴンヌ国立研究所 副研究所長)
	11:30-12:10	招待講演 (2)：欧州のハイエンドスーパーコンピューティングインフラについて トーマス・リップパート (ユーリッヒスパコンセンター センター長)
	13:10-13:50	次世代スパコン紹介 (1)：次世代スパコン開発の現状 横川 三津夫 ((独) 理化学研究所 次世代スーパーコンピュータ開発実施本部 開発グループ グループディレクター)
	13:50-14:10	次世代スパコン紹介 (2)：次世代スパコンのプロセッサ SPARC64 (TM) VIIIfx 丸山 拓巳 (富士通 (株) 次世代テクニカルコンピューティング開発本部 LSI 開発統括部 統括部長代理)
	14:10-14:30	次世代スパコン紹介 (3)：次世代スーパーコンピュータでの超並列プログラミング環境 堀田 耕一郎 (富士通 (株) 次世代テクニカルコンピューティング開発本部 ソフトウェア開発統括部 統括部長代理)
	14:30-14:50	次世代スパコン紹介 (4)：次世代スパコンの高速化手法 南 一 生 ((独) 理化学研究所 次世代スーパーコンピュータ開発実施本部 アプリケーション開発チームリーダー)
	14:50-15:10	次世代スパコン紹介 (5)：e-サイエンス・プロジェクトと高生産・高性能並列プログラミング言語 XcalableMP 佐藤 三久 (筑波大学 筑波大学計算科学研究センター センター長)
	15:20-16:00	聴衆も含めたディスカッション

【第2 イベント会場 (法文1号館2F 25教室)】		
日	時間	内 容
9 日 (火)		21世紀のライフ・ロング・ラーニングへ向けて 司会：三宅なほみ (東京大学 大学院教育学研究科 教授)
	9:30-9:45	学習をライフ・ロングに見直す 三宅なほみ (東京大学 大学院教育学研究科 教授)
	9:45-10:15	講演 (1)：ロングテール型学習 Roy D. Pea (Stanford Center for Innovations in Learning Co-Director)
	10:15-10:45	講演 (2)：協調活動レパートリー獲得支援 Brigid Barron (School of Education, Stanford University Assistant Professor) Roy Pea (School of Education, Stanford University Assistant Professor)
	10:45-11:15	講演 (3)：斬新型難問チャレンジ・スキル獲得支援 Michael Jacobson (Center for Research on Computer-supported Learning and cognition Professor, Co-director)
	11:15-12:00	パネル討論：21世紀に求められる学習スキル 司 会：三宅なほみ (東京大学 大学院教育学研究科 教授) パネリスト：Roy D. Pea (Stanford Center for Innovations in Learning Co-Director) Brigid Barron (School of Education, Stanford University Assistant Professor) Michael Jacobson (Center for Research on Computer-supported Learning and cognition Professor, Co-director)
		50年後の情報社会を豊かに育てるために -情報処理学会 教育・人材育成ビジョン 2010-
	15:30-17:30	司 会：寛 捷彦 (早稲田大学 理工学術院基幹理工学部 教授) パネリスト：安西 祐一郎 (慶應義塾大学 元会長) 都倉 信樹 (大阪電気通信大学 学長 元情報処理教育委員会委員長) 大島 信幸 (日立製作所 CeFIL 教育連携委員会委員長) 田中 一郎 (NTT データ)
		ディペンダブルシステム -新しい原理から実装まで-
	10 日 (水)	9:30-10:20
	10:30-12:00	パネル討論：真にディペンダブルな IT を創造する 司 会：藤田 昌宏 (東京大学 東京大学大規模集積システム設計教育研究センター 教授) パネリスト：所 真理雄 ((株) ソニーコンピュータサイエンス研究所 代表取締役社長) 浅井 彰二郎 ((株) リガク 取締役副社長) 中島 達夫 (早稲田大学 基幹理工学部・情報理工学 教授) 安浦 寛人 (九州大学 理事・副学長) 松田 晃一 ((独) 情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター 所長) 西 直樹 (日本電気 (株) システム IP コア研究所 所長)

【第2 イベント会場 (法文1号館 2F 25 教室)】

日	時間	内 容
日 (水)	CGMの現在と未来：初音ミク、ニコニコ動画、ピアプロの切り拓いた世界	
	司会：後藤 真孝 (産業技術総合研究所 情報技術研究部門)	
	15:30-15:50	講演 (1)：歌声合成の過去・現在・未来 剣持 秀紀 (ヤマハ株式会社 サウンドテクノロジー開発センター)
	15:50-16:10	講演 (2)：初音ミク as an interface 伊藤 博之 (クリプトン・フューチャー・メディア株式会社)
	16:10-16:30	講演 (3)：運営側から見たニコニコ動画の現在と未来 戀塚 昭彦 (株式会社ダウンゴ 研究開発本部)
	16:30-16:50	講演 (4)：日本のネットカルチャーはどこへ向かうのか：ニコニコ動画の「擬同期型アーキテクチャ」と「N次創作」の先に 濱野 智史 (株式会社日本技芸)
16:50-17:30	パネル討論：初音ミク、ニコニコ動画、ピアプロはどのような世界を切り拓くのか 司 会：後藤 真孝 (産業技術総合研究所 情報技術研究部門) パネリスト：剣持 秀紀 (ヤマハ株式会社 サウンドテクノロジー開発センター) 伊藤 博之 (クリプトン・フューチャー・メディア株式会社) 戀塚 昭彦 (株式会社ダウンゴ 研究開発本部) 濱野 智史 (株式会社日本技芸)	
日 (木)	パネル討論：情報処理グランドチャレンジ	
	司会：西田 豊明 (京都大学 情報学研究所 教授)	
	9:30-10:00	基調講演：問題提起：情報処理グランドチャレンジ 所 眞理雄 ((株) ソニーコンピュータサイエンス研究所 代表取締役社長)
10:00-12:00	パネル討論：情報処理グランドチャレンジ 司 会：所 眞理雄 ((株) ソニーコンピュータサイエンス研究所 代表取締役社長) パネリスト：宇川 彰 (筑波大学 数理物質科学研究科物理学専攻・計算科学研究センター素粒子宇宙部門 副学長・教授) 北野 宏明 ((株) ソニーコンピュータサイエンス研究所 取締役所長) 喜連川 優 (東京大学 生産技術研究所 教授) 坂村 健 (東京大学 情報学環 教授)	

【第3 イベント会場 (法文1号館 1F 21 教室)】

日	時間	内 容
日 (火)	人間環境センシングの可能性と将来	
	司会：井上 創造 (九州工業大学 大学院工学研究院基礎科学研究系 准教授)	
	9:30-9:55	講演 (1)：情報化農業とGAP 岡安 崇史 (九州大学 大学院農学研究院生産環境科学部門 生物生産工学研究室 准教授)
	9:55-10:20	講演 (2)：人間の感情・心理情報の定量計測可視化の現状 光吉 俊二 (株式会社AGI 代表取締役社長)
	10:20-10:45	講演 (3)：携帯端末を用いたグローバル行動情報収集プラットフォーム 井上 創造 (九州工業大学 大学院工学研究院基礎科学研究系 准教授)
	10:45-11:10	講演 (4)：Peta-Tech：ライフログの自動化とペタマイニング 西尾 信彦 (立命館大学 情報理工学部 情報システム学科 教授)
11:10-12:00	パネル討論：行動センシングの可能性と将来 司 会：井上 創造 (九州工業大学 大学院工学研究院基礎科学研究系 准教授) パネリスト：岡安 崇史 (九州大学 大学院農学研究院生産環境科学部門 生物生産工学研究室 准教授) 光吉 俊二 (株式会社AGI 代表取締役社長) 西尾 信彦 (立命館大学 情報理工学部 情報システム学科 教授) 河口 信夫 (名古屋大学 大学院工学研究科 計算理工学専攻 基盤計算科学講座 教授)	
日 (火)	我が国における新世代ネットワーク	
	司会：中尾 彰宏 (東京大学 大学院情報学環 准教授)	
	15:30-16:00	講演 (1)：新世代ネットワークの研究展開と課題 青山 友紀 (慶應義塾大学 デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構 教授)
	16:00-16:30	講演 (2)：新世代ネットワークの戦略的活用 須藤 修 (東京大学 大学院情報学環 教授)
	16:30-17:00	講演 (3)：新世代ネットワークを実現するアーキテクチャ設計と構成技術 原井 洋明 (独立行政法人 情報通信研究機構 新世代ネットワーク研究センター ネットワークアーキテクチャグループ グループリーダー)
17:00-17:30	講演 (4)：JGN-2plus とその後 井上 友二 (社団法人 情報通信技術委員会 理事長)	

【第3 イベント会場 (法文1号館 1F 21 教室)】			
日	時間	内	容
10 日 (水)	e-Health時代の医療情報処理アプローチを考える 共催：日本医療情報学会 司会：武田 裕 (大阪大学 大学院医学系研究科 教授)		
	9:30-9:40	講演 (1)：e-Health時代の医療情報処理アプローチを考える 武田 裕 (大阪大学大学院 医学系研究科 教授)	
	9:40-10:00	講演 (2)：EHR と社会基盤の動向 山本 隆一 (東京大学 大学院情報学環 准教授)	
	10:00-10:20	講演 (3)：e-Healthのための医療情報の標準化 大江 和彦 (東京大学大学院医学系研究科 医療情報経済学分野 教授)	
	10:20-10:40	講演 (4)：特定非営利活動法人 長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会「あじさいネットワーク」の 取り組みについて 柴田 真吾 (公益社団法人地域医療振興協会 市立大村市民病院 医療情報企画部 部長, 医療安全管理部 部長, 地域医療 連携室 室長, 診療情報管理室 室長, 麻酔科医長)	
	10:40-11:00	講演 (5)：Microsoft HealthVaultの目指すもの 大井川 和彦 (マイクロソフト株式会社 パブリックセクター 執行役 常務)	
	11:00-11:20	講演 (6)：クラウドコンピューティングと医療への応用 - その期待と課題 - 浦本 直彦 (日本アイ・ピー・エム株式会社 東京基礎研究所 次長)	
	11:20-12:00	パネル討論 司 会：武田 裕 (大阪大学大学院 医学系研究科 教授) パネリスト：山本 隆一 (東京大学 大学院情報学環 准教授) 大江 和彦 (東京大学大学院医学系研究科 医療情報経済学分野 教授) 柴田 真吾 (公益社団法人地域医療振興協会 市立大村市民病院 医療情報企画部 部長, 医療安全管理部 部 長, 地域医療連携室 室長, 診療情報管理室 室長, 麻酔科医長) 大井川 和彦 (マイクロソフト株式会社 パブリックセクター 執行役 常務) 浦本 直彦 (日本アイ・ピー・エム株式会社 東京基礎研究所 次長)	
	人工知能研究の新展開 - 日本発世界へ - 共催：人工知能学会		
	15:30-17:30	司 会：堀 浩一 (東京大学 大学院工学系研究科 教授) パネリスト：中島 秀之 (公立はこだて未来大学 学長) 山口 高平 (慶應義塾大学 理工学部 教授) 松原 仁 (公立はこだて未来大学 システム情報科学部情報アーキテクチャ学科 教授) 諏訪 正樹 (慶應義塾大学 環境情報学部 教授) 松尾 豊 (東京大学 大学院工学系研究科 准教授)	
11 日 (木)	JST さきがけセッション (1)「社会応用」 / (2)「要素技術」をテーマに発表・討論 責任者：石田 亨 (京都大学 大学院情報学系研究科 教授) 中島 秀之 (公立はこだて未来大学 学長)		
	9:30-9:45	学習進化機能に基づくスパイラル・ケアサポートシステム 高玉 圭樹 (電気通信大学 電気通信学部 人間コミュニケーション学科 准教授)	
	9:45-10:00	インタラクション理解に基づく調和的情報保障環境の構築 坊農 真弓 (国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 助教)	
	10:15-10:30	疑似コード変換と統計解析による文書画像からの知識抽出 寺沢 憲吾 (公立はこだて未来大学 システム情報科学部 助教)	
	10:15-10:30	金融市場における相転移の時空間構造の自動抽出と予測 高田 輝子 (大阪市立大学大学院 経営学系研究科 准教授)	
	10:30-10:45	総合討論	
	10:45-11:00	触覚の時空間認知メカニズムの解明に基づく実世界情報提示 梶本 裕之 (電気通信大学 電気通信学部 准教授)	
	11:00-11:15	脳活動の推定に基づく適応的な環境知能の実現 山岸 典子 ((株) 国際電気通信基礎技術研究所 脳情報研究所 主任研究員)	
	11:15-11:30	実社会情報ネットワークからのプライバシー保護データマイニング 佐久間 淳 (筑波大学大学院 システム情報工学系研究科 准教授)	
	11:30-11:45	圧縮データ索引に基づく巨大文書集合からの関連性マイニング 坂本 比呂志 (九州工業大学大学院 情報工学系研究科 准教授)	
11:45-12:00	総合討論		

【第3 イベント会場 (法文1号館 1F 21 教室)】			
日	時間	内	容
11 日 (木)	JST さきがけセッション (3) 「基礎研究」 / パネル討論をテーマに発表・討論 責任者：石田 亨 (京都大学 大学院情報学研究科 教授) 中島 秀之 (公立はこだて未来大学 学長)		
	14:30-14:45	多人数インタラクション理解のための会話分析手法の開発 高梨 克也 (科学技術振興機構 さきがけ研究者)	
	14:45-15:00	長期インタラクション創発を可能とする知能化空間の設計論 尾形 哲也 (京都大学 大学院 情報学研究科 准教授)	
	15:00-15:15	大規模並列化によるハイパフォーマンス人工知能技術 岸本 章宏 (東京工業大学 大学院情報理工学研究科 助教)	
	15:15-15:30	ネットワーク理論と機械学習を用いたウェブ情報の構造化・知識化 松尾 豊 (東京大学大学院 工学系研究科総合研究機構 准教授)	
	15:30-15:45	総合討論	
	16:00-17:00	パネル討論：さきがけとは モデレータ：原口亮治 ((独) 科学技術振興機構 調査役) パネリスト：石田 亨 (京都大学 大学院情報学研究科 教授) 中島 秀之 (公立はこだて未来大学 学長) 竹林 洋一 (静岡大学 創造科学技術大学院 教授) 樋口 知之 (統計数理研究所 副所長/教授) 安田 雪 (関西大学 社会学部 教授)	

【第4 イベント会場 (法文1号館 1F 22 教室)】			
日	時間	内	容
9 日	企業活動に役立つ数理学 ~ サービス化に向けて 司会：田島 玲 (日本アイ・ピー・エム株式会社 東京基礎研究所 部長)		
	9:35-10:05	講演 (1)：数理学によるビジネス最適化 ~ IBM における BAO サービスを例として～ 岡野 裕之 (IBM ビジネスコンサルティングサービス (株) ビジネス・アナリティクス&オプティマイゼーション シニア・マネージング・コンサルタント)	
	10:05-10:35	講演 (2)：コンピュータ科学の新しい使われ方 西川 徹 ((株) Preferred Infrastructure 代表取締役)	
	10:35-11:05	講演 (3)：企業の意思決定プロセスにおける数理系人材の活用方法 河本 薫 (大阪ガス (株) 情報通信部 課長)	
	11:05-11:35	講演 (4)：潜在するビジネス的価値を掘り起こす一解析の数理から戦略の数理へ 山西 健司 (東京大学 大学院情報理工学系研究科数理情報学専攻 教授)	
(火)	セキュリティとディベンダビリティ 司会：宮地 充子 (北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 教授)		
	15:30-16:10	基調講演：セキュリティとディベンダビリティ 今井 秀樹 (中央大学 理工学部電気電子情報通信工学科 教授)	
	16:10-17:30	パネル討論：真に必要なセキュリティとディベンダビリティの実現のために 司 会：宮地 充子 (北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 教授) パネリスト：田中 英彦 (情報セキュリティ大学院大学 情報セキュリティ研究科 研究科長) 岩野 和生 (日本アイ・ピー・エム (株) 未来価値創造事業 執行役員) 中野 正康 (総務省 情報セキュリティ対策室 室長) 岡本 龍明 (NTT情報流通プラットフォーム研究所 岡本特別研究室 室長) 松田 晃一 ((独) 情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター 所長)	
10 日 (水)	学会誌「情報処理」の未来 司会：中川 晋一 (情報通信研究機構主任研究員 会誌編集委員)		
	9:40-9:55	講演 (1)：学会誌「情報処理」の役割と期待 土井 美和子 ((株) 東芝 研究開発センター首席技監 情報処理学会フェロー, 前副会長)	
	9:55-10:10	講演 (2)：学会誌「情報処理」の現在 川合 慧 (放送大学教授・東京大学名誉教授 会誌編集長)	
	10:10-10:25	講演 (3)：「情報処理」の現状と課題 武田 浩一 (日本アイ・ピー・エム (株) 会誌担当理事)	
	10:25-10:40	講演 (4)：「情報処理」は止まらない 松原 仁 (公立はこだて未来大学教授 前会誌担当理事, 現編集委員)	
	10:40-11:10	特別ゲスト：Quality Paper の重要性と運営方針 小山 透 (㈱近代科学社取締役編集部長 元『bit』編集長)	
11:15-12:00	パネル討論：Quality Paper としての会誌情報処理の未来 司 会：中川 晋一 (情報通信研究機構主任研究員 会誌編集委員) パネリスト：土井 美和子 ((株) 東芝 研究開発センター首席技監 情報処理学会フェロー, 前副会長) 川合 慧 (放送大学教授・東京大学名誉教授 会誌編集長) 武田 浩一 (日本アイ・ピー・エム (株) 会誌担当理事) 松原 仁 (公立はこだて未来大学教授 前会誌担当理事, 現編集委員) 小山 透 (㈱近代科学社取締役編集部長 元『bit』編集長)		

【第4イベント会場（法文1号館1F 22教室）】		
日	時間	内 容
10 日 (水)	センシング Web とプライバシーマネジメント – プライバシーに配慮したセンサ情報の社会的利用 –	
	司会：谷本 茂明（千葉工業大学 社会システム科学部 准教授）	
	15:30-16:00	基調講演：WEB時代とID・プライバシー管理 安田 浩（東京電機大学 未来科学部 教授）
	16:00-16:20	活動報告：情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発連携群の活動報告 西尾 章治郎（大阪大学 理事・副学長）
	16:20-16:35	講演（1）：画像情報に対するプライバシー情報処理 美濃 導彦（京都大学 学術情報メディアセンター 教授）
	16:35-16:50	講演（2）：音声情報に対するプライバシー情報処理 中川 聖一（豊橋技術科学大学 情報工学系 教授）
	16:50-17:05	講演（3）：センサ情報に基づく実世界コンテンツ 馬場口 登（大阪大学 大学院工学研究科 教授）
	17:05-17:20	講演（4）：センサ群からの情報の構造化 谷口 倫一郎（九州大学 大学院システム情報科学研究院 教授）
	17:20-17:35	講演（5）：センサ情報利用によるシースルービジョン 大田 友一（筑波大学 大学院システム情報工学研究科 教授）
17:35-17:50	講演（6）：センサ情報の共有 鰐坂 恒夫（和歌山大学 システム工学部 教授）	
11 日 (木)	大学院人材育成における情報教育 大学院人材育成における情報教育－これからの大学院教育－	
	司会：中村 聡史（京都大学大学院 情報学研究科 情報教育推進センター 特定准教授）	
	9:30-9:55	講演（1）：京都大学における大学院共通情報教育の取り組み 田中 克己（京都大学大学院 情報学研究科 教授/情報教育推進センター長）
	9:55-10:20	講演（2）：実践IT力を備えた人材育成の取組みと大学院研究科共通教育プログラム 北川 博之（筑波大学大学院 システム情報工学研究科 教授・コンピュータサイエンス専攻長）
	10:20-10:45	講演（3）：大学院GP「大学連合による計算科学の最先端人材育成」の活動報告 賀谷 信幸（神戸大学 工学研究科情報知能学専攻 教授）
	10:45-11:10	講演（4）：人文学と情報技術とその教育：京大文学研究科の例から 林 晋（京都大学大学院 文学研究科 教授）
	11:10-11:35	講演（5）：医学研究におけるコンピュータスキルの役割 山田 亮（京都大学 医学研究科附属ゲノム医学センター 教授）
	11:35-12:00	全体討論 司 会：田中 克己（京都大学大学院 情報学研究科 教授/情報教育推進センター長） パネリスト：北川 博之（筑波大学大学院 システム情報工学研究科 教授・コンピュータサイエンス専攻長） 賀谷 信幸（神戸大学 工学研究科情報知能学専攻 教授） 林 晋（京都大学大学院 文学研究科 教授） 山田 亮（京都大学 医学研究科附属ゲノム医学センター 教授）
	大学院人材育成における情報教育 人材育成における情報教育－ITを活用した教育－	
司会：稲葉 利江子（京都大学大学院 情報学研究科 情報教育推進センター 特定講師）		
14:30-14:50	講演（1）：携帯端末向けオンライン講義視聴支援システムの開発 中村 聡史（京都大学大学院 情報学研究科 情報教育推進センター 特定准教授）	
14:50-15:20	講演（2）：アイスタントを活用した全学的FDの取り組み 後藤 尚人（岩手大学 人文社会科学部 教授） 江本 理恵（岩手大学 大学教育総合センター 准教授）	
15:20-15:50	講演（3）：東京大学の教育におけるICT活用の取り組み－MEET, KALSを中心に－ 西森 年寿（東京大学 教養学部附属 教養教育開発機構 特任准教授）	
15:50-16:20	講演（4）：eラーニング専門家をeラーニングで養成する熊本大学大学院教授システム学専攻の取り組み 中野 裕司（熊本大学 総合情報基盤センター・大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻 教授・学長特別補佐（情報化担当））	
16:20-16:40	講演（5）：京都大学オープンコースウェア 土佐 尚子（京都大学 学術情報メディアセンター 教授）	
16:40-17:00	全体討論 司 会：中村 聡史（京都大学大学院 情報学研究科 情報教育推進センター 特定准教授） パネリスト：後藤 尚人（岩手大学 人文社会科学部 教授） 江本 理恵（岩手大学 大学教育総合センター 准教授） 西森 年寿（東京大学 教養学部附属 教養教育開発機構 特任准教授） 中野 裕司（熊本大学 総合情報基盤センター・大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻 教授・学長特別補佐（情報化担当）） 土佐 尚子（京都大学 学術情報メディアセンター 教授）	

【第5イベント会場（法文1号館3F 26教室）】			
日	時間	内	容
9 日 (火)	未来を切り拓く最先端 VLSI テクノロジー		
	司会：五島 正裕（東京大学 大学院情報理工学系研究科 准教授）		
	15:30-15:50	講演 (1)：情報システムの超低消費電力化技術 南谷 崇（東京大学 情報理工学系研究科 教授）	
	15:50-16:15	講演 (2)：メディア処理における超低消費電力化技術 後藤 敏（早稲田大学 情報生産システム研究科 教授）	
	16:15-16:40	講演 (3)：ソフトウェアとハードウェアの協調による組み込みシステムの消費エネルギー最適化 高田 広章（名古屋大学 大学院情報科学研究科 教授）	
	16:40-17:05	講演 (4)：Power Wall 問題へのブレークスルーを目指して～リーク電力削減への試み～ 中村 宏（東京大学 大学院情報理工学系研究科 准教授）	
	17:05-17:30	講演 (5)：高性能・超低電力短距離ワイヤレス 可動情報システムの創出 黒田 忠広（慶應義塾大学 理工学部電子工学科 教授）	
10 日	誰が、何を、いつ、どこで、なぜ、どうやって翻訳するか？		
	司会：内山 将夫（情報通信研究機構 知識創成コミュニケーション研究センター言語翻訳グループ 主任研究員）		
	9:30-9:45	講演 (1)：翻訳企業 結城 真悠（株式会社ロックエンジェルリミテッド 代表取締役）	
	9:45-10:00	講演 (2)：出版翻訳 内田 真人（作品社 編集部 編集長）	
	10:00-10:15	講演 (3)：国際企業の多言語化 加藤 直孝（日本アイ・ビー・エム株式会社 トランスレーション・サービス・センター アドバイザリー S/W エンジニア）	
	10:15-10:30	講演 (4)：NGO 系翻訳 野田 幸江（社団法人アムネスティ・インターナショナル日本 企画・広報担当）	
	10:30-10:45	講演 (5)：オープンソースソフトウェアのマニュアル等の翻訳 真藤 直観（GentooJP）	
	10:45-12:00	パネル討論 司 会：影浦 峯（東京大学 教育学研究科 教授） パネリスト：結城 真悠（株式会社ロックエンジェルリミテッド 代表取締役） 内田 真人（作品社 編集部 編集長） 加藤 直孝（日本アイ・ビー・エム株式会社 トランスレーション・サービス・センター アドバイザリー S/W エンジニア） 野田 幸江（社団法人アムネスティ・インターナショナル日本 企画・広報担当） 真藤 直観（GentooJP） 鈴谷 茂寛（GentooJP）	
	情報システム論文執筆ワークショップ ～情報システムの論文を書こう～		
	司会：畑山 満則（京都大学 防災研究所 准教授）		
	15:30-15:45	講演 (1)：特集号の総括 (IS) 阿部 昭博（岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 教授）	
	15:45-16:00	講演 (2)：特集号の総括 (CE) 中森 真理雄（東京農工大学 工学府 教授）	
	16:00-16:40	講演 (3)：論文作成の課題 神沼 靖子（当学会フェロー）	
	16:40-17:30	パネル討論：検討課題の議論 司 会：辻 秀一（東海大学 情報通信学部 教授） パネリスト：阿部 昭博（岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 教授） 中森 真理雄（東京農工大学 工学府 教授） 神沼 靖子（当学会フェロー） 金田 重郎（同志社大学 理工学部 教授）	

【第6イベント会場（法文1号館3F 27教室）】			
日	時間	内	容
9 日 (火)	情報爆発時代における情報の信頼性とデータ品質		
	司会：田中 克己（京都大学 情報学研究科 教授）		
	15:30-16:10	基調講演：Information Relevance and Data Overload in the Web Ricardo Baeza-Yates (Yahoo! Research)	
	16:10-16:30	position talk (パネリスト)：画像・映像情報の信憑性 和田 俊和（和歌山大学 システム工学部 教授）	
	16:30-16:50	position talk (パネリスト)：Web2.0 情報の品質と信憑性 稲垣 陽一（(株) きざしカンパニー 代表取締役専務 CTO）	
	16:50-17:10	position talk (司会)：検索情報の信頼性 田中 克己（京都大学 情報学研究科 教授） Ricardo Baeza-Yates (Yahoo! Research) (パネリスト)	
	17:10-17:30	質疑・討論	

【第6 イベント会場 (法文1号館 3F 27教室)】			
日	時間	内	容
10 日 (水)	改正著作権法とIT		
	司会：岡本 真 (アカデミック・リソース・ガイド (株))		
	9:30-9:45	討論にあたって	岡本 真 (アカデミック・リソース・ガイド (株))
	9:45-10:30	講演：改正著作権法の概要	大谷 和子 ((株) 日本総合研究所 法務部長)
	10:30-12:00	パネル討論：改正著作権法がもたらす可能性と残した課題	司 会：岡本 真 (アカデミック・リソース・ガイド (株)) パネリスト：大谷 和子 ((株) 日本総合研究所 法務部長) 別所 直哉 (ヤフー (株) 最高コンプライアンス責任者 (CCO) 兼法務本部長) 前川 喜久雄 (国立国語研究所 教授) 豊田 正史 (東京大学生産技術研究所 准教授) 川西 晶大 (国立国会図書館 電子情報企画室 (大規模デジタル化事務局))

【第7 イベント会場 (理学部1号館 中央棟 2F 小柴ホール)】			
日	時間	内	容
9 日 (火)	私の詩と真実		
	司会：和田 英一 ((株) IJ イノベーションインスティテュート 所長)		
	9:30-10:10	【第1部】 情報処理技術遺産認定式	
	10:20-11:20	【第2部】 シンポジウム「私の詩と真実」講演 (1)：「棒ほど願って」	水谷 静夫 (東京女子大学 名誉教授)
	11:30-12:30	【第2部】 シンポジウム「私の詩と真実」講演 (2)：「先人に学ぶ」	山本 卓真 (富士通 (株) 顧問)
CHANGE! Yes, we can! Past, Present, Future of Women in Information Technology 共催：情報処理学会ソフトウェアジャパン IT Diversity Forum IEEE Japan Council Women in Engineering Affinity Group 社団法人 情報サービス産業協会 協賛：東京大学男女共同参画室			
15:30-17:30	司 会：中野 美由紀 (東京大学 生産技術研究所 特任准教授) 控 拶：白鳥 則郎 (東北大学 電気通信研究所 教授, 情報処理学会会長) スペシャルゲスト：Fran Allen (IBM T. J. Watson Research Center IBM Fellow Emerita) パネリスト：國井 秀子 (リコー IT ソリューションズ株式会社 取締役 会長執行役員) 久保 真季 (国立女性教育会館 事務局長) 重木 昭信 (株式会社 NTT データ 顧問) 都河 明子 (東京大学 男女共同参画オフィス 特任教授・コーディネーター) 土井 美和子 (株式会社東芝 研究開発センター 首席技監)		

【第8 イベント会場 (工学部新2号館 1F 213大講義室)】			
日	時間	内	容
9 日 (火)	ビデオゲーム開発の現場では今何が起きている？		
	司会：稲見 昌彦 (慶應義塾大学 大学院 メディアデザイン研究科 教授)		
	9:35-9:55	講演 (1)：日本のビデオゲーム業界の動向と技術開発への取り組み	松原 健二 (コエーテックモホールディングス (株) 代表取締役社長)
	9:55-10:20	講演 (2)：ビデオゲームは、計算機科学研究のフロンティアたり得るか？	吉岡 直人 ((株) スクウェア・エニックス 研究開発部 チーフ・テクノロジスト)
	10:20-10:45	講演 (3)：ゲーム開発の実際と産学連携について	斎藤 直宏 ((株) バンダイナムコゲームス コンテンツ制作本部 制作ディビジョン 技術部, サウンド部 ゼネラルマネージャー)
10:45-11:10	講演 (4)：ソフトウェアエンジニアリング面から見たゲーム開発の実際	植原 一充 (フリー)	
11:10-12:00	パネル討論：ゲーム研究は楽しい？	司 会：稲見 昌彦 (慶應義塾大学 大学院 メディアデザイン研究科 教授) パネリスト：吉岡 直人 ((株) スクウェア・エニックス 研究開発部 チーフ・テクノロジスト) 斎藤 直宏 ((株) バンダイナムコゲームス コンテンツ制作本部 制作ディビジョン 技術部, サウンド部 ゼネラルマネージャー) 植原 一充 (フリー) 長谷川 晶一 (電気通信大学 電気通信学部 知能機械工学科 准教授)	
イマジンカップ日本大会			
13:00-17:30	日本大会・基調講演・表彰式		
10 日 (水)	理数系人材育成プログラム「ロボットを作ろう・動かそう」		
	13:10-15:20	共通ロボット PR (学生プレゼン)	
	15:30-16:00	創作ロボット PR (学生プレゼン)	
	16:10-16:40	ロボットレース	
	17:00-17:30	表彰式	

【第8 イベント会場 (工学部新2号館 1F 213大講義室)】		
日	時間	内容
11 日 (木)	次世代ネットワークを变容させるネットワークセキュリティ技術：トラクタブルネットワークの実現へむけて	
	司会：門林 雄基 (情報通信研究機構 情報通信セキュリティ研究センター トレーサブルネットワークグループ プロジェクトリーダー)	
	9:30-10:00	講演 (1)：再現テストベッドと次世代ネットワークセキュリティ 三輪 信介 (情報通信研究機構 情報通信セキュリティ研究センター トレーサブルネットワークグループ 主任研究員)
	10:00-10:30	講演 (2)：長期バックボーンネットワークトラフィックにおける異常トラフィックの特性について 福田 健介 (国立情報学研究所 / 科学技術振興機構 アーキテクチャ科学研究系 准教授)
	10:30-11:00	講演 (3)：機械語命令列の類似性に基づく自動マルウェア分類システム 岩村 誠 (日本電信電話株式会社 情報流通プラットフォーム研究所 社員)
11:00-11:30	講演 (4)：次世代ネットワークに向けたダークネット活用の課題と展望 中尾 康二 (情報通信研究機構 情報通信セキュリティ研究センター インシデント対策グループ グループリーダー)	
11:30-12:00	講演 (5)：総括：トラクタブルネットワークからの展望 篠田 陽一 (情報通信研究機構 情報通信セキュリティ研究センター センター長)	
12 日 (金)	平成21年度科研特定領域「情報爆発 IT 基盤」プロジェクトシンポジウム	
	司会：安達 淳 (国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 教授)	
	10:00-11:00	招待講演 (1)：Building Cloud Applications to Support Research：the Microsoft Azure Research Engagement Project Dr. Dennis Gannon (Microsoft Research Cloud Computing Futures Center eXtreme Computing Group Director)
	11:00-11:30	招待講演 (2)：情報通信技術と社会システムアーキテクチャ 安浦 寛人 (九州大学 理事・副学長)
	11:30-12:00	特定領域報告 1：領域全体概要・A01 柱報告 喜連川 優 (東京大学 生産技術研究所 教授)
	13:00-15:25	特定領域報告 2:A02 柱報告 松岡 聡 (東京工業大学 学術国際情報センター 教授) 特定領域報告 3:A03 柱報告 松山 隆司 (京都大学 大学院情報学研究科 教授) 特定領域報告 4:B01 柱報告 須藤 修 (東京大学 大学院情報学環 教授) 特定領域報告 5: 支援班活動 1 安達 淳 (国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 教授)
	15:55-16:25	特定領域報告 6: 支援班活動 2
16:30-17:45	パネルディスカッション：ワクドキするポスト情報爆発 司 会：安達 淳 (国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 教授) パネリスト：河口 信夫 (名古屋大学 大学院工学研究科 教授) 川嶋 宏彰 (京都大学 大学院情報学研究科 講師) 黒橋 禎夫 (京都大学 大学院情報学研究科 教授) 田浦 健次郎 (東京大学 大学院情報理工学研究科 准教授) 建部 修見 (筑波大学 大学院システム情報工学研究科 准教授) 中村 聡史 (京都大学 大学院情報学研究科 特定准教授) 原田 達也 (東京大学 大学院情報理工学研究科 准教授)	

【第9 イベント会場 (工学部新2号館 2F 221号講義室)】		
日	時間	内容
9 日 (火)	今ドキッのIT @御殿下記念館2010 展示関連講演	
	15:30-17:30	第1回「人ロボット共生学」シンポジウム～人とロボットの共生による協創社会の創成～ 人とロボットの共生による協創社会の創成 (人ロボット共生学領域)
10 日 (水)	今ドキッのIT @御殿下記念館2010 展示関連講演	
	9:30-12:00	「しる」から「わかる」へ～価値創造のための知識処理技術 情報通信研究機構
11 日 (木)	今ドキッのIT @御殿下記念館2010 展示関連講演	
	15:30-17:30	MASTAR プロジェクト 情報通信研究機構
11 日 (木)	「情報処理」を探訪する～学会コンテンツから見えてくるもの～	
	10:00-12:00	司 会：相原 健郎 (国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 准教授) パネリスト：相澤 彰子 (国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 教授) 猪子 寿之 (チームラボ株式会社 代表) 大向 一輝 (国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 准教授) 黒橋 禎夫 (京都大学大学院 情報学研究科 教授) 角 康之 (京都大学大学院 情報学研究科 准教授)
	ICT生活の核の一つか？ライフログ	
	司会：大橋 正良 (ATR メディア情報科学研究所 所長)	
	14:30-15:00	講演 (1)：日常の生活をログに取り込む 相澤 清晴 (東京大学 情報学環 教授)
15:00-15:30	講演 (2)：ライフログをめぐる制度面からの検討状況 二宮 清治 (総務省 総合通信基盤局消費者行政課 課長)	
15:45-17:00	パネル討論：ライフログの周辺；実証・実用化をめぐる課題について 司 会：大橋 正良 (ATR メディア情報科学研究所 所長) パネリスト：矢野 和男 ((株)日立製作所 基礎研究所 主管研究員, 人間情報システムラボ長) 宇佐見 正士 (KDDI 技術戦略部 部長) 石井 夏生利 (情報セキュリティ大学院大学 情報セキュリティ研究科 准教授)	

【第10 イベント会場 (福武ラーニング B2F シアター)】		
日	時間	内容
9 日	フィールド情報学セミナー 共催：社会情報学会 総合司会：石田 亨 (京都大学大学院 情報学研究科 教授) 司会：奥山 隼一 (京都大学大学院 情報学研究科 GCOE 助教)	
	9:30-9:40	オープニング：フィールド情報学とは何か 石田 亨 (京都大学大学院 情報学研究科 教授)
	9:40-10:00	講演 (1)：リモートセンシングと地理情報システム 酒井 徹朗 (京都大学大学院 情報学研究科 教授)
	10:00-10:20	講演 (2)：バイオロギング 荒井 修亮 (京都大学大学院 情報学研究科 准教授)
	10:20-10:40	講演 (3)：システムダイナミクス 守屋 和幸 (京都大学大学院 情報学研究科 教授)
	10:40-11:00	講演 (4)：マルチエージェントシミュレーション 服部 宏充 (京都大学大学院 情報学研究科 助教)
	11:10-12:00	パネル討論：フィールド情報学と新規ビジネス 司会：石田 亨 (京都大学大学院 情報学研究科 教授) パネリスト：神成 淳司 慶応義塾大学 環境情報学部 専任講師 橋本 大也 データセクション (株) 取締役会長 松波 晴人 大阪ガス (株) 行動観察研究所 所長 (株) エルネット 技術顧問
(火)	フィールド情報学セミナー 共催：社会情報学会 総合司会：石田 亨 (京都大学大学院 情報学研究科 教授) 司会：辻 高明 (京都大学大学院 情報学研究科 特任助教)	
	15:30-15:50	講演 (5)：エスノグラフィ 辻 高明 (京都大学大学院 情報学研究科 特任助教)
	15:50-16:10	講演 (6)：ケースライティング 松原 繁夫 (京都大学大学院 情報学研究科 准教授)
	16:10-16:30	講演 (7)：インクルーシブデザイン 塩瀬 隆之 (京都大学 総合博物館 准教授)
	16:30-16:50	講演 (8)：アウトリーチ・コミュニケーション 菱山 玲子 (早稲田大学 理工学術院 准教授)
	16:50-17:30	招待講演：Web に埋め込まれたリアル・リアルに埋め込まれた Web：情報生態系への状況論的アプローチ 上野 直樹 (東京都市大学 環境情報学部 教授)
10 日 (水)	プログラミングコンテストにより情報系人材を育てる 9:30-17:30 資料・パネル展示、PC デモ	
	プログラミングコンテストにより情報系人材を育てる 司会：守屋 悦朗 (早稲田大学 教育・総合科学学術院 教育学部 教授)	
	15:30-15:40	講演 (1) 基調講演：科学技術系コンテストに期待するもの 文部科学省
	15:40-15:50	講演 (2)：高専プロコンの紹介 金寺 登 (石川工業高等専門学校 電子情報工学科 教授)
	15:50-16:00	講演 (3)：情報オリンピックの活動紹介 谷 聖一 (日本大学 文理学部 教授)
	16:00-16:10	講演 (4)：スーパーコンの活動紹介 渡辺 治 (東京工業大学 大学院情報理工学研究科 教授)
	16:10-16:20	講演 (5)：パソコン甲子園の活動紹介 前田 多可雄 (会津大学 コンピュータ理工学部 准教授)
	16:20-16:30	講演 (6)：ICPC の活動紹介 筑 捷彦 (早稲田大学 理工学術院基幹理工学部 教授)
16:40-17:30	パネル討論：情報系人材をプログラミングコンテストから育てるために 司会：守屋 悦朗 (早稲田大学 教育・総合科学学術院 教育学部 教授) パネリスト：金寺 登 (石川工業高等専門学校 電子情報工学科 教授) 谷 聖一 (日本大学 文理学部 教授) 渡辺 治 (東京工業大学 大学院情報理工学研究科 教授) 前田 多可雄 (会津大学 コンピュータ理工学部 准教授) 筑 捷彦 (早稲田大学 理工学術院基幹理工学部 教授)	

【第11 イベント会場 (山上会館 2F 大会議室)】		
日	時間	内容
9 日 (火)	15:30-17:30	今ドキッの IT @ 御殿下記念館 2010 展示関連講演 超臨場感技術は 21 世紀に生活・産業革命をもたらすか？ 超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム URCF
10 日 (水)	15:30-17:30	今ドキッの IT @ 御殿下記念館 2010 展示関連講演 「デジタルパブリックアートを創出する技術」プロジェクト 東京大学

【第12～14 イベント会場 (工学部新2号館 4F 242・243・244号講義室)】			
日	時間	内	容
11日 (木)	10:00-12:00 14:30-17:00	情報システム教育コンテスト -ISECON2009 インタラクション審査 ISECON2009 大会委員長：都倉 信樹 (大阪電気通信大学 学長)	

【第13 イベント会場 (工学部新2号館 4F 243号講義室)】			
日	時間	内	容
9日 (火)	15:30-17:30	今ドキッのIT @御殿下記念館 2010 展示関連講演 生活の中のセンサ 慶應義塾大学他	
10日 (水)	9:30-12:00	今ドキッのIT @御殿下記念館 2010 展示関連講演 生活の中のセンサ 慶應義塾大学他	

【第14 イベント会場 (工学部新2号館 4F 244号講義室)】			
日	時間	内	容
9日 (火)	15:30-17:30	今ドキッのIT @御殿下記念館 2010 展示関連講演 “2020年代のテレビ”を考えるー超臨場感映像技術の展開ー KDDI 研究所	

【第15 イベント会場 (工学部新2号館 2F 223号講義室)】			
日	時間	内	容
9日 (火)	10:00-11:00 11:00-12:00 15:30-16:30	大会スポンサーセッション 株式会社 KDDI 研究所 KDDI 研究所におけるユーザインタフェース技術 加藤 晴久 ((株) KDDI 研究所 ユーザインタフェースグループ 研究主査) インテレクトチュアル・ベンチャーズ合同会社 情報通信分野におけるオープン・イノベーションと、知的財産の流動化 ジェームス・ケリー (インテレクトチュアル・ベンチャーズ・ジャパン 代表) 富士通株式会社 情報漏えい防止セキュリティ技術開発への取り組み 竹林 知善 ((株) 富士通研究所 ソフトウェア&ソリューション研究所 主席研究員)	
10日 (水)	10:00-11:00 11:00-12:00 15:30-16:30	大会スポンサーセッション グーグル株式会社 Google 日本語入力を支える情報処理技術 工藤 拓 (グーグル (株) 東京 R&D センター ソフトウェアエンジニア) 日本電気株式会社 クラウドコンピューティング基盤への OpenFlow 技術適用 西原 基夫 (NECシステムIPコア研究所 ITNWシステムTG 研究部長) 株式会社日立製作所 環境配慮型データセンタに向けた省電力化技術 伊藤 雅樹 ((株) 日立製作所 情報・通信グループ 経営戦略室 事業戦略本部 融合事業統括部 担当部長)	
11日 (木)	10:00-11:00 11:00-12:00	大会スポンサーセッション 株式会社東芝 組込みソフトウェアの信頼性向上を考える 平山 雅之 ((株) 東芝 ソフトウェア技術センター 参事) マイクロソフト株式会社 マイクロソフト最新技術動向 渡辺 弘之 (マイクロソフト (株) デベロッパー&プラットフォーム統括本部 アカデミックエバンジェリスト)	

【第16 イベント会場 (工学部新2号館 1F 212号講義室)】			
日	時間	内	容
9日 (火)	11:00-12:00 15:30-17:30	今ドキッのIT @御殿下記念館 2010 展示関連講演 t-Room 日本電信電話 (株) 今ドキッのIT @御殿下記念館 2010 展示関連講演 ネットワークセキュリティ 日本電信電話 (株)	

【第16 イベント会場 (工学部新2号館 1F 212号講義室)】			
日	時間	内	容
10 日	ソフトウェアジャパン2010 ITフォーラムセッション		
	サービスサイエンスフォーラム × (社) 日本情報システム・ユーザ協会 (JUAS) 「サービスサイエンスがITサービスの顧客満足度を向上する」		
	司会：門倉 純一 (一般社団法人 CRM協議会 理事)		
	10:00-10:30	講演 (1) 「ITの未来を拓くサービスサイエンス」 諏訪 良武 (ワクコンサルティング株式会社 常務執行役員)	
	10:30-11:00	講演 (2) 「サービスサイエンスによるITサービスの品質分解と顧客満足度調査シート」 小林 敏晴 (KDDI (株) 情報システム本部業務企画部 部長 / JUAS サービスサイエンス研究プロジェクト)	
11:00-12:00	パネル討論 「サービスサイエンスがITサービスの顧客満足度を向上する」 司 会：門倉 純一 (一般社団法人 CRM協議会 理事) パネリスト：小林 敏晴 (KDDI (株) 情報システム本部業務企画部 部長 / JUAS サービスサイエンス研究プロジェクト) 柴崎 辰彦 (富士通 (株) SBM 変革推進室 プロジェクト部長 コンサルティング (BS)) 諏訪 良武 (ワクコンサルティング (株) 常務執行役員) 妹尾 大 (東京工業大学 大学院社会理工学工学研究科経営工学専攻准教授)		
(水)	ソフトウェアジャパン2010 ITフォーラムセッション		
	プロジェクトマネジメント学会 (PM学会) 「サステナブルな組織のためのプロジェクトマネジメントーITプロジェクトへの高度化するニーズに応えるためにー」		
	司会：関 哲朗 (文科大学情報学部准教授 / PM学会副会長 / ISO PC236 国内対応委員会委員長)		
	15:30-15:50	講演 (1) 「イントロダクション：PM標準化とPM学会の取り組み」 関 哲朗 (文科大学情報学部准教授 / PM学会副会長 / ISO PC236 国内対応委員会委員長)	
	15:50-16:30	講演 (2) 「高度化するITプロジェクトへのニーズとモダンPMによる解答」 富永 章 (PMラボラトリー 代表 / PM学会常任顧問)	
16:30-17:00	講演 (3) 「失敗から学ぶ：富士通のプロジェクト第三者監査制度」 島田 さつき (富士通 (株) 品質保証部 品質保証推進統括部 担当部長 (兼) 富士通クオリティ・ラボ (株) 監査事業部 ディレクター / PM学会理事 国際委員会委員長)		
17:00-17:30	ディスカッション：(質疑応答と講演者による補遺) 司 会： 関 哲朗 (文科大学情報学部准教授 / PM学会副会長 / ISO PC236 国内対応委員会委員長) ディスカッサント：富永 章 (PMラボラトリー 代表 / PM学会常任顧問) 島田 さつき (富士通 (株) 品質保証部 品質保証推進統括部担当部長 (兼) 富士通クオリティ・ラボ (株) 監査事業部 ディレクター / PM学会理事 国際委員会委員長)		
11 日	ソフトウェアジャパン2010 ITフォーラムセッション		
	ユーザスタディフォーラム 「ビジネス・エスノグラフィの普及 ～イノベーション人材の育成に向けて～」		
	司会：久保岡 綾 (コニカミノルタテクノロジーセンター (株) イメージング文化研究室 研究員)		
	10:00-10:45	講演 (1) 「東大 i.school の設立と試み」 田村 大 (東京大学 i.school ディレクター / (株) 博報堂 イノベーション・ラボ 上席研究員)	
	10:45-11:30	講演 (2) 「フィールド・イノベータ実践知共有の取組み」 塩田 武志 (富士通 (株) フィールド・イノベーション本部 FI技術センター 課長) 矢島 彩子 (富士通 (株) フィールド・イノベーション本部 FI技術センター 研究員)	
11:30-12:00	パネル討論：「ビジネス・エスノグラフィの普及に向けて」 司 会：久保岡 綾 (コニカミノルタテクノロジーセンター (株) イメージング文化研究室 研究員) パネリスト：田村 大 (東京大学 i.school ディレクター / (株) 博報堂 イノベーション・ラボ 上席研究員) 矢島 彩子 (富士通 (株) フィールド・イノベーション本部 FI技術センター 研究員)		
(木)	ソフトウェアジャパン2010 ITフォーラムセッション		
	高度IT人材育成フォーラム 「高度IT資格制度に関する取り組みの現状：日本と世界」		
	司会：掛下 哲郎 (佐賀大学 理工学部 知能情報システム学科 准教授)		
	14:30-15:30	講演 (1) 「社内プロフェッショナル認定に関するIPAの取り組み」 田中 久也 ((独) 情報処理推進機構 IT人材育成本部 本部長)	
15:30-16:30	講演 (2) 「高度IT資格制度に関する世界の取り組み」 芝田 晃 (三菱電機 (株) インフォメーションシステム事業推進本部 技術企画部 主管技師長)		

【第17 イベント会場 (工学部新2号館 1F 211号講義室)】			
日	時間	内	容
9 日 (火)	今ドキッのIT@御殿下記念館2010 展示関連講演		
	15:30-17:30	情報通信研究機構 高度通信・放送研究開発委託研究 情報通信・エネルギー統合技術の研究開発 京都大学他	

【第17 イベント会場 (工学部新2号館 1F 211号講義室)】			
日	時間	内	容
10 日 (水)	情報分野における教育の国際化ーグローバル30を中心にー		
	司会：木戸 冬子 (東京大学 情報理工学系研究科 特任教授)		
	10:00-10:20	講演 (1)：情報科学技術分野の国際化	萩谷 昌己 (東京大学 情報理工学系研究科 副研究科長)
	10:20-10:35	講演 (2)：情報理工学英語コースの紹介	フランソワ・ルガル (東京大学 情報理工学系研究科 特任講師)
	10:35-10:55	講演 (3)：京都大学情報学研究科国際コース	田中 克己 (京都大学大学院 情報学研究科 教授 / 情報教育推進センター長)
	10:55-11:15	講演 (4)：事例：研究室の多言語化	石田 亨 (京都大学 情報学研究科 教授)
	11:15-11:30	講演 (5)：International Courses at Universities in Japan	Adam Jatowt (Kyoto University Graduate School of Informatics Associate Professor)
	11:30-12:00	パネル討論	司 会：萩谷 昌己 (東京大学 情報理工学系研究科 副研究科長) パネリスト：フランソワ・ルガル (東京大学 情報理工学系研究科 特任講師) 田中 克己 (京都大学大学院 情報学研究科 教授 / 情報教育推進センター長) 石田 亨 (京都大学 情報学研究科 教授) Adam Jatowt (Kyoto University Graduate School of Informatics Associate Professor)
	ソフトウェアジャパン2010 ITフォーラムセッション		
	XML コンソーシアム 気象庁防災情報 XML を使った実証実験～災害から住民一人ひとりの命を守るために～		
司会：田原 春美 (XML コンソーシアム 副会長)			
15:30-16:00	講演 (1) 「気象庁防災情報 XML フォーマットについて」	山本 太基 (気象庁 総務部企画課 防災調整係長)	
16:00-17:30	講演 (2) 「気象庁防災情報を XML 用いた実証実験のご報告」	牧野 友紀 (XML コンソーシアム ビジネス・イノベーション研究会リーダー) 日力 俊彦 (XML コンソーシアム SOA 部会リーダー) 芦田 尚人 (XML コンソーシアム 関西部会リーダー) 松山 憲和 (XML コンソーシアム Web サービス実証部会リーダー)	
11 日 (木)	ソフトウェアジャパン2010 ITフォーラムセッション		
	(独) 情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター (IPA/SEC) 「ソフトウェア開発のパラダイム・チェンジ in マインドー IPA/SEC における新しい取組みー」		
	司会：山下 博之 ((独) 情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター エンタプライズ系プロジェクトプロジェクトリーダー)		
	10:10-10:45	講演 (1) 「ソフトウェア品質向上のための定量的コントロール手法ー重要インフラ情報システムを対象とした取組みー」	野中 誠 (東洋大学 経営学部 経営学科 准教授 IPA/SEC 重要インフラ情報システム信頼性研究会委員)
	10:45-11:20	講演 (2) 「形式手法の誤解を解く」	山本 修一郎 (名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授 IPA/SEC 形式手法導入プロセス・実証評価 WG 主査)
	11:20-11:55	講演 (3) 「非ウォーターフォール型開発における課題」	松本 吉弘 (京都高度技術研究所 顧問 IPA/SEC 非ウォーターフォール型開発研究会座長)
ソフトウェアジャパン2010 ITフォーラムセッション			
(社) 情報サービス産業協会 (JISA) 「要求工学への実践的な取組みと要求工学知識体系 REBOK」			
司会：鈴木 律郎 ((社) 情報サービス産業協会 企画調査部 課長)			
14:30-15:30	講演 (1) 「要求工学知識体系 REBOK」	青山 幹雄 (南山大学 情報理工学部 ソフトウェア工学科 教授)	
15:30-16:30	講演 (2) 「情報システムユーザーにおける要求品質向上施策」	菊島 靖弘 (東京海上日動システムズ (株) 技術顧問)	

【今ドキッのIT@ 御殿下記念館 2010】メイン：(御殿下記念館 ジムナジウム) 9日 (火), 10日 (水)
【今ドキッのIT@ 御殿下記念館 2010】第1 サテライト：(工学部 11号館 1F T lounge) 9日 (火) ~ 11日 (木)
【今ドキッのIT@ 御殿下記念館 2010】第2 サテライト：(工学部新2号館, 4F 242号講義室) 9日 (火), 10日 (水)

【一般セッション：A~K会場 (10会場)】理学部1号館 中央棟, 理学部1号館 西棟, 工学部1号館,
工学部新2号館, 工学部5号館
【学生セッション：L~ZP会場 (28会場)】工学部2号館, 工学部新2号館, 工学部3号館, 工学部5号館,
工学部6号館, 工学部7号館, 工学部8号館, 工学部14号館
9日 (火) [9:30~12:00, 15:30~17:30], 10日 (水) [9:30~12:00, 15:30~17:30], 11日 (木) [9:30~12:00, 14:30~17:00]

【デモセッション：デモ会場 (1会場) / 大会スポンサー・各種出展会場】工学部新2号館 2F フォーラム
9日 (火) [9:30~17:00], 10日 (水) [9:30~17:00], 11日 (木) [9:30~16:00]

【懇親会会場】本郷キャンパス内 山上会館 B1F 食堂
10日 (水) [18:00~20:00]

情報処理学会創立 50 周年記念 (第 72 回) 全国大会イベント企画 招待講演・シンポジウム・スポンサーセッションの概要

招待講演 1 情報に対する権利

3 月 9 日 (火) 13:50-14:50 [第 1 イベント会場 (安田講堂)]

濱田 純一 (東京大学 総長)

[講演概要]

情報は我々のまわりに普通に存在しており、権利の対象として意識されることは少なかった。しかし、情報の存在や価値に対する意識の高まりとともに、情報を権利の対象として捉える発想も強まってくる。情報にかかわる権利としては、これまで、表現の自由、知る権利、プライバシー権、知的財産権などが存在してきた。しかし、メディア状況の変化や情報通信環境の大きな変化の中で、こうした個別の権利には解消できない課題も生まれており、情報にかかわる諸権利を改めて総合的にとりまとめる観念として「情報に対する権利」という概念が有用と思われる。この権利の対象、この権利の構造や法的性質などについて考えてみる。



[略歴]

1950 年生まれ。1972 年東京大学法学部卒業。法学博士。東京大学社会情報研究所所長、同大学院情報学環長・学際情報学府長、同大理事 (副学長) を経て、2009 年 4 月より現職。

専門は情報法、情報政策。

主著書は、『メディアの法理』(日本評論社 1990)、『情報法』(有斐閣 1993)、『放送制度論のパラダイム』(共著・東京大学出版会 1994)、『情報学事典』(共編著・弘文堂 2002) など。

招待講演 2 The Challenge of the Multicores

3 月 10 日 (水) 13:00 - 14:00 [第 1 イベント会場 (安田講堂)]

Fran Allen (IBM 名誉フェロー チューリング賞受賞者)

[講演概要]

Computers have traditionally used complex "cores" to manage and execute computations and, over the years, these computers have achieved ever increasing levels of performance. However fundamental limitations of size, heat and energy have emerged. To overcome these limitations complex cores are being displaced by multicores that are not only simpler and more numerous but can be used more flexibly. So what is the challenge?

Multicore computers are ushering in a new era of parallelism everywhere. As more cores are available, the potential performance of the system can increase at the traditional rate by the use of the inherent parallelism. Or can it? How will users and applications take advantage of all the parallelism? This talk will review some of the history of languages and compilers for high performance systems and consider opportunities for performance on multicore systems. The talk is intended to encourage the exploration of new approaches including how users will continue to code sequential for parallel systems.



[略歴]

Allen's work focuses on compilers and languages that together enable both application performance and user productivity on high performance computers. The resulting advances have led to numerous awards for Allen including ACM's Turing Award "For pioneering contributions to the theory and practice of optimizing compiler techniques that laid the foundation for modern optimizing compilers and automatic parallel execution." She is a member of the American Philosophical Society, the National Academy of Engineering, a Fellow of the American Academy of Arts and Sciences, ACM, IEEE and the Computer History Museum and is the recipient of six honorary doctorates.

招待講演 3 Realizing the Future 3月10日(水) 14:15 - 15:15 [第1 イベント会場 (安田講堂)]

Jim Isaak (IEEE-Computer Society 会長)

[講演概要]

As computing professionals, with the widespread application of our work, we have significant impact in our industries, and globally. Social capital is a term used to describe the value of relationships developed over time through collaboration. Involvement with professional activities such as IPSJ, IEEE, international standards, and conferences are paths to developing social capital. This results in innovation, leadership, career opportunities and potential benefits for all of humanity. The exchange of ideas, spanning beyond the workplace, and ideally beyond your industry and culture, is a catalyst for innovation as well as identification and solution of problems. Volunteer roles beyond your workplace provide opportunities to develop teamwork and influence skills. Also, the network of contacts you develop becomes the source of mentors, advisors and colleagues contributing to your career throughout your life. Over time, this network provides the basis for building the future. You may collaborate to start a conference, start a company, start a new field of technology or, you may join with others to create a product addressing critical human needs, or to provide disadvantaged communities with education or the tools for improved quality of life; or help to bring the next generation of students into our professions. The efforts of our colleagues have brought about the World Wide Web, ubiquitous mobile ICT devices as well as equipment to diagnose and treat disease and disabilities. The world's children can grow into a healthier and better connected world as a result of our work. Extended lifespan, immersive virtual reality, increasing computational intelligence, ubiquitous sensor arrays, and less obvious results will also emerge from our work - and with significant global impact. Our challenge is to use our expertise and social capital to facilitate this transformation for everyone's benefit.



[略歴]

Jim Isaak has worked in industry, with companies such as Digital, Data General, Intel and IBM doing operating system development, product management and strategic planning. Jim chaired the IEEE and ISO POSIX standards committees, as well as participating in JTC1/SC22, IEEE Standards Association and ANSI standards committees. Jim spent a few years teaching Information Technology at Southern New Hampshire University, with a research focus on Social Capital development in technology standards activities. Jim holds one patent for Internet content validation, and is a recipient of the Hans Karlsson award, IEEE Millennium Medal, as well as awards for Meritorious Service and Outstanding Contributions. Jim is President of the IEEE Computer Society, and has previously served on the IEEE Board of Directors, Society for the Social Implications of Technology, Computer Society and Standards Association Boards of Governors. Jim holds an MSEE-Computer Engineering and BS-Computer Studies degrees from Stanford University. More information about Jim and the topics raised in this presentation can be found at www.JimIsaak.com.

招待講演 4 「課題先進国」から「課題解決先進国」へ 3月11日(木) 13:00-14:15 [第1 イベント会場 (安田講堂)]

小宮山 宏 (株式会社三菱総合研究所 理事長)

[講演概要]

「有限の地球、高齢化する社会、爆発する知識」が21世紀の重要なパラダイムである。これらの問題に対して日本に何ができるか考えてみたい。日本のエネルギー消費は、家庭、オフィス、輸送の「日々の暮らし」が55%、素材、自動車、家電などの「ものづくり」が45%を占める。日々の暮らしには削減余地が大きい。これからは、ものづくりではなく、日々の暮らしでCO2を削減することが重要である。また、日本は、温暖化のみならず多くの課題を抱えている。これらを同時に解決するためのまちづくり運動を提案したい。日本の国土は南北に長く、気候、生活、文化は多様である。そこで、全国の自治体と協働でまちづくりの実験を行うのが「プラチナシティ・ネットワーク構想」である。プラチナとは次世代のキーワード、高齢者、生態系、低炭素の3つの輝きを表している。エコでバリアフリーで快適なまちづくりが、日本の課題を解決し、温暖化の解決や新産業の創出を通じて世界を先導し、日本を真の先進国とするのだ。



[略歴]

1944年栃木県生まれ。1967年東京大学工学部化学工学科卒業。1972年同大学大学院工学系研究科博士課程修了。1988年東京大学工学部教授、2000年工学部長、大学院工学系研究科長、2003年副学長などを経て、2005年4月第28代総長に就任。2009年3月に総長退任後、同年4月に三菱総合研究所理事長、東京大学総長顧問に就任。専門は化学システム工学、地球環境工学、知識の構造化。地球温暖化問題の第一人者でもある。著書に「地球持続の技術(岩波新書)」、「知識の構造化(オープンナレッジ)」、「課題先進国」日本(中央公論新社)など多数。

平成 21 年度情報大航海プロジェクトシンポジウム

3 月 8 日 (月) 10:00-17:30 [第 1 イベント会場 (安田講堂)]

[全体概要]

Web, 非 Web を問わず爆発する多種多様な情報。この情報爆発時代に、情報を有効活用し、新たなビジネスやイノベーションを創出するために何をすべきか? 先進的な次世代検索・解析技術の開発・実証、そして制度・環境の整備を行う情報大航海プロジェクトの 3 年間の活動を通じて生み出された成果を、生活がどのように変化していくのかといった視点を踏まえながら、ご紹介致します。当日は、欧州の検索エンジンプロジェクト Quaero による招待講演や実証事業等のデモ展示も予定しています。

10:00-11:30 説明会「平成 21 年著作権法改正のポイント」 壇 俊光 (北尻総合法律事務所 弁護士)

[講演概要]

平成 21 年著作権法改正では、情報検索サービスをはじめインターネット等を活用した著作物利用の円滑化を図るための措置が行われており、新たなサービス創出が期待されます。情報大航海プロジェクトでは、平成 21 年著作権法改正におけるインターネット関連の改正について、著作権法に馴染みのない方でも分かり易いガイドラインを作成しました。本説明会で、当ガイドラインをもとにポイントを解説します。



[略歴]

2000 年 弁護士登録。2006 年 日本弁護士連合会消費者問題対策委員会委員。2007 年 同コンピュータ委員会委員。2007 年 情報セキュリティアドミニストレータ。2008 年 ISMS 審査員補。2009 年 同消費者問題対策委員会副委員長。2009 年 応用情報技術者。2009 年 プライバシーマーク審査員補

12:30-12:35 挨拶 経済産業省

12:35-13:25 招待講演 「First industrial and technical results from Quaero. ～欧州検索エンジンプロジェクト Quaero の成果と今後の方向性～」 Pieter van der Linden (Thomson Program Manager)

[講演概要]

The Quaero 5 year Research and Industrial Innovation program has started to produce first technical results. During this presentation, following a general introduction on Quaero aims and vision, several examples of possible future services and applications will be demonstrated. The presentation will then conclude by a quick overview on directions for future research and applications.



[略歴]

Pieter van der Linden graduated from Ecole Polytechnique in 1980 and then from Ecole Nationale Supérieure de Télécommunications de Paris in 1982.

He started his career as a researcher in man machine interfaces at Centre Mondial pour l'Informatique et les Ressources Humaines. In 1984, he joined INRIA to pursue research on computer graphics and operating systems.

In 1988, Pieter left INRIA to participate as co-founder to several technology startups where he did hold both technical and general management positions. Between 2001 and 2005, he worked as an independent consultant assisting technology companies and financial services organizations in designing and deploying new services and products. Pieter joined Thomson in September 2005 as Coordinator of the Quaero Program.

13:25-14:35 講演 (1)「情報大航海プロジェクトの取組と成果」 喜連川 優 (東京大学 生産技術研究所 教授), 開発実証企業 ((株) NTT ドコモ, 沖電気工業 (株), (株) キューデンインフォコム, (株) 日本航空インターナショナル)

[講演概要]

先端事業による実証をトリガーに、技術開発、制度・環境の整備を行うことで新市場の創出を目指す情報大航海プロジェクト。本講演では、“ユーザの趣味・趣向を反映し、レコメンドーションを行う空気の読めるケータイサービス”や、“ユーザ行動等のセンシングにより適正なタイミングで適正な情報を提供する健康管理サービス (情報提供サービス)”など、実証事業による登壇を交えながら、情報大航海プロジェクトの全体成果を紹介します。



[略歴]

1978 年 東京大学工学部電子工学科卒業

1983 年 東京大学工学系研究科情報工学専攻博士課程修了 工学博士

1983 年 東京大学生産技術研究所入所

2003 年 生産技術研究所 戦略情報融合国際研究センター センター長

2008 年 文部科学省 科学官

2009 年 6 月 ACM SIGMOD Edgar F. Codd Innovations Award for contributions to high-performance database technology 受賞

14:50-15:40 講演 (2)「情報大航海プロジェクトにおける共通技術開発の取組と成果」 長谷山 美紀 (北海道大学 情報科学研究科 メディアネットワーク専攻 教授) 他 (共通技術開発企業, 等)

[講演概要]

情報大航海プロジェクトでは、技術を活用して新たな市場やサービスを立ち上げるため、汎用性・共通性の高い次世代検索・解析技術の開発を行っており、3 ヶ年を通して 50 を超える技術を開発し 100 件以上の活用事例を創出しました。本講演では、新たな検索ビジネスを可能にする先進的なインターフェース技術やパーソナル情報の安全な流通を実現する技術、及び国際標準化活動などの成果について発表します。



[略歴]

1988 年北海道大学大学院工学研究科修士課程修了。1989 年北海道大学応用電気研究所助手。北海道大学工学部助教授を経て、2006 年より北海道大学大学院情報科学研究科教授。2007 年 6 月より経済産業省「情報大航海プロジェクト」技術アドバイザー、同年 8 月より総務省情報通信審議会専門委員を務める。画像・映像および音響信号などマルチメディア信号処理の研究に従事。情報処理学会、電子情報通信学会、映像情報メディア学会、IEEE 各会員。博士 (工学)。

15:40-16:40 講演 (3) 「情報大航海プロジェクトの制度面での取組と成果」

堀部 政男 (一橋大学 名誉教授), 牧野 二郎 (牧野総合法律事務所 弁護士), 壇 俊光 (北尻総合法律事務所 弁護士), 小向 太郎 ((株) 情報通信総合研究所 法制度研究グループ部長 主席研究員), 坂下 哲也 ((財) 日本情報処理開発協会 データベース振興センター 副センター長) 他

【講演概要】

情報大航海プロジェクトでは、次世代検索・解析技術を活用した新規サービスの創出を促進するため、サービスを展開する上での制度的な課題とその解決の方向性について検討を行ってきました。本講演では、移動情報や購買情報等のパーソナル情報を活用したサービスに求められる制度設計、コンテンツの価値を最大化するための今後の著作権制度の在り方について、プロジェクトにおける取組・成果について紹介します。



堀部 政男

【略歴】

1978年 一橋大学法学部教授。1986年 経済企画庁国民生活局データ・プライバシー保護研究委員会主査。1994年 一橋大学法学部長・法学研究科長。1996年 OECD (経済協力開発機構) 情報セキュリティ・プライバシー作業部会前副議長。1997年 中央大学法学部教授。1997年 神奈川県公文書公開審査会会長。1998年 神奈川県個人情報保護審議会副会長。1999年 高度情報通信社会推進本部個人情報保護検討部会座長。1999年 東京都情報公開・個人情報保護審議会会長。2007年 経済産業省パーソナル情報研究会座長



牧野 二郎

【略歴】

2002年 財団法人インターネット協会評議員。2003年 電子署名電子認証シンポジウムタスクフォース代表。2004年 龍谷大学客員教授。2004年 産業構造審議会臨時委員。2004年 文書の電磁的保存等に関する検討委員会 (経済産業省) 委員。2006年 内閣官房情報セキュリティセンター 企業・個人評価指標専門委員会委員。2007年 NHK コンプライアンス委員会委員。2009年 独立行政法人科学技術振興機構 社会技術研究開発センター評価委員会 「情報と社会」分科会 委員。

壇 俊光 (北尻総合法律事務所 弁護士)

略歴・写真は「説明会『平成21年著作権法改正のポイント』」を参照。



小向 太郎

【略歴】

早稲田大学政経学部卒、中央大学博士 (法学)。専門は情報法、情報通信関連法。主な著書に『情報法入門 デジタル・ネットワークの法律』(NTT 出版, 2008年), 『デジタル・フォレンジック事典』(共著, 日科技連出版社, 2006年), 『ユビキタスで作る情報社会基盤』(共著, 東京大学出版会, 2006年), 『インターネット社会と法 (第2版)』(共著, 新世社, 2006年) などがある。東京大学大学院情報学環特任研究員, 日本大学法学部・東洋大学法学部非常勤講師。



坂下 哲也

【略歴】

1986年より米国にて、ネットワーク OS、データベースエンジン、OSに係るシステム化計画の立案、要求定義の作成、基本設計など上流工程の業務に従事。2002年度より財団法人データベース振興センターにて、経済産業省「次世代地理情報システム推進事業」において「gコンテンツ流通基盤整備」に係る実施責任者として従事。

2005年 GIS 推進部部長に就任。2007年度より現職。

16:40-17:10 講演 (4) 「成長戦略とポスト情報大航海 (仮題)」

来るべきクラウドコンピューティングの世界 3月9日(火) 9:15-12:15 [第1イベント会場(安田講堂)]

[全体概要]

ICTの在り方に大転換をもたらし、新たなパラダイムとして注目を集めているクラウドコンピューティング(クラウド)。クラウド界から選り抜きのオーソリティが集い、その先進的な研究や精力的な標準化活動の先に彼らが見た、来るべきクラウドの世界をここに解き明かす。



司会: 後藤 厚宏 (日本電信電話株式会社 情報流通プラットフォーム研究所 所長)

[略歴]

1984年東京大学大学院情報工学博士課程修了。工学博士。同年日本電信電話公社(現NTT)入社。2007年より現職。分散処理技術、インターネット関連技術の研究開発と事業化に従事。米国研究所設立。第五世代コンピュータプロジェクトにて並列推論マシンの研究開発に従事。情報学会誌編集委員、SAINT組織委員、JSPF実行委員、SACSIS組織委員長。

9:15-10:00

講演(1) [Virtualization Renaissance]

Mendel Rosenblum (Computer Science Department Stanford University Associate Professor)

[講演概要]

<<VMware創業者がいま語る仮想化技術>>

Computer system virtualization went from active and vibrant research which had significant impact on the computing industry in the 1970s, to near extinction in the late 1980s and early 1990s. In the late 1990s there was a resurgence of interest in this technology, both in the research community and in the commercial marketplace. In this talk I will describe this resurrection that took virtualization from a research project at Stanford University to a startup company and to an industry changing technology that is a key driver of cloud computing.



[略歴]

Mendel Rosenblum is an Associate Professor in the Computer Science and Electrical Engineering Departments at Stanford University.

Professor Rosenblum research interests include system software, distributed systems, and computer architecture.

He has published research in the area of disk storage management, computer simulation techniques, scalable operating system structure, virtualization computer security, and mobility.

He is also a co-founder VMware Inc. As the Chief Scientist of VMware for the company's first 10 years he helped design and build virtualization technology for commodity computing platforms.

He was a co-winner of the 1992 ACM Doctoral Dissertation Award and the 2002 ACM/SIGOPS Mark Weiser Award for creativity and innovation in operating systems research.

He is a member of the National Academy of Engineering and an ACM Fellow.

He received a BA in Math from the University of Virginia (1984) and a MS (1989) and PhD (1992) in Computer Science from the University of California at Berkeley.

10:00-10:45

講演(2) [Cloud Computing in Government: Standards, Security, and Early Experience]

Charlie Catlett (U.S. Department of Energy's Argonne National Laboratory Chief Information Officer)

[講演概要]

<<クラウド標準化の仕掛け人が見極める 米政府クラウド>>

There is growing momentum in many sectors of the United States Government toward adoption of cloud services as a strategy to improve the return on investment and flexibility of information technology budgets. This has involved a variety of proof-of-concept projects as well as formal efforts to characterize and validate requirements in areas such as privacy and security, reliability, portability and standards, and suitability to various classes of user community from science to administrative. Catlett will discuss the current state of the Open Grid Forum's Open Cloud Computing Interface (OCCI) as well as providing a survey of cloud computing pilot projects and deployments in various parts of the US Government.



[略歴]

Computer Engineering, B. S., University of Illinois at Urbana-Champaign, 1983. Chief Technology Officer at the National Center for Supercomputing Applications (NCSA) at the University of Illinois, 1996-1999. Founder and the chairman of Global Grid Forum (GGF, now Open Grid Forum, OGF), 1999 (-2004).

10:45-11:15

講演(3) [クラウドでさらに近づくコンピュータとネットワーク]

宮原 秀夫 (情報通信研究機構 理事長)

[講演概要]

<<ICTの重鎮が描く クラウドを支えるネットワークとは>>

クラウドの出現によりこれまで以上にネットワークが重要になってくる。ここでは、NICTでの新世代ネットワーク研究を中心にクラウド時代のネットワーク研究について議論する。



[略歴]

1943年大阪府生まれ。73年大阪大学大学院工学研究科通信工学専攻博士課程修了。IBM トーマス・ワトソン研究所客員研究員、大阪大学大学院基礎工学研究科長、同大学院情報科学研究科長、大阪大学15代総長等を歴任。07年より情報通信研究機構理事長に就任。

11:15-12:15 講演 (4) 「Hadoop at Yahoo, Today and Tomorrow」
Owen O'Malley (Yahoo! Hadoop Architect at Yahoo!)

[講演概要]

<<Hadoop エキスパートが抱く 野心的な取り組み>>

Hadoop at Yahoo Apache Hadoop is an open source framework for running applications that process large data sets (100's of TB) on large clusters of commodity hardware (1000's of machines). The Hadoop framework includes a distributed file system and transparently provides applications both reliability and data motion, making it easy to write map/reduce applications that process hundreds of terabytes of data efficiently, even when machines (or entire racks!) fail in the middle of a job.

Yahoo was one of the first adopters of Hadoop and has been the largest contributor to the project. Yahoo uses Hadoop on more than 25, 000 machines that are used for both production applications and researching improvements to our heuristics and products. The largest known production Hadoop application is Yahoo Search's WebMap that generates and analyzes a graph of the known web with over 1 trillion links. The grid team also runs Hadoop as a service to Yahoo's researchers for datamining and machine learning applications and has seen great results by combining petabytes of data (with 10 terabytes added each day) and massive amounts of compute power. Furthermore, it reduces development time of distributed applications from weeks into days and enables rapid evolution of applications analyzing very large datasets.

Dr O'Malley will present an overview of Hadoop and how it is used by Yahoo and many other companies around the world. He will discuss the coming challenges as Hadoop moves from the early adopters into mainstream adopters including adding security and backward compatibility. He will also discuss the growing ecosystem of tools that use Hadoop and build upon it to enable users to become even more productive.



[略歴]

Owen O'Malley is a software architect in Yahoo's Hadoop development team, which is part of Yahoo's Cloud Computing & Data Infrastructure group. He has been contributing to Hadoop since before it was separated from Nutch, and is the Apache Software Foundation's Vice President of Hadoop. Before working on Hadoop, he worked on Yahoo Search's WebMap project, which builds a graph of the known web and applies many heuristics to the entire graph that control search. Prior to Yahoo, he wandered between testing (UCI), static analysis (Reasoning), configuration management (Sun), and software model checking (NASA). He received his PhD in Software Engineering from University of California, Irvine. <http://people.apache.org/~omalley>

情報処理学会 創立 50 周年記念 (第 72 回) 全国大会 大会挨拶・表彰式・認証式
3 月 9 日 (火) 13:00-13:50 [第 1 イベント会場 (安田講堂)]

挨拶

白鳥 則郎 (情報処理学会 会長)

喜連川 優 (情報処理学会 創立 50 周年記念 (第 72 回) 全国大会 組織委員会 委員長)

坂井 修一 (情報処理学会 創立 50 周年記念 (第 72 回) 全国大会 プログラム委員会 委員長)

表彰式・認証式

第 71 回全国大会 大会優秀賞・大会奨励賞 表彰式

平成 21 年度山下記念研究賞 表彰式

平成 21 年度情報処理学会フェロー認証式

平成 21 年度学会活動貢献賞 表彰式・感謝状 贈呈

平成 21 年度優秀教育賞・教材賞 表彰式



白鳥 則郎

東北大学 電気通信研究所 教授



喜連川 優

東京大学 生産技術研究所 教授



坂井 修一

東京大学 情報理工学系研究科 教授

言語と知識 —最新言語処理研究の射程—

3月9日(火) 15:30-18:00 [第1 イベント会場 (安田講堂)]

[全体概要]

知識の表現と伝達のための最も一般的な手段である言語が果たすべき役割は知識社会においてますます重要性を増している。そして、近年の言語処理技術は、そのような言語の機能を増幅することによって社会における知識循環を高度化することを射程に入れつつある。本セッションでは、そのような言語処理に関する研究プロジェクトに関するプロジェクトリーダーらによる講演を通じて、変貌著しい言語処理研究の最前線とそれによって予見される社会的インパクトについて紹介し、言語への工学的アプローチに関する理解を深めてもらうことを狙う。



司会：鳥澤 健太郎 (情報通信研究機構 MASTAR プロジェクト, 言語基盤グループ グループリーダー)

[略歴]

1992年東京大学理学部情報科学科卒。1995年東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻中退。同年同専攻助手。その後、科学技術振興事業団さきかけ研究21研究員(兼任)、北陸先端科学技術大学院大学助教授、同准教授を経て、2008年より情報通信研究機構MASTARプロジェクト言語基盤グループ グループリーダー、現在に至る。一貫して自然言語処理の研究に従事。

15:30 ~ 15:35 [本イベントについて]

鳥澤 健太郎 (情報通信研究機構 MASTAR プロジェクト, 言語基盤グループ グループリーダー)

[講演概要]

本イベントの趣旨説明

略歴・写真は「言語と知識 —最新言語処理研究の射程—」司会紹介を参照。

15:35 ~ 16:30 講演 (1) 「これからの言語処理とその応用」

長尾 真 (国立国会図書館 館長)

[講演概要]

今日インターネット上には会話文、論説文、小説文など種々のスタイルの文章がほう大に存在している。またテキストと他言語への翻訳文の対などもある。これらのテキストを何十億文と収集しデータベース化すれば、これは言語のあらゆる可能な表現の集りとみなすことができよう。言語の総体がこのように客観的な形で把握できれば、言語研究は自然科学的手法で行うことが出来ることになる。そういった立場からスーパーコンピュータの力を借りて言語処理が行われ、多くの優れた成果が出て来ている。これらは機械翻訳、情報検索、情報信頼性、電子図書館などの研究開発に大きく貢献するようになってきている。またこれら大量のテキストデータから知識を抽出し、これを組織化し言語処理過程に組み込むことによって、言語処理の精度が向上し、また種々の言語処理の応用分野のシステムの性能の向上につながるという好循環が実現している。これまでの半世紀の言語処理研究の努力がようやく実を結び、社会に具体的な形で貢献する時代に入って来た。



[略歴]

1936年生まれ 工学博士

専門は、自然言語処理、画像処理、パターン認識、電子図書館。

京都大学工学部電子工学科卒業、京都大学総長(第23代)、独立行政法人情報通信研究機構理事長を経て、2007年4月から国立国会図書館館長。

機械翻訳国際連盟会長(初代)、言語処理学会会長(初代)、電子情報通信学会会長、情報処理学会会長、日本図書館協会会長なども歴任。

16:30 ~ 17:15 講演 (2) 「総合学術オントロジー」

橋田 浩一 (産業技術総合研究所 社会知能技術研究ラボ長)

[講演概要]

ますます困難になりつつある社会的課題を解決するためには、従来を上回る規模での科学的知識の体系化とその社会的共有が必須と思われる。それには、研究領域のタコツボ化を防ぎ領域間の融合を進めつつ、科学研究と実社会とを融合する必要があるだろう。その意味での「科学的根拠に基づく社会 evidence-based society」の構築に資するため、情報処理学会の「次世代情報処理ハンドブック」および日本認知学会の「認知科学オントロジー」を中核として、多数の学会の共同作業により、学術的な概念をオントロジーに基づいて構造化・体系化して「総合学術オントロジー」を編纂し、これによって研究分野の間および研究コミュニティと一般社会との間の相互作用を活性化させる計画を進めている。



[略歴]

1981年東京大学理学部情報科学科卒業。1986年同大学院理学系研究科博士課程修了。理学博士。電子技術総合研究所、(財)新世代コンピュータ技術開発機構を経て産業技術総合研究所に勤務。日本認知学会会長、言語処理学会副会長。専門は自然言語処理、知識工学、認知科学。

17:15 ~ 18:00 講演 (3) 「MASTAR プロジェクト & ALAGIN フォーラム」

中村 哲 (情報通信研究機構 知識創成コミュニケーション研究センター 副研究センター長)

[講演概要]

大量のコーパスと統計モデル、機械学習による音声言語処理手法の到来は、研究開発フェーズから実際の場面での性能向上を産業界、社会とリンクした形で持続的に直接行える、新しい研究開発プロセスの到来と考えることが出来る。さらに、Webの仕組み、Web上の情報を利用することで、世の中にある固有名詞の取り込み、多言語辞書の構築やコーパス収集、単語の関係抽出などの解析を行うことも可能になる。当機構では、Web、ネットワークを利用し、持続的に研究開発を進めるMASTARプロジェクトを2008年4月から開始した。具体的には、ネットワーク型の音声翻訳、機械翻訳、音声対話システム、言語資源の研究開発を進めている。また、2009年3月には、当プロジェクトの成果だけでなく、産学官が成果を持ち寄り、成果を融合し、新たな展開を促進する高度言語情報融合(ALAGIN)フォーラムが設立された。これらの活動の現状と狙いについて紹介する。



[略歴]

1981年京都工芸繊維大学電子工学科卒。博士(工学)京都大学。シャープ研究所、ATR自動翻訳電話研究所、奈良先端大情報科学研究科助教授、ATR音声言語コミュニケーション研究所所長を経て、2006年より(独)情報通信研究機構MASTARプロジェクトリーダー、2009年8月より知識創成コミュニケーション研究センター副センター長、現在に至る。音声言語処理の研究に従事。ATRフェロー、ドイツ・カールスルーエ大学客員教授。

低炭素社会の実現に向けた産官学によるグリーン IT の取組

共催：電子情報技術産業協会

3月10日（水）9:30-12:00 [第1 イベント会場（安田講堂）]

[全体概要]

IT・エレクトロニクス技術は、高度な制御・管理による生産・流通・業務の効率化を通じて、あらゆる経済・社会活動の生産性向上、エネルギー効率の向上を可能とし、環境負荷の低減に大きく寄与することが期待されているが、一方では、本格的なIT化に伴い、社会で扱う情報量は2025年には約200倍（06年比）になると見込まれている。

この情報爆発によってIT機器の数が大幅に増加するため、IT機器自身の省エネも重要な課題となっている。

本講演では、このIT機器自身の省エネ及びITによる省エネへの取り組みについて、産官学の立場から解説する。



司会：長谷川 英一（社団法人電子情報技術産業協会 常務理事）

[略歴]

昭和55年3月 東京大学工学部卒業

職歴 昭和55年4月 通商産業省 入省 機械情報産業局 自動車課。昭和56年6月 機械情報産業局 産業機械課。昭和58年6月 機械情報産業局 電子機器課。昭和60年6月 科学技術庁 研究開発局 宇宙開発課。昭和62年6月 通商産業省 産業政策局 産業構造課。平成元年7月 日本貿易振興会 デュッセルドルフ・センター。平成4年6月 通商産業省 貿易局 総務課。平成5年6月 工業技術院 総務課。平成6年7月 工業技術院 国際研究協力企画官。平成7年6月 貿易局 貿易保険課情報システム室長。（併）企画室長。平成9年6月 日本貿易振興会 ニューヨーク・センター。平成13年1月 経済産業省 商務情報政策局 企画官（電子政府担当）兼 情報プロジェクト室長。平成14年7月 産業技術総合研究所 企画本部 総括企画主幹 兼次世代半導体研究センター副センター長。平成16年1月 経済産業政策局 地域技術課長。平成18年7月 東北経済産業局長。平成19年7月 経済産業省大臣官房付 辞職。平成19年7月 社団法人電子情報技術産業協会 常務理事

9:30-10:10 講演 (1) 「グリーン IT イニシアティブの推進について」

石黒 憲彦（経済産業省 商務情報政策局長）

[講演概要]

社会のあらゆる分野で使われているIT機器は、省エネに貢献する大きな可能性を秘めている。グリーンITは、「IT機器自身の省エネ（of IT）」と「ITによる社会の省エネ（by IT）」を両輪とする考え方にに基づき、「産官学の連携強化」、「政策の展開」、「国際連携・協調」を3つの柱として推進されている。世界においても地球温暖化対策への関心がますます高まる中、我が国が産官学をあげて取り組んでいるグリーンITについて、スマートグリッドを含め国内外の最新動向を紹介する。



[略歴]

昭和55年4月 通商産業省入省。平成6年5月 機械情報産業局情報産業企画官。平成8年6月 日本貿易振興会ニューYork・センター産業調査員。平成11年6月 産業政策局新規産業課長。平成13年1月 経済産業政策局産業構造課長。平成15年4月 経済産業政策局産業再生課長。平成16年6月 大臣官房総務課長。平成18年7月 大臣官房審議官（製造産業局担当）。平成19年7月 大臣官房政策評価審議官。平成20年7月 大臣官房審議官（経済産業政策局担当）。平成21年7月 商務情報政策局長

10:10-10:50 講演 (2) 「グリーン IT 推進協議会の活動と企業のグリーン IT への取り組みについて」

下村 節宏（三菱電機株式会社 代表執行役 執行役社長）

[講演概要]

地球温暖化問題は、世界全体で早急に取り組むべき最重要課題であり、経済・社会活動と地球環境の調和実現には、革新的な科学技術が必要と考えられている。こうした中、「ITの省エネ」及び「ITによる省エネ」で経済・社会活動と地球環境の調和の実現のために、昨年産官学のパートナーシップによるグリーンIT推進協議会が設立された。

本講演では、これまでの協議会の活動を紹介するとともに、三菱電機グループの環境経営における長期ビジョンである「環境ビジョン」や、最先端の技術を活用することによって拡大を目指す環境関連事業のうちグリーンIT関連事業について紹介し、三菱電機が目指す持続可能な社会のイメージを示す。



[略歴]

1969年3月 京都大学工学部卒業。1969年4月 三菱電機株式会社入社。1999年4月 姫路製作所長。2001年4月 自動車機器事業本部長。2001年6月 取締役 自動車機器事業本部長。2003年4月 常務取締役 自動車機器事業本部長。2003年5月 常務取締役 ビルシステム事業本部長。自動車機器事業本部長。2004年4月 代表執行役 執行役副社長 ビルシステム事業本部長。2006年4月 代表執行役 執行役社長に就任

10:50-11:20 講演 (3) 「ITの活用によるグリーン IT への取り組みについて」

海堀 周造（横河電機株式会社 代表取締役社長）

[講演概要]

日本におけるCO2排出量を分野別に見てみると、産業分野排出量は、1990年以来各産業界の省エネ及びCO2削減の努力により、増加が抑えられている。また、産業分野の中のIT部門の排出量は全体のわずか1.5%にしか過ぎない。一方、運輸部門、民生の業務部門、家庭部門のCO2排出量は、年々増加の傾向があり、ITを使ってこの領域のCO2排出量を削減することが、日本全体のCO2排出量を削減していくために重要となっている。本講演では、社会の様々なフィールドでエネルギー消費の削減に大きく貢献するITソリューションを紹介する。



[略歴]

慶應義塾大学 工学部 計測工学科 修士課程（1973年（昭和48年）3月卒）。1973年（昭和48年）4月（株）横河電機製作所（現・横河電機（株））入社。1995年（平成7年）10月 伝送器事業部長。1997年（平成9年）7月 営業統括本部営業技術本部長。1999年（平成11年）10月 サービス事業部長。2000年（平成12年）4月 Yokogawa Corporation of America 社長。2005年（平成17年）4月 執行役員 IA事業部長。2006年（平成18年）4月 常務執行役員 IA事業部長。2006年（平成18年）6月 取締役 常務執行役員 IA事業部長。2007年（平成19年）4月 代表取締役社長 就任

11:20-12:00 講演 (4) 「グーグルとスマートグリッド」
村上 憲郎 (グーグル株式会社 名誉会長)

【講演概要】

『世界の情報を整理して、世界中の人がアクセスできて、使えるようにする』というミッションを掲げて、次々と新しいサービスを、それも無料で提供するグーグル。ここ数年は、IT 産業全体を根本的に変革するかもしれないといわれる『クラウド・コンピューティング』という新しいコンピューティング・スタイルの提唱者・推進者としても、注目されている。さらに、オバマ政権の『グリーン・ニューディール』政策に寄り添う形で、『再生可能エネルギー』や『スマートグリッド』へのコミットメントを深めている。講演では、この3点の個々の内容と、それらの相互関連の必然性と整合性を、概説する。



【略歴】

2003年4月、Google Inc. 副社長兼 Google Japan 代表取締役社長として Google に入社以来、日本における Google の全業務の責任者を務めて来た。2009年1月1日付けで退任し、名誉会長に就任。

Google 入社以前には、2001年に Docent の日本法人である Docent Japan を設立し、同社の社長として e-ラーニング業界でリーダーシップを発揮した。

1997年から1999年の間は、Northern Telecom Japan の社長兼最高経営責任者を務め、Northern Telecom に買収された Bay Networks の子会社である Bay Networks Japan との合併を成功に導いた。後に Nortel Networks Japan と改名された同社において、2001年月中旬まで社長兼最高経営責任者を務めた。

日立電子株式会社のミニコンピュータシステムのエンジニアとしてキャリアをスタートした後、Digital Equipment Corporation (DEC) Japan のマーケティング担当取締役などを歴任し、マサチューセッツの DEC 本社にも5年勤務した。京都大学で工学士号を取得。

著作

- 1 「知識ベースシステム入門」インフォメーションサイエンス社 1986年刊
- 2 「村上式シンプル英語勉強法」ダイヤモンド社 2008年刊
- 3 「村上式シンプル仕事術」ダイヤモンド社 2009年刊

情報処理の「夢」(情報処理学会会長セッション)
3月10日(水) 15:30-17:30 [第1イベント会場 (安田講堂)]

【全体概要】

情報処理の未来について、さまざまな視点・角度から「夢」を語りあう



司会:坂井 修一 (東京大学 情報理工学系研究科 教授)

【略歴】

1981年東大卒。1986年東大大学院了、工博。電総研、MIT、RWC、筑波大学を経て、1998年東大助教授。2001年より現職。計算機システムおよびその応用の研究に従事。IBM科学賞、市村学術賞、IEEE Outstanding Paper Award、情報処理学会論文賞など受賞。情報処理学会(2006-2008理事)、電子情報通信学会、人工知能学会、ACM、IEEE 会員、日本学術会議連携会員、日本学術振興会専門研究員。



パネリスト:白鳥 則郎 (東北大学 電気通信研究所 教授)

【略歴】

1977年東北大学大学院博士課程修了。1984年東北大電気通信研究所助教授、1990年同大情報工学科教授、1993年同大電気通信研究所教授。情報処理学会会長(2009)、副会長(2004-05年度)、理事(1996-97年度)、研究会主査。フェロー(1999年度)、功績賞(2007年度)、25周年記念論文賞。本会主催国際会議 General Chair、IEEE フェロー。人と情報環境の共生の研究に従事。



パネリスト:青山 友紀 (慶応大学 デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構 教授)

【略歴】

1967年東大卒。1967年東大修士修了。NTTを経て1997年東大教授。2006年より現職。NICT プログラムディレクター。日本学術会議会員、IEEE Fellow 電子情報通信学会会長、フェロー。



パネリスト:三木谷 浩史 (楽天株式会社 代表取締役会長兼社長)

【略歴】

1965年神戸市生まれ。88年一橋大学卒業後、日本興業銀行に入行。93年ハーバード大学にてMBA取得。興銀を退職後、96年クリムゾングループを設立。97年2月エム・ディー・エム(現・楽天)設立、代表取締役就任。同年5月インターネットショッピングモール「楽天市場」を開設。2000年には日本証券業協会へ株式を店頭登録(ジャスダック上場)。その後、インフォシーク、楽天トラベル、楽天証券、楽天クレジット、フュージョン・コミュニケーションズ、イーバンク銀行等の参画により事業の拡大を果たす。また04年Jリーグ・ヴィッセル神戸のオーナーに就任。さらに同年には50年ぶりの新規球団(東北楽天ゴールデンイーグルス)誕生となるプロ野球界にも参入。現在、楽天株式会社代表取締役会長兼社長。



パネリスト:井辻 朱美 (白百合女子大学 文学部 教授)

【略歴】

ファンタジー作家・翻訳家、歌人。東京大学理学部生物学科をへて比較文学比較文化大学院修了。現在白百合女子大学文学部教授。主な著書に『風街物語・完全版』『水晶散歩』『ファンタジーの魔法空間』(第27回日本児童文学学会賞受賞)、『ファンタジー万華鏡』など。また訳書に『エルリック・サーガ』シリーズ(M・ムアコック)、『妖精王の月』シリーズ(O・R・メリング)、『剣の輪舞』(E・カシュナー)『銀色の恋人』(タニス・リー)『アーサー王ここに眠る』(フィリップ・リーヴ)など。

パネリスト：谷島 宣之（日経 BP 日経コンピュータ 編集部長）

【略歴】

1985年電気通信大学情報数理工学修士課程修了，日経マクロウヒル社（現・日経BP社）入社，日経コンピュータ編集部に記者として配属，日経ウォッチャー IBM 版記者，日経ビズテック編集委員を経て，2007年から日経ビジネスオンライン，日経コンピュータ，ITproの編集委員，2009年1月から日経コンピュータ編集長，2010年1月から現職。著書に『システム障害はなぜ起きたか』、『動かないコンピュータ』（日経BP社刊）など



パネリスト：喜連川 優（東京大学 生産技術研究所 教授）

【略歴】

1983年東京大学情報工学博士課程修了。工博。同年東大生産技術研究所講師，現在教授。データベース工学，ウェブアーカイブ等の研究に従事。文科省特定領域研究「情報爆発 IT 基盤」領域代表，経産省情報大航海プロジェクト戦略会議委員長，学術会議ウェブメディア社会基盤分科会委員長，情報処理学会副会長，フェロー。

ソフトウェアジャパン 2010 サステナブル社会を実現する IT 3月11日（木）9:30-12:00 [第1イベント会場（安田講堂）]



司会：徳田 英幸（情報処理学会 技術応用運営委員会 委員（前委員長）/慶応義塾大学環境情報学部教授兼政策・メディア研究科委員長）

【略歴】

1975年慶応義塾大学工学部卒，同大学院工学研究科修士，ウォータールー大学計算機科学科博士（Ph. D. in Computer Science）。1983年米国カーネギーメロン大学計算機科学科に勤務，研究准教授を経て，1990年より，慶応義塾大学環境情報学部勤務。慶応義塾常任理事（1997-2001年）を経て，現職。主に，オペレーティングシステム，分散システム，ユビキタスコンピューティングシステムに関する研究に従事。現在，情報処理学会ユビキタスコンピューティングシステム研究会顧問，ネットワークロボットフォーラム会長，ユビキタスネットワークフォーラム技術部会長 & 電子タグ高度活用部会長，総務省ユビキタスネット社会の実現に向けた基本政策 WG 副委員長，研究教育業績に関して Motorola Foundation Award, IBM Faculty Award, 経済産業大臣賞，総務大臣賞などを受賞。

オープニング/ITフォーラムの紹介

9:30-9:35

【ITフォーラムのイントロダクション】

丸山 宏（情報処理学会 技術応用運営委員会 委員長/キヤノン(株)デジタルプラットフォーム開発本部 副本部長）

【略歴】



1983年東京工業大学大学院理工学研究科修士課程修了。同年日本アイ・ピー・エム株式会社入社。人工知能，自然言語処理，機械翻訳などの研究に従事。1995年京都大学より博士（工学）授与。1996年米IBMソフトウェア事業部において，インターネット技術の評価。以降，XMLやWebサービスの研究開発・標準化に従事。1997年-2000年東京工業大学情報理工学研究科客員助教授，2003年アイ・ピー・エム・ビジネスコンサルティング・サービスへ出向。2006年-2009年日本アイ・ピー・エム株式会社東京基礎研究所所長。2009年11月より現職。

第1セッション：キーノートセッション

9:35-10:10

招待講演（1）「『ポスト京都時代』をどう生き抜くのか」

末吉 竹二郎（国連環境計画・金融イニシアティブ 特別顧問）

【講演概要】

2007年のIPCC第四次評価報告書は，科学者からの人類社会に対する最後の警告と受け止められ，世界は温暖化への対応に漸く動き始めた。多くの期待を集めながら始まったCOP15だが最終章を迎えても，国際交渉上の駆け引きばかりが激しさを増すばかりでその成果が見えてこない。一体，世界はどうなるのか，だが，世界は捨てたものではない，多くの分野で温暖化への対応が始まっているのも現実である。その対応は政治から個人の生き方まであらゆる分野に及ぶ。この大変革に日本はどう乗っていくのか，その巧拙は文字通り日本の国運を左右する。我々はポスト京都時代をどう生き抜いていけばよいのか，世界で始まった様々な事例を見ながら日本の進路を考えて見たい。



【略歴】

鹿児島県出身。1967年，東京大学経済学部卒業後，三菱銀行（現・三菱東京UFJ銀行）入行。1994年にニューヨーク支店長，取締役。1996年に東京三菱銀行信託会社（NY）頭取。98年に日興アセットマネジメント副社長に就任。2002年に退任後，2003年に国連環境計画金融イニシアティブ（UNEP FI）特別顧問に就任。2003年10月UNEP FI東京会議を招致，「東京宣言」の発表に尽力。現在，TV番組のレギュラーコメンテーターとして活躍する一方，環境問題やサステナビリティ・CSR分野において，講演や執筆活動を精力的に行っている。福田，麻生内閣「地球温暖化問題に関する懇談会」のメンバー，東京大学大学院非常勤講師。

著書：『ビジネスに役立つ！末吉竹二郎の地球温暖化講義』（2009年）（東洋経済新聞社）

『グリーン・ニューデール Perfect Review パーフェクトレビュー』（2009年）（著・編）（環境新聞社）

『有害連鎖』（2007年）（著）（幻冬舎）

『カーボンリスク—CO2・地球温暖化で世界のビジネス・ルールが変わる』（2006年）（共著）（北星堂書店）

10:10-10:45 招待講演 (2) 「Smarter Planet - IT が拓く持続可能な社会」
久世 和資 (日本アイ・ビー・エム (株) 執行役員 開発製造担当)

【講演概要】

世界は、益々、フラット化し、小さくなり、賢くなっている。たとえば、2010年で、トランジスタは1人あたり10億個になり、RFIDタグは330億個にもなる。2011年には20億人がウェブを使い、1兆個の「物」である車、家電、携帯端末、道路、ビルなどがネットワークでつながることが予想されている。ITは、これまで企業の基幹システムを中心に活躍してきたが、それに加えて、これからは、交通、エネルギー、環境、医療、安全といった社会システムを実現するために重要な役割を果たすことになる。このような社会とITの融合がSmarter Planetである。また、Smarter Planetのもう一つの必然性は、解決すべき課題や非効率、無駄が、世の中には多く存在し、それが増えているという事実である。たとえば、アメリカの流通業界は、非効率なサプライチェーンが原因で年間4兆円を失っている。日本の交通渋滞は年間38億時間に達し、これは12兆円、GDPにして2%の損失にあたる。世界の飢餓人口は、9.6億人である一方、日本では年間9000万トンの食料のうち21%を廃棄している。こういった問題の解決には地球や、国、都市といった規模での情報解析や最適化が重要となってくる。さらに、複数の企業や政府が連携するエコシステムや事業モデルも不可欠である。

【略歴】

1987年筑波大学大学院工学研究科修了。工学博士。1987年日本アイ・ビー・エム株式会社入社。プログラミング言語、ソフトウェア工学、オブジェクト指向が専門。東京基礎研究所にて、プログラミング言語、パベイシブ・コンピューティング、ソフトウェア・テクノロジーなどの担当を経て、2004年より東京基礎研究所長。2005年日本IBM執行役員就任。2006年よりシステム開発研究所長、サービス・イノベーション研究所長、未来価値創造事業部長を経て、2009年より現職。



10:50-11:25 招待講演 (3) 「i-MiEV で開く低炭素社会 - 持続可能な社会を目指して」
早船 一弥 (三菱自動車工業 (株) 商品戦略本部 副本部長 兼 EVビジネス本部 上級エキスパート 兼 開発本部 本部長補佐)

【講演概要】

自動車を取り巻く環境は、低CO2、脱化石燃料、低燃費への要求が極めて厳しいレベルへとここ1、2年で急激に変化した。この要求は先進国のみならず、新興国においても程度の差こそあれ同様である。この市場要望に応える為、三菱自動車では環境対応車両の中でも最も環境性能に優れた電気自動車を開発し、世界で初めて量産車両として市場導入した。電気自動車が実用域に入ったのは、なんとと言っても高性能のリチウムイオン電池と永久磁石同期モータの技術的発展があったことが大きい。本講演では、新世代電気自動車i-MiEVの技術的特徴を解説した後、今後の自動車ビジネスの変化について展望する。

【略歴】

1988年3月 東京大学大学院工学系研究科電気工学専攻博士課程修了。同年4月 三菱自動車工業入社。運転支援システムの先行開発を担当し、世界初の車間距離制御システムの市場導入を実現。その後、電子制御システムの量産設計部門にて各種ECUの設計を担当。最近では、ECUのソフトウェア信頼性確保の為、モデルベース開発、HILS試験の導入など同社の電子基盤技術の確立に尽力。2008年11月より開発本部副本部長として次世代電気自動車i-MiEVの量産を実現した。



11:25-12:00 招待講演 (4) 「低炭素社会の実現に向けて加速するグリーン IT」
関口 智嗣 ((独) 産業技術総合研究所 情報技術研究部門 研究部門長)

【講演概要】

低炭素社会の実現に向けて、運輸・民生・産業などの各部門でITが省エネルギーに果たす役割は今後ますます重要となる。これはエネルギー消費に占めるITの割合が増加するため、このエネルギー効率向上を目指したグリーンITが期待されている。この中でクラウド化と経済合理性から大規模なデータセンターへの集中が進み、このグリーン化が極めて重要な問題となっている。すでに、データセンターの電力消費の効率性に関してはすでいくつかのモデルが提案、利用されているが、クラウドのような新たなデータセンターの利用においては提供されるサービスに応じた電力消費量がどのように使用されているかあまり理解されていない。電力消費とサービスとの関係を少しでも明らかにして、グリーン化を加速するために必要なシステマ的、社会的要件について話題を提供する。

【略歴】

1982年東京大学理学部情報科学科卒業、1984年筑波大学大学院理工学研究科修了、同年工業技術院電子技術総合研究所入所。以来、データ駆動型スーパーコンピュータSIGMA-1の開発、ネットワーク数値ライブラリNinf、クラスタコンピューティング、グリッドコンピューティング等に関する研究に従事。2001年独立行政法人産業技術総合研究所に改組。2002年1月より同所グリッド研究センター長。2008年より同所情報技術研究部門長。市村賞、情報処理学会論文賞、文部科学大臣表彰科学技術賞(研究部門)受賞。日本学術会議連携会員。グリッド協議会会長。Open Grid Forum (OGF) 役員および諮問委員を始め国際会議委員委嘱多数。情報処理学会、日本応用数理学会、地理情報システム学会、SIAM、IEEE各会員。



ソフトウェアジャパン 2010 サステナブル社会を実現する IT 3月11日(木) 14:30-17:15 [第1イベント会場(安田講堂)]

第2セッション: パネルセッション

14:30-16:00 パネル討論「サステナブル社会を実現する IT」

【討論概要】

気候温暖化をはじめとする持続可能性の問題は、我々に大きな課題をつきつけている。一方、この問題は、ITを適用することによって大きく改善していく可能性がある。このパネル討論では、我々が今後直面する問題と、それに対してIT技術者が何ができるのか、何をしていくべきかについて議論する。

司 会: 丸山 宏 (キヤノン (株) デジタルプラットフォーム開発本部)

略歴・写真は「ITフォーラムのイントロダクション」を参照。

パネリスト: 末吉 竹二郎 (国連環境計画・金融イニシアチブ)

略歴・写真は招待講演(1)「『ポスト京都時代』をどう生き抜くのか」を参照。

久世 和資 (日本アイ・ビー・エム (株) 開発製造担当)

略歴・写真は招待講演(2)「Smarter Planet - ITが拓く持続可能な社会」を参照。

早船 一弥 (三菱自動車工業 (株) 商品戦略本部)

略歴・写真は招待講演(3)「i-MiEVで開く低炭素社会-持続可能な社会を目指して」を参照。

関口 智嗣 (独) 産業技術総合研究所 情報技術研究部門)

略歴・写真は招待講演(4)「低炭素社会の実現に向けて加速するグリーンIT」を参照。

徳田 英幸 (慶應義塾大学 環境情報学部)

略歴・写真は「ソフトウェアジャパン 2010 サステナブル社会を実現する IT」司会紹介を参照。

第3セッション: ザ・ジャパンソフトウェアセッション ~次世代スマートフォンで世界を目指す~

16:10-16:15 ソフトウェアジャパンアワード 表彰式

16:15-16:30 招待講演(1)「『LightBike』のヒットに至るまでと今後の展開 ~全米 No.1 iPhone アプリになった経緯とその要因~」

柳澤 康弘 ((株) パンカク 代表取締役社長)

【講演概要】

株式会社パンカクがリリースした3D対戦ゲーム「LightBike」は2009年2月に米 AppStoreの有料アプリランキングで1位を獲得した。ヒットに至るまでの経緯と日本のモバイルアプリケーションデベロッパーとしてこのような快挙を成し遂げられた要因について講演する。

- ・パンカクについて
- ・現在のiPhoneアプリ市場について
- ・パンカクのiPhoneへの取り組み
- ・LightBikeについて
- ・今後の展開について

【略歴】

株式会社パンカク代表取締役社長。慶應義塾大学総合政策学部卒。携帯サービス製作会社およびSNSパッケージ製作会社の創業を経て、2007年2月に株式会社パンカクを設立。2009年2月には同社がリリースしたiPhoneアプリケーション「LightBike」が米AppStore有料アプリケーションランキング一位を獲得。iPhoneだけでなくAndroidやOviなどのプラットフォームも含め、全世界の携帯電話を対象に、アプリケーションを開発し提供している。



16:30-16:45 招待講演(2)「個人で制作し世界に配信する」

深津 貴之 ((株) Art & Mobile 代表取締役)

【講演概要】

iPhoneのAppStoreの台頭により、個人の制作物を世界レベルで販売できる時代が訪れた。

AppStoreでは、大企業の製品と個人の作品が並列に扱われ、製品のあり方や売り方が従来とは大きく異なる。大手のプロジェクトが失敗する一方で、個人の習作が数千万円以上売り上げるときもある。AppStoreとは実際にはどのような環境なのか。本セッションでは、個人が世界に向けてアプリケーションを販売することの概要について、発表者本人の経験を事例に説明する。

【略歴】

インタラクティブ・デザイナー。2006-2009までウェブ制作会社thaを勤務後、独立。同年株式会社Art&Mobieを設立。iPhoneとflashを中心に活動する。製作したiPhoneアプリの1つは、2009年グッドデザイン賞受賞。



16:45-17:10 鼎談 「日本発のソフトで世界を目指す」

[鼎談概要]

世界では存在感が薄いと言われる日本のソフトウェアエンジニアしかし、iPhone というグローバル規模のスマートフォンプラットフォームが登場後、競争の激しい同プラットフォームで世界の AppStore の 1 位に輝いたり米国メディアに華々しく取り上げられる日本の IT ベンチャーや個人プログラマーが何人か登場している。柳沢康弘が代表を務める (株) パンカクのゲーム、LightBike は米 AppStore で 1 位を獲得した。一方、深津貴之氏が開発したカメラ系のアプリは米国のメディアに好んで取り上げられた。彼らは、いったいどうやって世界をモノにしたのか、日本から海外に進出するのに何が障壁となるのか、日本と海外では反響にどんな違いがあるのかといった議論に加え、今後、パソコン市場以上に市場が拡大すると見られている iPhone、Android 市場の近況や、今後の見通しについても議論を行う。



司会：林 信行 (フリーランス)

[略歴]

フリーランス IT ジャーナリスト。'90 年から (株) アスキーの雑誌で取材・執筆活動を開始、米国から記事を寄稿。その後、同社の Mac 雑誌 3 誌のアドバイザーを経て、他社の新聞、雑誌にも記事を書き始める。主な媒体は日経新聞、R25、ITmedia、CNet Japan、Pen、他。米 Wired 誌や O'Reilly Blog にも英語で寄稿。ブログ、SNS、Twitter などのトレンドをいち早く記事にした。現在、日本の IT ベンチャー 4 社のアドバイザーを務める。

パネリスト：柳澤 康弘 ((株) パンカク 代表取締役社長)

略歴・写真は招待講演 (1) 「『LightBike』のヒットに至るまでと今後の展開 ～全米 No.1 iPhone アプリになった経緯とその要因～」を参照。

深津 貴之 ((株) Art & Mobile 代表取締役)

略歴・写真は招待講演 (2) 「個人で制作し世界に配信する」を参照。

17:10-17:15 クロージング

「計算科学技術と次世代スーパーコンピューティング基盤」 ～革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラの構築～ 共催：文部科学省 (独) 理化学研究所 3月12日 (金) 9:30-16:00 [第1イベント会場 (安田講堂)]

[全体概要]

スーパーコンピュータについてより多くの人に知ってもらうため、立花隆氏によるスパコンを活用した計算科学技術の意義について基調講演を行うとともに、米国・欧州のスパコン戦略等について招待講演を行う。また、併せて次世代スーパーコンピュータプロジェクトの内容について広く紹介し、意見交換の場をもつ。

9:30-9:35 主催者挨拶



喜連川 優 (東京大学 生産技術研究所 教授)

[略歴]

1983 年東京大学情報工学博士課程修了。工博。同年東大生産技術研究所講師、現在教授。データベース工学、ウェブアーカイブ等の研究に従事。文科省特定領域研究「情報爆発 IT 基盤」領域代表、経産省情報大航海プロジェクト戦略会議委員長、学術会議ウェブメディア社会基盤分科会委員長、情報処理学会副会長、フェロー。

9:35-9:50 政策講演「(仮題) 革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラの構築に向けて」 文部科学省

[講演概要]

多様なユーザーニーズに応える革新的な計算環境を実現するため、世界最先端・最高性能を目指した次世代スーパーコンピュータを開発・整備するとともに、次世代スパコンと国内のスパコンをネットワークで結び協調的に利用する「革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ (HPCI)」の構築を行う次世代スパコンプロジェクト新計画案について詳しく紹介する。

9:50-10:40 基調講演「スパコンを活用した計算科学技術の意義について」

立花 隆 (評論家・ジャーナリスト)

[略歴]

1940 年 (昭和 15 年) 5 月 28 日 長崎で出生

1964 年 (昭和 39 年) 東大仏文科卒業・文藝春秋社入社

1966 年 (昭和 41 年) 文藝春秋社退社

1967 年 (昭和 42 年) 東大哲学科入学

在学中からフリーライターとして活動開始

1995 年・1998 年 (平成 7・平成 10 年) 東大先端研客員教授

1996 年・1998 年 (平成 8 年・平成 10 年) 東大教養学部非常勤講師

2005 年・2006 年 (平成 17 年・平成 18 年) 東京大学大学院総合文化研究科科学技術インタープリター養成プログラム特任教授



10:50-11:30 招待講演 (1) 「The U.S. approach to enabling Exascale Science and Engineering」
リック・スティーブズ (アルゴンヌ国立研究所 副研究所長)

【講演概要】

The U. S. Department of Energy national laboratories are planning a major initiative to develop large-scale computer systems capable of delivering exaflops/sec performance on a number of applications of national and international importance by the end of the decade. The computational needs in areas such as high-resolution climate simulation, design and optimization of nuclear energy systems, designed materials for energy technology applications, improved combustion systems and carbon capture and sequestration are driving the need for faster and more capable computing systems, new modeling environments and next generation applications software. It is also expected that exascale systems will play a significant role in advancing basic science applications in biology and genomics, cosmology and astrophysics, materials and chemistry, nuclear physics and plasma science. The approach envisioned is structured around multiple public/private partnerships that will pursue an integrated research and development program combining computer architecture and technology research, programming models and systems software research and sustained development of driver applications, algorithms and mathematics. Many of these objectives have important opportunities for international collaboration. Elements of co-design will be used to optimize both the hardware, software and algorithms needed to reach the initiative goals, enabling tradeoffs to be made in the design process in the context of cost, power and performance. Reaching the exascale performance goal will require breakthroughs in power efficiency, scalability of algorithms, systems and applications software and dramatically improved systems reliability. Reaching these goals will have a positive and lasting impact on the broader computing ecosystem that society depends on.



【略歴】

1997-2001年 National Computational Science Alliance チーフアーキテクト。
2000-2004年 テラグリッドプロジェクト 主任。

11:30-12:10 招待講演 (2) 「欧州のハイエンドスーパーコンピューティングインフラについて」
トーマス・リップパート (ユーリッヒスパコンセンター センター長)

【講演概要】

これまで、2年間にわたって、欧州の20ヶ国からなるコンソーシアム "Partnership for Advanced Computing in Europe" が組織され、欧州における leadership-class のハイエンド・スーパーコンピューティング基盤の確立に向けて準備を行ってきた。現在、2010年の春に新しい合意が締結される見込みである。その計画では、609の国がベタフロップスクラスの最高速のマシンの設置をホストし、これを Tier-0 として、Tier-1の各国のセンターのマシンによって補完される。2010の中頃から、コンソーシアムは最初の実装に着手する計画で進んでいる。講演では、以上の欧州におけるハイエンド・スーパーコンピューティング基盤についての動向について紹介する。



【略歴】

1987年 ヴェルツブルク大学卒業。
1993年 ワッパータール大学において博士取得。

13:10-13:50 次世代スパコン紹介 (1) 「次世代スパコン開発の現状」
横川 三津夫 (独)理化学研究所 次世代スーパーコンピュータ開発実施本部 開発グループ グループディレクター

【講演概要】

理化学研究所は、10ベタフロップス級の性能を持つスーパーコンピュータを、平成24年完成を目標に開発している。次世代スーパーコンピュータの概要及び開発の現状について述べる。



【略歴】

1984年筑波大学修士課程理工学研究科修了。同年日本原子力研究所入所。1997年地球シミュレータ研究開発センター。2002年産業技術総合研究所グリッド研究センター。2006年理化学研究所

13:50-14:10 次世代スパコン紹介 (2) 「次世代スパコンのプロセッサ SPARC64 (TM) VIIIfx」
丸山 拓巳 (富士通 (株) 次世代テクニカルコンピューティング開発本部 LSI 開発統括部 統括部長代理)

【講演概要】

次世代スパコンのプロセッサである SPARC64(TM) VIIIfx について、その概要をのべる。本プロセッサは富士通の 45nm 半導体を用いて 8 プロセッサコア、共有レベル 2 キャッシュ、およびメモリコントローラを 1 チップに集積した。動作周波数は 2GHz、理論演算性能は 128GF (ギガフロップス) に達する。一方消費電力は水冷で 58W と高い電力性能を達成した。命令セットは標準規格である SPARC-V9 に富士通の独自拡張 (HPA-ACE) を加えることで、理論演算性能のみならず実効性能の向上を図っている。

【略歴】



1986年東京大学工学部計数工学科卒業、同年富士通に入社。1993年から初代の SPARC64 (TM) プロセッサ開発に従事。以降 SPARC64 (TM) GP, V, VI, VII, そして VIIIfx の開発を担当。

14:10-14:30 次世代スパコン紹介 (3) 「次世代スーパーコンピュータでの超並列プログラミング環境」
堀田 耕一郎(富士通(株) 次世代テクニカルコンピューティング開発本部 ソフトウェア開発統括部 統括部長代理)

【講演概要】

次世代スーパーコンピュータは8コアを持つCPU、8万個を超えるノードからなる超並列システムである。このシステムに向けて並列プログラムを開発するためには、基盤となる各ノードの性能を引き出した上で、64万規模の並列プログラミングが必要となるが、スケーラビリティを確保するためには並列プログラムのオーバヘッドを減らすことが必要である。次世代スーパーコンピュータでは、CPU内コア間では自動並列化を中心としたスレッド並列、CPU間ではプロセス並列のハイブリッド並列を行うことで並列化に掛ける労力を少なくして高性能を実現する方針である。本講演では、このシステム向けの並列プログラミングを行う環境について、コンパイラシステムを中心に紹介する。



【略歴】

1980年東京大学理学部情報科学科卒業、同年富士通株式会社入社。VPシリーズ向け自動ベクトル化コンパイラの開発、その後、VPP、SPARC、80x86などのプロセッサを使用した富士通のシステム向けの言語処理系の開発に従事。2000年～2003年アドバンスト並列化コンパイラ技術開発プロジェクトにおいてコンパイラ技術グループリーダー。2005年より Director of OpenMP ARB。

14:30-14:50 次世代スパコン紹介 (4) 「次世代スパコンの高速化手法」
南 一生 (独) 理化学研究所 次世代スーパーコンピュータ開発実施本部 アプリケーション開発チームリーダー

【講演概要】

理化学研究所で開発している次世代スーパーコンピュータは8万ノード以上を備える超並列システムであり、各ノードも数値計算を高速に実行するための機構を多数備えている。次世代スーパーコンピュータを効率よく利用し短い時間でシミュレーション結果を得るためには、この超並列性と高速計算機構を効率よく使用する事が必須である。理化学研究所で進めている次世代スーパーコンピュータに向けたアプリケーションの超並列化・高性能化手法について報告する。



【略歴】

1981年日本大学理工学部物理学科修了。同富士通株式会社入社。2000年財団法人 高度情報科学技術研究機構 (RIST) 入社。2006年研究主幹。地球シミュレータ共同利用テーマ「カーボンナノチューブの特性に関する大規模シミュレーション」プロジェクト責任者。2008年3月より現職。

14:50-15:10 次世代スパコン紹介 (5) 「e-サイエンス・プロジェクトと高生産・高性能並列プログラミング言語 XcalableMP」
佐藤 三久 (筑波大学 筑波大学計算科学研究センター センター長)

【講演概要】

現在、東京大学・筑波大学・京都大学で進められている、文部科学省委託プロジェクト「高生産・高性能計算環境実現のための研究開発・シームレス高生産・高性能プログラミング環境」(通称 e-サイエンスプロジェクト)は、PC クラスタから大学情報基盤センター等に設置されているスパコン、さらに次世代スパコンまで、ユーザに対するシームレスなプログラミング環境を提供しようというプロジェクトである。その概要を紹介し、特にその一つとして開発が進められている高生産・高性能並列プログラミング言語 XcalableMP について述べる。



【略歴】

1982年東京大学理学部情報科学科卒業。1986年新技術事業団後藤磁束量子情報プロジェクトに参加。1991年、通産省電子技術総合研究所入所。1996年、新情報処理開発機構並列分散システムパフォーマンス研究室室長。2001年より、筑波大学システム情報工学研究科教授。平成2007年より、同大学計算科学研究センターセンター長。理学博士。並列処理アーキテクチャ、言語およびコンパイラ、計算機性能評価技術、グリッドコンピューティング等の研究に従事。情報処理学会、IEEE、日本応用数理学会会員。

15:20-16:00 聴衆も含めたディスカッション

21世紀のライフ・ロング・ラーニングへ向けて
3月9日(火) 9:30-12:00【第2イベント会場(法文1号館2F 25教室)】

【全体概要】

21世紀を担う今の若者たちに、ITを駆使して一生学び続けるスキルを手渡そうという新しい学習支援研究が盛んになりつつある。それら新しい試みの中から、

- ・個人の興味・関心に合った教材を徹底的に学ばせ、学び方そのものも身に付けさせる「ロングテール型学習」
 - ・ゲームや音楽など学習者が自発的に参加するコミュニティでの活動から一生使える協調的学習レパトリーを抽出させる「協調活動レパトリー獲得支援」
 - ・モデル化ツールを駆使して、実社会で出合う難しい問題へのチャレンジ・スキルを育成する「漸進型困難克服支援学習」
- を選び、話題提供を求める。パネル討論では、日本の現状と比較してこれから日本でどんな研究が望まれるかを議論したい。



司会：三宅なほみ(東京大学 大学院教育学研究科 教授)

【略歴】

東京大学大学院教育学研究科 教授
大学発教育支援コンソーシアム推進機構 副機構長
1982年 University of California at San Diego, Department of Psychology, Ph. D.
1991年4月1日 中京大学情報科学部(のち情報理工学部)認知科学科(のち情報知能学科)教授(至2008年10月31日)
2000年7月1日 JST 戦略的基礎研究推進事業「高度メディア社会のための協調的学習支援システム」『同継続』主任研究員(2008年3月31日まで)
2009年7月23日 科学研究費補助金 新学術領域研究「人とロボットの共生による協創社会の創成」(2014年3月31日まで)

9:30-9:45 「学習をライフ・ロングに見直す」
三宅なほみ（東京大学 大学院教育学研究科 教授）

【講演概要】

今学習科学の世界では、学習を一生続くものと見る視点から様々な新しい試みが生み出されている。このシンポジウムでは、21世紀を担う今の若者たちへ、彼らがITを駆使して一生学び続けるためのさまざまな学習方法を手渡そうという新しい学習支援研究を3つ紹介し、日本の現状を踏まえてこれから日本ではどのような試みが必要かを討論する。

略歴・写真は「21世紀のライフ・ロング・ラーニングへ向けて」司会紹介を参照。

9:45-10:15 講演 (1) 「ロングテール型学習」
Roy D. Pea (Stanford Center for Innovations in Learning Co-Director)

【講演概要】

個人の興味・関心に合った教材をwebの隅々から探し出し、一つのことを徹底的に学んでその学び方そのものも身に付けさせる「ロングテール型学習」(Long Tail Learning)について、その必要性と最近の成果を解説・紹介する。

【略歴】



1978 Doctor of Philosophy University of Oxford, England
1974 Bachelor of Arts Michigan State University
2001 to present: Professor of Education and the Learning Sciences and CO-Director, Stanford Center for Innovations in Learning
1996 to 2001: SRI International Director of the Center for Technology in Learning (and 2001-onward, Chief Scientist)
1999 to present: TeachScape, Director and Co-Founder

10:15-10:45 講演 (2) 「協調活動レパートリー獲得支援」
Brigid Barron (School of Education, Stanford University Assistant Professor) &
Roy D. Pea (Stanford Center for Innovations in Learning Co-Director)

【講演概要】

ゲームや音楽、あるいは宗教など、自然に起きる協調活動への参加者が持つさまざまな協調的スキルのレパートリーを抽出し、実社会での問題解決への適用を支援を目指す「協調活動レパートリー獲得支援」(Repertoires of Collaboration Project)について、いくつかのケーススタディを紹介しながら、新しい学習デザインの可能性を探る。

Brigid Barron

【略歴】

Assistant Professor
Stanford University School of Education
Ph. D. 1992 Clinical and Developmental Psychology (Vanderbilt University)
M. S. 1989 Psychology (Vanderbilt University)
B. S. 1984 Psychology (University of California, Santa Cruz)
Roy D. Pea

略歴・写真は講演 (1) 「ロングテール型学習」司会紹介を参照。

10:45-11:15 講演 (3) 「斬新型難問チャレンジ・スキル獲得支援」
Michael Jacobson (Center for Research on Computer-supported Learning and cognition Professor, Co-director)

【講演概要】

NetLOGOなどのモデル化ツールを駆使して、実社会で将来出会う可能性のある難しい問題へのチャレンジ・スキルを育成する「漸進型困難克服支援学習」(Progressive Failure Resolution method)について、実践的なエビデンスに基づく新しい学習の見方を解説する。

【略歴】



Professor and Chair, Education
Co-director, Centre for Research on Computer-supported Learning and Cognition (CoCo)
Associate Dean, Information and Knowledge Technologies
Professional biography
Prior to his appointments with the faculty, Dr. Jacobson was an associate professor in the Learning Sciences Laboratory at the National Institute of Education (NIE), Nanyang Technological University in Singapore and the senior associate director and an associate professor at the Korea University Center for Teaching and Learning in Seoul, Korea.
Dr. Jacobson has also held faculty and research positions at the University of Illinois at Urbana-Champaign, University of Georgia, and Vanderbilt University, and was engaged in organizational and international consulting activities.

11:15-12:00 パネル討論 「21世紀に求められる学習スキル」

【討論概要】

まず企画者から、日本の現状と比較してこれから日本でどんな研究が望まれるかを簡潔に解説する。その後、フロアとパネリストとの討論を通して、21世紀に必要な学習スキルをどう若者に手渡すか、これから私たちがやるべきことを展望したい。

司 会：三宅なほみ（東京大学 大学院教育学研究科 教授）

略歴・写真は「21世紀のライフ・ロング・ラーニングへ向けて」司会紹介を参照。

パネリスト：Roy D. Pea (Stanford Center for Innovations in Learning Co-Director)

略歴・写真は講演 (1) 「ロングテール型学習」を参照。

Brigid Barron (School of Education, Stanford University Assistant Professor)

略歴・写真は講演 (2) 「協調活動レパートリー獲得支援」を参照。

Michael Jacobson (Center for Research on Computer-supported Learning and cognition Professor, Co-director)

略歴・写真は講演 (3) 「斬新型難問チャレンジ・スキル獲得支援」を参照。

50年後の情報社会を豊かに育てるために - 情報処理学会 教育・人材育成ビジョン 2010 -
3月9日(火) 15:30-17:30【第2イベント会場(法文1号館2F 25教室)】

[全体概要]

情報処理学会が創立された50年前と今日を比べると、世の中における情報や情報技術のプレゼンスは比べものにならないくらい大きくなっている。それと呼応して、今日のわが国の社会には、情報や情報技術に関わる問題が多数存在している。今後50年のうちに、これらの問題が克服されるようにするため、情報や情報技術の分野を扱うわが国最大のプロフェッショナルソサエティ情報処理学会は教育や人材育成にも積極的に関与していくべきであり、また個々の会員も自発的に貢献して行くべきである。そこで、情報処理学会や会員が具体的に何をすべきか、どのような貢献をすべきかを議論する。

つぎの問題提起を議論の前提とする。

情報処理学会情報処理教育委員会、

50年後の情報社会を豊かに育てるために

- 情報処理学会教育・人材育成ビジョン2010に向けての問題提起 -

URL:<http://sigps.ttuat.ac.jp/>

事前に準備されている問題提起を受けて、まず、4人のパネリストに解決に向けて学会として行うべきことならについて持論を披瀝していただく。続いて、フロアからの質問・コメントも交えながら、議論を深めていく。



司 会: 寛 捷彦 (早稲田大学 理工学術院基幹理工学部 教授)

[略歴]

1970年東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。

東京大学助手、立教大学理学部講師・助教授を経て、1986年から早稲田大学理工学術院教授(基幹理工学部情報理工学科)。

プログラミングおよびプログラム言語に関して研究教育を行う。

本会フェロー、情報処理教育委員会委員長、学術会議連携会員、日本ソフトウェア科学会、ACM等会員。



パネリスト: 安西 祐一郎 (慶應義塾大学 元会長)

[略歴]

1974年慶應義塾大学大学院工学研究科博士課程修了。北海道大学文学部行動科学科助教授、慶應義塾大学理工学部電気工学科教授を経て1988年より慶應義塾大学理工学部情報工学科・同大学院理工学研究科開放環境科学専攻教授。1993-2001年同理工学部長、2001-09年慶應義塾長。2005-07年情報処理学会会長。現在日本学術会議会員、中央教育審議会大学分科会長等。専門は認知科学、情報科学



パネリスト: 都倉 信樹 (大阪電気通信大学 学長 元情報処理教育委員会委員長)

[略歴]

1968大阪大学大学院工学研究科博士課程(電子工学専攻)修了。1968大阪大学基礎工学部講師。1969助教授。1975情報工学科に移籍。

1977教授。2001大阪大学退職、名誉教授。新設の鳥取環境大学情報システム学科教授・副学長。

2007.9退職。2008.3より大阪電気通信大学学長。現在に至る。アルゴリズム、プログラムの理論と実際に関心をもつ。



パネリスト: 大島 信幸 (日立製作所 CeFIL 教育連携委員会委員長)

[略歴]

1971年名古屋大学大学院工学研究科修士課程修了。1992年ソフトウェア開発本部計画部長。1999年情報事業本部事業企画本部副本部長。

2002年研究開発本部新事業企画センター長。2004年情報・通信グループIT政策推進本部長。2007年同グループ経営戦略室渉外統括主管。

日本経団連・高度情報通信人材育成部会・拠点支援プロジェクトチーム2009年度座長、特定非営利活動法人「高度情報通信人材育成支援センター(CeFIL)」理事・教育連携委員会委員長、情報処理学会正会員



パネリスト: 田中 一郎 (NTT データ)

[略歴]

1993年、早稲田大学大学院理工学研究科修了。同年、株式会社NTT データ入社。

エンジニアとして多くのシステム開発プロジェクトに関わった後、2000年より同社ロンドン事務所にて、欧州の技術/市場動向のサーチや日欧共同研究支援等に従事。

2004年からは、社内シンクタンク部門にて情報セキュリティ等に関する制度研究や政策提言に従事。

2005年以降現在まで、役員の対外活動スタッフとして、日本経団連や業界団体での各種活動に寄与。

特に2006年から2年間、日本経団連が大学連携に着手した際に高度情報通信人材育成部会の事務局を務めて以来、当該分野には注力している。

ディペンダブルシステム - 新しい原理から実装まで - 3月10日(水) 9:30-12:00【第2イベント会場(法文1号館2F 25教室)】

【全体概要】

本セッションは、JSTで行われている情報ディペンダビリティに関するアクティビティ、特にソフト・ハードの2種類のプロジェクトを中心とした講演、パネル討論を行う。情報ディペンダビリティは、社会の安全・安心という点でも、本邦の情報産業の捲土重来という点でも、最重要な課題である。ここでは、プロセッサとOSというもともと基盤的な技術を核として、ディペンダビリティとは何か、実社会のニーズは何か、ディペンダビリティをどのように実現すべきか、JSTの研究成果として期待できるものは何か、ディペンダビリティは収益に結びつくか、今後のITの安全・安心を展望するとどうなるか、などを論じる。



司会：藤田 昌宏（東京大学 東京大学大規模集積システム設計教育研究センター 教授）

【略歴】

昭55年東京大学工学部電気工学科卒業、昭60同大学院情報工学博士課程了。工学博士。同年富士通（株）入社、LSI用CAD技術の研究開発に従事。平成5年米国富士通研究所。平成12年東京大学大学院教授。現在、東京大学大規模集積システム設計教育研究センター教授。情報処理学会坂井特別賞、元岡賞など受賞。主な研究テーマは、電子機器上位設計手法とその支援技術、特に形式的な解析に基づく設計検証・テスト技術全般。

9:30-10:20 基調講演「ディペンダビリティの過去・現在・未来」

南谷 崇（東京大学 情報理工学系研究科 教授）

【講演概要】

情報社会では、ひとたびシステム障害、インフラ事故、サイバーテロ、情報漏洩など、社会の期待や合意に反する事象が起きると、財産逸失、人命損傷、社会・経済機能マヒなどの深刻な事態を招く。場合によっては国家安全保障への脅威になる。実際、我々の社会は、システムの複雑化・巨大化、VLSIの微細化、情報量の爆発的増加、サービスの多様化、要素の経年劣化など、様々なリスク要因に直面している。科学技術が目指すべきは、社会インフラ、情報環境から提供されるサービスの信頼性、安全性に揺るぎない確信を持つことができるディペンダブルな情報社会の実現である。この講演では情報システムのディペンダビリティについて、過去の事例から現在の研究動向、将来の展望までを総合的・体系的に述べる。



【略歴】

1969年東大工学部計数工学科卒、1971年同大学院修士了。同年日本電気中央研究所。1978年工学博士。1981年東工大工学部情報工学科助教授。1989年同電気電子工学科教授。1995年東大工学系研究科計数工学専攻教授。1996年東大先端科学技術研究センター教授。2001年から2004年まで東大評議員・先端研センター長。2005年からJST-CREST「情報システムの超低消費電力化」領域の研究総括。IEEE-CS TC on Dependable Computing 委員長。IFIP-TC10 日本代表。IEEE Fellow。電子情報通学会フェロー。学術会議連携会員。

10:30-12:00 パネル討論「真にディペンダブルなITを創造する」

司会：藤田 昌宏（東京大学 東京大学大規模集積システム設計教育研究センター 教授）

略歴・写真は「ディペンダブルシステム - 新しい原理から実装まで -」司会紹介を参照。



パネリスト：所 眞理雄（(株)ソニーコンピュータサイエンス研究所 代表取締役社長）

【略歴】

慶應義塾大学大学院博士課程修了（工学博士）。同大学助手、専任講師、助教授を経て、1991年教授に就任。その間、カナダ・ウォータールー大学、米カーネギーメロン大学訪問助教授を歴任。1988年株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所を設立、取締役副所長（兼務）に就任。1998年代表取締役社長に就任し、現在に至る。1997年慶應義塾を退職、ソニー株式会社に入社、執行役員上席常務に就任。IT研究所長、Co-CTOなどを歴任、2008年に退任。2009年慶應義塾特別研究教授に就任。



パネリスト：浅井 彰二郎（(株)リガク 取締役副社長）

【略歴】

1963年 東京大学工学部応用物理学科物理工学コース終了。
1968年 東京大学大学院 応用物理学専攻 博士課程単位取得終了、同年（株）日立製作所に入社。
1991年 基礎研究所所長、1997年 日立本社に移り、1999年 常務・研究開発本部長、2000年 RFID ミューチップの事業化を社内ベンチャーにより立ち上げ。
2003年 （株）日立メディコ専務
2006年 （株）リガク副社長（現任）
2007年 JST CREST 研究領域「ディペンダブル VLSI システムの基盤技術」研究総括（現任）
2009年 （社）日本分析機器工業会理事（現任）
応用物理学会フェロー、IEEE ライフフェロー。



パネリスト：中島 達夫（早稲田大学 基幹理工学部・情報理工学科 教授）

【略歴】

早稲田大学基幹理工学部情報理工学科教授、科学技術振興機構・戦略的創造研究推進事業「実用化を目指した組込みシステム用ディペンダブル・オペレーティングシステム」に高信頼マルチコアプロセッサ向け仮想化技術の研究開発に取り組んでいる。次世代の計算機環境を実現するための基盤ソフトウェア、インタラクションデザイン等に関する研究に取り組んでいる。



パネリスト：安浦 寛人（九州大学 理事・副学長）

【略歴】

1978年京都大学工学研究科修士課程（情報工学専攻）修了。京都大学工学部助手、同助教授を経て、1991年より九州大学大学院教授。現在、九州大学大学院理事・副学長、VLSI システムの設計手法とCADの研究およびハードウェアアルゴリズムの研究に従事。

1992年本会論文賞、1993年坂井記念特別賞およびBest Author賞、2001年電子情報通信学会業績賞、をそれぞれ受賞。ICCADやASP-DACなどの大会委員長・プログラム委員長を務めるとともに、IEEE CAS Societyの副会長や情報処理学会／電子情報通信学会理事等も歴任。



パネリスト：松田 晃一（独）情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター 所長

【略歴】

昭和43年京都大学工学部卒業、昭和45年同大学院修士課程修了。電電公社に入社、データ通信システム用OSの研究開発、システムの性能評価、ソフトウェア開発技術の研究に従事。NTTコミュニケーション科学研究所長、先端技術総合研究所長などを歴任。NTTアドバンステクノロジー社代表取締役常務を経て、平成20年よりIPA IT人材育成本部長、平成21年より現職。情処学会／通信学会フェロー、日本学術会議連携会員、工学博士。



パネリスト：西 直樹（日本電気（株） システムIPコア研究所 所長）

【略歴】

1982年広島大学工学部二類（電気）卒業、1984年同大学院工学研究科修了、同年日本電気（株）入社。C&Cシステム研究所にてスーパーコンピュータのアーキテクチャ研究開発を進め、1992年からコンピュータ事業部でCMOS SX-4開発に従事。1995年より研究所にてマルチコアプロセッサの研究開発・携帯等の組み込み機器向け実用化を推進。2003年研究部長、2007年より現職。

CGMの現在と未来：初音ミク、ニコニコ動画、ピアプロの切り拓いた世界 3月10日（水）15:30-17:30【第2イベント会場（法文1号館2F 25教室）】

【全体概要】

ヤマハ株式会社のVOCALOID技術に基づいた歌声合成ソフトウェア「初音ミク」を、クリプトン・フューチャー・メディア株式会社が2007年8月31日に発売して以来、多くの人々が多様な創作活動を繰り広げ、その作品を株式会社ニワンゴ（ドワンゴ）の運営する「ニコニコ動画」上に投稿してきた。そして、ニコニコ動画が持つ「擬似同期型アーキテクチャ」が基盤となり、CGMサイト「ピアプロ」等によるコンテンツ素材の共有も進んだことで、コンテンツの2次、3次創作といった「N次創作」に基づく作品が活発に生み出されている。これは、CGM（Consumer Generated Media）の未来を切り拓く画期的な現象であり、日本は海外に対して圧倒的に優位に立っていると言える。本セッションではこれらを背景に、VOCALOIDの生みの親の剣持氏、ピアプロの生みの親で初音ミク販売元の伊藤氏、ニコニコ動画の生みの親の戀塚氏、擬似同期型アーキテクチャとN次創作の概念の生みの親の濱野氏と共に、CGMの現在と未来を議論する。



司会：後藤 真孝（産業技術総合研究所 情報技術研究部門）

【略歴】

1998年早稲田大学大学院理工学研究科博士後期課程修了。博士（工学）。同年、電子技術総合研究所に入所し、2001年に改組された産業技術総合研究所において、現在、情報技術研究部門メディアインタラクション研究グループ長。統計数理研究所 客員教授、筑波大学大学院 准教授（連携大学院）、IPA 未踏ユースPMを兼任。ドコモ・モバイル・サイエンス賞 基礎科学部門 優秀賞、科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞、情報処理学会 長尾真記念特別賞等、25件受賞。CGM文化の発展のために「VocaListener（ほかりす）」を中野倫靖と共に研究。

15:30-15:50 講演（1）「歌声合成の過去・現在・未来」

剣持 秀紀（ヤマハ株式会社 サウンドテクノロジー開発センター）

【講演概要】

最近、「初音ミク」を筆頭に歌声合成ソフトウェアVocaloidを用いた楽曲が人気となっている。本来Vocaloidは、歌詞と音符を入力すると歌声に変換して出力される単なる音楽制作のツールであるが、それがソフトウェアとしての枠組みを超えたムーブメントとなっているのは開発者から見ても大変興味深い。本講演では、まずそもそもなぜ歌声合成が必要なのかということについて考えると同時に、過去の歌声合成技術について簡単に紹介する。また、現状のVocaloid歌声合成システムの内部の合成手法について説明し、最後にVocaloidを含む歌声合成技術が今後どのように進んでいくのかを議論する。



【略歴】

1993年京都大学大学院工学研究科修士課程修了。

同年ヤマハ（株）入社。音響関係の研究開発に従事。

1996年エル・アンド・エイチ・ジャパン（株）に出向。音声合成に関する技術開発に従事。

1999年ヤマハ（株）復職。以降、VOCALOIDを含む歌声、音声信号処理に関する研究開発を続けている。

15:50-16:10 講演 (2) 「初音ミク as an interface」
伊藤 博之 (クリプトン・フューチャー・メディア株式会社)

【講演概要】

「初音ミク」は、当社が2007年夏に発売した「歌を歌う」ソフトウェアである。DTM向けのニッチな製品にも関わらず、既に5万本以上を出荷し、音楽ユーザーに限らない多分野のクリエイターを巻き込んだムーブメントが形成されている。本講演では、「初音ミク」をクリエイター同士（または観客同士）を結び付ける「インターフェース」の視点で見たとき、そこに求められる仕様と、著作権法とのコネクティビティ、また「ピアプロ」を通じて皆様に提供している利用許諾システムの概要について述べる。その上で、広くコンテンツ産業の将来のあり方について展望をまとめる。



【略歴】

北海道大学に勤務の後、1995年7月札幌市にてクリプトン・フューチャー・メディア株式会社を設立、代表取締役役に就任。会社のスローガンは、『音で発想するチーム』。世界各国に50数社の提携先を持ち、100万件以上のサウンドコンテンツをライセンス取引しているほか、DTMソフトウェア、携帯コンテンツ、音楽配信など、音を発想源とした製品・技術開発を、フラットな社内体制のもと日々進めている。北海道情報大学客員教授も兼任。

16:10-16:30 講演 (3) 「運営側から見たニコニコ動画の現在と未来」
戀塚 昭彦 (株式会社ドワンゴ 研究開発本部)

【講演概要】

ニコニコ動画内外の様々な現象が有機的に繋がって、CGMに関する良い循環が起きている。例えば、初音ミクという創作に適した素材とそのキャラクター性によって、視聴参加者が集まり、全体ランキングシステムがその「注目」を露出させた。タグなどの横の繋がりと、ユーザー側の「動画紹介動画」や外部のSNSを通じた共有、「ニコニコ技術部」も良い影響を及ぼし合っている。こうした外部コミュニティは重要で、私自身もtwitterや「はてなブックマーク」を通して意見・問題を吸収し、改善したり説明をしたりと活用してきた。多数の参加者を集めて維持することが、創作発表の場を支えるインフラとして重要である一方、創作者軽視と誤解されないようにする悩みもある。ニコニコ動画の非同期性とニコニコ生放送の同期性がコミュニティ形成の両輪となる点も考察したい。



【略歴】

1990年代、PC-9801、DOS/VからWindowsにかけて、Bio_100%ブランドの一員としてオンラインでゲームやゲーム開発用のライブラリなどを開発、公開。
1999年ドワンゴ入社。
2006年10月からニコニコ動画のリリース前プロトタイプを開発し、以後「ニコニコ動画 開発総指揮」として技術を担当。現在もコメントサーバーシステムを直接継続開発している。

16:30-16:50 講演 (4) 「日本のネットカルチャーはどこへ向かうのか：ニコニコ動画の「擬同期型アーキテクチャ」と「N次創作」の先に」
濱野 智史 (株式会社日本技芸)

【講演概要】

2000年代後半の日本のネット社会において、「ニコニコ動画」は極めて大きなCGMとしての存在感を有してきた。とはいえそれは、一般的には単なる「若者特有のサブカルチャー」の域を出ないものと思われているかもしれないが、筆者の考えではそれは異なる。ニコニコ動画は、筆者がいうところの「擬同期型アーキテクチャ」や「N次創作」といった点において、他国のネット文化には見られない日本特異な「イノベーション現象」、いや「アヴァンギャルド運動」といっていいだろう。それでは果たしてニコニコ動画を生み出した私たち日本社会は、2010年代に果たしてどこへ向かっていくのか/いくべきなのだろうか。本講演ではこの問題について考察を行いたい。



【略歴】

1980年生。株式会社日本技芸リサーチャー。
慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程修了、国際大学グローバル・コミュニケーション・センター研究員を経て現職。専門は情報社会論(社会学・メディア論)。「ニコニコ動画」研究の第一人者としても知られる。
著書に『アーキテクチャの生態系』(NTT出版、2008年)、主な論文に「ニコニコ動画の生成力」(『思想地図 vol. 2』NHK出版、2008年)など多数。

16:50-17:30 パネル討論 「初音ミク、ニコニコ動画、ピアプロはどのような世界を切り拓くのか」

【討論概要】

近年、初音ミク関連以外にも、コンテンツ著作者自身がN次創作を推奨したり、マッシュアップを想定してコンテンツを提供したりする事例が国内外で増えてきた。こうした現象も視野に、4人の講演を通じて、N次創作に基づくコンテンツの生態系ともいえる新たなCGMのあり方を見極めつつ、初音ミク、ニコニコ動画、ピアプロあるいはそれ以外の社会装置が今後果たしていく役割とそれらの切り拓く未来世界を議論する。

司 会：後藤 真孝 (産業技術総合研究所 情報技術研究部門)

略歴・写真は「CGMの現在と未来：初音ミク、ニコニコ動画、ピアプロの切り拓いた世界」司会紹介を参照。

パネリスト：剣持 秀紀 (ヤマハ株式会社 サウンドテクノロジー開発センター)

略歴・写真は講演(1)「歌声合成の過去・現在・未来」を参照。

伊藤 博之 (クリプトン・フューチャー・メディア株式会社)

略歴・写真は講演(2)「初音ミク as an interface」を参照。

戀塚 昭彦 (株式会社ドワンゴ 研究開発本部)

略歴・写真は講演(3)「運営側から見たニコニコ動画の現在と未来」を参照。

濱野 智史 (株式会社日本技芸)

略歴・写真は講演(4)「日本のネットカルチャーはどこへ向かうのか：ニコニコ動画の「擬同期型アーキテクチャ」と「N次創作」の先に」を参照。

パネル討論「情報処理グランドチャレンジ」 3月11日(木) 9:30-12:00【第2イベント会場(法文1号館2F 25教室)】

【全体概要】

1960年4月22日に創立された情報処理学会は、2010年に50周年を迎えます。人類が大きな節目として認識している世紀という単位の折り返し点に到達した今、情報処理学会として活動をはじめた50年前から今までの間に試みられたこと、成し遂げたこと、できなかったことを視野に入れて、これからの50年で何が価値ある挑戦かを明確にすることが重要だと思われます。本パネル討論では、情報処理において新たな分野を切り開いてきた先駆者をパネリストに迎え、情報処理のグランドチャレンジと呼ぶにふさわしい課題を浮き彫りにすることを目指します。その課題がどのような背景から生まれてきたものか、どうしてその課題に挑むことに意義があるのか、その課題がなぜ難しいのか、解くためにはどのようなアプローチがあるのか、チャンスはどこにありそうか、解くためにはどのようなコストが必要か、そしてその課題が解けたらどのようなインパクトがもたらされるのか、多面的に議論しながら核心に迫ります。



司会：西田 豊明(京都大学 情報学研究所 教授)

【略歴】

京都大学大学院修士課程修了(工学博士)。奈良先端科学技術大学院大学教授、東京大学教授を経て、2004年4月京都大学大学院情報学研究所教授に就任。現在に至る。会話情報学、原初知識モデル、社会知のデザインの研究に従事。日本学術会議連携会員(2006～)、人工知能学会副会長(2008～)、IFIP TC12日本代表(2005～)、国立情報学研究所運営会議委員(2008～)、情報処理学会フェロー、電子情報通信学会会員。

9:30-10:00

基調講演「問題提起：情報処理グランドチャレンジ」

所 眞理雄((株)ソニーコンピュータサイエンス研究所 代表取締役社長)

【講演概要】

情報処理のこれまでのグランドチャレンジの歴史を振り返り、その意味を確認する。その後、現在人類が対処すべき課題とその先にある大きな夢に思いを馳せ、情報科学・情報技術が何をすべきか考察し、パネルディスカッションの導入とする。



【略歴】

慶應義塾大学大学院博士課程修了(工学博士)。同大学助手、専任講師、助教授を経て、1991年教授に就任。その間、カナダ・ウォータールー大学、米カーネギーメロン大学訪問助教授を歴任。1988年株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所を設立、取締役副所長(兼務)に就任。1998年代表取締役社長に就任し、現在に至る。1997年慶應義塾を退職、ソニー株式会社に入社、執行役員上席常務に就任。IT研究所長、Co-CTOなどを歴任、2008年に退任。2009年慶應義塾特別研究教授に就任。

10:00-12:00

パネル討論「情報処理グランドチャレンジ」

司会：所 眞理雄((株)ソニーコンピュータサイエンス研究所 代表取締役社長)

略歴・写真は基調講演「問題提起：情報処理グランドチャレンジ」を参照。



宇川 彰(筑波大学 数理工学研究所物理学専攻・計算科学研究センター素粒子宇宙部門 副学長・教授)

【略歴】

東京大学大学院博士課程修了(理学博士)。コーネル大学、CERN、プリンストン大学の研究員を経て、1981年東京大学原子核研究所助教授。1985年筑波大学助教授、1990年同教授、1998年～2007年同計算物理学研究センター長及び計算科学研究センター長。2008年筑波大学学長特別補佐(研究戦略・情報化戦略担当)、2009年同副学長(企画評価・情報担当)。計算素粒子物理学を専門とし、大規模シミュレーションによる格子QCDの研究に従事。CP-PACSプロジェクト以来、PACS-CSプロジェクト等の計算科学のためのスーパーコンピュータ開発にも従事。



北野 宏明((株)ソニーコンピュータサイエンス研究所 取締役所長)

【略歴】

1984年国際基督教大学教養学部理学科(物理学専攻)卒業後、日本電気(株)に入社、ソフトウェア生産技術研究所勤務。1988年より米カーネギー・メロン大学客員研究員。1991年京都大学博士号(工学)取得。1993年ソニーコンピュータサイエンス研究所入社。2008年同取締役所長、現在に至る。

特定非営利活動法人システム・バイオロジー研究機構会長。東京大学客員教授。慶應義塾大学大学院理工学研究科客員教授。財団法人癌研究会 癌研究所 システムバイオロジー部 部長。ロボカップ国際委員会ファウンディング・プレジデント。



喜連川 優(東京大学 生産技術研究所 教授)

【略歴】

東京大学生産技術研究所教授。2003年より同所戦略情報融合国際研究センター長。文部科学官、データベース工学、Webアーカイブ・マイニング、グリーンストレージ、ペタバイト級超大容量地球環境デジタルライブラリに関する研究に従事。文部科学省特定領域研究「情報爆発IT基盤」領域代表、経済産業省情報大航海プロジェクト戦略委員長、初代情報大航海コンソーシアム会長。本会副会長。

関係データベースの生みの親である故Codd博士(IBM)の名を冠したACM SIGMOD Edgar F Codd Innovation Award受賞。



坂村 健(東京大学 情報学環 教授)

【略歴】

1979年慶應義塾大学大学院工学研究科博士課程修了、工学博士。1984年からオープンなコンピュータアーキテクチャTRONを構築。ユビキタス環境のための組込OSとして世界中で多数使われている。さらに、コンピュータを使った電気製品、住宅、ビル、ミュージアムなど広範なデザイン展開を行っている。2002年1月よりYRPユビキタス・ネットワークング研究所長を兼任。IEEEフェロー、ゴールデンコアマメンバ。2003年紫綬褒章、2006年日本学士院賞。

人間環境センシングの可能性と将来

3月9日(火) 9:30-12:00 [第3 イベント会場 (法文1号館 1F 21教室)]

[全体概要]

現実世界の状況を計算機が理解できるようになると、実現できることがたくさんあります。例えば人間の日常生活習慣を定量的にセンシングできれば、生活習慣病への対策ができ医療の発展に貢献できます。また周囲の環境をリアルタイムに観測できれば、農業の効率化や環境対策に寄与できます。本セッションでは、このような人間の行動や周囲の環境をセンシングし理解することによって可能となる応用や将来の方向性について、講演とパネルディスカッションにより議論します。



司会: 井上 創造 (九州工業大学 大学院工学研究院基礎科学研究系 准教授)

[略歴]

2002年九州大学大学院システム情報科学研究科博士後期課程修了・博士(工学)。2002年より同システム情報科学研究院・システムLSI研究センター助手。2006年より同附属図書館研究開発室助教授(准教授)。2009年より現職。データベース管理システムおよびセンサ情報システムの医療応用、個人情報保護に興味を持つ。IEEE、ACM、日本データベース学会、情報処理学会、電子情報通信学会会員。

9:30-9:55

講演(1)「情報化農業とGAP」

岡安 崇史 (九州大学 大学院農学研究院生産環境科学部門 生物生産工学研究室 准教授)

[講演概要]

農業生産は、気象環境、地形や圃場条件に強く影響される。このため、農地の気温、日射量、土壌温度(水温)、土壌水分等の気象情報、作物生育情報、農作業履歴等は、作物の生育状況の把握や、灌漑・排水、施肥、除草・農薬散布、収穫等の適期判断のための重要な情報である。近年では、情報通信技術を援用して、農地の気候情報、作物生育画像、農作業履歴等の情報を高精度に計測・収集し、例えば、作物の移植時期の推定、病害虫発生の予測、農薬・施肥の管理、収穫適期の判断、作物品質の判定等に活用しようとする試みが行われている。本講演では、このような情報化農業の一端を説明するとともに、現在世界的に導入が進められている新しい農場・農作業管理手法(GAP)についても紹介させていただく。



[略歴]

1999年3月 九州大学大学院農学研究科博士後期課程農業工学専攻修了。1999年3月 博士(農学・九州大学)の学位取得。1999年4月 九州大学ベンチャービジネスラボラトリー非常勤講師。2001年4月 九州大学大学院農学研究科学術特定研究者。2002年1月 九州大学大学院農学研究科助教授。2007年4月 九州大学大学院農学研究科准教授
至現在

9:55-10:20

講演(2)「人間の感情・心理情報の定量計測可視化の現状」

光吉 俊二 (株式会社AGI 代表取締役社長)

[講演概要]

我々は1999年より音声感情測定技術を開発商品化してきたが、未だに感情や心理の真値がなにかを研究している。fMRIや生理データとの比較、本人や他者の主観との比較、将来の薬剤による神経遮断でのパラメータ導出の可能性など、この分野での実績と今後のテーマを説明する。同時に、多くの研究機関や商品に採用されている現状を紹介し、非明示な雰囲気コミュニケーションでの展開から社会での応用、そして人の幸せに繋がるシステムの開発までを説明する。



[略歴]

多摩美術大学 美術学部彫刻科卒業 / 徳島大学 大学院工学研究科 博士後期課程修了 / スタンフォード大学 Robotics Laboratory 客員研究員(～2004) / 慶應義塾大学 主席研究員(訪問・2009～) / 東京大学 非常勤講師(2009～)。

10:20-10:45

講演(3)「携帯端末を用いたグローバル行動情報収集プラットフォーム」

井上 創造 (九州工業大学 大学院工学研究院基礎科学研究系 准教授)

[講演概要]

携帯端末を用いて人間の行動を把握できれば、工業や農業の生産性向上や環境改善、健康や医療の効率化に活用できる。本講演では、iPhone/iPod Touchを用いて大規模な行動情報を収集し、その情報をマイニングし理解する取り組みの現状と今後の発展を紹介する。

略歴・写真は「人間環境センシングの可能性と将来」司会紹介を参照。

10:45-11:10

講演(4)「Peta-Tech: ライフログの自動化とペタマイニング」

西尾 信彦 (立命館大学 情報理工学部 情報システム学科 教授)

[講演概要]

Android携帯端末は実世界指向のセンシングシステムのための携帯電話プログラミングを真の意味で現実化したプラットフォームである。筆者らはこれを適用したライフログの自動化プロジェクトとそれを実現するペタマイニング機構の実現を研究開発しており、その成果と展望を報告する。



[略歴]

東京大学工学部計数工学科、理学系研究科情報科学専攻を経て、1993年より慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスに勤務。2003年より現職。博士(政策・メディア)。

11:10-12:00 パネル討論「行動センシングの可能性と将来」

[討論概要]

人間の行動や周囲の環境をセンシングし理解することによって可能となる応用や将来の方向性について、どのような道筋をつけることが重要かを議論する。

司 会：井上 創造（九州工業大学 大学院工学研究院基礎科学研究系 准教授）

略歴・写真は「人間環境センシングの可能性と将来」司会紹介を参照。

パネリスト：岡安 崇史（九州大学 大学院農学研究院生産環境科学部門 生物生産工学研究室 准教授）

略歴・写真は講演(1)「情報化農業とGAP」を参照。

光吉 俊二（株式会社 AGI 代表取締役社長）

略歴・写真は講演(2)「人間の感情・心理情報の定量計測可視化の現状」を参照。

西尾 信彦（立命館大学 情報理工学部 情報システム学科 教授）

略歴・写真は講演(4)「Peta-Tech: ライフログの自動化とベタマイニング」を参照。

パネリスト：河口 信夫（名古屋大学 大学院工学研究科 計算理工学専攻 基盤計算科学講座 教授）

[略歴]

1995年名古屋大学大学院工学研究科情報工学専攻博士後期課程満了、名古屋大学助手、講師、助教授(准教授)を経て2009年より同大教授。モバイルコンピューティング、ユビキタスコミュニケーション、スマートルーム、位置情報システムに関する研究に従事。博士(工学)。



我が国における新世代ネットワーク

3月9日(火) 15:30-17:30 [第3 イベント会場 (法文1号館1F 21教室)]

[全体概要]

ユビキタスネットワークの進展、アクセス網のブロードバンド化、コンテンツのリッチ化などネットワークを巡る環境は日々変化している。現在のIPネットワークはIPパケット損失の発生や、セキュリティ・サービス品質の不足、ネットワークの拡張・高度化の限界、複雑化による機能の不整合の発生等様々な課題を抱えている。そこで、次世代ネットワークの次の世代を見据え、10年・20年先の社会を支えるインフラとして、既存のIPネットワークの課題・限界を抜本的に解決する新世代ネットワークの構築が求められている。ここでは、新世代ネットワークとはどのようなものかを技術面だけでなく、海外動向や新世代ネットワークが要求される場面（医療等）等の社会経済的側面からの検討を踏まえ、分かりやすく紹介する。



司会：中尾 彰宏（東京大学 大学院情報学環 准教授）

[略歴]

東京大学理学部物理学科卒業（1991年）、東京大学大学院工学系研究科情報工学専攻修士修了（1994年）、IBM Texas Austin 研究所、IBM 東京基礎研究所（1994年）などを経て、米国 Princeton 大学大学院情報科学科にて修士及び博士取得（2005年）、東京大学大学院情報学環助教授（2005年）、ACM SIGCOMM Conference External Reviewer（2005年）、新世代ネットワーク推進フォーラム アセスメントワーキンググループ副主査（2007年）

15:30-16:00 講演(1)「新世代ネットワークの研究展開と課題」

青山 友紀（慶應義塾大学 デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構 教授）

[講演概要]

2020年代以降の社会の要請を満たすネットワーク技術を既存IPネットワークの改良ではなく clean-slate で研究開発する新世代ネットワーク（欧米では Future Internet と呼ぶ）について、世界の研究状況を俯瞰するとともに、その課題について考察する。



[略歴]

東京大学大学院修士課程修了（1969年）。同年、日本電信電話公社入社。以降、電気通信研究所にて情報通信システム、広帯域ネットワーク等の研究に従事。米国 MIT 客員研究員（1973年）、NTT 光ネットワークシステム研究所所長（1995年）、東京大学工学系研究科教授（1997年）、慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構教授（2006年）、（独）情報通信研究機構プログラムコーディネータ、東京大学名誉教授、工学博士、日本学術会議会員、電子情報通信学会会長、IEEE Fellow、グローバルクラウド基盤連携技術フォーラム会長、新世代ネットワーク推進フォーラム副会長など。

16:00-16:30 講演(2)「新世代ネットワークの戦略的活用」

須藤 修（東京大学 大学院情報学環 教授）

[講演概要]

2020年代以降の社会の要請のなかでも特に重要と考えられる保健医療の在り方、ネットワークロボットを活用した生活空間の在り方、環境問題への対応にみられる公共的意思決定の在り方、以上3点に焦点を当てて、新世代ネットワークをどのようにに活用すべきか、これまで新世代ネットワークフォーラムアセスメントWGで検討してきた結果を報告するとともに、これからの社会のガバナンスについて展望する。



[略歴]

東京大学大学院経済学研究科博士課程修了（1985年）、経済学博士。参議院商工委員会客員調査員（1997年）、政府「IT新改革戦略評価専門調査会」委員、「電子政府評価委員会」座長（2006年～）、政府「次世代電子行政サービス基盤検討プロジェクトチーム」座長（2007年～）、政府「情報セキュリティ政策会議情報セキュリティ基本計画検討委員会」委員長（2008年）、総務省「電子自治体の推進に関する懇談会」座長（2007年～）など。

16:30-17:00 講演 (3) 「新世代ネットワークを実現するアーキテクチャ設計と構成技術」
原井 洋明 (独立行政法人 情報通信研究機構 新世代ネットワーク研究センター ネットワークアーキテクチャグループ グループリーダー)

【講演概要】

情報通信研究機構を中心とした新世代ネットワークプロジェクトであるAKARIアーキテクチャ設計プロジェクトの概要を紹介する。本プロジェクトでは、現在の制約にとらわれず、2015年以降の社会要求と実現可能技術を制約とするという視点でネットワーク設計を実施し、実証のための研究開発を実施している。本講演では、上記の概要を紹介するとともに、移動通信やセキュリティに貢献するID・ロケータ分離階層構造、新しいネットワーク実証の場でありアーキテクチャであるネットワーク仮想化技術、エンドトゥエンドの接続性と品質保証の対極にあるサービスを提供するパケット・パス統合ネットワーク技術などについて紹介する。



【略歴】

大阪大学大学院博士課程修了後、通信総合研究所(現在の独立行政法人 情報通信研究機構(NICT))に入所(1998年)。ネットワークアーキテクチャグループリーダーとしてAKARIアーキテクチャ設計プロジェクトを主導(2008年9月～現在)。ネットワークアーキテクチャ、光パケット交換ネットワーク、光グリッド基盤等の研究開発を歴任。第3回IEEE ComSocアジア太平洋 Outstanding Young Researcher 表彰(2007年)。博士(工学)。

17:00-17:30 講演 (4) 「JGN-2plus とその後」
井上 友二 (社団法人 情報通信技術委員会 理事長)

【講演概要】

新世代ネットワークの研究開発では、そのチャレンジする技術の革新性もさることながら、その成果を社会に広く普及させるために、画期的な産官学ならびに地域社会やアジア諸国との連携を行っている。その範囲は、単に情報通信分野だけでなく自然科学から生活密着型アプリケーション開発まで広範囲に亘っている。ここでは、JGN-2plusとして現在活動している最新情報をご紹介しますと共に、その後継となるテストベッドの検討状況をご紹介します。さらには、日本の産業構造を「箱物型から人々の生活を豊かにする産業」へ転換するための萌芽的なアジア連携トライアルについても紹介する。



【略歴】

九州大学大学院工学研究科修士課程修了(1973年)、同年日本電信電話公社に入社し、網同期発振器、デジタル加入者線伝送方式等の研究実用化及びCCITT SG-XVIII(現ITU-T SG13)での各種の標準化等に従事。工学博士(1986年九州大学)、NTTマルチメディアネットワーク研究所長(1998年)、モンゴル技術大学名誉教授(1999年)、NTTデータ取締役(2000)、(社)情報通信技術委員会 理事長(2007～現在)

e-Health時代の医療情報処理アプローチを考える
共催：日本医療情報学会
3月10日(水) 9:30-12:00 [第3イベント会場(法文1号館1F 21教室)]

【全体概要】

保健・医療・介護という包括的なヘルスケアを支援する電子化健康記録(Electronic Health Record, EHR)実現に向け、医療情報学的課題と情報処理学的解決について、「e-Health」の観点から議論する。

「e-Health」とは、広義には電子化された個人情報の通信・処理によって支援されたヘルスケアの意味であるが、狭義にはインターネットを活用した個人のヘルスケア支援と、医学研究利用・行政の意思決定支援等を対象とする。

このため、広域、特にインターネット環境下での個人診療情報のセキュリティ・プライバシー保護、データ交換・知識表現の標準化、データウェアハウスの設計とデータ抽出の方法論などでは、ヘルスケア固有の技術・知識と情報科学、工学、社会倫理学など多くの学問領域との連携が強く求められている。ここでは、関連する学問領域間のより密接な連携の実現を目指して総合的な討論を行う。



司会：武田 裕 (大阪大学大学院 医学系研究科 教授)

【略歴】

1971年 大阪大学医学部卒業。第一内科で循環器疾患の臨床研修。シカゴ大学臨床薬理部留学。文部省学術調査官などを経て、第一内科講師。1987年 大阪大学病院 医療情報部助教授。1998年 同教授。内閣府参事官(科学技術政策)を3年間併任。2001年 同附属病院 中央クオリティマネジメント部 部長(2007年10月まで併任)。2006年1月中之島センター センター長。その他、国際医療情報学会副会長。2002年 国立大学附属病院医療安全管理協議会 会長。日本医学会総会(2007年 大阪)企画展示委員長。医療の質・安全学会 大会長(2009年 東京)

9:30-9:40 講演 (1) 「e-Health時代の医療情報処理アプローチを考える」
武田 裕 (大阪大学大学院 医学系研究科 教授)

【講演概要】

保健・医療・介護という包括的なヘルスケアを支援する電子化健康記録(Electronic Health Record, EHR)実現に向け、医療情報学的課題と情報処理学的解決について、「e-Health」の観点から議論する。

「e-Health」とは、広義には電子化された個人情報の通信・処理によって支援されたヘルスケアの意味であるが、狭義にはインターネットを活用した個人のヘルスケア支援と、医学研究利用・行政の意思決定支援等を対象とする。

このため、広域、特にインターネット環境下での個人診療情報のセキュリティ・プライバシー保護、データ交換・知識表現の標準化、データウェアハウスの設計とデータ抽出の方法論などでは、ヘルスケア固有の技術・知識と情報科学、工学、社会倫理学など多くの学問領域との連携が強く求められている。ここでは、関連する学問領域間のより密接な連携の実現を目指して総合的な討論を行う。

略歴・写真は「e-Health時代の医療情報処理アプローチを考える」司会紹介を参照。

9:40-10:00 **講演 (2) 「EHR と社会基盤の動向」**
山本 隆一 (東京大学 大学院情報学環 准教授)

【講演概要】

我が国における健康・医療情報活用基盤は沖縄県浦添市における厚労省・総務省・経産省の3省連携による健康情報活用基盤実証事業や自治体の情報化を推進する地域情報化推進協議会での検討およびプラットフォーム推進事業などで検討・実証が行われ、一定の成果を上げるとともに、情報の二次利用のあり方など、いくつかの問題点も浮き彫りになってきている。本講演では我が国のEHR/PHRの状況を外観するとともに社会保障カード(仮称)やその他の施策との関連を論じ、解決すべき課題の中で代表的な健康・医療情報の二次利用とプライバシー保護の関係について論ずる。



【略歴】

医学博士・医師。1952年大阪市生まれ。大阪医科大学を卒業後、大阪医科大学第1内科、松下記念病院、聖路加国際病院を経て大阪医科大学病院医療情報部助教授。2003年3月より現職。研究内容は、医療情報の安全管理、医療におけるプライバシー保護のあり方、医療における公開鍵基盤の応用、医療従事者の権限管理モデル、医療コミュニケーション論等。著書(分担執筆)は「医療の個人情報保護とセキュリティ(有斐閣)」等。日本医療情報学会会長・理事長。

10:00-10:20 **講演 (3) 「e-Healthのための医療情報の標準化」**
大江 和彦 (東京大学大学院医学系研究科 医療情報経済学分野 教授)

【講演概要】

健康医療情報はさまざまな場所や機関で、生涯のいろいろな時期に発生する。同じ種類の情報でも時代によって精度や意味も異なる。e-Healthではこうしたデータを電子化して健康管理や医療サービスに役立てようというわけだが、本人がアクセスできればいいだけなら個人ブログで良いが、専門家たる医療者が記録しておかなくては不正確で医療者には役立たないデータも多く、安全な医療のためには信頼のおけないデータは存在しないほうが安全である。専門家が再利用できる質のデータを多施設で経時的に何十年分も集積し、それを専門家が分析・活用しようとするなら、データ形式の標準化や意味の相互互換性を確保しておく必要がある。



【略歴】

1984年 東京大学医学部医学科卒業。1989年 東大病院中央医療情報部助手、同講師、助教授を経て1997年東京大学大学院医学系研究科医療情報経済学教授(現在に至る)、東大病院企画情報運営部長を兼任。2007年より 東京大学医学部附属図書館長 を兼任。2008年より東大病院パブリック・リレーションセンター長を兼任。この間2003年度～2004年度東大病院副院長、2003年度～2005年度 東京大学総長補佐を兼務。日本医療情報学会理事。内閣官房 医療評価専門調査会、厚労省 社会保障審議会統計分科会専門委員、厚労省 平成18年度「標準的な健診・保健指導の在り方に関する検討会」、厚労省 社会保障カード検討会などの委員

10:20-10:40 **講演 (4) 「特定非営利活動法人 長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会「あじさいネットワーク」の取り組みについて」**
柴田 真吾 (公益社団法人地域医療振興協会 市立大村市民病院 医療情報企画部 部長, 医療安全管理部 部長, 地域医療連携室 室長, 診療情報管理室 室長, 麻酔科医長)

【講演概要】

長崎地域医療連携ネットワークシステム(通称「あじさいネット」)は、特定非営利活動法人長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会が運営を行っている、ITネットワークを利用し地域医療の質を向上する地域医療連携の取り組みである。かかりつけ医と中核病院が十分な時間をかけ検討・企画・運営を行い実施されており、国や自治体からの補助・助成などを受けずに独自運営を実現している。現在、あじさいネットの参加機関は2009年12月現在、7つの情報提供病院と100を超える接続機関になっている。本講演では、あじさいネットの取り組みを紹介するとともに、平成15年からこれまでに検討してきた課題や未解決の問題、技術的・学術的問題点などを紹介する。



【略歴】

平成6年福岡大学医学部卒。同年長崎大学麻酔科入局。大村市立病院心臓血管病センター麻酔科、長崎大学医学部付属病院集中治療室、同手術部、大村市立病院心臓血管病センター麻酔科を経て現職。平成16年より稼働している「あじさいネット」を運営するNPO法人長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会の理事であり運営委員。

10:40-11:00 **講演 (5) 「Microsoft HealthVaultの目指すもの」**
大井川 和彦 (マイクロソフト株式会社 パブリックセクター 執行役 常務)

【講演概要】

弊社が米国で展開しているPersonal Health Record(医療機関や保険会社だけでなく、エンドユーザー自身が自分の医療記録を管理し、必要な時にいつでも、どこでもオンラインでアクセスできるようにする)サービスがいくつか始まっています。そのひとつがMicrosoft HealthVaultであります。ここでは、弊社の医療ソリューション、事例(日本国内外)と共に、健康情報活用基盤としてのワールドワイドでの取り組みとしてHealthVaultについてご紹介します。



【略歴】

1988年通商産業省 入省 貿易局総務課配属。1990年 大臣官房会計課予算一係長。1991年 資源エネルギー庁 石油部計画課総括係長。1992年 環境立地局環境政策課地球環境対策室室長補佐。1996年 中小企業庁 計画部振興課 課長補佐。1998年 貿易保険シンガポール事務所 初代事務所長。2001年 商務情報政策局サービス政策課 課長補佐(ユニット長補佐)。2002年 商務流通グループ流通政策課 課長補佐(政策調整官補佐)。2003年4月 マイクロソフトアジアリミテッド 法務本副本部長 兼マイクロソフト株式会社 執行役員。7月マイクロソフトアジアリミテッド 政策企画本部長 兼マイクロソフト株式会社 業務執行役員。2004年7月 執行役 公共インダストリー統括本部長。2007年7月 執行役 常務 公共インダストリー統括本部長。2008年5月 執行役 常務 パブリックセクター担当 就任

11:00-11:20 講演 (6) 「クラウドコンピューティングと医療への応用 –その期待と課題–」
浦本 直彦 (日本アイ・ビー・エム株式会社 東京基礎研究所 次長)

【講演概要】

クラウド・コンピューティングは、ネットワーク上にある計算機資源や情報サービスを、その場所や実装に関知することなく、必要な時に必要なだけ利用することを実現する技術、サービス、ビジネスモデルを指すものであり、次世代のITサービス基盤として、現在大きな注目を浴びている。本講演では、その応用分野の一つとしてヘルスケアを取り上げる。特にデータやプライバシーの保護について高い基準が要求されるこの分野において、クラウド・コンピューティングはどのような利益をもたらすのか、現在挙げられている課題をどうすれば克服できるかについて議論したい。



【略歴】

1990年 日本アイ・ビー・エム (株) 入社。
東京基礎研究所にて、自然言語処理、XMLやWebサービス関連の研究開発を経て、現在は、Webやクラウド環境におけるセキュリティや高速化などに関するプロジェクトを担当している。博士 (工学)。
2000年-2005年、国立情報学研究所客員助教授を兼務。
主な著作に、XMLand Java - Developing Web Applications (Addison Wesley, 共著)、最近では「クラウド大全」日経BP社 (共著)「クラウドの技術」ASCII (共著) などがある。

11:20-12:00 パネル討論

【討論概要】

e-Health時代の医療情報・ステークホルダの多様化を見据え、歩むべき道筋はどんなものか。ここでの討議を踏まえて、その実現に向けた継続的な研究活動を活性化したい。

司 会：武田 裕 (大阪大学大学院 医学系研究科 教授)

略歴・写真は講演 (1)「e-Health時代の医療情報処理アプローチを考える」司会紹介を参照。

パネリスト：山本 隆一 (東京大学 大学院情報学環 准教授)

略歴・写真は講演 (2)「EHRと社会基盤の動向」を参照。

大江 和彦 (東京大学大学院医学系研究科 医療情報経済学分野 教授)

略歴・写真は講演 (3)「e-Healthのための医療情報の標準化」を参照。

柴田 真吾 (公益社団法人地域医療振興協会 市立大村市民病院 医療情報企画部 部長, 医療安全管理部 部長, 地域医療連携室 室長, 診療情報管理室 室長, 麻酔科医長)

略歴・写真は講演 (4)「特定非営利活動法人長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会「あじさいネットワーク」の取り組みについて」を参照。

大井川 和彦 (マイクロソフト株式会社 パブリックセクター 執行役 常務)

略歴・写真は講演 (5)「Microsoft HealthVaultの目指すもの」を参照。

浦本 直彦 (日本アイ・ビー・エム株式会社 東京基礎研究所 次長)

略歴・写真は講演 (6)「クラウドコンピューティングと医療への応用 –その期待と課題–」を参照。

人工知能研究の新展開 –日本発世界へ–

共催：人工知能学会

3月10日 (水) 15:30-17:30 [第3イベント会場 (法文1号館1F 21教室)]

【討論概要】

人工知能研究はその誕生から50年を経て、新たな展開の時期を迎えようとしている。

人間に代表される個体の知能を真似る研究の段階がある意味で卒業し、社会の知能全体をデザインする研究の段階へと突入しつつある。

ユビキタスコンピューティングやサービス工学なども社会の知能化と深い関係を有しているが、人工知能研究者が社会の知能を考える時には自ずと他の分野の研究者とは異なるアプローチから攻めていくことになる。20世紀の自然科学を支配してきた物理学的方法論だけでは人間を含む社会の知能を考えるには不十分であると思われる。我が国の代表的な研究者をパネリストに迎えたパネル討論を行うことにより、日本から世界に向けて発信する新しい知能研究の方向を議論したい。



司会：堀 浩一 (東京大学 大学院工学系研究科 教授)

【略歴】

1979年東京大学工学部電子工学科卒業。1984年同大学院博士課程修了。工学博士。1984年国立大学共同利用機関国文学研究資料館助手。1986年同助教授。1988年東京大学先端科学技術研究センター助教授。1992年同工学系研究科助教授。1997年12月1日東京大学教授。現在に至る。現在、工学系研究科航空宇宙工学専攻に所属。先端科学技術研究センターを兼務。人工知能を中心とした情報処理システムの基礎から応用にわたる広範囲の研究・教育に従事。最近の個人的な興味を中心は創造活動支援システム。電子情報通信学会、情報処理学会、人工知能学会、日本ソフトウェア科学会、日本認知科学会、IEEE、ACM、各会員。2006年-2008年人工知能学会副会長。2008年-人工知能学会会長。



パネリスト：中島 秀之 (公立はこだて未来大学 学長)

【略歴】

公立はこだて未来大学学長。1952年西宮市生まれ。東京大学大学院情報工学専門課程修了 (工学博士)。人工知能を状況依存性の観点から研究。複雑系の情報処理とその応用に興味を持っている。マルチエージェント国際財団理事、認知科学会会長、情報処理学会副会長などを歴任。情報処理学会、人工知能学会各フェロー。主要編著書に「知能の謎」(講談社ブルーバックス)、「思考」(岩波講座認知科学8)、「Prolog」(産業図書)など。



パネリスト：山口 高平 (慶應義塾大学 理工学部 教授)

【略歴】

1979年大阪大学工学部通信工学科卒業。1984年同大学院工学研究科博士後期課程修了。同年、大阪大学産業科学研究所助手。1989年静岡大学工学部助教授。1997年静岡大学情報学部教授。2004年慶應義塾大学理工学部教授。現在に至る。工学博士。知識システム、知識発見、セマンティックWeb、オントロジーに関する研究に従事。著書として『データマイニングの基礎』(オーム社・07年大川出版賞)等。人工知能学会、電子情報通信学会、AAAI、IEE-CS等の会員



パネリスト:松原 仁 (公立はこだて未来大学 システム情報科学部情報アーキテクチャ学科 教授)

[略歴]

1981年東大理学部情報科学卒業。1986年同大学院工学系研究科情報工学専攻博士課程修了。同年通産省工技院電子技術総合研究所(現産業技術総合研究所)入所。2000年公立はこだて未来大学システム情報科学部教授。現在に至る。NPO ロボカップ日本委員会会長、観光情報学会会長など。ゲーム情報学、エンタテインメントコンピューティング、観光情報学、災害情報学などに興味を持つ。著書に「鉄腕アトムは実現できるか」、「ロボットの情報学」、「先を読む頭脳」(共著)など。



パネリスト:諏訪 正樹 (慶應義塾大学 環境情報学部 教授)

[略歴]

62年大阪生まれ。84年東京大学工学部原子力工学科卒業。89年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了(工学博士)。同年日立製作所基礎研究所入社。推論学習の研究に従事。94~96年スタンフォード大学CSLI研究所にて客員研究員。97年シドニー大学建築デザイン学科主任研究員就任。2000年より中京大学情報科学部助教授。2004年より同学部教授。2008年4月より慶應義塾大学環境情報学部教授。身体とことばのインタラクションを科学する新しい方法論としてのメタ認知に注目し、身体スキル学習、感性開拓方法論、コミュニケーション場のデザインの研究に従事している。



パネリスト:松尾 豊 (東京大学 大学院工学系研究科 准教授)

[略歴]

1997年 東京大学工学部電子情報工学科卒業。2002年 同大学院博士課程修了。博士(工学)。同年より、産業技術総合研究所研究員。2005年10月よりスタンフォード大学客員研究員。2007年10月より、東京大学大学院工学系研究科総合研究機構/技術経営戦略学専攻/知の構造化センター 准教授。専門は、Webマイニング、社会ネットワーク、人工知能。人工知能学会、情報処理学会、言語処理学会、AAAIの各会員。

JST さきがけセッション: (1)「社会応用」/ (2)「要素技術」をテーマに発表・討論 3月11日(木) 9:30-12:00 [第3イベント会場(法文1号館1F 21教室)]

[全体概要]

JSTが行っている戦略的創造研究推進事業の個人型研究「さきがけ」の情報関係2領域において現在チャレンジしている研究の発表会を中心に、研究総括が求める研究者像や、先端にいる若手さきがけ研究者がどのような研究をしているのかを知っていただき、「さきがけ」をアピールするとともに、質の高い発表を集中的に行い全国大会に貢献したいと考えます。「情報環境と人」領域には12課題、「知の創生と情報社会」領域には22課題が採択されており、今回はそれぞれ6名ずつのさきがけ研究者による発表を行います。

さきがけ「情報環境と人」研究領域 研究総括

本研究領域は、人とのインタラクションが本質的な知的機能の先端研究を行い、その成果を情報環境で共有可能なサービスの形で提供し、さらに研究領域内外の他のサービスとのネットワークングにより複合的な知能を形成していくことを目指すものです。

具体的には、人とのインタラクションが本質となる、ユビキタスコンピューティング、アンビエントインテリジェンス、知能ロボット、コミュニケーションやグループ行動支援などを実現するための知的機能の先端研究、ユーザビリティテスト、エスノグラフィ、統計分析など、利用現場における知的機能の評価研究、さらに研究成果を社会に提供するためのサービスコンピューティングを用いた知的機能のネットワークング研究を対象とします。

領域ウェブサイト: <http://www.jst.go.jp/kisoken/presto/ja/kenkyu/38infoenviro.html>



責任者:石田 亨 (京都大学 大学院情報学研究所 教授)

[略歴]

京都大学大学院情報学研究所教授

2009年よりJST さきがけ「情報環境と人」研究領域研究総括(兼務)

1980年代より人工知能、マルチエージェントシステムの研究に従事

1998年に社会情報学専攻の設立に参加して以来、コミュニティウェア、デジタルシティ、異文化コラボレーション、言語グリッドなど社会と情報の接点で研究プロジェクトを立ち上げてきた

最近では、ネットワークと多数の人々が作り上げる集合知に興味を感じている

さきがけ「知の創生と情報社会」研究領域 研究総括

本研究領域は、多様もしくは大規模なデータから、有用な情報である「知識」を生産し、社会で活用するための基盤的技術となる研究を対象とします。

具体的には、大規模データを処理するための革新的な技術、統計数理科学を応用した分析・モデル化技術、あるいは実社会から得られる多様なデータを構造化・分析して知識を抽出する技術、センサによる情報取得やシミュレーション結果等の複数のリソースから新たな知識を創出する技術などの基盤技術に加えて、獲得した知識を実社会に適用するために必要とされる、シミュレーション、データの可視化、新しい情報社会の仕組みを支える応用技術などに関する研究が含まれます。

領域ウェブサイト: <http://info.jst.go.jp/index.html>



責任者:中島 秀之 (公立はこだて未来大学 学長)

[略歴]

公立はこだて未来大学 学長

2008年より JST さきがけ「知の創生と情報社会」研究領域 研究総括(兼務)

1983年 東京大学大学院 工学系研究科情報工学専門課程修了, 工学博士

電子技術総合研究所(のち産業技術総合研究所)において情報科学部長, サイバースタディ研究センター長などを歴任
研究分野は論理プログラミング, 人工知能, マルチエージェント, ユビキタスコンピューティング, デザイン論など

さががけセッション (1) 「社会応用」

【講演概要】

「社会システムや様々な環境への応用展開に向けた研究内容や“今”的なおもしろい使い方」などをテーマとした研究課題を発表します。

9:30-9:45

【学習進化機能に基づくスパイラル・ケアサポートシステム】

高玉 圭樹 (電気通信大学 電気通信学部 人間コミュニケーション学科 准教授)

【講演概要】

本研究では、高齢化社会における介護支援に焦点を当て、高齢者・介護士・経営者それぞれが抱える問題を解決し、介護の質を向上させるスパイラル・ケアサポートシステムの構築を目指します。特に、学習進化機能を導入することにより、高齢者毎に対応した介護支援を実現し、その有効性を実際の介護福祉施設で検証します。さらに、医療と比べて体系化されていない介護支援システムの標準化とデファクトスタンダードを追求します。



【略歴】

1995年～ 全日本空輸株式会社 入社
1998年～ (株)国際電気通信基礎技術研究所 (ATR) 入所
2002年～ 東京工業大学大学院総合理工学研究所講師
2006年～ 電気通信大学電気通信学部助教授, 2008年～同准教授
マルチエージェントシステム, 分散人工知能, 強化学習, 創発的計算手法, 計算組織理論, 組織学習, 社会シミュレーションなどの研究に従事

9:45-10:00

【インタラクション理解に基づく調和的情報保障環境の構築】

坊農 真弓 (国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 助教)

【講演概要】

情報機器の発展はろう者の生活に大きな変化をもたらしてきました。例えばポケベルや携帯メールは外出先での連絡を可能にし、自宅でFAXを待つ従来の生活を一変させました。今後は映像通信技術の発展に伴い、手話を用いた映像による社会参画の機会が増えると予想されます。本研究では、遠隔地にいるろう者と聴者が対等に議論可能な場として、映像通信技術を用いた調和的情報保障環境の構築とそのガイドライン作成を目指します。



【略歴】

2002年～ ATR メディア情報科学研究所研究員等
2006年～ 京都大学大学院情報学研究科 西田・角研究室研究員
2007年～ 日本学術振興会特別研究員 (PD)
2007年～ カリフォルニア大学ロサンゼルス校, Center for Language, Interaction, and Culture (CLIC), ポスドク客員研究員
2008年～ テキサス大学オースティン校, 文化人類学部, 客員研究員
2009年～現在 国立情報学研究所コンテンツ科学研究系助教
2009年～現在 総合研究大学院大学助教 (兼任)
人と人とのコミュニケーション研究に従事

10:15-10:30

【疑似コード変換と統計解析による文書画像からの知識抽出】

寺沢 憲吾 (公立はこだて未来大学 システム情報科学部 助教)

【講演概要】

手書き文字や保存状態の悪い文書など、従来の技術では「取り扱いにくい」ものであった文書画像データを、画像特徴量に基づく疑似コード変換技術を用いて「取り扱いやすい」データに変換します。これにより、近年加速的に流通量を増している文書画像データベースを対象として、ウェブ検索で一般に用いられているような全文検索が可能となるとともに、さらに進んだ統計解析による知識の抽出・知識の創出を目指します。



【略歴】

平成18年～平成19年 北海道大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー研究員
平成19年～平成20年 北海道大学博士研究員
平成20年～平成21年 JST さががけ研究員 (専任)
平成21年～現在 公立はこだて未来大学システム情報科学部助教
知識マルチメディア基盤技術の研究に従事

10:15-10:30

【金融市場における相転移の時空間構造の自動抽出と予測】

高田 輝子 (大阪市立大学大学院 経営学研究科 准教授)

【講演概要】

金融バブルのような相転移現象の制御や予測は重要な課題です。しかしこうした異常現象はデータが少なくノイズが大きいため、多くの要因が絡む複雑な構造を有するため、データから帰納的に本質的構造を抽出するのは原理的に困難です。本研究では、大規模データを有効活用する頑健かつ効率的な統計手法を用いて金融バブルの時系列構造を可視化し、発見された有用なパターンを基に因果関係解明や予測の高精度化を目指します。



【略歴】

1991年～1997年 野村総合研究所研究員, 野村投資信託委託 (現野村アセットマネジメント) 投資調査部
2002年～2004年 大阪市立大学大学院経営学研究科講師
2004年～現在 大阪市立大学大学院経営学研究科准教授
ロバストな統計手法の開発と応用, 金融市場を主とした異常時の振舞いの解析や発生メカニズムの解明に従事

10:30-10:45

【総合討論】

さがげセッション (2) 「要素技術」

【討論概要】

「人間の特質解明や情報圧縮という、重要な概念に基づく要素技術の姿」をテーマとした研究課題を発表します。

10:45-11:00 「触覚の時空間認知メカニズムの解明に基づく実世界情報提示」

梶本 裕之 (電気通信大学 電気通信学部 准教授)

【講演概要】

本研究は、実世界での最適な情報提示手法として触覚に着目し、触覚を用いた情報提示が持つ高い潜在能力を引き出すことを目指します。触覚による情報提示はリアルタイム性と直感性に優れ、視聴覚を阻害しないことから、実世界での情報提示手段として高い潜在能力を持つと考えられます。本研究では、実世界情報提示で主要と思われる閲覧と誘導という2つの行動について、皮膚感覚の時空間特性に基づいた最適設計論を確立します。



【略歴】

平成15年～平成18年 東京大学大学院情報理工学系研究科助手
平成18年～平成19年 電気通信大学電気通信学部助教授
平成19年～現在 電気通信大学電気通信学部准教授
触覚を中心としたバーチャルリアリティ、ヒューマンインタフェースについて研究

11:00-11:15 「脳活動の推定に基づく適応的な環境知能の実現」

山岸 典子 ((株)国際電気通信基礎技術研究所 脳情報研究所 主任研究員)

【講演概要】

今後のユビキタス環境では、ユーザの意図を理解し、「欲しいところに欲しい情報が、ちょうどよいタイミング」で提供されることが望まれます。本研究では、ユーザに適応的な環境知能の実現を目指し、脳活動の推定に基づいて、時々刻々と変化するユーザの注意の方向や知的作業に対する準備状況を推定する手法を開発します。これにより、情報通信技術の恩恵を自然に受けることができる適応的、親和的かつ能動的な情報環境を実現します。



【略歴】

1998-2000年 株式会社エイ・ティ・アール人間情報通信研究所 研究員
2000-2003年 国際電気通信基礎技術研究所 人間情報科学研究所 研究員
2003-現在 国際電気通信基礎技術研究所 脳情報研究所 主任研究員
2006-現在 独立行政法人情報通信研究機構未来ICT研究センター在籍出向
視覚ダイナミクスの解明に関する研究に従事 (認知心理学, 神経科学)

11:15-11:30 「実社会情報ネットワークからのプライバシー保護データマイニング」

佐久間 淳 (筑波大学大学院 情報工学研究科 准教授)

【講演概要】

ネットワーク技術の発展により「誰とどこへ行って何をした」「誰が誰にメールした・電話した」といった経済活動や人間同士の関係、人間とサービスの関係など、個人の生活に密接に関係した情報の蓄積が可能になりつつあります。詳細度の高い個人情報悪用を防ぐための慎重な取り扱いを要しますが、私たちの生活を支援する画期的なサービスを生み出す源泉ともなります。本研究では、ネットワーク構造をもつプライベートな情報の保護と活用を両立させる知識発見技術の構築を目指します。



【略歴】

平成15年4月～平成16年6月 日本アイ・ビー・エム株式会社東京基礎研究所 副主任研究員
平成16年7月～平成21年3月 東京工業大学総合理工学研究所知能システム科学専攻助手 (平成19年4月からは助教授)
平成21年4月～現在 筑波大学システム情報工学研究科コンピュータサイエンス専攻准教授
機械学習と知識発見、特にプライバシー保護データマイニングに関する研究に従事

11:30-11:45 「圧縮データ索引に基づく巨大文書集合からの関連性マイニング」

坂本 比呂志 (九州工業大学大学院 情報工学研究院 准教授)

【講演概要】

ニュース記事や特許、遺伝子データなどの多様なテキストデータの洪水からデータ同士の重要な関連性を取り出す要求が高まっています。本研究は、データ圧縮の理論を応用して冗長な部分を削ぎ落とすことで重要情報を特定し、これまでは困難であった巨大なテキストデータの集まりから、埋もれた知識の発見を目指します。



【略歴】

平成8年4月～10年12月 日本学術振興会特別研究員
平成11年1月～15年7月 九州大学大学院システム情報科学研究所助手
平成15年8月～現在 九州工業大学大学院情報工学研究院准教授
機械学習の理論と応用、ウェブマイニング、データ圧縮の理論と半構造データからの情報抽出、半構造データベースへの応用に関する研究に従事

11:45-12:00 総合討論

JST さきがけセッション：(3) 「基礎研究」 / パネル討論をテーマに発表・討論
3月11日(木) 14:30-17:00 [第3 イベント会場 (法文1号館1F 21教室)]

さきがけセッション (3) 「基礎研究」

【講演概要】

「人とのインタラクションを本質とした知的機能や手法開発・設計論構築、また現在の計算機環境を活用した人工知能の創出など、様々な基礎研究の姿」をテーマとした研究課題を発表します。

14:30-14:45 「多数人間インタラクション理解のための会話分析手法の開発」

高梨 克也 (科学技術振興機構 さきがけ研究者)

【講演概要】

グループでの情報交換や合意形成は現代社会の重要な活動の1つです。こうした活動の効率を向上させる情報処理技術の開発には、まず多数人間インタラクションの理解に資する手法を開発しなければなりません。本研究では、実社会のミーティングのフィールド調査を中心とし、従来主に2者間の会話を対象としていた会話分析の手法を拡張します。また、開発した手法をミーティングなど、多様な多数人間インタラクションの現場に適用します。



【略歴】

2000年1月～2005年3月 独立行政法人情報通信研究機構専攻研究員
2005年6月～2009年9月 京都大学学術情報メディアセンター研究員、同特定助教を経て、2009年10月より科学技術振興機構さきがけ研究員
2005年4月～2007年3月 東京大学大学院情報学環客員研究員
コミュニケーションの組織化を支える認知的・社会的プロセスの解明に従事
人工知能学会、言語処理学会、日本認知科学会、社会言語科学会、日本語用論学会各会員

14:45-15:00 「長期インタラクション創発を可能とする知能化空間の設計論」

尾形 哲也 (京都大学 大学院 情報学研究所 准教授)

【講演概要】

本研究では、人間とロボットを含む知能化空間が互いの予測と適応を繰り返すことで、動的に発展していくコミュニケーション（事象やそれを表すサイン）に着目します。実環境変化を予測する順モデルを構築し、これを能動的な環境認知、言語への変換、さらに人間行為の予測に適用します。このモデルから、知能化空間が身体の一部となったかのような「さりげない長期支援」の設計論を構築し、多様なシステムへの適用を図ります。



【略歴】

1997年～1999年 日本学術振興会特別研究員
1999年～2001年 早稲田大学理工学部助手
2001年～2003年 理化学研究所脳科学総合研究センター研究員
2003年～2005年 京都大学大学院情報学研究所講師
2005年～現在 京都大学大学院情報学研究所助教授（現・准教授）
神経力学モデルによるインタラクション創発システムに関する研究に従事

15:00-15:15 「大規模並列化によるハイパフォーマンス人工知能技術」

岸本 章宏 (東京工業大学 大学院情報理工学研究所 助教)

【講演概要】

人工知能技術において代表的な手法である探索アルゴリズムは、大規模な空間を探索し、有益な情報を求めるための基盤技術です。本研究では、大多数の計算機を利用した並列計算によって、探索アルゴリズムの超高速化を行い、現状の計算機で取り扱えるデータよりも、はるかに大規模なものを取り扱うことを可能にします。その一例として、ゲームとプランニングを研究題材として取り扱い、これらの題材で、高性能なシステムを開発します。



【略歴】

平成17年～平成19年 公立はこだて未来大学システム情報科学部助手
平成19年～平成21年 公立はこだて未来大学システム情報科学部助教
平成21年～現在 東京工業大学 大学院情報理工学研究所 助教
人工知能と並列コンピューティングに関する研究に従事

15:15-15:30 「ネットワーク理論と機械学習を用いたウェブ情報の構造化・知識化」

松尾 豊 (東京大学大学院 工学系研究科総合研究機構 准教授)

【講演概要】

本研究では、ネットワーク理論と機械学習に基づく、画期的なウェブ情報の統合・知識化アルゴリズムの構築を目指します。特に、エンティティ（人物や組織、物質、製品名等）のネットワークに着目し、目的に応じた予測のための構造化技術を構築します。大量のウェブ情報に書かれたエンティティ間の構造を抽出し、目的に応じて知識として利用するための基盤であり、ウェブの次世代「知識エンジン」につながる技術です。



【略歴】

平成14年4月～平成19年9月 産業技術総合研究所研究員
平成17年8月～平成19年9月 スタンフォード大学客員研究員
平成19年10月～現在 東京大学大学院工学系研究科総合研究機構准教授
ウェブマイニング、位置情報のデータマイニング、対話システムとウェブマイニング、およびウェブマイニングと知の構造化に関する研究に従事

15:30-15:45 「総合討論」

16:00-17:00 パネル討論「さきがけとは」

【討論概要】

さきがけ研究領域の紹介や今後領域として期待される研究課題等について、2人の研究総括と領域アドバイザーによる討論を行います。会場からの質問も受け付ける予定です。

モデレーター：原口 亮治（独）科学技術振興機構 調査役

【略歴】

2001年～ 科学技術振興事業団

パネリスト：石田 亨（京都大学 大学院情報学研究所 教授）

略歴・写真は「JST さきがけセッション：(1)「社会応用」/ (2)「要素技術」をテーマに発表・討論」責任者紹介を参照。

中島 秀之（公立はこだて未来大学 学長）

略歴・写真は「JST さきがけセッション：(1)「社会応用」/ (2)「要素技術」をテーマに発表・討論」責任者紹介を参照。



パネリスト：竹林 洋一（静岡大学 創造科学技術大学院 教授）

【略歴】

1980年～ 東京芝浦電気株式会社 総合研究所研究員

1995年～ 米国マサチューセッツ工科大学・メディア研究所・客員研究員

1989年～ 株式会社東芝 総合研究所情報システム研究所主任研究員

1996年～ 株式会社東芝 研究開発センター情報・通信システム研究所
ヒューマンインタフェース技術センター長

2000年～ 東京工業大学大学院総合理工学研究所 客員教授

2000年～ 株式会社東芝 研究開発センターヒューマンインタフェースラボラトリー技監

2002年～ 静岡大学情報学部 教授

2006年～ 静岡大学創造科学技術大学院 教授

専門分野は、ヒューマンインタフェース、人工知能



パネリスト：樋口 知之（統計数理研究所 副所長 / 教授）

【略歴】

平成元年 文部省統計数理研究所 予測制御研究系 予測理論研究部門助手

平成6年 同部門助教授

平成14年 予測制御研究系システム解析研究部門教授

平成16年 副所長（研究企画担当）就任 現在に至る

平成17年 改組に伴いモデリング研究系時空間モデリンググループ教授

現在に至る



パネリスト：安田 雪（関西大学 社会学部 教授）

【略歴】

1990年9月～1995年3月 国際基督教大学、立教大学、駒沢大学非常勤講師

1994年4月～1999年12月 立教大学社会学部専任講師、助教授

1999年10月～2000年3月 東京大学大学院総合文化研究科非常勤講師

1999年10月～2000年3月 東京大学教養学部非常勤講師

1999年12月～2000年9月 社会ネットワーク研究所所長

2002年10月～現在（有）社会ネットワーク研究所所長・取締役社長

2003年1月～現在 NPO法人グローバルビジネスリサーチセンター GBRC 社会ネットワーク研究所 所長

2004年2月16日～2008年3月31日 東京大学大学院経済学研究科・ものづくり経営研究センター 特任助教授

2008年4月1日～関西大学社会学部教授

企業活動に役立つ数理科学 ～ サービス化に向けて

3月9日(火) 9:30-12:00 [第4イベント会場(法文1号館1F 22教室)]

[全体概要]

便利になる、自動化する、という視点でITが企業活動を大きく変えてきた功績は大きなものがありますが、かなり成熟しつつあるのも事実です。一方で、最適化する・予測する、など、自動化以上のビジネス的な価値を創出するための道具としての数理科学に注目が集まっています。IT部門でなく事業部門、CIOでなくCEO/CFOにこそ訴求する活動に目を向け、各界のリーダーをお招きして最新事情・事例を紹介いただきます。



司会：田島 玲 (日本アイ・ビー・エム(株) 東京基礎研究所 部長)

[略歴]

1992年東京大学工学部工学系研究科修了。1992年-2002年日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所研究員。1997年-2000年東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻 社会人博士課程、博士(理学)。2002年-2005年A. T. カーニー(株)コンサルタント/マネージャー。2005年より日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所に勤務。2009年6月より数理科学分野を担当

9:35-10:05

講演(1)「数理科学によるビジネス最適化～IBMにおけるBAOサービスを例として～」

岡野 裕之 (IBM ビジネスコンサルティングサービス(株) ビジネス・アナリティクス&オプティマイゼーション シニア・マネージング・コンサルタント)

[講演概要]

企業がかかえるデータは爆発的に増加・複雑化している。増大したデータの多くは、それを価値に変える分析手法が確立されないまま、単に蓄積されるだけとなっている。また、データ種類が増加しているため、有用情報とノイズを峻別することが困難となっている。これらのビジネス課題の解決には数理科学が必要不可欠であるとの認識から、IBMではビジネス課題への数理科学(特にデータ解析と最適化)の適用をBAO(Business Analytics & Optimization)と呼び、サービスとして提供している。本講演ではIBMにおけるBAOサービスの事例をご紹介します。



[略歴]

IBM ビジネスコンサルティングサービス株式会社 シニア・マネージング・コンサルタント。

1990年東京農工大学数理情報工学修士課程修了。同年日本IBM入社。

IBM東京基礎研究所にて組合せ最適化アルゴリズムの研究に従事。博士(情報科学)

2009年IBMビジネスコンサルティングサービス株式会社へ向出。

10:05-10:35

講演(2)「コンピュータ科学の新しい使われ方」

西川 徹 ((株)Preferred Infrastructure 代表取締役)

[講演概要]

コンピュータ科学を活用して収益を上げている企業はとて多い。大企業だけではなく、生まれたてのスタートアップも、コンピュータ科学をフル活用して企業の成長に結び付けている。さまざまな規模の会社がコンピュータ科学を活用している今、企業の垣根をこえてさまざまなバックグラウンドの人たちがお互いの技術・知識を共有することはとても重要である。ベンチャーをやっている立場から、スタートアップの世界でどのような技術が活用されているのか、また、それが実際にはどのような企業にとって有用な技術であることを詳説する。



[略歴]

東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻修士卒。在学中はコンピュータアーキテクチャに興味を持ち、修士のときに現在の会社を設立。現在は代表取締役として会社の経営を行う。会社では、コンピュータ科学を活用したソフトウェアを開発・提供している。ビジネスに数理科学を生かすため日々コンピュータ科学の各分野を深掘りしている。http://twitter.com/preferred_jpが会社の公式Twitterアカウントである。

10:35-11:05

講演(3)「企業意思決定プロセスにおける数理系人材の活用方法」

河本 薫 (大阪ガス(株) 情報通信部 課長)

[講演概要]

企業の経営環境が複雑化するに伴い、企業意思決定プロセスにおいて論理的思考やシステムの思考の重要性が高まっている。しかし、意思決定組織は調整力や決断力に秀でるが前記思考力は十分に発揮できない場合もある。そこで、大阪ガスでは、数理系人材による組織横断的な意思決定支援を目的として「社内コンサルティング機能」と称する専任グループを10年前から本社に設置してきた。講演では、大阪ガスの「社内コンサルティング機能」を紹介し、代表的な事例を交えながら、それが意思決定組織に合理的な意思決定を促し、組織を超えた全体最適化を図り、自律的に企業思考力を高めることを示す。また、その成功条件として、数理系人材に求められる能力および意思決定組織との協調体制を説明する。



[略歴]

1989年京都大学工学部数理工学科卒業。1991年同大学院応用システム科学専攻修了。1991年大阪ガス入社。1998年～2000年米国ローレンスパークレー国立研究所客員研究員。2005年大阪大学から博士号(環境工学)授与。2008年から東京大学先端科学技術研究センターの客員研究員を兼務。2010年から神戸大学経済学部の非常勤講師を兼務。専門は、エネルギー環境政策分析およびエネルギーマーケット分析。

11:05-11:35 講演 (4) 「潜在するビジネスの価値を掘り起こす—解析の数理から戦略の数理へ」
山西 健司 (東京大学 大学院情報理工学系研究科数理情報学専攻 教授)

【講演概要】

大量なデータが溢れる現在、そこからビジネスの価値を引き出そうという試みとしてデータマイニングや各種のビジネスデータ解析手法が発達してきた。しかしながら、表層的なデータの関係性を掘り起こすだけでは、現状の分析にとどまり、未来への戦略につなげるには不十分であることがわかってきた。そこで、より深い潜在的な知識の世界へと踏み込み、その「動き」や「変化」としての“Latent Dynamics” (潜在的ダイナミクス) に注目することが重要であると考えられる。Latent Dynamics は現状分析のみならず、データに潜む本質的な構造を理解し、未来への戦略へとつながる知識を生み出す可能性を秘めている。そのような Latent Dynamics を捉えるためには、潜在的確率モデル、非定常モデル、変化分析、グラフマイニングなど様々な新しい数理的手法を有機的に結合した総合的体系が必要である。本講演では、アカデミアの立場から、Latent Dynamics をもとにビジネスの価値を掘り起こすための数理的手法の方向性を概観し、それらがいかにか「解析の数理」から「戦略の数理」へと発展できるかについて論じたい。



【略歴】

1987年東京大学工学系大学院計数工学専門課程修了。1992年東京大学 博士(工学)取得。1987年4月-2008年12月 NEC 研究所勤務、NEC 主席研究員、データマイニング技術センター長を務める。1992年-1995年 NEC Research Institute, Inc. に Visiting Scientist として出向。2009年1月より現職。

セキュリティとディペンダビリティ
3月9日(火) 15:30-17:30 [第4イベント会場(法文1号館1F 22教室)]

【全体概要】

コンピュータとインターネットに代表される情報インフラの安全・安心は社会の最重要事項の一つであり、わが国でもこのことは科学技術基本計画等に明記されている。情報のセキュリティ・ディペンダビリティに関しては、研究・教育・標準化・運用管理・政策立案等において国内外で数多くの組織・動きが見られるが、その一例として、日本学術会議情報学委員会セキュリティ・ディペンダビリティ分科会では、2008年6月「安全・安心を実現する情報社会基盤の普及に向けて」と題する提言を行った。本セッションはこれを軸として、セキュリティとディペンダビリティの統合とその問題点、喫緊に整備すべき法制度・資格認定制度、安全・安心な情報社会のために必要な政府機関とその役割、事故調査委員会、初等・中等・高等教育体制、などに関する検討を招待講演、パネル討論などを通してわかりやすく具体的にを行う。



司会：宮地 充子 (北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 教授)

【略歴】

大阪大学大学院 理学研究科 数学専攻 修士課程 修了。松下電器産業株式会社にて情報セキュリティの研究・開発に従事後、1998年北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 助教授、2001-2004年 筑波大学 非常勤講師、2002-2003年 University of California, Davis 客員研究員、2007年4月-2009年9月 京都大学大学院 情報学研究科非常勤講師、2007年10月 北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 教授に就任。2008年4月 北陸先端科学技術大学院大学学長補佐及び附属図書館長も務める。国際会議プログラム委員50件(国際会議プログラム委員長3件を含む)以上を務め、現在、日本学術会議連携会員、国際標準化機構/国際電気標準会議 ISO/IEC における編集者などを歴任。

15:30-16:10 基調講演「セキュリティとディペンダビリティ」
今井 秀樹 (中央大学 理工学部電気電子情報通信工学科 教授)

【講演概要】

日本学術会議における議論をふまえて、ITにおけるセキュリティとディペンダビリティを論じる



【略歴】

昭45東大・工・電子・博士了。工博。47横浜国大助教授。59同教授。平4東大生研教授。18中央大学教授・東大名誉教授。17産総研情報セキュリティ研究センター長兼務。電子情報通信学会理事、監事、IEEE情報理論ソサイエティ会長、国際暗号研究会理事、情報理論とその応用学会会長等を歴任。CRYPTRE座長。日本学術会議会員。IEEE Life Fellow、信学会名誉員、IACR Fellow。名誉博士(韓国、仏国)。

16:10-17:30 パネル討論「真に必要なセキュリティとディペンダビリティの実現のために」

【討論概要】

本パネルディスカッションでは、基調講演を踏まえて、日本学術会議情報学委員会セキュリティ・ディペンダビリティ分科会の提言「安全・安心を実現する情報社会基盤の普及に向けて」に対する各方面からのコメントをもとに、安全・安心を実現する情報社会基盤の普及のために我々がすべきことについて議論する。

また、情報社会基盤強化に重要な役割をもつ分野である「セキュリティ」と「ディペンダビリティ」が、情報学の各研究分野の発展に向けて、今後取り組むべき研究開発の課題についても議論する。

パネル司会：宮地 充子 (北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 教授)

略歴・写真は「セキュリティとディペンダビリティ」司会紹介を参照。



パネリスト：田中 英彦 (情報セキュリティ大学院大学 情報セキュリティ研究科 研究科長)

【略歴】

東京大学大学院工学系研究科電気工学専門課程修了。工学博士(東京大学)。東京大学にて計算機アーキテクチャ、並列処理、人工知能、自然言語処理、分散処理、メディア処理などの教育・研究に従事。東京大学大学院情報理工学系研究科長を経て、2004年4月情報セキュリティ大学院大学情報セキュリティ研究科長・教授に就任。情報処理学会功績賞、人工知能学会論文賞、ACM SIGGRAPH'99 Impact Paper Award、人工知能学会功績賞、東京都科学技術功労者表彰、経済産業大臣表彰など受賞。情報・システム研究機構教育研究評議会評議員、日本学術会議会員、IEEE Fellow、東京大学名誉教授。



パネリスト：岩野 和生（日本アイ・ビー・エム（株） 未来価値創造事業 執行役員）

【略歴】

日本アイビーエム株式会社 執行役員 未来価値創造事業 担当。1975年 東京大学理学部数学科卒業後、日本アイ・ビー・エム（株）入社。1995年から2000年まで東京基礎研究所 所長、米国ワトソン研究所を経て、2002年より先進事業、2004年よりソフトウェア開発研究所 所長を担当し、2009年より現職。情報処理学会フェロー、日本学術会議連携会員。



パネリスト：中野 正康（総務省 情報セキュリティ対策室 室長）

【略歴】

1990年・東京大学法学部卒業。同年・郵政省入省、放送行政局に配属。1992年-1993年・南カリフォルニア大学院留学、1996年-1997年・新潟県村上郵便局長、2002年-2005年・EU日本政府代表部書記官、2005年・総務省郵政行政局、2007年・総務省国際部、2009年7月-現職



パネリスト：岡本 龍明（NTT 情報流通プラットフォーム研究所 岡本特別研究室 室長）

【略歴】

東京大学工学系大学院計数工学専攻修士課程修了。工学博士（東京大学）。1978年 日本電信電話公社入社。現在、日本電信電話株式会社情報流通プラットフォーム研究所 岡本特別研究室室長、フェロー、京都大学大学院情報学研究科客員教授。日本学術会議連携会員。この間、カナダ Waterloo 大学客員助教授、AT&T Bell Laboratories 客員研究員、国際暗号学会（IACR）理事、電子情報通信学会理事、日本応用数理学会会長等を歴任。



パネリスト：松田 晃一（（独）情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター 所長）

【略歴】

昭和43年京都大学工学部卒業、昭和45年同大学院修士課程修了。電電公社に入社、データ通信システム用OSの研究開発、システムの性能評価、ソフトウェア開発技術の研究に従事。NTTコミュニケーション科学研究所長、先端技術総合研究所長などを歴任。NTTアドバンステクノロジー社代表取締役常務を経て、平成20年よりIPA IT人材育成本部長。平成21年より現職。情処学会/通信学会フェロー、日本学術会議連携会員、工学博士。

学会誌「情報処理」の未来 3月10日（水）9:30-12:00 [第4イベント会場（法文1号館1F 22教室）]

【全体概要】

学会誌「情報処理」は、本会唯一の紙メディアとなったこともあり重要性を増している。50周年の節目を迎え、今後の学会誌のあり方、情報処理研究あるいは情報処理産業における Quality Paper となってゆくために何をしてゆけばいいのかについて会員各位と討論する場として設定する。今回はIT関連における Best Quality Paper の一つであった bit 誌元編集長でいらした小山透氏をゲストとしてお招きし御講演を頂く。会員諸兄の積極的な御来場と御提案を期待する。



司会：中川 晋一（情報通信研究機構主任研究員 会誌編集委員）

【略歴】

1988年滋賀医科大学卒、医師。1996年京大院（医）終了、博士（医学）。1988年滋賀医科大学附属病院内科研修医、1996年国立がんセンター研究所研究員を経て、1998年郵政省通信総合研究所（現情報通信研究機構）、1999年同次世代インターネットグループリーダー、2002年より同主任研究員、次世代インターネット技術開発に従事、IT技術の実社会への応用（情報通信医学）に興味がある。言語処理学会、情報処理学会、日本内科学会等会員

9:40-9:55

講演（1）「学会誌「情報処理」の役割と期待」

土井 美和子（（株）東芝 研究開発センター首席技監 情報処理学会フェロー、前副会長）

【講演概要】

情報処理学会では、50周年記念事業の一つとして、論文誌や研究会技報の電子化を進めている。このように電子化が進む中でも、学会誌「情報処理」は、会員全員に紙媒体で配布されている。学会誌は「学会の顔」として、情報処理学会の過去・現在・未来を結ぶ・情報処理学会の最先端・標準化・応用などの種々の分野を結ぶなどの役割を担っている。この従来の役割に加え、ウェブを利用したデジタル販売という新たな紙媒体とは別の新たな役割も担いつつある。今後は紙媒体とウェブとを融合してさらに進化することが、情報処理学会誌に求められている。



【略歴】

1979年東京大学工学系修士課程修了。同年現在の（株）東芝研究開発センター入所。「ヒューマンインタフェース」を専門分野とし、日本語ワープロ、機械翻訳、道案内サービス、ネットワークロボットの研究開発に従事。現在、日本学術会議連携会員、東工大経営協議会委員、国立情報学研究所運営会議委員、科学技術振興機構運営会議委員、ヒューマンインタフェース学会副会長などを務める。本会フェロー、博士（工学）

9:55-10:10

講演（2）「学会誌「情報処理」の現在」

川合 慧（放送大学教授・東京大学名誉教授 会誌編集長）

【講演概要】

50周年の節目を迎える情報処理学会における学会誌の役割について考える。学会誌「情報処理」の編集方針と今後の課題について編集委員会を代表して述べる。



【略歴】

1967年 東京大学理学部物理学卒業、1996年 東京大学大学院総合文化研究科教授、現在 放送大学教授・東京大学名誉教授・理学博士、専攻：計算機科学、プログラム言語、コンピュータグラフィクス、著書：プログラミングの方法（岩波書店1988）、コンピュータ科学、東大出版会、1995。グラフィクスとマンマシンシステム、岩波書店、1995。情報とコンピューティング（オーム社 2004。）情報-Introduction to the New Information World-（東大出版会、2006）等多数。

10:10-10:25 **講演 (3) 「情報処理」の現状と課題**
武田 浩一 (日本アイ・ビー・エム (株) 会誌担当理事)

【講演概要】

会誌「情報処理」の最近の状況について、特集・解説記事の傾向やモニターコメントなどを交えて紹介する。またロングテール化する情報処理分野の多くの話題から、いかにタイムリーで会員に有益な記事を企画するののかという課題について検討する。



【略歴】

1983年日本アイ・ビー・エム入社。東京基礎研究所にて自然言語処理や機械翻訳システムの研究開発に従事。1987年～1989年米国カーネギー・メロン大学客員研究員。現在は、テキストマイニングおよび医療情報分析の研究に従事。1997年会誌基礎分野主査、2008年より会誌担当理事。

10:25-10:40 **講演 (4) 「情報処理」は止まらない**
松原 仁 (公立はこだて未来大学教授 前会誌担当理事, 現編集委員)

【講演概要】

情報処理の業界で多くの人を読んでいた共立出版のbitがなくなってしまった今、「情報処理」はかつてのbitの役割を果たしていると思う。学会のほとんどの活動がペーパーレスになった今こそ、ペーパーである「情報処理」の役割は非常に重要である。みんなが読んで話題にする「情報処理」として走り続けるために何が必要であるかを考えたい。



【略歴】

1981年東大理学部情報科学科卒。1986年同大学院工学系研究科情報工学専門博士課程修了。同年通産省工技院電子技術総合研究所(現産業技術総合研究所)入所。2000年公立はこだて未来大学教授。人工知能、ゲーム情報学、エンタテインメントコンピューティング、観光情報学などに興味を持つ。2009年5月まで情報処理学会会誌担当理事。

10:40-11:10 **特別ゲスト「Quality Paperの重要性と運営方針」**
小山 透 ((株)近代科学社取締役編集部長 元『bit』編集長)

【講演概要】

本講演では、1969年3月号創刊、2001年4月号をもって休刊した共立出版(株)発行のコンピュータ・サイエンス月刊誌『bit』の編集経験を基に、紙媒体での情報処理学会誌『情報処理』の、今後の方向性を考えてみたい。私が『bit』の編集に関与した時代(1981年4月～1993年6月)とは、現在のコンピュータ環境と社会状況は著しく変化し、学生が“本を読まない”“文章が書けない”と言われて結構な年数が経っているが、これはインターネットの普及と無関係ではあるまい。インターネット・携帯フォン・マルチメディア時代における知の活性化を、紙媒体の特質を活かして果たせる役割・方策は何だろうか。



【略歴】

1971年3月、東京理科大学工学部数学科卒業。同年4月、共立出版(株)入社・編集部配属、10年間、数学分野を中心に編集業務に携わる。1981年4月に『bit』編集部に移動。約12年の後、『bit』編集長を退任、書籍編集部に移動。1998年10月、同社編集部部長着任、2007年12月同編集部部長退任、2008年1月同編集部企画プランナー着任、2008年6月同社退職。2008年1月(株)近代科学社顧問着任、2008年7月同社取締役編集部長着任、現在に至る。慶應義塾大学非常勤講師。

11:15-12:00 **パネル討論「Quality Paperとしての会誌情報処理の未来」**

【討論概要】

ペーパーレスメディア時代におけるQuality Paperについてモノとしての実体感なのかそれともオピニオンかの見解は分かるところである。セッションでは、情報処理学会におけるメディアである論文誌、トランザクション、各種研究会報告の役割と電子メディアとして提供される事による特性とペーパーメディアとして残存した会誌「情報処理」を比較し、会員諸氏の研究と情報処理産業への貢献をいかに効果的に行ってゆけば良いかの議論を中心に展開する。

司 会：中川 晋一 (情報通信研究機構主任研究員 会誌編集委員)

略歴・写真は「学会誌「情報処理」の未来」司会紹介を参照。

パネリスト：土井 美和子 ((株) 東芝 研究開発センター首席技監 情報処理学会フェロー, 前副会長)

略歴・写真は講演(1)「学会誌「情報処理」の役割と期待」を参照。

川合 慧 (放送大学教授・東京大学名誉教授 会誌編集長)

略歴・写真は講演(2)「学会誌「情報処理」の現在」を参照。

武田 浩一 (日本アイ・ビー・エム (株) 会誌担当理事)

略歴・写真は講演(3)「「情報処理」の現状と課題」を参照。

松原 仁 (公立はこだて未来大学教授 前会誌担当理事, 現編集委員)

略歴・写真は講演(4)「「情報処理」は止まらない」を参照。

小山 透 ((株) 近代科学社取締役編集部長 元『bit』編集長)

略歴・写真は特別ゲスト「Quality Paperの重要性と運営方針」を参照。

センシング Web とプライバシーマネジメント — プライバシに配慮したセンサ情報の社会的利用 — 3月10日(水) 15:30-17:50 [第4イベント会場(法文1号館1F 22教室)]

[全体概要]

内閣府総合科学技術会議科学技術連携施策群情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発連携群では、文部科学省の高性能データベース・Web社会分析プロジェクト、経済産業省の情報大航海プロジェクト、総務省の情報の信憑性・信頼性に関するプロジェクトを連携させることにより、あらゆる情報コンテンツ化を簡便、的確かつ安心して収集解析管理する次世代の知的な情報利活用のための基盤技術開発を目的として実施しています。また、各省施策を補完するというで、補完的課題として「センサ情報の社会利用のためのコンテンツ化」というプロジェクトを進めています。今回、情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発連携群は、情報処理学会創立50周年記念全国大会講演会特別セッション「センシング Web とプライバシーマネジメント— プライバシに配慮したセンサ情報の社会的利用 —」を(社)情報処理学会と共同主催することになりました。本セッションでは、連携施策群タスクフォース委員の安田浩教授(東京電機大学)に基調講演をお願いするとともに、補完的課題の受託機関で開発された基盤技術及びその利用事例を紹介し、多くの研究開発者に、これらの基盤技術を活用していただくよう、普及活動を行っています。



司会：谷本 茂明(千葉工業大学 社会システム科学部 准教授)

[略歴]

1982年徳島大学工学部電気工学科卒業。1984年徳島大学大学院工学研究科電気工学専攻修了。同年日本電信電話公社入社。2007年科学技術連携施策群(情報利活用担当)主監補佐。2009年千葉工業大学社会システム科学部准教授。現在、情報セキュリティ、PKI応用等の研究に従事。博士(工学)、情報処理学会、電子情報通信学会、IEEE各会員。

15:30-16:00 基調講演「WEB時代とID・プライバシー管理」

安田 浩(東京電機大学 未来科学部 教授)

[講演概要]

WEB3.0時代は、個性を發揮できる世界であると同時に、それが故の危険性・脆弱性が問題となることも明らかである。情報ビッグバン(大爆発)への対処法、情報の信憑性に関する不安、プライバシー侵害の危険、有害情報の蔓延、成りすましの危険などセキュリティに関わる課題を解析し、対応技術の展望を紹介する。



[略歴]

1967年東京大学工学部電子科卒業、1972年同大学院博士課程修了。同年4月日本電信電話公社入社。NTT理事・情報通信研究所所長を経て、1997年3月退社。1997年4月東京大学教授。国際・産学共同研究センター長を経て、2007年3月退職。2007年4月より東京電機大学教授、未来科学部情報メディア学科所属。2007年6月より東京大学名誉教授。

16:00-16:20 活動報告「情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発連携群の活動報告」

西尾 章治郎(大阪大学 理事・副学長)

[講演概要]

爆発的に増加しているインターネット情報を集積・利活用できる知的情報アクセス基盤構築に向け、平成19年度より総合科学技術会議(内閣府)のイニシアティブの下、「情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発」連携施策群の活動を推進している。現在、情報大航海プロジェクト(経産省)、情報信憑性検証技術(総務省)、超高性能DB、Web社会分析(文科省)、センシング Web(代表：京大)の施策を対象に、新たな利活用を生み出すべく各施策間の連携を推進している。本講演では、これらに関するこれまでの成果の紹介を中心に報告する。



[略歴]

1975年京都大学工学部数理工学科卒業。1980年同大学院工学研究科博士後期課程修了。工学博士。京都大学工学部助手、大阪大学基礎工学部および情報処理教育センター助教授、大阪大学大学院工学研究科情報システム工学専攻教授を経て、2002年より大阪大学大学院情報科学研究科マルチメディア工学専攻教授となり、現在に至る。2000年より大阪大学サイバーメディアセンター長、2003年より大阪大学大学院情報科学研究科長、その後2007年より大阪大学理事・副学長に就任。本学会理事を歴任。本学会論文賞を受賞。本学会フェロー。

16:20-16:35 講演(1)「画像情報に対するプライバシー情報処理」

美濃 導彦(京都大学 学術情報メディアセンター 教授)

[講演概要]

近年、さまざまな場所に防犯カメラや人感センサが設置されている。これらの情報がインターネットで見られるようになれば、遠隔地の天候や混雑度などについてリアルタイムの状況を確認することができて便利だと考えられる。しかし、これらのセンサ情報にはプライバシー情報が含まれるため、そのままインターネットへ公開することはできない。本プロジェクト「センシング Web」では、これらのセンサ情報を、プライバシーを保護しながら公開・利用する方法について研究を進めてきた。本講演では、このプロジェクトの概要を紹介するとともに、カメラ映像に関するプライバシー情報保護に関する技術開発について述べる。



[略歴]

1978年京大・工・情報工学卒。1983年同大大学院博士課程了。同年工学部助手、1987年～1988年マサチューセッツ州立大学客員研究員、1989年京都大学工学部附属高度情報開発実験施設助教授、1995年同教授、1997年京都大学総合情報メディアセンター教授、2002年京都大学学術情報メディアセンター教授。画像処理、人工知能、知的コミュニケーション関係の研究に従事。工博。IEEE、ACM、情報処理学会、画像電子学会、日本ロボット学会各会員。

16:35-16:50 講演 (2) 「音声情報に対するプライバシー情報処理」

中川 聖一 (豊橋技術科学大学 情報工学系 教授)

【講演概要】

音センサ (マイクロホン) によって収録される音情報には、背景情報や音声情報が含まれる。背景音には場の雰囲気などの情報が、音声情報には個人性情報、言語情報、感情情報など様々な情報が含まれている。これを利活用することができれば様々な場面で非常に有用であると考えられるが、同時に含まれているプライバシー情報も多いため、公共的に情報を利用するためにはプライバシー保護が必要となる。本プロジェクトでは、次の3つの項目について研究・開発を行った。①背景音中からの音声除去、②雑音中の音声の声質変換、③音声中に存在するプライバシーに関連する言語情報の除去。本講演では、これらの技術を紹介する。

【略歴】

1976年京都大学大学院博士課程修了。同年京都大学工学部情報工学科助手。1980年豊橋技術科学大学講師。1990年教授。1985-1986年カーネギーメロン大学客員研究員。音声情報処理、自然言語処理、人工知能の研究に従事。工学博士。電子情報通信学会フェロー、情報処理学会フェロー。単著「確率モデルによる音声認識 (電子情報通信学会)」,「情報理論の基礎と応用 (近代科学社)」,「パターン情報処理 (丸善)」, 編著「Spoken Language Systems (IOS Press)」。



16:50-17:05 講演 (3) 「センサ情報に基づく実世界コンテンツ」

馬場口 登 (大阪大学 大学院工学研究科 教授)

【講演概要】

本講演では、実世界環境における現在の人々の動きを直感的に分かりやすく提示することを目的とし、環境内に設置された複数カメラの撮影映像を、3次元実空間内の位置関係に基づき統合することにより、環境を3次的に実時間で表示する実世界コンテンツ「デジタルジオラマ」について述べる。

【略歴】

1979年大阪大学工学部通信工学科卒業。1981年同大学大学院前期課程修了。愛媛大学工学部、大阪大学工学部、産業科学研究所を経て、現在、大阪大学大学院工学研究科教授。1996-97年カリフォルニア大学サンディエゴ校文部省在外研究員。工学博士。マルチメディア (画像・映像・音響) 処理に関する研究に従事。著書：人工知能の基礎 (昭晃堂) ほか。PCM2006, IAS2009 Best Paper Award, FIT2009論文賞、電子情報通信学会フェロー。



17:05-17:20 講演 (4) 「センサ群からの情報の構造化」

谷口 倫一郎 (九州大学 大学院システム情報科学研究科 教授)

【講演概要】

センシングウェブは各種のセンサが空間的に多数配置されており、各センサーから実世界の情報を獲得する。それぞれのセンサを通して獲得する実世界の情報は断片的なものであり、その情報自体はもちろん重要であるものの、センシングウェブとして意味のある情報を社会に提供するためには、複数のセンサーから得られた情報を統合し、新たな情報を創出する必要がある。我々はこのような観点から、複数のセンサから得られたセンサ情報を構造化し、提示する方法について研究開発を進めた。本発表では複数のセンサから得られた人物の検出/追跡結果を統合して広域での人物活動状況を提示する手法とその実証実験の結果について述べる。

【略歴】

1978年、九州大学工学部情報工学科卒。1980年、同大学院工学研究科情報工学専攻修士課程修了。1980年、同大学院総合理工学研究科助手。1989年、同助教授。1996年、九州大学大学院システム情報科学研究科 (現研究院) 教授。工学博士。コンピュータビジョン、並列処理、映像情報処理等の研究に従事。1995年情報処理学会坂井記念特別賞、2001年映像情報メディア学会丹羽高柳論文賞などを受賞。



17:20-17:35 講演 (5) 「センサ情報利用によるシースルービジョン」

大田 友一 (筑波大学 大学院システム情報工学研究科 教授)

【講演概要】

センシングウェブが提供するセンサ情報のオープン利用の仕組みを活用し、歩行者が持つPDAなどの携帯型情報端末に、環境に設置されたカメラの映像を適切に加工した映像情報を提示し、自分の眼では直接見ることが出来ない視覚情報を歩行者に提供する「シースルービジョン」について述べる。シースルービジョンとは、物体の透視能力を備えた眼を意味し、歩行者が目の前のビルなどの遮蔽物を透視して遠方を見ることが出来る機能を表現しているが、環境に設置されたカメラ映像の「透明性」を高める、すなわち、カメラで何が撮影されているかを被写体である一般市民が日常生活の中で容易に把握できる機能の提供という側面もある。シースルービジョンを実現するための要素技術、プライバシーを保護するための仕組みなどを紹介する。

【略歴】

1977年京都大学大学院博士課程了。京都大学情報工学科助手、筑波大学電子・情報工学系講師、カーネギーメロン大学計算機科学科客員研究員、筑波大学電子・情報工学系助教授を経て、1992年同教授。2004年同大学院システム情報工学研究科教授。2009年より、同研究科研究科長。工博。コンピュータビジョン、視覚情報メディア、複合現実感の研究に従事。現在、電子情報通信学会情報・システムソサイエティ会長、国際パターン認識連盟フェロー、電子情報通信学会フェロー、情報処理学会フェロー。



17:35-17:50 講演 (6) 「センサ情報の共有」

鯉坂 恒夫 (和歌山大学 システム工学部 教授)

【講演概要】

センサにより自動収集される情報を不特定多数のユーザがオープンに利活用するための共有のしくみについて述べる。データ形式の標準化が必要であることは明らかであるが、それを定めるためには情報需給のアーキテクチャを明確にすることが求められる。センサ情報には特有の統合機能として時空間統合があり、これをアプリケーションサービスの構成に必要なスキーマ変換機能と組み合わせたアーキテクチャを与える。データ形式標準はXMLで規定するが、オブジェクト (空間) 優先とフレーム (時間) 優先が対等に記述できるようにしている。ロボットインタフェースとの共通化についてもふれる。

【略歴】

1980年京都大学理学部物理学系卒。85年同大学院工学研究科情報工学専攻博士課程研究指導認定退学。88年工学博士。85年京都大学工学部情報工学科助手、90年同助教授。97年より和歌山大学システム工学部デザイン情報学科教授。専門領域はソフトウェア工学。最近の興味は意味的なモデリング、領域横断的なデザイン (設計) 科学、人文社会科学との境界領域、教育法など。



大学院人材育成における情報教育 大学院人材育成における情報教育 —これからの大学院教育— 3月11日(木) 9:30-12:00 [第4 イベント会場 (法文1号館 1F 22教室)]

【全体概要】

情報技術が様々な学術領域の研究に必要となりつつあり、従来の学部中心の全学共通情報教育のみならず、大学院における情報教育の重要性が増している。しかしながら、我が国の大学においては、全学的な大学院共通教育の仕組みが未だ未整備であり、また、各研究科における情報教育の需要も明らかになっていない。

本セッションでは、大学院レベルの共通情報教育について、実際に、各大学でどのような取り組みが行われているのかについて事例を示していただきながら、議論を行いたい。



司会：中村 聡史 (京都大学大学院 情報学研究所 情報教育推進センター 特定准教授)

【略歴】

京都大学大学院情報学研究所特定准教授。2004年大阪大学大学院工学研究科博士後期課程修了。情報通信研究機構を経て、現職。ウェブサーチとインタラクション、ライフログ、エンターテインメントコンピューティングなどの研究に従事。

9:30-9:55

講演 (1) 「京都大学における大学院共通情報教育の取り組み」

田中 克己 (京都大学大学院 情報学研究所 教授 / 情報教育推進センター長)

【講演概要】

情報技術は、今や社会基盤を実現・維持していくための基盤技術であるとともに、大規模シミュレーションや大規模情報分析など、学術研究の新しい方法論をも提供する基盤技術になりつつある。また、社会における情報の取り扱い(作法、社会制度、情報セキュリティ、情報倫理、知財など)に関する教育が、従来、大学で十分になされておらず、さまざまな問題を引き起こしつつある。京都大学では平成21年度から、学術研究の方法論を支える情報科学・計算科学、および、社会における情報の取り扱いに関する基礎知識修得を中心に捉えた、大学院における新しい全学共通情報教育を指向して、そのカリキュラムの設計と教育の推進を行っている。また、従来の授業評価アンケートなどの画一的なFDにとらわれず、受講生の予習復習や教員の授業改善のための講義・教材アーカイブの開発整備、コースマネジメントシステムに基づく教員/学生の対話機会の増加など、情報技術を用いた新しい教育支援システム・FDシステムの構築を行っている。ここでは、京都大学におけるこのような大学院共通情報教育の取り組みについて述べる。



【略歴】

昭和49年(1974年)京都大学工学部情報工学科卒業、昭和51年(1976年)同大学院修士課程修了、昭和53年(1978年)同博士後期課程中退、昭和54年(1979年)神戸大学教養部助手、昭和61年(1986年)神戸大学工学部助教授、平成6年(1994年)神戸大学工学部教授、平成13年(2001年)より京都大学大学院情報学研究所教授(社会情報学専攻情報図書館学分野)、現在に至る。京大・工博。主にデータベース、マルチメディア情報システム、Web情報検索等の研究に従事。京都大学情報学研究所副研究科長、グローバルCOEプログラム「知識循環社会のための情報学教育研究拠点」リーダ、情報処理学会フェロー、日本データベース学会副会長、日本学術会議連携会員。

9:55-10:20

講演 (2) 「実践 IT 力を備えた人材育成の取組みと大学院研究科共通教育プログラム」

北川 博之 (筑波大学大学院 システム情報工学研究科 教授・コンピュータサイエンス専攻長)

【講演概要】

筑波大学大学院システム情報工学研究科コンピュータサイエンス専攻では、文部科学省の魅力ある大学院教育イニシアティブ「実践IT力を備えた高度情報学人材育成プログラム」(H18-19)、先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム「高度IT人材育成のための実践的ソフトウェア開発専修プログラム」(H18-21)、組織的大学院教育改革推進プログラム「ICTソリューション・アーキテクト育成推進プログラム」(H20-22)等、実践IT力を備えた人材育成のための一連の取組みを進めてきた。本講演ではその概要を紹介する。併せて、平成20年度から導入された筑波大学における大学院共通教育プログラムの概要についても紹介する。



【略歴】

1980年東京大学理学系研究科修士課程修了。日本電気(株)勤務の後、1988年より筑波大学勤務。現在、筑波大学大学院システム情報工学研究科教授(コンピュータサイエンス専攻長)、兼同大学計算科学研究センター教授。理学博士(東京大学)。研究分野は、データベース、データ工学。文部科学省・先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム、魅力ある大学院教育イニシアティブ、大学院教育改革支援プログラム等の取組担当者として、実践的IT人材育成に従事。情報処理学会フェロー、電子情報通信学会フェロー、日本データベース学会理事。

10:20-10:45

講演 (3) 「大学院 GP 「大学連合による計算科学の最先端人材育成」の活動報告」

賀谷 信幸 (神戸大学 工学研究科情報知能学専攻 教授)

【講演概要】

本教育プログラムでは、計算科学の分野横断型教育を目指して、いろいろな取組みを行っている。主なものとして、シミュレーション・スクール、e-Content作成、TV会議システムを用いた複数大学同時講義を実験的に開催した。

シミュレーション・スクールでは、「他分野の計算機シミュレーションを学ぼう」、「計算機科学の基礎から高性能シミュレーションへ」、「差分法をマスターしよう」と題して、計算科学で提唱されているSMASHのすべての切り口をテーマにした。

講演では、本教育プログラムでの詳細な教育活動の報告する。



【略歴】

昭和48年京都大学工学部電気工学科卒業、昭和50年京都大学大学院工学研究科電子工学専攻修士課程修了、工学博士(京都大学)。昭和50年神戸大学工学部助手、神戸大学工学部助教授、宇宙科学研究所併任助教授、神戸大学工学部教授(現在に至る)。専門は、マイクロ波無線送電と宇宙太陽発電衛星の技術開発。

10:45-11:10 講演 (4) 「人文学と情報技術とその教育：京大文学研究科の例から」
林 晋 (京都大学大学院 文学研究科 教授)

【講演概要】

最近のデジタルカメラや媒体の高性能化・低廉化と、WEBアーカイブ技術の進化と普及により、古い文献資料をその主な研究対象とする史学・古典学の研究手段が急速に変わりつつある。たとえば、図書館を訪問し歴史研究者自ら数千枚の資料をほとんどコストゼロで撮影する、現地の図書館・文書館などを訪問することなくネットを通して史料のカラー画像を入手する、データベースで書簡などの所在を瞬時に見つけ出す、10年前には想像するのも難しかったことが現在では容易に行える。人文学研究を妨げていた非本質的な物理的制約が取り除かれつつある。この史料研究の新時代において人文学者が必要とする情報技術の知識はなんだろうか。この問いを主に京大文学研究科での取り組みを通して考える。



【略歴】

昭和51年立教大学理学部数学科卒業。昭和56年筑波大学大学院数学研究科修了。昭和57年東京都立工科短期大学専任講師。昭和59年京都大学数理解析研究所助手。平成元年龍谷大学理工学部数理情報学科助教授。平成4年龍谷大学理工学部数理情報学科教授。平成7年神戸大学工学部知能情報工学科教授。平成17年京都大学教授大学院文学研究科教授。記号論理学からソフトウェア工学などを経て、科学技術政策研究、歴史学まで幅広く活動してきた。現在の主な研究テーマは京都学派田辺元の思想史。

11:10-11:35 講演 (5) 「医学研究におけるコンピュータスキルの役割」
山田 亮 (京都大学 医学研究科附属ゲノム医学センター 教授)

【講演概要】

医学分野において、計算機・データベースを活用することは、基礎医学研究・臨床医学研究・臨床医療のいずれにおいても日常化してきている。また、昨今のゲノム研究をはじめとする大規模データの特徴とする研究成果が蓄積し、それを利用することが多くの医学研究領域において不可欠となっている。このような事情から、基礎的情報学技術の習得の必要性が増大している。しかしながら、医学部教育・医学系大学院教育において、そのようなデータ活用を前提とした教育は制度化されておらず、個人個人の努力にゆだねられているのが実情である。このような医学生物学分野において求められている情報学の基礎的技術の高等教育における課題について概観する。



【略歴】

1992年3月 東京大学医学部医学科卒業。2000年4月 理化学研究所遺伝子多型研究センター関節リウマチ関連遺伝子研究チーム研究員。2005年4月 京都大学大学院医学研究科附属ゲノム医学センター疾患ゲノム疫学分野 助教授。2007年4月 東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センターゲノム機能解析分野 准教授。2009年8月 京都大学大学院医学研究科附属ゲノム医学センター統計遺伝学分野 教授

11:35-12:00 全体討論

司 会：田中 克己 (京都大学大学院 情報学研究科 教授 / 情報教育推進センター長)

略歴・写真は講演 (1)「京都大学における大学院共通情報教育の取り組み」を参照。

パネリスト：北川 博之 (筑波大学大学院 システム情報工学研究科 教授・コンピュータサイエンス専攻長)

略歴・写真は講演 (2)「実践IT力を備えた人材育成の取組みと大学院研究科共通教育プログラム」を参照。

賀谷 信幸 (神戸大学 工学研究科情報知能学専攻 教授)

略歴・写真は講演 (3)「大学院GP「大学連合による計算科学の最先端人材育成」の活動報告」を参照。

林 晋 (京都大学大学院 文学研究科 教授)

略歴・写真は講演 (4)「人文学と情報技術とその教育：京大文学研究科の例から」を参照。

山田 亮 (京都大学 医学研究科附属ゲノム医学センター 教授)

略歴・写真は講演 (5)「医学研究におけるコンピュータスキルの役割」を参照。

大学院人材育成における情報教育

人材育成における情報教育 — ITを活用した教育—

3月11日 (木) 14:30-17:00 [第4イベント会場 (法文1号館1F 22教室)]

【全体概要】

IT環境の広がりにより、学ぶ環境が大きく変化し、いつでもどこでも学習ができるというe-learningや講義映像・教材のアーカイブが広がってきている。また、LMS等のようにIT技術を利用することによる新しい学習管理環境も構築されつつある。そこで、本セッションでは大学における教育において、ITをどのように活用することにより、効果的な学習環境を作ることができるのかについて、事例を示していただきながら、これからの教育環境を議論したい。



司会：稲葉 利江子 (京都大学大学院 情報学研究科 情報教育推進センター 特定講師)

【略歴】

京都大学大学院情報学研究科特定講師。2003年日本女子大学理学研究科博士後期課程修了後、文部科学省メディア教育開発センター助手、文部科学省在外研究員制度にて、米国・マサチューセッツ工科大学客員研究員、ベルギー・ルーベンカトリック大学客員研究員。2006年独立行政法人情報通信研究機構 専攻研究員を経て、現職。博士 (理学)。

14:30-14:50 講演 (1) 「携帯端末向けオンライン講義視聴支援システムの開発」
中村 聡史 (京都大学大学院 情報学研究科 情報教育推進センター 特定准教授)

【講演概要】

本講演では、京都大学情報教育推進センターにおいて開発を進めている、iPhoneなどのモバイル端末向けのオンライン講義視聴支援システムについて紹介を行う。本システムを利用することで、ユーザは通勤通学途中などの時間を利用して講義の復習を行ったり、自身の講義がどうであったかを見直すことが可能となる。また、本システムを介して学生と教員とのインタラクションを可能とすることにより、学生からの質問に答えたりすることが可能となる。略歴・写真は「大学院人材育成における情報教育」司会紹介を参照。

14:50-15:20 講演 (2) 「アイスタントを活用した全学的FDの取り組み」
後藤 尚人 (岩手大学 人文社会科学部 教授), 江本 理恵 (岩手大学 大学教育総合センター 准教授)

【講演概要】

岩手大学大学教育総合センターでは、平成17年～平成19年度に大学教育センターによる組織的授業改善と教室外学習支援システムの構築プロジェクトに取り組み、教育支援システム「アイアシスタント」を自主開発して全学規模で運用している。

このような教育支援システムには、BlackboardやMoodleなどのよく知られたシステムがあるが、この「アイアシスタント」の特徴は「日常的な授業改善」を実施する機能を強化したところにある。具体的には、本システムの「シラバス」と「授業記録」という機能を利用することにより、授業実施のPDCAサイクル（授業計画の作成：Plan→授業実施：Do→授業記録：Check→改善策の検討：Action）をWeb上に可視化、共有化することができる。今回は、このシステムの概要と実際の運用状況について概説する。



後藤 尚人

【略歴】

昭和63年神戸大学大学院文化学研究科博士課程単位取得退学。昭和63年神戸大学大学院文化学研究科助手、平成3年岩手大学人文社会科学部講師、平成6年同大人文社会科学部助教授、平成19年同大人文社会科学部准教授、平成21年同大人文社会科学部教授。現在に至る。記号論的文学理論研究および高等教育機関におけるICTを活用した教育改善業務に従事。日本フランス語フランス文学会、日本記号学会会員、国立大学協会教育・研究委員会専門委員。



江本 理恵

【略歴】

平成14年東京工業大学大学院社会理工学研究科博士課程単位取得退学。平成17年岩手大学大学教育センター講師、平成20年岩手大学大学教育総合センター准教授。現在に至る。現在、高等教育機関における教育改善方策の研究に従事。日本教育工学会、教育システム情報学会、電子通信情報学会、大学教育学会会員。

15:20-15:50 講演 (3) 「東京大学の教育におけるICT活用の取り組み－MEET, KALSを中心に－」
西森 年寿 (東京大学 教養学部附属 教養教育開発機構 特任准教授)

【講演概要】

東京大学における情報通信技術を活用した教育環境整備に取り組むTREE (Todai Redesigning Educational Environment) プロジェクトのうち、授業でのICT活用に関する取組みとして、MEET (大学総合教育研究センターマイクロソフト先進教育環境寄附研究部門) の成果と、KALS (Komaba Active Learning Studio) の詳細について報告する。MEETでは、Meet eJournalPlus (批判的読解支援ソフト) や、Meet Video Explore (映像クリップ視聴探索支援ソフト) など、タブレットPCを使った大学授業向けのソフトウェアの開発を行った。KALSはICTを活用した協調学習向けの駒場キャンパスの教室である。1～2年生向けの文系・理系・語学授業で、学生参加型の授業が行われている。



【略歴】

平成14年大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位取得退学後、文部科学省メディア教育開発センター研究開発部助手、平成18年東京大学大学総合教育研究センターマイクロソフト先進教育環境寄附研究部門客員助教授を経て、平成19年より東京大学教養学部附属教養教育開発機構特任准教授。博士 (人間科学)。

15:50-16:20 講演 (4) 「eラーニング専門家をeラーニングで養成する熊本大学大学院教授システム学専攻の取り組み」
中野 裕司 (熊本大学 総合情報基盤センター・大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻 教授・学長特別補佐 (情報化担当))

【講演概要】

熊本大学では、2006年、eラーニング専門家をeラーニングで養成する大学院として、大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻を開設した。本専攻では、教育活動やコース・教材をシステムとしてとらえ、科学的・工学的にアプローチする教育研究分野である教授システム学を、インタラクショナルデザインを中心に、情報技術、マネジメント、知的財産権といった分野を体系的に教育研究する。修了生に求める職務遂行能力 (コンピテンシー) に基づくカリキュラム設計や、LMS上の各種機能を中心に、学習ポータル、eポートフォリオ、Web会議、VOD等を活用した遠隔eラーニングによる授業や研究指導等に関して報告する。



【略歴】

名古屋大学教養部・情報化学部に物理やICT活用教育システムに関する研究・研究に従事し、2002年より熊本大学総合情報基盤センター教授。以降、LMS-SIS連携 (2004年) やSSO・大学ポータル (2006年) の全学導入、大学院教授システム学専攻 (2006年) やeラーニング推進機構 (2007年) の創設等、大学規模でeラーニングの研究・実践に取り組む。理学博士 (九州大学)、1959年生。

16:20-16:40 講演 (5) 「京都大学オープンコースウェア」
土佐 尚子 (京都大学 学術情報メディアセンター 教授)

【講演概要】

2005年から始まった京都大学OCWは、学内で実際に利用している講義教材をインターネットで公開するプロジェクトです。学内の学生、教職員、他大学の学生、関連学会の研究者、京都大学を志願する高校生、さらなる学習を志す社会人など、あらゆる方々に京都大学の講義内容を知っていただき、門戸を広げることを目的としています。また、世界へ向けて、京都大学のビジビリティを高め、日本の文化・伝統を発信するために日本語でも積極的にアピールしていきます。OCWは、人類の知的資産の貢献と共有を目指して、世界各国とのコミュニケーションを高め、国際交流の推進を目標にしています。



【略歴】

京都大学学術情報メディアセンター教授。文化とコンピュータのコンテンツ研究に従事。主な著書に「カルチュラルコンピューティング」(NTT出版)がある。京都大学オープンコースウェア編集長。1995～2001年ATR知能映像通信研究所客員研究員。2001～2003年JST「相互作用と賢さ」領域研究に従事。2002年～2004年マサチューセッツ工科大学建築学部Center for Advanced Visual Studies fellowを経て現職。2004年ユネスコ主催デジタル文化遺産コンペで2位受賞。工学博士 (東京大学)。

16:40-17:00 全体討論

司 会：中村 聡史（京都大学大学院 情報学研究所 情報教育推進センター 特定准教授）

略歴・写真は「大学院人材育成における情報教育」司会紹介を参照。

パネリスト：後藤 尚人（岩手大学 人文社会科学部 教授）

略歴・写真は講演（2）「アイスタントを活用した全学的FDの取り組み」を参照。

江本 理恵（岩手大学 大学教育総合センター 准教授）

略歴・写真は講演（2）「アイスタントを活用した全学的FDの取り組み」を参照。

西森 年寿（東京大学 教養学部附属 教養教育開発機構 特任准教授）

略歴・写真は講演（3）「東京大学の教育におけるICT活用の取り組み - MEET, KALSを中心に -」を参照。

中野 裕司（熊本大学 総合情報基盤センター・大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻 教授・学長特別補佐（情報化担当））

略歴・写真は講演（4）「eラーニング専門家をeラーニングで養成する熊本大学大学院教授システム学専攻の取り組み」を参照。

土佐 尚子（京都大学 学術情報メディアセンター 教授）

略歴・写真は講演（5）「京都大学オープンコースウェア」を参照。

未来を切り拓く最先端 VLSI テクノロジー

3月9日（火）15:30-17:30 [第5イベント会場（法文1号館3F 26教室）]

[全体概要]

CREST「情報システムの超低消費電力化を目指した技術革新と統合化技術」は、情報通信システム・ネットワークにおいて、回路・デバイス、アーキテクチャ、システム・ソフトウェア、アルゴリズム・プロトコル、応用・サービスにおける革新的要素技術の階層統合的な管理、制御によって既存技術による低消費電力化の限界を打破する研究を推進しています。

このセッションでは、本領域で活躍されている代表者の先生方を講演者に迎え、デバイス、回路、VLSI、ソフトウェアの各階層における技術革新とそれらを統合するシステム技術によって、電力効率を100～1000倍に高める超低消費電力技術研究の現状を紹介していただきます。



司会：五島 正裕（東京大学 大学院情報理工学系研究科 准教授）

[略歴]

1992年京都大学工学部情報工学科卒業。1994年同大学院工学研究科情報工学専攻修士課程修了。同年より日本学術振興会特別研究員。1996年京都大学大学院工学研究科情報工学専攻博士後期課程退学。同年より同大学工学部助手。1998年同大学大学院情報学研究所助手。2005年東京大学情報理工学系研究科助教授。現在に至る。高性能計算機システムの研究に従事。博士（情報学）。2001年情報処理学会山下記念研究賞。2002年同学会論文賞受賞。IEEE会員。

15:30-15:50 講演（1）「情報システムの超低消費電力化技術」

南谷 崇（東京大学 情報理工学系研究科 教授）

[講演概要]

地球規模で急拡大を続けるネットワークとそれを構成する膨大な数の情報システム／機器が消費する総電力量の爆発的増加を抑え、電力消費に伴う発熱増大や信頼性劣化による性能限界を克服することは、エネルギー総需要抑制の視点ならびに産業技術の国際競争力強化の視点から情報通信技術分野が挑戦すべき重要課題です。この講演では、デバイス、回路、VLSI、ソフトウェアの各階層における技術革新とそれらを統合するシステム技術によって、消費電力当たりの処理性能を100倍から1000倍にする超低消費電力技術の確立を目指す研究プロジェクトの現状を紹介します。



[略歴]

1969年東大工学部計数工学科卒。1971年同大学院修士了。同年日本電気中央研究所。1978年工学博士。1981年東大工学部情報工学科助教授。1989年同電気電子工学科教授。1995年東大工学系研究科計数工学専攻教授。1996年東大先端科学技術研究センター教授。2001年から2004年まで東大評議員・先端研センター長。2005年からJST-CREST「情報システムの超低消費電力化」領域の研究総括。IEEE-CS TC on Dependable Computing 委員長。IFIP-TC10日本代表。IEEE Fellow。電子情報通学会フェロー。学術会議連携会員。

15:50-16:15 講演（2）「メディア処理における超低消費電力化技術」

後藤 敏（早稲田大学 情報生産システム研究科 教授）

[講演概要]

エネルギー削減と環境保全のために革新的な電子機器の開発への期待は大きい。特に、電子機器の超低消費電力への要求は極めて強く、緊急の課題となっている。本講演では現在の放送、インターネット、携帯電話等で必要不可欠なメディア情報処理における超低消費電力化の実現のために、画像、暗号、誤り訂正符号の符号化・復号化処理とその統合化システムに関して最新技術を紹介する。方式、アルゴリズム、アーキテクチャ、回路設計、LSI実装化技術の各観点から、超低消費電力化実現に向けての新しい手法と技術に関して、CRESTプロジェクトで得られた成果の紹介と今後の展望に関して述べる。



[略歴]

1968年早稲田大学理工学部電気通信学科。1970年同大学院修士を修了し、NECに入社。C&Cメディア研究所長、支配人、情報通信メディア研究本部長を経て2003年より早稲田大学大学院情報生産システム研究科教授。現在、グローバルCOE、CREST、知的クラスター等のプロジェクトをリーダーとして実行中。電子情報通学会より業績賞を受賞。工学博士、電子情報通学会フェロー、IEEEフェロー。

16:15-16:40 講演 (3) 「ソフトウェアとハードウェアの協調による組み込みシステムの消費エネルギー最適化」
高田 広章 (名古屋大学 大学院情報科学研究科 教授)

【講演概要】

本講演では、CREST ULP 領域において講演者が代表となって研究開発を進めている、ソフトウェアとハードウェアを一体で最適化することにより、必要な QoS を維持しつつ、組み込みシステムの消費するエネルギーを最適化するための技術について解説する。特に、ハードウェアを必要最小限の性能で動作させることにより消費エネルギーの削減を図る DEPS (Dynamic Energy Performance Scaling) 技術に関して、DEPS に対応したプロセッサ、最適化のためのツール、DEPS を実現するリアルタイム OS 等について述べる。



【略歴】

名古屋大学大学院情報科学研究科教授。1988 年東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻修士課程修了。同専攻助手、豊橋技術科学大学助教授等を経て、2003 年 4 月より現職。2006 年 4 月より附属組み込みシステム研究センター長を兼務。博士 (理学)。組み込みシステム開発技術の研究に従事。オープンソースのリアルタイム OS 等を開発する TOPPERS プロジェクトを主宰。

16:40-17:05 講演 (4) 「Power Wall 問題へのブレークスルーを目指して～リーク電力削減への試み～」
中村 宏 (東京大学 大学院情報理工学系研究科 准教授)

【講演概要】

現在の情報システムの高性能化を妨げる大きな要因の一つは電力消費の増大であり、Power Wall 問題と呼ばれる。本講演では、Power Wall 問題を概観した後、講演者が CREST ULP 領域において代表となって実施している研究プロジェクト「革新的電源制御による次世代超低電力高性能システム LSI の研究」を紹介する。この研究プロジェクトでは細粒度パワーゲーティング方式を適用するマイクロプロセッサを設計・開発しているが、その原理、課題について説明した後、この課題を克服するために重要となる回路・アーキテクチャ・OS の各設計階層の協調について具体的な取り組みを説明する。あわせて、試作チップにおける測定結果から得られた提案手法の有効性と、今後の展開について述べる。



【略歴】

1990 年東京大学大学院工学系研究科電気工学専攻博士課程修了。工学博士。現在、東京大学大学院情報理工学系研究科准教授。高性能・低消費電力 VLSI アーキテクチャ、ハイパフォーマンスコンピューティング、ディベンダブルコンピューティング等の研究に従事。現在、情報処理学会計算機アーキテクチャ研究会主査。情報処理学会より論文賞、山下記念研究賞、坂井記念特別賞、各受賞。IEEE、ACM 各 senior member。

17:05-17:30 講演 (5) 「高性能・超低電力短距離ワイヤレス 可動情報システムの創出」
黒田 忠広 (慶應義塾大学 理工学部電子工学科 教授)

【講演概要】

ロボットや車や携帯電話などをワイヤレスネットワークに接続して高度なサービスを提供する可動情報システムの構築に必要な高性能短距離無線通信技術とエネルギー無線給電技術に関する研究成果を報告する。具体的な目標は、コイル配列を用いてチップ間通信を 10Tbps/100mW で行い、偏波変調通信を用いて至近距離の端末間通信を 10Gbps/10mW で行い、オールモスト・デジタル無線を用いて短距離の端末間通信を 100Mbps/1mW で行う。また、動きながら電力の供給を受けることができる給電シートを有機トランジスタ技術で低コストに実現する。こうした新技術の創出は、情報処理のエネルギー問題を解決するとともに、日本のエレクトロニクス産業の国際競争力を一層強くするのに寄与する。



【略歴】

1982 年東京大学工学部電気工学科卒。工学博士。同年東芝入社。88～90 年カリフォルニア大学バークレイ校にて客員研究員として LSI CAD を研究。2000 年に慶應義塾大学に移り、2002 年より教授。カリフォルニア大学バークレイ校の客員教授を兼任。しきい値や電源電圧を制御した低電力 CMOS 回路や誘導結合を用いた近接場ワイヤレスチップ間通信などを研究。2008 電子情報通信学会業績賞を受賞。IEEE フェロー。IEEE SSCS 監理委員会メンバー。IEEE 上級講師。

誰が、何を、いつ、どこで、なぜ、どうやって翻訳するか？
3 月 10 日 (水) 9:30-12:00 [第 5 イベント会場 (法文 1 号館 3F 26 教室)]

【全体概要】

翻訳は、日本と世界との関わりにおいて多大な影響をもつ。近年、Web 等の発達により、オンラインボランティア翻訳者が急増している。一方では、従来の産業翻訳者や文学等の翻訳者もいる。本特別セッションでは、これらの人々が集まり、それぞれの立場から翻訳について議論をすることを目標とする。



司会：内山 将夫 (情報通信研究機構 知識創成コミュニケーション研究センター言語翻訳グループ 主任研究員)

【略歴】

1992 年筑波大学卒業。1997 年同大学院工学研究科修了。博士 (工学)。現在、情報通信研究機構主任研究員。言語処理の実際的で学際的な応用に興味がある。言語処理学会、情報処理学会、ACL 等会員。

9:30-9:45 講演 (1) 「翻訳企業」
結城 真悠 (株式会社ロックエンジェルリミテッド 代表取締役)

【講演概要】

昨今の景気低迷で翻訳業務の海外流出・低価格化に拍車がかかっている。プロ翻訳者のなかには「翻訳だけでは食べていけない」厳しい状況に直面している者もいる。しかしこの状況から翻訳業界が反省すべき点もいくつか見えてくる。本講演ではそれらの反省点を踏まえ、他業界とも協調しながら今後どのように日本の翻訳文化を発展させていくべきかについて、翻訳者・翻訳会社の立場から展望を述べる。



【略歴】

約 3 年間の米国留学後、メーカーに翻訳者として勤務した後フリーランスとして独立。2000 年に翻訳者コミュニティ『翻訳パラダイス』を立ち上げ、翻訳会社を設立。現在はエージェント兼翻訳者として活動しながら後進の指導にあたっている。翻訳歴 19 年。

9:45-10:00 **講演 (2) 「出版翻訳」**
内田 真人 (作品社 編集部 編集長)

【講演概要】

書籍というのは、作品でもあり、また商品でもあるという二面性を持っており、この運命から逃れることはできません。書籍翻訳とは、矛盾するこの二面性に同時に応えるという、アクロバティックな作業だと思います。「完璧」な翻訳、「誤訳」のない翻訳というものではなく、一方で、これまでの語学的な基本、さらに各専門分野の常識を踏まえ、もう一方でマーケットを睨みながら、新たなニーズを創り出していくべく、時代にあった解釈や翻訳文を編み出していくものだと思います。そして、出版不況が進む現在、出版社のみならず、翻訳者のエコノミーの困難な問題も存在します。出版翻訳の現場の実態と本音について、赤裸々に語ってみたいと思います。



【略歴】

1960年生まれ。作品社の書籍編集者となって25年。年間、約10～12冊ほどを企画編集し、これまで200冊以上の編集に携わる。翻訳書の比率は半数以上で、主な言語は英語・仏語・韓国語など。ジャンルは、『ピーク・オイル』(益岡賢訳)等のグローバル経済から、ネグリ『マルクスを超えるマルクス』等の思想・哲学まで幅広い。最近では、NHKが特別番組を放映し話題となった仏の思想家ジャック・アタリの『21世紀の歴史』等を編集。

10:00-10:15 **講演 (3) 「国際企業の多言語化」**
加藤 直孝 (日本アイ・ビー・エム株式会社 トランスレーション・サービス・センター アドバイザリー S/W エンジニア)

【講演概要】

ソフトウェアがユーザーと意思疎通するために出する文字列を Program Integrated Information (PII) 文字列と呼ぶ。ソフトウェアを国際化するためには、このPII文字列を翻訳する必要がある。ところが、この翻訳をどのようにして行なうかを述べた文献は極めて少ない。そのため、ソフトウェアの科学者やエンジニアは、PII文字列の翻訳や翻訳検証テストに関して誤解をしている場合が多い。本講演では、PIIの翻訳をどのようにして行なうかを説明する。PII文字列の翻訳が抱える多くの問題は、翻訳者とソフトウェア科学者やエンジニアが協力して取り組むべき課題であることをお伝えする。



【略歴】

昭和59年大阪大学工学部通信工学科卒業。同年日本アイ・ビー・エム株式会社入社。3270ディスプレイ端末開発、ノートブックPC開発に従事。平成14年慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程修了。平成16年から慶應義塾大学SFC研究所上席所員(訪問)。現在、日本IBMのPIIおよびマニュアルを翻訳する部署で翻訳プロジェクトに従事。

10:15-10:30 **講演 (4) 「NGO系翻訳」**
野田 幸江 (社団法人アムネスティ・インターナショナル日本 企画・広報担当)

【講演概要】

世界各国の国別人権状況をまとめた年次報告書、各種調査報告書、ニュースリリース、緊急アクションのケースシート、ウェブサイト用の文章など、ロンドンの国際事務局から送られてくる膨大な量の人権に関する英語の文章を、多数のボランティアの方々と分担して翻訳しています。翻訳したものは団体として公式の文書となるため、原則として職員を含む3人以上の目を通すこととし、訳語や表現の統一のためのルールブックを作っています。経験豊富な二次訳者の育成と翻訳のスピードアップ、遠隔地にいるボランティアの方々とコミュニケーションが課題です。



【略歴】

横浜市立大学文学部文科(政治学)卒業。2004年より国際人権団体アムネスティ・インターナショナル日本の企画・広報担当職員として、英文ニュースリリースの日本語訳・配信・翻訳ボランティアのコーディネートに携わっている。

10:30-10:45 **講演 (5) 「オープンソースソフトウェアのマニュアル等の翻訳」**
真藤 直観 (GentooJP)

【講演概要】

オープンソースソフトウェアのマニュアル翻訳について、Gentoo Linuxの事例を中心に紹介するとともに、他のオープンソース関連の翻訳作業の現状について報告する。



【略歴】

2002年頃からGentoo Linuxを使い始める
2002年GentooJP発足とともにドキュメント、翻訳チームに参加し、以降GentooJPのメンバーとして活動
2007年11月よりGentoo.orgドキュメント開発者メンバーとして翻訳作業中心に活動
以降、GentooJPの翻訳ドキュメントのコミッター及びGentooJPメンバとして活動中

10:45-12:00 パネル討論



司会：影浦 峯（東京大学 教育学研究科 教授）

【略歴】

東京大学教育学部・マンチェスター大学科学技術研究所卒、PhD.

学術情報センター・国立情報学研究所を経て、現在、東京大学大学院教育学研究科教授。専門は言語とメディア。

パネリスト：結城 真悠（株式会社ロックエンジェルリミテッド 代表取締役）

略歴・写真は講演（1）「翻訳企業」を参照。

内田 真人（作品社 編集部 編集長）

略歴・写真は講演（2）「出版翻訳」を参照。

加藤 直孝（日本アイ・ビー・エム株式会社 トランスレーション・サービス・センター アドバイザリーS/Wエンジニア）

略歴・写真は講演（3）「国際企業の多言語化」を参照。

野田 幸江（社団法人アムネスティ・インターナショナル日本 企画・広報担当）

略歴・写真は講演（4）「NGO系翻訳」を参照。

真藤 直観（GentooJP）

略歴・写真は講演（5）「オープンソースソフトウェアのマニュアル等の翻訳」を参照。



パネリスト：鮎谷 茂寛（GentooJP）

【略歴】

2004年7月にGentooのGWN（Gentoo Weekly News）の翻訳チームに参加

2004年同月、GentooJP Document 翻訳チームに参加

2004年11月にGentooJP Document チームの取りまとめ役に就任

2005年2月にGentoo 本家開発者入りし、翻訳作業中心で活動

2006年初旬、Gentoo 本家開発者を引退

現在は、GentooJPとして活動

情報システム論文執筆ワークショップ ～情報システムの論文を書こう～
3月10日（水）15:30-17:30 [第5イベント会場（法文1号館3F 26教室）]

【全体概要】

情報教育と情報システムの学問分野は、実践フィールドをベースとした理論と応用の上に成り立っている。この分野では、開発したシステムや事例研究を論文としてまとめる時、論文の構成や評価の書き方について悩むことが多い。そこで、情報教育・情報システムに関する実務面での実績のある人、これから情報教育・情報システム関連の研究をしようとする人を対象に、論文の書き方について考える。ここでは、論文の基本事項を確認し、ジャーナル論文と研究発表会の予稿集論文との違いについて説明し、事例研究を論文にする方法や評価・考察の仕方、実務データを抽象化する工夫などについて、講師とともに考える。



司会：畑山 満則（京都大学 防災研究所 准教授）

【略歴】

2000年東京工業大学大学院総合理工学研究科博士後期課程修了。博士（工学）。02年京都大学防災研究所助手、05年より同助教授となり、現在に至る。阪神・淡路大震災時にGISを用いた復旧・復興支援活動を神戸市長田区において行い、以降、災害直後から利用可能な情報システムの構築を目指し、時空間GISの開発、GISの防災応用に関する研究に従事。2004年に山下記念研究賞を受賞。

15:30-15:45 講演（1）「特集号の総括（IS）」

阿部 昭博（岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 教授）

【講演概要】

論文誌「身近になる情報システム－理論と実践－」特集号が、2010年2月に刊行される。これは、2005年「情報システム論文」特集号以降、計6回目の情報システム（IS）関連特集号であるが、依然、採択率は低迷しており、継続的な普及啓蒙による投稿論文の質向上が求められている。ここでは、IS関連特集号の歩みを概観したうえで、IS論文の特質について新規性、有用性、信頼性の観点から再確認する。



【略歴】

1985年図書館情報大学卒業。同年（株）富士通東北システム。1988～1998年松下電器産業（株）。その間、1996年筑波大学大学院経営・政策科学研究科修士課程修了。1998年東京大学大学院総合文化研究科博士課程中退。同年岩手県立大学ソフトウェア情報学部講師。同助教授を経て、2006年同教授。博士（学術、東京大学）。GISやユビキタス技術を応用した地域情報システムの実践的研究に従事。

15:45-16:00 講演（2）「特集号の総括（CE）」

中森 真理雄（東京農工大学 工学府 教授）

【講演概要】

論文誌の情報教育特集号を編集した経験を基に、情報教育の研究結果を論文として執筆する上で心得ておくべきことを述べる。研究会発表と論文誌の違い、学術論文と作業報告書の違い、抽象的・普遍的な観点からの論じ方、客観的な評価方法、研究の位置づけの述べ方などを取り上げる。



【略歴】

1971年東京大学工学部計数工学科卒業。1977年同大学大学院工学系研究科計数工学専門課程修了。工学博士。同年東京農工大学工学部数理情報工学科講師。現在、同大学工学府情報工学専攻教授。本会CE研査（2006～）、MPS研査（1995-1999）。本学会フェロー。日本オペレーションズ・リサーチ学会理事（1997～1999、2005～2007）、同フェロー。

16:00-16:40 講演 (3) 「論文作成の課題」
神沼 靖子 (当学会フェロー)

【講演概要】

情報システム論文および教育論文の特集号編集委員の経験から、事例研究あるいは実践的研究を如何に論文化するかに焦点をあてて、論文作成における課題について考える。たとえば、不採択になる要因は何か、研究会発表論文とジャーナル論文のちがいは何か、論文執筆の基本事項・事例研究論文でよくある問題点・評価/考察の仕方・先行研究の調べ方などについて取り上げる。



【略歴】

1961年日本鋼管KKに始まり、横浜国大、埼玉大、帝京技科大を経て、前橋工科大教授を2003年3月に定年退職。現在、情報システム教育のアドバイザー、企業における人材育成研修講師、書籍の執筆などに携わる。学術博士。情報システム学、高度IT人材の育成に興味をもつ。本学会フェロー、情報処理教育委員会、情報システム教育委員会、アクレディテーション委員会、初等中等教育委員会等のメンバー。

16:40-17:30 パネル討論「検討課題の議論」

【討論概要】

参加者に課題を与え、パネリストと参加者による質疑討論を行う。



司会：辻 秀一 (東海大学 情報通信学部 教授)

【略歴】

1969年大阪大学基礎工学部電気工学科卒業。1974年大阪大学大学院基礎工学研究科博士課程修了、工学博士。1974年～2000年、三菱電機(株)に勤務。この間、研究所および開発部門にて、ヒューマンインタフェースや人工知能システムなどの研究開発に従事。1997年～2000年、電子商取引実証推進協議会へ出向。電子商取引と情報セキュリティの研究に従事。2000年4月より東海大学に勤務。現在、情報通信学部組込みソフトウェア工学科教授。電子情報通信学会、人工知能学会、電気学会、IEEE各会員。

パネリスト：阿部 昭博 (岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 教授)

略歴・写真は講演(1)「特集号の総括(IS)」を参照。

中森 眞理雄 (東京農工大学 工学府 教授)

略歴・写真は講演(2)「特集号の総括(CE)」を参照。

神沼 靖子 (当学会フェロー)

略歴・写真は講演(3)「論文作成の課題」を参照。



パネリスト：金田 重郎 (同志社大学 理工学部 教授)

【略歴】

1976年3月・京都大学工学部・電気第二学科卒業。1978年3月・同大学院工学研究科・修士課程電子工学専攻・修了。同年4月・NTT日本電信電話公社・武蔵野電気通信研究所・入所。NTT日本電信電話株式会社・横須賀研究開発センターを経て、1997年4月・同志社大学大学院・総合政策科学研究科・教授着任。現在は、同・工学研究科・教授、工学博士(京都大学)、技術士(情報処理部門)、情報システム開発方法論、データマイニングとその応用、ユビキタスサービスなどの研究に従事。

情報爆発時代における情報の信頼性とデータ品質

3月9日(火) 15:30-17:30 [第6イベント会場(法文1号館3F 27教室)]

【全体概要】

社会に流通する多様な情報、および分散・蓄積された大量データを効率的に扱うために、情報やデータの品質を確保する基盤技術の研究開発が急務となっている。本セッションでは、情報爆発時代を見据えた情報学分野における情報の信頼性とデータ品質を保証するための諸問題を議論する。



司会：田中 克己 (京都大学 情報学研究科 教授)

【略歴】

1974年 京都大学工学部卒業、1976年 京大大学院工学研究科(修士)修了、1979年 神戸大学教養部助手、1986年 神戸大学工学部助教授、1994年 神戸大学教授、2001年 京都大学教授(情報学研究科)

15:30-16:10 基調講演「Information Relevance and Data Overload in the Web」

Ricardo Baeza-Yates (Yahoo! Research)

【講演概要】

With the continuous growth of the Web, in particular the Web 2.0, one important question is the relevance of its content. In this context, we have to use relevance in a more general sense, not only if the information is useful, but also if we can trust it. In this talk we explore how the concepts of quality, credibility, reputation, abuse, and Web spam interrelate.



【略歴】

Ricardo Baeza-Yates is VP of Research for Europe and Latin America, leading the Yahoo! Research labs at Barcelona, Spain and Santiago, Chile, and also supervising the lab in Haifa, Israel. Until 2005 he was the director of the Center for Web Research at the Department of Computer Science of the Engineering School of the University of Chile; and ICREA Professor and founder of the Web Research Group at the Dept. of Information and Communication Technologies of Univ. Pompeu Fabra in Barcelona, Spain. He maintains ties with both mentioned universities as a part-time professor for the Ph. D. program.

His research interests includes algorithms and data structures, information retrieval, web mining, text and multimedia databases, software and database visualization, and user interfaces.

16:10-16:30 **パネル討論「position talk (パネリスト)：画像・映像情報の信憑性」**
和田 俊和 (和歌山大学 システム工学部 教授)

【討論概要】

WEB 上には極めて多数の画像・映像情報があり、多くの人々はこれらを通じて情報を入手している。しかし、画像・映像情報には、現実の世界を正しく反映していない人為的に加工されたものが多数含まれている。これらは、1) 加工された画像・映像、2) 画像・映像は加工されていないが説明文が加工されているもの、3) 画像・映像も説明文も加工されていないが、その組み合わせが間違っているもの、に大別される。本講演では、主に1)の加工技術とそれを見抜くための Digital Forensic 技術の動向について述べる。



【略歴】

昭和 62 年東工大大学院修士課程修了。平成 2 年同大大学院博士課程修了。同年岡山大学工学部助手。平成 6 年同大大学院自然科学研究科助手。平成 7 年同大工学部講師。平成 9 年京都大学大学院工学研究科助教授。平成 10 年同大大学院情報学研究科助教授。平成 14 年、和歌山大学システム工学部教授。現在に至る。工学博士。画像理解、パターン認識の研究に従事。平成 7 年 David Marr 賞。平成 9 年情報処理学会山下記念研究賞。平成 11 年電子情報通信学会論文賞。平成 21 年システム制御情報学会論文賞各受賞。情報処理会、電子情報通信学会、システム制御情報学会、IEEE 会員。

16:30-16:50 **パネル討論「position talk (パネリスト)：Web2.0 情報の品質と信憑性」**
パネリスト：稲垣 陽一 ((株) きざしカンパニー 代表取締役専務 CTO)



【略歴】

1990 年東京大学文学部言語学専攻卒業、(株) シーエーシー入社技術研究室に配属、スタンフォード大学コンピュータサイエンス学科客員研究員 (96-98)、きざしサーチエンジンの研究開発を経て、2007 年 1 月より (株) きざしカンパニー代表取締役専務 CTO をつとめる

16:50-17:10 **パネル討論 position talk (司会)：検索情報の信頼性**
田中 克己 (京都大学 情報学研究科 教授)

略歴・写真は「情報爆発時代における情報の信頼性とデータ品質」司会紹介を参照。

Ricardo Baeza-Yates (Yahoo! Research)

略歴・写真は基調講演「Information Relevance and Data Overload in the Web」を参照。

17:10-17:30 **質疑・討論**

改正著作権法と IT

3 月 10 日 (水) 9:30-12:00 [第 6 イベント会場 (法文 1 号館 3F 27 教室)]

【全体概要】

著作権法の改正を受けて、IT 分野において想定されるメリットと、依然として残る課題を明確にすることを目的に、法律の専門家と、関係分野の研究者による討論を行う。



司会：岡本 真 (アカデミック・リソース・ガイド (株))

【略歴】

アカデミック・リソース・ガイド代表取締役、プロデューサー。1999 年から 2009 年までヤフー株式会社にて、検索系サービスの企画・設計に従事。起業後は、ウェブコンサルティングや産学連携のコーディネートに従事。

9:30-9:45 **討論にあたって**
岡本 真 (アカデミック・リソース・ガイド (株))

【討論概要】

講演と討論の開始にあたって、本企画の位置づけや、講演者・討論者の人選意図の説明を行う。

略歴・写真は「改正著作権法と IT」司会紹介を参照。

9:45-10:30 **講演「改正著作権法の概要」**
大谷 和子 ((株) 日本総合研究所 法務部長)

【講演概要】

改正著作権法について、特に IT に影響する改正条項を法律の非専門家向けにわかりやすくご解説いただく。



【略歴】

(株) 日本総合研究所法務部長、IT 戦略本部評価専門調査会委員、総務省情報通信行政・郵政行政審議会委員、経済産業省情報システムの信頼性向上のための取引慣行・契約に関する研究会委員、プロバイダ責任制限法ガイドライン等検討協議会名誉毀損プライバシー関係 WG 主査、知的財産戦略本部専門調査会委員 (2008 年) 他

10:30-12:00 パネル討論「改正著作権法がもたらす可能性と残した課題」

【討論概要】

改正著作権法によって新たに可能になった研究・開発の状況を各界の関係者との討論によって明らかにしつつ、依然として残されている課題を洗い出す。

パネリスト：大谷 和子

略歴・写真は講演「改正著作権法の概要」を参照。



パネリスト：別所 直哉（ヤフー（株）最高コンプライアンス責任者（CCO）兼法務本部長）

【略歴】

ヤフー株式会社 最高コンプライアンス責任者(CCO)兼法務本部長。1999年ヤフー株式会社入社、2000年同社法務部長、2008年より現職。



パネリスト：前川 喜久雄（国立国語研究所 教授）

【略歴】

大学共同利用機関法人国立国語研究所言語資源研究系、系長・教授。1956年生。上智大学博士後期課程（言語学）中退。鳥取大学講師、国立国語研究所研究員等を経て現職。2006年より文科省科研費特定領域研究「日本語コーパス」領域代表者。専門は音声学、言語資源学。著書（共著）に『岩波講座音声の科学 2 音声』（1998）「The Oxford Handbook of Japanese Linguistics」（2008）など。



パネリスト：豊田 正史（東京大学生産技術研究所 准教授）

【略歴】

1994年東京工業大学理学部情報科学科卒業。1999年同大学大学院情報理工学研究所博士後期課程修了。博士（理学）。1999年より東京大学生産技術研究所ポスドク。2004年同大学特任助教。2006年より同大学准教授。大規模な日本語 Web アーカイブの構築及び Web マイニング・可視化の研究に従事。その他、ユーザインタフェース、ビジュアルプログラミングに興味を持つ。



パネリスト：川西 晶大（国立国会図書館 電子情報企画室（大規模デジタル化事務局））

【略歴】

国立国会図書館総務部企画課課長補佐。

1995年国立国会図書館入館。総務部総務課、文化庁長官官房著作権課マルチメディア著作権室、調査及び立法考査局外交防衛課等を経て2008年から現職。

私の詩と真実

3月9日（火）9：30-12：30 [第7イベント会場（理学部1号館 中央棟2F 小柴ホール）]

【全体概要】

情報処理学会歴史特別委員会ではオーラルヒストリのインタビューを進めているが、大先輩のお話は毎回大変示唆に富み印象的なので、これを広く会員の方々、特に若い世代の会員に直接お聞かせできないものかと検討してきた。そして海外の事例なども参考にし、コンピュータパイオニアあるいは情報処理学会会長経験者、またはそれらに相当する経歴の大先輩をお招きして、若い頃の研究生生活の思い出や今の若い世代に伝えたい経験談などをお話いただくシンポジウムを企画した。なお本シンポジウムは第70回大会から開催しており今回が第3回目となる。



司会：和田 英一（（株）IJJイノベーションインスティテュート 所長）

【略歴】

1955年東京大学理学部物理学科卒業。1957年修士課程終了。1957年～1964年小野田セメント調査部統計課。1964年～1992年東京大学工学部計数工学科。1992年～2002年富士通研究所。2002年～IJJ技術研究所。IFIP WG2.1メンバー、WIDEプロジェクトメンバー、情報処理学会プログラミング・シンポジウム委員会運営委員長、情報処理学会会誌編集長などを歴任。

9:30-10:10

【第1部】情報処理技術遺産認定式

【概要】

昨年からはじめた情報処理技術遺産と分散コンピュータ博物館の認定を今年も行います。今回もわが国の貴重な技術遺産の所有者および貴重な技術遺産を保存、展示しているコレクションの責任者をお招きして情報処理学会会長から認定証をお渡します。

10:20-11:20

【第2部】シンポジウム「私の詩と真実」講演（1）：「棒ほど願って」

水谷 静夫（東京女子大学 名誉教授）

【講演概要】

そもそもの触れ初めは電気試験所の翻訳機械ヤマトだ。この実習で、計算機にやれと命じた通りを非情に遂行するアルゴリズム実行といふわがを思ひ知らされた。このころ新しく得た友人たちに、クラス論理や計算機システムも教へて貰った。やがて日本語で書け連糸操作で働く言語《朱唇》を設計し、協力を得て処理系も実現した。連糸操作の上に国語理論の客観化を夢見た。「棒ほど願って針とやら」であっても、願はなければ針さへ得られまい。

【略歴】

1926年3月東京の浅草に生まれる。48年9月東京大学文学部国文学科卒業。49年2月～64年3月国立国語研究所員。64年4月～91年3月東京女子大学文学部日本文学科助教授、68年以降教授。91年第6回山内業績賞を受ける。



11:30-12:30 **【第2部】シンポジウム「私の詩と真実」講演(2)：「先人に学ぶ」**
山本 卓真(富士通(株) 顧問)

【講演概要】

まず、幼年、少年時代の生き立ちを通して、戦前の日本の一端を紹介する。幼年学校、士官学校の教育は総じて正常なエリート教育だったが、戦争末期の鍛錬は激烈であった。卒業後の明野飛行学校で、鹵獲された米軍機により技術の差を直感させられた。

終戦時、部隊長の訓示「生きて祖国の再建に力を尽くせ」は生涯の指針となった。また極限状況での長たる者の心得も教えられた。復員、僥倖もあって進学、自家用農業をしながら工学部へ。心に残る法哲学・尾高朝雄教授の教えで級友も道を誤らなかつた。星合教授の押し込みで富士通入社、交換機配属、幻滅したがデジタル技術の先駆者となった。

事業家・小林大祐課長の下で天才池田敏雄と共にリレー計算機開発に参加する。

老練な岡田完二郎社長の経営。計算機に社運を賭ける。M&A、技術偏重、損益管理

天才の閃き＝国際互換性の成功と死闘。そして雲の果てに、



【略歴】

大正14年熊本県生まれ。陸軍士官学校卒業後、満州国奉天にて終戦。帰国して東京大学第二工学部卒業後、富士通信機製造(現富士通)株式会社入社。社長会長を歴任して日本の通信、コンピュータの事業にかかわった。現在偕行社会長、国策研究会会長、日本ユニヴァーサルデザイン協議会会長など多くの団体で活動を続ける。勲一等瑞宝章、藍綬褒章、名誉大英勲章受章。著書に「夢をかたち」「志をたかく」がある。

CHANGE! Yes, we can! Past, Present, Future of Women in Information Technology

共催：情報処理学会ソフトウェアジャパン IT Diversity Forum

IEEE Japan Council Women in Engineering Affinity Group

社団法人 情報サービス産業協会

協賛：東京大学男女共同参画室

3月9日(火) 15:30-17:30 [第7イベント会場(理学部1号館 中央棟2F 小柴ホール)]

【全体概要】

情報処理学会創立50周年にあたり、日本の情報処理分野における女性研究者、技術者が世界と比べ、いまだ大変少なく、また、大学においても、企業においても指導的立場にある女性はさらに少ないという現状を鑑み、解決すべき問題点、その解決方法、ひいては、女性にとって、学ぶ上でも就職する上でもIT分野が魅力的にするにはどうしたらよいか、キャリアパスを築くためのヒント、継続的な励まし(メンター制度)など、これからの50年の情報処理のあるべき姿を検討したい。



司会：中野 美由紀(東京大学 生産技術研究所 特任准教授)

【略歴】

東京大学理学部情報科学科卒業。博士(情報理工学)。富士通(株)勤務。1985年7月東京大学生産技術研究所助手(2004年助教)。2008年7月特任准教授。データベースシステム、ストレージシステム、データ工学の研究に従事。IEEE、電子情報通信学会、情報処理学会、ACM、日本データベース学会各会員。



挨拶：白鳥 則郎(東北大学 電気通信研究所 教授、情報処理学会会長)

【略歴】

1977年東北大学大学院博士課程修了。1984年東北大電気通信研究所助教授、1990年同大情報工学科教授、1993年同大電気通信研究所教授。本会副会長(2004-05年度)、理事(1996-97年度)、研究会主査。本会フェロー(1999年度)、功績賞(2007年度)、25周年記念論文賞。本会主催国際会議General Chair、IEEEフェロー。人と情報環境の共生の研究に従事。



スペシャルゲスト：Fran Allen (IBM T. J. Watson Research Center IBM Fellow Emerita)

【略歴】

Allen's work focuses on compilers and languages that together enable both application performance and user productivity on high performance computers. The resulting advances have led to numerous awards for Allen including ACM's Turing Award "For pioneering contributions to the theory and practice of optimizing compiler techniques that laid the foundation for modern optimizing compilers and automatic parallel execution." She is a member of the American Philosophical Society, the National Academy of Engineering, a Fellow of the American Academy of Arts and Sciences, ACM, IEEE and the Computer History Museum and is the recipient of six honorary doctorates.



パネリスト：国井 秀子(リコーITソリューションズ株式会社 取締役 会長執行役員)

【略歴】

お茶の水女子大学修士(物理専攻)、テキサス大学 Ph. D.。(株)リコー入社以来2008年まで、同社のソフトウェア分野の研究開発責任者。2008年から現職。また、日本学術会議連携会員、内閣府宇宙開発戦略専門調査会委員、内閣府男女共同参画推進連携会議議員、文部科学省科学技術・学術審議会委員、日本データベース学会副会長などを務める。前 IEEE JC Women in Engineering Chair。



パネリスト：久保 真季(国立女性教育会館 事務局長)

【略歴】

1982年東京大学法学部を卒業し、文部省入省。広報室長、調査企画課長、米国 National Science Foundation フェロー、内閣府男女共同参画局推進課長、日本学術振興会総務部長、内閣府政策統括官(科学技術政策担当)付参事官を経て、2009年4月から国立女性教育会館事務局長。



パネリスト：重木 昭信（株式会社 NTTデータ 顧問）

【略歴】

1973年電電公社入社（データ伝送装置とデータ宅内装置の開発に従事）。1988年NTTデータ通信第四公共システム事業部長（大規模ミッションクリティカルシステムの開発PM）。2001年（株）NTTデータ取締役。2007年同社代表取締役副社長執行役員。2009年現職。2008年から経済同友会医療制度改革委員会副委員長



パネリスト：都河 明子（東京大学 男女共同参画オフィス 特任教授・コーディネーター）

【略歴】

東京大学理学部生物化学科卒（医学博士）。東京大学医科学研究所助手、日本レダリー（株）研究開発本部課長、東京大学理学系研究科・理学部講師、東京医科歯科大学教授を経て現在に至る。専門（分子生物学、医学教育、科学と女性）。国際女性技術者・科学者ネットワーク・日本会長、国立高等専門学校機構監事、文部科学省独立行政法人評価委員会委員等。文部科学大臣表彰・科学技術賞理解増進部門（2007）受賞等。



パネリスト：土井 美和子（株式会社東芝 研究開発センター 首席技監）

【略歴】

1979年東京大学工学系修士課程修了。同年現在の（株）東芝研究開発センター入所。「ヒューマンインタフェース」を専門分野とし、日本語ワープロ、機械翻訳、道案内サービス、ネットワークロボットの研究開発に従事。現在、日本学術会議連携会員、東工大経営協議会委員、国立情報学研究所運営会議委員、科学技術振興機構運営会議委員、HI学会副会長などを務める。博士（工学）。

ビデオゲーム開発の現場では今何が起きている？ 3月9日（火）9:30-12:00 [第8イベント会場（工学部新2号館 1F 213大講義室）]

【全体概要】

過去30年あまりビデオゲームはIT技術と共に発展してきた。近年では、ゲームへの応用を主目的として最先端CPUやGPUが開発されるなど、ゲームはIT技術の牽引を担うひとつの要素へと変わってきた。ゲーム技術の特徴は、フォトリアルな表現を可能にする3Dグラフィックス、あたかも人間らしい振る舞いをもたらす人工知能、現実世界とゲーム世界を結びつけるユーザーインタフェースなど、さまざまな分野におよぶ。本セッションでは、世界のゲーム市場の動向、技術開発の現状というサーベイと、ゲーム開発技術のこれからについて、実際に国内大手ゲーム企業において研究・開発に従事している立場から最新の事情をお伝えする。



司会：稲見 昌彦（慶應義塾大学 大学院 メディアデザイン研究科 教授）

【略歴】

1999年、東京大学大学院工学研究科博士課程修了。博士（工学）。東京大学助手、科学技術振興機構さきがけ研究者、マサチューセッツ工科大学コンピュータ科学・人工知能研究所客員科学者等を経て、2006年、電気通信大学知能機械工学科教授。2008年より科学技術振興機構ERATOグループリーダーを併任。2008年4月、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授。日本VR学会理事、情報処理学会EC研究会主査。

9:35-9:55

講演（1）「日本のビデオゲーム業界の動向と技術開発への取組み」

松原 健二（コーエーテックモホールディングス（株） 代表取締役社長）

【講演概要】

グローバルなビデオゲーム市場は成長を続ける一方、日本のビデオゲーム市場はほとんど伸びていない。ビデオゲーム市場を牽引する据置型において、PS3、Xbox360の販売台数は欧米に比べ日本はその10分の1程度となっている。日本製タイトルはかつて欧米での売上の上位を占めていたが、今日では欧米企業にとって代わられている。日本のビデオゲーム企業にとって欧米市場での収益拡大は最重要課題であり、各社努力を続けている。欧米で人気のゲームは日本と異なり、リアル性の高いグラフィックス、人間らしい振る舞いをするAIなど、技術的要素が高いという特徴がある。本講演では、日本のこれまでのやり方のどこを改めて行く必要があるのか、欧米はどのような点に優れているのかについて触れる予定である。また国内の業界組織であるCESA（コンピュータエンターテインメント協会）における開発者育成についても述べる。CESAはゲーム開発力の向上を目指してCEDEC（CESAゲーム開発者カンファレンス）を運営している。2009年に11回目を迎えたCEDECは参加者3,500名と大きな規模に発展した。これからもカンファレンスの国際化、セッションの充実を進め、グローバルな貢献を目指している。



【略歴】

1962年生まれ。1986年東京大学大学院情報工学課程修了。同年（株）日立製作所に入社、メインフレーム、スーパーコンピュータのCPU開発に従事。1997年米国マサチューセッツ工科大学大学院スローンスクール修了。同年（株）日本オラクルに入社、データベースローカライズ、2000年問題、新規事業開拓などに従事。2001年（株）コーエー入社、オンラインゲームおよびモバイルゲーム担当執行役員を務め、「信長の野望 Online」、「大航海時代 Online」、「真・三國無双 Online」などをプロデュース。2007年6月に代表取締役社長に就任。2009年4月より経営統合にて発足したコーエーテックモホールディングス（株）の代表取締役社長に就任。現在に至る。2003年4月より2009年3月まで東京大学情報学環コンテンツ創造科学産学連携教育プログラム特任教授。2007年4月より2009年3月まで独立行政法人情報処理推進機構（IPA）未踏ソフトウェア創造事業プロジェクトマネジャー。

9:55-10:20 **講演 (2) 「ビデオゲームは、計算機科学研究のフロンティアたり得るか？」**
吉岡 直人 ((株) スクウェア・エニックス 研究開発部 チーフ・テクノロジスト)

【講演概要】

つい最近まで、「コンピュータサイエンスの先端研究は、ゲームにはあまり関係ないものである」という認識が、ビデオゲーム業界では一般的でした。しかし、世代を追うごとに高性能化、複雑化するゲームコンソール、お客様のご期待にお応えするためにますます高品質化するコンテンツは、長期化する制作期間をもたらしました。これの解決のための施策の一つとして、私は、日本では情報処理学会に象徴されるような先端技術研究の取り込みを積極化していく必要があると考えています。

これが、ゲーム業界側の要請であるとするれば、もう一つの課題があります。それは、ゲーム業界は、研究者の方にとって魅力的なのか？という課題です。これを命題のひとつとして据えて、当社では、先端研究活動を目的とし、Square Enix Research Center (SERC) を立ち上げて一年弱になります。SERC では、国内外から少数精鋭の研究者を擁し、次々世代のゲームの要素となるであろう技術を予測、先行研究の結果を学会で積極発表する事業を行っています。この活動についてご紹介し、ゲーム業界における「ある視点」を共有させて頂ければと考えています。



【略歴】

2006年スクウェア・エニックス入社。海外ゲーム開発者や関連技術者とのリアルなビジネス経験を活かしての情報交換も進めながら、研究開発部において次々世代ゲーム技術の先行研究を行うリサーチ部隊を率いている。2008年からCEDEC アドバイザリーボード委員長。

10:20-10:45 **講演 (3) 「ゲーム開発の実際と産学連携について」**
斎藤 直宏 ((株) バンダイナムコゲームス コンテンツ制作本部 制作ディビジョン技術部, サウンド部 ゼネラルマネージャー)

【講演概要】

ゲーム開発現場では、魅力的なソフトウェアを目指して、新しい取り組みを常に模索している。進化するコンピュータテクノロジー、高機能化するゲームハードウェアを背景に、ビジュアルデータやサウンドの制作手法も大きく進化し続けている。

本講演では、魅力的なデジタルエンタテインメントを開発する現場での実際を、ゲーム映像を交えながら最新のモーションやサウンドなどの制作過程と共に紹介する。さらに、アカデミックな研究成果を用いたゲーム作品を紹介し、産学連携の導入について考察する。



【略歴】

コンテンツ制作本部 制作ディビジョン 技術部, サウンド部 ゼネラルマネージャー, CEDEC アドバイザリーボード副委員長。
1962年生まれ。1984年、東海大学工学部卒業。同年、(株) ジャパンコンピュータグラフィックス・ラボ (JCGL) 入社。CG制作システムの研究開発・保守運営に従事。1987年、(株) ナムコ (現 (株) バンダイナムコゲームス) に移り、CG映像や大型アミューズメント、業務用・家庭用におけるCGシステムの研究開発・制作プロジェクトの技術支援・データ生成の環境構築に従事。現在に至る。

10:45-11:10 **講演 (4) 「ソフトウェアエンジニアリング面から見たゲーム開発の実際」**
植原 一充 (フリー)

【講演概要】

ここ数年のゲームハードウェアの進化や欧米メーカの進出、コンテンツの大規模化に伴うデータ量のインフレ的增加に伴い、ゲーム産業のエンジニアリング環境には大きな変化が生じてきています。

本セッションではエンジニア面から見た現在の大規模ゲーム制作現場の状況を簡単にご説明した後、そこに徐々に取り入れられてきているアカデミック側発祥の技術の現状をCEDEC等の発表を元にご紹介いたします。

さらに、現在ゲーム制作現場が抱えている問題点を発表させていただきそれに関して、将来アカデミック側からの何からの知見をいただければ幸いです。



【略歴】

CESA 技術委員会・CEDEC アドバイザリーボードメンバー
1994年京都大学理学部卒。大手ゲーム会社に入社。家庭用ゲーム機向けのプロジェクトでプログラムを担当し、その後社内での技術情報共有業務に携わる。
2009年退社。現在はフリー。

11:10-12:00 **パネル討論 「ゲーム研究は楽しい？」**

【講演概要】

ビデオゲームそのものを研究対象とする機会は未だ多くない。面白さという感性を実現する目標は、従来の工学的手法では捉えにくい。一方ではハードウェアからソフトウェアまで最先端の技術を駆使して開発されるという面を持つ。感性と技術のハイブリッドであるビデオゲームを研究対象としてみた場合の面白さ、課題は何か、業界とアカデミックで連携していくことは可能か、について議論する。

司 会： 稲見 昌彦 (慶應義塾大学 大学院 メディアデザイン研究科 教授)

略歴・写真は「ビデオゲーム開発の現場では何が起きている？」司会紹介を参照。

パネリスト： 吉岡 直人 ((株) スクウェア・エニックス 研究開発部 チーフ・テクノロジスト)

略歴・写真は講演(2)「ビデオゲームは、計算機科学研究のフロンティアたり得るか？」を参照。

斎藤 直宏 ((株) バンダイナムコゲームス コンテンツ制作本部 制作ディビジョン技術部, サウンド部 ゼネラルマネージャー)

略歴・写真は講演(3)「ゲーム開発の実際と産学連携について」を参照。

植原 一充 (フリー)

略歴・写真は講演(4)「ソフトウェアエンジニアリング面から見たゲーム開発の実際」を参照。



パネリスト： 長谷川 晶一 (電気通信大学 電気通信学部 知能機械工学科 准教授)

【略歴】

1997年東京工業大学工学部電気電子工学科卒。1999年同大大学院知能システム科学専攻修了。同年ソニー(株)入社。2000年東京工業大学精密工学研究所助手。

2007年電気通信大学知能機械科助教授。同年准教授。現在に至る。日本バーチャルリアリティ学会、日本ロボット学会、計測自動制御学会、情報処理学会、日本デジタルゲーム学会会員。Euro Graphics 2004 Best Paper Award、日本VR学会論文賞・学術奨励賞等受賞。バーチャルクリエータ、物理シミュレーション、力触覚インタフェース、エンタテインメント工学の研究に従事。

イマジンカップ日本大会

3月9日（火）13:00-17:30 [第8 イベント会場（工学部新2号館 1F 213大講義室）]

日本大会・基調講演・表彰式

[全体概要]

イマジンカップは、マイクロソフトの主催する全世界の学生を対象とした技術コンテストで、今年のテーマは「テクノロジーの力で社会問題を解決しよう」で、ポーランドのワルシャワで世界大会が開催されます。今回、情報処理学会と共催でイマジンカップ日本大会（ソフトウェア部門）を開催し、書類選考を通過した3チームが発表を行い、世界大会に出場する日本代表チームを決定します！

是非、世界に挑戦する学生を応援してください。



理数系人材育成プログラム「ロボットを作ろう・動かそう」

3月10日（水）13:00 - 17:30 [第8 イベント会場（工学部新2号館 1F 213大講義室）]

[全体概要]

マイクロソフトとベネッセコーポレーションが実施する理数系人材育成プログラム「ロボットを作ろう、動かそう」の1年間の活動の集大成となる合同発表会（コンテスト）です。今回は、首都圏私立校を中心とする約20校から選抜された中学生・高校生が集まり、ロボットを使ったプレゼンテーションとレースで競います。

13:10-15:20 共通ロボットPR（学生プレゼン）



15:30-16:00 創作ロボットPR (学生プレゼン)



16:10-16:40 ロボットレース



17:00-17:30 表彰式

**次世代ネットワークを変容させるネットワークセキュリティ技術：
トラクタブルネットワークの実現へむけて
3月11日(木) 9:30-12:00 [第8イベント会場(工学部新2号館 1F 213大講義室)]**

[全体概要]

今日のネットワークセキュリティ技術では、現時点でのネットワークに関する状況把握だけでなく、問題の原因究明や過去への遡及解析など5W1H全般に答えるための技術開発が求められている。このような要件にもとづく技術開発の結果、トラクタブルネットワーク技術が形成されつつある。本セッションではトラクタブルネットワークにおける基本問題と現時点での成果について論じ、次世代ネットワークのあり方について展望する。



司会：門林 雄基 (情報通信研究機構 情報通信セキュリティ研究センター トレーサブルネットワークグループ プロジェクトリーダー)

[略歴]

1997年大阪大学大型計算機センター助手、2000年奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科助教。2006年独立行政法人情報通信研究機構(NICT)情報通信セキュリティ研究センタートレーサブルネットワークプロジェクトリーダー(兼務)、博士(工学)。

9:30-10:00

講演(1)「再現テストベッドと次世代ネットワークセキュリティ」

三輪 信介 (情報通信研究機構 情報通信セキュリティ研究センター トレーサブルネットワークグループ 主任研究員)

[講演概要]

攻撃再現技術と原因究明や遡及解析の技術との関わりについて、我々が研究開発してきた「小規模攻撃再現テストベッド」や「マルウェア体験ラボ」などに触れながら現状と成果について述べ、今後のネットワーク環境におけるセキュリティについて、原因への遡及をより困難にする仮想化技術やオーバーレイ、クラウドなどの技術との関連から、その課題と展望を論じる。

[略歴]

1999年北陸先端科学技術大学院大学博士後期課程修了。同年同大学情報科学センター助手。2001年通信総合研究所(現情報通信研究機構)研究員、2008年より同主任研究員。インターネットのセキュリティおよびその再現・検証実験環境の構築方法の研究開発に従事。ACM、USENIX会員。博士(情報科学)。



10:00-10:30 講演 (2) 「長期バックボーンネットワークトラフィックにおける異常トラフィックの特性について」
福田 健介 (国立情報学研究所 / 科学技術振興機構 アーキテクチャ科学研究系 准教授)

【講演概要】

長期 (2001-2009) 定点測定されたバックボーンインターネットトラフィックデータ (MAWI レポジトリ) に対して、各種異常検出アルゴリズムを適用した結果について報告する。また、複数の異常検出アルゴリズムで得られた結果を比較し正解データを作成するための試みについて概説する。

【略歴】



[1999年、慶應義塾大学大学院理工学研究科計算機科学専攻後期博士課程修了 (博士 (工学))。同年、日本電信電話株式会社入社。2002年ボストン大学訪問研究員。2006年より国立情報学研究所アーキテクチャ科学研究系准教授。インターネットトラフィック測定・解析およびネットワーク科学に関する研究に従事。

10:30-11:00 講演 (3) 「機械語命令列の類似性に基づく自動マルウェア分類システム」
岩村 誠 (日本電信電話株式会社 情報流通プラットフォーム研究所 社員)

【講演概要】

昨今、マルウェアの種類数は増加の一途を辿っている。この要因として、積極的な新種・亜種の開発が挙げられる。また、マルウェアの外見を変化させるランタイムバッカーの併用も、マルウェア数の増加に拍車を掛けており、マルウェアの脅威やトレンドの把握を難しくしている。こうした状況を踏まえ、近年マルウェアの分類技術の研究が進んでいる。本講演では、我々が開発しているプログラムコードの類似性に着目した自動マルウェア分類システムについて述べる。また、実際に収集されたマルウェアの分類結果を紹介しつつ、分類技術の有用性や今後の研究の方向性について述べる。

【略歴】



2002年早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了。同年日本電信電話株式会社に入社、情報流通プラットフォーム研究所勤務 (現職)。早稲田大学大学院基幹理工学研究科博士後期課程在籍。マルウェア対策の研究・開発に従事。

11:00-11:30 講演 (4) 「次世代ネットワークに向けたダークネット活用の課題と展望」
中尾 康二 (情報通信研究機構 情報通信セキュリティ研究センター インシデント対策グループ グループリーダー)

【講演概要】

ネットワークにおける未使用アドレス空間を有効活用することにより、ネットワークに対する攻撃挙動の把握、感染活動の把握を実時間に、精度高く把握する技術が重要となっている。次世代のネットワークにおいては、アドレス空間の拡大、想定できる攻撃手法の変化、利用するコンピューターリソースの進化などを十分に考慮する必要がある。次世代ネットワークにおける本ダークネット活用技術の課題、及び今後に向けた展望について議論する。

【略歴】



1979年早稲田大学卒業後、国際電信電話 (株) に入社。KDD 研究所を経て、現在 KDDI (株) 情報セキュリティフェロー、及び独立法人情報通信研究機構 (NICT) インシデント分析 G リーダ兼務。NW / システムを中心とした情報セキュリティ技術に関わる技術開発に従事。電子情報通信学会、情報処理学会などの会員。

2002年より早稲田大学非常勤講師。情報処理学会研究賞、総務省局長表彰、文部科学大臣賞等を受賞

11:30-12:00 講演 (5) 「総括：トラクタブルネットワークからの展望」
篠田 陽一 (情報通信研究機構 情報通信セキュリティ研究センター センター長)

【講演概要】

トラクタブルネットワークでは、状況の可視化、週及解析、問題の再現・分類などの要素技術により、ネットワークおよびネットワークに接続されたシステムの問題解決プロセスが大きく変革されると考えられる。本講演ではこれまでの成果を総括し、次世代ネットワークがトラクタブルネットワークを起点として新たな発展段階に入ることを予想する。

【略歴】



1988年東京工業大学工学部助手、1991年北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科助教授、2001年同大学情報科学センター教授。2006年独立行政法人 情報通信研究機構 (NICT) 北陸リサーチセンター統括責任者 (兼務) および、情報通信セキュリティ研究センター長 (兼務)。2007年内閣官房 情報セキュリティセンター 情報セキュリティ補佐官 (兼務)。工学博士 (東京工業大学)。

平成 21 年度科研特定領域「情報爆発 IT 基盤」プロジェクトシンポジウム
3月12日 (金) 10:00-17:45 [第8イベント会場 (工学部新2号館 1F 213大講義室)]

【全体概要】

「情報爆発」を旗印に2006年から実施している大規模な共同研究の活動をご紹介します。300人以上の研究者が、爆発的に増大する情報に打ち勝つためのコンテンツ技術、システム技術、インタラクションなど、様々な研究を実施しています。午前は招待講演として、マイクロソフトリサーチのギャノン博士にクラウドについて、九州大学副学長の安浦先生に社会情報基盤について、最新の動向に関するご講演をお願いしています。午後は、「情報爆発」プロジェクトに携わる研究者による研究の成果と展望に関する報告をいたします。最後には、若手研究者からこれからの情報研究の展望について関連なアイデアをご披露するパネルを企画しています。

司会：安達 淳 (国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 教授)



10:00-11:00 招待講演 (1) 「Building Cloud Applications to Support Research: the Microsoft Azure Research Engagement Project」
Dr. Dennis Gannon (Microsoft Research Cloud Computing Futures Center eXtreme Computing Group Director)

【講演概要】

We are currently in the middle of major sea change in science research from an era dominated by large scale simulation to one dominated by data. This change is due to two factors. First, because of the proliferation of on-line instruments and other devices we have now access to much more digital information than ever before. Second, our tools to analyze, explore and understand these data are far more powerful now thanks to advances that have come about because of technologies like large scale data centers, advanced search and data mining algorithms and our ubiquitous on-line access to the Internet. Together these technologies are evolving into a seamless fabric of client-to-cloud computing that will keep us constantly connected to our social networks, monitor our health and empower us with knowledge derived from vast oceans of data. This talk will focus on the some of the design issues for designing applications and software that can run in these massive clouds and also connect to our personal information clients. We will survey the various approaches to cloud programming and try to outline some challenges that lie ahead as we envision the applications of the future. We will also describe our new research engagement project in collaboration with the U. S. National Science Foundation.

【略歴】



Dennis Gannon the Director of Applications for the Cloud Computing Futures activity in the new eXtreme Computing Group of Microsoft Research. Prior to coming to Microsoft, he was a professor of Computer Science at Indiana University and the Science Director for the Indiana Pervasive Technology Labs and, for seven years, Chair of the Department of Computer Science. His research interests include cloud computing, large-scale cyberinfrastructure, programming systems and tools, distributed computing, computer networks, parallel programming, computational science and problem solving environments. Gannon led the DARPA HPC++ project and he was one of the architects of the Department of Energy SciDAC Common Software Component Architecture (CCA). He was a partner in the NSF Computational Cosmology Grand Challenge project, the NSF Linked Environments for Atmospheric Discovery and the NCSA Alliance. He served on the steering committee of the GGF, now the Open Grid Forum and the Executive Steering Committee of the NSF Teragrid. He has served as the program chair or general chair for numerous conferences and workshops. Gannon has published over 100 refereed articles and co-edited 3 books. He received his Ph. D. in Computer Science from the University of Illinois Urbana-Champaign in 1980 after receiving a Ph. D. in Mathematics from the University of California, Davis.

11:00-11:30 招待講演 (2) 「情報通信技術と社会システムアーキテクチャ」
安浦 寛人 (九州大学 理事・副学長)

【全体概要】

現代社会は、情報ネットワーク技術、LSI等のハードウェア技術、ソフトウェア技術で構成される社会情報基盤上に構成されている。これらのシステムは良質で信頼でき、人の生活と社会の活動が安心してそれに依拠できる「ディペンダブルな社会情報基盤」でなければならない。「どのような社会を作るべきかを考えて技術開発を行う」発想に基づいて、仕様や規格あるいは制度設計と連動した技術開発を行う社会主導型研究開発の手法が求められている。また、今後の大市場である発展途上国の社会情報基盤は、先進国とは異なる進歩を始めており、それに伴う新たな技術課題も生じている。新しい視点からの情報通信技術の研究開発が求められている。

【略歴】



1976年京都大学工学部情報工学科卒。1978年京都大学工学研究科修士課程(情報工学専攻)修了。京都大学工学部助手、同電子工学科助教授を経て、1991年より九州大学大学院総合理工学研究科情報システム学専攻教授。同大学院システム情報科学研究科教授を経て、現在、九州大学大学理事・副学長。情報処理学会および電子情報通信学会フェロー、IEEE CAS Societyの副会長や情報処理学会/電子情報通信学会などの理事等も歴任した。

11:30-12:00 特定領域報告 1 「領域全体概要・A O 1 柱報告」
喜連川 優 (東京大学 生産技術研究所 教授)

【略歴】



1978年 東京大学工学部電子工学科卒業
1983年 東京大学工学系研究科情報工学専攻博士課程修了 工学博士
1983年 東京大学生産技術研究所入所
2003年 生産技術研究所 戦略情報融合国際研究センター センター長
2008年 文部科学省 科学官
2009年6月 ACM SIGMOD Edgar F. Codd Innovations Award for contributions to high-performance database technology 受賞

13:00-15:25

特定領域報告 2 : A02 柱報告
松岡 聡 (東京工業大学 学術国際情報センター 教授)



特定領域報告 3 : A03 柱報告
松山 隆司 (京都大学 大学院情報学研究所 教授)





特定領域報告 4：B01 柱報告

須藤 修 (東京大学 大学院情報学環 教授)

【略歴】

東京大学大学院経済学研究科博士課程修了 (1985 年), 経済学博士。

参議院商工委員会客員調査員 (1997 年), 政府「IT 新改革戦略評価専門調査会」委員, 「電子政府評価委員会」座長 (2006 年～), 政府「次世代電子行政サービス基盤検討プロジェクトチーム」座長 (2007 年～), 政府「情報セキュリティ政策会議情報セキュリティ基本計画検討委員会」委員長 (2008 年), 総務省「電子自治体の推進に関する懇談会」座長 (2007 年～) など。

特定領域報告 5：支援班活動 1

安達 淳 (国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 教授)

写真は「平成 21 年度科研特定領域「情報爆発 IT 基盤」プロジェクトシンポジウム」司会紹介を参照。

15:55-16:25 特定領域報告 6「支援班活動 2」

16:30-17:45 パネルディスカッション：ワクドキするポスト情報爆発

司 会：安達 淳 (国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 教授)

写真は「平成 21 年度科研特定領域「情報爆発 IT 基盤」プロジェクトシンポジウム」司会紹介を参照。

パネリスト：中村 聡史 (京都大学 大学院情報学環 特定准教授)

黒橋 禎夫 (京都大学 大学院情報学環 教授)

河口 信夫 (名古屋大学 大学院工学研究科 教授)

建部 修見 (筑波大学 大学院システム情報工学研究科 准教授)

田浦 健次朗 (東京大学 大学院情報理工学系研究科 准教授)

原田 達也 (東京大学 大学院情報理工学系研究科 准教授)

川嶋 宏彰 (京都大学 大学院情報学環 講師)

「情報処理」を探究する～学会コンテンツから見えてくるもの～

3月11日(木) 10:00-12:00 [第9イベント会場 (工学部新2号館 2F 221号講義室)]

【全体概要】

本大会では、特別企画として、情報処理学会の「50 年分」のコンテンツを素材にした情報処理の 50 年を俯瞰するような作品を募った。

本セッションでは、出席作品のプレゼンテーションを行い、それらの作品を通して、情報処理の 50 年分のコンテンツから何が見えるか、また多様な俯瞰の仕方などについて、パネル形式で討論を行う。

司会：相原 健郎 (国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 准教授)

【略歴】

1997 年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。同年 4 月文部省学術情報センター助手。2004 年 4 月国立情報学研究所助教授 (現在准教授), 総合研究大学院大学複合科学研究科准教授 (併任), 現在に至る。博士 (工学)。近年は特に収集したライフログを用いたコンテキストウェア技術等の研究に従事。人工知能学会, 日本認知科学会, ACM 各会員。



パネリスト：相澤 彰子 (国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 教授)

【略歴】

1985 年東京大学工学部電子工学科卒業。1990 年東京大学大学院電気工学専攻博士課程修了。工学博士。1990 年から 1992 年, イリノイ大学アーバナ・シャンペイン校客員研究員。現在, 国立情報学研究所教授, 東京大学大学院情報理工学系研究科教授および総合研究大学院大学情報学専攻客員教授併任。テキストメディアと情報検索, 遺伝的アルゴリズム等の研究に従事。



パネリスト：猪子 寿之 (チームラボ株式会社 代表)

【略歴】

1977 年, 徳島市出身。ウルトラテクノロジスト集団チームラボ代表。2001 年, 東京大学工学部計数工学科卒業と同時にチームラボ創業。大学では確率・統計モデルを, 大学院では自然言語処理とアートを研究。ニュースポータル「iza」(Web of the year 2006 新人賞), オモロ検索エンジン「sagool」, サグールテレビなどの Web の企画開発に加え, 検索エンジンやレコメンデーションエンジンなどの開発も行う。2009 年 12 月, 上映時間 100 年の映像作品『百年海図巻』をコニカミノルタプラザで発表。



パネリスト：大向 一輝 (国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 准教授)

【略歴】

1977 年京都生まれ。同志社大学工学部卒業。総合研究大学院大学複合科学研究科博士課程修了。博士 (情報学)。2005 年国立情報学研究所助手, 2007 年同助教, 2009 年同准教授。2004 年情報処理推進機構「未踏ソフトウェア創造事業」スーパークリエイターに認定。大学院在学中に有限会社グルコースを設立し, 現在株式会社グルコース取締役。セマンティックウェブやソーシャルウェブに興味を持ち, 研究とソフトウェア開発の両面から関わっている。



パネリスト：黒橋 禎夫 (京都大学大学院 情報学環 教授)

【略歴】

1994 年京都大学大学院工学研究科電気工学第二専攻博士課程修了。博士 (工学)。2006 年 4 月より京都大学大学院情報学環教授。自然言語処理, 知識情報処理の研究に従事。言語処理学会 10 周年記念論文賞, 第 8 回船井情報科学振興賞, 2009 IBM Faculty Award 等を受賞。





パネリスト：角 康之（京都大学大学院 情報学研究所 准教授）

【略歴】

1990年早稲田大学理工学部電子通信学科卒業。1995年東京大学大学院工学系研究科情報工学専攻修了。同年（株）国際電気通信基礎技術研究所（ATR）入所。2003年より京都大学大学院情報学研究所助教授（現在は准教授）。博士（工学）。研究の興味は、知識や体験の共有を促す知的システムの開発や、人のインタラクションの理解と支援に関わるメディア技術。

ICT生活の核の一つか？ライフログ 3月11日（木）14:30-17:00 [第9イベント会場（工学部新2号館2F 221号講義室）]

【全体概要】

ライフログ技術が注目を集めている。特に近年、カメラやGPSなど各種のインターフェースを備えた携帯により、自分の身近なイベントを簡単に取得できるとともに、Blog、SNSを活用して、これら記録やメッセージを、友人やコミュニティに向け手軽に提示できるようになってきた。これらの情報を集約・活用することで、ライフログは、新たなマーケットを切り開ける可能性を持っている。

一方で、懸念がもたれているプライバシー保護については、技術のみならず、制度面からの解決も強く望まれている。本セッションでは、研究者・Regulator・法制度の分野の代表からライフログを語っていただき、今後の発展を展望する。



司会：大橋 正良（ATR メディア情報科学研究所 所長）

【略歴】

1981年 京都大学工学部電気第2卒業。1983年同修士課程了。同年国際電信電話株式会社（現KDDI株式会社）入社。以来、KDDI研究所にて、移動衛星通信システム、IMT-2000関連技術の研究開発・標準化、ユビキタスネットワーク関連の技術開発を担当。2008年4月より、ATR メディア情報科学研究所所長。IEEE、電子情報通信学会、情報処理学会、情報理論とその応用学会会員、工学博士。

14:30-15:00 講演（1）「日常の生活をログに取り込む」

相澤 清晴（東京大学 情報学環 教授）

【講演概要】

日常の生活をログとして残し、そのデータを活用するライフログ技術についての現状を展望する。すべてを残すような汎用のライフログが研究されてきた一方で、ログであったり、位置であったり、食事であったりと何かしらの特定のログをとる動きが始まっている。ユーザの負担の少ないこれらの特定応用のログがどのように発展する可能性があるかについて論じたい。



【略歴】

1983年東京大学工学部電子工学科卒業。88年同大電気工学専攻博士課程修了。88年東大工学部助手、89年同講師、93年同助教授を経て、現在、東大情報学環 教授（情報理工学系研究科兼務）。映像・メディア処理に関する研究に従事。特に、近年、ライフログ、3次元ビデオ等の研究に従事。

15:00-15:30 講演（2）「ライフログをめぐる制度面からの検討状況」

二宮 清治（総務省 総合通信基盤局消費者行政課 課長）

【講演概要】

ユーザが安心してライフログサービスを受けられるとともに、サービス提供者が自在にライフログ情報を活用できるようにするためには、ユーザの個人情報とプライバシー保護を十分に勘案しつつ、ライフログ情報取り扱いの透明性を高めることが重要である。本講演では総務省におけるライフログの検討状況を紹介し、守るべきポイントを明確化する。



【略歴】

1988年郵政省入省、1992年国際経済室、1997年電気通信局事業政策課、2002年米国ワシントン在、2004年多国間経済室長、2006年総合通信基盤局料金サービス課企画官等を経て、2008年1月より総合通信基盤局消費者行政課長。

15:45-17:00 パネル討論「ライフログの周辺；実証・実用化をめぐる課題について」

【講演概要】

ライフログは、丁度研究開発や実証実験から実用化に向けて活発化するフェーズに来ていると考えられる。本セッションでは、ベンダ・事業者・また法関係の専門の方をパネリストとして迎え、それぞれの分野からの取り組み・検討状況を踏まえて今後の実用化をめぐる課題について基調講演者も交えて討論したい。

司会：大橋 正良（ATR メディア情報科学研究所 所長）

略歴・写真は「ICT生活の核の一つか？ライフログ」司会紹介を参照。



パネリスト：矢野 和男（（株）日立製作所 基礎研究所 主管研究長、人間情報システムラボ長）

【略歴】

1984年日立製作所入社以来、中央研究所にて半導体の研究、特に世界初の単一電子メモリの室温動作、携帯電話用プロセッサなどのシステムLSIの研究を行う。現在、センサ情報を使った新しい生き方、働き方、組織経営の研究と事業化を進めつつ、自ら実践している。中央研究所主管研究長と基礎研究所人間情報システムラボ長を兼任。工学博士。IEEE Fellow。



パネリスト：宇佐見 正士（KDDI 技術戦略部 部長）

【略歴】

1983年、早稲田大学大学院工学研究科電子通信専攻修士課程修了。同年より国際電信電話（現KDDI）に入社。1985年より2007年まで、同研究所にて、光デバイス、光通信システム（特に、海底ケーブルシステム）、光ネットワークシステムの研究開発に従事。2007年より、全社の技術戦略を企画を担当し、現在に至る。電子情報通信学会、応用物理学会IEEE各会員、電磁情報通信学会光エレクトロニクス研究専門委員会副委員長。工学博士。



パネリスト：石井 夏生利（情報セキュリティ大学院大学 情報セキュリティ研究科 准教授）

【略歴】

情報セキュリティ大学院大学准教授。

1997年3月東京都立大学法学部卒業，2007年3月中央大学大学院法学研究科国際企業関係法専攻博士後期課程修了。博士（法学）。

1997年4月～1999年3月まで司法研修所，1999年4月以降，弁護士業務，企業法務の経験を経て，2004年11月より情報セキュリティ大学院大学にて勤務。プライバシー・個人情報保護法，情報セキュリティ関連法制の研究に従事。総務省「利用者視点で踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会」ライフログ活用サービスワーキンググループメンバー，神奈川県個人情報保護審議会委員，仙台市セキュリティ評価委員会委員等。

フィールド情報学セミナー

共催：社会情報学会

3月9日（火）9：30-12：00 [第10イベント会場（福武ラーニング B2F シアター）]

【全体概要】

フィールドは、「分析的，工学的アプローチが困難で，統制できず，多様なものが共存並立し，予測できない偶発的な出来事が生じ，常に関与することが求められる場」である。フィールド情報学は，フィールドで生じる諸問題に対して，情報学の視点からその解決法を提案することを目的としている。その構成要素は，記述，予測，設計，伝達からなり，その方法は多岐にわたる。京都大学では情報学研究科の教員を中心に，フィールド情報学の議論を重ね，一冊の教科書にまとめた。（http://www.kyoritsu-pub.co.jp/shinkan/shin0904_05.html）本セミナーは，この教科書に基づきフィールド情報学の入門を説くものであり，これから自然観察へ向かう大学院生，社会参加の方法を求めるフィールドワーカー，イノベーションを模索するエンジニアなどを聴衆として想定している。



総合司会：石田 亨（京都大学大学院 情報学研究科 教授）

【略歴】

上海交通大学，清華大学，ミュンヘン工科大学，パリ第六大学，メリーランド大学など客員教授。工学博士。情報処理学会，電子情報通信学会，IEEE Fellow。自律エージェントとマルチエージェント研究に20年以上の経験を持つ。デジタルシティ，異文化コラボレーション，言語グリッドに取り組む。



司会：奥山 隼一（京都大学大学院 情報学研究科 GCOE 助教）

【略歴】

平成19年3月 京都大学大学院情報学研究科単位取得認定退学。平成19年4月 京都大学情報学研究科研究員。平成19年9月 京都大学情報学研究科研究員（グローバルCOE）。平成19年10月 京都大学情報学研究科グローバルCOE助教。現在に至る。

専門は遠隔測定技術を用いた水圏生物行動解析。京都大学博士（情報学）

9:30-9:40

オープニング「フィールド情報学とは何か」

石田 亨（京都大学大学院 情報学研究科 教授）

【講演概要】

フィールド情報学では起源の異なる様々な方法が，フィールドにおける記述，予測，設計，伝達のために適用され，相互に関連し成長して行く。フィールド情報学は研究者ばかりでなく，様々な立場の人々にとっても重要である。フィールド情報学を学ぶことで，社会に内在する課題の本質に接近し，問題を解決する素養を身につけることができる。

略歴・写真は「フィールド情報学セミナー」司会紹介を参照。

9:40-10:00

講演（1）「リモートセンシングと地理情報システム」

酒井 徹朗（京都大学大学院 情報学研究科 教授）

【講演概要】

フィールド調査に必要な空間情報の収集・分析に有用な情報技術にリモートセンシングがある。リモートセンシングによる広域の情報収集の有用性は高い。リモートセンシングは離れた場所にあるものが何であるか，その状態はどうであるかを分析する技術を指す。リモートセンシングによって得られる広域の属地情報の解析には，その位置情報と，時空間的な広がりを対象とした解析手段が必要となる。

【略歴】

昭和47年3月 京都大学農学部林学科卒業。昭和54年4月 京都大学農学部助手。平成9年4月 京都大学農学研究科教授。平成10年4月 京都大学情報学研究科教授。



10:00-10:20

講演（2）「バイオリギング」

荒井 修亮（京都大学大学院 情報学研究科 准教授）

【講演概要】

バイオリギングとは，人の視界や認識限界を超えた現場において，動物自身やそれを取り巻く周辺環境の現象を調べるための手法である。超音波，電波などを用いたテレメトリー手法や，超小型のデータロガーを動物自身に装着して様々なデータを取得する手法を指す。データロガーの高度化によって，データ量が莫大なものとなっており，データ解析手法に情報学の手法を取り入れることが急務となっている。

【略歴】

京大農学部水産学科1980年卒業。農林水産省に入省し，水産研究所の研究予算獲得や，瀬戸内海，北方漁業の漁業調整などに手腕を発揮。1998年より現職に，電波や超音波発信機を用いて生物の行動を追跡するバイオテレメトリーという「目に見えないものを観る」手法によって，水圏生物の行動実態解明に取り組む。



10:20-10:40 **講演 (3) 「システムダイナミクス」**
守屋 和幸 (京都大学大学院 情報学研究科 教授)

【講演概要】

システムダイナミクスは、シミュレーション技法のひとつであり、経営学や社会科学の分野でのシステムの動的な解析に用いられている。フィールドから得られた情報や、各種統計情報をモデルに取り込むことで社会システムの動的な変化をシミュレーションができ、ステークホルダー間の合意形成のためのシナリオの提示やシステムに含まれる問題点の検討などに有効な手法である。



【略歴】

1982年、京都大学大学院農学研究科博士課程中退。同年、宮崎大学農学部助手。1991年、京都大学大学院農学研究科助教授。1998年、情報学研究科教授、京都大学農学博士。
集団遺伝学並びに統計遺伝学手法を用いた家畜の遺伝的能力評価や生物資源情報学分野の研究に従事。日本畜産学会、システム農学会、日本動物遺伝育種学会、肉用牛研究会、情報処理学会等会員

10:40-11:00 **講演 (4) 「マルチエージェントシミュレーション」**
服部 宏充 (京都大学大学院 情報学研究科 助教)

【講演概要】

行動主体の個別化を可能とするマイクロシミュレーションの実現形態の一つで2つのアプローチがある。第一は複雑な社会現象の解明を目的としたもので、エージェントは単純化してモデル化される。複雑な現象は、エージェント相互のインタラクションによって生まれる。第二は新しい社会システムの創造を目的としたもので、人間や組織の挙動を現実に近い形で再現し、システムを実装する前段の実験や、利用者に疑似体験を与える訓練に用いられる。



【略歴】

2004年名古屋工業大学工学研究科博士後期課程修了。博士(工学)。2004年から日本学術振興会特別研究(PD)。2004年から2005年にかけて英国リバプール大学。2006年米国マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院客員研究員。2007年より京都大学大学院情報学研究科助教。

11:10-12:00 **パネル討論 「フィールド情報学と新規ビジネス」**

【討論概要】

フィールド情報学は、既に様々な新規ビジネスと結びつき始めている。このパネルでは、農業とIT、プロダクティブ学、ビジネスエスノグラフィなどの新しいビジネスとフィールド情報学の関係を議論する。

司会：石田 亨 (京都大学大学院 情報学研究科 教授)

略歴・写真は「フィールド情報学セミナー」司会紹介を参照。



パネリスト：神成 淳司 (慶応義塾大学 環境情報学部 専任講師)

【略歴】

1996年 慶応義塾大学院政策・メディア研究科修士課程修了。1996年よりIAMAS(岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー/情報科学芸術大学院大学)助手。同校講師を経て、2007年より、慶応義塾大学環境情報学部専任講師。現在に至る。その間、2000年から2005年まで岐阜県情報技術顧問を兼務。現在、経済産業省産業構造審議会委員、農林水産省農業情報学研究委員会等を務める。博士(工学)



パネリスト：橋本 大也 (データセクション(株) 取締役会長)

【略歴】

1970年生まれ。起業家。データセクション株式会社取締役会長。大学時代にインターネットの可能性に目覚め技術ベンチャーを創業。主な著書に『情報力』『情報考学--WEB時代の羅針盤213冊』『新・データベースメディア戦略』『アクセスを増やすホームページ革命術』等。(株)早稲田情報技術研究所取締役、(株)日本技芸 取締役、株式会社メタキャスト 取締役、デジタルハリウッド大学准教授、多摩大学大学院経営情報学研究科客員教授等を兼任。



パネリスト：松波 晴人 (大阪ガス(株) 行動観察研究所 所長(株)エルネット 技術顧問)

【略歴】

1966年 大阪生まれ。1992年 大阪ガス(株)入社。基盤研究所に配属。以後2006年まで研究所所属。生理心理学、人間工学関係の研究活動に従事。

2002年 コーネル大学大学院にて修士号(Master of Science)取得。2005年(株)エルネットと契約し、行動観察ビジネスを開始。

<http://www.lnet.co.jp/research/idea/kansatu.html>

2006年 和歌山大学より博士号(工学)取得。博士論文のタイトルは「家庭用機器開発評価プロセスにおける行動観察手法に関する研究」

2007年 米国Giantant社の技術顧問就任

2008年 (株)エルネット技術顧問、財団法人社会経済生産性本部サービス産業

生産性協議会「科学的・工学的アプローチ委員会」委員就任。編著「ヒット商品を生む 観察工学」(共立出版)を出版。

2009年 大阪ガス 行動観察研究所を設立し、所長に就任。

フィールド情報学セミナー

共催：社会情報学会

3月9日（火）15：30-17：30 [第10 イベント会場（福武ラーニング B2F シアター）]

【全体概要】

フィールドは、「分析的、工学的アプローチが困難で、統制できず、多様なものが共存並立し、予測できない偶発的な出来事が生起し、常に関与することが求められる場」である。フィールド情報学は、フィールドで生じる諸問題に対して、情報学の視点からその解決法を提案することを目的としている。その構成要素は、記述、予測、設計、伝達からなり、その方法は多岐にわたる。京都大学では情報学研究科の教員を中心に、フィールド情報学の議論を重ね、一冊の教科書にまとめた。（http://www.kyoritsu-pub.co.jp/shinkan/shin0904_05.html）本セミナーは、この教科書に基づきフィールド情報学の入門を説くものであり、これから自然観察へ向かう大学院生、社会参加の方法を求めるフィールドワーカー、イノベーションを模索するエンジニアなどを聴衆として想定している。

総合司会：石田 亨（京都大学大学院 情報学研究科 教授）

略歴・写真は「フィールド情報学セミナー（午前）」司会紹介を参照。



司会：辻 高明（京都大学大学院 情報学研究科 特任助教）

【略歴】

2007年3月京都大学大学院教育学研究科博士後期課程学修認定退学。関西大学人間活動理論研究センター・ポストドクトラルフェローを経て、同年10月より現職。近著に「日米間の遠隔協同授業における日本側学習者の英語学習への状況論的アプローチ」（日本教育工学会論文誌30巻4号、2007）など

15:30-15:50 講演（5）「エスノグラフィ」

辻 高明（京都大学大学院 情報学研究科 特任助教）

【講演概要】

エスノグラフィは、フィールドで生起する現象を記述しモデル化する手法である。記述とは、フィールドへの参与観察によりデータを収集し、その分析を通して現象の構造とプロセスをストーリーとして描くことである。モデル化とは、そうした記述によって、反復して出現する現象のパターンを発見、蓄積し、それらを概念レベルで把握し体系的に関連づけることである。現象を記述しモデル化した成果は、人工物のデザインや人工物が導入された現場のデザインに示唆を与えることが求められる。

略歴・写真は「フィールド情報学セミナー（午後）」司会紹介を参照。

15:50-16:10 講演（6）「ケースライティング」

松原 繁夫（京都大学大学院 情報学研究科 准教授）

【講演概要】

ケースライティングとは、実際に起こっている具体的な出来事を記述する方法。研究の場合は、ケーススタディの結果をまとめる行為で、執筆者の解釈が明示される。教育の場合は、ケースメソッドとしてクラスで討議を行うための資料を記述する行為で、執筆者の解釈は明示されない。フィールド情報学としては、ケーススタディの立場から、ステークホルダー間の情報の非対称性に着目したい。

【略歴】

1992 京都大学大学院精密工学専攻修士課程終了。1992-2006 NTT コミュニケーション科学基礎研究所。2002-2003 University of California, Berkeley 客員研究員。2007- 京都大学大学院情報学研究科 社会情報学専攻。



16:10-16:30 講演（7）「インクルーシブデザイン」

塩瀬 隆之（京都大学 総合博物館 准教授）

【講演概要】

インクルーシブデザインは、製品開発の初め、デザインコンセプトを練る段階から、障害のある人や高齢者をリードユーザとしてデザインプロセスに巻き込む手法である。多様なユーザニーズは研究者の想定をはるかに超えて複雑である。ユーザをデザインプロセスに巻き込むことではじめてそのニーズが具現化され、デザインそのものがユーザに相補的に巻き込まれる。

【略歴】

1998年京都大学大学院工学研究科修士課程修了。同年、同大学院工学研究科博士後期課程進学、日本学術振興会特別研究員DC1着任。2000年10月より神戸大学大学院自然科学研究科助手。2002年10月より京都大学大学院情報学研究科助手。その間、ATR 知能ロボティクス研究所、ATR ネットワーク情報学研究所・客員研究員併任。2008年4月より慶應義塾大学SFC 研究所上席所員（訪問）併任。2008年11月より京都大学総合博物館准教授、現在に至る。



16:30-16:50 講演（8）「アウトリーチ・コミュニケーション」

菱山 玲子（早稲田大学 理工学術院 准教授）

【講演概要】

社会福祉分野におけるアウトリーチの手法を学術分野に応用したアウトリーチコミュニケーションは、諸分野の専門家や研究者が自ら社会の中に入り、市民に情報提供の機会を提供しながら双方向のコミュニケーションを実現し、専門的で複雑な問題を共有するための活動である。情報学を用いてコミュニケーション活動を媒介するためのツールを開発し適用することで、その活動の質と量を改善し、専門家と市民との距離を縮小し、両者の円滑な橋渡しを支援することができる。

【略歴】

2005年京都大学情報学研究科社会情報学専攻修了。同年 京都女子大学現代社会学部 准教授。2007年早稲田大学理工学術院 准教授 現在に至る。



16:50-17:30 招待講演「Webに埋め込まれたリアル・リアルに埋め込まれたWeb:情報生態系への状況論的アプローチ」
上野 直樹 (東京都市大学 環境情報学部 教授)

【講演概要】

「アーキテクチャの生態系」は、webのみに閉じられたものではなく、あくまで実践、生活に埋め込まれたものであろう。逆に、現代においては、社会、実践、生活といったものも、「アーキテクチャの生態系」抜きでは語りえない。しかし、従来は、「アーキテクチャの生態系」は、あくまでwebにおける情報生態系として記述され、それを埋め込んでいる”より大きな”社会、生活、実践の生態系を記述することは、困難な課題として留保されてきた。こいしたことから、ここでは、こうした課題にアプローチ可能な理論的、方法論的な観点を提案し、こうした観点に基づく現在進行中のいくつかの研究例を紹介する。



【略歴】

国立教育研究所 教育指導研究部 統括研究官を経て、2003年4月より現職。

プログラミングコンテストにより情報系人材を育てる
3月10日(水) 9:30～17:30 (講演 15:30～17:30)
【第10イベント会場(福武ラーニング B2F シアター)】

【全体概要】

いくつもある高校生以下の生徒や高専の学生を対象とするプログラミングコンテストは、それぞれ実施方式やコンテスト内容が異なるものの、プログラミングによる課題解決を通して競い合うことにより若者に情報科学の魅力や科学技術創造立国日本の将来を担う人材の育成を目的としている点は共通である。これらのプログラミングコンテストが一堂に会して、その活動をパネル展示やインターネット上でコンテスト実体験により紹介するとともに、コンテストの教育効果、将来展望などについてパネル討議を行う。参加するコンテスト:日本情報オリンピック、Supercomputing Contest (スーパーコン)、全国高等学校パソコンコンクール (パソコン甲子園)、全国高等専門学校プログラミングコンテスト、ICPC 日本支部。



司 会: 守屋 悦朗 (早稲田大学 教育・総合科学学術院 教育学部 教授)

【略歴】

いくつもある高校生以下の生徒や高専の学生を対象とするプログラミングコンテストは、それぞれ実施方式やコンテスト内容が異なるものの、プログラミングによる課題解決を通して競い合うことにより若者に情報科学の魅力や科学技術創造立国日本の将来を担う人材の育成を目的としている点は共通である。これらのプログラミングコンテストが一堂に会して、その活動をパネル展示やインターネット上でコンテスト実体験により紹介するとともに、コンテストの教育効果、将来展望などについてパネル討議を行う。参加するコンテスト:日本情報オリンピック、Supercomputing Contest (スーパーコン)、全国高等学校パソコンコンクール (パソコン甲子園)、全国高等専門学校プログラミングコンテスト、ICPC 日本支部。

9:30-17:30 資料・パネル展示、PCデモ

【講演概要】

それぞれのプログラミングコンテストについてパネルや資料を展示する(PRパンフレット、募集要領、紹介DVDなど)とともに、PCを設置してインターネットに接続して各コンテストの過去問に自由にトライすることができるようにする。また、説明員が待機して、来訪者の質問に答える。

15:30-15:40 講演(1) 基調講演「科学技術系コンテストに期待するもの」

文部科学省

【講演概要】

文部科学省では、情報オリンピックをはじめする国際科学技術コンテストを支援している。日本の魅力である科学技術の次代の担い手を育てるための施策をご紹介するとともに、国際科学技術コンテストへの期待についてお話する。

15:40-15:50 講演(2)「高専プロコンの紹介」

金寺 登 (石川工業高等専門学校 電子情報工学科 教授)

【講演概要】

高専生が日頃の学習成果を活かして情報処理技術におけるアイデアと実現力を競うことを目的に1990年に始まった「全国工業高等専門学校プログラミングコンテスト」の活動を紹介する。



【略歴】

昭58 石川高専卒。昭60 電通大・通信卒。昭62 東大大学院 修士課程了。

15:50-16:00 講演 (3) 「情報オリンピックの活動紹介」

谷 聖一 (日本大学 文理学部 教授)

【講演概要】

1989年に始まった国際情報オリンピックに派遣する日本代表選手を選抜するために1993年に始まった「日本情報オリンピック」の活動を紹介します。



【略歴】

1987年早稲田大学理工学部数学科卒業。博士(理学)。現在、日本大学文理学部情報システム解析学科教授。研究分野は、計算量理論、アルゴリズム論など。最近は、計算論的位相幾何学、とくに、結び目の多項式不変量を決定するアルゴリズムの研究に取り組んでいる。(特非)情報オリンピック日本委員会専務理事。2005年～2009年国際情報オリンピック日本代表団団長。

16:00-16:10 講演 (4) 「スーパーコンの活動紹介」

渡辺 治 (東京工業大学 大学院情報理工学研究科 教授)

【講演概要】

高校生に東京工業大学(現在は大阪大学と共催)のスーパーコンピュータを使って、ある課題を解くためのプログラムを作って計算速度を競うという趣旨で1995年に始まった「Supercomputing Contest」の活動を紹介します。



【略歴】

1982年3月東京工業大学修士課程修了。工学博士(東京工業大学1986年)。1982年7月同大理学部助手。1987年～1989年カリフォルニア大 Key Fan 客員助教授。1997年東京工業大学大学院情報理工学研究科教授。2007年同大学国際情報センターセンター長(兼務)。現在に至る。専門は計算の理論。とくに計算の複雑さの理論、計算論的学習理論、乱択アルゴリズムの設計と解析。

16:10-16:20 講演 (5) 「パソコン甲子園の活動紹介」

前田 多可雄 (会津大学 コンピュータ理工学部 准教授)

【講演概要】

高校生および高専の3年生までを対象として2003年に始まった「全国高等学校パソコンコンクール」(プログラミング部門だけでなく、デジタルコンテンツ部門・いちまいの絵CG部門がある)の活動を紹介します。



【略歴】

1982年3月 北海道大学大学院数学専攻修士課程修了。1982年4月 日立製作所システム開発研究所勤務。1994年4月 会津大学企画運営室勤務。2006年4月～ 同大コンピュータ理工学部にて数学の教育に従事。現在に至る。パソコン甲子園では競技ルールの策定及び問題作成に参画している。2003年ICPC会津大会では実施委員として、2008年ICPC会津大会では実施委員長として、大会に参画した。

16:20-16:30 講演 (6) 「ICPCの活動紹介」

寛 捷彦 (早稲田大学 理工学術院基幹理工学部 教授)

【講演概要】

1970年に米国のテキサス A&M 大学で開催されたコンテストが元になり、1977年からACMが主催している大学対抗のプログラミングコンテスト「International Collegiate Programming Contest」の日本における活動を紹介します。



【略歴】

1970年東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。東京大学助手。立教大学理学部講師・助教授を経て、1986年から早稲田大学理工学術院教授(基幹理工学部情報理工学科)。プログラミングおよびプログラム言語に関して研究教育を行う。本会フェロー、情報処理教育委員会委員長。日本学術会議連携会員。日本ソフトウェア科学会、ACM等会員。

16:40-17:30 パネル討論 「情報系人材をプログラミングコンテストから育てるために」

【講演概要】

どのプログラミングコンテストにも共通の究極の目標は、広く若者たちに情報科学分野へ目を向けさせ、能力のある人材を見出してそのスキルをレベルアップする助けをし、科学技術創造立国日本の将来を担う人材を育成しようとするところにある。過去を顧み、プログラミングコンテストが情報分野の人材育成にいかなる形で寄与できたかを検証するとともに、現状の問題点および将来の展望について討論する。

司 会：守屋 悦朗 (早稲田大学 教育・総合科学学術院 教育学部 教授)

略歴・写真は「プログラミングコンテストにより情報系人材を育てる」司会紹介を参照。

パネリスト：金寺 登 (石川工業高等専門学校 電子情報工学科 教授)

略歴・写真は「講演 (2)：高専プロコンの紹介」を参照。

谷 聖一 (日本大学 文理学部 教授)

略歴・写真は「講演 (3)：情報オリンピックの活動紹介」を参照。

渡辺 治 (東京工業大学 大学院情報理工学研究科 教授)

略歴・写真は「講演 (4)：スーパーコンの活動紹介」を参照。

前田 多可雄 (会津大学 コンピュータ理工学部 准教授)

略歴・写真は「講演 (5)：パソコン甲子園の活動紹介」を参照。

寛 捷彦 (早稲田大学 理工学術院基幹理工学部 教授)

略歴・写真は「講演 (6)：ICPCの活動紹介」を参照。

情報システム教育コンテスト -ISECON2009 インタラクシオン審査
3月11日(木) 10:00-12:00, 14:30-17:00
[第12-14 イベント会場 (工学部新2号館 4F 242・243・244号講義室)]

[概要]

情報システム教育コンテスト-ISECON2009は、情報システムに関連する教育や人材育成の実践例を紹介し合うことで、情報システム教育の質の向上を図り、ひいては日本の産業の発展に資することを目的として年1回開催しています。ご応募いただいた実践例等は、有識者による厳正な審査による第1次審査(書類審査)を経て、この情報処理学会全国大会において、ポスターセッションに似た形式でインタラクシオン審査(最終審査)を行います。インタラクシオン審査は広く公開して行いますので、一般の方も自由にご覧頂くことができます。



ISECON2009 大会委員長

都倉 信樹 (大阪電気通信大学 学長)

[略歴]

1963 大阪大学工学部電子工学科卒業。1968 同博士課程修了。1968 同大学基礎工学部講師。1969 同助教授。1977 同教授。2001 退職。
2001 鳥取環境大学教授 2007 同退職
2008- 大阪電気通信大学学長。
1986-2004 放送大学客員教授として「情報工学」等の講義担当。情報処理学会情報処理教育委員会委員長、同アクレディテーション委員会副委員長、IS教育委員会委員など。2000 本会フェロー

大会スポンサーセッション 株式会社 KDDI 研究所
3月9日(火) 10:00-11:00 [第15 イベント会場 (工学部新2号館 2F 223号講義室)]

[KDDI 研究所におけるユーザインタフェース技術]

加藤 晴久 ((株) KDDI 研究所 ユーザインタフェースグループ 研究主査)

[概要]

KDDI 研究所が取り組んでいるユーザインタフェースの研究動向を紹介します。KDDI 研究所では、長年培ってきた映像認識技術、音声認識技術、音響技術、近距離通信技術を駆使することによって、直感的でリアルタイム性の高いユーザインタフェースを開発しています。本講演では、KDDI 研究所が提案する最新のユーザインタフェースについてデモ映像を交えながら技術や性能などを解説します。また、携帯電話に限らず、セットトップボックスやデジタルサイネージ端末などの使い勝手向上が生み出す新たな価値や将来像を説明します。

大会スポンサーセッション インテレクトチュアル・ベンチャーズ合同会社
3月9日(火) 11:00-12:00 [第15 イベント会場 (工学部新2号館 2F 223号講義室)]

[情報通信分野におけるオープン・イノベーションと、知的財産の流動化]

ジェームス・ケリー (インテレクトチュアル・ベンチャーズ・ジャパン 代表)

[概要]

インテレクトチュアル・ベンチャーズ (IV) は2000年に米国に設立され、「世の中をより良くするための技術的アイデアに特化」した投資会社です。大学・研究機関・企業にご所属の研究者・技術者(発明パートナー)の方に技術的アイデア(発明)を考えていただき、その発明を特許化した上でグローバル企業にライセンスします。現在、情報通信・ロボティクス・医療・半導体・エネルギーなど18のテーマにわたってアイデアを募集しています。近年、企業は外部資源を使い技術革新を引き起こすオープン・イノベーションを積極化しています。当社は特許の創出・権利化・ライセンスを通じて、オープン・イノベーションの推進役となるよう日本で事業を展開しています。講演では、知財の流動化や産学官を結ぶ「イノベーション・エコシステム」について紹介し、それを推進する当社のインベンション・キャピタル(発明資本)事業を紹介します。さらに、情報通信分野におけるオープン・イノベーションの未来像を語ります。

大会スポンサーセッション 富士通株式会社
3月9日(火) 15:30-16:30 [第15 イベント会場 (工学部新2号館 2F 223号講義室)]

[情報漏えい防止セキュリティ技術開発への取り組み]

竹林 知善 ((株) 富士通研究所 ソフトウェア&ソリューション研究所 主席研究員)

[概要]

情報漏えいは、あらゆる組織において解決すべき重要な課題となっているものの、漏えい経路は複雑化しておりその対策も一筋縄ではいかない。社内イントラネット環境から、出張先や自宅などモバイルや、今後はオフラインのお客様先や協力会社も含めた場面で、一貫した安全性を保証し、かつ利用者により負担をかけずに情報を活用できる環境の実現が重要である。この課題に対して、富士通研究所では暗号などのセキュリティ技術に加えて、従来培ってきたモバイル機器や情報検索に関する技術やノウハウも統合した情報漏えい対策技術を開発し、社内実践により効果を検証して実用化へとつなげている。本講演では、社内実践評価や製品化フェーズにある、紙やモバイル環境(USBなど)、電子メールからの情報漏えい対策への取り組みや、SaaS/クラウド時代に向けた今後の展開について紹介する。

大会スポンサーセッション グーグル株式会社
3月10日(水) 10:00-11:00 [第15イベント会場(工学部新2号館2F 223号講義室)]

「Google 日本語入力を支える情報処理技術」

工藤 拓 (グーグル(株) 東京R&Dセンターソフトウェアエンジニア)

【概要】

本講演では、Google 日本語入力に使われている様々な情報処理技術を紹介する。Google 日本語入力は、これまでのインプットメソッドの設計にとらわれない新しいアプローチで設計・実装されている。日本語入力システムは様々なアプリケーションとして協調して動作する必要があるため、高い堅牢性とセキュリティ保護機構が必要となる。発表ではまず、Google 日本語入力の内部設計に触れ、それらが堅牢性とセキュリティー保護にどう貢献しているか、従来法との比較を交えながら紹介する。さらに、大量のウェブページを用いた辞書の自動構築、統計的自然言語処理を活用したランキングの学習、語彙集合の効率的な圧縮方法について解説する。

大会スポンサーセッション 日本電気株式会社
3月10日(水) 11:00-12:00 [第15イベント会場(工学部新2号館2F 223号講義室)]

「クラウドコンピューティング基盤へのOpenFlow技術適用」

西原 基夫 (NECシステムIPコア研究所 ITNWシステムTG研究部長)

【概要】

インターネットの新たな進化に向け、次世代インターネットの研究開発が世界的に推進されている。特に、次世代インターネットの諸技術において注目されているOpenFlowアーキテクチャは、“ネットワークの仮想化”や“ネットワークプログラマビリティの向上”といった機能を大幅に強化する技術である。一方、クラウドサービス提供側の課題としては、突然の高負荷や利用者の増加に対応したシームレスなサービス拡張、利用者に負荷の無い機能修正や機能拡張、負荷に応じたデータセンターのICTリソースの柔軟な電力制御、などを実現する必要がある。本講演では、上記の次世代インターネットのOpenFlowアーキテクチャをクラウドサービスインフラ/データセンターに利用することにより、ダイナミックなリソースの運用管理や、マルチ仮想化テナント、省電力・ノンストップファイル更新等、多様なデータセンター効率化/可制御性向上が可能となることを紹介する。

大会スポンサーセッション 株式会社日立製作所
3月10日(水) 15:30-16:30 [第15イベント会場(工学部新2号館2F 223号講義室)]

環境配慮型データセンタに向けた省電力化技術

伊藤 雅樹 ((株)日立製作所 情報・通信グループ 経営戦略室 事業戦略本部 融合事業統括部 担当部長)

【概要】

ITが社会に浸透するにつれ、ITシステムを運用するデータセンタの重要性が高まるなか、その著しい消費電力の増加が世界的に大きな課題として認識されている。これに対し、日立グループでは総力を結集したデータセンタ省電力化プロジェクトCoolCenter50を2007年に発足し、IT機器の省電力化及び設備機器の高効率化によってデータセンタ全体のグリーン化を推進してきた。一方でITシステムはクラウド・コンピューティングへと進化しつつあり、これを支えるITプラットフォームの特徴である機器の高集積化および仮想化に対応した機器冷却効率の向上および電力利活用効率の向上が重要度を増している。そこで、本講演では、CoolCenter50の取り組みの中から、局所冷却により機器冷却効率を向上し、高集積化を実現するモジュール型データセンタ、IT機器の負荷制御と負荷に応じた空調制御によって電力利活用効率を向上するIT・設備連携技術を紹介する。

大会スポンサーセッション 株式会社東芝
3月11日(木) 10:00-11:00 [第15イベント会場(工学部新2号館2F 223号講義室)]

組込みソフトウェアの信頼性向上を考える

平山 雅之 ((株)東芝 ソフトウェア技術センター 参事)

【概要】

近年、電子デバイス技術などの進化に伴い様々な機器にソフトウェアが組み込まれるようになっており、これら機器に搭載される組込みソフトウェアは年々、規模が増大しより複雑なものへと変貌しつつある。一方で、ソフトウェア規模拡大の中で如何にして品質や信頼性を確保し向上していくかが大きな課題となりつつある。

本講演では、まず組込みソフトウェアの特徴を考慮した上で組込みソフトウェア開発が抱える様々な課題を整理し、そこから品質や信頼性をどのようにして向上していくかについて考えてみたい。具体的にはソフトウェアの品質を可視化しコントロールするための品質指標のあり方や利用方法、信頼性向上を目的としたソフトウェアのV&V (Validation and Verification)のあり方、品質向上を実現するための手法としてテストの進め方などについて事例を交えて紹介していく。

大会スポンサーセッション マイクロソフト株式会社
3月11日(木) 11:00-12:00 [第15イベント会場(工学部新2号館2F 223号講義室)]

「マイクロソフト最新技術動向」

渡辺 弘之 (マイクロソフト(株) デベロッパー&プラットフォーム統括本部 アカデミックエバンジェリスト)

【概要】

マイクロソフトの最新テクノロジー(クライアント環境(Windows7)から、クラウド(Windows Azure)まで)の概要をビデオやデモを交えて紹介します。また、マイクロソフトが考えるコンピューティングの未来(10年後)をビデオを紹介し、マイクロソフトが考える次世代IT技術の動向、ビジョンを紹介します。

ソフトウェアジャパン 2010 ITフォーラムセッション
サービスサイエンスフォーラム × 社団法人 情報システム・ユーザ協会 (JUAS)
「サービスサイエンスが IT サービスの顧客満足度を向上する」
3月10日 (水) 10:00-12:00 [第16 イベント会場 (工学部新2号館 1F 212号講義室 (12B))]

【全体概要】

社会での IT の重要性は増す一方なのに、IT 産業は順調に発展しているとは言い難い。IT 産業はこれまで製造業として努力してきたが、最近ではサービスの性質が強まっている。また、IT 産業のお客様の大半がサービス業になってきており、IT 従事者はサービスの専門家にならなければ、価値あるソリューションを提供できなくなっている。本セッションでは、サービスサイエンスによりサービスの本質に迫り、サービスサイエンスが IT 産業に寄与する可能性を探ってみる。また、日本情報システム・ユーザ協会 (JUAS) のサービスサイエンス研究プロジェクトで検討してきた決定版の「サービスサイエンスによる IT サービスの顧客満足度調査シート」の検討経緯と検討結果を紹介する。



司 会：門倉 純一 (一般社団法人 CRM 協議会 理事)

【略歴】

日本アイ・ビー・エム入社後、電子系の CAD/CAM などのアプリケーション分野の営業に従事。IBM 初の VAN サービス営業を経て、通信とコンピューターを融合したシステムの営業推進を担当。80年代後半からはコールセンターを中心に担当し、その発展形としてビジネスとしての CRM 部門立ち上げに参加。当部門の責任者を経て現在 CRM の営業支援を担当。1970年日本アイ・ビー・エム入社、1980年代後半より、CTI、IVR などの製品を担当。以後コールセンタービジネスを担当。1996年頃より、CRM ビジネスの担当。1999年 CRM のマーケティング、営業支援 2001年 CRM 協議会参加。

10:00-11:30 講演 (1) 「IT の未来を拓くサービスサイエンス」

諏訪 良武 (ワクコンサルティング株式会社 常務執行役員)

【講演概要】

いまや、IT サービスのほとんどのお客様はサービス業なので、IT 従事者は、サービスの専門家にならないと、お客様を感動させる価値あるソリューションを提供できない。本講演では、「顧客中心」をベースにして、サービスを分類・分解・モデル化することにより、サービスの本質に迫り、サービスサイエンスが IT 産業に寄与する可能性を探ってみる。



【略歴】

1971年 オムロン入社。85年通産省のΣプロジェクトに参加。95年情報化推進センター長。97年オムロンフィールドエンジニアリングの常務取締役として、企業変革を実践。04年 OA 協会から IT 総合賞、コンタクトセンターアワードのマネジメント部門金賞を受賞。04年7月1日よりソフトプレーン副社長。05年7月1日より独立系のコンサルタントとして活動中。サービスや顧客満足度を科学的に分析 (見える化) し、日本企業が課題とするサービス分野の競争力アップに必要な方法論を提唱している。

10:30-11:00 講演 (2) 「サービスサイエンスによる IT サービスの品質分解と顧客満足度調査シート」

小林 敏晴 (KDDI (株) 情報システム本部業務企画部 部長 / JUAS サービスサイエンス研究プロジェクト)

【講演概要】

JUAS では 2008 年度から会員研究プロジェクトとしてサービスサイエンスを取り上げ、サービスサイエンスの基礎知識の理解、IT サービスの分解・モデル化などの研究を進めてきた。今回は、2009 年度研究テーマとして取り組んでいる、サービスサイエンスを適用したシステム開発・保守・運用の各サービスの顧客満足度を測る調査方法について、その研究成果を紹介する。



【略歴】

1981年東北大学工学部電子工学科卒、1983年同大学院工学研究科電子工学専攻 (修士) 修了。1983年国際電信電話株式会社 (現 KDDI) 入社。2005年より社内情報システムの企画・開発に従事。

11:00-12:00 パネル討論 「サービスサイエンスが IT サービスの顧客満足度を向上する」

司 会：門倉 純一 (一般社団法人 CRM 協議会 理事)

略歴・写真は「サービスサイエンスが IT サービスの顧客満足度を向上する」司会紹介を参照。

パネリスト：小林 敏晴 (KDDI (株) 情報システム本部業務企画部 部長 / JUAS サービスサイエンス研究プロジェクト)

略歴・写真は講演 (2) 「サービスサイエンスによる IT サービスの品質分解と顧客満足度調査シート」を参照。



パネリスト：柴崎 辰彦 (富士通 (株) SBM 変革推進室 プロジェクト部長 コンサルティング (BS))

【略歴】

1987 年立教大学卒業。専攻は、消費者心理学、産業心理学。同年富士通株式会社に入社し、企業内ネットワークシステムや画像システムのマーケティングに従事。1996年より、同社の CRM ビジネスの立ち上げに参画し、顧客サービスと顧客満足度 (CS) の関係に強い関心を持つ。現在は、同社のソリューションビジネス全般の企画業務に従事し、次世代のソリューションビジネスの立ち上げに取り組む。

パネリスト：諏訪 良武 (ワクコンサルティング (株) 常務執行役員)

略歴・写真は「講演 (1) IT の未来を拓くサービスサイエンス」を参照。



パネリスト: 妹尾 大 (東京工業大学 大学院社会理工学研究科経営工学専攻 准教授)

[略歴]

1993 年一橋大学社会学部卒業。一橋大学大学院商学研究科修士、博士課程を経て、1998 年北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科助手に就任。2002 年東京工業大学大学院社会理工学研究科経営工学専攻助教授に就任。現在准教授 (博士 (商学))。専門はナレッジマネジメントで、知識創造支援ワークプレイスの分析、知識継承リーダーシップの調査、ナレッジマネジメントツールの評価手法開発などの研究に取り組んでいる。

**ソフトウェアジャパン 2010 IT フォーラムセッション
プロジェクトマネジメント学会 (PM 学会)
「サステナブルな組織のためのプロジェクトマネジメント
— IT プロジェクトへの高度化するニーズに応えるために—
3 月 10 日 (水) 15:30-17:00 [第 16 イベント会場 (工学部新 2 号館 1F 212 号講義室)]**

[全体概要]

IT プロジェクトへの要求は年々厳しくなっている。背景には、IT の発展によるサイクルタイムの短縮だけでなく、グローバリゼーションと最近の企業の生き残り戦略が求める厳しいコスト低減ニーズがあるのは明らかだろう。本フォーラムでは、高度化する IT プロジェクトへの要求に対しモダン PM がどう応え、プロジェクトをどのように成功へ導くべきか、また、IT プロジェクトの機会に対し、実務上どのように評価すべきかを見る。折柄、プロジェクトマネジメントの国際標準 ISO21500 の策定が PC236 で進行中であり、それが IT 業界へ与える影響についても検討する。

司 会: 関 哲朗 (文教大学情報学部准教授 / PM 学会副会長 / ISO PC236 国内対応委員会委員長)

15:30-15:50 講演 (1) 「イントロダクション: PM 標準化と PM 学会の取り組み」

関 哲朗 (文教大学情報学部准教授 / PM 学会副会長 / ISO PC236 国内対応委員会委員長)

15:50-16:30 講演 (2) 「高度化する IT プロジェクトへのニーズとモダン PM による解答」

富永 章 (PM ラボラトリー 代表 / PM 学会常任顧問)

[講演概要]

経済環境の変化に伴い、情報システム構築、とくに企業向けでソフトウェア開発を伴うプロジェクトへのニーズは、次第にシビアさを増してきた。ビジネスのサイクルタイム短縮に伴うプロジェクト期間短縮ニーズ、企業が生き残りをかけた国際競争でのコスト低減ニーズや広がるスコープなどは、プロジェクトを窮地に追い詰めやすい要素だ。元来ソフトウェア見積り精度自体が高くない中で、もし期間や予算の見積りとスコープを確定した与件と見るなら、プロジェクトを成功させる手段はかなり限られる。この半世紀で発展してきたモダン PM (プロジェクトマネジメント) は、いわばプロジェクト目標を必然的に達成するために蓄積されてきた、世界共通で分野共通の形式知だ。では現代のそのような IT プロジェクトを必然的に成功させるには、どうすべきなのか。本講演では、そのためにモダン PM がなぜ必要で、組織や個人がそれをどう実践に活用すべきなのかをまとめてみる。

[略歴]



1971 年日本 IBM 入社。種々の企業システム開発やプロジェクトマネジメントを担当。91 年 SI 推進本部長、95 年取締役、98 年常務取締役兼 IBM アジアパシフィック VP サービスコンピテンシー担当、02 年専務取締役技術担当。06 年に退任し同社技術顧問兼東京大学工学系研究科特任教授。09 年 4 月 PM ラボラトリーを開設し現職。01 年度 PM 学会長、IEEE コンピュータソサエティ、情報処理学会、PM 学会等の正会員。

16:30-17:00 講演 (3) 「失敗から学ぶ: 富士通のプロジェクト第三者監査制度」

島田 さつき (富士通 (株) 品質保証部 品質保証推進統括部 担当部長 (兼) 富士通クオリティ・ラボ (株) 監査事業部 ディレクター / PM 学会理事 国際委員会委員長)

[講演概要]

富士通の SI ビジネスにおいて 2003 年、2004 年の 2 年間で 1,000 億円の膨大な赤字を計上した。システム構築の不採算プロジェクトを撲滅するため、社長直轄の特別チーム: SI アシユアランス本部を作った。本部設立の主旨としては二点。一点は商談のリスクマネジメントを各ビジネスグループと一体となって実施し、SI プロジェクトの要求事項 (納期・品質・コスト等) の実現を保証すること。もう一点は契約条件の整備により SI ビジネスの健全化を図ると共に、プロジェクト遂行に関するガイドを実施することによりプロジェクト品質の向上を実現し、お客様満足度を得ることである。新本部のミッションのひとつとして“商談監査”“プロジェクト監査”がある。この商談とプロジェクト実行のそれぞれのフェーズにおける監査について紹介する。またプロジェクトの失敗事例を元に事例研修会を行い、失敗を繰り返さない強い組織への取り組みやノウハウについても紹介する。

[略歴]



1987 年富士通株式会社入社。通信事業推進本部品質保証部に所属し通信事業ソフトウェア開発及び品質サポート業務に従事。2000 年同社品質保証本部でソフト部門の QMS 構築、富士通品質改善活動“Qfinity”立ち上げに参画。2003 年プロジェクトマネジメント学会理事に就任。2004 年 2003 年発足したプロダクトプロセス監査統括部でプロジェクト審査課長として審査業務に従事。2007 年富士通クオリティ・ラボ株式会社監査事業部審査グループマネージャー兼務。2009 年富士通品質保証本部品質推進統括部担当部長兼任富士通クオリティ・ラボ株式会社監査事業部審査グループディレクター。現在プロジェクトマネジメント学会国際委員長として活動。

17:00-17:30 ディスカッション (質疑応答と講演者による補遺)

司 会: 関 哲朗 (文教大学情報学部准教授 /PM 学会副会長 /ISO PC236 国内対応委員会委員長)

ディスカッサント: 富永 章 (PM ラボラトリー 代表 /PM 学会常任顧問)

略歴・写真は講演 (2)「高度化する IT プロジェクトへのニーズとモダン PM による解答」を参照。

島田 さつき (富士通 (株) 品質保証部 品質保証推進統括部担当部長 (兼) 富士通クオリティ・ラボ (株) 監査事業部 ディレクター /PM 学会理事 国際委員会委員長)

略歴・写真は講演 (3)「失敗から学ぶ: 富士通のプロジェクト第三者監査制度」を参照。

ソフトウェアジャパン 2010 IT フォーラムセッション

ユーザスタディフォーラム

「ビジネス・エスノグラフィの普及 ~イノベーション人材の育成に向けて~」

3月11日 (木) 10:00-12:00 [第16 イベント会場 (工学部新2号館 1F 212号講義室)]

[全体概要]

創造的な仮説構築手法である「ビジネス・エスノグラフィ」は、製品サービス開発やビジネスデザインなどの企業活動において、イノベーションを創造する極めて有望なアプローチとして、認知が高まりつつある。人間や、それらを取り巻く様々な状況についての洞察や理解を得るための本手法を活用するためには、こうした手法を習得・運用しながらローカライズし、企業活動に定着させるための人材育成や教育が必要不可欠である。そこで、本セッションでは、本手法を企業活動に応用するための企業内教育のあり方や、分野・領域の枠を越えて、横断的・統合的な視野を持ち、イノベーションを創出する人材の育成やその要件について、先進的な取り組みを行っている企業や大学の活動を紹介し、議論する機会とする。さらに、各報告者からの発表を題材とし、パネルディスカッションにおいて会場の参加者とインタラクティブに対話を行いながら、ビジネス・エスノグラフィ教育のあり方や人材育成についての議論を深めたい。



司 会: 久保隅 綾 (コニカミノルタテクノロジーセンター (株) イメージング文化研究室 研究員)

[略歴]

2001年明治大学法学部卒業。2009年東京大学大学院学際情報学府修士課程終了。現在同大学院同府博士課程在学中。2001年、コニカ株式会社入社、2003年より現職。生活者調査、ライフスタイル・ワークスタイル調査に従事。ユーザ観察、フィールドワークなどのエスノグラフィ手法を用いて現場のリアルな課題を発掘し、ヒューマンセンタードな視点から未来のニーズを探る。主な関心はテクノロジーと人のかかわり、IT・メディア利用行動など。

10:00-10:45 講演 (1)「東大 i.school の設立と試み」

田村 大 (東京大学 i.school ディレクター / (株) 博報堂 イノベーション・ラボ 上席研究員)

[講演概要]

昨年9月に東京大学知の構造化センターの全学教育プロジェクトとしてスタートした東京大学 i.school (イノベーション・スクール)。「これまで世界に存在せず、誰も生み出しえなかった、新しい答えを創り出す人材の育成」を掲げ、デザイン思考を軸に人間中心イノベーションの最前線で活躍するIDEO、Stanford d.schoolなどの機関と連携してワークショップ中心のプログラム提供を開始した。i.schoolのディレクターとして、その立ち上げからプログラムづくり、運営に至るまでの一連の体験、さらに学生教育の場としてだけでなく、社会や産業と密な接点を持って「学び-学ばれる」関係を育むことを目指した今後のビジョンを紹介する。イノベーション人材創出の拠点としてi.schoolが果たすべき役割と方策について皆様方と議論を行いたい。



[略歴]

1994年、東京大学文学部心理学科卒業。2005年同大学大学院学際情報学府博士課程単位取得退学。1994年博報堂入社、2000年より現職。2006年より情報処理学会ユーザスタディフォーラム代表。情報科学、認知科学を専門とし、エスノグラフィ手法を起点とした人間中心のイノベーション・プロセスの研究・実践に取り組む。著書に「センサネットワーク技術—ユビキタス情報環境の構築に向けて」(共著・東京電機大学出版局)など。

10:45-11:30 講演 (2)「フィールド・イノベータ実践知共有の取組み」

塩田 武志 (富士通 (株) フィールド・イノベーション本部 FI 技術センター 課長)

矢島 彩子 (富士通 (株) フィールド・イノベーション本部 FI 技術センター 研究員)

[講演概要]

2007年10月より、富士通はフィールド・イノベーション (FI) を提案、目指している。FIとは、ビジネス活動領域から課題領域 (フィールド) を設定し、その構成要素である人とプロセスとITを「見える化」することでお客様が改善のアイデアを引き出し、継続的改善を続けていく「革新体質」をつくることである。FIの普及に向けては、お客様部門と課題を共有し、話し合い、解決に導いていく人材 (FIer: フィールド・イノベータ) が活動の要となる。2009年10月、FI活動の更なる普及を目的に、FI技術の開発・整備・活用を担うFI技術センターが新設された。今回は、このFIerの技術支援部門に移った演者らが、「フィールド・イノベータ実践知共有の取組み」と題して、実際にお客様に対してFI活動を行っているFIerの実践知について考え、実践知共有の仕組みづくりを通じた人材育成の取り組みを中心にご紹介する。始まったばかりの取り組みであり、皆様方と意見交換などでできれば幸いである。



塩田 武志

[略歴]

1986年、慶應義塾大学文学部人間関係学科卒業。同年生命保険会社入社、経営企画・財務等の業務に携わる。2000年富士通総研に入社。2007年より現職。エスノグラフィをベースにしたフィールドワークによりビジネス現場の可視化に従事し、SE職における匠の技可視化・体系化とファシリテーション等による技の伝承手法を開発・推進した後、現在はフィールド・イノベーションに係る技法の実践知共有に取り組む。



矢島 彩子

[略歴]

1996年岩手大学大学院人文社会科学部研究科修了。2001年聖心女子大学文学研究科博士後期課程単位取得退学。同年(株)富士通研究所入社。主に、情報提示のユーザビリティの研究を行いながら、エスノグラフィをベースにした業務実態を把握するフィールドワーク手法(主に聴く手法)開発に従事した後、2006年10月より、富士通(株)へ異動。現在に至る。お客様のフィールドイノベーションに自ら寄り添ってきたが、2009年10月より、顧客に近いフィールド・イノベータの支援部隊に身を置き、彼らを通して顧客を知ることで、企業におけるフィールドワークの意義とそのあり方について追求中。

11:30-12:00 パネル討論「ビジネス・エスノグラフィの普及に向けて」

司 会：久保 綾（コニカミノルタテクノロジーセンター（株）イメージング文化研究室 研究員）

略歴・写真は「ビジネス・エスノグラフィの普及 ～イノベーション人材の育成に向けて～」司会紹介を参照。

パネリスト：田村 大（東京大学 i.school ディレクター／（株）博報堂 イノベーション・ラボ 上席研究員）

略歴・写真は講演（1）「東大 i.school の設立と試み」を参照。

矢島 彩子（富士通（株）フィールド・イノベーション本部 FI技術センター 研究員）

略歴・写真は講演（2）「フィールド・イノベータ実践知共有の取組み」を参照。

ソフトウェアジャパン 2010 ITフォーラムセッション
高度 IT 人材育成フォーラム
「高度 IT 資格制度に関する取り組みの現状：日本と世界」
3月11日（木）14:30-16:30 [第16 イベント会場（工学部新2号館 1F 212号講義室）]

【全体概要】

情報処理学会では2008年度から高度IT資格制度に関する検討を開始した。2009年7月には政府のIT戦略本部からi-Japan戦略2015が発表され、その中でも「高度デジタル人材の認定・認証」が盛り込まれている。IPAはITSSレベル4および5に対応する資格制度の検討を進めており、その成果を「社内プロフェッショナル認定の手引き」として発表している。世界レベルでもIFIPによるIP3やCEPIC（Council of European Professional Informatics Societies）によるEUCIPなどの取り組みが行われている。本セッションではこれらの取り組みを概観し、参加者が高度IT資格制度の意義について考えるきっかけとしたい。



司 会：掛下 哲郎（佐賀大学 理工学部知能情報システム学科 准教授）

【略歴】

九州大学情報工学科卒業。同博士後期課程修了。工学博士。現在、佐賀大学知能情報システム学科准教授。2001年度より学科の教育システムの構築を推進し、2003年度にJABEE認定を受けた。2008年度より高度IT資格制度およびIT専門職大学院等を対象とする認証評価機関の構築に取り組んでいる。データベースおよびソフトウェア工学を専門とする。情報処理学会、電子情報通信学会等会員。

14:30-15:30 講演（1）「社内プロフェッショナル認定に関するIPAの取り組み」

田中 久也（（独）情報処理推進機構 IT人材育成本部 本部長）

【講演概要】

講演概要 最初にIPAが推進するスキル標準と企業における普及状況について、人材白書から最新状況を紹介します。次に、実企業における導入事例を大企業の場合と中小企業の場合について紹介し、それぞれIPAのスキル標準導入への考え方を話します。特に社内プロフェッショナル制度を導入している企業の事例と、IPAのプロフェッショナル制度認定に関するガイドラインの内容と対比してお話します。また、現在、情報システムの視点は、クラウドSaaSの出現で産業界も構造変革やビジネスモデルの改革が必要になってきています。ユーザ企業では、IT活用の能力がますます重要性を増し、クラウド等の情報基盤を提供するベンダーにおける高度な技術が求められます。今後、求められる人材像と必要なスキルの方向性、スキル標準との関係について話します。



【略歴】

1977年4月富士通株式会社入社。1996年12月 同社ソフト・サービス事業推進本部 統合サポートセンター企画部長。2000年12月 同社システムサポート本部業務合理化統括部長。2005年6月 同社システムサポート事業本部長代理。2006年8月 同社マーケティング本部長代理。2007年4月 同社FUJITSU ユニバーシティ本部長代理。2007年4月 株式会社FUJITSU ユニバーシティ 取締役。2009年1月独立行政法人情報処理推進機構 IT人材育成本部長（現在に至る）。

15:30-16:30 講演（2）「高度IT資格制度に関する世界の取り組み」

芝田 晃（三菱電機（株）インフォメーションシステム事業推進本部 技術企画部 主管技師長）

【講演概要】

情報処理学会では、2008年度から、情報処理推進機構（IPA）に参画頂いて、高度IT人材資格の検討を行っている。さらに、この成果を用いて、2009年度から、高度IT人材資格認証制度の設計を開始した。これに当たり、IFIPの下で、各国のIT人材資格認証機関を認定することにより、国際的に一貫性のある資格の普及を推進しているIP3（International Professional Practice Partnership）に参加し、国際的にも通用する資格制度を設計することを目指している。本講演では、資格認証制度や認定機関の条件、企業など他の組織における認証制度の活用方法など、IP3が求めている基準や仕組みについて解説する。また、CEPISについても簡単に紹介し、我々が目指している資格制度について議論したい。



【略歴】

1978年3月東大情報工学修士課程修了。同年4月三菱電機（株）入社。汎用計算機のOS開発に従事。2001年より情報処理学会コンピュータ博物館実行小委員会委員。平成16年度学会活動貢献賞受賞。2001年よりCMMIを用いたプロセス改善に従事。2005年CMMIリード・アプレイザ、CMMI入門インストラクタ資格取得。2008年度より情報処理学会高度IT人材資格検討WGメンバ、2009年度より同学会高度IT人材資格制度設計WG座長。

情報分野における教育の国際化 ―グローバル 30 を中心に―
3月10日(水) 10:00-12:00 [第17イベント会場(工学部新2号館 1F 211号講義室)]

[全体概要]

日本の大学の国際化が叫ばれている中、文部科学省は国際化拠点事業(グローバル30)を開始した。ともに拠点として採択された東京大学と京都大学では、東京大学情報理工学系研究科と京都大学情報学研究科が、情報分野における英語コースの開設の準備を進めている。しかし、大学の国際化は英語による授業を提供することにとどまらない。教員組織、研究室、事務組織、さらに、キャンパス全体の国際化までを視野に入れなければならない。また、海外の大学とダブルディグリーのコースを準備している大学も多い。本セッションは、パネルディスカッションも含めて、情報分野における教育の国際化に関して議論する場を提供する。



司会：木戸 冬子(東京大学大学院情報理工学系研究科 情報理工学国際センター 特任助教)

[略歴]

2006年 埼玉大学大学院理工学系研究科博士後期課程修了。博士(理学)。

マイクロソフト、ヤフー等を経て、2008年より東京大学大学院情報理工学系研究科 情報理工学国際センター 特任助教。

10:00-10:20 講演(1)「情報科学技術分野の国際化」

萩谷 昌己(東京大学 情報理工学系研究科 副研究科長)

[講演概要]

情報科学技術分野の特徴は、大学研究機関だけでなくグローバル企業も含めて、研究者の全世界的なコミュニティを中心に最先端研究が進められていることである。したがって、この分野の若手研究者の人材育成にとって、全世界的なコミュニティの中で切磋琢磨しながら国際的な人脈を培うことが、将来的にこの分野のリーダーシップを発揮するために必須となっている。本講演では、日本の大学が、このような全世界的なコミュニティの一翼を担う教育研究拠点として、全世界的な人材育成に貢献するための方策について議論する。



[略歴]

1982年東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻修士課程修了。

京都大学数理解析研究所を経て、現在、東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻教授。

10:20-10:35 講演(2)「情報理工学英語コースの紹介」

フランソワ・ルガル(東京大学 情報理工学系研究科 特任講師)

[講演概要]

情報理工学系研究科では、平成21年度に、東京大学における国際化拠点事業(グローバル30)の一環として情報理工学英語コースを設置し、英語のみによって学位(修士・博士)が取得できるカリキュラムの整備を進めている。具体的に、平成22年10月の開設を目標に、情報理工学に関する基礎科目、発展科目、演習・実習をすべて英語で提供することにより、日本語の能力のない外国人留学生が修了に必要な単位を取得できる体制を整えている。本講演では、情報理工学英語コースの概要について紹介する。



[略歴]

François Le Gall did his undergraduate studies at the Ecole Centrale de Lyon, France, and received a Ph. D. in computer science from the University of Tokyo in 2006. He worked as a research fellow from 2006 to 2009 at the Japan Science and Technology Agency and at Kyoto University, and joined the Graduate School of Information Science and Technology of the University of Tokyo in December 2009 as a project lecturer. His research focuses on theoretical computer science, and especially quantum computation and computational algebra

10:35-10:55 講演(3)「京都大学情報学研究科国際コース」

田中 克己(京都大学大学院 情報学研究科 教授/情報教育推進センター長)

[講演概要]

京都大学大学院情報学研究科では平成22年度から知能情報学専攻、社会情報学専攻、および、通信情報システム専攻の3専攻が、英語のみで学位が取得できる国際コース(修士課程、博士後期課程)を開設する。本講演では、情報学研究科における教育の国際化の現状、開設予定の国際コースの目的と概要、国際化によってもたらされる影響等について述べる。



[略歴]

昭和49年(1974年)京都大学工学部情報工学科卒業、昭和51年(1976年)同大学院修士課程修了、昭和53年(1978年)同博士後期課程中退、昭和54年(1979年)神戸大学教養部助手、昭和61年(1986年)神戸大学工学部助教授、平成6年(1994年)神戸大学工学部教授、平成13年(2001年)より京都大学大学院情報学研究科教授(社会情報学専攻情報図書館学分野)、現在に至る。京大・工博。主にデータベース、マルチメディア情報システム、Web情報検索等の研究に従事。京都大学情報学研究科副研究科長、グローバルCOEプログラム「知識循環社会のための情報学教育研究拠点」リーダ、情報処理学会フェロー、日本データベース学会副会長、日本学術会議連携会員。

10:55-11:15 講演 (4) 「事例：研究室の多言語化」
石田 亨 (京都大学 情報学研究科 教授)

【講演概要】

留学生の増加で、最も問題となるのは、博士課程学生の指導である。現在、研究室の博士課程学生は、6名の内、4名が留学生である。研究室の中心であるべき博士課程学生が日本語を十分に話せない。博士課程学生が中核となり、修士、学部生がチームを組む研究室の運営を、これまで通りに継続することは困難である。留学生を「お客様」とせず研究室の中核にできないか、そのためにはどのような対策をとればよいか、「異文化コラボレーション」を研究するグループ自身がその研究対象となり始めている。



【略歴】

情報学研究科社会情報学専攻教授。ミュンヘン工科大学、パリ第六大学、メリーランド大学、上海交通大学、清華大学客員教授などを経験。工学博士。IEEE、情報処理学会、電子情報通信学会各フェロー。マルチエージェントシステムの国際会議 AAMAS の第一回大会委員長。デジタルシティ、言語グリッド、異文化コラボレーションプロジェクトなど情報技術と社会をつなぐ研究プロジェクトを推進。2009 年から、さきがけ「情報環境と人」の領域総括。

11:15-11:30 講演 (5) 「International Courses at Universities in Japan」
Adam Jatowt (Kyoto University Graduate School of Informatics Associate Professor)

【講演概要】

In this talk I will discuss some of the issues related to teaching information science courses in English within the international courses at universities in Japan. The talk will explain the objectives and merits of such courses as well as expected outcomes and future directions. I plan also to talk on the impact of English-based courses at graduate level in European countries in which English is not an official language.



【略歴】

Adam Jatowt is an associate professor at the Department of Social Informatics at the Kyoto University. He graduated from the University of Tokyo in 2005, worked as research fellow at NICT in 2005 and worked at the Kyoto University as an assistant professor from 2006 to 2009. His interests include mining and search in the Web and Web archives. He has obtained Microsoft Research Asia IJARC fellowship in 2010.

11:30-12:00 パネル討論

司 会：萩谷 昌己 (東京大学 情報理工学系研究科 副研究科長)

略歴・写真は講演 (1) 「情報科学技術分野の国際化」を参照。

パネリスト：フランソワ・ルガル (東京大学 情報理工学系研究科 特任講師)

略歴・写真は講演 (2) 「情報理工学英語コースの紹介」を参照。

田中 克己 (京都大学大学院 情報学研究科 教授 / 情報教育推進センター長)

略歴・写真は講演 (3) 「京都大学情報学研究科国際コース」を参照。

石田 亨 (京都大学 情報学研究科 教授)

略歴・写真は講演 (4) 「事例：研究室の多言語化」を参照。

Adam Jatowt (Kyoto University Graduate School of Informatics Associate Professor)

略歴・写真は講演 (5) 「International Courses at Universities in Japan」を参照。

ソフトウェアジャパン 2010 IT フォーラムセッション
XML コンソーシアム

「気象庁防災情報 XML を使った実証実験～災害から住民一人ひとりの命を守るために～」
3月10日 (水) 15:30-17:30 [第17 イベント会場 (工学部新2号館 1F 211号講義室)]

【全体概要】

昨今、台風、集中豪雨などによる痛ましい被害が頻発するなか、迅速かつ確かな防災情報の提供が以前に増して切望されます。気象庁は、自然災害の軽減、国民生活の向上、交通安全の確保、産業の発展などに寄与するため、警報、注意報などの各種防災情報の改善・高度化を行っています。この防災情報の更なる有効活用を促進し、かつ利用者の様々なニーズへの対応やシステム効率などの観点から、防災情報の形式として、汎用性が高く、広く一般に普及している XML を採用し、XML コンソーシアムの支援のもと、2009年5月に『気象庁防災情報 XML フォーマット』を発表、2010年度からの運用開始を予定しています。このセッションでは、なぜ気象庁が防災情報を XML 化するに至ったか、その背景や理由について紹介するとともに、XML コンソーシアムが『災害から住民一人ひとりの命を守るために』をテーマに、気象庁防災情報 XML フォーマットを使って実施した防災情報提供の実証実験について報告します。



司会：田原 春美 (XML コンソーシアム 副会長)

【略歴】

日本アイ・ビー・エムにてVMのシステム・エンジニアやOS/2推進に従事、その後、IBMが全世界で展開する Emerging Technology 推進プログラム jStart (Jump Start) に日本代表として参加。Java、XML、Web サービス等の先進的利活用を牽引した。また、これまでに OS/2 コンソーシアム、Java コンソーシアム、EJB コンポーネントに関するコンソーシアム、XML コンソーシアムの4団体を立ち上げている。特に、Java以降はオープンな先進技術を業界横断で普及推進することに注力し、ライフワークとして企業の枠を超えた活動の場作りに取り組んでいる。2001年に立ち上げたXMLコンソーシアムでは設立以来、副会長ならびに運営委員会議長を務めている。

15:30-16:00 講演 (1) 「気象庁防災情報 XML フォーマットについて」



山本 太基 (気象庁 総務部企画課 防災調整係長)

【略歴】

2001年 気象大学校卒. 2009年 気象庁総務部企画課.

16:00-17:30 講演 (2) 「気象庁防災情報を XML 用いた実証実験のご報告」



牧野 友紀 (XML コンソーシアム ビジネス・イノベーション研究部会リーダー)

【略歴】

長年に渡り、アプリケーション間のメッセージング技術に携わり、製品の開発、技術支援に従事。現在、開かれた系で柔軟に振る舞う次世代の情報システムのアーキテクチャの研究開発を行っている。今までの仕事は、システムを“つなぐ”お手伝い、勝手に“つながる”仕組みの研究。“そしたら未来は”どうなるのが今の私の関心事である。

日力 俊彦 (XML コンソーシアム SOA 部会リーダー)



【略歴】

1990年4月日本アイ・ピー・エム株式会社入社。通信業、製造業、流通業、金融業のお客様を中心に、汎用機、分散C/S、VLDBを活用したシステム・デザインを担当。その後、米国開発部門でのオブジェクト指向製品の開発を経て、J2EE、Webサービス、ユビキタス等の先進アーキテクチャを活用したシステム・アーキテクチャ設計に従事。現在、XMLコンソーシアムSOA部会リーダー、情報処理学会会員。

芦田 尚人 (XML コンソーシアム 関西部会リーダー)



【略歴】

様々なシステムインテグレーションやパッケージの企画及び開発に携わり、その後、製品やソリューションの企画、テクノロジー推進の業務に従事してきた。現在は、電通国際情報サービスにて、開発生産性と品質向上を目指し開発技術の追求を行っている。XMLコンソーシアムでは、関西部会、ビジネスイノベーション研究部会、SOA部会において、XMLという基盤の元で、上流から実装までのエリアで、自己の研鑽に努めながら、XML及び応用技術の普及・啓発を行っている。

松山 憲和 (XML コンソーシアム Web サービス実証部会リーダー)



【略歴】

1988年株式会社PFUに入社し、ソフトウェア開発環境の整備、データベース関連関連ツール、文書管理製品の開発に従事。その後、分散コンピューティングやモバイル・エージェントの調査・研究を行う中でXML技術、特にWebサービス関連技術の重要性からXMLコンソーシアムに参加。XMLコンソーシアム Webサービス実証部会のリーダーとしてWebサービスに関する先進的な実証実験を多数実施。現在はWebOSとクラウド・コンピューティングに関する研究開発に従事。

ソフトウェアジャパン 2010 IT フォーラムセッション
情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター (IPA/SEC)
「ソフトウェア開発のパラダイム・チェンジ in マインドー IPA/SEC における新しい取組み」
3月11日 (木) 10:00-12:00 [第17イベント会場 (工学部新2号館 1F 211号講義室)]

【全体概要】

信頼性向上や環境変化への迅速な対応等、情報システムに対する多様な要求が高まっている中で、旧来のソフトウェア開発における考え方や手法に固執しては、このような要求に十分応えることはできない。新しい考え方や手法の導入、あるいは既存手法でもかつては対象外とされていた領域への適用等、変革への挑戦を考えるべき時にある。そこで本セッションでは、現在IPA/SECが進めている3つの新しい取組みについて、その内容と状況を紹介する。1番目は、品質マトリクスを用いた定量的品質コントロールメカニズムを導入し、目標値と実績値との比較に基づいたプロジェクト管理の実施等により、特に重要インフラ情報システムに求められる信頼性水準を達成しようとするものである。2番目は、適用領域や開発現場への適用可能性を考慮しつつ、エンタプライズ系の情報システムにも形式手法を適用し、その高信頼化を実現しようとするものである。3番目は、導入が広まりつつあるアジャイル型等の非ウォーターフォール型開発形態について、システムの信頼性や品質を高めるための課題等を取りまとめるものである。

司会：山下 博之 (情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター エンタプライズ系プロジェクト プロジェクトリーダー)



【略歴】

1981年京都大学大学院修士課程(情報工学)修了。同年、日本電信電話公社(現NTT)入社。以後、研究所において、通信制御処理システム、高機能通信プロトコル、分散協調処理、著作権管理、コンテンツ流通等に関する研究開発・標準化活動に従事。2003年10月に(株)NTTデータに転籍。2004年～2008年、JST に出向。2009年4月に(株)NTTデータアイ入社、同時にIPAに出向。2003年10月～2008年4月、科学技術振興調整費プログラムオフィサー、米国PMI認定PMP、情報規格調査会SC6専門委員会委員長、IEEE、情報処理学会、電子情報通信学会各会員。

10:10-10:45 講演 (1) 「ソフトウェア品質向上のための定量的コントロール手法 ～重要インフラ情報システムを対象とした取組み～」

野中 誠 (東洋大学 経営学部 経営学科 准教授 IPA/SEC 重要インフラ情報システム信頼性研究会委員)

【講演概要】

企業活動から日常生活に至るまで、今日の社会は情報システムに大きく依存しており、その度合いは日増しに高まっている。社会の根幹をなす重要インフラの情報システムに信頼性上の問題があり、これが顕在化すると、その影響は甚大なものになる。重要インフラ情報システムの信頼性確保は、一企業の利害の枠を越えて、産業界・学界・政策的観点から取り組まなければならない重点課題である。このような問題意識のもと、2008年度より経済産業省プロジェクト「重要インフラ情報システム信頼性研究会」では信頼性確保のための方策について議論・調査を行っている。本講演では、その成果の一部として、情報システムの企画・開発・運用・保守といったライフサイクル全体を通して実施すべき定量的品質コントロールの具体的施策について紹介する。これらの施策は、ユーザー側 (重要インフラシステム事業者) とベンダー側の双方で取り組みが必要なものも多く、本講演でも双方の視点を踏まえて説明する。



【略歴】

1995年早稲田大学理工学部工業経営学科卒業。同大学大学院博士後期課程単位取得退学。同大学助手、東洋大学専任講師を経て2006年より現職。ソフトウェア品質と開発管理の研究に従事。IPA/SECリサーチフェロー、情報処理学会ソフトウェア工学研究会幹事、日本科学技術連盟SQiPソフトウェア品質委員会副委員長など、学協会の各種委員を担当。

10:45-11:20 講演 (2) 「形式手法の誤解を解く」

山本 修一郎 (名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授 IPA/SEC 形式手法導入プロセス・実証評価 WG 主査)

【講演概要】

本講演では、まず重要インフラシステム障害の多くの欠陥が運用保守工程で発生すること、システムの大規模化に伴い品質低下や納期遅れが発生し易いことなどをこれまでに公表されたデータで紹介する。次いで、システム構成要素や外部環境との相互作用を定式化することで、これらの問題に対処できる可能性を示す。また、現在講演者らのWGで進めている要求、アーキテクチャ、仕様、コード間の関係管理に基づく形式手法の実践的な導入手法を提案する。この手法では複数の形式手法を独立に適用することで重要インフラシステムの超高信頼性の保証問題に挑戦している。この理由は、従来の形式手法が個別的でバラバラであり、システム開発現場での混乱を少なからずもたらしてきたことへの反省がある。さらに本手法の具体的な取り組み事例についても紹介する。この一連の取り組みが我が国の情報システムのデベロッパビリティを向上させることを期待している。



【略歴】

1979年名古屋大学大学院工学研究科情報工学専攻修了。同年日本電信電話公社入社。2002年(株)NTTデータ 技術開発本部 副本部長。2007年同社初代フェロー、システム科学研究所 所長。2009年東京工業大学 統合研究院医療情報プロジェクト 特任教授。同年名古屋大学 情報連携統括本部教授。IPA/SEC形式手法導入推進WG主査。AI学会知識流通ネットワーク研究会主査。

11:20-11:55 講演 (3) 「非ウォーターフォール型開発における課題」

松本 吉弘 (京都高度技術研究所 顧問 IPA/SEC 非ウォーターフォール型開発研究会座長)

【講演概要】

前世紀末、ソフトウェア業界で膾炙された用語に、「ウォーターフォール型開発」がある。この用語の解釈はさまざまであるが、日本に限らず、ほとんどの基幹企業は、これら解釈を客観的に受け止めるだけで、要求定義、設計、テストプロセスを、互いに協調しながら並行に進める方式をとってきた。本講演では、IPA/SEC非ウォーターフォール型開発研究会でまとめた成果物を基にして、今世紀に入ってから、実際のITプロジェクトで始まっている(1)非ウォーターフォール型開発の実態、(2)アジャイルのプラクティスへのマッピング、(3)アジャイルのプラクティスを実践して得られた利害得失に関する調査結果を報告し、平成22年度から研究が予定されている、今後のIT戦略にふさわしい非ウォーターフォール型開発・手法のあり方について展望する。



【略歴】

1954年東京大学工学部卒業、1954-1989年東芝に勤務、1989年から京都大学教授。定年退官後、大阪工大教授、武蔵工大教授、ドイツ・シュットガルト大学客員教授、京都高度技術研究所顧問。半世紀に亘って、実時間制御アプリケーション・ソフトウェア開発現場を担当し、ソフトウェア工場創設、ソフトウェア工学教育の普及など。全国発明表彰、科学技術研究者表彰など。電気学会、情報処理学会、IEEE Life Fellow。

ソフトウェアジャパン 2010 ITフォーラムセッション

(社)情報サービス産業協会 (JISA)

「要求工学への実践的な取り組みと要求工学知識体系 REBOK」

3月11日 (木) 14:30-16:30 [第17イベント会場 (工学部新2号館 1F 211号講義室)]

【全体概要】

ソフトウェア開発の実務における最大の課題は要求分析にあることから、(社)情報サービス産業協会では、平成18年度より要求工学WGを設置し、3年間にわたって要求工学の実践的な取り組みを行った。初年度はWG委員が現場で実践したプラクティスを通じ、要求開発プロセスにおける「組織形態パターン」をとりまとめた。2年度はさらに現場でのプラクティスを収集し、要求獲得、要求分析、要求仕様記述、要求検査、要求管理別にベストプラクティスを整理した。最終年度では、要求工学を活用するための知識とその人材育成の指針となる要求工学知識体系 (REBOK: Requirements Engineering Body Of Knowledge) [リーボックと呼ぶ]の検討、ならびに、ユーザとベンダが協調した要求開発の実践を目指して、事例の収集、整理を行った。このセッションでは、JISAでの3年間の取り組み成果について紹介するとともに、現場における要求工学の課題について討議する。



司会：鈴木 律郎（情報サービス産業協会 企画調査部 技術課長）

【略歴】

1986年東洋大学文学部卒業。情報サービス会社を経て1993年4月より現職。情報サービス産業の業界発展と社会の情報化促進に資する活動に従事。「オープンソース」「SOA（サービス指向）」「要求工学」などのテーマに取り組み、当産業への普及定着のための活動を推進。社内の情報システム管理者でもあり、利用者の立場からソフトウェアエンジニアリングの成果活用に関心がある。

14:30-15:30 講演（1）「要求工学知識体系 REBOK」

青山 幹雄（南山大学 情報理工学部 ソフトウェア工学科 教授）

【講演概要】

情報システムとソフトウェア開発の実務における最大の課題は要求定義にある。要求工学は要求定義を体系的に行う技術体系である。しかし、要求工学の実践には様々な技術やスキルが必要であることから、その習得が課題となっている。これに対して、要求工学を実践するための知識を整理、体系化した要求工学知識体系（REBOK: Requirements Engineering Body Of Knowledge）[リーボック]を開発している。REBOKは、要求分析の専門家のみならず、要求にかかわるユーザ、ベンダの技術者、エンドユーザ、経営者、などが必要とする知識を整理、体系化したものである。本講演では、REBOKの全体像を紹介する。さらに、ソフトウェア工学知識体系（SWEBOK）やビジネス分析知識体系（BABOK）との関係なども紹介する。



【略歴】

1980年岡山大学大学院工学研究科修士課程修了。同年富士通（株）入社。大規模分散処理通信ソフトウェアシステムの開発と開発技術の開発と適用に従事。この間、1986～88年米国イリノイ大学客員研究員。1995年4月～2001年3月新潟工科大学情報電子工学科教授。2001年4月～2009年3月南山大学数理情報学部情報通信学科教授。2009年4月同大学情報理工学部ソフトウェア工学科教授。

15:30-16:30 講演（2）「情報システムユーザーにおける要求品質向上施策」

菊島 靖弘（東京海上日動システムズ（株） 技術顧問）

【講演概要】

一般事業会社における業務情報システムは、技術の進歩、利用の拡大に伴って、巨大化、複雑化の一途をたどってきました。その結果、そこに発生する様々なNEEDS, WANTSを、要求として業務情報システム開発につなげていくことが、大変難しくなっている。業務情報システム構築の目的は事業計画毎に様々である。ある時は、競争優位を実現するための革新的システム活用といった目論見であり、また、ある時はビジネスの拡大に伴う利用場所、利用者の多様化対応であったりする。何れにしろ、そこに発生する様々なNEEDS, WANTSを、要求として業務情報システム開発につなげていくことがうまく行かなければ、業務情報システムを作ることで実現しようとした本業上の目的は実現しない。本講演では、損害保険業における事例を通じて、業務情報システム開発における要求品質確保について講演する。



【略歴】

1975年早稲田大学政治経済学部 政治学科卒業。東京海上火災保険入社。情報システム部門で損害保険、生命保険、確定拠出年金等の業務システム開発を担当。東京海上日動システムズ出向後、取締役品質管理部長としてシステム開発品質向上に従事。2005年から㈱アイネス勤務。IPA・SECプロセス改善部会主査、同 プロセス共有部会副主査。情報処理学会 IS研究会委員。「実務に役立つプロジェクトレビュー」（翔泳社）、「経営者が参画する要求品質の確保」（SECBOKS共著）「共通フレーム2007」（SECBOKS共同編著）。

大会スポンサー展示のご案内

■大会スポンサー展示

展示会場：デモセッション・大会スポンサー・各種展示会場 [工学部新2号館2F フォーラム]

展示日時：3月9日(火)～11日(木) 9:30-17:00 *11日は16:00まで

スポンサー名・スポンサー Web サイト 展示名・展示概要
<p>株式会社とめ研究所 [http://www.tome.jp/] とめ研究所の紹介</p> <p>とめ研究所は、知能情報処理技術をコアコンピタンスに、大学、公的研究機関、企業研究所等と国家プロジェクト応募や、受託研究開発、博士等の先端技術者派遣で協創し、来たるべき“人と機械が共生する社会”の構築に貢献します。難解アルゴリズム研究開発や社会を変えるシステム開発を目指す志の高いエンジニアの集団、画像処理、データマイニング、次世代 Web 等の知能情報処理分野に実績多数、研究開発の高度化、高速化に役立つアウトソーシング研究所を目指します。今回の展示では、とめ研究所の強み、得意分野などについてご紹介いたします。</p>
<p>日本電信電話株式会社 [http://www.ntt.co.jp/RD/] テレビ用ウェブブラウザのための矢印タグ・インタフェース</p> <p>近年、テレビやテレビゲーム機にもウェブブラウザが搭載されるようになり、リモコンを使い、テレビ画面上でウェブページを閲覧することが可能になりました。しかし、既存の操作方式は必要とされるキー押下回数が多い等、使いにくいのが現状です。そこで、テレビ用ウェブブラウザのための新しいリンク選択方式として、「矢印タグ方式」を提案します。提案方式では、矢印タグと呼ばれる矢印記号列を画面上の各々のリンクに割り当てます。ユーザは、テレビ画面に目を向けたまま、方向キーを数回押下するだけで所望のリンクを選択できます。また、実験の通り、矢印タグ方式では従来のフォーカス移動方式や数字タグ方式よりも速く操作でき、多くの被験者が従来の方式より好むことが明確になりました。</p>
<p>日本電信電話株式会社 [http://www.ntt.co.jp/RD/] 呼びかけ呼びとめ誘うデジタルサイネージ「スポットアド」</p> <p>パブリックスペースの映像ディスプレイの周囲の人々の位置や移動によって状況を推定し、瞬時に映像を切り替えることで「呼びかけ呼びとめ誘う」訴求を行う状況即応型デジタルサイネージ「スポットアド」を展示します。商空間で非計画的に行動している人々が自ら積極的に働きかけなくても、環境側から情報を提示して影響を及ぼすことが可能となり、販売促進や誘導に利用できます。トラッキングするカメラセンサと複数のビデオを切り替えるメディアプレーヤを組み合わせたインタフェースを実現するシステムを構築し、映像表現をヒューマンスケールに調整するデザイン手法を適用しました。今回の展示では、複数のデモンストレーションコンテンツと実証実験の事例を紹介いたします。</p>
<p>日本電信電話株式会社 [http://www.ntt.co.jp/RD/] 情報組織化技術によるコンテンツ探索デモ</p> <p>ブログや SNS の爆発的な普及、携帯電話やデジカメを始めとする身近なキャプチャデバイスの普及に伴い、個人の所有する情報(コンテンツ)数は爆発的に増大しており、それを把握することの困難さが、せっかくの膨大な情報を活用する場合の障壁になっています。情報組織化とは、デジタルデータ化された時に失われたコンテンツ間の隠れた関係性を、利用者の行動履歴を手がかりに再構成する技術であり、この技術を用いると、膨大な情報を、利用者の把握しやすい軸で関連付けられるため、より容易/直感的にアクセスすることが可能となります。本デモシステムでは、このコンテンツ間の関連性を利用して、関連を辿りながらコンテンツを閲覧することで利用者に気づきや発見をうながすような情報探索・情報発見のイメージをご紹介します。</p>
<p>日本電信電話株式会社 [http://www.ntt.co.jp/RD/] メディア処理向けクラウド基盤「虹雲」=POLDER + n × DMS</p> <p>DMSとは分散データストリーム管理システム(DSMS)とDBMSを統合した情報統合基盤「追記・参照型データ管理システム」です。また、POLDERとはデータフロー処理系をフォルダ・メタファを使って可視化したフォルダ・プログラミング環境です。本展示では、POLDERにDMSを効果的に適用したメディア処理向けクラウド基盤「虹雲」において、ユーザ増加に対するスループット向上と巨大なコンテンツに対する各種メディア処理時間の短縮の両方が実現されることを示します。 展示詳細：追記・参照型データ管理システム http://www.waza.jp/dms/</p>
<p>株式会社日立製作所 [http://www.hitachi.co.jp/] データセンタ省電力化プロジェクト CoolCenter50</p> <p>CoolCenter50は、日立のデータセンタ省電力化プロジェクトです。IT機器や空調機器などの装置・設備自体の省電力化技術、IT機器の負荷に最適化した空調制御などの電力消費の全体最適化技術、これらの機器を効率的に運用するための省電力化サービスなどを有機的に統合するための技術、製品開発を日立グループの総力をあげて推進しています。その目標は、2008年度からの5年間でデータセンタの消費電力を2007年度に対し最大50%削減することです。2009年7月にオープンした新データセンタでは、日立グループの高効率な空調設備や電源設備の導入、空調環境シミュレーションによるIT機器の配置の最適化、エコロジサーバなどの省電力IT機器の採用など、CoolCenter50の成果を効果的に活用しています。これらの取り組みによる省電力化技術やノウハウを活用し、データセンタの幅広いソリューションを取り揃えています。 詳細：http://www.hitachi.co.jp/greenit/</p>

スポンサー名・スポンサー Web サイト 展示名・展示概要
<p>株式会社日立製作所 [http://www.hitachi.co.jp/]</p> <p>・ユーザーが体感する応答性能を改善する Web Flight Recorder 技術のご紹介 ～ Cosminexus アプリケーションサーバによる適用例 ～</p> <p>・ストリームデータ処理による実世界情報のリアルタイム活用</p> <p>・ユーザーが体感する応答性能を改善する Web Flight Recorder 技術のご紹介 ～ Cosminexus アプリケーションサーバによる適用例～</p> <p>Web Flight recorder 技術は、Web アプリケーションの処理性能をユーザー視点で自動的に測定する技術です。ユーザーが Web 画面からリクエストをクリックした時点からサーバからの応答までサーバ側のトレースとクライアントログを突合せて性能処理解析を行い、ユーザー視点での応答処理性能を確認できるのでシステムの性能改善、操作性改善に活用できます。日立の Cosminexus アプリケーションサーバでは、Web Flight Recorder 技術を製品に実装しています。製品と適用例により Web Flight Recorder 技術をご紹介いたします。</p> <p>・ストリームデータ処理による実世界情報のリアルタイム活用</p> <p>ストリームデータ処理とは逐次発生する大量のフローデータを高速に処理し、「今」を分析する新たなデータ処理アーキテクチャです。今回の展示では、ストリームデータ処理基盤（uCosminexus Stream Data Platform）を活用した IT システムのリアルタイム業務モニタリングと障害予兆監視、人流に応じて最適な情報を提供するデジタルサイネージ、大量のデータを効率良く格納・活用する時系列データプラットフォームについてご紹介いたします。</p> <p>詳細：http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/soft1/cosminexus/products/lineup/application/sdp/index.html</p>
<p>株式会社 KDDI 研究所 [http://www.kddilabs.jp]</p> <p>新触感!ぶにぶにインタフェース ーケータイカメラを利用した直感コントローラ 2ー</p> <p>従来の携帯電話ではキー入力一般的なため、斜めなど任意の方向を入力することが実現できませんでした。また、キー入力は押下の強弱を受け付けられないため、アナログ的な操作は不可能でした。一方、従来の動き認識には加速度センサなどの専用のデバイスを必要としていたため、大多数の端末では動き認識を実現できませんでした。</p> <p>直感コントローラ 2 は、バネやゴムなど弾力性がある素材にマークを描いて被写体とし、カメラに装着した被写体のマークを追跡することでユーザーの操作を高精度に認識するモジュールとして機能します。そのため、加速度センサの搭載を必要としません。ユーザーは、この直感コントローラ 2 を用いることで、直感的なアナログ入力ユーザーインタフェースを容易に実現できます。</p> <p>本技術の主な特長は、下記の 3 つです。</p> <p>■映像を高速かつ高精度に解析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話のカメラから入力された映像を高速に解析し、高精度にユーザーの動作を認識 ・全方向の移動、奥行き方向の移動、回転角を判別 <p>■加速度センサや 6 軸センサなどの付加的なハードウェアデバイスは一切不要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハードウェアとしては携帯電話に標準搭載されているカメラだけを利用 ・高速な映像解析技術を BREW エクステンションとして実装 <p>■直感的な動作によるヒューマン・マシン・インタフェース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認識された動作の種類や変化量に応じて、任意のキー操作の代替として割り当て可能 <p>詳細：http://www.kddilabs.jp/press/detail_135.html</p>
<p>マイクロソフト株式会社 [http://www.microsoft.com/japan/academic/default.msp]x]</p> <p>マイクロソフトの教職員・学生の皆様向けのプログラムご紹介</p> <p>マイクロソフトでは、教職員、学生の皆様がたに向けた多くのプログラムをご紹介します。また、最新技術のビデオの紹介や、学生へのお得な情報もありますので、どうぞお越しください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MSDN アカデミックアライアンス 高等教育機関向け、最新ソフトウェア提供プログラム ・DreamSpark 学生向け・開発・デザインソフトウェアの無償提供プログラム ・カリキュラム導入キット 変更可能な教材キットの無償提供プログラム ・Imagine Cup 全世界の学生を対象とした IT オリンピック <p>詳細：http://www.microsoft.com/japan/academic/</p>
<p>株式会社東芝 [http://www.toshiba.co.jp/index_j3.htm]</p> <p>イノベーションのさらなる進化</p> <p>新しい仕組み、新しいシステム、新しい製品・・・それらによって人々の生活をより豊かにすること、新しい価値を社会に提供することが私たちの役目です。科学によって発見された知識を、技術によって人間や社会のために体系化し、新たなものを生み出していくこと、これがイノベーションです。わくわくする新たな発見や創造を次々とイノベーションに結びつけ、人々にまだ見ぬ感動や驚きをもたらすと同時に、社会に安全と安心をお届けすることを目指します。</p> <p>詳細：http://www.toshiba.co.jp/rdc/index_j.htm</p>

スポンサー名・スポンサー Web サイト 展示名・展示概要
<p>インテレクチュアル・ベンチャーズ・ジャパン合同会社 [http://www.intven.jp/] IV 発明パートナー・プログラムのご紹介</p>
<p>インテレクチュアル・ベンチャーズ (IV) は 2000 年に米国に設立された会社で、研究者・技術者の方とともにアイデア創出活動に取り組んでいます。ブースでは、IV 発明パートナー・プログラムをご紹介していますので、ぜひ気軽にお立ち寄り下さい。また、簡単なアンケートにお答えいただいた方には、もれなくギフト券 500 円分を進呈いたします。</p> <p>IV は、大学・研究機関・企業にご所属の研究者・技術者 (発明パートナー) の方に技術的アイデア (発明) を考えていただき、その発明の特許化した上でグローバル企業にライセンスします。特許化そして特許権維持に必要な費用は IV がすべて負担します。発明パートナーの方には、評価基準に基づいた発明報奨金の支払いそしてライセンスから得られる利益分配を行っています。現在、情報通信・ロボティクス・医療・半導体など 18 のテーマにわたってアイデアを募集しています。なお、昨年度日刊工業新聞社と「イノベーション創出コンテスト 2009」を共催しました。</p> <p>あなたのアイデアを世界規模で活用する絶好のチャンスです。詳しくは展示ブースまで。</p>
<p>富士通株式会社 [http://jp.fujitsu.com/] 「うっかりミス」によるメールの誤送信を防止します</p>
<p>宛先ミスや添付ファイル誤りなど「うっかりミス」によるメール誤送信は、最も身近な情報漏えいの原因です。SHieldMailChecker は、利用者がメール送信操作をした直後に、メールの宛先、本文、添付ファイル名などから、情報漏えいにつながるリスクを検出し、利用者に警告します。これにより、利用者の誤操作による情報漏えいを水際で食い止めることができます。SHieldMailChecker は、富士通グループ内の標準ツールとして、100 社以上、約 80,000 クライントに導入されています。【自動学習ホワイトリスト実装 (富士通研究所、富士通 SSL 共同特許出願済み)】</p> <p>頻繁に警告が続くと利用者が慣れてしまう問題がありますが、メール送信ごとに、「直近」に「良く」送信許可されている宛先を統計学的処理により分析し、チェック対象から除外します。これにより、過剰な警告を抑制し、慣れによるチェック漏れを防ぎます。</p> <p>詳細：SHieldMailChecker の紹介ページ http://www.ssl.fujitsu.com/products/network/netproducts/shieldmail/</p>

第1分冊

(アーキテクチャ)

一般セッション [1A会場] (3月9日(火) 9:30~12:00)

計算機アーキテクチャ 座長 中村 宏 (東大)

- 動的再構成型可変長復号回路の高性能化に関する研究
○小椋清孝, 森下賢幸 (岡山県大)
- HPC向けストレージの省電力化を図るアクセス予測階層ストレージの予知成功確率改善手法と効果の検証
○赤池洋俊 (日立), 藤本和久, 岡田尚也, 三浦健司, 村岡裕明 (東北大)
- トポロジを考慮したノード間通信方式の提案
○大野善之, 星 宗王, 加納 健 (NEC)
- 計算機の時刻取得関数に関する性質とその解析法に関する考察
○山口健二, 中村勝洋 (千葉大)
- FA ネットワークにおけるマスタ内データ処理高速化方式
○尾形幸亮 (三菱)
- メニーコアプロセッサにおける SmartCore システムを用いた Reactive NUCA の実装の検討
○佐藤真平 (東工大), 三好健文 (東工大/JST), 吉瀬謙二 (東工大)

一般セッション [2A会場] (3月9日(火) 15:30~17:30)

仮想化技術 (1) 座長 千葉 滋 (東工大)

- 仮想化技術を利用した異常処理試験自動化手法
ー状態情報収集方式ー
○國分俊介, 伊藤孝之, 花崎芳彦, 片山吉章, 岡部 亮 (三菱)
- 仮想化技術を利用した異常処理試験自動化手法
ー試験開始状態の復元ー
○伊藤孝之, 國分俊介, 花崎芳彦, 片山吉章, 岡部 亮 (三菱)
- リソース利用状況を考慮した仮想計算機予備イメージ管理手法
○松尾英治 (三菱)
- SPUMONE 仮想環境下におけるリカバリ指向 OS 向け OS 間通信の実装
○福島 拓 (早大)
- 仮想環境を利用した既存 IPv4 Web システムの IPv6 対応
○高宮紀明, 三上博英 (NTT ソフトウェア)
- 無線 LAN アクセスポイント仮想化とその経路制御の検討
○永井隆博, 小俣拓也, 濱口 毅, 重野 寛 (慶大)
- 組込みシステムにおける LTTng の性能検討
○原 聡美, 内野 聡, 本間 亨 (東芝)

一般セッション [3A会場] (3月10日(水) 9:30~12:00)

ハイパフォーマンスコンピューティング 座長 朴 泰祐 (筑波大)

- 計算センタシステム高稼働率とジョブ待機時間短縮を実現するジョブスケジューラ
○宇治橋善史, 久門耕一 (富士通研)
- 仮想サーバリソース制御方式の提案
○西川佳宏, 太田崇博 (NTT 西日本)
- 階層統合型粗粒度タスク並列処理における再帰メソッドの並列 Java コード生成
○小澤智弘, 吉田明正 (東邦大)
- イベント系列の並べ替えによる並列プログラムテスト
○阿部真也 (東京都立産業技術研究センター)
- 並列分散型シミュレーションエンジンにおけるマルチスレッド化性能評価
○渡部修介, 尾崎敦夫 (三菱)
- Java 言語による誤差伝搬の起きない加算処理アルゴリズム
○八尋秀一 (九女大)

一般セッション [4A会場] (3月10日(水) 15:30~17:30)

設計・検証技術 座長 瀬戸 謙修 (東京都市大)

- 電力ベースサンプリングシステム PARITS の提案
○平井 聡, 三輪真弘, 佐藤 充, 久門耕一 (富士通研)
- 電力ベースサンプリングシステム PARITS の評価
○三輪真弘, 平井 聡, 佐藤 充, 久門耕一 (富士通研)
- 性能データの可視化分析ツール
○小野美由紀, 山本昌生, 平井 聡, 久門耕一 (富士通研)
- SW/HW 協調シミュレーション環境への Qemu の適用
○高見澤秀久 (東芝ソリューション), 石井忠俊 (インターデザイン・テクノロジー), 川田秀司 (東芝), 位野木万理 (東芝ソリューション)
- モデルベースデザインによるフィルタのハードウェア設計事例
○松田昭信, 石原 亨 (九大)

6 積層型高速低コスト NAND FeRAM/MRAM の検討

○渡辺重佳 (湘南工科大)

学生セッション [1L会場] (3月9日(火) 9:30~12:00)

メニーコア・並列ソフトウェア 座長 成瀬 彰 (富士通研)

- cell Broadband Engine による PSO 演算の実験及び検証
○藤田大地, 三浦康之, 渡辺重佳 (湘南工科大)
- GPGPU による並列画像フィルタリング
○酒井貴多, 山口実靖 (工学院大)
- GPU-CPU 併用環境におけるソートの高速化
○藤澤祐一, 山口実靖, 浅谷耕一 (工学院大)
- GPGPU での暗号アルゴリズムの実装と評価
○村上智祐, 杉浦 寛, 羅 鏡栄, 大釜正裕, 笠原竜大, 齋藤孝道 (明大)
- Cell/B.E. による疎行列ベクトル積の高速化
○吉田 淳, 小柳義夫, 藤井昭宏 (工学院大)
- GPGPU を利用した疎行列ソルバの高速化
○五十嵐公一, 小柳義夫, 藤井昭宏 (工学院大)
- マルチプロセッサ型交通シミュレータにおける集中操作の機能強化
○仁藤博文, 中村俊一郎, 半澤孝文 (日本工大), 宮西洋太郎 (宮城大)
- MPI を用いたハードディスクドライブ (HDD) シミュレータプログラムの並列化
○高橋 聡, 小柳義夫, 藤井昭宏 (工学院大)

学生セッション [2L会場] (3月9日(火) 15:30~17:30)

並列システムソフトウェア 座長 中田 秀基 (産総研)

- 並列分散環境上のファイル共有システムの負荷原因探索システム
○佐伯勇樹, 田浦健次郎 (東大)
- MapReduce におけるファイルシステムの比較
○三上俊輔, 建部修見 (筑波大)
- 並列ファイルシステムにおけるハードディスクの簡易的な温度トレース機能の実装
○六車英峰, 辻田祐一 (近畿大)
- 分散共有メモリ間通信方式のクラスタ型並列処理機構
○工藤達矢, 坂下善彦 (湘南工科大)
- MPI の集団通信機能の改善とゲームプログラムの並列化
○晴山光智, 山口広行, 苦米地宜裕 (八戸工大)
- データストリーム処理とバッチ処理における動的負荷分散に向けて
○松浦紘也, 鈴木豊太郎 (東工大)
- データストリーム処理を用いた変化点検知の実装と GPU による性能最適化
○森田康介 (東工大), 高橋俊博 (日本 IBM), 鈴木豊太郎 (東工大/日本 IBM)
- 直接結合型クラスタ並列計算機のネットワークインターフェイスにおけるメモリモデルの検討
○加藤 渉, 三浦康之, 渡辺重佳 (湘南工科大)

学生セッション [3L会場] (3月10日(水) 9:30~12:00)

分散・並列 OS 座長 田端 利宏 (岡山大)

- プロセスを共有するためのソフトウェア分散共有メモリの実現
○小鍛治翔太, 芝 公仁, 岡田至弘 (龍谷大)
- NUMA におけるメモリローカリティと負荷分散を同時に考慮した並列 GC のシミュレーションによる性能評価
○路 星洋, 原健太郎, 田浦健次郎, 近山 隆 (東大)
- DAVs と Aufs を用いた組込み Linux によるシンクライアントシステムの開発
○竹川知孝, 並木美太郎 (農工大)
- Simultaneous TCP Open を用いた二つのエンドポイント間の直接接続に関する研究
○松田駿一, 中山泰一 (電通大)
- マルチコア CPU における OS の資源管理方式の研究
○磯部泰徳, 佐藤未来子, 並木美太郎 (農工大)
- 分散 Ruby 実行環境の実装と評価
○後藤 翔, 千葉雄司, 土居範久 (中大)
- プロセスの保存と復元による GUI アプリケーションの起動高速化
○阿部敏和, 中山泰一 (電通大)

学生セッション [4L会場] (3月10日(水) 15:30~17:30)

ファイルシステム・I/O 座長 盛合 敏 (NTT)

- NILFS の拡張属性の設計と実装
○鈴木章浩 (筑波大), 小西隆介, 盛合 敏 (NTT), 追川修一 (筑波大)
- 優先処理の実行時間を短縮する入出力バッファ分割法
○土谷彰義, 田端利宏, 谷口秀夫 (岡山大)

- 3 ファイルアクセス履歴を用いたオンメモリ型ストレージ間データマイグレーション ○小山芳樹, 山口実靖 (工学院大)
- 4 省電力・高速性を考慮したSSDによるファイルシステムデバイスの試作 ○仁科圭介, 並木美太郎 (農工大)
- 5 ディスク空領域を用いるファイル複製手法におけるディスク回転待ち時間低減に関する考察 ○千田 霞, 山口実靖 (工学院大)
- 6 仮想化環境におけるI/OスケジューラとI/O性能の関係に関する一考察 ○新居健一, 山口実靖 (工学院大)
- 7 仮想計算機へのメモリ割当量と仮想計算機のI/O性能に関する考察 ○渡邊有貴, 山口実靖 (工学院大)
- 8 3耐故障RAIDの実装 ○中村祐司, 上原 稔, 松本勝慶 (東洋大)
- 9 FPGAを搭載した倒立振り子ロボットの開発 ○永野誠太郎, 澤田 直 (九産大)

学生セッション [2M会場] (3月9日(火) 15:30~17:30)

ネットワークアーキテクチャ 座長 森 敦司 (富士通)

学生セッション [5L会場] (3月11日(木) 9:30~12:00)
組込みOS 座長 早川 栄一 (拓大)

- 1 フラッシュROM上で動作する組み込みOSの動的更新方法 ○石井 光, 横山孝典, 兪 明連, 志田晃一郎 (東京都市大)
- 2 仮想化技術を用いたリカバリ指向組み込みシステムの開発 ○石井正将 (早大)
- 3 Rate Monotonicに基づく拡張インプリサイズ計算モデル用リアルタイムスケジューリング ○千代浩之 (慶大)
- 4 DVFSを用いたEDFスケジューリングアルゴリズム向け省電力化手法 ○林 和宏, 並木美太郎 (農工大)
- 5 省電力を目的としたOSによる細粒度パワーゲーティング制御方式の研究 ○砂田徹也, 木村一樹 (農工大), 近藤正章 (電通大), 天野英晴 (慶大), 宇佐美公良 (芝浦工大), 中村 宏 (東大), 並木美太郎 (農工大)
- 6 省電力MIPSプロセッサ評価ボードへのLinuxの移植 ○茂木 勇, 並木美太郎, 砂田徹也, 木村一樹 (農工大)
- 7 T-Kernelにおける分散共有メモリ機能 ○山原 亨, 片瀬由貴, 寺島悠貴, 大谷 真 (湘南工科大)
- 8 ハードウェア上で直接動作するRuby処理系の試作 ○吉原陽香, 並木美太郎 (農工大)

学生セッション [6L会場] (3月11日(木) 14:30~17:00)

仮想化技術(2) 座長 清水 正明 (日立)

- 1 SMPを活用したOSのロギング&リプレイ ○川崎 仁, 追川修一 (筑波大)
- 2 Windowsにおける大規模分散システムテストベッドの開発 ○新岡寛幸, 佐藤晴彦, 栗原正仁 (北大)
- 3 仮想化環境でのVCPUマイグレーションによるLock Holder Preemptionの回避 ○三嶽 仁 (早大)
- 4 仮想マルチコア状態のLinuxにおけるスピンドックの影響 ○安川要平 (早大)
- 5 仮想化技術を用いたセキュアクライアントの提案 ○山本一樹, 安井浩之, 横山孝典 (東京都市大)

- 6 (講演取消)
- 7 JavaVM上で動作するx86ユーザーモードエミュレータの実装と評価 ○川口直也, 並木美太郎 (農工大)
- 8 UltraSPARC T2における暗号モジュールの利用と評価 ○羅 鏡栄, 大金正裕, 杉浦 寛, 齋藤孝道 (明大)

学生セッション [1M会場] (3月9日(火) 9:30~12:00)

モデリング・上流設計 座長 星 直之 (三菱)

- 1 ハイブリッドシステムモデリング言語HydLaの区間制約に基づく全解シミュレーション実行処理系 ○大谷順司, 廣瀬賢一, 石井大輔 (早大), 細部博史 (国立情報学研), 上田和紀 (早大)
- 2 組み込みシステムのモデルベース・システムズエンジニアリング事例集の作成およびその評価 ○谷脇武和, 庄司龍一, 鈴木彰仁, 本田大典, 井上雅裕 (芝浦工大)
- 3 上位ハードウェア記述言語Melasy+に対する仕様パターン埋め込みと展開 ○白鳥航亮, 和崎克己 (信州大)
- 4 上位言語Melasy+による自己テスト機能付バスアービタの設計とNuSMVを用いた検証 ○花里貴裕, 白鳥航亮, 和崎克己 (信州大)
- 5 ワードレベル論理式の充足可能性判定問題を利用したシステムレベル設計デバッグ支援手法 ○原田裕基, 西原 佑, 松本剛史, 藤田昌宏 (東大)

- 1 バイブライン構造を有するNFAハイブリッドアーキテクチャにおける正規表現パターンの実装と評価 ○片庭悠介, 飯里貴裕, 前田敦司, 山口喜教 (筑波大)

- 2 直接結合ネットワークのルータ回路におけるバッファの有効利用 ○深瀬尚久, 三浦康之 (湘南工科大)
- 3 時間的局所性の傾向を利用したネットワークプロセッサ・アーキテクチャ ○明村愛里, 西 宏章 (慶大)
- 4 NoCにおけるQoS方式の提案とその評価 ○伊藤雄太, チュオン ソングエン, 小柳 滋 (立命館大)
- 5 マルチプロセッサシステムにおけるルータの実装と評価 ○姜 軒, 高前田伸也, 渡邊伸平, 三好健文, 吉瀬謙二 (東工大)
- 6 メニーコアプロセッサにおけるコア間通信レイテンシ隠蔽手法の検討 ○高前田伸也, 吉瀬謙二 (東工大)
- 7 広域情報によるTurn-Modelの高性能化 ○森 裕貴, 横田隆史, 大津金光, 馬場敬信 (宇都宮大)
- 8 メニーコアプロセッサにおけるオンチップネットワークの可視化ツールの開発 ○森 洋介, 植原 昂, 吉瀬謙二 (東工大)

学生セッション [3M会場] (3月10日(水) 9:30~12:00)

プロセッサアーキテクチャ 座長 佐々木 広 (東大)

- 1 プロセッサ性能に対する主記憶バンド幅の影響の評価 ○江口修平, 塩谷亮太, 五島正裕, 坂井修一 (東大)
- 2 面積効率を指向するプロセッサの設計と実装 ○堀尾一生, 塩谷亮太, 五島正裕, 坂井修一 (東大)
- 3 コア融合アーキテクチャのためのプログラムの振舞いに着目した融合コア数の制御 ○坂口嘉一, 若杉祐太, 三好健文, 吉瀬謙二 (東工大)
- 4 メニーコアプロセッサにおける効率的なキャッシュシステム ○入谷 優 (東工大), 三好健文 (東工大/JST), 吉瀬謙二 (東工大)
- 5 最適なロールバック・ポイントを選択するネステッド・トランザクショナル・メモリの評価 ○伊藤悠二, 塩谷亮太, 五島正裕, 坂井修一 (東大)
- 6 CMPの逐次性能向上を目指すCoreSymphonyアーキテクチャ ○若杉祐太, 坂口嘉一, 三好健文, 吉瀬謙二 (東工大)
- 7 Reevaluating the Renamed Trace Cache Architecture ○王 彦鈞, 堀尾一生, 塩谷亮太, 五島正裕, 坂井修一 (東大)

学生セッション [4M会場] (3月10日(水) 15:30~17:30)

チップマルチプロセッサ 座長 西 宏章 (慶大)

- 1 グラフ理論に基づくスレッド分割におけるルーブ性能向上法 ○阿部武志, 大津金光, 横田隆史, 馬場敬信 (宇都宮大)
- 2 洗練されたメニーコアアーキテクチャの開発 ○植原 昂, 佐藤真平 (東工大), 三好健文 (東工大/JST), 吉瀬謙二 (東工大)
- 3 メニーコアプロセッサの性能向上を目指すタスク配置手法 ○佐野伸太郎, 佐野正浩, 佐藤真平 (東工大), 三好健文 (東工大/JST), 吉瀬謙二 (東工大)
- 4 バイナリレベル変数解析に基づいた自動並列化システムの実装 ○白戸卓志, 大津金光, 横田隆史, 馬場敬信 (宇都宮大)
- 5 パススペーススレッド分割手法に基づく自動並列化処理の実装 ○伊里拓也, 大津金光, 横田隆史, 馬場敬信 (宇都宮大)
- 6 メニーコアプロセッサにおける柔軟なタスク配置を実現する論理コア変換機構 ○佐野正浩, 佐野伸太郎, 三好健文, 吉瀬謙二 (東工大)
- 7 メニーコアプロセッサ向けプロトタイピングシステムの高速度化 ○渡邊伸平, 高前田伸也, 姜 軒 (東工大), 三好健文 (東工大/JST), 吉瀬謙二 (東工大)

学生セッション [5M会場] (3月11日(木) 9:30~12:00)

マルチスレッドと分岐 座長 木村 啓二 (早大)

- 2パス限定投機方式における動的最適化適用可能性の検討
○津田 翼, 大津金光, 横田隆史, 馬場敬信 (宇都宮大)
- 2パス限定投機システムのハードウェア設計
- メモリアクセス機構 -
○北 直樹, 横田隆史, 大津金光, 馬場敬信 (宇都宮大)
- 2パス限定投機システムのハードウェア設計
- マルチスレッド制御機構 -
○金井新一, 十鳥弘泰, 横田隆史, 大津金光, 馬場敬信 (宇都宮大)
- 繰り返し構造に着目した分岐プレディクションの改良
○倉田成己 (東大)
- 2パス限定投機システム PALS の評価環境 - システムシミュレータ -
○十鳥弘泰, 福田明宏, 大津金光, 横田隆史, 馬場敬信 (宇都宮大)
- 2パス限定投機システム PALS の評価環境 - 言語処理系 -
○福田明宏, 十鳥弘泰, 大津金光, 横田隆史, 馬場敬信 (宇都宮大)
- H.264 デコーダにおける2パス限定投機方式の適用検討
○川上憂騎, 大津金光, 横田隆史, 馬場敬信 (宇都宮大)

学生セッション [6M会場] (3月11日(木) 14:30~17:00)

計算機システム 座長 吉瀬 謙二 (東工大)

- 耐久故障 FPGA アーキテクチャの予備評価
○岡田崇志, 喜多貴信, 五島正裕, 坂井修一 (東大)
- 過渡故障耐性を持つ Out-of-Order スーパースカラ・プロセッサの評価
○有馬 慧, 岡田崇志, 堀尾一生, 喜多貴信, 塩谷亮太, 五島正裕, 坂井修一 (東大)
- (講演取消)
- ダブルゲート/CNT トランジスタを用いたシステム LSI の設計法
○林 隆程, 渡辺重佳 (湘南工科大)
- 一層型 FinFET、積層型 FinFET を用いたシステム LSI のパターン面積の比較
○福田佑貴, 渡辺重佳 (湘南工科大)
- 一層型 SGT、積層型 SGT を用いたシステム LSI のパターン面積の比較検討
○小玉貴大, 渡辺重佳 (湘南工科大)
- プロセッサ設計におけるセキュリティの向上の研究
○川口 聡, 山田園裕 (東海大)

学生セッション [2T会場] (3月9日(火) 15:30~17:30)

論理・物理設計 座長 田宮 豊 (富士通研)

- 東データ方式のデータバス回路に適した非同期制御回路の一設計手法
○市川智浩, 桑子雅史, 新家稔央, 横山孝典 (東京都市大)
- 排他的な処理を含む STG に対する CSC Conflict の因果関係追加による解消手法について
○赤池大介, 桑子雅史, 新家稔央, 横山孝典 (東京都市大)
- タイミング制約を緩和するクロッキング方式の提案
○喜多貴信, 塩谷亮太, 五島正裕, 坂井修一 (東大)
- アナログ IC 設計におけるダミーセルを考慮した配置手法の研究
○浅野晋平, 藤吉邦洋 (農工大)
- 積層型 NAND FeRAM の検討
○菅野孝一, 渡辺重佳 (湘南工科大)
- 積層型 NOR MRAM の検討
○玉井翔人, 渡辺重佳 (湘南工科大)
- 半導体ダイボンディングフィルム材料設計支援システムの効果
○齋藤義人, 松尾徳朗 (山形大), 稲田禎一 (日立化成), 村形晃規, 橋浦悠二 (山形大)

(ソフトウェア科学・工学)

一般セッション [5A会場] (3月11日(木) 9:30~12:00)

数理モデルとデータマイニング 座長 鈴木 智也 (茨城大)

- ユビキタスシステムにおけるリコメンデーション技術の応用研究
○石野正彦 (福井工大), 五月女健治 (法大), 工藤 司 (三菱電機インフォメーションシステムズ)
- マイクロブログ・ストリームからの社会的知識の獲得
○藤山健一郎, 是津耕司, 木俣 豊 (NICT)
- アクセス履歴を用いたブログ空間におけるユーザの急増する訪問行動の予測
○山本和紀, 熊野雅仁, 木村昌弘 (龍谷大)

- 直線データに対する正規圧縮距離へのガウス型白色ノイズの影響
○石原正道 (郡山女子大)
- News Sensitive Multi-solution Stock Price Prediction
○范 薇, 渡邊豊英 (名大), 朝倉宏一 (大同大)
- 情報伝播モデルに基づく複雑ネットワーク可視化システム
○山崎正晃, 熊野雅仁, 木村昌弘 (龍谷大), 齊藤和巳 (静岡県大), 元田 浩 (阪大)
- データマイニング手法を用いた研究動向分析手法の一考察
○華山宣胤, 山本 樹, 山本 航 (尚美学園大)

一般セッション [6A会場] (3月11日(木) 14:30~17:00)

アルゴリズム 座長 天野 一幸 (群馬大)

- Balanced C_{2t} -t-Foil Decomposition Algorithm of Complete Graphs
○潮 和彦 (近畿大)
- 局所エネルギー最小可視化によるネットワークの大域的可視化
○茂尾亮太, 古川正志, 山本雅人, 鈴木育夫 (北大)
- 振動子ネットワークからみた同期現象によるネットワーク構造の変化
○岩根慎司, 古川正志, 山本雅人, 鈴木育夫 (北大)
- コミュニティ構造を実現するネットワーク成長モデルの提案
○三好栄次, 古川正志, 山本雅人, 鈴木育夫 (北大)
- イーサネット制御を用いた知的照明システム
○小野景子, 三木光範, 吉見真聡 (同志社大)
- 分散非同期式知的照明システムの提案
○吉見真聡, 三木光範, 小野景子 (同志社大)
- 順序木の簡潔表現を用いたトライ辞書の評価
○矢田 晋, 森田和宏, 泓田正雄, 青江順一 (徳島大)

一般セッション [1B会場] (3月9日(火) 9:30~12:00)

テスト・検証 座長 吉浦 紀晃 (埼玉大)

- 繰り返し型ソフトウェア開発における試験効率化に関する一考察
○櫛田隆行, 安井照昌, 甲斐啓文 (三菱)
- DSL を利用したソフトウェア試験の効率化手法
○甲斐啓文, 安井照昌, 櫛田隆行 (三菱)
- SMT Solver を利用した Web アプリケーション用テストデータの生成
○藤原翔一郎, 宗像一樹, 片山朝子, 前田芳晴, 大木憲二, 上原忠弘, 山本里枝子 (富士通研)
- 状態遷移表モデル検査ツール Garakabu2 の設計と開発
○白石知弘, 孔 維強, 水島祐紀, 片平典幸 (福岡県産業・科学技術振興財団), 松本充広, 渡辺政彦 (キャッツ), 片山徹郎 (宮崎大), 福田 晃 (九大)
- 協調型言語における試験等価性と失敗等価性の関係とモデル検査への適用
○大塚 寛 (愛媛大)
- 高品質な試験を提供する試験ツールの提案
○大塚 亮, 後沢 忍, 川崎将人 (三菱)

一般セッション [2B会場] (3月9日(火) 15:30~17:30)

システム評価 座長 木下 俊之 (東京工科大)

- 待ち行列ネットワークモデルを使用した Web3 階層システムの性能予測
○原田雅史, 河村美嗣 (三菱)
- 性能特性情報を利用した仮想サーバの負荷見積り方法の提案
○柳沢 満, 竹村俊徳 (NEC)
- (講演取消)
- 依存関係を利用した業務における障害影響分析方式
○小池賢一 (三菱)

一般セッション [3B会場] (3月10日(水) 9:30~12:00)

数理モデルとシミュレーション 座長 富永 和人 (東京工科大)

- 格子確率モデルを用いた体サイズによる個体群動態への影響の解析:
格子サイズを変化させたモデル
○中桐齊之 (兵庫県大)
- 時系列データの未来値予測へのニューラルネットワークの適用方法の検討
○小林哲二 (日本工大)
- 部分解集合を用いたアントコロニー最適化法による時間枠付き配送計画問題の解法
○落合純一, 狩野 均 (筑波大)
- 等時間間隔サンプリングによって見失う非線形システムの特徴
○鈴木智也 (茨城大)
- AHP における比較支援法
○但野友美, 川村秀憲, 鈴木恵二 (北大), 大内 東 (北海商科大)

- 6 粒子化モデルによる TSP の解法
○井出恵介, 長谷川智史, 穴田 一 (東京都市大)
- 7 壁面における音響反射シミュレーション
○生野 裕, 豊谷 純 (日大)

一般セッション [4B 会場] (3月10日(水) 15:30 ~ 17:30)

ソフトウェアプロダクトライン・アーキテクチャ

座長 野田 夏子 (NEC)

- 1 電子書籍 XMDF のマルチプラットフォーム技術
○広沢昌司, 中村雅也, 菅野充臣,
中井宏樹, 沢田裕司, 田中秀明 (シャープ)
- 2 プロダクトライン開発におけるコスト評価モデル
○永嶋 浩 (アイティエス)
- 3 組込みシステムにおける複数の DSL を用いたプロダクトライン開発
○徳本 晋 (富士通研), 江口 亨,
辻村浩史, 村上 亮, 伊澤松太郎, 松本博郎,
山村健太郎 (富士通コンピュータテクノロジーズ)
- 4 モデルに基づく損害保険商品系列開発フレームワークの提案
○鹿糠秀行, 伊藤信治, 熊谷貴禎, 寺濱幸徳, 徳永 稔,
山田仁志夫, 中山一豊, 松田光広, 小野俊之 (日立),
鈴木幸市 (エス・エヌ・シー), 麻澤高志 (CP リンクス)
- 5 コンポーネント粒度の決定支援方法
○正島博政, 寺濱幸徳, 鹿糠秀行, 鈴木 滋 (日立)
- 6 組み込みソフトウェア UI カスタマイズ機構の試作
○島田将行, 種村嘉高, 広沢昌司, 音川英之 (シャープ)

一般セッション [5B 会場] (3月11日(木) 9:30 ~ 12:00)

プロジェクトの定量的管理

座長 阿萬 裕久 (愛媛大)

- 1 相関ルールマイニングを利用したソフトウェアプロジェクト混乱要因の
関連性に関する調査 ○出張純也, 尾形憲一, 菊野 亨 (阪大),
水野 修 (京都工織大), 菊地奈穂美, 平山雅之 (情報処理推進機構)
- 2 品質定量指標のための異なるプログラミング言語間での規模の比較の試み
○菊地奈穂美, 平山雅之 (情報処理推進機構),
出張純也, 菊野 亨 (阪大), 水野 修 (京都工織大)
- 3 IT ケイパビリティ診断手法の実践と評価 ○吉崎浩二 (上武大)
- 4 SI 生産革新 (設計と製造の分離) に向けた設計情報の定量化
○中村一仁, 廣瀬守克 (富士通)
- 5 バグ間相互作用を考慮したソフトウェア信頼度成長曲線
○堀田裕史 (富山短大)

一般セッション [6B 会場] (3月11日(木) 14:30 ~ 17:00)

開発支援技術

座長 紫合 治 (電機大)

- 1 コルモゴロフ複雑性に基づく顧客要求抽出
○藤原由希子, 五藤智久 (NEC)
- 2 レーンフロー図における派生フローの表現手法
○柏木裕恵, 原内 聡, 北村操代, 舟生豊朗 (三菱)
- 3 UML を入力とするソースコード自動生成ツールの開発
○河村美嗣 (三菱),
浅見可津志 (三菱電機インフォメーションシステムズ)
- 4 ソフトウェア開発プロセスにおける効率的な構造ベーステスト技法の
一考察 ○植月啓次 (筑波大)
- 5 サーバ仮想化技術を利用したソフトウェア開発プラットフォームの構想
○古瀬正浩 (インテックシステム研), 飯塚崇人 (インテック)
- 6 Struts アプリケーションのパブリッククラウド (Google App Engine)
への移行に対する考察 ○倉持和彦, 原田雅史 (三菱)

学生セッション [1N 会場] (3月9日(火) 9:30 ~ 12:00)

システム評価

座長 櫻庭 健年 (日立)

- 1 タグを用いたリスクベースドテストの効率化 ○西森雅峰,
芳賀博英, 金田重朗, 井田健太, 佐々木亮太 (同志社大)
- 2 パススペーススレッド分割による並列実行性能の評価
○山形雄紀, 伊里拓也, 大津金光, 横田隆史, 馬場敬信 (宇都宮大)
- 3 WAF のパフォーマンス計測について
○斎藤宏明, 笠原卓也, 島崎聡史, 中澤昌史, 齋藤孝道 (明大)
- 4 感情の表出ができる学内案内ロボットの構築について
○井澤 健, 任 福継, 鈴木基之 (徳島大)
- 5 ネットワークロボットの実装と信頼性評価モデルの提案
○服部将太, 奥田隆史, 井手口哲夫, 田 学軍 (愛知県大)

- 6 非同期サービス指向アーキテクチャのサービスプログレス可視化方法の
提案と評価

○長澤澤治, 上野佳宏, 服部正敏, 中道 上, 青山幹雄 (南山大)

- 7 分散システムの状態変化に対する非集中化モニタリング手法の提案
○長岡拓美, 佐藤晴彦, 栗原正仁 (北大)
- 8 周期的な動作を伴う機械の異常診断システムに関する一検討
○木下尋斗, 上野育子, 伊藤憲三 (岩手県大)
- 9 マルチプロセッサシステムにおける確率的故障診断法
○阿部洋志, 小股正博, 小林 学, 坂下善彦 (湘南工大)

学生セッション [2N 会場] (3月9日(火) 15:30 ~ 17:30)

グラフやネットワークに関するアルゴリズム 座長 黒木 裕介 (東芝)

- 1 スペクトラルクラスタリングにおけるクラスタ数決定手法の提案
○矢部大輔, 木村昌臣 (芝浦工大)
- 2 Walker のアルゴリズムを用いた 3 次元グラフ配置
○海老沢一樹, 三浦孝夫 (法大)
- 3 Drawing Method Combined With Matrix Representation and Anchored
Map for Semi-Bipartite Graph
○周 齊, 三末和男, 田中二郎 (筑波大)
- 4 複雑ネットワーク構造に適用するファジィクラスタリング手法の検討
○上杉一矢, 木村昌臣 (芝浦工大)
- 5 動的変化を伴う複雑ネットワークに適したコミュニティ発見手法の提案
○小林俊介, 木村昌臣 (芝浦工大)
- 6 (講演取消)
- 7 高い耐故障性と低いネットワーク負荷を実現するサーバ配置に関する
研究 ○中村亮太, 橋本明人, 巳波弘佳 (関西学院大)
- 8 ネットワーク負荷分散制御のためのリンクメトリック最適化
○野口 烈, 藤村武史, 巳波弘佳 (関西学院大)

学生セッション [3N 会場] (3月10日(水) 9:30 ~ 12:00)

数理モデルとデータマイニング

座長 上田 修功 (NTT)

- 1 混合メンバーシップモデルを用いた協調フィルタリングの一検討
○横峯 樹, 江口浩二 (神戸大)
- 2 時系列トピックモデルを用いた言語横断トレンド分析
○松浦愛美, 江口浩二 (神戸大)
- 3 個人の状況を考慮した健康改善のためのレシピ推薦
○三野陽子, 小林一郎 (お茶の水女子大)
- 4 チャットルームにおける発言履歴に着目したトピック抽出システムの構築
○川端 聖, 佐藤 喬 (電通大), 村山隆彦 (NTT), 多田好克 (電通大)
- 5 黒毛和種牛の形質と影響タンパク質に対する多変量解析の検討
○水野陽介, 河本敬子, 池上春香, 森本康一, 松本和也 (近畿大)
- 6 因果指標のベイズ理論に基づく統一的な定式化
○渋谷 崇, 原田達也, 國吉康夫 (東大)
- 7 データマイニングを用いた競馬研究
○金枝隆之介, 華山宣胤 (尚美学園大)
- 8 論文マッピングによる研究知識の可視化手法の提案
○高沢健太, 矢吹太郎, 佐久田博司 (青学大)

学生セッション [4N 会場] (3月10日(水) 15:30 ~ 17:30)

数理モデルとシミュレーション 座長 高階 知巳 (ニコンシステム)

- 1 相手の「協力度」を考慮する戦略と、ネットワーク上での協力の進化
○岩田 学, 秋山英三 (筑波大)
- 2 格子状道路網を用いたシミュレーションによる都市型交通流の解析
○須藤賢一, 藤木なほみ (仙台高専)
- 3 時間遅れパラメータ付き SIS モデルの期待影響度分析
○小出明弘, 齊藤和巳 (静岡県大), 元田 浩 (阪大),
木村昌弘 (龍谷大), 大原剛三 (青学大)
- 4 環境変動と体サイズが生物の個体群動態に与える影響
○田中裕美, 中桐斉之 (兵庫県大)
- 5 2 種生物共生系のモンテカルロ・シミュレーション
○比嘉慎一郎, 岩田繁英, 向坂幸雄, 吉村 仁, 泰中啓一 (静岡大)
- 6 An Immune Operation for Lethal Chromosome of Genetic Algorithm
○張 亜龍, 小倉久和, 黒岩丈介 (福井大),
Xuan Ma (X'ian University of Technology), 小高知宏 (福井大)

学生セッション [5N 会場] (3月11日(木) 9:30 ~ 12:00)

アルゴリズム 座長 河野 泰人 (NTT)

- 1 1方向全称状態のみの交代性コオペレーティング有限オートマトンシステムの性質の考察 ○藤本竜也, 義永常宏 (徳山高専), 坂本真人 (宮崎大), Jianliang Xu (Ocean University of China)
- 2 文字列に含まれる繰り返し構造の頻度について ○草野一彦, 篠原 歩 (東北大)
- 3 盤上ゲームにおける最適解の探索アルゴリズム ○兒玉博司, 黒田久泰 (愛媛大)
- 4 超高次元データの1近傍検索への試み ○ムカルラマー ユスフ, 渡辺知恵美, 瀬々 潤 (お茶の水女子大)
- 5 偏りのあるデータに適用可能な決定木学習アルゴリズムの検討 ○小暮陽太, 木村昌臣 (芝浦工大)
- 6 拡張型アプリアルゴリズムに基づくマトリクスクラスタリング手法の提案 ○小股正博, 小林 学, 坂下善彦 (湘南工科大)
- 7 マルチコアプロセス向けに並列化した Deformed Marching Cubes 法とその評価 ○江坂 理, 藤本敬介, 中山泰一 (電通大)
- 8 適応的四面体ボリュームメッシュに基づくオンラインリメッシュを伴う変形計算の GPU による高速化の検討 ○佐々木康行, 田川和義, 田中弘美 (立命館大)

学生セッション [6N 会場] (3月11日(木) 14:30 ~ 17:00)

群知能と複雑ネットワーク 座長 坂野 鋭 (NTT)

- 1 アントコロニー最適化法による生産スケジューリングの最適化 ○陳 冠宇, 平松綾子, 能勢和夫 (阪産大)
- 2 グリッド環境下における処理順制約を考慮したタスクスケジューリングの最適化 ○森田 亘, 平松綾子, 能勢和夫 (阪産大)
- 3 Artificial Bee Colony アルゴリズムの高度化 ○牛脇隆太, 宇谷明秀, 山本尚生 (東京都市大)
- 4 複数の許容解を探索する Particle Swarm Optimization ○青木卓也, 宇谷明秀, 山本尚生 (東京都市大)
- 5 リエントラントスケジューリング問題に対するモンテカルロ木探索法の選択戦略の評価 ○糸永恭平, 松本慎平 (大分高専), 廣末典朗 (九工大)
- 6 (講演取消)
- 7 拡散データからのモデル推定による期待影響度の予測 ○吉川友也, 齊藤和巳 (静岡県大), 元田 浩 (阪大), 木村昌弘 (龍谷大), 大原剛三 (青学大)
- 8 次数不変のネットワーク張り替えでの中心性の頑健性評価 ○伏見卓恭, 入月卓也, 永田 大, 齊藤和巳, 池田哲夫, 武藤伸明 (静岡県大)
- 9 ネットワーク構造の違いによる k-メディア探索方法の特性評価 ○永田 大, 入月卓也, 伏見卓恭, 齊藤和巳, 池田哲夫, 武藤伸明 (静岡県大)

学生セッション [1P 会場] (3月9日(火) 9:30 ~ 12:00)

ソフトウェアプロセス・開発管理 座長 菊地泰穂美 (沖電気)

- 1 実行可能なサービス指向ソフトウェアプロセスの実行可能モデルの提案と評価 ○浅岡奈津貴, 中道 上, 青山幹雄 (南山大)
- 2 組込みシステムのシステム要求からの段階的なモデル駆動開発手法 ○伊藤邦彦, 松浦佐江子 (芝浦工大)
- 3 自動車学校予約システムにおける要求・要件定義工程の進め方 ○張 玉書, 佐々木啓祐, 市川正隆, MYITZU MYA, 菊池純男, 駒谷昇一, 田中二郎 (筑波大)
- 4 自動車学校向け技能教習予約システムの開発でのプロジェクト ○市川正隆, 佐々木啓祐, 張 玉書, MYA MYITZU, 駒谷昇一, 菊池純男, 田中二郎 (筑波大)
- 5 FP 法に基づく学生 PBL 型システム開発の見積り指標に関する考察 ○川井康寛, 菊池純男, 駒谷昇一, 田中二郎 (筑波大)
- 6 アーキテクチャパターンを利用した WBS 抽出支援手法の提案と検証 ○齋 丹萍 (日本工大)
- 7 UI 駆動を用いた Web アプリケーション向けプロトタイプ支援システム ○瀬戸 航, 深海 悟 (阪工大)
- 8 RoR を用いた図書館予約システムの開発 - モデル中心設計とデータベース中心設計 - ○都丸智弘, 片瀬由貴, 大谷 真 (湘南工科大)

- 9 振舞・クラス構成・目的を基準とした設計パターンの体系化の提案 ○奥村和恵, 金澤典子, 塚本享治 (東京工科大)

学生セッション [2P 会場] (3月9日(火) 15:30 ~ 17:30)

ソフトウェアの検査・検証 座長 中島 震 (国立情報学研)

- 1 動的ウェブアプリケーションの操作に対する画面間遷移の網羅的検証 ○谷田英生 (東大), Mukul Prasad, Sreeranga Rajan (Fujitsu Laboratories of America), 藤田昌宏 (東大)
- 2 形式的手法と検査ツールによるモデル検査事例と考察 ○佐藤祐太, 本間 圭 (宮城大), 高橋 薫 (仙台高専), 和泉 論 (東北大), 阿部雄貴 (仙台高専), 富樫 敦 (宮城大)
- 3 モデル検査に基づくプログラム欠陥抽出作業支援ツールの開発と実践 ○青木善貴, 松浦佐江子 (芝浦工大)
- 4 プログラムスライシング技術を用いた Java ソフトウェアのデバッグツールの試作 ○本橋強志, 岩澤京子 (拓大)
- 5 記号の実行による統合テスト用テストデータ自動生成 ○吉原 慧, 高田眞吾 (慶大)
- 6 原因結果グラフと HAYST 法を利用したハイブリッド型ソフトウェアテスト手法の提案と検証 ○今江孝介, 西山詔太 (日本工大)
- 7 ソフトウェアインスペクションにおける観点共有によるレビュー品質向上法の提案 ○倉俣恵祐, 山田敬三, 佐々木淳 (岩手県大)
- 8 ソフトウェア開発における過去の開発履歴情報を用いた保守作業軽減手法の提案 ○山田洋明, 榎山淳雄 (東京学芸大)

学生セッション [3P 会場] (3月10日(水) 9:30 ~ 12:00)

ソフトウェアアーキテクチャ・設計 座長 鷲崎 弘宣 (早大)

- 1 メイドサービスに注目したハードウェア SOA システム ○北神雄太 (日本工大)
 - 2 サービス指向車載ソフトウェアの協調制御におけるタイミング設計方法の提案と評価 ○永東丈寛, 中道 上, 青山幹雄 (南山大), 佐藤洋介, 岩井明史 (デンソー)
 - 3 自動車ネットワークサービスのサービス連携に関する研究 ○水谷拓人, 中道 上, 青山幹雄 (南山大), 佐藤洋介, 岩井明史 (デンソー)
 - 4 車載ソフトウェアのためのイベント駆動サービス指向アーキテクチャの提案と評価 ○宮脇 聡, 中道 上, 青山幹雄 (南山大), 佐藤洋介, 岩井明史 (デンソー)
 - 5 OSCAR モデルに基づく ESB の機能構成法に関する一考察 - 学生サービスシステムへの適用 - ○泉 貴志, 武内 惇, 金子正人, 泉 隆 (日大), 蘭田孝造 (マイクロテクノ)
 - 6 OSCAR モデルに基づく ESB の機能構成法に関する一考察 - サービス連携をコンポーネントに分割する方式 - ○泉奈津子, 金子正人, 武内 惇, 泉 隆 (日大), 蘭田孝造 (マイクロテクノ)
 - 7 (講演取消)
 - 8 Soot を用いた解析コードの挿入による電子商取引システムのユーザーログ生成手法 ○野口建仁, 大和田勇人, 難波和明 (東理大)
 - 9 モバイルアドホックネットワークのための低トラフィックコアムによるオブジェクト配布方式の評価 ○道端伸之介, 守屋 宣, 樋口昌宏 (近畿大)
- 学生セッション [4P 会場] (3月10日(水) 15:30 ~ 17:30)
- プログラミング言語 座長 高田 眞吾 (慶大)
- 1 ページ遷移を考慮した Web アプリケーション記述言語の設計と実装 ○三島 航, 小宮常康, 佐藤 喬, 多田好克 (電通大)
 - 2 (講演取消)
 - 3 リフレクションとオブジェクト資源の構造化を組み合わせた Java の動的なモデル構成 ○秦野 亮, 西山裕之 (東理大)
 - 4 プログラミング言語 Ruby における文字コード変換の最適化 ○水野達也, 松本章代, Martin J. Duerst (青学大)
 - 5 Packrat Parsing を用いた Ruby の構文解析 ○山口大貴, 前田敦司, 山口喜教 (筑波大)
 - 6 (講演取消)
 - 7 キャッシュ量を動的に変化させるメモ化手法 ○長野俊輔, 前田敦司, 山口喜教 (筑波大)

- 8 生物シミュレーション構築のための確率的構文を導入した論理型言語の提案
○平田裕和, 西山裕之, 大和田勇人 (東理大)

学生セッション [5P 会場] (3月11日 (木) 9:30 ~ 12:00)

プログラミング環境・教育 座長 吉川 隆英 (富士通研)

- 1 リモートペアプログラミング環境におけるコミュニケーション問題への一対処法
○遠藤修一郎, 太田 剛 (静岡大)
- 2 教育支援を目標とした遠隔ペアプログラミング環境の構築
○中村一星, 松本章代, Martin J. Duerst (青学大)
- 3 ペアプログラミングがプログラミング時の意志決定局面に与える影響
○木村慎太郎, 國藤 進, 羽山徹彩 (北陸先端大)
- 4 キーワードプログラミングの改良と実装
○坂本悠輔, 佐藤晴彦, 小山 聡, 栗原正仁 (北大)
- 5 流れの可視化と自動修正提案によるプログラミング支援
○市川雄介 (明大)

- 6 学生によるシステム開発プロジェクトにおけるユースケースポイント法を用いた見積もりと実績の評価
○内藤正樹, 菊池純男, 駒谷昇一, 田中二郎 (筑波大)

- 7 プログラミングスキルレベル評価手法の研究
○朽木 拓, 山田敬三, 佐々木淳 (岩手県大)

- 8 PBL 型ライトレーサシステム開発における開発手法とグループ運営
○陳兆カイ, 馬 克, 何 力, 三末和男, 田中二郎 (筑波大)

- 9 アジャイル開発手法の学生による実践実験
○安澤翔太, 松尾和洋 (金沢工大)

学生セッション [6P 会場] (3月11日 (木) 14:30 ~ 17:00)

ソフトウェア理解支援 座長 福田 浩章 (慶大)

- 1 アクティビティ図のデータフローに着目した振る舞い仕様の定義と検証
○保科祐実, 小形真平, 松浦佐江子 (芝浦工大)
- 2 プロブレムフレームにおける状態遷移図設計支援システム
○飯村貴幸, 今井康平, 大矢和寛, 佐藤秀悟, 紫合 治 (電機大)
- 3 動作シミュレーションを用いて生成した拡張状態列による仕様理解支援
○江上侑希, 高木智彦, 古川善吾 (香川大)
- 4 マインドマップから UML 図への生成支援システム
○青木祐香里, 塚本享治, 金澤典子 (東京工科大)
- 5 UML で記述されたソフトウェアの RDF グラフへの変換
○長谷川明史, 塚本享治 (東京工科大)
- 6 相互作用オカレンスに着目したシーケンス図の三次元化に関する研究
○前澤悠太, 高田真吾 (慶大)
- 7 オブジェクト生成の観測に基づくプログラム実行の要約の抽出
○中野佑紀, 渡邊 結, 石尾 隆, 井上克郎 (阪大)
- 8 (講演取消)
- 9 Java プログラムにおけるアスペクト指向を用いたソースコード理解支援
○松本修一, 松浦佐江子 (芝浦工大)

学生セッション [1Q 会場] (3月9日 (火) 9:30 ~ 12:00)

開発環境・開発支援 座長 松浦佐江子 (芝浦工大)

- 1 組み込み制御ソフトウェア開発のための Simulink モデルから UML モデルへの変換ツール
○神山達哉, 横山孝典, 兪 明連, 志田晃一郎 (東京都市大)
- 2 SysML によるソフトウェアとハードウェアの記述の検証
○庄司龍一, 本田大典, 鈴木彰仁, 谷脇武和, 井上雅裕 (芝浦工大)
- 3 組み込みシステム開発における SysML 適用について
○片瀬由貴, 山原 亨, 大谷 真 (湘南工科大)
- 4 制御フローグラフの編集によるプログラム並列化支援ツール
○高橋昌也, 太田 剛 (静岡大)
- 5 コーディングパターンとキーワードを用いて生成したコードスニペットの推薦
○関山太朗, 伊達浩典, 石尾 隆, 井上克郎 (阪大)
- 6 フィールドとメソッド間の依存関係に着目したリファクタリング適用箇所抽出方法
○若林智徳, 松浦佐江子 (芝浦工大)
- 7 マルチタッチシステムのための開発支援フレームワークの開発
○松村匡浩, 高見友幸 (大阪電通大)
- 8 マルチコア向け統合開発環境におけるデバッグ効率向上のための視覚化機能の開発
○鈴木邦彦 (東工大)
- 9 キャッシュヒット率向上のためのソースコード自動変換ツールの開発
○若山健次, 太田 剛 (静岡大)

デモセッション [デモ会場]

デー 03 (3月10日 (水))

メイドサービスに注目したハードウェア SOA システム

○北神雄太 (日本工大)

デー 07 (3月10日 (水))

データマイニングを用いた競馬研究

○金枝隆之介, 華山宣胤 (尚美学園大)

デー 25 (3月11日 (木))

CX-Checker: 柔軟なカスタマイズが可能な C 言語コーディングルール

チェッカー ○小林隆志, 大須賀俊憲, 上原伸介, 蛭牟田英治 (名大),

林 英志 (愛知県大), 間瀬順一 (アイシンコムクルーズ),

山本晋一郎 (愛知県大), 渥美紀寿 (南山大),

川口直弘 (サンテック), 鈴木延保 (アイシン精機), 阿草清滋 (名大)

(データベースとメディア)

一般セッション [1C 会場] (3月9日 (火) 9:30 ~ 12:00)

情報検索・情報推薦 座長 小山 聡 (北大)

- 1 高速な類似文字列検索アルゴリズム ○岡崎直観, 辻井潤一 (東大)
- 2 小規模 Web 収集システム向け日本語形態素解析の素朴な分散処理について
○幸谷智紀, 遠山 瞬 (静岡理工科大)
- 3 Tiny LSH 法による異なる特徴量の動画像検索性能の比較検討
○村林 昇, 吉田健一 (筑波大)

- 4 Improving Localization Processes with the Language Grid

○林 冬恵 (NICT), 村上嘉陽 (ナビックス),

石田 亨 (京大), 村上陽平, 田仲正弘 (NICT)

- 5 「マルチモードレコメンド基盤」のコンテキストウェア拡張方式

○桐越孝之, 村上千央, 白木 孝, 小倉章嗣, 菅野亨太,

西村健士, 河又恒久 (NEC), 小林 功, 石塚清司 (NTT ドコモ)

- 6 「マルチモードレコメンド基盤」におけるコンテキストウェア推薦方式の有効性評価
○村上千央, 白木 孝, 桐越孝之, 菅野亨太, 河又恒久, 西村健士 (NEC), 小林 功, 白井隆行 (NTT ドコモ)

一般セッション [2C 会場] (3月9日 (火) 15:30 ~ 17:30)

情報抽出 座長 中島 伸介 (京産大)

- 1 略地図信憑性のための地理的特徴によるデフォルト不整合分析手法
○北山大輔, 李 龍, 角谷和俊 (兵庫県大)
- 2 アスキーアート自動抽出法の提案
○中澤昌美, 松本一則, 柳原 正, 池田和史, 滝嶋康弘 (KDDI 研)
- 3 Web クローラ方式による入札情報検索システムのための情報フィルタリング
○小侯尚泰 (栗本鐵工所), 関根聡一 (栗本鐵工所)
- 4 文書ジャンルを横断した意見の検索と分析 ○関 洋平 (豊橋技科大)
- 5 サポートベクターマシンによる英語俳句の抽出
○檀 裕也 (松山大), 和田 武 (愛媛大), 墨岡 学 (松山大)
- 6 情報の重み付き属性値の比較に基づく情報の妥当性判断支援手法
○宮森 恒 (京産大)

一般セッション [3C 会場] (3月10日 (水) 9:30 ~ 12:00)

Web 検索支援 座長 土方 嘉徳 (阪大)

- 1 (講演取消)
- 2 動詞の提示による動的な検索支援システム ○関屋 翔, 堀憲太郎, 大石哲也, 越村三幸, 藤田 博, 長谷川隆三 (九大)
- 3 Web 文書への評価値を融合しての検索結果の順位決定
○高山 毅 (岩手県大)
- 4 断片化 Web 情報の構造化に基づくコンテンツ閲覧支援環境について
○大園志親, 伊藤太樹, 平田紀史, 柿元宏晃, 白松 俊, 新谷虎松 (名工大)
- 5 Web アプリケーションの汎用化のための中間表現の提案と実装
○早川智一 (ティージー情報ネットワーク/明大), 長谷川慎哉, 疋田輝雄 (明大)
- 6 クラスタ構造の経時変化を可視化するための Time-Arrayed SOM の提案
○石川雅弘 (つくば国際大)

一般セッション [4C 会場] (3月10日(水) 15:30～17:30)

ソーシャル Web 座長 大塚 真吾 (物質・材料研)

- 1 オンラインディスカッションの効率性定量化手法の提案
○武吉朋也, 帆足啓一郎, 松本一則, 滝嶋康弘 (KDDI 研)
- 2 インターネットコミュニティにおけるユーザの振る舞いに及ぼす社会的関係と行動類似性の影響 ○津田洋平, 熊野雅仁, 木村昌弘 (龍谷大)
- 3 行動事例に基づく育児支援コンテンツ制作への感情ラベル系列の利用
○加藤芳太郎, 石川翔吾, 桐山伸也, 竹林洋一 (静岡大)
- 4 ユーザプロフィール自動更新のための忘れる技術の提案
○栗原俊介, 伊藤浩二, 村山隆彦, 小林 透 (NTT)
- 5 電子メールを利用した英単語の自学自習支援法の提案
○松本慎平 (大分高専), 加島智子 (阪大), 伊延詩織 (大分高専)
- 6 OpenID を利用した属性認証手法の提案と応用事例の紹介
○城間政司, 長田智和, 谷口祐治, 名嘉村盛和 (琉球大)

一般セッション [5C 会場] (3月11日(木) 9:30～12:00)

データベース技術一般 座長 藤原 靖宏 (NTT)

- 1 UBI-tree : ユビキタスデータのためのインデキシング技術
○荒川 豊, 中村隆幸, 中村元紀, 松尾真人 (NTT)
- 2 携帯電話における個人化情報とその交換 - 標準化への可能性検討
○小町祐史, 溝端忠実 (阪工大)
- 3 異常時におけるビジネスプロセスの可用性向上
○毛利悠美子, 田中 覚, 小川康志, 五十嵐政志, 山足光義 (三菱)
- 4 大規模商品トレーサビリティの表現モデル
○土井裕介 (東芝/東大), 寺本圭一 (東芝)
- 5 データストリーム処理におけるコスト推定に基づく動的な履歴保存方式
○TRUC NGUYEN THIEN, 川島英之, 北川博之 (筑波大)

学生セッション [2Q 会場] (3月9日(火) 15:30～17:30)

可視化・Web 情報統合 座長 石川 大介 (国立情報学研)

- 1 Object-Oriented Graphical-Template Composition Framework for Information Visualization ○石 偉, 田中 譲 (北大)
- 2 アプリケーションの実装時組み込み型操作手順提示機構のユーザビリティ評価 ○矢田久美子, 白石善明 (名工大), 毛利公美 (岐阜大)
- 3 動画コンテンツ共有サイトの可視化手法の研究
○上江まり子 (筑波大), 橋本隆子 (千葉商科大), 北川博之 (筑波大)
- 4 PostgreSQL と IntelligentBox を用いた入退室データの可視化
○高杉 綾, 田中 譲 (北大)
- 5 Web 検索ログに基づく関連度可視化システムによる情報ニーズの抽出
○小澤泰輔 (芝浦工大), 杉崎正之, 望月崇由 (NTT レゾナント), 徳永幸生 (芝浦工大), 杉山 精 (東京工芸大)
- 6 情報資産のセキュリティレベルを多角的に解析するためのレイヤを選択的に複合できる統合可視化手法 ○斎藤雄一, 毛利公美 (岐阜大), 白石善明 (名工大), 福田洋治 (愛知教育大), 野口亮司 (豊通シスコム)
- 7 形態素を用いた内容比較によるニュースポータルサイトにおける同一トピック類似記事群の統合方式
○竹内 誠, 加藤孝祐, 加藤裕樹, 濱川 礼 (中京大)
- 8 アソシエーション抽出を用いた Web 情報の統合方式
○于 美麗, 天笠俊之, 北川博之 (筑波大)
- 9 検索意図を考慮したアクセスログ解析からの Web ページの推薦に関する研究
○塚田義典, 寺口敏生, 田中成典, 中村健二, 山本雄平 (関西大)

学生セッション [3Q 会場] (3月10日(水) 9:30～12:00)

情報抽出 座長 高久 雅生 (物質・材料研)

- 1 数学概念検索のための情報抽出手法に関する検討
○横井啓介 (東大), Minh NGHIEM (総研大), 相澤彰子 (国立情報学研/東大)
- 2 中心キーワードからの周辺キーワード抽出手法の検討
○溝淵正剛, 坪川 宏 (東京工科大)
- 3 多言語検索における言語横断キーワード抽出システムの構築
○浦江宏志, 手塚太郎, 木村文則, 前田 亮 (立命館大)
- 4 隣接文書の特徴を考慮した文書特徴付け手法の精度比較
○田村航弥, 波多野賢治, 宿久 洋 (同志社大)
- 5 言語に依存しないテキストアート抽出法に用いる機械学習法の比較
○林 和幸, 鈴木徹也 (芝浦工大)

6 国立国会図書館の件名標目表と蔵書目録を利用した語彙の構造化

○本間 維, 永森光晴, 杉本重雄 (筑波大)

- 7 Web 閲覧者の視点を考慮した付箋アノテーション間のリンク構造に基づく情報推薦モデルの提案 ○佐野博之, 伊藤大樹, 柿元宏晃, 平田紀史, 白松 俊, 大園忠親, 新谷虎松 (名工大)
- 8 視線検出装置を用いた研究者の論文の読み方の解析
○長谷川新 (東理大), 港 真人 (日立), 富坂亮太, 横井啓介, 亀田亮宙 (東大), Minh NGHIEM (総研大), 鈴木崇史, 相澤彰子 (国立情報学研)
- 9 名前同定のための SVM 特徴素の抽出と適用
○港 真人 (日立), 相澤彰子 (国立情報学研)

学生セッション [4Q 会場] (3月10日(水) 15:30～17:30)

ストリーム・空間検索 座長 渡辺 陽介 (東工大)

- 1 StreamSpinner の EC2 における評価
○João Orui, 川島英之, 北川博之 (筑波大)
- 2 分散ストリーム処理システムにおける効率的なデータ配信基盤に関する研究
○宮城亮太, 川島英之, 北川博之 (筑波大)
- 3 複数のウィンドウサイズに対応したリアルタイムバースト検出手法の提案
○蝦名亮平, 上原子正利, 小柳 滋 (立命館大)
- 4 ストリーム処理エンジンにおける複数書き込み最適化の提案
○阿部泰芽, 川島英之, 北川博之 (筑波大)
- 5 Complex Event Processing over Uncertain Data Streams
○Xin Li, Hideyuki Kawashima, Hiroyuki Kitagawa (筑波大)
- 6 センサネットに対する XML ビューの提案
○山口卓郎, 天笠俊之, 北川博之 (筑波大)
- 7 空間索引を用いた近傍点検索に対する近似アルゴリズムによる高速化
○青木隆明, 篠原 武 (九工大)
- 8 縮小型構造データ Sketch を用いた空間検索法に関する研究
～ GHP を用いた Sketch 作成関数のためのピボット選択法～
○岩崎瑠平, Arnoldo Jose Muller-Molina, 篠原 武 (九工大)

学生セッション [5Q 会場] (3月11日(木) 9:30～12:00)

情報アクセス技術 座長 宇陀 則彦 (筑波大)

- 1 キーワードの頻度推移と文献の被引用数を視覚化した文献検索ツール
○謝 英双, 三末和男, 田中二郎 (筑波大)
- 2 文献の関係情報視覚化による研究領域サーベイ支援ツール
○朴 春子, 三末和男, 田中二郎 (筑波大)
- 3 論文検索支援のためのグラフィカルナビゲーションシステム
○曾原寿允, 堀 幸雄, 今井慈郎 (香川大)
- 4 データ・書式の共有による書類作成支援システムの構築
○安田 愛, 藤澤公也 (東京工科大)
- 5 ユーザビリティを考慮したスタイルを自在に変更可能な WEB コンテンツ作成支援システムの試作
○高橋佑也, 伊藤孝行 (名工大)
- 6 WEB サイトの階層構造の可視化による情報収集支援システム
○吉村優一, 中山泰一 (電通大)
- 7 SVuGy を例にした XML 用入出力指定 DSL の開発
○地主龍一, 松本章代, Martin J. Duerst (青学大)
- 8 BML コンテンツ制作のための手書き画像からスタイルシートを自動生成するシステムの提案 ○森本豪一, 岡田義広, 高野 茂 (九大)
- 9 トピックマップデータベースにおける権限管理機能の実装
○小島孝知, 木村昌臣, 山崎恭史, 栗原優樹 (芝浦工大)

学生セッション [6Q 会場] (3月11日(木) 14:30～17:00)

文書作成支援 座長 建石 由佳 (工学院大)

- 1 段階的シナリオ制作支援のためのフェイズ機能拡張
○有澤芳則, 菅野太介, 伊藤彰教, 三上浩司, 近藤邦雄, 金子 満 (東京工科大)
- 2 統合化映像制作記述言語 IPML を用いた段階的シナリオ制作支援ソフトウェアの提案
○戀津 魁, 菅野太介, 藤村雄樹, 伊藤彰教, 三上浩司, 近藤邦雄, 金子 満 (東京工科大)
- 3 ビジュアル資料とリテラル資料を用いたキャラクターメイキング手法の提案
○土田隆裕 (東京工科大), 茂木龍太 (武蔵野大), 岡本直樹, 伊藤彰教, 三上浩司, 近藤邦雄, 金子 満 (東京工科大)
- 4 統合化映像制作記述言語 IPML を用いたプレビューライゼーションシステムの提案
○土田隆裕, 戀津 魁, 三上浩司, 伊藤彰教, 近藤邦雄, 金子 満 (東京工科大)

- 5 (講演取消)
- 6 オリジナルマンガ制作のための段階的なストーリー構成手法
○金 剛元, 三上浩司, 近藤邦雄, 金子 満 (東京工科大)
- 7 UML ツールを用いた絵コンテ制作支援方法の提案
○末松義崇, 塚本享治, 金澤典子 (東京工科大)
- 8 xfy における数式編集環境の改良
○片岡正彰, 甲斐 博 (愛媛大), 宮本敦史 (ジャストシステム)
- 9 近似文字列照合による校正支援 ○遠藤健一 (無所属)

学生セッション [1R 会場] (3月9日 (火) 9:30 ~ 12:00)

Web 検索支援 座長 波多野賢治 (同志社大)

- 1 検索シーンに基づくユーザの行動情報に着目した閲覧履歴の推薦
○藤沢和哉, 坪川 宏 (東京工科大)
- 2 可変スニペットとキーワード相関グラフを利用した検索エンジン補助
インタフェースの提案 ○上條朋彦, 小山 聡, 栗原正仁 (北大)
- 3 複数人の経験共有による情報検索手法の提案
○板野 愛 (お茶の水女子大)
- 4 モバイル検索ログを用いた機械学習による年代推定法の検討
○佐野勝浩, 徳永幸生 (芝浦工大), 杉山 精 (東京工芸大),
貝谷實榮, 木村義彦 (エフルート)
- 5 検索語の重要性を考慮した重み付け手法を用いたウェブ検索支援の提案
○連 燦紅, 劉 健全, 陳 漢雄, 古瀬一隆 (筑波大)
- 6 重回帰分析を用いた近接クエリの重み推定による Web 情報検索
○柴田鉄也, 江口浩二 (神戸大)
- 7 非公開データを用いた人物検索システムの開発
○山元 潤, 森嶋厚行 (筑波大)
- 8 検索行動の可視化によるメタ認知促進アプローチからの検索効率向上
○和田洋祐, 相場 亮 (芝浦工大)
- 9 検索連動広告における広告選択手法の提案
○龍田賢治, 上原子正利, 小柳 滋 (立命館大)

学生セッション [2R 会場] (3月9日 (火) 15:30 ~ 17:30)

文書管理 座長 垂水 浩幸 (香川大)

- 1 xfy における LMS クイズコンテンツ編集環境の開発
○嶋津央礼, 甲斐 博 (愛媛大), 宮本敦史 (ジャストシステム)
- 2 E コマース向けセール指向商品グループ管理の一方式
○坂井貴彦, 鶴田節夫 (電機大), 水野義之 (京都女子大),
井戸雄太 (電機大), 鈴木直子 (京都女子大)
- 3 汎用的情報端末を用いた Web 技術に基づく販売時点管理手法の提案
○横尾和磨, 松本慎平 (大分高専),
加島智子, 石井博昭 (阪大), 中村憲明 (ケイ設計工房)
- 4 Wordpress を用いたコンバージョン率向上手法の提案
○二橋宣友, 松本慎平 (大分高専),
加島智子 (阪大), 末並 晃 (東大), 中村憲明 (ケイ設計工房)
- 5 紙の物理的操作を反映する電子文書管理
○岡部沙耶花, 鍵福雅世, 井上亮文, 星 徹 (東京工科大)
- 6 WEB を利用した印刷物校正システム ○栗田新太郎 (三重大)
- 7 2 単語間の共起情報を利用した有害文章判別システム
○藤井雄太郎, 安藤哲志, 伊藤孝行 (名工大)
- 8 有害文書判別のための多単語間共起情報辞書の構築とその応用
○安藤哲志, 藤井雄太郎, 伊藤孝行 (名工大)

学生セッション [3R 会場] (3月10日 (水) 9:30 ~ 12:00)

Web 応用 座長 安藤 一秋 (香川大)

- 1 ニュースサイトにおける話題およびセンチメント差異提示システムの検討
○松本好史, 張 建偉, 河合由起子, 中島伸介 (京産大)
- 2 Wikipedia におけるミッシングリンクの自動発見手法
○中川隆人 (筑波大)
- 3 リンク構造解析による Twitter ユーザのランキング手法
○山口祐人, 高橋 翼, 天笠俊之, 北川博之 (筑波大)
- 4 サーチエンジンを用いたフォーカスドクロウリングに関する研究
○大村啓明, 古瀬一隆, 陳 漢雄 (筑波大)
- 5 インターネットオークションにおけるコメント文解析に基づく新しい
評価指標とその応用 ○植田嗣也, 小林真雄, 伊藤孝行 (名工大)
- 6 インターネットオークションにおける関係性を用いた参加者評価指標の
提案 ○小林真雄, 伊藤孝行 (名工大)

- 7 ブラウザでの表示位置に着目した Web コンテンツの書換えによる
応用処理支援 ○袖山広輝, 森嶋厚行 (筑波大)
- 8 多次元的な Web 空間マイニングを行うデータベースシステムの実現:
一般化された制約条件への対応
○齋藤太陽, 大森 匡, 星 守 (電通大)
- 9 階層的 Web ページ分割を用いたサブコンテンツ除去手法について
○伊藤太樹, 柿元宏晃, 佐野博之, 平田紀史,
白松 俊, 大園忠親, 新谷虎松 (名工大)

学生セッション [4R 会場] (3月10日 (水) 15:30 ~ 17:30)

マルチメディアデータ検索 座長 熊本 忠彦 (千葉工大)

- 1 (講演取消)
- 2 操作画面を対象とする検索システムの構築
○熊谷摩美子, 梅村恭司, 岡部正幸, 阿部洋丈 (豊橋技科大)
- 3 数式画像をクエリとする数式検索システムの提案
○MYAGMARSUREN SHIRMBENBAATAR (東京工科大)
- 4 映像メタデータ自動付与実現のための映像ショット・静止画像マッチング
手法の一検討 ○関野真洋, 青木輝勝, 沼澤潤二 (東北大)
- 5 ビデオ内音響情報の時空間配置を特徴量とした一致区間検索方式の評価
○江六前政宏, 伊藤慶明, 小嶋和徳, 石亀昌明 (岩手県大)
- 6 Web ページ補完のための共有動画に付与されたユーザコメントを用いた
シーン抽出手法 ○若宮翔子, 北山大輔, 角谷和俊 (兵庫県大)
- 7 動画共有サイトにおける動画タグの有効度の検証
○中村翔太, 山口実靖 (工学院大)
- 8 コメントアノテーションに基づく講義コンテンツのシーン検索
○笠嶋公一朗, 山本圭介, 大平茂輝, 長尾 確 (名大)

学生セッション [5R 会場] (3月11日 (木) 9:30 ~ 12:00)

Web システム 座長 浦本 直彦 (日本 IBM)

- 1 操作履歴と DOM 構造に基づく Web 行動分節化システム
○柿元宏晃, 伊藤太樹, 佐野博之, 平田紀史,
白松 俊, 大園忠親, 新谷虎松 (名工大)
- 2 ODP を利用した個人化検索システムの比較と効率化
○伊美裕司, 神原義明, 大石哲也,
越村三幸, 藤田 博, 長谷川隆三 (九大)
- 3 情報デザイン手法に基づいた Web マガジン発行システムの開発
~ 思いが伝わる情報デザインツール ~
○田中和紀 (工学院大), 片山育美 (多摩美大), 大田昌幸 (早大)
- 4 AWS (自律型 web サービス) ミドルウェアの実装方法の検討
○伊東正起, 平本真道, 大友浩照, 大谷 真 (湘南工科大)
- 5 AWS におけるビジネスプロセスモデル
○大友浩照, 伊東正起, 吉川恭平 (湘南工科大)
- 6 実応用を想定した AWS ミドルウェアの評価
○平本真道, 木村泰輔, 大友浩照, 大谷 真 (湘南工科大)
- 7 AWS メッセージング基盤改良の検討
○木村泰輔, 吉川恭平, 伊東正起, 大谷 真 (湘南工科大)
- 8 AWS における非対称構成型メッセージング機能の実装
○吉川恭平, 平本真道, 木村泰輔, 大谷 真 (湘南工科大)
- 9 Web におけるサンプルコード検索支援手法の検討
○飯田修平, 平川 豊 (芝浦工大)

学生セッション [6R 会場] (3月11日 (木) 14:30 ~ 17:00)

データベース技術 座長 井上 潮 (電機大)

- 1 トピックマップデータベースシステムへの問い合わせ最適化手法の検討
○栗原優樹, 木村昌臣, 山崎恭史, 細谷岳志, 吉田憲史 (芝浦工大)
- 2 コンシステントハッシングにおける仮想ノードを用いた動的なデータ
再配置法の提案
○村上大河, 丸山 広, 高嶋章雄, 中村太一 (東京工科大)
- 3 ディスクストレージ省電力化型問合せ実行方式に関する一考察
○合田和生, 喜連川優 (東大)
- 4 アプリケーション指向ディスクドライブ省電力方式の一考察:
OLTP 系 DBMS の I/O 挙動特性に基づくディスクドライブ省電力の効果
○西川紀史, 中野美由紀, 喜連川優 (東大)
- 5 An Experimental Study on Basic Performance of Flash SSDs with
Micro Benchmarks and Real Access Traces
○王 永坤, 合田和生, 中野美由紀, 喜連川優 (東大)

- 6 ダブル配列上のシングル節点に着目した更新法の提案
○重越秀美, 蔵満琢麻, 望月久稔 (大阪教育大)
- 7 Efficient Privacy Preserving Query Processing using GPGPU
○李 重頤, 天笠俊之, 北川博之 (筑波大)
- 8 異種データベースの仮想化技術 - スキーマ変換方式 -
○渡辺裕太, 菖蒲佳右, 三井田浩, 和田雄次 (電機大),
澤本 潤, 加藤貴司 (岩手県大)
- 9 異種データベースの仮想化技術 - クエリ変換方式 -
○菖蒲佳右, 渡辺裕太, 三井田浩, 和田雄次 (電機大),
澤本 潤, 加藤貴司 (岩手県大)

学生セッション [1S会場] (3月9日(火) 9:30 ~ 12:00)

- ソーシャル Web 座長 福原 知宏 (東大)
- 1 レビューサイトを用いた地域ごとの嗜好性の調査
○梅田由貴, 山口実靖 (工学院大)
 - 2 掲示板におけるニュースの議論理解支援システム
○高田智弘, 青野雅樹 (豊橋技科大)
 - 3 キーフレーズに着目したブログ空間の口コミパターン抽出
○平井佑一, 木村昌弘, 熊野雅仁 (龍谷大)
 - 4 クチコミ掲示板を対象とした製品評価情報の分類
○森田悠基, 大和田勇人, 難波和明 (東理大)
 - 5 ソーシャルブックマークデータを活用したレコメンデーション手法
○齋藤 敬, 梶 功夫, 富樫 敦 (宮城大)
 - 6 マイクロブログにおけるコミュニティの抽出と分析
○大澤昇平, 天笠俊之, 北川博之 (筑波大)
 - 7 Max-Flow アルゴリズムに基づいた効率的な Web コミュニティ抽出手法
○松葉 潤, 古瀬一隆, 陳 漢雄 (筑波大)
 - 8 グラフ解析に基づくソーシャルブックマークにおけるスパマー検出
○渡邊桂太, 高橋 翼, 天笠俊之, 北川博之 (筑波大)
 - 9 ブログ分析のための制約付きクラスタリングシステムの実装
○青島傳準, 福田直樹, 横山昌平, 石川 博 (静岡大)

学生セッション [2S会場] (3月9日(火) 15:30 ~ 17:30)

- マイニング・地理情報 座長 大森 匡 (電通大)
- 1 ゆるやかな密度変化に対応する LDBSCAN の拡張
○井上健治, 上原子正利, 小柳 滋 (立命館大)
 - 2 不確定性を有するデータ集合に対する外れ値検出
○郭 榮, 天笠俊之, 北川博之 (筑波大)
 - 3 データマイニング支援ツールの開発とその評価
○三井田浩, 和田雄次 (電機大)
 - 4 自己位置推定のための環境画像データベースの構築
○三輪貴信, 山口友之, 橋本周司 (早大)
 - 5 オンライン地図におけるユーザの検索意図推移検出に基づく地域情報
ランキング方式 ○小寺里佳, 北山大輔, 角谷和俊 (兵庫県大)
 - 6 地域イベント発見および特性検証のための実空間マイクロブログを用いた
ユーザ移動パターン分析システム
○藤坂達也, 李 龍, 角谷和俊 (兵庫県大)
 - 7 ストリートビューを用いたユーザの経路探索操作に基づく地図読解能力
分析システム ○小林加織里, 李 龍, 角谷和俊 (兵庫県大)
 - 8 タクシーの実車データに基づく、待ち/流し位置レコメンデーション
○松本謙治, 高山 毅, 熊谷彩夏, 村田嘉利, 佐藤永欣 (岩手県大)

学生セッション [3S会場] (3月10日(水) 9:30 ~ 12:00)

- 情報推薦 (1) 座長 瀧本 明代 (甲南大)
- 1 レコメンデーションに誘導されやすい顧客を抽出する「吉兆度方式」と
「協調フィルタリング方式」との比較 ○工藤亮祐, 高山 毅,
村田嘉利, 佐藤永欣, 高島隼也 (岩手県大)
 - 2 発育時系列データの類似検索による育児ブログ推薦システム
○山本めぐみ, 川越恭二 (立命館大)
 - 3 類似性に基づく観光イベント情報推薦システムの提案
○吉田耕陽, 遠藤聡志, 當間愛晃, 赤嶺有平, 山田孝治 (琉球大)
 - 4 ユーザの考慮する属性に基づく対話型商品推薦システムにおける対話
性能の評価 ○見並史彬, 伊藤孝行 (名工大)
 - 5 ゲームのレビュー情報を用いた情報推薦
○高橋将史, 青野雅樹 (豊橋技科大)
 - 6 (講演取消)

- 7 ユーザの潜在的興味抽出とコミュニティの粒度推定に基づく情報推薦
システム ○志甫谷匠 (兵庫県大),
中島伸介 (京産大), 角谷和俊 (兵庫県大)
- 8 旅行のクチコミサイトにおける利用者の必要性に応じた情報表示
○石川瑛子, 中山伸一, 真栄城哲也 (筑波大)
- 9 意味データを解釈するエージェントを用いたデータ活用環境の開発
○佐伯嘉康, 相田 仁 (東大)

学生セッション [4S会場] (3月10日(水) 15:30 ~ 17:30)

- マルチメディア 座長 堀 幸雄 (香川大)
- 1 プレゼンテーションコンテンツのための概念構造に基づくスライドの
関係判定方式 ○王 元元, 北山大輔, 角谷和俊 (兵庫県大)
 - 2 癌臨床治験の統合支援のためのインタラクティブな情報検索フレーム
ワーク ○角田亜矢子, 田中 譲 (北大)
 - 3 フレグランスの感性データベース化と購入支援システムの開発
○安倍のぞみ, 高山 毅, 川崎 葵, 佐藤永欣, 村田嘉利 (岩手県大)
 - 4 コーヒーの香りの感性データベース化と購入支援システムの開発
○小野寺翔子, 高山 毅, 松田直子, 佐藤永欣, 村田嘉利 (岩手県大)
 - 5 動画へのコメント付加機能を持つ Wiki の開発
○渋谷俊介, 矢吹太朗, 佐久田博司 (青学大)
 - 6 動画ニュース選択のためのニュース評価指標の構築に関する研究
○中村浩之, 小川祐樹, 諏訪博彦, 太田敏澄 (電通大)
 - 7 ニュース特性と個人の嗜好に合わせた動画ニュース推薦システムの構築
○今泉 徹, 小川祐樹, 諏訪博彦, 太田敏澄 (電通大)
 - 8 影状況メタデータと画像低次元特徴量を用いた画像検索結果提示システム
の実装 ○廣田雅春, 横山昌平, 福田直樹, 石川 博 (静岡大)

学生セッション [5S会場] (3月11日(木) 9:30 ~ 12:00)

- 情報推薦 (2) 座長 上田真由美 (京大)
- 1 モバイルショッピング環境のための料理レシピ推薦システム
○Tuan Ngoc Nguyen, 杉本雅則 (東大)
 - 2 レシピと材料の関係ネットワークに基づく料理推薦システムの試作
○岩上将史, 伊藤孝行 (名工大)
 - 3 情報推薦のためのブログの活用法に関する研究
○青木志門, 白井靖人 (静岡大)
 - 4 Twitter の流行語発言者の抽出に基づくフォロワー推薦システムの開発
○白木原渉, 倉門浩二, 大石哲也,
越村三幸, 藤田 博, 長谷川隆三 (九大)
 - 5 利用者間のコミュニケーション履歴を共有する協調学習型 e ラーニング
システム ○山本圭介, 笠嶋公一朗, 大平茂輝, 長尾 確 (名大)
 - 6 意外な検索キーワードを推薦する手法の提案
○中村将人, 木村昌臣, 大塚浩平 (芝浦工大)
 - 7 Social Bookmark におけるユーザのタグによる分類傾向に基づいた
情報推薦 ○高野博一, 古瀬一隆, 陳 漢雄 (筑波大)
 - 8 協調フィルタリングにおけるセレンティビティの向上
○伊藤心平, 相場 亮 (芝浦工大)
 - 9 複数評価項目を考慮した推薦手法の提案 ○伊藤ゆかり,
波多野賢治 (同志社大), 松本尚宏 (ワインスペース)

学生セッション [6S会場] (3月11日(木) 14:30 ~ 17:00)

- XML・グラフデータベース 座長 牛尼 剛聡 (九大)
- 1 On Finding Functional Dependencies in XML Data
○史 航, 天笠俊之, 北川博之 (筑波大)
 - 2 一貫性制約を考慮したデータ管理のための XML-RDB マッピング手法
○太田壮祐, 森嶋厚行, 天笠俊之, 石正石輝 (筑波大)
 - 3 注釈によるトレーサビリティ機能を持つ XQuery 処理系の実装
○清野真奈, 天笠俊之, 北川博之 (筑波大)
 - 4 維持コストを考慮した XPath 問い合わせのビュー選択問題に関する研究
○青木慎平, 古瀬一隆, 陳 漢雄 (筑波大)
 - 5 関係データベースに基づく XPath2.0 処理器の開発
-XPath 式の構文解析および中間表現への変換 -
○田中勇也, 佐用 健, 天笠俊之, 田中二郎 (筑波大)
 - 6 関係データベースに基づく XPath2.0 処理器の開発 -XML データ再構築に
ついて - ○佐用 健, 田中勇也, 天笠俊之, 田中二郎 (筑波大)
 - 7 類似要素のクラスタリングを利用した XML 文書統合手法の検討
○秋永 智, 木村昌臣 (芝浦工大)

- 8 複数の重みを保持した木構造データに対する類似度算出法の検討
○池田健人, 波多野賢治 (同志社大)
- 9 グラフデータベースにおける Top-k キーワード検索方式の改良と評価
○蔣 吏君, 大森 匡, 星 守 (電通大)

デモセッション [デモ会場]

デー 01 (3月10日(水))

東京大学 OPAC Plus "言選 Web"
- 関連学術用語による日本語文献情報への簡易ナビゲーションシステム -
○前田 朗, 中川裕志 (東大)

デー 04 (3月9日(火), 3月10日(水), 3月11日(木))

オープンソースコンテンツによる教育環境の整備
○桐山和彦 (鳥羽商船高専), 白石啓一 (香川高専),
原 元司 (松江高専), 本間啓道 (奈良高専),
白濱成希 (北九州高専), 岡田 正 (津山高専),
山本喜一 (OpenEdu プロジェクト)

デー 05 (3月9日(火))

デフォルメ地図の周辺テキスト情報に基づく検索手法
○松尾純輝, 北山大輔, 角谷和俊 (兵庫県大)

デー 11 (3月10日(水))

情報デザイン手法に基づいた Web マガジン発行システムの開発
～ 思いが伝わる情報デザインツール ～
○田中和紀 (工学院大), 片山育美 (多摩美大), 大田昌幸 (早大)

デー 26 (3月9日(火))

情報の重み付き属性値の比較に基づく情報の妥当性判断支援手法
○宮森 恒 (京産大)

第2分冊**(人工知能と認知科学)**

一般セッション [6C会場] (3月11日(木) 14:30～17:00)

画像認識応用 座長 原田 達也(東大)

- 動的環境における動領域・静止領域の認識に基づく自律移動ロボットの自己位置推定 ○伊藤久明, 今井順一, 金子正秀(電通大)
- 動き履歴画像を用いた人数計数システム ○宮原浩二, 嶺岸則宏, 藤本仁志, 脇本浩司(三菱)
- SVMによる足跡を用いた男女識別に関する検討 ○浅水 仁(釧路高専), 長谷山美紀(北大)
- 子育て支援のための知識映像コンテンツの構築と評価 ○江口あい, 石川翔吾, 大谷尚史, 桐山伸也, 杉山岳弘, 北澤茂良, 竹林洋一(静岡大)
- ダイジェスト映像生成エンジンの構築支援システム ○遠藤 進, 中村秋吾, 石原正樹, 椎谷秀一, 上原祐介, 増本大器, 長田茂美(富士通研)
- 立体視HMDを用いた遠隔映像情報伝送システムの開発とその医療応用 ○神原利彦, 神野剛司(八戸工大), 久保恒明(青森県立中央病院)

一般セッション [1D会場] (3月9日(火) 9:30～12:00)

顔・人物画像処理(1) 座長 金子 正秀(電通大)

- ニューラルネットによる静止画像からの指文字認識 ○平山 亮, 舟川政博(金沢工大)
- 頬の分光特性シミュレーションの試み - 男女識別のための基礎検討 - ○西野 聡, 保田 瞬(小山高専)
- Occlusion, Expression and Illumination Invariant Face Recognition Using Block-based Bag of Words ○黎 子盛, 今井順一, 金子正秀(電通大)
- 顔検知技術を用いた広告効果測定システムの検討 ○山本亮平(三洋電機), 本郷仁志(三洋電機)
- 個人特徴の誇張を利用した似顔絵作成システムの評価 ○小笠原彩夏, 梁 良, 石亀昌明, 小嶋和徳, 伊藤慶明(岩手県大)
- 表情変化シミュレーション Web サービス ○河尻寛之, 青木功介, 市田越子(インテックシステム研)

一般セッション [2D会場] (3月9日(火) 15:30～17:30)

音声・音楽情報処理 座長 西村 拓一(産総研)

- クリプキ・モデルに基づく音楽のコード表現と生成に関する基礎的考察 ○村井哲也, 生方誠希(北大), 工藤康生(室蘭工大), 赤間世紀(筑波大)
- カオスニューラルネットワークにおけるパラメータの検討 ~自動作曲への応用を目指して~ ○杉井ひかり, 石亀昌明, 伊藤慶明, 小嶋和徳(岩手県大)
- 自動DJミックス再生を用いた音楽ストリーム生成・配信システム ○石先広海, 帆足啓一郎, 滝嶋康弘(KDDI研)
- GPU上でのSpecmurt法を用いた基本周波数解析の並列処理 ○高橋太士, 吉田明正(東邦大)
- 音声の全極型予測残差の極零対フィルターによる分析 ○伏木田勝信(KF研)
- 対話における共感状態の分析 ○高 亜罕, 大野ゆう子, 林 良彦(阪大)
- 伝子工学による正規化楽曲パターン系における、「長調」系(二長調「ます」第4楽章の主部を例に) ○横田 誠(伝子工学研究会)

一般セッション [3D会場] (3月10日(水) 9:30～12:00)

自然言語処理(1) 座長 伊東 秀夫(リコー)

- オントロジー構築のための文書からの意味関係抽出 ○長野伸一, 稲葉真純, 溝口祐美子, 服部正典(東芝)
- テキストマイニングによる成功経験の抽出 ○中島正人, 本村陽一(産総研), 武澤友広, 石渡利奈(国立障害者リハビリテーションセンター), 三浦未生(産業技術大)
- 翻訳リペア支援のための言い換え文自動生成手法の提案 ○宮部真衣, 吉野 孝(和歌山大)

- 公的討議の書き起こし議事録を用いた懸案事項共有化フレームワーク ○白松 俊, 高崎 隼, Tatiana Zidrasco, 大園忠親, 新谷虎松(名工大)
- 完全選択入力方式による意味確定手法に関する一提案 ○金久保正明(静岡理工科大)
- 絵文字を考慮したテキスト解析の研究 ○山本千尋, 別所克人, 内山俊郎, 内山 匡(NTT)
- 「豊心工学」学問体系の確立(1): プログ情報に基づく感情状態解析 ○任 福継(徳島大)

一般セッション [4D会場] (3月10日(水) 15:30～17:30)

画像処理・認識(2) 座長 船富 卓哉(京大)

- 3次元VTNモデルとそれらの組み合わせによる物体認識 ○早瀬光浩, 嶋田 晋(中京大)
- Surface Reconstruction from Unoriented Point Clouds (方向情報を持たない三次元点群からの表面形状の復元) ○陳 奕麟, 頼 尚宏(国立清華大学), 西田友是(東大)
- レイアウト解析による書誌情報の抽出 ○永崎 健, 高橋寿一, 藤尾正和(日立)
- プライバシー保護機能付き監視カメラシステムの真正性証明とデータ量削減手法 ○藪田顕一, 北澤仁志(農工大)
- 映像監視システムにおけるカメラ画角変化検出方式の提案 ○若林正男(三菱)
- 対話時の同調性を知る一手段としてのトランク動作解析 ○善本 淳, 水上悦雄(NICT)

一般セッション [5D会場] (3月11日(木) 9:30～12:00)

自然言語処理(2) 座長 長田 誠也(NEC)

- アジア及びアフリカの地域別ドメインにおける言語の分布状況について ○児玉茂昭, 三上喜貴, Yew Choong Chew(長岡技科大)
- 信頼性を考慮した自律学習に基づく単語境界推定の提案 ○柳原 正, 池田和史, 松本一則, 滝嶋康弘(KDDI研)
- Analyzing an Argumentative Discourse Structure for Supporting Argumentation ○Tatiana Zidrasco, 高崎 隼, 加藤健太, 白松 俊, 大園忠親, 新谷虎松(名工大)
- 格要素の抽象化に基づく違法・有害文書検出手法の提案と評価 ○池田和史, 柳原 正, 松本一則, 滝嶋康弘(KDDI研)
- 個人Blogからのエゴグラム推定手法に関する考察 ○南川敦宣, 横山浩之(KDDI研)
- web上におけるタグ情報の階層的クラスタリング手法の提案 ○竹内 尚, 古川正志, 山本雅人, 鈴木育男(北大)
- Web文書中のユーザが知らない語を予測する読解支援システム ○江原 遥, 二宮 崇, 清水伸幸, 中川裕志(東大)

一般セッション [6D会場] (3月11日(木) 14:30～17:00)

人工知能一般(2) 座長 和泉 憲明(産総研)

- 変革プロジェクトと定常指向 ○野間口隆郎, 木野泰伸(筑波大)
 - エージェント間協調によるレストランガイドシステムに関する一考察 ○吉村 晋, 水野響司(サレジオ高専), 原 英樹, 菅原研次(千葉工大), 木下哲男, 白鳥則郎(東北大)
 - 公共空間における滞留行動評価のための大規模群集シミュレーション ○浜田朋之, 岡田祐子(日立), 森下 信(横浜国大), 梅津充幸(JR東日本企画), 大釜みち代(モザイク)
 - 1/fゆらぎにもとづく2次元セルオートマトンの探索 ○蛭川 繁(金沢工大)
 - 非古典論理のクリプキ・モデルにおける列・多重集合・集合の表現と粒状性の定式化 ○村井哲也(北大), 宮本定明(筑波大), 工藤康生(室蘭工大), 生方誠希(北大), 赤間世紀(筑波大)
 - SATソルバを利用したオントロジー上の概念間距離の計算 ○長野伸一, 稲葉真純, 溝口祐美子, 服部正典(東芝)
- 一般セッション [1E会場] (3月9日(火) 9:30～12:00)
- 学習 座長 福田 直樹(静岡大)
- 拡張チョムスキー標準形を用いた文脈自由文法の学習 ○河島 輝, 中村克彦(電機大)
 - クラス分類問題の強化学習による解釈 ○大庭隆伸, 南 泰浩(NTT)

- 3 ニュートン法による強化学習ステップサイズパラメータの調整法
○野田五十樹 (産総研)
- 4 ニューラルネットツリーの汎化能力に関する一考察
○林 博友, 趙 強福 (会津大)
- 5 誤差収束型ニューロンネットワークシステムを用いた心電図予測
○小早川俊祐, 横井博一 (九工大)
- 6 個体数が少ないGAの対話型発想支援システムへの応用
○金久保正明 (静岡理工科大)
- 7 遺伝子制御ネットワークによる情報処理
○井川数志, 大橋弘忠 (東大)

一般セッション [2E会場] (3月9日(火) 15:30~17:30)

画像処理・認識 (1) 座長 田中 正行 (東工大)

- 1 伝子工学による基礎マンダラバタン: BMAP, と基礎モンドリアンバタン: BMAP
○横田 誠 (伝子工学研究会)
- 2 オンデマンド型合成開口レーダ画像処理システムの開発
○伊藤陽介 (鳴門教育大), 寺本雄平, 阿部健治 (アテラル)
- 3 人工生命型発見システムによる進化的画像処理設計
○中島翔太, 北園優希 (九工大), 宮内真人 (北九州高専), 芹川聖一 (九工大)
- 4 クリプキ・モデルに基づくデジタル画像表現と位相に関する考察
○村井哲也, 生方誠希 (北大), 工藤康生 (室蘭工大), 赤間世紀 (筑波大)
- 5 CELL レグザ™ の画面遷移における SPE 使用量の制御機構
○石川史朗, 今田 敬, 加藤宣弘, 田中明良 (東芝)
- 6 Implementation and Optimization of software MPEG-2 decoder for CELL REGZA
○呉 孝展, 境 隆二 (東芝)

一般セッション [3E会場] (3月10日(水) 9:30~12:00)

人工知能一般 (1) 座長 岸本 章宏 (東工大)

- 1 弱条件組合せに基づく半導体ダイボンディングフィルム材料設計システム
○松尾徳朗 (山形大), 稲田禎一 (日立化成工業)
- 2 センサモデルと投票に基づく異常検知
○菊地 啓, 近藤和樹, 堀田政二 (農工大), 渋谷久恵, 前田俊二 (日立)
- 3 統計的解析を用いたカオス通信系の構築
○小向省吾, 清水能理, 小向大輝, 木戸口孝人, 高橋 潤 (八戸工大)
- 4 絵本の自動生成システムを用いた物語創造プロセスの可視化
○神里志穂子, 仲松里夏, 宮里洸司, 久保田浩幸, 野口健太郎 (沖縄高専)
- 5 Invitation to Primitive Go
○星 淳一 (キャンノン)

学生セッション [1T会場] (3月9日(火) 9:30~12:00)

音楽分析・生成 座長 片寄 晴弘 (関西学院大)

- 1 機械学習に基づく楽曲のクラスタリング
○白川直人, 近山 隆 (東大)
- 2 ホームビデオへの自動BGM付与のための心理学モデルに基づく音楽分類手法
○小野佑大, 甲藤二郎 (早大), 帆足啓一郎, 石先広海, 滝嶋康弘 (KDDI 研)
- 3 ピアノロール画像の比較による旋律類似性評価手法の検討
○日野達也 (芝浦工大), 鈴木泰山 (ピコラボ), 野池賢二 (無所属), 徳永幸生 (芝浦工大), 杉山 精 (東京工芸大)
- 4 単旋律のパート分配と伴奏・副旋律生成によるアンサンブルのための自動編曲手法
○水野理央, 酒向慎司, 北村 正 (名工大)
- 5 DP マッチングによる繰り返し構造を含んだ旋律の自動生成
○安藤拓也, 小谷善行 (農工大)
- 6 遺伝的アルゴリズムとNグラムモデルを用いた自動作曲システム
○吉田将頌, 杉山尚己, 浅沼克哉, 長名優子 (東京工科大)
- 7 任意の言葉の印象に合った楽曲生成についての検討
○稲垣有紗, 酒向慎司, 北村 正 (名工大)
- 8 メロディの内挿手法に基づく作曲支援システム
○村上雄一, 浜中雅俊 (筑波大)

学生セッション [3T会場] (3月10日(水) 9:30~12:00)

音楽情報の推定と理論 座長 酒向 慎司 (名工大)

- 1 クラシック音楽理解能力拡張インターフェイスのための同音旋律音量推定手法と主旋律推定への応用
○前澤 陽 (京大), 後藤真孝 (産総研), 高橋 徹, 駒谷和範, 尾形哲也, 奥乃 博 (京大)

- 2 旋律特徴量による発想記号の推定 ○嵯峨山加奈, 三浦孝夫 (法大)
- 3 左手・和音に対応したピアノ運指の自動推定システム
○春原雅彦, 松原正樹, 前田俊太郎, 斎藤博昭 (慶大)
- 4 楽譜構造に基づく譜めくりのタイミング推定法の検討
○湊山梨紗 (芝浦工大), 野池賢二 (無所属), 鈴木泰山 (ピコラボ), 徳永幸生 (芝浦工大), 杉山 精 (東京工芸大)
- 5 声部分離を用いたスコアリーディング支援のための色付け楽譜の生成
○石垣麻子, 松原正樹, 斎藤博昭 (慶大)
- 6 非調構成音を含む和音への対応を目的としたTPSの拡張 - ジャズ音楽理論への適用を目指して -
○山口直彦, 管村 昇 (工学院大)
- 7 ハミングをきっかけとする思い出コミュニケーション支援の提案
○北 裕介 (立命館大)

学生セッション [4T会場] (3月10日(水) 15:30~17:30)

ゲーム 座長 田中 哲朗 (東大)

- 1 オセロゲームのための適応型意思決定システムの提案
○白神真一 (法大)
- 2 学習を用いた枝刈りの新手法の提案
○山本一成, 田浦健次郎, 近山 隆 (東大)
- 3 囲碁の利きに対するモンテカルロ法による発見とその利用
○鈴木 寛, 相場 亮 (芝浦工大)
- 4 グラフィックエンジンを用いたゲーム探索の高速化
○田野文彦, 近山 隆 (東大)
- 5 ナンバープレースの問題の難易度に関する考察
○芳賀将至, 力武克彰 (仙台高専), 佐藤貴之 (北九州市大)
- 6 遺伝的アルゴリズムの数独への適用 ○井上はづき (法大)
- 7 動的スクリプトにおけるルールの内部情報を考慮した多様性の向上
○澤田海彦, 佐藤晴彦, 小山 聡, 栗原正仁 (北大)
- 8 Probing genetic algorithm considering Black Jack Strategy
○OYUNTULGA GAADAMBA, 遠藤聡志, 當間愛晃, 赤嶺有平, 山田孝治 (琉球大)
- 9 チーム協調型ゲーム AI 構築法の提案
○佐々木夏朗, 萩原佑亮, 岩脇貴久, 中山智博, 古市昌一 (日大)

学生セッション [5T会場] (3月11日(木) 9:30~12:00)

音楽信号処理 座長 伊藤 彰則 (東北大)

- 1 エレキギターにおける演奏情報の特徴抽出
○水本直希, 北原鉄朗, 片寄晴弘 (関西学院大)
- 2 音程変化に基づく歌唱中の音符区間検出
○岡松竜徳, 鈴木基之, 任 福継 (徳島大)
- 3 GMMに基づいた楽曲特徴と感性情報の対応関係のモデル化
○西尾圭一郎, 酒向慎司, 北村 正 (名工大)
- 4 調波GMMとWienerフィルタに基づく音楽音響信号の残響抑圧
○安良岡直希 (京大), 吉岡拓也, 中谷智広, 中村 篤 (NTT), 奥乃 博 (京大)
- 5 調波非調波GMMに基づくMIDI演奏音響信号に対する音色・演奏表情操作
○安良岡直希, 糸山克寿, 高橋 徹, 駒谷和範, 尾形哲也, 奥乃 博 (京大)
- 6 実時間演奏データと楽譜情報との対応システム ○付 磊, 池田勝洋, 島村祐介, 安江 梓, 水谷哲也, 田中二郎 (筑波大)
- 7 音声認識を用いた歌声追尾歌詞表示システム
○森川 彰, 伊藤克亘 (法大)

学生セッション [6T会場] (3月11日(木) 14:30~17:00)

音楽推薦・演奏支援 座長 帆足啓一郎 (KDDI 研)

- 1 音楽特性を反映した自己組織化マップによる音楽プレイリストの作成
○吉武 亮, ビトヨハルトノ (はこだて未来大)
- 2 アーティストネットワークを用いたインディーズアーティスト推薦システムの提案
○佐藤智行, 小川祐樹, 諏訪博彦, 太田敏澄 (電通大)
- 3 Sound Design Support Tools for Pre-production Phase in Visual Content Production
○アイシャ オニツカワキ, 伊藤彰教, 三上浩司, 近藤邦雄 (東京工科大)
- 4 純正律音楽リアルタイム演奏システムの開発
○北川尚希, 白井治彦, 黒岩丈介, 小高知宏, 小倉久和 (福井大)

- 5 空間における手の動きを入力とする電子楽器の制作
○関田 心, 須藤 智, 恩田憲一 (尚美学園大)
- 6 演奏音全体からのフィードバックを有する即興演奏システム
○菅原芳晴, 山口友之, 橋本周司 (早大)
- 7 Robot Musical Accompaniment: Real-time Synchronization using Visual Cue Recognition
○Angelica Lim, 水本武志, 大塚琢馬, 高橋 徹, 駒谷和範, 尾形哲也, 奥乃 博 (京大)
- 8 複数自由度を用いて音高特性モデルに基づく音高制御を行うテルミン演奏ロボットの開発
○水本武志, 高橋 徹, 駒谷和範, 尾形哲也, 奥乃 博 (京大)

学生セッション [1U会場] (3月9日(火) 9:30 ~ 12:00)

音声分析・強調 座長 福田 隆 (日本IBM)

- 1 LSP 係数の性質を考慮した音声符号化法の改善
○足立征士, 鈴木基之, 任 福継 (徳島大)
- 2 気導と骨導の加算処理を利用した環境騒音低減法に関する一検討
○田村 颯, 上野育子, 伊藤憲三 (岩手県大)
- 3 近傍雑音の除去による遠方発話の強調
○池上拓真, 関口芳廣, 西崎博光 (山梨大)
- 4 音声強調を用いたホームビデオの音質改善 ○栗原佑季 (法大)
- 5 高齢者の加齢による聴力低下に対応する音声強調
○田母神恒, 伊藤克亘 (法大)
- 6 コンテンツ制作における収録音編集のための音声強調
○中村一文, 伊藤克亘 (法大)
- 7 発話者の特徴に基づく雑音除去に関する研究
○足立佳哉, 西田義人, 田中成典, 安彦智史, 木本直樹 (関西大)
- 8 (講演取消)
- 9 音声の構造的表象と多段階の重回帰を用いた外国語発音分析
○鈴木雅之, 喬 宇, 峯松信明, 広瀬啓吉 (東大)
- 10 調音特徴に基づく音素単位での英語発音誤り検出と発音評価
○長岡絃昭, 入部百合絵, 桂田浩一, 新田恒雄 (豊橋技科大)

学生セッション [2U会場] (3月9日(火) 15:30 ~ 17:30)

ニューラルネット 座長 片山 大輔 (東工大)

- 1 重みベクトルの分布に基づいた想起と領域内のニューロンの増減が可能なKFM連想メモリを用いた強化学習の実現
○羽田貴央, 長名優子 (東京工科大)
- 2 時系列アナログパターンのための領域表現を用いた高速KFM連想メモリ
○緑川裕樹, 長名優子 (東京工科大)
- 3 重みベクトルの分布に基づいた想起が可能な改良型KFM連想メモリによる強化学習の実現
○野口伸吾, 長名優子 (東京工科大)
- 4 (講演取消)
- 5 RBF ネットワークを用いた風景画像中の人工物領域の特定
ー K 平均法による領域分割 ー ○斎藤佑輝, 長名優子 (東京工科大)
- 6 砂時計型ニューラルネットワークによる顔画像の分類
○青木秀人, 大枝真一 (木更津高専)
- 7 複数の準最適教師を用いた線形パーセプトロン学習
○吉川恭平, 原 一之 (都立高専)
- 8 複合的タスクのための既存知識の選択規則の学習
○識名 翔, 服部元信 (山梨大)

学生セッション [3U会場] (3月10日(水) 9:30 ~ 12:00)

音声認識・理解 座長 伊藤 克亘 (法大)

- 1 講義音声認識精度改善のためのチョーク音除去
○張 安, 関口芳廣, 西崎博光 (山梨大)
- 2 複数の言語モデルと言語理解モデルによる音声理解手法のラビッドプロトタイプへの適用
○勝丸真樹, 駒谷和範 (京大), 中野幹生, 船越孝太郎, 辻野広司 (ホンダRIJ), 尾形哲也, 奥乃 博 (京大)
- 3 多言語音声の同時認識のための統計的翻訳モデル
○大村絵梨, 南條浩輝 (龍谷大)
- 4 階層化された複数の音声認識器を選択的に利用する音声理解手法
○横山貴彦, 嶋田和孝, 遠藤 勉 (九工大)
- 5 タスクに無関係な発話を聞き流すための言語モデル構築法
○高岡 充, 上平拓弥, 西崎博光, 関口芳廣 (山梨大)
- 6 音声質問応答システムのユーザ発話を用いた質問応答データベース拡張支援
○成松宏美 (電通大), 中野幹生, 船越孝太郎, 長谷川雄二, 辻野広司 (ホンダRIJ)

- 7 スペクトル推定を用いたマイク数以上の同時発話に対する音声認識
○平澤恭治, 高橋 徹, 駒谷和範, 尾形哲也, 奥乃 博 (京大)
- 8 室内音響指標に基づく残響下音声認識性能の推定と評価
○福森隆寛, 森勢将雅, 西浦敬信 (立命館大)
- 9 環境音から擬音語への自動変換における特徴量抽出法の検討
○山川暢英 (京大), 北原鉄朗 (関西学院大), 高橋 徹, 駒谷和範, 尾形哲也, 奥乃 博 (京大)

学生セッション [4U会場] (3月10日(水) 15:30 ~ 17:30)

遺伝的アルゴリズム (1) 座長 羽山 徹彰 (北陸先端大)

- 1 相互連関を持つライブラリネットワークの災害復旧スケジュール最適化への取り組み
○味方さやか, 小林一郎 (お茶の水女子大)
- 2 GAを用いた砂時計型ニューラルネットワークの最適化
○浦野昌平, 大枝真一 (木更津高専)
- 3 非定常遷移確率を用いた焼き鈍し法
○鈴木悠也, 宗久知男, 宗久保子 (山梨大)
- 4 分散GAと論点クラスタを用いたグループ効用最適化手法について
○水谷信泰 (名工大)
- 5 環境変動に対する適応行動と繁殖休眠の進化による渡りの創発
○末次克也, 武藤敦子, 加藤昇平, 伊藤英則 (名工大)
- 6 並列分散遺伝的アルゴリズムにおける群構造化による探索性能への影響に関する考察
○今 康徳, 小嶋和徳, 伊藤慶明, 石亀昌明 (岩手県大)
- 7 (講演取消)
- 8 森林火災延焼拡大モデルにおける遺伝的アルゴリズムを用いた地域パラメータの探索
○上間 弥, 遠藤聡志, 赤嶺有平 (琉球大), 本間利久, 木村圭司 (北大)

学生セッション [5U会場] (3月11日(木) 9:30 ~ 12:00)

音声インタフェース・システム 座長 西本 卓也 (東大)

- 1 ウェアラブルデバイスにおける音声プライバシー保護システム
○厚田和也, 孫 慈禧, 浜中雅俊, 李 昇姫 (筑波大)
- 2 柔軟なモジュール切替えを可能にしたWebベースMMIシステムの開発
○工藤正志, 桂田浩一, 入部百合絵, 新田恒雄 (豊橋技科大)
- 3 音響防犯システムのためのSVMを用いた叫び声の検出と音声認識
○外村 淳, 南條浩輝 (龍谷大), 西浦敬信 (立命館大)
- 4 会議の情報保障における吹き出し型字幕の有用性の調査
○久木一平, 南條浩輝, 吉見毅彦 (龍谷大)
- 5 Flash コンテンツ操作のための音声認識インタフェース
○松浦健太, 伊藤克亘 (法大)
- 6 ウェブ収集発話を対象とした若年者判別の検討
○宮森翔子, 西村竜一, 入野俊夫, 河原英紀 (和歌山大)
- 7 携帯端末への話者照合を用いたセキュリティロック
○山室慶太, 伊藤克亘 (法大)
- 8 集合知を利用した語彙情報の収集・共有・管理システム
○佐々木浩, 中野鐵兵, 藤江真也, 小林哲則 (早大)
- 9 ユーザの文法知識を状態に加えたPOMDPに基づく音声対話システム
○庵山空道, 駒谷和範, 高橋 徹, 尾形哲也, 奥乃 博 (京大)
- 10 自然発話音声を用いた快・不快判別アルゴリズムの提案
○山本泰史, ギョーム ロベズ, 酒造正樹, ジャンジャック ドロネー, 山田一郎 (東大), 門間史晃, 光吉俊二 (AGI)

学生セッション [6U会場] (3月11日(木) 14:30 ~ 17:00)

音声・歌声合成 座長 岩野 公司 (東京都市大)

- 1 F0・振幅・音韻長の制御により歌声を話声に変換する話声合成システム SpeakBySinging
○阿曾慎平 (京大), 齋藤 毅, 後藤真孝 (産総研), 糸山克寿, 高橋 徹, 駒谷和範, 尾形哲也, 奥乃 博 (京大)
- 2 入力情報として複数音声モーフィングを利用した自分の音声を好みの音声へと変換する手法
○宮崎敬仁, 石黒 徹, 高橋沙知, 濱川 礼 (中京大)
- 3 話者適応手法を用いた合成音声の個性化
○佐々木夏美, 佐藤晴彦, 小山 聡, 栗原正仁 (北大)
- 4 奄美大島民謡風歌声合成のためのコブシに着目した歌声の特徴分析
○村主大輔 (関西学院大), 森勢将雅 (立命館大), 北原鉄朗, 片寄晴弘 (関西学院大)
- 5 1/4ゆらぎに基づく癒し効果のある音の生成
○関口真澄 (法大)

- 6 音楽理論に基づく音声合成による感情表出手法
○千葉央輝, 榎松理樹, 羽倉 淳, 藤田ハミド (岩手県大)
- 7 鳥の大きさを考慮した羽ばたき音の合成方法
○五十嵐史郎, 徳永幸生 (芝浦工大), 杉山 精 (東京工芸大), 阿部匡伸 (NTT)
- 8 猫の鳴き声の音高特性の分析と生成
○武井 祥 (芝浦工大), 阿部匡伸 (NTT), 徳永幸生 (芝浦工大), 杉山 精 (東京工芸大)

学生セッション [1V会場] (3月9日(火) 9:30~12:00)

マルチエージェント (1) 座長 伊藤 孝行 (名工大)

- 1 電子商取引における多属性基準付き評価メカニズム
○村形晃規, 齋藤義人, 元木陽介, 松尾徳朗 (山形大)
- 2 組織における配置戦略がパフォーマンスと知識継承に与える影響のマルチエージェントシミュレーション
○原田和治, 菅原俊治 (早大)
- 3 確率的戦略を持つ二値ゲームの戦略分布の解析
○永津里絵, 風間 隼, 中村泰之 (名大)
- 4 情報伝達を考慮した避難シミュレーションによるオフィスレイアウト案の評価
○加藤千礼, 長名優子 (東京工科大)
- 5 距離に基づくマルチエージェントベースシミュレーションの感度分析
○岡部 良, 渡辺成良 (電通大)
- 6 組み込みシステム向けマルチエージェントフレームワーク
○須田唯之 (東京都市大), 中溝克明 (日立), 横山孝典, 兪 明連, 志田晃一郎 (東京都市大)
- 7 競り上げオークションと固定価格販売が混在する電子商取引市場における売り手の行動の解析
○荒木博道, 松原繁夫 (京大), 櫻井祐子 (ヤフー)
- 8 生活パターン学習による行動予測エージェントシステム
○田島見祐, 近藤大祐, 小川 均 (立命館大)
- 9 エージェントプラットフォームを用いたロボット制御システム
○外嶋一登, 小川 均 (立命館大)

学生セッション [2V会場] (3月9日(火) 15:30~17:30)

マルチエージェント (2) 座長 松尾 徳朗 (山形大)

- 1 複数のエージェントによる協調行動の研究のための K4 の改良
○田中 暁 (中京大)
- 2 Web サービスの能動化と連携の支援
○水内翔太, 魏 文鵬, 三浦良介, 阿部 亨, 木下哲男 (東北大)
- 3 エージェントを介した遠隔地コミュニケーションの実現に向けた WOZ システムの開発
○大橋洋輝, 高橋暁弘, 岡田将吾, 大本義正, 西田豊明 (京大)
- 4 交渉時のエージェントの性格パラメータの影響の検討
○三宅 峰, 大本義正, 西田豊明 (京大)
- 5 発想的議論を用いた譲歩と妥協の形式化に基づくエージェント間交渉
○関口知之, 若木利子 (芝浦工大)
- 6 準静的変化過程における多階層マルチエージェントモデルの構築
○星野達哉, 服部恭史, 高丸尚教 (中部大)
- 7 複雑な交渉問題における論点間の依存関係を利用したマルチエージェント合意形成機構
○藤田桂英, 伊藤孝行 (名工大), Mark Klein (MIT)
- 8 参加者の持つ情報の違いによる予測市場の振る舞いについて
○山本拓也, 伊藤孝行 (名工大)
- 9 チーム内での非協調行動のチームパフォーマンスへの影響の分析 -RoboCup Soccer Simulation 2D において-
○山田達也, 河原林友美 (福井高専)

学生セッション [3V会場] (3月10日(水) 9:30~12:00)

文章・感情 座長 知野 哲朗 (東芝)

- 1 文章の判りやすさの定量的な指標について
○石原亜紗希, 中山伸一, 真栄城哲也 (筑波大)
- 2 限定的同意語を用いたアンケート自由回答分類
○廣田敦士, 平松綾子, 能勢和夫 (阪産大)
- 3 LDA による国会会議録を対象にしたセグメンテーションの一手法
○伊藤馨将, 関 洋平, 青野雅樹 (豊橋技科大)
- 4 SmallWorld 構造を利用したキーワード抽出による記事分類
○對崎宏也, 三浦孝夫 (法大)
- 5 分割文書データの NMF によるトピック抽出
○筒井昌彦 (都立高専), 横井 健 (都立産業技術高専)
- 6 報道内容の印象分析のためのテキストマイニング手法
○須藤一弘, 長尾光悦 (北海道情報大), 大内 東 (北海商科大)

- 7 多数決法と文章形態を考慮した情報の信頼度判定
○中井川祥 (都立高専), 横井 健 (都立産業技術高専)
- 8 シソーラス利用による童話文からの感情情報読み取りシステム
○堂腰裕明, 小山 聡, 栗原正仁 (北大)
- 9 (講演取消)
- 10 単語 1-gram を用いた短文からの感情推定
○小川拓貴, 任 福継, 松本和幸 (徳島大)

学生セッション [4V会場] (3月10日(水) 15:30~17:30)

言語処理支援システム 座長 岡崎 直観 (東大)

- 1 アプリケーション操作のための自然言語インタフェース構築への取り組み
○大谷麻璃, 小林一郎 (お茶の水女子大)
- 2 自然言語による対話型作図システムの開発
○伊藤崇晃, 杉本 徹 (芝浦工大)
- 3 要求文解析によるソフトウェアの自動呼び出し手法
○矢野篤志, 奥村紀之 (長野高専)
- 4 議論支援システムのための対立と質問に着目した適切性ルール設計
○高崎 隼, Tatiana Zidrasco, 平田紀史, 辻野友孝, 白松 俊, 大園忠親, 新谷虎松 (名工大)
- 5 研究初心者のための論文サーベイ支援システムの試作
○加藤健太, 辻野友孝, 清水 堅, 高崎 隼, 白松 俊, 大園忠親, 新谷虎松 (名工大)
- 6 イベントの属性抽出と系列化に基づくニュース記事閲覧支援システム
○平田紀史, 伊藤太樹, 柿元宏晃, 佐野博之, 白松 俊, 大園忠親, 新谷虎松 (名工大)
- 7 知的ヘルプシステムにおける質問文とヘルプテキストのマッチング手法
○鈴木達彦, 柿間俊高, 吉良 徹, 荒木 亮, 杉本 徹 (芝浦工大)
- 8 高等教育における留学生に対する多言語支援システムの開発
○國本拓之, 中平勝子, 福村好美 (長岡技科大)
- 9 知的ヘルプシステムのためのドメイン限定辞書構築手法の提案
○荒木 亮, 柿間俊高, 吉良 徹, 鈴木達彦, 杉本 徹 (芝浦工大)

学生セッション [5V会場] (3月11日(木) 9:30~12:00)

人工知能一般 (4) 座長 牧野 貴樹 (東大)

- 1 自然言語によるロボットの行動プログラミング
○板谷純希, 中村友昭, 長井隆行 (電通大)
- 2 情報提供エージェントとの多人数対話における対話制御方式
○武田信也 (農工大), 中野有紀子 (成蹊大)
- 3 把持動作による物体カテゴリの形成と認識
○中村友昭, 西田匡志, 長井隆行 (電通大)
- 4 動的環境での離散凸最適化に基づく移動ロボットのための探索法
○平下智史 (東大), 河原吉伸 (阪大), 矢入健久 (東大)
- 5 連続インタラクションデータからの系列パターン発見に基づくロボットの行動則獲得
○坂本佳愛, 岡田将吾, 西田豊明 (京大)
- 6 RNN を用いた行為予測による人間とロボットの協調物体配置
○粟野皓光, 尾形哲也, 高橋 徹, 駒谷和範, 奥乃 博 (京大)
- 7 モーションキャプチャと筋電図計測を用いたピアノ演奏における連続指運動スキルの解明
○合田竜志 (関西学院大), 古屋晋一 (ミネソタ大), 片寄晴弘, 長田典子 (関西学院大)
- 8 (講演取消)
- 9 日本語文へのジェスチャー自動付与による仮想世界アバターの実現
○塚本剛生, 中野有紀子 (成蹊大)

学生セッション [6V会場] (3月11日(木) 14:30~17:00)

遺伝的アルゴリズム (2) 座長 レオン末松豊インティ (NICT)

- 1 遷移確率を用いた PSO によるグラフ色塗り問題の解法
○陳 聡志, 狩野 均 (筑波大)
- 2 種分化 PSO による多峰性関数の最適化に関する研究
○二方弘文, 小林洋介, 坂下善彦, 二宮 洋 (湘南工科大)
- 3 NK モデルにおける内挿交叉 dMSXF の大域的探索性能の検証
○井内征典, 花田良子, 棟安実治 (関西大)
- 4 解と評価基準の共進化系を用いた進化計算の実問題への適用
○坪川雄平, 鈴木麗凰, 有田隆也 (名大)
- 5 遺伝的アルゴリズムを用いたオフィスレイアウト支援システム -多角形状スペースへの対応-
○立川量太, 長名優子 (東京工科大)
- 6 対話型進化計算を用いたポスター制作支援システムの開発
○北村苑美, 狩野 均 (筑波大)

- 7 フェロモン量の動的増減制御 (SA) による ACO の性能改善
○小林史和, 高橋良英 (八戸工大)
- 8 ACO 突然変異方式による枝組立交叉 (EAX) の性能改善
～巡回セールスマン問題 (TSP) の解法～
○吉川克哉, 高橋良英 (八戸工大)

学生セッション [1W 会場] (3月9日 (火) 9:30～12:00)

最適化 座長 有田 隆也 (名大)

- 1 太陽電池の特性を自動学習する高速な最大電力点追従装置の開発と実装
○木幡泰士 (北大), 山内康一郎 (中部大), 栗原正仁 (北大)
- 2 制約充足に基づく勤務シフトスケジューリング
○大懸 充, 水野一徳, 長澤圭孝 (拓大), 西原清一 (筑波大)
- 3 連結度に注目したグラフ 3 彩色インスタンスの組織的生成
○仲 健次, 長澤圭孝, 水野一徳 (拓大), 西原清一 (筑波大)
- 4 帰納論理プログラミングにおける関係データベース技術を用いた
アルゴリズムの提案 ○池田 晃, 難波和明, 大和田勇人 (東理大)
- 5 (講演取消)
- 6 離散 PSO の VLAN トラフィック最適化問題への適用と収束性の分析
○高橋謙輔 (早大), 阿部洋丈 (豊橋技科大), 廣津登志夫 (法大), 菅原俊治 (早大)
- 7 局所解からの脱出を目的としたハイブリッド Particle Swarm Optimization
○松井支弥, 能登正人 (神奈川大)
- 8 論証ダイアグラムの分析と議論計算を統合した JAraucaria ツールの開発
○宮嶋 徹 (芝浦工大)
- 9 モデル列挙を用いた SAT ソルバーの並列化
○矢野明浩, 越村三幸, 藤田 博, 長谷川隆三 (九大)

学生セッション [2W 会場] (3月9日 (火) 15:30～17:30)

学習 (1) 座長 鶴岡 慶雅 (北陸先端大)

- 1 多目的タスクにおけるタスク空間分割を利用したマルチエージェント
強化学習 ○橋本祐馬 (神戸電子専門学校), 長行康男 (神戸情報大)
- 2 POMDPs 環境における状態の訪問履歴を用いた Profit Sharing による
強化学習 ○高森洋平, 長名優子 (東京工科大)
- 3 強化学習によるロボットの故障診断
○藤巻裕介, 中村真吾, 橋本周司 (早大)
- 4 マルチエージェント強化学習による社会規範の発現
○中尾圭佑, 菅原俊治 (早大)
- 5 ヒューマノイドロボットによるキネティックチェーン投球運動学習
○西部慎一, 石田 稔, 加藤昇平, 伊藤英則 (名工大)
- 6 改良型 online 記憶制限準ニュートン法によるニューラルネットワークの
学習 ○阿部俊和, 坂下善彦, 二宮 洋 (湘南工科大)
- 7 機械学習における学習過程の可視化モデルの提案
○小田明人, 高丸尚教 (中部大)
- 8 ユーザの感性情報を自動学習する商品検索支援システムの提案
○村上裕一, 中村真吾, 橋本周司 (早大)
- 9 非線形型準教師を用いたパーセプトロン学習
○小野勝也 (都立高専), 原 一之 (都立産業技術高専)

学生セッション [3W 会場] (3月10日 (水) 9:30～12:00)

学習 (2) 座長 中川 哲治 (NICT)

- 1 ベイズ推定への改良マルコフ連鎖モンテカルロ法の適用
○千田史哉 (山梨大)
- 2 アンサンブル学習における Hoeffding Tree を用いた動的な分類器統合
○西村 聖 (東北大), 寺邊正大 (三菱総研), 橋本和夫 (東北大)
- 3 ガウス過程に基づく生成モデルを用いた多重整理
○秋本真治, 末松伸朗, 林 朗, 岩田一貴 (広島市大)
- 4 アソシエーションルールを用いた電子メールのマルチラベル分類
○遠山清人, 難波和明, 大和田勇人 (東理大)
- 5 誤ラベルデータ検出による半教師有り学習の研究
○板橋広和, 大和田勇人, 難波和明 (東理大)
- 6 線形化拡散写像手法の提案とその文書データへの適用
○仲野 将 (豊橋技科大), 立間淳司 (無所属), 青野雅樹 (豊橋技科大)
- 7 多クラス識別問題におけるオンライン学習のための厳密な PA アルゴリズム
○松島 慎, 清水伸幸, 吉田和弘, 二宮 崇, 中川裕志 (東大)
- 8 HMM の変分ベイズ学習と環境音認識への応用
○坂田尚子, 林 朗, 末松伸朗, 岩田一貴 (広島市大)

- 9 筋収縮力の能動制御による二足歩行ロボットの降段動作獲得
○北川周平, 加藤昇平, 伊藤英則 (名工大)

学生セッション [4W 会場] (3月10日 (水) 15:30～17:30)

機械翻訳 座長 熊野 正 (NHK 技研)

- 1 Building a Khmer Text Corpus ○Channa Van, 亀山 渉 (早大)
- 2 特許文の訳し分けにおける格フレームの有効性
○鈴木勘平, 横山晶一 (山形大)
- 3 英語科学技術論文執筆支援のための日英対訳例文データベース自動構築
手法 ○吉岡直輝, 松本和幸, 任 福継 (徳島大)
- 4 中国で活動する企業のための社名翻訳システムに関する研究
○二宮倫子, 中村健二, 田中成典, 増満 光, 西江将男 (関西大)
- 5 複数の機械翻訳器による学習データの自動生成とそれに基づく統計的
前編集 ○山本祐司, 南條浩輝, 吉見毅彦 (龍谷大)
- 6 Word Alignment Based Bilingual Terminology Extraction from a
Chinese-Japanese Parallel Corpus
○Xiaorong Fan, 清水伸幸, 中川裕志 (東大)
- 7 多言語用例対訳共有システムのための用例間評価手法の評価
○福島 拓, 吉野 孝 (和歌山大), 重野亜久里 (多文化共生センターきょうと)
- 8 (講演取消)
- 9 名詞にかかる形容詞を対象とした Super-Function の拡張
○桂 康, 松本和幸, 任 福継 (徳島大)

学生セッション [5W 会場] (3月11日 (木) 9:30～12:00)

言語情報抽出 座長 三輪 誠 (東大)

- 1 文章要約の手法を用いたダイジェスト動画の制作手法
○石黒信啓, 小高知宏, 白井治彦, 黒岩丈介, 小倉久和 (福井大)
- 2 構文規則に基づく特許文書からの比較情報抽出
○蜂谷和士, 橋本和夫 (東北大)
- 3 階層的時系列モデルによる固有表現抽出
○金子悟士, 林 朗, 末松伸朗, 岩田一貴 (広島市大)
- 4 実体験情報を含む Blog を抽出するシステム
○佐々木建, 栗原正仁, 小山 聡 (北大)
- 5 名詞含有率と語尾マッチングを用いた実情報の抽出
○岩永知優 (都立高専), 横井 健 (都立産業技術高専)
- 6 映画あらすじ文からの人物関係抽出手法の改良
○服部純次, 杉本 徹 (芝浦工大)
- 7 Web からの人物の属性情報抽出
○渡部啓吾, Danushka Bollegala, 松尾 豊, 石塚 満 (東大)
- 8 Wikipedia からの要約生成パターンの抽出
○田中翔平, 岡崎直観, 石塚 満 (東大)
- 9 計算機トラブルシューティングドメインにおける未知固有表現抽出
○栗田光晴, 田浦健次朗, 近山 隆 (東大)
- 10 Web をコーパスとした SetExpansion の改善 ○伊藤 淳 (早大)

学生セッション [6W 会場] (3月11日 (木) 14:30～17:00)

構文解析・生成・学習 座長 颯々野 学 (ヤフー)

- 1 品詞による文評価を用いた日本語語呂合わせ自動生成手法
○渡邊邦浩, 岡安優弥, 高田雅倫, 濱川 礼 (中京大)
- 2 日経平均株価を例とした時系列データの言語化手法の開発
○関亜沙美, 小林一郎 (お茶の水女子大)
- 3 時空間情報を含む「つぶやき」からの推測によるお出かけスポット情報の
生成 ○深谷昭宏 (中京大), 浦 正広 (名大), 遠藤 守, 山田雅之, 宮崎慎也 (中京大), 安田孝美 (名大)
- 4 ダブル配列による GLR 解析表の設計
○蔵満琢麻, 重越秀美, 望月久稔 (大阪教育大)
- 5 基礎的な力学問題解決における正規化処理法
○青柳祥平, 奥村紀之 (長野高専)
- 6 文脈解析を用いた仮名漢字変換システムの開発
○北澤遼太, 奥村紀之 (長野高専)
- 7 情報エントロピーを用いた格フレームの用例の汎化
○阿部裕司, 小谷善行, 藤本浩司 (農工大)
- 8 MTRNN を用いた単語と文法の階層的自己組織化による文の認識・生成
○日下 航 (京大), 有江浩明, 谷 淳 (理研), 尾形哲也, 高橋 徹, 駒谷和範, 奥乃 博 (京大)

学生セッション [1X 会場] (3月9日 (火) 9:30 ~ 12:00)

意味・談話解析 座長 内山 将夫 (NICT)

- 素性にモーラとシラブルを用いた略語の自動推定
○和田健太, 近山 隆 (東大)
- ファジィクラスタリングを用いた分野別語義識別方法の提案
○山崎恭史, 木村昌臣 (芝浦工大)
- 複文を対象とした自然言語文の拡張型述語論理への自動変換法
○上條敦史, 石川 勉 (拓大)
- A Word Sense Disambiguation Method for Semi-automatic Conversion of NL Text into CDL (Concept Description Language)
○Francisco A Tacao R (東大), Hiroshi Uchida (UNDL Foundation), Mitsuru Ishizuka (東大)
- イベントの相互関係を表すシステム ○入江和磨, 横山晶一 (山形大)
- A Clustering Approach to Discourse Relation Classification
○Hugo Hernault, Danushka Bollegala, Mitsuru Ishizuka (東大)
- 係り受け情報に基づくゼロ代名詞推測手法の検討
○幸田 翼, 木村昌臣 (芝浦工大)
- 日本語文章における直接照応および間接照応の統合的解析
○井之上直也 (奈良先端大), 飯田 龍 (東工大), 乾健太郎, 松本裕治 (奈良先端大)
- 教師なし学習を用いた談話解析手法に関する一検討
○伊藤直貴, Hugo Hernault, 石塚 満 (東大)
- 笑いを生むやりとりの構造解析
○伊藤由梨乃, 中山伸一, 真栄城哲也 (筑波大)

学生セッション [2X 会場] (3月9日 (火) 15:30 ~ 17:30)

人工知能と社会 座長 松尾 豊 (東大)

- 大学における学習コミュニティの形成支援の研究
○木鋤正人, 水口 瑛, 中村亮太, 上林憲行 (東京工科大)
- 学習コミュニティにおけるコンピテンシー習熟度の評価
○水口 瑛, 木鋤正人, 中村亮太, 上林憲行 (東京工科大)
- 限定されたクラスタ集団のソーシャルワールド仮説検証の試み
○栗野哲史, 松本章代, Martin J. Duerst (青学大)
- mixiのネットワーク分析 ○丸井淳己 (東大), 加藤幹生 (ミクシィ), 松尾 豊 (東大), 安田 雪 (関西大)
- コミックからの登場人物相関図の作成
○京極亮太, 上田 洋, 村上晴美 (大阪市大)
- 社会的ジレンマ解消に向けたステークホルダの特定と利得操作法
○今宿誠己, 荒井幸代 (千葉大)
- 社会的関係と行動類似性に着目したブログ空間におけるユーザ訪問行動の予測
○北野由幸, 熊野雅仁, 木村昌臣 (龍谷大)
- 生理指標の多変量解析に基づく個人に依らないストレス推定手法の研究
○井出裕人, ギョーム ロベズ, 酒造正樹, ジャンジャック ドロネー, 山田一郎, 浅野倫子, 横澤一彦 (東大)
- 子供の社会的行動理解のための発達段階別行動シミュレータの検討
○高林竜一, 石川翔吾, 桐山伸也, 北澤茂良, 竹林洋一 (静岡大)

学生セッション [3X 会場] (3月10日 (水) 9:30 ~ 12:00)

3次元画像処理・認識 座長 松田 一朗 (東理大)

- 多重アフィン変換を用いた古地図の幾何補正 ○鈴木胤匡 (近畿大)
- 空間コード化法を用いた偽形状検出に基づく複数剛体の形状計測
○阿久澤陽菜, 船富卓哉, 飯山将晃, 椋木雅之, 美濃導彦 (京大)
- (講演取消)
- 3次元ラドン変換を用いたサーフェスマデルレジストレーション
一位置ずれ・回転ずれの評価一
○島 拓矢 (新潟大), 長谷川誠 (近畿大), 田島慎一 (新潟大)
- 特徴点間の部分一致を考慮した遺物の自動復元に関する研究
○上野友里恵, 西田義人, 田中成典, 安彦智史 (関西大)
- 超広角カメラの移動による円筒内面展開画像生成
○薛 沛, 越後富夫 (大阪電通大)
- スケルトンを用いた異なるメッシュモデル間の対応点抽出
○中川 卓, 山崎俊彦, 相澤清晴 (東大)
- 景観シミュレーションに用いるテクスチャ画像の自動生成に関する研究
○Myat Mon Aye, 西田義人, 田中成典, 北川洋平 (関西大)
- 距離情報を用いた3次元物体認識
○水谷 了, 中村友昭, Attamimi Muhammad, 長井隆行 (電通大), 船越孝太郎, 中野幹生 (ホンダRII)

学生セッション [4X 会場] (3月10日 (水) 15:30 ~ 17:30)

画像処理 座長 横山 大作 (東大)

- エッシャー画像解析に基づく敷居画像生成システムの検討
○小西正浩 (芝浦工大), 山田辰美 (NTT), 徳永幸生 (芝浦工大), 杉山 精 (東京工芸大)
- 画像割符技術におけるシェア画像の圧縮
○熊谷美津子, 福岡久雄 (松江高専)
- 濃度傾斜光投影による高精細表面形状計測
○村上広樹, 織田英理, 岡田至弘 (龍谷大)
- 多点局所探索法による画像高解像度化における評価画像選定方法についての検討
○前田紘輝, 小嶋和徳, 伊藤慶明, 石亀昌明 (岩手県大)
- 特性可変フルーエンス DA 関数による高品質な画像拡大手法
○福井大樹, 片岸一起 (筑波大), 寅市和男 (フルーエンス研)
- 胸部 X 線画像における局所的類似性を考慮した陰影検出に関する研究
○千葉とし子, 西田義人, 田中成典, 打尾賢一 (関西大)
- 拡張型多重濃度共起行列フラクタル法を用いた欠損画像の補完 - 二次元ガボールウェーブレットによる参照領域の自動設定 -
○松尾健太郎 (芝浦工大), 山田辰美 (NTT), 徳永幸生 (芝浦工大), 杉山 精 (東京工芸大)
- 遺伝的アルゴリズムの適用によるキズ検出アルゴリズムのパラメータ調整法
○糸山修一, 河村 圭, 藤田悠介, 加藤 彬 (山口大)
- 撮影画像による床素材の静摩擦係数の推定 ○亀田修司, 島田知季, 山下良博, 小野里太志, 田村 仁 (日本工大)

学生セッション [5X 会場] (3月11日 (木) 9:30 ~ 12:00)

画像処理・認識 (3) 座長 杉山 岳弘 (静岡大)

- ネットワークに繋がった複数カメラによる人物追跡システムの構築
○岡本さやか, 花泉 弘 (法大)
- 顔画像追跡における精粗二段階制御方式の一検討
○土屋祐太, 周東 晃, 西村優一, 岡崎高志, 杉山豪一, 嶋 好博 (明星大)
- プロジェクトとカメラを用いた T 字パズルのスクリーン前面からの正解判定手法
○小栗奈緒美, 加島隆博, 師井聡子, 中島克人 (電機大)
- 特定空間における人の行動の言語化への取り組み
○落合恵理香, 小林一郎 (お茶の水女子大)
- ウェブレット変換を利用した文字領域推定
○的場亮太, 久保田光一 (中大)
- USB カメラを用いた防犯システムへの利用に関する研究
○大西篤史, 黒田久泰 (愛媛大)
- 画像解析に基づく個人認識を利用したコミュニケーション支援システムの設計
○越口 渉, 券田孝晴, 西山裕之 (東理大)
- User verification using Time-of-Flight camera image streams
○Felipe Gomez-Caballero, 篠崎隆宏, 古井貞熙 (東工大)

学生セッション [6X 会場] (3月11日 (木) 14:30 ~ 17:00)

対話 座長 清田 陽司 (東大)

- 文脈を考慮したロボットとの対話に関する研究 ○松元崇裕 (慶大)
- 文の類似性を用いた未知語処理手法の提案とそれに基づく円滑な対話
応答システムの作成 ○福岡知隆 (東京工科大), 税田竜一 (日本工学院八王子専門学校), 久保村千明 (山野美容芸術短大), 服部 峻, 亀田弘之 (東京工科大)
- 雑談型自由対話システムにおける常識知識の獲得・精練・利用法
○高柳俊祐, 石川 勉 (拓大)
- 擬人化エージェントによるマルチモーダルなカウンセリングシステムの構築
○江刺利彦 (東京工科大), 久保村千明 (山野美容芸術短大), 服部 峻, 亀田弘之 (東京工科大)
- オントロジーに基づく多様な発話に対応した対話システムの構築
○佐藤達也, 鈴木基之, 任 福継 (徳島大)
- 自由対話実現のための自動文章生成モデルの提案
○富坂亮太 (東大), 鈴木崇史 (国立情報学研), 相澤彰子 (国立情報学研/東大)
- 相手の嗜好にあった話題を提供する自動発話システムの開発
○林 輝大, 奥村紀之 (長野高専)

- 8 対話型観光地推薦システムにおける対話機能の改良
○磯崎 紘, 杉本 徹 (芝浦工大)
- 9 会話プログラムにおける諸課題に関する研究
○沢登 大, 皆月昭則 (鉏路公大)

学生セッション [1Y会場] (3月9日(火) 9:30 ~ 12:00)

- 画像生成 座長 岡部 孝弘 (東大)
- 1 輪郭を表現したアスキーアート生成の自動化 ○三宅克典 (東大),
Johan Henry (Nanyang Technological University),
Trigo Pablo Garcia, 西田友是 (東大)
- 2 A Research on Character's Facial Expression in Anime Production
○劉 苗苗, 三上浩司, 近藤邦雄, 茂木龍太,
伊藤彰教, 王 翰慶, 岡本直樹 (東京工科大)
- 3 Poisson Image Editingを用いた画像レタッチツールの開発
○楊 捷為, 宮岡伸一郎 (東京工科大)
- 4 イラストにおける陰影描画支援手法
○岡 良祐, 渡辺賢悟, 宮岡伸一郎 (東京工科大)
- 5 実写/CG合成アプリケーションにおける実写背景自動モデリング技術に関する研究
○清水大輔, 沼澤潤二, 青木輝勝 (東北大)
- 6 複数の顔器官イラストの組み合わせによる顔イラストの作成支援システム
○松野 匠, 佐藤晴彦, 小山 聡, 栗原正仁 (北大)
- 7 イラスト画像に対する対象物抽出 ○奥村亮仁, 三好 力 (龍谷大)
- 8 実写動画のイラスト風変換処理
○菊地翔太, 豊田敬央, 宮岡伸一郎 (東京工科大)

学生セッション [2Y会場] (3月9日(火) 15:30 ~ 17:30)

- 物体認識 座長 柳井 啓司 (電通大)
- 1 シフト特徴量を用いた図形パターンの認識
○小田慧介, 米元 聡 (九産大)
- 2 色情報と形状情報による領域結合グラフを用いた物体の学習と認識
○渡邊昌平, 川島隆輔, 柳原崇央, 早瀬光浩, 嶋田 晋 (中京大)
- 3 PCA-SIFTによる特定物体認識
○西澤卓史, 坂東忠秋, 中屋敷かほる (関東学院大)
- 4 HOG特徴を用いた道路標識の認識 ○嶋村 翔, 米元 聡 (九産大)
- 5 形状・色特徴を利用した毒キノコ識別支援ツールの評価方法に関する研究
○阿部俊祐, 小嶋和徳, 伊藤慶明, 石亀昌明 (岩手県大)
- 6 ステレオカメラ画像における認識へのサポートベクターマシンの応用
○大原 牧, 宗久知男, 丹沢 勉 (山梨大)
- 7 FPGAによるHistogram of Oriented Gradientsアルゴリズムの高速化
○山中悠歩, 山崎俊彦, 相澤清晴 (東大)
- 8 食事ログに向けた画像処理による料理の味推定
○宮崎達也, 山崎俊彦, 相澤清晴 (東大)
- 9 (講演取消)

学生セッション [3Y会場] (3月10日(水) 9:30 ~ 12:00)

- 線画像・画像検索・映像処理 座長 佐藤 真一 (国立情報学研)
- 1 線画像の表現
○大野正和, 周 小舒, 内藤俊彦, 吉田真澄 (筑波学院大)
- 2 1次元ヒストグラムとPolytope法を用いた線図形抽出法の提案
○劉 岳, 北園優希, 中島翔太, 張 力峰, 芹川聖一 (九工大)
- 3 幾何図形で構成された商標画像の類似検索に関する研究
○平松祐樹, 西田義人, 田中成典, 加藤雄大 (関西大)
- 4 画像の主観的特徴と客観的特徴を融合する類似画像検索インターフェースの構築
○川述文比古, 高野 茂, 岡田義広 (九大)
- 5 不応性を有する自己組織化特徴マップによる人工物領域を考慮した類似画像検索
○大川 巧, 長名優子 (東京工科大)
- 6 階層的クラスタリングを利用した高精度ショット境界検出の一検討
○梅田直樹, 青木輝勝, 沼澤潤二 (東北大)
- 7 コメント付きユーザ配信型ライブ放送の「面白い部分」を抜き出したアーカイブ化
○大泉 拓, 相田 仁 (東大)
- 8 コメント解析によるCGM動画のシーン処理
○松本尚也, 山崎俊彦, 相澤清晴 (東大)

学生セッション [4Y会場] (3月10日(水) 15:30 ~ 17:30)

- 顔・人物画像処理 (2) 座長 今井 順一 (電通大)
- 1 まばたき検出を用いたeラーニング受講者の生体判別
○吉樂拓也, Irfan C.M Aithaff, 野村収作,
中平勝子, 湯川高志, 福村好美 (長岡技科大)
- 2 平均顔画像を用いた顔角度15度における顔表情認識
○周東 晃, 土屋祐太, 西村優一, 小山欣幸, 嶋 好博 (明星大)
- 3 適応的学習機能を有する表情認識モデルに関する基礎研究
○須藤一向, 石井雅樹, 下井信浩 (秋田県大)
- 4 顔表情識別による聴講者の評価取得システムの設計と実装
○岩井祐太, 西山裕之 (東理大)
- 5 AAMを利用した表情の模倣
○福井竜一, 桂田浩一, 入部百合絵, 新田恒雄 (豊橋技科大)
- 6 顔画像の特徴点による個人の識別方式
○周 小舒, 大野正和, 内藤俊彦, 吉田真澄 (筑波学院大)
- 7 顔特徴点位置の統計的性質を利用した顔部品形状の抽出精度向上
○森田圭介, 今井順一, 金子正秀 (電通大)
- 8 画像情報処理によるハンドジェスチャ認識アルゴリズムの研究
○武田大暁, 須藤 智, 恩田憲一 (尚美学園大)
- 9 (講演取消)

学生セッション [5Y会場] (3月11日(木) 9:30 ~ 12:00)

- ロボットビジョン 座長 川本 一彦 (千葉大)
- 1 複数特徴量を統合したパーティクルフィルタによる物体の検出と追跡
○Muhammad Attamimi, 水谷 了, 中村友昭,
長井隆行 (電通大), 船越孝太郎, 中野幹生 (ホンダRIJ)
- 2 SIFT特徴量とHSVヒストグラムの組み合わせによる密なオプティカルフロー抽出手法
○齊藤健一, 富岡洋一, 北澤仁志 (農工大)
- 3 RoboCup標準プラットフォーム・リーグにおける光源の変化に対応する物体認識法
○太田義貴, 中村克彦 (電機大)
- 4 2×2.3×3に対応したルービックキューブロボットの開発
○天野 翔, 小谷信司, 渡辺寛望 (山梨大)
- 5 3Dセンサとレーザ式測域センサによるマッピングシステムの設計と製作
○高橋大樹, 茂木達也, 小野里太志, 山下良博, 田村 仁 (日本工大)
- 6 全方位カメラによる現在地の把握
○清水 渉, 源氏裕人,
平林由樹, 小川拓郎, 小野里太志, 田村 仁 (日本工大)
- 7 移動体の自己位置情報を利用した画像からの異常領域検出
○小山俊隆, 鈴木崇啓, 別所史浩, 原田達也, 國吉康夫 (東大)
- 8 周囲の複数歩行者の動きに応じて安全に自律移動するロボット
○鈴木正也, 今井順一, 金子正秀 (電通大)
- 9 移動ロボットと測域センサによる環境地図の自動生成
○佐和立章, 渡邊寛望, 小谷信司 (山梨大)

学生セッション [6Y会場] (3月11日(木) 14:30 ~ 17:00)

- 画像応用システム 座長 市村 直幸 (産総研)
- 1 テニスのダブルスにおける戦術習得支援システムの研究開発
○和泉結介, 西田義人, 田中成典, 木本直樹 (関西大)
- 2 主成分分析によるクラシックバレエとコンテンポラリーダンスの動作比較
○杉江和哉, 松岡剛史, 曾我麻佐子, 藤田和弘 (龍谷大)
- 3 単眼カメラを用いたサッカー映像解析のための複数選手とサッカーボールの追跡
○片岡裕雄, 青木義満 (慶大)
- 4 画像認識とセンサ情報を融合した自動車競技用運転支援システム
○小笠原聖悟, 小谷信司, 渡辺寛望 (山梨大)
- 5 (講演取消)
- 6 ジェスチャ入力を活用した壁面アミューズメントの開発
○田中 文, 西崎 敦, 岡本 誠, 高見友幸 (大阪電通大)
- 7 パーティクルフィルタによるテニスボール追跡
○永山恭平, 坂東忠秋, 中屋敷かほる (関東学院大)
- 8 画像処理によるバドミントン練習支援システム
○岡部孝裕, 坂東忠秋, 中屋敷かほる (関東学院大)
- 9 位置情報に基づいた携帯プロジェクトによる情報共有
○栗田祐輔, 小木哲朗 (慶大)

学生セッション [1Z会場] (3月9日(火) 9:30～12:00)

人工知能・応用システム 座長 熊野 雅仁 (龍谷大)

- 1 メール履歴を利用した学習に基づく誤送信メール推定システムの試作
○辻野友孝, 伊藤大樹, 柿元宏晃, 加藤健太,
白松 俊, 大園忠親, 新谷虎松 (名工大)
- 2 論文リポジトリに基づく研究支援のための対話的ユーザモデル構築
手法の提案 ○鈴木亮詞, 工藤聖広, 辻野友孝, 清水 堅,
白松 俊, 大園忠親, 新谷虎松 (名工大)
- 3 実演操作ログを用いたマニュアル作成支援システム
○小山充智, 高崎 隼, 辻野友孝,
清水 堅, 白松 俊, 大園忠親, 新谷虎松 (名工大)
- 4 スマートフォンを用いた分散共有ワークスペースに基づく
プレゼンテーション資料管理システム ○工藤聖広, 佐野博之,
平田紀史, 高崎 隼, 白松 俊, 大園忠親, 新谷虎松 (名工大)
- 5 スライドシーンに基づくスライド作成支援システムの実現
○清水 堅, 土井達也, 佐野博之, 工藤聖広,
白松 俊, 大園忠親, 新谷虎松 (名工大)
- 6 スライドシーンに基づくスライドリポジトリ構築手法の提案
○土井達也, 清水 堅, 伊藤大樹, 柿元宏晃,
白松 俊, 大園忠親, 新谷虎松 (名工大)
- 7 ペインティングソフトのためのハンドジェスチャインタフェース
○森月政博, 渡辺賢悟, 宮岡伸一郎 (東京工科大)
- 8 複雑ネットワークの3D可視化に対するジェスチャ操作
○亀井貴行, 熊野雅仁, 木村昌弘 (龍谷大)
- 9 失語症者向け遠隔会話支援ツール「指差しチャット」における会話支援
制御モデルの提案 ○下出裕也, 宮本翔平, 桑原和宏 (立命館大)

学生セッション [2Z会場] (3月9日(火) 15:30～17:30)

人工知能一般(3) 座長 小谷 善行 (農工大)

- 1 多値論理 EALP の知識表現による一貫性制約を用いた議論の意味論の計算
○深山竜太, 若木利子 (芝浦工大)
- 2 価値に基づく議論の解集合プログラミングによる計算
○龍沢昌宏, 若木利子 (芝浦工大)
- 3 解集合プログラミングによるアブダクションを用いた発想的議論の計算
○淡嶋綾子, 若木利子 (芝浦工大)
- 4 ブライバシーを考慮した個人・組織情報検索システム
○佐藤晋也, 佐藤加奈, 加藤 靖, 高橋 薫 (仙台高専)
- 5 プロパティの階層化を用いた教材資料からのオントロジ構築
○北村怜子, 塚本享治 (東京工科大)
- 6 NuSMV を用いたオントロジ検証
○阿部雄貴 (仙台高専), 和泉 論 (東北大),
本間 圭, 富樫 敦 (宮城大), 高橋 薫 (仙台高専)
- 7 CAPIS WEB における設計思考過程の表現を支援する成熟プロセス
機能に関する一考察 ○坂本康友, 金子正人, 武内 惇 (日大),
蘭田孝造 (マイクロテクノ)
- 8 設計思考過程の表現する CAPIS モデルにおける着眼点分割法の有用性の
評価 ○佐川嘉章, 金子正人, 武内 惇 (日大),
蘭田孝造 (マイクロテクノ)
- 9 Web 上における単語の意味関係の変化を把握する手法の提案
○関 良太, 岸 義樹 (茨城大)

デモセッション [デモ会場]

デー 02 (3月10日(水))

オーディオ-MIDI 符号化技術「オート符」の改良と楽器音による
テキスト音声合成システムへの応用 ○茂出木敏雄 (大日本印刷)

デー 10 (3月10日(水))

読影レポートを対象とした予測入力システム
○鷹合基行, 山根洋平, 服部主悟, 増市 博 (富士ゼロックス)

デー 14 (3月10日(水))

ちょっと賢いお友達感覚の自由対話システム
○久野由隆, 高柳俊祐, 鎌野仁史, 澤田有佑, 石川貴裕,
NUR'AENI WULANTIKA, 上条敦史, 石川 勉 (拓大)

一般セッション [4E会場] (3月10日(水) 15:30～17:30)

映像サービスとP2P 座長 小池 淳 (成蹊大)

- 1 高精細映像符号化のための動き予測手法の改善
○山岸秀一, 関口俊一, 山田悦久, 加藤嘉明, 村上篤道 (三菱)
- 2 動的サービス制御方式のインターネットストリーミングサービスへの拡張
○磯村 学, 今井尚樹, 吉原貴仁 (KDDI 研)
- 3 コミュニケーション中の動画同期視聴を可能とする再生タイミング制御方式
○大西健夫, 城島貴弘, 中島一彰 (NEC)
- 4 P2P VoD サービスにおけるデータの人気に基づくキャッシュの検討
○藤本貴也, 遠藤 侑, 松本 敬, 重野 寛 (慶大)
- 5 非構造化P2PネットワークにおけるピアのIDリストを使用した評判集約手法の提案
○松本愛咲, 真下 洋, 安富正矩, 重野 寛 (慶大)
- 6 低遅延P2P配信木の構築法
○高原 誠, 鈴木健二 (電通大), 田上敦士, 阿野茂浩 (KDDI 研)

一般セッション [5E会場] (3月11日(木) 9:30～12:00)

ユビキタス 座長 岩井 将行 (東大)

- 1 マルコフ連鎖モデルを用いた機器の利用時刻予測による待機電力の削減
○井上 剛, 小澤 順 (パナソニック)
- 2 患者案内システム用無線通信ネットワークの開発
○岡田英夫, 及川浩一, 池上 潤, 鎌田 徹 (富士通研)
- 3 ホームネットワークでのコンテンツ協調再生方式の実装と評価
○田坂和之, 今井尚樹, 磯村 学, 吉原貴仁 (KDDI 研)
- 4 ライフスタイルと地理的特徴との関係を利用した場所メタデータ自動生成
○前橋佳林, 桑野秀豪, 谷口行信, 阿久津明人 (NTT)
- 5 回収実績に基づく、廃食油回収ユビキタスネットの設計評価
○坂口勝章 (サイバー創研), 福山峻一 (大阪電通大), 黒田幸明 (サイバー創研), 田村 航 (コガソフウェア), 水本 学 (ステップ)
- 6 廃食油回収ロボット構成方法
○田村 航 (コガソフウェア), 水本 学 (ステップ), 福山峻一 (大阪電通大)
- 7 廃食油回収システム用ICカード会員情報の管理方式
○福山峻一 (大阪電通大), 田村 航 (コガソフウェア), 水本 学 (ステップ), 中林興太郎 (鳥取発エコタウン2020), 黒田幸明 (サイバー創研)

一般セッション [6E会場] (3月11日(木) 14:30～17:00)

クラウドと分散処理 座長 上原 稔 (東洋大)

- 1 統治型アーキテクチャの提案 - システム全体の整合性維持を自動化する仕組み -
○稲垣嘉信, 坂本 久, 島津秀雄 (NEC システムテクノロジー)
- 2 統合アクセス制御のための資源情報キャッシュ更新管理方式の性能評価
○但野紅美子, 町田文雄, 川戸正裕, 前野義晴 (NEC)
- 3 スレッドローカル変数を用いたWebアプリケーションのマルチテナント化方式の開発
○乾 敦行, 秋藤俊介, 高野英樹 (日立)
- 4 (講演取消)
- 5 複数クラウド間でスケールアウトやディザスタリカバリを実現するクラウド連携マネージャの設計と実装
○武田健太郎, 伊藤雅典, 山中顕次郎, 村上明彦 (NTT データ)
- 6 メディア処理向けクラウド基盤「虹雲」
○赤間浩樹, 松田基弘, 毛受 崇, 長谷川知洋, 内藤一兵衛, 山室雅司 (NTT)
- 7 分散データストリーム処理における自律pull制御方式の改善
○内藤一兵衛, 赤間浩樹, 長谷川知洋, 山室雅司 (NTT)

一般セッション [1F会場] (3月9日(火) 9:30～12:00)

モバイル通信とITS (1) 座長 石原 進 (静岡大)

- 1 異種ネットワーク連携を特徴とする通信網制御方式に関する一考察
○大島浩太, 田島孝治, 寺田松昭 (農工大)
- 2 マルチインタフェース連携省電力待ち受け方式の実装と評価
○今井尚樹, 磯村 学, 吉原貴仁 (KDDI 研)
- 3 携帯電話で構成したセンサネットワークにおける統計量集計のための通信制御方式の一検討
○西村康孝, 茂木信二, 吉原貴仁 (KDDI 研)
- 4 フェムトセルを活用したローカルブレイクアウトの実装評価
○千葉恒彦, 伊藤 学, 横田英俊 (KDDI 研)

- 5 車両遠隔操作を目的とした複数通信機切り替え手法の検討
○神田翔平, 羽鳥遼平, 内川亜美, 黒木智也, 原田 亮, 重野 寛 (慶大)
- 6 信号機付交差点に着目した車両モビリティモデルの検討
○原田 亮, 羽鳥遼平, 黒木智也, 内川亜美, 神田翔平, 重野 寛 (慶大)

一般セッション [2F会場] (3月9日(火) 15:30～17:30)

モバイル通信とITS (2) 座長 屋代 智之 (千葉工大)

- 1 自律移動機械のための階層化フレームワーク
○松原利之, 北浜謙一 (トヨタ), Franck Galpin, Fabien Grivot (ナレッジネット)
- 2 車載カメラによる追い越し車両検出方式の検討
○宮原景泰, 米山昇吾, 川又武典 (三菱)
- 3 デジタル放送メディアを用いた大容量交通情報配信手法の提案と評価
○鈴木信雄, 金井英樹, 林 康博 (トヨタ), 見並一明 (トヨタ IT 開発センター), 小林重令 (KDDI 研)
- 4 組込みネットワークにおける障害管理手法の検討
○岡田英明 (三菱)
- 5 FA ネットワークにおけるスレープ間通信方式の提案
○辻村達徳, 長川大介 (三菱)
- 6 Android 端末へのIrSimple プロトコルの実装
○湯村 悠, 豆田憲治 (シャープ)

一般セッション [3F会場] (3月10日(水) 9:30～12:00)

センシングシステム (1) 座長 大村 廉 (慶大)

- 1 端末プラットフォームにおけるサービスモビリティの実現方式
○桜田孔司, 小暮宗史, 石田武弥, 佐藤正樹, 畠中 啓 (OKI ネットワークス)
- 2 やさしい見守り型健康支援システムにおけるセンサデータを用いた知識フィルタリング手法
○和泉 諭, 小林有佑, 高橋秀幸, 菅沼拓夫, 木下哲男, 白鳥則郎 (東北大)
- 3 電子タグリーダーを搭載した携帯端末のためのポータルサービス提供方式の提案
○玉野真紀, 藤城孝宏, 山添孝徳, 福島真一郎, 濱田絃幸 (日立)
- 4 ウェアラブルコンピューティングにおける情報提示様式の評価
○小林敦友, 志築文太郎, 田中二郎 (筑波大)
- 5 個人対応型家電制御エージェントシステム
○山門和幸, 島本康弘, 有本祐基, 宮川善基, 小川 均 (立命館大)
- 6 ポケットに入れたセンサを用いた進行方向推定に関する一検討
○村松茂樹, 上坂大輔, 横山浩之 (KDDI 研)
- 7 ウェアラブル・環境センサの協調動作に関する検討
○中村雅之, 中村二郎 (NTT), 酒造正樹, 割澤伸一, 山田一郎 (東大)

一般セッション [4F会場] (3月10日(水) 15:30～17:30)

センシングシステム (2) 座長 川島 英之 (筑波大)

- 1 RF エナジーハーベスティングによる無線センサネットワークのノード構成の検討
○川原圭博, 浅見 徹 (東大)
- 2 沿岸漁業におけるマリンプロードバンドの活用
○和田雅昭 (はこだて未来大), 畑中勝守 (東農大)
- 3 住居内における複数 LRF による人移動軌跡計測システムの構築
○野口博史, 漆畑 亮, 佐藤崇浩, 森 武俊, 佐藤知正 (東大)
- 4 Alliba: 都市における携帯電話を利用した大規模環境センシング機構
○岩井将行, Hao Tian, 石塚宏紀 (東大), 石田泰之 (電機大), 岩本健嗣 (富山県大), 瀬崎 薫 (東大), 戸辺義人 (電機大)
- 5 DTW 法を用いた単純行動の認識を組み合わせた日常行動の認識方法の検討
○重岡 正, 糸川 剛, 北須賀輝明, 有次正義 (熊本大)
- 6 異種センサ統合によるセンサデータの欠落に頑健な人物動線検出手法
○森口有紀江, 小西勇介, 中尾敏康 (NEC)
- 7 ホームネット情報収集システムの検討と実装
○佐藤弓子, 寺本圭一, 寺島芳樹, 土井裕介 (東芝)

一般セッション [5F会場] (3月11日(木) 9:30～12:00)

社会システムとWeb 座長 金井 敦 (法大)

- 1 異なる連携プロトコルを仲介するプロキシ型属性情報管理システム
○畠山 誠 (NEC)
- 2 言語グリッドの世界展開に向けた連邦制運営モデル
○村上陽平 (NICT), 石田 亨, 稲葉利江子 (京大)
- 3 ブラウザのキャッシュと利用者操作ログを用いたWebアプリケーション高可用化手法の提案
○荒井大輔, 吉原貴仁 (KDDI 研)

- 4 Network-Centric Architecture 情報基盤
○寺園淳也(会津大), 福原英之(ネットワンシステムズ), 斎藤元和, 宮崎敬明, 斎藤梅朗, 岩瀬次郎, 林 隆史(会津大)
- 5 自律型 Web サービスの研究状況と課題 ○大谷 真(湘南工科大)
- 6 分散共有型情報場における実行主体の振舞いと束縛の相互関係
○坂下善彦, 富田昌平(湘南工科大)
- 7 入退室管理-照明連携省エネルギー制御システム-密集度定量化による照明制御技術- ○安田晃久, 金子洋介(三菱)

一般セッション [6F 会場] (3月11日(木) 14:30 ~ 17:00)

非常時通信・災害・長遅延 NW 座長 重野 寛(慶大)

- 1 非常時における地域の安全・安心確保のためのε-ARKデバイスを核とした情報通信環境の研究開発(第1報)総論 ○大野浩之(金沢大), 西 麻里, 松島英章, 前田昭夫(北陸通信ネットワーク), 米田 稔(COM-ONE), 井町智彦(金沢大)
- 2 非常時における地域の安全・安心確保のためのε-ARKデバイスを核とした情報通信環境の研究開発(第2報)普及啓発活動と実証実験について
○西 麻里(北陸通信ネットワーク), 大野浩之(金沢大), 松島英章, 前田昭夫(北陸通信ネットワーク), 米田 稔(COM-ONE), 井町智彦(金沢大)
- 3 非常時における地域の安全・安心確保のためのε-ARKデバイスを核とした情報通信環境の研究開発(第3報)新たな情報提供環境について
○米田 稔(COM-ONE), 大野浩之(金沢大), 松島英章, 前田昭夫, 西 麻里(北陸通信ネットワーク), 井町智彦(金沢大)
- 4 トリアージ支援ネットワークにおける搬送優先度を考慮した routing 手法の検討 ○田村寛樹, 友澤弘充, 小林ひかる, 重野 寛(慶大)
- 5 iPicket: 無線センサ網を用いた斜面崩壊災害検出システム
○岩井将行, 今井大樹(東大), 西谷 哲, 小林正典, 岡田謙吾(リプロ), 戸辺義人(電機大), 瀬崎 薫(東大)
- 6 低速な無線ネットワークにおけるストアアンドフォワードなデータ転送方式の実装と評価 ○坂本将光, 中谷 亘, 塚田晃司(和歌山大)
- 7 TCP-Cherry の実現へ向けて: 衛星 IP ネットワーク向け輻輳制御 TCP-Peach+ の実装と評価 ○内海哲史(東北大), Zabir S. M. Salim(フランステレコム), 白鳥則郎(東北大)

学生セッション [3Z 会場] (3月10日(水) 9:30 ~ 12:00)

アドホックネットワーク (1) 座長 柳生 智彦(NEC)

- 1 方向変化量に基づく無線ノード位置変化広告手法の評価
○尾根田倫太郎, 松垣博章(電機大)
- 2 MANET 環境における端末バッテリーに依存したフラッディング手法
○麻田浩二, 三好 力(龍谷大)
- 3 センサデータの分散管理システムにおけるプロアクティブ転送・検索機構
○井邊研吾, 陶山優一, 西原雄太, 藤原秋司, 横田裕介, 大久保英嗣(立命館大)
- 4 無線センサネットワークにおける省電力ルーティング手法のシミュレーションの試作 ○泉井雄仁, 後藤邦夫, 馬場隆章(南山大)
- 5 アドホックネットワークにおける片方向リンクを使ったルーティング方式
○小野智弘, 佐藤文明(東邦大)
- 6 アドホックネットワークにおける信頼値に基づく利己的ノードの検出とルーティング方式の提案 ○松嶋一樹, 佐藤文明(東邦大)
- 7 クラスターの再構築を利用したクラスタヘッドの循環手法の検討
○尾花志穂, 油田健太郎(大分高専), 岡崎直宣(宮崎大)
- 8 アドホックネットワークにおける近隣端末数に基づく経路構築手法の検討
○稲葉健吾, 油田健太郎(大分高専), 岡崎直宣(宮崎大)
- 9 アドホックネットワークにおけるゾーンを用いた複数経路構築手法の評価
○江藤 大, 油田健太郎(大分高専), 岡崎直宣(宮崎大)

学生セッション [4Z 会場] (3月10日(水) 15:30 ~ 17:30)

アドホックネットワーク (2) 座長 長谷川輝之(KDDI 研)

- 1 MANET 上の Geocast を用いたマルチキャストメンバ管理方式におけるデータ送信手法の評価
○三木 遼, 高橋 修, 白石 陽(はこだて未来大)
- 2 動的な発信時刻に基づくモバイルアドホックネットワークのマルチキャスト通信方式の改良とその評価
○趙 茜, 木村成伴, 海老原義彦(筑波大)
- 3 片方向リンクを含む MANET のためのマルチキャスト木参加/離脱手法の評価
○鈴木和久, 松垣博章(電機大)

- 4 (講演取消)
- 5 片方向リンクのある無線環境における MAC プロトコルの提案
○木村直登, 佐藤文明(東邦大)
- 6 補助チャネル導入による RH2SWL の適用性拡大効果の評価
○松村真吾, 松垣博章(電機大)
- 7 無線マルチホップ配送における通信容量予約手法
○辰野友祐紀, 大下桃子, 松垣博章(電機大)
- 8 高通信頻度環境における WR-B チャネル割当てプロトコルの性能評価
○河合健宏, 松垣博章(電機大)
- 9 すれ違い通信による情報伝搬モデルの特性評価
○末廣 創, 佐藤文明(東邦大)

学生セッション [5Z 会場] (3月11日(木) 9:30 ~ 12:00)

無線通信方式とアクセス制御 座長 横田 英俊(KDDI 研)

- 1 災害時における無線通信長距離化のための指向性アンテナ制御システムの構築
○旭澤大輔, 柴田義孝(岩手県大)
- 2 指向性アンテナを用いた耐干渉プロトコル
○木村真樹, 萬代雅希, 渡辺 尚(静岡大)
- 3 指向性アンテナを用いたオポチュニスティック型通信方式
○加藤泰大, 萬代雅希, 渡辺 尚(静岡大)
- 4 無線 LAN と共存するコグニティブ無線機器による周波数変更方式の提案
○高橋由多加(はこだて未来大)
- 5 コグニティブ無線における基地局電力制御によるユーザ効用の最大化
○森川貴康, 相田 仁(東大)
- 6 AP送信機会向上のための無線端末数に応じた IEEE 802.11 コンテンションウィンドウの制御方式
○江本奈穂, 木村成伴, 海老原義彦(筑波大)
- 7 ISM 帯を使用する無線規格間における電波干渉時の通信品質保証
○石倉功規, 小林秀幸, 杉浦彰彦(静岡大)
- 8 赤外線と無線電波によるハイブリッド無線通信及び DPS への応用に関する研究
○曹 き峰, 蔡 大維(岩手県大)

学生セッション [6Z 会場] (3月11日(木) 14:30 ~ 17:00)

インタラクティブシステム 座長 高橋 伸(筑波大)

- 1 FoodLog におけるカロリー推定補助
○北村圭吾, 山崎俊彦, 相澤清晴(東大)
- 2 ユーザの情報認知特性を考慮したデスクトップウィジェット
○ジェユン ジョン, 川原圭博, 横澤一彦, 浅見 徹(東大)
- 3 (講演取消)
- 4 振る舞いに適した鏡状情報提示システム "MIRROR ACTION" の提案と評価
○鈴木祥太(はこだて未来大), 小野哲雄(北大), 山本敏雄(はこだて未来大)
- 5 名所カム: 名所へ導くデジタルカメラ
○渡辺千穂, 塚田浩二, 椎尾一郎(お茶の水女子大)
- 6 キッチンにおける調理者の状況に適したインタフェース-まな板への情報提示とそのタッチ操作手法の開発-
○武田嵩太郎, 鈴木 優, 島村祐介, 朴 春子, 大和田創, 三末和男, 田中二郎(筑波大)
- 7 キッチンにおける調理者の状況に適した入力インタフェース-調理者の状況分析と入力インタフェースの開発および評価-
○島村祐介, 鈴木 優, 武田嵩太郎, 朴 春子, 大和田創, 三末和男, 田中二郎(筑波大)
- 8 MediAlarm: 起きたい度合いを考慮した起床支援システム
○沖 真帆, 塚田浩二, 椎尾一郎(お茶の水女子大)
- 9 FeliCa 乗車券による降車バス停情報を用いた観光案内システム
○佐藤 潤, 清水畑朋子, 佐藤永欣, 村田嘉利, 高山 毅(岩手県大)

学生セッション [1ZA 会場] (3月9日(火) 9:30 ~ 12:00)

運転支援 座長 桐村 昌行(三菱)

- 1 高齢者ドライバを遠隔地から見守るシステムの提案
○山岸弘幸, 渡邊 晃(名城大), 鈴木秀和(JSPS), 寺澤圭史(名城大)
- 2 助手席からドライバーへのナビゲーション情報提供支援の提案
○森川直哉, 仲谷善雄(立命館大)
- 3 自転車安全運転支援のための運転者の状態判定に関する基礎検討
○西條洗介, 藤波香織(農工大)
- 4 運転支援のための HROT-Platform による合意形成の評価
○Hong Kien Tran, 井手口哲夫, 田 学軍, 奥田隆史(愛知県大)

- 5 左側本線への合流のためのドライバー支援システム
○中村有貴, 仲谷善雄 (立命館大)
- 6 多重情報地図を用いた走行路検出手法の研究
○片野佑相, 小野口一則 (弘前大)
- 7 GPSにより取得したサーキット走行ログからの運転方法の改善に関する研究
○田中達也, 中村健二, 田中成典, 増満 光, 西江将男 (関西大)
- 8 個人用知的移動体のための制御プラットフォームの開発
○井上泰佑, 安田知加, 岸佳奈恵, 長尾 確 (名大)
- 9 個人用知的移動体による狭空間での安全走行支援
○岸佳奈恵, 安田知加, 井上泰佑, 長尾 確 (名大)

学生セッション [2ZA会場] (3月9日(火) 15:30~17:30)

ITS 応用 座長 関 馨 (日本自動車研)

- 1 制動力保持機構を持つブレーキシステムにおける可視光通信を用いた保持制御
○十文字健之, 新井義和, 今井信太郎, 猪股俊光, 曾我正和 (岩手県大), 千葉和幸 (中央車体), 河野准之 (ケー・アイ・イー)
- 2 VANETにおけるネットワークコーディングを用いた位置依存情報配布の検討
○楠嶺生宏, 石原 進 (静岡大)
- 3 走行車群におけるグループ内通信集中管理方式とその評価
○神谷卓史, 井手口哲夫, 田 学軍, 奥田隆史 (愛知県大)
- 4 走行車群におけるグループ形成に関する通信方式の評価
○岡村 拓, 井手口哲夫, 田 学軍, 奥田隆史 (愛知県大)
- 5 車車間通信を利用した運転支援システムの評価シミュレータの構築
○中村慎吾, 井手口哲夫, 田 学軍, 奥田隆史 (愛知県大)
- 6 地図情報に基づくDTNルーティングにおける交差点配送の性能評価
○岡啓明己, 桧垣博章 (電機大)

学生セッション [3ZA会場] (3月10日(水) 9:30~12:00)

ナビゲーションシステム 座長 谷越浩一郎 (日立)

- 1 集合知としての走行軌跡により地図を更新するカーナビゲーション
○菅原弘光, 佐藤永欣, 高山 毅, 村田嘉利 (岩手県大)
- 2 運転者の操作負荷を軽減した駐車場における車両探索システム
○及川 雅, 後藤隆宏, 新井義和, 今井信太郎, 猪股俊光 (岩手県大), 千葉和幸 (中央車体), 河野准之 (ケー・アイ・イー)
- 3 Human-Aware Guidance Robot with Wireless Sensor Network and RFID Fusion Navigation
○ギエルモ エンリケズ, 朴 善洪, 橋本周司 (早大)
- 4 自動走行可能な移動体によるミュージアムでの鑑賞体験の個人化
○安田知加, 井上泰佑, 岸佳奈恵, 長尾 確 (名大)
- 5 フィールドミュージアムにおけるまち歩き支援システムの検討
○工藤 彰, 窪田 諭, 市川 尚, 阿部昭博 (岩手県大)
- 6 GPSによる位置情報と歩行履歴情報を基にした歩行者ナビゲーションシステムの構築
○田畑大輝, 三井浩康 (電機大)
- 7 現在位置の周囲の地図をあえて消す観光ナビシステム
~道に迷うことの効果~ ○田中 健, 仲谷善雄 (立命館大)
- 8 紙地図を維持した歩行者ナビゲーション
○並木 豊, 中田龍太郎, 木實新一, 戸辺義人 (電機大)
- 9 無線LANのアクセスポイントを利用したナビゲーションシステムの開発
○張 楠, 内田 理 (東海大)

学生セッション [4ZA会場] (3月10日(水) 15:30~17:30)

交通管理 座長 梅津 高朗 (阪大)

- 1 自転車の走行情報を用いた混雑度の推定に関する検討
○菅生啓示, 宮崎 学, 中田龍太郎, 木實新一, 戸辺義人 (電機大)
- 2 列車車両の混雑推定法の提案 ○井上 歩 (東京工科大)
- 3 交通流制御のための情報提供戦略の学習 ○内田英明 (千葉大)
- 4 バリアブル料金法による高速道路渋滞緩和法 ○田附慶太 (東京工科大)
- 5 マルチモーダル交通シミュレータの開発と性能評価
○伊志嶺拓人, 赤嶺有平, 遠藤聡志 (琉球大)
- 6 オンデマンドバス運行管理ログを用いた知識抽出システムの構築
○柳澤 龍 (東大)
- 7 幼稚園向けバスロケーションシステムの開発
○淵 一馬, 池田勝洋, 石田 梢, 菊池純男, 駒谷昇一, 北川博之, 田中二郎 (筑波大)

学生セッション [5ZA会場] (3月11日(木) 9:30~12:00)

システム運用・管理 (1) 座長 今野 将 (千葉工大)

- 1 フロー特定による選択的パケットキャッシュを用いたP2Pトラフィック抑制手法
○佐々木健吾, 中尾彰宏 (東大)
- 2 P2P Web キャッシュ共有システムの高効率化の検討
○辻下武晋, 子安俊矢, 島田秀輝, 小坂隆浩, 佐藤健哉 (同志社大)
- 3 GINEを用いた大規模ネットワークエミュレーションと管理機能の追加
○浅野洋介 (南山大)
- 4 メールアドレスを介したWeb認証の自動化に関する提案
○川人彰文, 酒徳 哲, 北形 元, 木下哲男 (東北大)
- 5 多段キャッシュ型ネットワークストレージへのアクセスの時間的局所性を考慮したキャッシュ置換法 ○長廻雄介, 山口実靖 (工学院大)
- 6 パケット監視に基づくDNSキャッシュサーバ拡張システムの試作
○義田博一, 山内雪路 (阪工大)
- 7 A Proposal of Web Access Distribution Method Using PlanetLab
○Cheng TIAN, Ryota AYAKI, Tetsuya IWASAKI, Hideki SHIMADA, Takahiro KOITA, Kenny SATO (同志社大)
- 8 VLSDを用いた内部統制のためのバックアップ
○犬竹義洋, 友野敬大, 上原 稔, 島田祐次 (東洋大)

学生セッション [6ZA会場] (3月11日(木) 14:30~17:00)

システム運用・管理 (2) 座長 土井 裕介 (東芝)

- 1 パケットカウンタの分布に基づくDarknetトラフィックの解析
○杉本 周 (早大), 福田健介 (国立情報学研/JST), 廣津登志夫 (法大), 菅原俊治 (早大)
- 2 XQueryを用いたプログラマブルかつ軽量な大規模分散環境におけるモニタリングフレームワーク
○加辺友也, 田浦健次郎, 近山 隆 (東大)
- 3 実空間指向ネットワーク障害診断システムの実装と評価
○和田 佳, Ahmad Kamil Abdul Hamid, 川原圭博, 浅見 徹 (東大)
- 4 多対多動画配信システムにおけるSNMPを用いたネットワーク構造把握法に関する検討 ○日下真士, 三浦康之, 渡辺重佳 (湘南工科大)
- 5 グリーン指向情報処理基盤技術の確立に向けて
-次世代ネットワーク管理フレームワーク-
○小野寺健, 中村直毅, 菅沼拓夫, 白鳥則郎 (東北大)
- 6 通信アーキテクチャ GSCIP の管理運用評価
○村橋孝謙, 渡邊 晃 (名城大), 鈴木秀和 (JSPS)
- 7 大規模ネットワークにおける効率的なバンド幅マップ構築アルゴリズム
○長沼 翔, 田浦健次郎 (東大)
- 8 広域環境におけるRTTを用いたネットワークトポロジー推定
○水野 悠, 田浦健次郎, 近山 隆 (東大)

学生セッション [1ZB会場] (3月9日(火) 9:30~12:00)

ユビキタスデータ管理 座長 白石 陽 (はこだて未来大)

- 1 汎用ライフログデータの取得のための携帯端末の開発
○松本洋一郎, 相澤清晴, 山崎俊彦 (東大)
- 2 ネットワーク負荷を考慮したセンサデータ処理の一手法
○富田哲郎, 今井信太郎, 新井義和, 猪股俊光 (岩手県大)
- 3 TScan: 微気象センサネットワークの構築 ○高木篤大, 菅生啓示 (電機大), 岩本健嗣 (富山県大), 木實新一 (電機大), 小笠原拓也, 蔵田英之 (日本気象協会), 戸辺義人 (電機大)
- 4 無線センサネットワークを利用したセンシングデータ収集環境の構築と評価
○澤田尚志, 安部恵一, 峰野博史, 水野志則 (静岡大)
- 5 時系列補間クエリのためのセンサデータベースシステムの設計と実装
○荒井健次 (はこだて未来大)
- 6 住居内の動線及びセンサデータからの人間行動情報付加のための時区間検索システム ○山本祐輝, 野口博史, 森 武俊, 佐藤知正 (東大)
- 7 ウェアラブルカメラによる対人ログの取得と処理
○本多篤史, 山崎俊彦, 相澤清晴 (東大)
- 8 ライフログの継続的収集を目的としたアプリケーションの開発
○上田芳弘, 今間俊介, 高橋謙輔, 菅原俊治 (早大)
- 9 エナジーハーベストを用いたセンサネットワークにおけるデータ収集方式
○吉田将也, 木谷友哉, 萬代雅希, 渡辺 尚 (静岡大)

学生セッション [2ZB会場] (3月9日(火) 15:30～17:30)

ユビキタスネットワーク 座長 南 正輝 (東大)

- 1 ユーザ参加型無線LAN位置測定システムにおけるアクセスポイント移設の検出法 ○藤本慎太郎, 相田 仁 (東大)
- 2 動的適応システムにおける機器連携機構 ○田口和也, 須賀大輔, 久保田稔 (千葉工大)
- 3 ミドルウェアを用いたセンサネットワークシステム構築の柔軟性向上手法 ○加藤孝典, 三井浩康 (電機大)
- 4 マルチロボットセンサネットワークにおける駆動系の電力特性を考慮したデータ転送手法 ○松原俊太郎, 鈴木亮平, 岩井将行, 瀬崎 薫 (東大)
- 5 センサネットワークにおける通信状況を考慮したスループットの向上の一検討 ○塚本直幸, 中村吉伸, 藤原孝洋 (函館高専)
- 6 相互補完ネットワークシミュレーション ○渡部大樹, 山田罔裕 (東海大)
- 7 センサネットワークにおけるイベント伝播のためのプロアクティブ型経路構築手法 ○牧野雄太, 村山知弥, 加古崇文, 横田裕介, 大久保英嗣 (立命館大)
- 8 バッテリ残量を考慮したAODVの改良 ○菊川貴史, 奥村 勝 (福岡大)
- 9 ユビキタス・センサネットワークにおける多様な通信形態を考慮した通信プロトコル ○大澤秀一, 宇谷明秀, 山本尚生 (東京都市大)

学生セッション [3ZB会場] (3月10日(水) 9:30～12:00)

ユビキタス応用 (1) 座長 新井イスマイル (立命館大)

- 1 ベイジアンネットワークによる曖昧な発話入力を考慮した家電制御システム ○松本友里, 中村真吾, 橋本周司 (早大)
- 2 顔向き情報と移動軌跡を利用したデジタルサイネージの効果測定ツール ○南竹俊介, 高橋 伸, 田中二郎 (筑波大)
- 3 無線センサノードを用いた近接関係によるコミュニティ推定手法 ○江口洋平, 岩井将行, 瀬崎 薫 (東大)
- 4 近傍ユーザの興味と行動を考慮したコミュニケーション触発支援システム ○後藤田祥平, 吉田昭宜, 塚田晃司 (和歌山大)
- 5 マネーフローコンテキストを用いた購買情報のプッシュ型提示システム ○荻澤賢三, 志築文太郎, 田中二郎 (筑波大)
- 6 (講演取消)
- 7 買物客の戸惑い動作を利用した市場情報収集システム ○高田幸典, 荒川和也, 鈴木彰仁, 井上雅裕 (芝浦工大)
- 8 動作検知を用いたカメラ画像処理による混雑状況把握 ○近藤秀和, 今井慈郎, 堀 幸雄 (香川大)

学生セッション [4ZB会場] (3月10日(水) 15:30～17:30)

ユビキタス応用 (2) 座長 三末 和男 (筑波大)

- 1 異なる時間の写真をパッチング可能とする全方位パノラマビューアの開発 ○七里 慶, 新井イスマイル, 西尾信彦 (立命館大)
- 2 ユビキタス環境におけるユーザ情報を利用した資源調停方式の提案 ○一瓢達也, 綾木良太, 島田秀輝, 小坂隆浩, 佐藤健哉 (同志社大)
- 3 ZigBeeを用いた屋内空間ネットワークにおける通信の頑健性に関する考察 ○松尾 潤, 辻 順平, 川村秀憲, 鈴木恵二 (北大), 池田 剛, 幸島明男, 車谷浩一 (産総研)
- 4 ロケーション認識機能を持つ家庭内機器連携サービスの競合回避システム ○荒川和也, 飯酒孟優太, 縄崎北斗, 井上雅裕 (芝浦工大)
- 5 段階的なセンサデバイスの切り替えによるライフログセンシングのための省電力機構 ○坂本一樹, 坂本憲昭, 新井イスマイル, 西尾信彦 (立命館大)
- 6 無線センサネットワークの利用を前提とした複数ロボットの協調に関する研究 ○平山孔一, 宇谷明秀, 山本尚生 (東京都市大)
- 7 電力使用量のウェアラブル可視化による省エネルギー支援システム ○鈴木智道, 江原正規, 井上亮文, 星 徹 (東京工科大)
- 8 無線センサネットワークによる環境情報可視化の提案 ○戸口裕人, 小菅拓真, 綿貫理明 (専修大)

学生セッション [5ZB会場] (3月11日(木) 9:30～12:00)

ネットワーク応用 (1) 座長 地引 昌弘 (NEC)

- 1 無線LANにおける通信品質改善のためのMAC層の情報を利用したTCPウィンドウ制御 ○井尻恵也, 川島幸之助 (農工大), 大坐島智 (電通大)
- 2 無線LAN端末におけるチャネル競合端末数と有線区間の遅延を用いるTCP輻輳制御 ○平井敏之, 川島幸之助 (農工大), 大坐島智 (電通大)
- 3 センサネットワーク向け負荷適応型省電力MACプロトコル ○渡邊竜馬 (山形大), 荒井順平 (山形県産業技術短大), 小山明夫 (山形大)
- 4 OpenProxy: プログラマブルスイッチ「OpenFlow」による動的制御可能なレイヤ2透過プロキシシステム ○桜打彬夫 (立命館大), Rick McGeer (Hewlett-Packard Laboratories Palo Alto), 高田秀志 (立命館大)
- 5 IPv6におけるネットワークの隠蔽方式に関する検討 ○久保敷透, 渡邊 晃 (名城大), 鈴木秀和 (JSPS), 寺澤圭史 (名城大)
- 6 IPv6経路制御ヘッダを利用したマルチパス通信の実装 ○山田真貴, 田中昌二, 原山美知子 (岐阜大)
- 7 IEEE802.21を利用したMNの移動先セルの予測によるFHMPv6のハンドオーバー処理の改善 ○神山卓哲, 木村成伴, 海老原義彦 (筑波大)
- 8 A Global Network Information Architecture for Handover Support in Heterogeneous Networks ○Amani ABUQDAIS, 相田 仁 (東大)

学生セッション [6ZB会場] (3月11日(木) 14:30～17:00)

ネットワーク応用 (2) 座長 鈴木 亮一 (NTT)

- 1 携帯電話網をアクセス制御に用いた無線LAN相互利用システムの一検討 ○林 康平, 志賀信三, 大島浩太, 寺田松昭 (農工大)
- 2 アプリケーション特性に応じたネットワークの自動選択方式に関する一検討 ○志賀信三, 田島孝治, 大島浩太, 寺田松昭 (農工大)
- 3 宛先IPアドレスを考慮した省電力化のためのEthernetの通信速度切り替え方式 ○浅間美幸, 木村成伴, 海老原義彦 (筑波大)
- 4 メッセージ衝突を防止した適応的な集合通信 ○吉富翔太, 田浦健次朗 (東大)
- 5 NAT-fを応用したリモートアクセス方式GSRAの提案と実装 ○鈴木健太, 渡邊 晃, 鈴木秀和 (名城大)
- 6 分散型通信制御セキュリティシステムの組み込み機器への実装に関する考察 ○佐々木宏幸, 松田勝敬 (東北工大)
- 7 分散共有メモリ方式による情報場と構造化と実装 ○富田昌平, 二宮 洋, 吉田幸二, 坂下善彦 (湘南工科大)

学生セッション [1ZC会場] (3月9日(火) 9:30～12:00)

クラウドコンピューティング 座長 佐藤 文明 (東邦大)

- 1 ビジネスプロセスによるSaaSインテグレーションの提案と評価 ○近藤洋介, 中道 上, 青山幹雄 (南山大)
- 2 クラウドコンピューティングにおける高性能ファイルサービスの検討 ○小林賢司, 建部修見 (筑波大)
- 3 企業の情報漏洩を防ぐクラウドストレージサービス ○杉栄志郎, 三井浩康 (電機大)
- 4 SaaS/クラウドサービス間のメッセージ連携方法の提案と評価 ○バンドリ スワティ, 吉川千絵, 中道 上, 青山幹雄 (南山大)
- 5 クラウドサービスにおける分散コンポーネントフレームワークの検討 ○周 劫, 綾木良太, 島田秀輝, 小坂隆浩, 佐藤健哉 (同志社大)
- 6 クラウドコンピューティングの適用課題について ○寺島悠貴, 山原 亨, 大谷 真 (湘南工科大)
- 7 (講演取消)
- 8 MapReduceを活用したコンテンツベースレコメンデーションのための分散処理システム ○山本 努, 矢吹太郎, 佐久田博司 (青学大)
- 9 WEBベースのグリッドミドルウェア「Friendly Grid」の開発 - グリッド計算をより身近に - ○小矢英毅 (東工大)

学生セッション [2ZC会場] (3月9日(火) 15:30～17:30)

- P2P 座長 田上 敦士 (KDDI 研)
- 1 双方向通信に着目した暗号化 P2P トラヒックの解析
○鈴木将史, 梅村恭司, 阿部洋丈, 岡部正幸 (豊橋技科大)
 - 2 P2P ファイル共有ネットワークのグラフ的特徴の解析および評価
○平野 誠, 吉田雅裕 (農工大), 大坐昌智 (電通大), 川島幸之助 (農工大)
 - 3 P2P ネットワークを基盤とする大規模災害情報システムに関する研究
○康 偉, 柴田義孝 (岩手県大)
 - 4 類似性に基づく構造型ブルームフィルタの構成方式
○佐久間洋, 佐藤文明 (東邦大)
 - 5 アプリケーション層マルチキャストにおけるアーカイブ取得方式の提案とその応用
○坂野遼平, 佐藤晴彦, 小山 聡, 栗原正仁 (北大)
 - 6 異種端末が混在した P2P 型複製オブジェクト管理手法とその評価
○鈴木 悟, 櫻打彬夫, 高田秀志 (立命館大)
 - 7 DHT を用いた Web 情報交流手法
○伊藤嘉昭, 志田晃一郎, 横山孝典, 兪 明連 (東京都市大)
 - 8 分散ハッシュテーブル Chord におけるノードの動的再配置方式
○嶋野裕太, 佐藤文明 (東邦大)
 - 9 P2P ネットワークにおける B+ 木を用いた多次元の範囲探索手法
○松浦伸彦, 峰野博史 (静岡大), 石川憲洋 (NTT ドコモ), 水野忠則 (静岡大)

学生セッション [3ZC会場] (3月10日(水) 9:30～12:00)

- 災害時通信 座長 土屋 隆司 (鉄道総研)
- 1 チーム協調型シリアスゲームにおける異種システム連携法の提案
○志甫侑紀, 花村成慶, 菅原祐人, 小林佳雅, 古市昌一 (日大)
 - 2 発色光の変化により情報の伝達を実現する災害時通信方式の提案
○原山拓土, 塚田晃司 (和歌山大)
 - 3 瓦礫の下の生存者位置検出のためのレスキューレーダシステム
○村上太一, 青木義満 (慶大), 秋山いわか (湘南工科大), 斎藤英雄 (慶大), 後藤慎二 (タウ技研)
 - 4 災害時に有効な自己給電型無線中継基地局の開発
○鈴木稔浩, 佐藤剛至, 旭澤大輔, 柴田義孝 (岩手県大)
 - 5 統一的な時系列操作を可能とする災害情報提供システム
○佐々木豊, 柴田義孝 (岩手県大)
 - 6 WebGIS をベースとした電子ハザードマップ作成支援ツールの構築
○引地 舞, 柴田義孝 (岩手県大)
 - 7 SRK モデルを用いた災害対応支援システム
○横部 径, 仲谷善雄 (立命館大)
 - 8 効率的な地図構築のための群ロボット探索戦略
○中園雄太, 巳波弘佳 (関西学院大)

学生セッション [4ZC会場] (3月10日(水) 15:30～17:30)

- 社会システムと Web (1) 座長 小山 和也 (NEC)
- 1 多 VM 仮想化環境における高級言語型 web アプリケーションフレームワークの性能解析
○越智俊介, 山口実靖 (工学院大)
 - 2 VMware による動画並列エンコーダシステムの実装に関する評価
○柏木文徳, 三浦康之, 渡辺重佳 (湘南工科大)
 - 3 Virtual Computing Lab における ActiveDirectory との連携方式の提案
○森 皓生, 島崎聡史, 笠原卓也, 中澤昌史, 齋藤孝道 (明大)
 - 4 複数の通信データ型に対応したリアルタイム情報共有方式の提案
○尾崎惇史, 藤田 悟 (法大)
 - 5 セマンティック Web 技術を利用したマッシュアップツールの開発
○西村紅美, 塚本享治 (東京工科大)
 - 6 REST アーキテクチャを応用したサーババッシュプロトコルの提案
○吉崎順太, 中島 潤 (北海道情報大)
 - 7 ビジネスパターンに基づく共有データオブジェクト方式の Web サービス連携
○山口大貴, 坂下善彦 (湘南工科大)
 - 8 IMS における XDMS を利用した文書管理システムの検討
○須賀院吉伸, 乃村能成, 谷口秀夫 (岡山大)
 - 9 Geo マイクロフォーマットを用いた住所自動検出・地図表示システムの開発
○福田拓真, 力宗幸男 (兵庫県大)

学生セッション [5ZC会場] (3月11日(木) 9:30～12:00)

- 社会システムと Web (2) 座長 村井 信哉 (東芝)
- 1 消費生活用製品の所有状況自動収集および統括データベース化によるリコール支援システム
○飯酒丞優太, 縄崎北斗, 荒川和也, 井上雅裕 (芝浦工大)
 - 2 視聴者のコメント情報を用いた広告挿入アルゴリズムの検討
○長野将広, 齊藤義仰, 村山優子 (岩手県大)
 - 3 携帯電話を用いた UD 観光情報システムにおける広告配信の検討
○河本祐幣, 市川 尚, 窪田 諭, 阿部昭博 (岩手県大)
 - 4 モバイル端末のための推薦機能を持ったイベント案内パンフレットの開発
○楠本 康, 矢吹太郎, 佐久田博司 (青学大)
 - 5 場所依存の異常性検出に基づきインタビューを行う自律行動システム
○鈴木崇啓, 小山俊隆, 別所史浩, 原田達也, 國吉康夫 (東大)
 - 6 リアルタイム性の高い情報を対象とした地域情報共有システムの提案
○榎島 量, 田島孝治, 大島浩太, 寺田松昭 (農工大)
 - 7 共生型 3 次元仮想空間における共生感提供機能の一構成
○野口博司, 高橋秀幸, 菅沼拓夫, 白鳥則郎 (東北大)
 - 8 SIP を用いた携帯端末におけるイベント通知手法の提案
○村越一輝, 高橋 修, 白石 陽 (はこだて未来大)
 - 9 クラスタリングに基づく DHT による SIP アドレス解決手法の提案
○澤田あかね (はこだて未来大)
 - 10 安全な SIP セッション確立方式の提案とその評価
○田中真也, 木村成伴, 海老原義彦 (筑波大)

学生セッション [1ZD会場] (3月9日(火) 9:30～12:00)

- 位置・コンテキスト推定 (1) 座長 岩本 健嗣 (富山県大)
- 1 広域エリアをカバーする異常イベント検出に向けた省電力センサネットワークに関する一考察
○平山陽彦, 岩井将行, 瀬崎 薫 (東大)
 - 2 複数センサを用いたコンテキスト推定法の検討
○森岡英之, 新津善弘 (芝浦工大)
 - 3 無線センサネットワークにおけるコンテキスト情報の共有手法
○大橋崇弘, 久保田稔 (千葉工大)
 - 4 電波強度を用いた屋内環境向け検知システムの開発
○林原めぐみ, 藤井雅弘, 渡辺 裕 (宇都宮大)
 - 5 センサを用いた着席者行動取得システムの開発
○加藤勝悟 (千葉工大)
 - 6 ウェアラブルセンサを用いた子どもの行動識別
○三浦右士, 浜中雅俊 (筑波大)
 - 7 曲げセンサを用いた行動認識の検討
○武井優介, 中田龍太郎, 木實新一, 戸辺義人 (電機大)
 - 8 音響ライフログへのアノテーションのための話者と場所の自動分類
○山野貴一郎, 伊藤克巨 (法大)
 - 9 乗車中の電車を即時的に識別する手法
○永井敦裕, 新井イスマイル, 西尾信彦 (立命館大)

学生セッション [2ZD会場] (3月9日(火) 15:30～17:30)

- 位置・コンテキスト推定 (2) 座長 桐村 昌行 (三菱)
- 1 MB-OFDM 方式 UWB を用いた屋内測距技術
○寺田篤司, 杉本雅則 (東大), 橋爪宏達 (国立情報学研)
 - 2 センサネットワークによる高精度測位のためのビーコンノード選択手法の評価
○高橋健介, 横田裕介, 大久保英嗣 (立命館大)
 - 3 移動予測を用いたセンサーネットワークによる端末位置検出システム
○高澤光介, 佐藤文明 (東邦大)
 - 4 Imote2 を用いた高精度時刻同期に基づく ToA 測位システムの実現
○井上敬太, 金丸達雄, 濱千代貴大, 横田裕介, 大久保英嗣 (立命館大)
 - 5 全方位カメラによる参照画像を用いた屋内における位置推定 - デジタルミュージアムでの鑑賞者の行動記録に向けて -
○畑田晃希, 河治寿都, 山崎俊彦, 相澤清晴 (東大)
 - 6 (講演取消)
 - 7 屋内測位技術を応用した内線電話システムの開発
○下村勇介, 松野貴徳, 水由孝弘, 渡辺 哲, 菅沼 薫 (東京高専), 岩釣慎一郎 (モバイル・テクニカ), 小嶋徹也 (東京高専)
 - 8 GPS ログの解析による訪問店舗の自動抽出に関する研究
○深田周平, 中村健二, 田中成典, 増満 光, 西江将男 (関西大)
 - 9 害獣検知システムへの知的環境認識ネットワーク利用の検討
○柴田頼紀, 小林秀幸, 杉浦彰彦 (静岡大)

学生セッション [3ZD会場] (3月10日(水) 9:30~12:00)

位置・コンテキスト推定 (3) 座長 小林 亜令 (KDDI研)

- 位置推定されたノード群の相対位置関係の評価
○木山 昇, 内山 彰, 山口弘純, 東野輝夫 (阪大)
- 静止ノードの検出により測位回数を抑制する移動無線ネットワーク向け位置推定
○樋口雄大, 藤井彩恵, 山口弘純, 東野輝夫 (阪大)
- アドホックネットワークにおける端末間距離に基づく位置推定方式
○安原洗一, 佐藤文明 (東邦大)
- 無線ノードの隣接関係に基づくアドホックネットワーク配置推定
○伊藤 啓, 松垣博章 (電機大)
- 無線LAN利用における通信状況学習を用いた通信可能領域提示システムの提案
○藤咲 兼, 大島浩太, 寺田松昭 (農工大)
- アクティブセンシングに基づく携帯電話の状態推定における接触物体の差異による影響評価
○菅原康太, 白石 陽, 高橋 修 (はこだて未来大)
- 地磁気・加速度センサを用いた工場でのピッキング作業のモニタリングシステムの開発
○大塚昌太, 佐藤永欣, 村田嘉利, 高山 毅 (岩手県大)
- 子どもの危険状況検出システムの構築に向けたウェアラブルデバイスの実装
○宇佐美敦志, 孫 慈禧, 浜中雅俊, 李 昇姫 (筑波大)
- 携帯電話における情報統合による危険状態の識別
○成清裕之, 天野直紀 (東京工科大)

学生セッション [4ZD会場] (3月10日(水) 15:30~17:30)

マルチメディア情報システム 座長 高木 幸一 (KDDI研)

- 受信エラー耐性を有する分割スケジューリング放送方式に関する一検討
○安里 諒, 青木輝勝, 沼澤潤二 (東北大)
- (講演取消)
- 低遅延チャンネルザッピング実現のためのオーバーレイ型映像配信に関する一検討
○壹岐勇太郎, 青木輝勝, 沼澤潤二 (東北大)
- 小型メディア端末向けマルチメディア配信管理システム
○浦本和裕, 鈴木健二 (電通大)
- 端末間時刻同期を用いた動画同期視聴における操作性の向上
○森安 辰, 高野祐太郎, 大島浩太, 寺田松昭 (農工大)
- ストリーミング映像のチャンネル切り替え時間
○山本雅俊, 菊島浩二 (富山大)
- 利用者の通信環境に適合する分散協調型ライブ中継システムの提案
○河野康裕, 橋本浩二, 柴田義孝 (岩手県大)
- 配信経路とサーバ切り替えによるVODバッファリング時間短縮方式
○森口高樹, 伊藤 雅 (愛知工大)
- カメラの遠隔操作機能を有する画像収集アドホックネットワークの構成と特性
○神田景太, 川合 誠, 野口 拓 (立命館大)

学生セッション [5ZD会場] (3月11日(木) 9:30~12:00)

画像符号化とその応用 座長 上倉 一人 (NTT)

- 低レート静止画圧縮時の文字認識性能品質評価
○田中陽平, 杉浦彰彦 (静岡大)
- 符号化レートに対応した画像のサブバンド符号化における最適帯域分割
○白川将寛, 亀田昌志 (岩手県大)
- 動画像並列エンコーダのための簡易圧縮におけるハフマン符号化の改善法
○中根 翔, 三浦康之 (湘南工科大)
- 3次元コードにおける動画像符号化用フィルタ処理の検討
○坂田敬悟, 杉浦彰彦 (静岡大)
- 動画像符号化におけるアンカリング効果と画像内容との関係
○宮地祥子, 杉浦彰彦 (静岡大)
- 画像を用いた会場案内支援システムの開発
○田中 諒, 矢吹太郎, 佐久田博司 (青学大)
- 適応型ネットワークコーディングを用いたアドホックマルチキャストネットワーク
○星野 豊, 川合 誠, 野口 拓 (立命館大)
- 複数カメラ間の役割委譲による協調的画像データ取得手法
○千明 陽, 河合竹広, 松垣博章 (電機大)
- P2Pを用いた防犯カメラネットワークによる不審者監視システムにおける動体の軌跡推定
○渡部貴之, 長宝有希, 一戸勇太, 佐藤永欣, 高山 毅, 村田嘉利 (岩手県大)

デモセッション [デモ会場]

デー 13 (3月9日(火))

複数AS連携によるドメイン間通信の耐障害性向上

○屏雄一郎 (KDDI研), 中尾彰宏 (東大), 大岸智彦, 長谷川亨 (KDDI研), 山本 周 (NICT)

デー 15 (3月10日(水))

異なる時間の写真をパッチング可能とする全方位パノラマビューアの開発

○七里 慶, 新井イスマイル, 西尾信彦 (立命館大)

デー 19 (3月9日(火), 3月10日(水), 3月11日(木))

鉄道を対象としたリアルタイムな空間認知・移動支援を目的としたアニメーションマップ

○貴田達也, 有川正俊 (東大)

デー 22 (3月9日(火), 3月10日(水), 3月11日(木))

CoreLab: A Wide-Area Network Testbed for Emerging Network Services and Architectures

○Akihiro Nakao (東大), Ryota Ozaki, Yuji Nishida, Ping Du, Maoke Chen, Kiyohide Nakauchi, Richard Potter (NICT)

(セキュリティ)

一般セッション [1G会場] (3月9日(火) 9:30~12:00)

セキュリティ基盤 座長 菊池 浩明 (東海大)

- 楕円曲線暗号の安全性評価
○安田雅哉, 下山武司, 伊豆哲也, 小暮 淳 (富士通研)
- OCSPレスポンスキャッシュを利用したX.509認証パス検証の高速化
○佐藤 茜, 藤城孝宏, 熊谷洋子, 羽根慎吾 (日立)
- JCMVPに関するユーザ向けガイドライン試作
○楊 鵬, 松浦幹太 (東大)
- モバイル環境における情報開示制御機構
○本田篤史, 朝倉義晴, 才田好則 (NEC)
- 位置情報における匿名性・多様性保証とその活用
○宮川伸也, 森 拓也, 佐治信之 (NEC), 小林 功, 栗山桂一 (NTTドコモ)
- 電子ドキュメントに保護流通と来歴の管理
○西村知也, 島津秀雄 (NECシステムテクノロジー)

一般セッション [2G会場] (3月9日(火) 15:30~17:30)

ネットワークセキュリティ 座長 松浦 幹太 (東大)

- マルコフチェーンによるワードスパムの合成実験とその評価について
○鴨志田芳典, 菊池浩明 (東海大)
- Webメールフィルタリングシステムの機能拡張および性能評価
○浦川順平, 鈴木健二 (電通大)
- メール添付ファイルのトレースシステムの試作
○高 杰, 園田俊浩, 片山佳則, 津田 宏 (富士通研)
- SVMを用いたWindows向け異常検知システムの実装
○伊波 靖 (沖縄高専), 高良富夫 (琉球大)
- サンプリングによるNetFlowの生成とデータの観測について
○榊原裕之, 北澤繁樹, 河内清人, 藤井誠司 (三菱)

学生セッション [6ZD会場] (3月11日(木) 14:30~17:00)

ID連携・アクセス制御 座長 須賀 祐治 (IIG)

- OpenIDとLDAPの連携による認証統合
○柴沼溪一, 友野敬大, 上原 稔, 島田裕次 (東洋大)
- シングルサインオン認証に関する研究
○堀井信吾 (電機大)
- OAuthへのコンシューマ認可の組み込みに関する研究
○江波戸太基, 松本茂也, 友野敬大, 上原 稔, 島田裕次 (東洋大)
- 制御構造と論理言語を基にしたアクセス制御のポリシー記述言語の構築
○田原聖悟, 長谷部浩二, 加藤和彦 (筑波大)
- ポリシー強制ポイントをエンドホストで実現するための通信制御機構の提案
○大谷佳輝, 毛利公美 (岐阜大), 白石善明 (名工大), 福田洋治 (愛知教育大), 野口亮司 (豊通シスコム)
- エンドポイントでポリシー強制を行うアクセス制御モデル
○佐々木啓, 白石善明 (名工大), 毛利公美 (岐阜大), 福田洋治 (愛知教育大), 野口亮司 (豊通シスコム)

- 7 サーバサイドネットワークを保護するための TPM を用いた接続資格保証
基盤の提案 ○脇田知彦, 白石善明 (名工大), 毛利公美 (岐阜大),
福田洋治 (愛知教育大), 野口亮司 (豊通シスコム)
- 8 信頼できるメールアドレスを公開鍵とする Web ベース機密情報伝送
システムの提案 ○川村 舞, 白石善明 (名工大),
毛利公美 (岐阜大), 土井 洋 (情報セキュリティ大)
- 9 アドホックネットワークにおける相互評価された端末信頼度を考慮する
分散型公開鍵認証方式 ○立山崇之, 川合 誠, 野口 拓 (立命館大)

学生セッション [1ZE 会場] (3月9日 (火) 9:30 ~ 12:00)

ネットワークセキュリティ 座長 竹森 敬祐 (KDDI 研)

- 1 マルウェア解析のための仮想計算機モニタを用いたシステムコールフック
手法 ○吉村拓也, 野村和裕, 毛利公一 (立命館大)
- 2 マルウェア解析のための仮想計算機モニタを用いたシステムコール情報の
取得 ○野村和裕, 吉村拓也, 毛利公一 (立命館大)
- 3 ウイルス捕食プロセスシミュレーション
○小牧嵩征, 森口一郎 (東京情報大)
- 4 マルウェア解析の効率化手法の検討
○山口和晃, 堀合啓一, 田中英彦 (情報セキュリティ大)
- 5 P2P を用いたインターネット経路ハイジャック検知システム
○根本 昂, 鈴木常彦 (中京大)
- 6 分散協調監視アーキテクチャにおける拠点間の攻撃情報通知フレーム
ワークの開発と評価
○今間俊介 (早大), 福田健介 (国立情報学研/JST),
廣津登志夫 (法大), 菅原俊治 (早大)
- 7 Analysis and comparison of N-gram and TF-IDF algorithms for intrusion
detection ○耿 代, 小高知宏, 黒岩丈介, 小倉久和 (福井大)
- 8 文字列ごとの情報フロー追跡手法
○都井 紘, 塩谷亮太, 五島正裕, 坂井修一 (東大)
- 9 ネットワークフォレンジックシステム向けトラフィックデータ保存専用
ファイルシステムの開発 ○井上喬規, 中島 潤 (北海道情報大)

学生セッション [2ZE 会場] (3月9日 (火) 15:30 ~ 17:30)

認証プラットフォーム, 要求仕様 座長 津田 宏 (富士通研)

- 1 人間の歩容特性による個人認証方式の検討
○小堀裕貴, 金井 敦 (法大)
- 2 情報漏洩防止プラットフォーム
○横田侑樹, 塩谷亮太, 五島正裕, 坂井修一 (東大)
- 3 情報漏洩防止のためのプラットフォーム認証
○文 栄光, 塩谷亮太, 五島正裕, 坂井修一 (東大)
- 4 簡便なコンテンツ配布システムの提案とその安全性に関する検討
○大道健広, 多々内允晴 (豊田工業大)
- 5 ライセンス管理を目的としたログ活用手法の提案
○友野敬大, 上原 稔, 島田裕次 (東洋大)
- 6 漸進的分析による Web 予約システムのセキュリティ要件作成方法について
○武川 宏, 田中英彦 (情報セキュリティ大)
- 7 アクタ関係表に基づくセキュリティ要求分析手法 (SARM) の改良提案
○金子朋子 (情報セキュリティ大),
山本修一郎 (名大), 田中英彦 (情報セキュリティ大)

学生セッション [3ZE 会場] (3月10日 (水) 9:30 ~ 12:00)

暗号実装・解析 座長 鈴木幸太郎 (NTT)

- 1 処理能力の低いスクリプト言語と高速通信路を組合せる Web サービスの
ための ElGamal 暗号の依頼計算
○村田純一, 白石善明 (名工大), 毛利公美 (岐阜大)
- 2 Web クライアント上での暗号化のためのペアリング演算ライブラリの
ActionScript での実装
○本郷考一, 毛利公美 (岐阜大), 白石善明 (名工大)
- 3 共通鍵ブロック暗号回路の小面積実装手法の検討
○黒川悠一郎, 中西 愛, 藤野 毅 (立命館大)
- 4 Cell/B.E. での効率的な暗号処理モジュールの実装と評価
○杉浦 寛, 大釜正裕, 羅 鏡栄, 齋藤孝道 (明大)
- 5 異なる実装方法による暗号モジュールに対する離散フーリエ変換を用いた
CPA の適用 ○櫻井敦規, 黒川恭一, 岩井啓輔 (防衛大)
- 6 相関値の変化傾向に着目した篩い分けの CPA への適用
○若林邦爾, 黒川恭一, 岩井啓輔 (防衛大)

- 7 Optimal Average Joint Hamming Weight and Digit Set Expansion of
Integer Pairs

○Vorapong Suppakitpaisarn (東大/JST-ERATO-SORST),
枝廣正人 (NEC/東大)

- 8 ホスト間直接通信型ファイル配送システムのためのインスタントな
宛先 ID とホストだけが管理する秘密を用いたペアリングによる暗号通信
○疇地 悠, 毛利公美 (岐阜大),
白石善明 (名工大), 土井 洋 (情報セキュリティ大)
- 9 非線形写像に基づく 3次元モデルのためのステガノグラフィ
○笠原 翔, 高橋成雄 (東大)

学生セッション [4ZE 会場] (3月10日 (水) 15:30 ~ 17:30)

システムセキュリティ 座長 朴 美娘 (三菱)

- 1 秘密分散法を組み込んだ OpenOffice の評価 ○向井真哉 (芝浦工大)
- 2 個別閾値を用いたオンライン署名照合システム
○山田太一, 平川 豊 (芝浦工大)
- 3 リフティングウェーブレットによる音声認証に適したフィルタの設計
○深田晋吾, 高野 茂, 岡田義広, 藤崎清孝 (九大)
- 4 (講演取消)
- 5 単一の鍵で多重帰属できるグループファイル共有プロトコルの評価
○長澤悠貴, 白石善明 (名工大), 毛利公美 (岐阜大),
福田洋治 (愛知教育大), 野口亮司 (豊通シスコム)
- 6 GPGPU でのパスワードクラックツールの実装と評価
○笠原竜大, 杉浦 寛, 羅 鏡栄, 大釜正裕, 村上智祐, 齋藤孝道 (明大)

学生セッション [5ZE 会場] (3月11日 (木) 9:30 ~ 12:00)

プライバシー保護・トラスト 座長 小松 文子 (IPA)

- 1 ブログ記事自動抽出方式の検討 ○佐藤和紀, 金井 敦 (法大)
- 2 サービス間の位置情報共有のためのプライバシー保護を考慮した位置
情報管理システムの提案
○森 勇海, 高橋 修, 白石 陽 (はこだて未来大)
- 3 Anti-Collusion Privacy-Preserving Data mining ○楊 斌 (東大)
- 4 A Survey on Privacy Preservation in Wireless Sensor Networks
○李 継, 岩井将行, 瀬崎 薫 (東大)
- 5 ユビキタスセンサネットワークにおけるプライバシーを考慮した RDF
活用のサービス制御手法の検討 ○粟津光一, 一枚田隆史, 中川紘志,
平島大志郎, 加藤弘一, 勅使河原可海 (創価大)
- 6 セキュリティ対策選定のための関与者に応じた評価指標の検討
○佐々木剛史, 西村啓渡, 加藤弘一, 勅使河原可海 (創価大)
- 7 (講演取消)
- 8 商品の賞味期限管理を実現する POS システムの開発
○佐藤義祐, 藤原康宏, 村山優子 (岩手県大)

一般セッション [3G会場] (3月10日(水) 9:30~12:00)

知的ヒューマンインタフェース 座長 江渡浩一郎 (産総研)

- 1 探索歩行行動と心拍変動との関係に関する検討 ○本多 薫 (山形大)
- 2 Multimedia Travel Story Retrieval using Location Data and Spatial Queries
○GAMHEWAGE DE SILVA, 相澤清晴 (東大)
- 3 視線を用いた舞踊動作の特徴抽出 ○知念輝佳, 神里志穂子,
野口健太郎 (沖縄高専), 石田好輝 (豊橋技科大)
- 4 知識活動支援システムによる会議コンテンツ間の関連情報の獲得と
その応用 ○土田貴裕, 大平茂輝, 長尾 確 (名大)
- 5 言語グリッドによる Wikipedia の多言語議論支援
○高崎俊之, 石松昌展, 門脇恒平, 森田大翼, 嶋田雅彦,
松野 淳, 里田旭彦, 夏 琳思, 石田 亨 (京大)
- 6 読み書き時間を用いた片手間メールの送信確認支援
○後藤啓太, 倉本 到, 辻野嘉宏, 水口 充 (京工繊大)

一般セッション [4G会場] (3月10日(水) 15:30~17:30)

入出力インタフェース 座長 高橋 伸 (筑波大)

- 1 ジェスチャおよび手書き文字認識を搭載したタッチパッド付きリモコン
によるテレビ画面の操作性評価 ○大平英貴, 岡田隆三,
登内洋次郎, 浅野三恵子, 池 司 (東芝)
- 2 マルチタッチ環境における効率的で直観的な文字入力を実現する
"tBoard" システムの開発
○木下敦史, 山崎逸人, 藤宮慶彦, 疋田幸子 (シーレイシステム)
- 3 身体動作からの音制御インタフェースの開発
○山口友之, 橋本周司 (早大)
- 4 Interactive projected display on the palm without marker using computer
vision processing ○金 石煥, 高橋 伸, 田中二郎 (筑波大)
- 5 HMDを用いた拡張現実感技術向け物体情報の視覚的表現・比較手法
○中村 卓, 高橋 伸, 田中二郎 (筑波大)
- 6 ペンを握る力と筆圧を組み合わせたインタラクション手法
○鈴木 優, 三末和男, 田中二郎 (筑波大)

一般セッション [5G会場] (3月11日(木) 9:30~12:00)

ユーザインタフェース 座長 栗原 一貴 (産総研)

- 1 ベージめくりにおける紙の効果: 注釈付き文書の読みにおける紙と
電子メディアの比較 ○柴田博仁, 大村賢悟 (富士ゼロックス)
- 2 高解像度ディスプレイを使えば、紙と同じ効率で校正作業ができるのか?
○大村賢悟, 柴田博仁 (富士ゼロックス)
- 3 要約筆記の品質評価の試み ○高尾哲康 (富山国際大)
- 4 ペン入力による軌跡の平滑化処理に関するユーザビリティ評価
○富樫政徳, 大谷智子, 山崎俊彦, 相澤清晴 (東大)
- 5 Evaluating interaction with Popie using tilt gestures.
○Ayman Atia, Shin Takahashi, Jiro Tanaka (筑波大)
- 6 教育分野におけるVRを用いた3次元立体文化映像コンテンツの活用
に関する研究 ○鄭 松奎, 寺島信義 (早大)
- 7 認知的ウォークスルー法に基づく業務システム向けユーザビリティ評価
手法の提案 ○久野綾子, 富沢伸行 (NEC)

一般セッション [6G会場] (3月11日(木) 14:30~17:00)

CG一般 座長 岩崎 慶 (和歌山大)

- 1 対話的な点を用いた線画作成のための近傍点によりリパラメタライズ
可能な張力のあるベジェ曲線 ○佐藤 信, 三輪謙二 (岩手大)
- 2 形状類似性を用いたベジェ曲線のパラメータ変換
○佐藤 信 (岩手大)
- 3 形状類似性制約を用いた幅の変化する曲線作成法
○佐藤 信 (岩手大)
- 4 3DCG手法を用いた2次元画像中のテクスチャ特徴の視距離依存性評価
○尾崎敬二 (国際基督教大)
- 5 Rendering Dynamic Wet Fur Using Layered Textures
○パウロシルバ, 坂東洋介, 西田友是 (東大)
- 6 アニメーションのための布のシミュレーション制御
○福土竜一, 土橋宜典, 山本 強 (北大)

7 3次元地図の高速表示システム「デジタル青森」の開発と応用

○角田 均, 上谷暉輔, 新谷 敬, 石田 努,
小久保温, 坂井雄介, 和島 茂 (青森大)

一般セッション [1H会場] (3月9日(火) 9:30~12:00)

グループウェア一般 座長 市村 哲 (東京工大)

- 1 協調学習におけるスポットライトを用いた議論誘発インタフェース
○林 佑樹, 小尻智子, 渡邊豊英 (名大)
- 2 カジュアルミーティングにおける議論コンテンツの構造化とその応用
○石戸谷顕太郎, 小幡耕大, 大平茂輝, 長尾 確 (名大)
- 3 組織学習モデルを応用したソフトウェア上流工程の品質改善
○渡邊俊一, 青山浩二, 小幡明彦 (富士通研)
- 4 Language Grid Toolbox: 多言語コミュニティ支援のためのオープンソース
ソフトウェア ○田仲正弘, 村上陽平 (NICT), 稲葉利江子 (京大),
林 冬恵 (NICT), 石田 亨 (京大)
- 5 言語グリッドによる都市の多言語交流基盤の形成
- 京都 on 言語グリッド - ○稲葉利江子, 古白川亮太, 石松昌展,
嶋田雅彦, 後藤正浩 (京大), 甲斐信行 (京都情報大), 村上陽平,
田仲正弘, 林 冬恵 (NICT), 植田浩司 (京都情報大), 石田 亨 (京大)
- 6 番組コメント解析クラスタリング結果の考察
○有安香子, 金次保明, 浜田浩行 (NHK 技研)
- 7 映像制作におけるレビューコメントの構造分析と修正チェック支援
システム ○林 哲正, 杉山岳弘 (静岡大)

学生セッション [6ZE会場] (3月11日(木) 14:30~17:00)

ユーザインタフェース評価 座長 増井 俊之 (慶大)

- 1 情報とモノとの適合度に着目した情報環境デザインの検討
○森岡恭司 (芝浦工大), 飯塚重善 (神奈川大),
徳永幸生 (芝浦工大), 杉山 精 (東京工芸大)
- 2 歩行者およびドライバーの安全性の向上を目的とした情報の付加方法に
ついての検証 ○八田真由子, 天野直紀 (東京工大)
- 3 AAC教材の使用動作測定による操作性の比較
○具志堅翔, 山田志穂子, 野口健太郎,
佐竹卓彦, 具志堅一生 (沖縄高専)
- 4 ノートテイキングにおける紙と電子の差: 修正と要約効果の関連の検討
○山岡弘和, 中村太戯留 (東京工大),
田丸恵理子 (富士ゼロックス), 上林憲行 (東京工大)
- 5 熟達者による添削作業の比較研究: アノテーションの紙と電子の差
○藤巻冨也子, 中村太戯留 (東京工大),
田丸恵理子 (富士ゼロックス), 上林憲行 (東京工大)
- 6 カメラのシャッター音の合成による印象変化の考察
○重田美智代 (芝浦工大), 飯塚重善 (神奈川大),
徳永幸生 (芝浦工大), 杉山 精 (東京工芸大)
- 7 危険情報の提示による化学実験の安全技能向上支援原理の基礎検討
○宗官祥史, 稲川暢浩, 品川徳秀,
江木啓訓, 藤波香織, 西條洗介 (農工大)
- 8 2人の視聴者間の人間関係が動画コンテンツの評価に与える影響
○岡明日香, 片寄晴弘, 風井浩志 (関西学院大)
- 9 自動車製造工程の塗装作業における熟練技能数値化のための一検討
○岩淵 俊, 熊谷翔太, 松田浩一 (岩手県大)

学生セッション [1ZF会場] (3月9日(火) 9:30~12:00)

ペンとタッチ 座長 加藤 直樹 (学芸大)

- 1 タッチスクリーンを搭載した携帯情報端末のための Eye-Tracking
システムの開発
○佐藤広志, 山本倫也 (関西学院大), 長松 隆 (神戸大)
- 2 タッチスクリーンにおけるスケラビリティの高いポインティング手法
○鶴見玲欧, 郷健太郎 (山梨大)
- 3 タッチパネル面におけるスポイト操作の認識の実現
○堀 竜慈, 志築文太郎, 田中二郎 (筑波大)
- 4 発表者の手元の操作を聴衆に伝えるプレゼンテーションツール
○村田雄一, 志築文太郎, 田中二郎 (筑波大)
- 5 マルチタッチを利用した携帯端末用日本語入力方式
○君岡銀兵, 志築文太郎, 田中二郎 (筑波大)
- 6 テーブルトップ型HMIによるチーム協調型ゲーム操作法の提案
○武田智裕, 芹澤 元, 古市昌一 (日大)

7 圧力センサー付きタッチパッド搭載型リモコンを用いたリビングパソコン向けポインティング手法の提案と評価

○土居啓介, 角田博保, 赤池英夫 (電通大)

8 触覚のみで運用可能な入出力インタフェースの開発

○橋本祐輔, 橋田光代, 片寄晴弘 (関西学院大)

学生セッション [2ZF 会場] (3月9日(火) 15:30 ~ 17:30)

入出力インタフェース 座長 宮下 芳明 (明大)

1 非球面角膜モデルを用いた視線計測手法の提案

○岩本由貴奈, 菅野隆一, 長松 隆, 鎌原淳三 (神戸大), 山本倫也 (関西学院大)

2 輪郭映像を用いた会話システムにおける顔注視行動の分析

○花田 研 (芝浦工大), 米村俊一 (NTT), 徳永幸生 (芝浦工大), 杉山 精 (東京工芸大), 大谷 淳 (早大)

3 生体信号を活用したわくわくするインタラクティブシステムの開発と評価

○懸川裕貴 (芝浦工大)

4 タイルディスプレイ環境を考慮した大画面環境向けインタラクションデバイスの開発

○櫻庭 彬, 柴田義孝 (岩手県大)

5 2本のジョイスティックを用いた文字入力手法

- 視覚デザインと認識範囲について - ○木下彩香, 郷健太郎 (山梨大)

6 複数の音声認識器とマークを用いたマルチモーダルインターフェース

○武藤亮介, 嶋田和孝, 遠藤 勉 (九工大)

7 表示画面イメージに基づく一時的データ処理の提案

○橋本竜也, 福岡久雄 (松江高専)

8 3D 環境における移動手法 Presstick3D の提案と評価

○西山卓志, 角田博保, 赤池英夫 (電通大)

9 移動速度に応じた疑似 3D スクロールによる情報空間ナビゲーション

○中込訓之, 郷健太郎 (山梨大)

学生セッション [3ZF 会場] (3月10日(水) 9:30 ~ 12:00)

実世界指向 座長 暦本 純一 (東大)

1 ジェスチャーを用いた実世界マルチメディアメモシステム

○中井川峻, 高橋 伸, 田中二郎 (筑波大)

2 地磁気・加速度センサーを用いたジェスチャー文字入力システムの提案

○菊池紀善, 大橋健介, 村田嘉利, 高山 毅, 佐藤永欣 (岩手県大)

3 ジェスチャーによるロボット操作を可能とするインターフェースの提案と実装

○山田 渉, 西山裕之 (東理大)

4 電子ブックリーダーにおける物理的ページング操作を可能にしたセンシング装置の開発

○王 允龍, 羽山徹彩, 国藤 進 (北陸先端大)

5 現実の物体をゲームオブジェクトとして利用したタッチテーブルアプリの開発

○中田星矢, 永井裕樹, 高見友幸 (大阪電通大)

6 Storing digital contents references in physical objects

○Ho Ying Wong, 高橋 伸, 田中二郎 (筑波大)

7 ARToolKit を用いた手の動作入力 ○山本和典, 齊藤 剛 (電機大)

8 BoxFinder: 写真を利用した物探し支援システム

○小松崎瑞穂, 塚田浩二, 椎尾一郎 (お茶の水女子大)

9 ご近所知るえっと: 身近な他人の緩やかなコミュニケーション支援

○中森玲奈 (お茶の水女子大), 青木貴司 (東大), 椎尾一郎 (お茶の水女子大)

10 おんせんはいったー: 外湯めぐりシステムと連動したtwitterエージェント

○富永祐衣 (お茶の水女子大), 山本吉伸 (産総研), 椎尾一郎 (お茶の水女子大)

学生セッション [4ZF 会場] (3月10日(水) 15:30 ~ 17:30)

ロボットとエージェント 座長 坂本 大介 (東大/JSPS)

1 タスクに適応可能なロボットモジュールの開発

○中根愛斗, Pitoyo Hartono (はこだて未来大)

2 テーブルトップヒューマンロボットインタラクションのためのToolkitの設計と評価

○小野島昇吾, Mi Haipeng, 杉本雅則 (東大), Krzywinski Aleksander (University of Bergen)

3 ロボットスクリプト用モーション作成システムの研究

○山口 司, 今井倫太, 大村 廉, 大澤博隆, 野田誠人, 大隅俊宏, 桑山裕基, 藤本健太 (慶大)

4 マルチタッチテーブルトップ環境におけるロボットプログラミングのためのジェスチャー設計

○新島有信, 藤田智樹, 米 海鵬, 杉本雅則 (東大)

5 ロボットの意思表示によるインタラクションの円滑化

○山形佳祐, 大本義正, 西田豊明 (京大)

6 ロボットとの対話的操作における不明確性の解消

- 非学習領域における不明確性解消の性能 -

○本間 輝 (芝浦工大), 米村俊一 (NTT), 徳永幸生 (芝浦工大), 杉山 清 (東京工芸大)

7 回転式カメラを用いた共同存在感を示す遠隔インタラクション手法

○張 慶椿 (筑波大)

8 壁面移動型二次元エージェントによる自動アンケートシステムの提案

○谷口祐司, 今井倫太, 大村 廉 (慶大)

9 対面者との相互作用を目的とした表情合成に関する研究

○鷹野拓也, 羽倉 淳, 樽松理樹, 藤田ハミド (岩手県大)

学生セッション [5ZF 会場] (3月11日(木) 9:30 ~ 12:00)

Web 応用 座長 小林 稔 (NTT)

1 選別機能を持ったWEB アノテーションシステムの提案

○駄竹栄太, 中山泰一 (電通大)

2 個人情報空間フレームワークにおけるハイパーテキスト化された電子メール引用の視覚化

○小早川隆嗣, 後藤文太郎 (北見工大)

3 多表示領域を用いた文書検索手法の提案と評価

○小橋のり子, 郷健太郎 (山梨大)

4 (講演取消)

5 表データ操作をRDBで強化したWikiシステム

○奥村俊也 (電通大), 丸山一貴 (東大), 寺田 実 (電通大)

6 Wikipedia 記事編集支援のための編集履歴可視化システム

○塩谷圭甫, 金井秀明 (北陸先端大)

7 TwitterBOT によるモノ人コミュニケーションの活性化

○田中 悠 (東京工科大), 堀口悟史 (慶大), 渡邊大樹, 井上亮文, 星 徹 (東京工科大)

8 手書きを用いた動画上の非同期コミュニケーションシステム

○平山 慧 (電通大), 丸山一貴 (東大), 寺田 実 (電通大)

学生セッション [6ZF 会場] (3月11日(木) 14:30 ~ 17:00)

知的ヒューマンインタフェース 座長 渡辺奈夕子 (東芝)

1 机上動作の認識による能動的な人間支援システムの開発

○横山法子, 山口友之, 橋本周司 (早大)

2 室内全体の動きと音からの場の割り込み許容度推定可能性の検討

○佐藤茂樹, 田中貴紘, 藤田欣也 (農工大)

3 視線と頭部姿勢に着目したユーザの興味推定

○高橋宣裕, 羽倉 淳, 樽松理樹, 藤田ハミド (岩手県大)

4 ディスカッションマイニングにおける発言中の指示対象の取得とその応用

○清水元規, 木内啓輔, 土田貴裕, 大平茂輝, 長尾 確 (名大)

5 ユーザの状況に合わせた行動支援システムの提案

○瀬良知央, 湯浅将英, 大山 実 (電機大)

6 インターネット GIS による道路情報収集システムの構築

○今野 早, Prima Oky Dicky A., 伊藤久祥 (岩手県大), 宮腰直人 (日本自動車連盟), 細江達郎 (岩手県大)

7 歴史資料画像におけるオブジェクト群の集合化手法の検討

○西郷智気 (芝浦工大), 安達文夫 (国立歴史民俗博物館), 徳永幸生 (芝浦工大), 杉山 精 (東京工芸大)

8 アニメーション作品における声優の感情発声の自動分類

○原雄太郎, 伊藤克亘 (法大)

学生セッション [1ZG 会場] (3月9日(火) 9:30 ~ 12:00)

コミュニケーション支援 座長 綾塚 祐二 (クウジツ)

1 打楽器演奏による感性コミュニケーションツールの提案

○河瀬裕士, 仲谷善雄 (立命館大)

2 伝言タグを用いて入退室時に行う伝言コミュニケーション

○藤原仁貴, 志築文太郎, 田中二郎 (筑波大)

3 パーソナルテンボ引き込みによる2者間の会話支援の試み

○延谷直哉, 仲谷善雄 (立命館大)

4 アバタージェスチャー辞書のユーザフィードバックを用いた自動生成手法

○滝 由貴, Breitfuss Werner, 石塚 満 (東大)

5 遠隔地との共同インタラクション支援システム

○田 雨, 高橋 伸, 田中二郎 (筑波大)

- 6 "●" プロンプタを用いるコミュニケーションシステムにおける
メッセージ表現の分析 ○飯田真也 (芝浦工大), 米村俊一 (NTT),
徳永幸生 (芝浦工大), 杉山 精 (東京工芸大), 大谷 淳 (早大)
- 7 絵文字の選択を容易にしたチャットシステムの作成
○鹿谷安孝, 平山 亮 (金沢工大)
- 8 スライド隠蔽機能を付加したプレゼンテーションシステムの開発
○原 一史, 渡辺富夫, 神代 充 (岡山県大)
- 9 お弁当箱を介したコミュニケーション支援システム
○小谷尚子, 塚田浩二, 渡邊慶太, 椎尾一朗 (お茶の水女子大)

学生セッション [2ZG 会場] (3月9日 (火) 15:30 ~ 17:30)

- グループウェア一般 座長 金井 秀明 (北陸先端大)
- 1 実空間上のオブジェクトを用いた頭部動作情報の相互伝達システムの開発
○森田大介, 吉野 孝 (和歌山大)
- 2 CVE における空間バージョン管理とアクセス制御を用いた非同期協調
作業支援システムの研究 ○山田貴彦, 柴田義孝 (岩手県大)
- 3 携帯情報端末 iPod touch を用いた児童の健康支援システムの開発
○東 拓央, 長田伊織, 吉野 孝 (和歌山大)
- 4 音声記録を用いたアイデア共有システムの開発
○田呂丸智史, 吉野 孝 (和歌山大)
- 5 複合的なメディアを活用した模擬エンタテインメントのフィードバック
サービス ○上野 歩, 中村亮太, 上林憲行 (東京工科大)
- 6 広告配信サービスにおけるハブ・モデルを用いた広告の寿命決定モデルの
提案と実装 ○福井 悠, 吉田昭宜, 塚田晃司 (和歌山大)
- 7 高速道路自然渋滞抑制システム ○中島剛史, 市村 哲, 小林祐貴,
俵 昭宏, 中村真吾 (東京工科大)

学生セッション [3ZG 会場] (3月10日 (水) 9:30 ~ 12:00)

- 知的活動支援 座長 小林 一郎 (お茶の水女子大)
- 1 「動きのスケッチ」を用いたインタラクションデザインの高速試作支援
システムの提案
○矢部裕亮 (芝浦工大), 杉崎正之, 望月崇由 (NTT レゾナント),
徳永幸生 (芝浦工大), 杉山 精 (東京工芸大)
- 2 知的照明システムのためのウェブユーザインタフェース自動生成システム
○西田 健, 三木光範, 廣安知之, 吉見真聡 (同志社大)
- 3 電子機器制御に関するユーザビリティ向上のためのインターフェース構築
○井上紗都美, 大和田勇人, 難波和明 (東理大)
- 4 運動テンポの変化を楽曲リズムで支援するシステムの提案
○足立幸祐, 仲谷義雄 (立命館大)
- 5 協調的な作問を可能にする試験用紙作成支援サービス
○塚田雅規, 上林憲行, 中村亮太 (東京工科大)
- 6 モデル駆動に基づく多重インタラクション設計方法
○青木宏幸, 池田大樹, 杉山雄弥, 中道 上, 青山幹雄 (南山大)
- 7 論理的思考を支援するシステムの提案と考察
○平澤翔太, 佐藤雄哉, 皆月昭則 (釧路工大)
- 8 知識空間の可視化と共有支援システムの開発とその利用
○神田賢一, 大本義正, 西田豊明 (京大)

学生セッション [4ZG 会場] (3月10日 (水) 15:30 ~ 17:30)

- 協調基盤と意思決定支援 座長 由井園隆也 (北陸先端大)
- 1 問いかけに基づく日常活動のウェアラブル支援システムとその評価
○大脇佑平, 志築文太郎, 田中二郎 (筑波大)
- 2 過去の状況への気づきを支援するライブカメラ映像提示手法
○野上僚司, 志築文太郎, 田中二郎 (筑波大)
- 3 カジュアルミーティングにおける状況に応じた過去の議論内容の検索と
提示 ○小幡耕大, 石戸谷顕太郎, 大平茂輝, 長尾 確 (名大)
- 4 インスタントメッセージを用いた会話における半自動議事録生成
システムの提案 ○清水皓生, 佐々木淳, 山田敬三 (岩手県大)
- 5 知識活動支援システムにおけるタスク管理と文脈情報の可視化
○木内啓輔, 清水元規, 土田貴裕, 大平茂輝, 長尾 確 (名大)
- 6 合意形成における集団的意思決定の質に関する研究
○鈴木将也, 皆月昭則 (釧路工大)
- 7 AHP を用いた大規模グループ意思決定支援システムの試作
○中川裕輝, 藤田桂英, 伊藤孝行 (名工大)
- 8 議論構造の共同可視化編集機能を有する会議支援システム
○荒井康友, 中野鐵兵, 藤江真也, 小林哲則 (早大)

学生セッション [5ZG 会場] (3月11日 (木) 9:30 ~ 12:00)

- 組織知 座長 関 良明 (NTT)
- 1 ファイル提供要求に対する確実な応答を誘発し遺漏のない情報流通を
支援するシステムの提案
○羽佐田貴紀, 毛利公美 (岐阜大), 白石善明 (名工大)
- 2 知識創造モデルの共同化プロセスにおける知識流通を支援するシステム
○福山 悠, 白石善明 (名工大), 毛利公美 (岐阜大)
- 3 写真の観察と再現描画を通じた知識創造過程についての一考察
○渡辺裕太, 渡邊和太, 崎山 充 (釧路工大),
林 秀彦 (鳴門教育大), 皆月昭則 (釧路工大)
- 4 (講演取消)
- 5 短期的な世代交代のある組織における注記事項伝承システムの構築
○橋本峻平 (電通大), 関 良明 (NTT), 諏訪博彦 (電通大)
- 6 組織における文献を基にした知識共有手法の提案
○山本悠介 (電通大), 関 良明 (NTT), 諏訪博彦, 橋本峻平 (電通大)
- 7 思い出を用いた知識継承支援~大学のピアサポートを対象とした試み
○石橋 将 (立命館大)
- 8 大学研究室における散在する情報を時間軸上に統合する知識共有支援
システム ○近藤 吏, 樋山淳雄 (東京学芸大)
- 9 ブラウズ機能を持った家庭用アプリケーションのプラットフォーム
構築への取り組み ○中福亨莉, 小林一郎 (お茶の水女子大)

学生セッション [6ZG 会場] (3月11日 (木) 14:30 ~ 17:00)

- 医療支援 座長 仲谷 善雄 (立命館大)
- 1 拡大代替コミュニケーションのためのジョイスティック型マウスの開発
○具志堅一生, 山田志穂子, 野口健太郎,
佐竹卓彦, 具志堅翔 (沖縄高専)
- 2 特別支援教育のためのタッチセンサに関する研究
○砂川真純, 野口健太郎, 佐竹卓彦, 神里志穂子 (沖縄高専)
- 3 屋内環境向け視覚障害者歩行支援システムの開発
○鈴木慶太, 中村有貴, 藤井雅弘, 渡辺 裕 (宇都宮大)
- 4 自律移動可能な電動車椅子の設計と製作
○一戸 航, 山下良博, 小野里太志 (日本工大)
- 5 思い出を用いた療養中患者間のコミュニケーション支援
○木原崇博, 仲谷善雄 (立命館大)
- 6 グループホームにおける高齢者の水分補給システムの検証
○松本明華, 原田康平, 皆月昭則 (釧路工大)
- 7 救命救急ヘリコプターの運航クルーにおける組織的知識共有・創造
プロセスにおける一考察
○佐野奈津子, 崎山 充, 皆月昭則 (釧路工大)
- 8 看護師間の申し送りにみられる知識創造に関する一考察
○崎山 充 (釧路工大), 松下まゆみ (釧路孝仁会記念病院), 佐藤雄哉,
平澤翔太, 佐野奈津子, 渡辺裕太, 渡邊和太, 皆月昭則 (釧路工大)

学生セッション [1ZH 会場] (3月9日 (火) 9:30 ~ 12:00)

- モデリングとレンダリング 座長 三谷 純 (筑波大)
- 1 点群データの投影を用いた簡易的な建物の形状抽出方法
○石田翔平, 天野直紀 (東京工科大)
- 2 3D スキャンモデルの圧縮率操作手法と、3DCG への応用の考察
○大槻勇貴, 森 正壽 (近畿大)
- 3 5次 Pythagorean Hodograph 曲線の対話的生成
○片山諒一, 吉田典正 (日大), 斎藤隆文 (農工大)
- 4 多数の重なりを持つ帯の結び目構造入力インタフェース
○熊谷一生, 松田浩一 (岩手県大)
- 5 近似形状の自動組み上げが可能なユニット折り紙モデリングシステム
○田村友和, 高井昌彰 (北大), 高井那美 (北海道情報大)
- 6 粘土と針金による工作を模した三次元モデリング・インタフェース
○森 有司, 志築文太郎, 田中二郎 (筑波大)
- 7 サーフェス記述子を用いた山岳形状における積雪の表現
○中谷文香, 藤代一成, 大野義夫 (慶大)
- 8 格子構造を参照する適応的フォトンマッピング
○渡邊理也, 藤代一成, 大野義夫 (慶大)
- 9 フォトンマッピングにおけるリアルタイムな放射輝度の推定
○飯塚俊輝, 藤代一成, 大野義夫 (慶大)

- 10 Global Illumination を導入した織布の異方性透過モデル
- カーテンアニメーションカタログの制作 -
○野村周平, 水嶋彬貴, 長田典子 (関西学院大)

学生セッション [2ZH 会場] (3月9日(火) 15:30 ~ 17:30)

- ビジュアルシミュレーションと可視化 座長 竹島由里子 (東北大)
- 1 植物生理学的要因と外的要因を考慮した落葉のビジュアルシミュレーション
○阿部健志, 菊池 司, 伊藤弘樹 (拓大)
 - 2 ドミノ倒しのビジュアルシミュレーション
○上田篤史, 藤代一成, 大野義夫 (慶大)
 - 3 対流計算を高速化した氷塊融解ビジュアルシミュレーション
○上田悟史, 岩崎 慶, 内田英行 (和歌山大)
 - 4 物体表面に付着する泡を考慮した炭酸水の気泡ビジュアルシミュレーション
○西川武志, 楽詠コウ (東大), 金森由博 (筑波大), 西田友是 (東大)
 - 5 流体解析に基づく波の形状制御
○千葉雄太, 土橋宜典, 山本 強 (北大)
 - 6 酸性雨データの可視化
○嶋村篤之 (農工大), 古谷雅理 (東京海洋大), 齋藤隆文, 原 宏 (農工大)
 - 7 監視カメラ画像閲覧のための集約画像作成・提示手法の改良
○鈴木惇司 (農工大), 古谷雅理 (東京海洋大), 齋藤隆文 (農工大)
 - 8 大規模粒子系の対話的可視化によるパラメータスタディ支援
○新坂拓真, 竹島由里子, 菊川豪太, 小原 拓 (東北大), 藤代一成 (慶大)
 - 9 空間的なアドレス表現を用いたアルゴリズムアニメーションによるプログラム理解支援ツール
○小池伸弥, 郷健太郎 (山梨大)

学生セッション [3ZH 会場] (3月10日(水) 9:30 ~ 12:00)

- IBR と NPR 座長 茅 暁陽 (山梨大)
- 1 超解像処理を用いた拡張 TIF
○犬丸秀人, 水野浩雅, 岡田至弘 (龍谷大)
 - 2 イメージベースレンダリングを用いたインテリアシミュレータの開発
○澤 寛子, 藤代一成, 大野義夫 (慶大)
 - 3 携帯カメラを用いた PRT のための環境マップ生成法
○中西良太, 岩崎 慶 (和歌山大)
 - 4 3次元形状データの線画表示における破線化防止法
○安田 優, 山口 泰 (東大)
 - 5 デザイナの意図を考慮した線描法の提案
○櫻井良昭, 藤代一成, 大野義夫 (慶大)
 - 6 3次元モデルのダイレクト点描画レンダリング
○佐貫裕介, 藤代一成, 大野義夫 (慶大)
 - 7 濃淡頻度分布を用いたカラーチョーク・ストロークの再現
○諸橋菜衣, 藤代一成, 大野義夫 (慶大)
 - 8 2次元画像から水墨画風画像の生成
○前川尚美, 西尾孝治, 小堀研一 (阪工大)
 - 9 写真を用いた漫画背景の生成 ○黎 明, 藤代一成, 大野義夫 (慶大)
 - 10 鳥瞰案内図の作成支援環境の開発
○佐々木啓文, 藤代一成, 大野義夫 (慶大)

学生セッション [4ZH 会場] (3月10日(水) 15:30 ~ 17:30)

- 情報可視化 座長 伊藤 貴之 (お茶の水女子大)
- 1 アンカーマップにおける放射状ラベル配置手法の開発
○包 涵, 三末和男, 田中二郎 (筑波大)
 - 2 視覚的要素の配置・色を用いた多次元カテゴリデータの分析ツール
○白石宏亮, 三末和男, 田中二郎 (筑波大)
 - 3 多様で大量なグラフデータを対象とする可視化ツール
○渡邊都明, 塚本享治 (東京工大)
 - 4 奥行き手がかりを用いた平行座標法の視認性の改善
○Welly Partogi HUTAGAOL, 高橋成雄 (東大)
 - 5 タワーマップ: 2部グラフ構造と量的情報を同時提示する3次元可視化手法
○伊藤隆朗, 三末和男, 田中二郎 (筑波大)
 - 6 (講演取消)
 - 7 大量の活動情報の多角的俯瞰を可能にする可視化ツール
○矢崎聖也, 三末和男, 田中二郎 (筑波大)
 - 8 局所的な円周配置を用いた動的ネットワークの可視化ツール
○菱田哲史, 三末和男, 田中二郎 (筑波大)
 - 9 表と連結図の特徴を組み合わせた時系列データ分析ツール
○結城 崇, 三末和男, 田中二郎 (筑波大)

学生セッション [5ZH 会場] (3月11日(木) 9:30 ~ 12:00)

- アニメーション 座長 栗原 恒弥 (日立)
- 1 Sketch Interface for Multiple Region Matching in 2D Cartoon Coloring
○Pablo Garcia Trigo (東大), Henry Johan (Nanyang Technological University), 西田友是 (東大)
 - 2 モーションデータの編集と動作変形 ○木平大介, 齊藤 剛 (電機大)
 - 3 モーションデータの特徴抽出とその可視化
○平尾義之, 齊藤 剛 (電機大)
 - 4 3DCG キャラクタの動作生成に関する一手法
○中西正行, 竹林佑介, 小堀研一 (阪工大)
 - 5 多様な3D キャラクタのための特徴関節による効果的な表現入力法の検討
○万谷勇輝, 松田浩一 (岩手県大)
 - 6 動画像処理による野球投球動作の特徴の可視化
○東 庄平, 齋藤隆文 (農工大)
 - 7 スポーツ解析のための一視点ビデオ映像からの三次元モーション復元
○笠原慎也, 藤代一成, 大野義夫 (慶大)
 - 8 髪の毛同士の間相互作用を考慮した詳細な髪の毛のアニメーション
○Witawat Rungjiratananon (東大), 金森由博 (筑波大), 西田友是 (東大)
 - 9 3DP 形フリーエ記述子を用いた感情を伴う動作の生成
○東 路子, 竹林佑介, 西尾孝治, 小堀研一 (阪工大)
 - 10 対話型進化計算とウェブレット変換を用いたモーション作成システムの開発
○若山雄己, 高野 茂, 岡田義広 (九大), 西野浩明 (大分大)

学生セッション [6ZH 会場] (3月11日(木) 14:30 ~ 17:00)

- CG システム・応用 座長 安藤 英俊 (山梨大)
- 1 飛行機をモチーフにしたデフォルメキャラクターのデザイン原案作成支援システムの開発
○田中 希, 岡本直樹 (東京工大), 茂木龍太 (武蔵野美大), 松島 渉, 近藤邦雄, 三上浩司, 金子 満 (東京工大)
 - 2 動物をモチーフにしたデフォルメキャラクターのデザイン原案作成支援システムの開発
○工藤菜央, 岡本直樹 (東京工大), 茂木龍太 (武蔵野美大), 松島 渉, 三上浩司, 近藤邦雄 (東京工大)
 - 3 インタラクティブなシェーディング編集システムの開発
○岩崎 航, 土橋宜典, 山本 強 (北大)
 - 4 ライトの色を用いた演出シミュレーションのためのデジタルスクラップブックの提案
○佐々木達郎, 兼松祥央, 三上浩司, 近藤邦雄 (東京工大)
 - 5 CG 映像制作のためのリテラル情報を用いた照明設計支援手法の提案
○兼松祥央, 三上浩司, 近藤邦雄, 金子 満 (東京工大)
 - 6 Hybrid Images を利用した掲示板
○丹山瑞樹 (農工大)
 - 7 エコ温室栽培システムの動作アニメーション
○岡 翼, 依田知之, 紫合 治 (電機大), 松本二郎, 井藤俊行 (京葉ガス)
 - 8 歴史的文化的財の3D技術による復元
○長谷川聡, 杉本直也, 成岡浩二, 長澤可也 (湘南工大)
 - 9 Google Earth における Google SketchUp3D モデルの利用
○セン宜ホウ, 森 正壽 (近畿大)
 - 10 リアルタイム等距離射影変換のためのフラグメント精緻化
○城島由奈, 藤村真生 (阪工大)

学生セッション [1ZJ 会場] (3月9日(火) 9:30 ~ 12:00)

- VR とセンサ・ディスプレイ 座長 大倉 典子 (芝浦工大)
- 1 円筒型マルチタッチインタフェースにおける片手3Dポインティング手法の評価
○内藤真樹, 志築文太郎, 田中二郎 (筑波大)
 - 2 マルチタッチテーブルを活用した合奏ゲームアプリの制作
○藪 貴晶, 高見友幸 (大阪電通大)
 - 3 測域センサによる足の位置と動作の認識手法
○鈴木茂徳, 高橋 伸, 田中二郎 (筑波大)
 - 4 足踏みによる歩行感覚体感デバイスの開発 (第5報) -3軸加速度を利用した歩行・足踏みの評価指標の検討 -
○針山拓人, 大倉典子 (芝浦工大)
 - 5 近赤外線レーダーを用いたインタラクティブ床面ディスプレイアプリの制作
○堀江亮志, 山脇直樹, 葛原一成, 高見友幸 (大阪電通大)
 - 6 多方向から鑑賞可能な空中像ディスプレイ FloasionTable
○和田拓朗, 苗村 健 (東大)

- 7 絵筆の触感と描き味を実現する複合現実型描画システム
○杉原賢次, 大槻麻衣, 木村朝子, 柴田史久, 田村秀行 (立命館大)
- 8 ToDO-WorkBoard : 各種タンジブルデバイスを活用する電子作業台
○吉田大地, 福田健悟, 木村朝子, 柴田史久, 田村秀行 (立命館大)
- 9 物体の内部構造を考慮した力覚提示手法
○中島佳衣, 渡辺大地 (東京工科大)

学生セッション [2ZJ 会場] (3月9日 (火) 15:30 ~ 17:30)

- AR 基礎 座長 水口 充 (京産大)**
- 1 AR 空間における背景画像と仮想物体の光学的整合性の改善
○若岡弘典, 片寄晴弘, 橋田光代 (関西学院大)
- 2 人工特徴点マーカの援用による AR/MR 追跡法の位置合わせ精度の向上
○増川照道, 樋下 航, 一刈良介, 天目隆平, 柴田史久, 田村秀行 (立命館大)
- 3 異性能計算機で構成された遠隔触覚協働環境のための仮想柔軟物体の同期手法の検討
○備藤達郎, 田川和義, 田中弘美 (立命館大)
- 4 赤外線を用いた座標取得方法を利用した AR コンテンツ
○宮本 溪, 太田高志 (東京工科大)
- 5 拡張現実感技術を用いたネットワーク及びリソース管理システムの設計と実装
○岡田昌和, 綾木良太, 島田秀輝, 小坂隆浩, 佐藤健哉 (同志社大)
- 6 GPS と画像特徴マッチングによる強化現実コミュニケーションシステム
○田中秀明, 高井昌彰 (北大)
- 7 Web 情報処理を用いた拡張現実感システムの設計
○衛門一樹, 松浦 寛, 西山裕之 (東理大)

学生セッション [3ZJ 会場] (3月10日 (水) 9:30 ~ 12:00)

- AR システム・応用 座長 太田 高志 (東京工科大)**
- 1 車いす用周辺状況把握装置の製作と評価
○堀越大輔, 山下良博, 小野里太志, 田村 仁 (日本工大)
- 2 拡張現実感を用いた新たな観光パンフレットの提案
○藤本義治 (はこだて未来大), 小野哲雄 (北大)
- 3 拡張現実感を用いたノート PC 上の音符入力支援システム
○内山健太, 井上亮文, 星 徹 (東京工科大)
- 4 投影型拡張現実システムの食卓への応用
○森 麻紀 (お茶の水女子大), 栗原一貴 (産総研), 塚田浩二, 椎尾一郎 (お茶の水女子大)
- 5 複合現実感を利用したコマ撮り手法による 3DCG アニメーション制作の提案
○岡村のり子, 太田高志 (東京工科大)
- 6 タッチパネルと AR を組み合わせたインタラクティブなゲームコンテンツの研究
○小酒井春香, 太田高志 (東京工科大)
- 7 AR を用いたコミュニケーションサポートのための人間相関表示システム
○黒木帝聡, 太田高志 (東京工科大)
- 8 AR を用いた学習用 Paper-Top Interface の試作と予備実験
○森山利幸, 山田佳幹, 光原弘幸, 金西計英, 矢野米雄 (徳島大)

デモセッション [デモ会場]

デー 06 (3月10日 (水))

詳細な青森県の 3D 景観の高速表示を実現する 3D GIS「デジタル青森」
— 基本システムおよび水質や国勢調査データの重畳表示などの紹介
○小久保温, 上谷彊輔, 角田 均, 坂井雄介, 石田 努, 和島 茂, 新谷 敬 (青森大)

デー 16 (3月10日 (水))

RomanPP Handwriting: Myanmar Language Text Input Interface for Non-natives
○Kyaw Thu Ye, 浦野義頼 (早大)

デー 17 (3月9日 (火))

多方向から鑑賞可能な空中像ディスプレイ FloasionTable
○和田拓朗, 苗村 健 (東大)

デー 18 (3月11日 (木))

ペン入力による軌跡の平滑化処理に関するユーザビリティ評価
○富樫政徳, 大谷智子, 山崎俊彦, 相澤清晴 (東大)

デー 20 (3月10日 (水))

マルチタッチテーブルを活用した合奏ゲームアプリの制作
○藪 貴晶, 高見友幸 (大阪電通大)

デー 21 (3月10日 (水))

近赤外線レーダーを用いたインタラクティブ床面ディスプレイアプリの制作
○堀江亮志, 山脇直樹, 葛原一成, 高見友幸 (大阪電通大)

(コンピュータと人間社会)

一般セッション [2H 会場] (3月9日 (火) 15:30 ~ 17:30)

- コンピュータと社会 座長 野田五十樹 (産総研)**
- 1 英語俳句サイト Shiki の奇跡 -Shiki Team 年代記
○墨岡 学 (松山大), 和田 武, 田中喜美代 (愛媛大), 井上博民 (愛媛県監査事務局), DAVID BOGDAN (愛媛大)
- 2 参加企業数に基づいた産業連関表の構築とその検討
○井上寛康 (阪産大)
- 3 人口密度ポテンシャルによる東南アジア大陸部人口分布の分析
○梅川通久 (東京外語大)
- 4 博物館における学芸員ガイドのシナリオ分析に基づく解説モデルと学習コンテンツのデザイン
○寺坂尚浩, 加藤勇樹, 杉山岳弘 (静岡大)
- 5 Web 版「全国方言文法辞典」の構築に向けて
調査データの報告システム開発について
○林 良雄, 日高水穂 (秋田大)
- 6 Digital Cultural Heritage 構築における画像評価方法の提案とその実践
○研谷紀夫 (東大), 三橋 徹, 高橋英一 (凸版印刷)
- 7 多言語会話文、語彙データを利用した災害救援者教育用アプリケーションの開発
○平松初珠, 石島 梯 (大阪府立産総研), 萬宮健策, 山根 聡, 堀 一成 (阪大)

一般セッション [3H 会場] (3月10日 (水) 9:30 ~ 12:00)

- 教育学習支援システム 座長 中村 純 (広島大)**
- 1 学生の学習を軸にした大学教員間のつながりを作る学習支援について
- 授業間のつながりから教員間のつながりへ -
○長谷川紀幸 (横浜国大)
- 2 学生の修学データを用いた修学指導支援システムの検討
○伊藤宏隆, 舟橋健司, 山本大介, 内匠 逸, 松尾啓志 (名工大)
- 3 携帯電話を利用した授業支援環境導入における複数科目間での効果の差異についての一考察
○岩井憲一, 世ノ一善生, 板東美智子 (滋賀大)
- 4 記述式試験採点作業支援システムにおける精度向上のためのジェスチャー入力方式
○宮原隆行 (上武大)
- 5 E-learning と連携した対面型授業支援システムの提案
○長尾和彦, 松本優幸, 石丸武臣, 栗田圭佑, 坂口ちさと, 宮岡まこと (弓削商船高専)
- 6 e-learning における SCORM 規格によるコンテンツ分散共有のためのリポジトリシステムの開発 (第 4 報)
- 学習者撮影のための動画リポジトリの実装と SCORM 規格による管理手法の提案 -
○石田 惇, 田中文基, 小野里雅彦 (北大)

一般セッション [4H 会場] (3月10日 (水) 15:30 ~ 17:30)

- 情報技術教育, 教育情報システム 座長 皆月 昭則 (釧路公大)**
- 1 情報処理技術者資格取得支援の取組み
~ 学習支援のための多面的アプローチ ~
○小川仁士, 佐々木宣介, 肖 貴貴, 宇野 健, 竹本康彦 (広島県大)
- 2 情報技術演習システムを利用した学習者の評価
- S-P 表分析法とシステム利用率を用いた評価 -
○佐々木龍, 泉 隆 (日大)
- 3 松江高専における OSS を活用したネットワーク管理者育成事業
○岡田 康, 池田総一郎, 川見昌春, 廣瀬 誠, 原 元司, 金山典世 (松江高専), 岡 宏憲 (コーデトイズ), 長谷川弘, 星野秀夫 (セコム山陰)
- 4 課題生成・正解判定機能を備えた SQL 実習支援システムの実用評価
○岡田信一郎, 西山幸二, 半田哲也, 福田亮太, 松本拓也 (茨城大)
- 5 ブラウザを利用した初学者のための統計解析ソフトウェアの開発
○矢原弘樹 (筑波大)
- 6 セキュア性と帯域制限の条件を課したネットワーク環境下での教材配信
○小柏香穂理, 浜本義彦, 原田貴大, 平野佳浩 (山口大)

一般セッション [5H 会場] (3月11日 (木) 9:30 ~ 12:00)

- 初中等情報教育, 情報リテラシー 座長 辰己 丈夫 (農工大)**
- 1 高等学校普通教科「情報」の実施状況と定着度について
- 2006 年度調査との比較を通して -
○若林義啓 (広島国際学院大), 栢木紀哉 (摂南大), 上田千恵 (旭川荘厚生専門学院)

- 2 教員養成系大学における情報教育の10年
○伊藤一郎, 加藤直樹, 浅野智彦 (東京学芸大)
- 3 一コママンガを用いた情報教育の実践と効果
○布施 泉, 岡部成玄 (北大), 中村 純 (広島大),
牧野圭一 (京都国際マンガミュージアム)
- 4 情報システム演習においてディズニールランドを教材とする効果
○坂本憲昭 (法大)
- 5 パスワードの作成に関する教育とその効果 ○八城年伸 (安田女子大)
- 6 絵図を格納した PDA の支援による江戸期の町並み把握法
○三好孝治, 上嶋英機, 森保洋之, 青山吉隆 (広島工大)
- 一般セッション [6H 会場] (3月11日(木) 14:30 ~ 17:00)**
大学の情報教育 座長 角田 博保 (電通大)
- 1 高等教育の一般教養における情報関連科目に関する調査について
○加納寛子 (山形大)
- 2 大学入学時の情報スキル習得認識と演習成績の分析
- 表計算ソフトを題材にして -
○早坂成人, 石坂 徹, 石田純一, 刀川 眞 (室蘭工大)
- 3 情報リテラシー教育における学生のスキル評価に関する研究
○田中稔次郎, 宇野 健, 小川仁士 (広島県大)
- 4 履修者データによるプログラミング入門教育へ SIEM を導入した効果の分析
○土肥紳一, 宮川 治, 今野紀子 (電機大)
- 5 UML による業務可視化の教育実践事例
○永井好和, 菅上興平, 益田祐輔, 加藤 彬,
藤田悠介, 浜本義彦, 多田村克己 (山口大)
- 一般セッション [1J 会場] (3月9日(火) 9:30 ~ 12:00)**
情報システムの構築 座長 児玉 公信 (情報システム総研)
- 1 関係ネットワークサービス (RNS) を利用したキャンパスネットワークシステム
○相笠直子, 山口治男 (東京工科大)
- 2 (講演取消)
- 3 エージェントレス監視システムの性能評価 ○佐藤雅之 (三菱)
- 4 可視化画像処理と情報通信技術教育の検討 - ジェスチャリモコン・サーモグラフィ・ICT メディア - ○今井幸雄 (神奈川工科大)
- 5 個体差認証技術による食品のセキュアデザイン
○桐谷 理, 佐藤直樹, 佐藤省三, 伊藤庸一郎 (阪大)
- 6 実空間をブラウズするケータイによる街歩き支援の試み
○鈴木雅実, 松本正明 (KDDI),
高橋武俊, 松橋崇史, 玉村雅敏, 金子郁容 (慶大)
- 7 まちなか情報共有マップシステムを利用した地域コミュニティ活性化支援
○小林潤平 (大日本印刷), 田村直之, 中川 修, 新堀英二 (大日本印刷),
高橋武俊, 松橋崇史, 玉村雅敏, 金子郁容 (慶大)
- 一般セッション [2J 会場] (3月9日(火) 15:30 ~ 17:30)**
企業活動と情報 座長 金田 重郎 (同志社大)
- 1 業務分析・システム化による業務効率化の事例とその評価
○相馬仁志, 川岸諒子, 村澤 靖 (三菱)
- 2 作業手順モデルに基づいた実施作業推定手法
○齊藤啓太, 鈴木清彦, 小貫淳史 (三菱)
- 3 WEB における保険契約の問題点とその改善手法について
○井出 明 (首都大)
- 4 部品発注・納品管理による生産工程管理システムの開発 - 第2報 -
○越田高志, 荒木孝行 (松江高専)
- 5 Web マーケティングにおけるデータ収集及び分析手法
○豊谷 純, 三浦和真 (日大)
- 6 PC 作業可視化のためのアプリ操作ログ推測手法
○高橋 悟, 毛利隆夫, 織田 充, 岩山 豊 (富士通研)
- 7 ロールプレイングゲームのコンテンツ評価に対する総合的分析
○金久保正明, 清水小茉莉 (静岡理工科大)
- 一般セッション [3J 会場] (3月10日(水) 9:30 ~ 12:00)**
社会への応用 座長 阿部 昭博 (岩手県大)
- 1 流域水循環シミュレーションシステムと河川・流域データベースの連携
○菊森佳幹 (国土総研), 天笠俊之, 川島英之, 北川博之 (筑波大)
- 2 地域の観光資源を有効活用するためのサイトデザインに関する検討
- SOM に基づいた北海道江別市の「やきもの」の特徴分析 -
○斎藤 一, 星健太郎, 向田 茂 (北海道情報大), 川田尚紀 (オハナ)
- 3 水害リスクの可視化手法に関する考察
○畑山満則, 多々納裕一 (京大)
- 4 地域農業活性化に資するユビキタス農業サービスの提案
○郡司琢行, 庄子栄光 (仙台ソフトウェアセンター),
伊藤 正 (色麻町産業開発公社), 山田智子 (仙台応用情報学研),
金指文明 (カラビナシステムズ), 富樫 敦 (宮城大)
- 5 移動経路を対象とする情報表示アドルト ○石井 徹 (三菱)
- 6 線分交叉を伴う系図表示の基礎的研究
- 神話系図表記における線分交叉の前提と定式化に関する考察 -
○杉山正治 (立命館大), 生田敦司, 柴田みゆき (大谷大),
松浦 亨 (北大病院), 宮下晴輝 (大谷大)
- 7 線分交叉を伴う系図表示の基礎的研究
- 神話系図表示を支えるデータ構造について -
○柴田みゆき, 生田敦司 (大谷大), 杉山正治 (立命館大),
松浦 亨 (北大), 宮下晴輝 (大谷大)
- 一般セッション [4J 会場] (3月10日(水) 15:30 ~ 17:30)**
医療のインフォマティクス 座長 廣安 知之 (同志社大)
- 1 パーコレーション・ネットワーク上の感染症 SIS モデル
○向坂幸雄 (茨城県医療大), 杉浦康二 (静岡大),
岩村幸雄 (茨城県医療大), 吉村 仁, 泰中啓一 (静岡大)
- 2 服薬監視システムの提案
○北園優希, 鄭 香蘭, 中島翔太, 楊 世淵, 芹川聖一 (九工大)
- 3 描画検査システムの開発
○上津原恵, 土田賢省, 加藤千恵子, 塩野康徳 (東洋大)
- 4 途上国地方村での医薬品供給システムの構築
○勝間田実三, 当麻哲哉, 小木哲朗 (慶大)
- 5 社会基盤としての医療連携ネットワーク
○楠本嘉幹, 吉野 孝 (和歌山大), 入江真行 (和歌山県医大)
- 6 骨伝導技術を用いたカラオケシステムの提案 ○川村一輝 (東工大),
荒川淳平 (インフォクラフト), 太田和夫 (電通大)
- 学生セッション [4ZJ 会場] (3月10日(水) 15:30 ~ 17:30)**
社会情報システム 座長 木野 泰伸 (筑波大)
- 1 覚醒水準を利用した単調な仕分け作業の飽きの防止
○川上賢太, 藤波香織 (農工大)
- 2 監視カメラ映像中の局所的な動き検出と人物行動解析
○林 雅也, 堀 幸雄, 今井慈郎 (香川大)
- 3 内部統制制度における業務プロセス文書化方法の提案
○平野一平, 中道 上, 青山幹雄 (南山大)
- 4 自己組織化マップによる特許マップの作成
○河野久志, 小原和博 (千葉工大)
- 5 自己組織化マップによる製品の自動分類と可視化
○津田哲也, 小原和博 (千葉工大)
- 6 SPBOM を参考にした税業務処理記述方法の提案
○長村篤記, 深見尚平, 上仲良幸, 吉岡俊輔, 金田重郎 (同志社大)
- 7 税業務処理の知識表現記述に対する実装方法の提案
○吉岡俊輔, 深見尚平, 長村篤記, 上仲良幸, 金田重郎 (同志社大)
- 学生セッション [5ZJ 会場] (3月11日(木) 9:30 ~ 12:00)**
幼児・児童教育 座長 大即 洋子 (清和大)
- 1 マルチモーダルインターフェースを使った幼児集中力育成支援システム
○市川 薫, 山口治男 (東京工科大)
- 2 子どもへの接し方コンテンツ制作のための幼児教室行動事例データ
ベースの構築
○榎葉智紀, 石川翔吾, 桐山伸也, 北澤茂良, 竹林洋一 (静岡大)
- 3 3D ステレオカメラと3軸加速度センサを用いた読み聞かせ支援システムの構築
○岡田良平, 柴田征宏, 今城和宏, 上坂和也, 角谷隆行,
三本貴裕, 小林由季, 金田重郎, 芳賀博英 (同志社大)
- 4 漢字の成り立ちに注目した漢字学習支援システムの開発
○檜崎綾夏, 渡辺大介, 山本未奈美, 土井敏志,
岩切裕哉 (広島商船高専), 加藤博明 (豊橋技科大)
- 5 3D ゲームによる小学生向け地域学習教材の構築
~ 川崎市「しんゆり・芸術のまち」への適用事例より ~
○紺野 賢, 渡辺 優, 山本正人,
飯塚泰樹, 吉田享子, 飯塚佳代 (専修大)

- 6 児童対象メロディ付き物語創作支援システムの開発
○亀谷学人, 力武克彰(仙台高専), 佐藤貴之(北九州市大)
- 7 モバイル端末とRFIDを利用した野外学習支援の実施と評価
○西澤美希, 稲葉竹俊, 松永信介, 石垣友里恵, 田邊恵巳, 武藤加奈子(東京工大)
- 8 食育オントロジー構築の試み
○佐藤俊幸, 吉田昌平, 山田敬三, 佐々木淳(岩手県大)
- 9 携帯情報端末 iPod touch を用いた児童の自主学習支援システムの開発
○長田伊織, 東 拓央, 吉野 孝(和歌山大)

学生セッション [6ZJ 会場] (3月11日(木) 14:30 ~ 17:00)

語学教育・芸能教育 座長 和田 勉(長野大)

- 1 英文 web ページを活用する語彙力向上支援システム
○吉岡宏記, 矢吹太郎, 佐久田博司(青学大)
- 2 留学生を対象とした初級用日本語教材の開発-助詞アニメーション補助教材の開発- ○関口友梨, ギョージスー, 飯村 悠(東京工大)
- 3 日本語教授用教材の開発-使役受身表現の映像補助教材開発-
○荘司耕佑, 根本雄介, 水谷 貴(東京工大)
- 4 留学生を対象とした初級用日本語教材の開発
-擬態語を題材とした映像教材の研究- ○森本 翔(東京工大)
- 5 留学生を対象とした初級用日本語教材の開発
映像教材における字幕演出手法の研究
○稲垣一義(東京工大)
- 6 CGを用いたストリートダンス教育システムの提案
○岡田大地, 仲谷善雄(立命館大)
- 7 (講演取消)
- 8 狂言を事例とした暗黙知のマルチメディア活用表現法の一考察
○河野浩士, 河村辰也, 野島伸仁, Luis Marques, 吉野純一, 吉村 晋(サレジオ高専), 市村 洋(こども教育宝仙大)

学生セッション [1ZK 会場] (3月9日(火) 9:30 ~ 12:00)

モバイル学習, e-learning 座長 高岡 詠子(上智大)

- 1 モバイル学習用コンテンツの自動作成及びコメント投稿システム
○梶山拓哉, 伊藤 信, 平野洋行, 市村 哲(東京工大)
- 2 TOC 思考プロセスに基づく学生によるデザイン系科目 E-Learning 教材制作プロジェクトの分析
○元木一喜, 石井拓郎, 斎藤 一, 隼田尚彦, 向田 茂, 安田光孝(北海道情報大)
- 3 e ラーニングにおけるトラブルの解決支援システムの構築
○中川琢磨, 中平勝子, 鈴木誠治, 福村好美(長岡技科大)
- 4 (講演取消)
- 5 Content-aware Network を用いたロバストな遠隔講義システムの構築
○山田拓人, 鈴木一徳, 二瓶俊昭, 寺菌淳也, 板橋可奈, 橋岡浩嗣, 矢吹優成, 丹野嘉信(会津大), 福原英之(ネットワンシステムズ), 塩野健二(実大), 林 隆史(会津大)
- 6 MIDI キーボードと Flash を活用したピアノの独習支援 WBT 教材の研究
○渡邊駿介, 平田千佳, 真貝維摩, 松永信介, 稲葉竹俊(東京工大)
- 7 「絹の道」を通じた八王子歴史学習のための e ラーニング教材の開発
○品田裕子, 上妻 唯, 崎濱直子, 松永信介, 稲葉竹俊(東京工大)
- 8 3DCG を用いた小学児童向け環境資源に関する e ラーニング教材の開発
○松永 涉, 北山拓郎, 細坪直人, 松永信介, 稲葉竹俊(東京工大)

学生セッション [2ZK 会場] (3月9日(火) 15:30 ~ 17:30)

子育て・高齢者・介護 座長 佐々木 淳(岩手県大)

- 1 地域子育て支援拠点施設における職員を対象とした情報交換の仕組み
○工藤裕子, 岡本 東, 堀川三好, 菅原光政(岩手県大)
- 2 地域子育て支援拠点の利用者を対象とした口コミ情報システムの構築
○菊池幸恵, 岡本 東, 堀川三好, 菅原光政(岩手県大)
- 3 幼稚園を対象とした子育て支援システムの構築
○浅井勇貴, 岡本 東, 堀川三好, 菅原光政(岩手県大)
- 4 電話を活用した自己発信型高齢者見守りシステムの規模拡大時におけるネットワーク設計
○林 秀樹, 菊池卓秀, 佐々木弘介, 山田敬三, 佐々木淳(岩手県大)
- 5 VoIP を用いた高齢者見守りシステムにおける音声メッセージ配信機能の検討
○菊池卓秀, 佐々木弘介, 山田敬三, 佐々木淳(岩手県大)
- 6 VoIP サーバを活用した高齢者向け地域イベント情報配信システムの設計
○佐々木弘介, 菊池卓秀, 山田敬三, 佐々木淳(岩手県大)

- 7 介護保険における適切な質問を可能にする画面設計
○高 鴻燕, 行木雅子, 金光永煥, 朱 樞, 浦野義頼(早大)
- 8 包括的支援事業を対象とした情報共有・配信支援システムの構築
○中村聡美, 堀川三好, 岡本 東, 菅原光政(岩手県大)

学生セッション [3ZK 会場] (3月10日(水) 9:30 ~ 12:00)

教育情報システム, PBL 座長 坂東 宏和(イーテキスト研)

- 1 適確な心肺蘇生法実現のための体験学習支援システムの開発
○藤岡直矢, 板倉佑典, 飛野達也, 崎山 充, 原田康平, 鈴木将也(釧路公大), 加登 讓(釧路孝仁会記念病院), 林 秀彦(鳴門教育大), 皆月昭則(釧路公大)
- 2 聴力障害児童の日本語文法学習支援のための e ラーニング教材の開発と評価
○芳賀夏海, 安東志納, 則包早絵, 稲葉竹俊, 松永信介(東京工大), 臼井なずな(都立大塚ろう学校)
- 3 薬剤師向けコミュニケーション能力向上のための、シミュレーション教材の開発
○古谷 将, 白坂友香梨, 稲葉竹俊, 松永信介(東京工大)
- 4 映像制作技法の習熟を目的とした学習支援システムの開発
○鈴木祐馬, 山本 樹, 須藤 智, 恩田憲一(尚美学園大)
- 5 アジャイル開発手法スクラムを用いた PBL の実施と評価
○宇津説人, 山本祥子, 竹澤 雄, 高橋規介, 内藤広志(阪工大)
- 6 プロジェクト型学習を支援するデジタルポートフォリオの構築
-作品評価の集約による人材発掘支援機能の開発-
○石井拓郎, 元木一喜, 斎藤 一, 隼田尚彦, 向田 茂, 安田光孝(北海道情報大)
- 7 Moodle による高度 ICT 人材育成教材の提供
○飯田晴之, 上原 稔(東洋大)
- 8 マルチエージェントシミュレーションを用いたナラティブ生成システムの提案
○吉崎智則, 宮村幸祐, 金田重郎(同志社大)
- 9 ルーブリックを活用した CSCL 向け相互評価モジュールの開発
○石川 樹, 宮崎佳典(静岡大)

学生セッション [4ZK 会場] (3月10日(水) 15:30 ~ 17:30)

情報科学工学教育 座長 兼宗 進(大阪電通大)

- 1 CS アンブラグド Activity3 の日本語化とその実践
○角佳代子(松江高専), 石飛奈央(ソニーイーエムシーエス), 福岡久雄(松江高専)
- 2 組み込み OS 教育のための E ラーニングシステムの提案
○張 蕾, 湯山悠司, 澤本 潤, 杉野栄二(岩手県大)
- 3 SQL 実習支援システムのための学習項目生成法
○松本拓也, 岡田信一郎(茨城大)
- 4 仮想 Linux 環境を活用したネットワーク構築演習システムへの実ネットワークとの通信機能の実装
○西嶋 崇, 井口信和(近畿大)
- 5 仮想 Linux 環境を活用したネットワーク構築演習システムへの自動採点機能の実装
○梅田雅一, 井口信和(近畿大)
- 6 マイクロロボット Eco-Be! を用いた教育用教材開発
○吉田廉浩, 橋本明希, 河原林友美(福井高専), 関 直樹, 山西輝也(福井工大), 内種岳詞(阪大), 大熊一正, 杉原一臣, 魚崎勝司(福井工大)
- 7 問題解決型の LEGO プログラミング演習のためのグループ作業支援
○加藤 聡, 富永浩之(香川大)
- 8 Mixed Realistic Soccer Agent を活用したプログラミング実習授業に向けて
○関 直樹(福井工大), 吉田廉浩(福井高専), 山西輝也(福井工大), 河原林友美(福井高専), 内種岳詞(阪大), 大熊一正, 杉原一臣(福井工大), 畠中利治(阪大), 魚崎勝司(福井工大)

学生セッション [5ZK 会場] (3月11日(木) 9:30 ~ 12:00)

プログラミング教育 座長 長 慎也(一橋大)

- 1 C 言語用のプログラミングスタイル評価システムの構築
○松本翔太, 松本章代, Martin J. Duerst(青学大)
- 2 Viscuit を用いた初学者向けプログラム概念教育カリキュラムの提案
○飯作俊文(芝浦工大), 飯塚重善(神奈川大), 徳永幸生(芝浦工大), 杉山 精(東京工芸大)
- 3 プログラム初心者を対象とした変数学習のためのゲームソフト開発と試用
○水口 俊, 岩澤京子(拓大)
- 4 プログラミング学習における失敗知識を利用した内省支援
○野中美希, 酒井三四郎(静岡大)

- 5 アクティブ変数解析によるプログラミングスタイル学習環境システムの開発 ○藤井亮平, 山本耕大 (東京学芸大), 中村勝一 (福島大), 森本康彦, 横山節雄, 宮寺庸造 (東京学芸大)
- 6 プログラミング言語の学習過程における継続性の差異に関する一考察 ○西村晃一, 皆月昭則 (釧路工大)
- 7 学習レベルに応じた質疑応答機能を備えたプログラミング学習支援システム ○山崎正貴 (東京工科大), 税田竜一 (日本工学院八王子専門学校), 久保村千明 (山野美容芸術短大), 服部 峻, 亀田弘之 (東京工科大)
- 8 学生と講師間でトラブル状況を共有できるプログラミング講義支援システム ○提箸浩志, 日比野祐介, 梶 勇太, 市村 哲 (東京工科大)
- 9 src2mov: ソースコードアニメーション自動生成システム ○菊川真理子, 井上亮文, 星 徹 (東京工科大)

学生セッション [6ZK 会場] (3月11日 (木) 14:30 ~ 17:00)

教育支援システム 座長 渡辺 博芳 (帝京大)

- 1 学生の嗜好を考慮した講義割当システムインターフェースの設計と評価 ○橋浦悠二, 齋藤義人, 元木陽介, 松尾徳朗 (山形大)
- 2 学習計画における立案支援システムの開発 ○齋藤洋一, 佐藤大希, 皆月昭則 (釧路工大)
- 3 オンライン出席管理システムの開発に関する検討 ○田中晃平, 泉 隆, 武内 惇, 荒岡仁志 (日大)
- 4 ユーザの理解度に合わせたプログラミング講義資料のカスタマイズツール ○山田 誠, 井上亮文, 星 徹 (東京工科大)
- 5 プログラミング講義における文書構造と時間遷移を考慮した視覚化システム ○野田光洋, 井上亮文, 星 徹 (東京工科大)
- 6 リムーバブルメディアから起動するポータブル PHP 学習環境 ○塚田朗弘, 鎌盛 創, 小菅貴彦 (日本電子専門学校)
- 7 Blended learning 環境における Web 利用履歴の活用法 ○八幡一史, 矢吹太郎, 佐久田博司 (青学大)
- 8 マルチタッチテクノロジーを用いた電子黒板インタフェースに関する研究 ○永野 直 (鳴門教育大)

学生セッション [1ZL 会場] (3月9日 (火) 9:30 ~ 12:00)

防災, 防犯と情報 座長 畑山 満則 (京大)

- 1 自己組織化マップによる台風被害の規模予測 ○杉山 功, 小原和博 (千葉工大)
- 2 エリアメールを利用した津波避難支援システムの構築 ○鳥居秀徳 (岩手県大)
- 3 災害時の状況進展シミュレーションに基づく企業損害額推定システム ○川村誠吾, 仲谷善雄 (立命館大)
- 4 災害時状況シミュレーションに基づく BCM 評価手法の提案 ○金子龍平, 仲谷善雄 (立命館大)
- 5 拡張現実感技術を用いた防災対策効果の可視化 ○土屋勇人, 浦邊真寛, 望月 翔, 飯塚泰樹, 飯塚佳代, 吉田享子 (専修大)
- 6 組織関係者の所在と能力を考慮した災害時業務割当て手法 ○海江田隆博, 川越恭二 (立命館大)
- 7 災害情報システムのための動的ネットワーク再構成手法に基づいたコグニティブ無線の研究 ○佐藤剛至, 柴田義孝 (岩手県大)
- 8 災害時における避難所設置型水分補給支援システムの構築 ○早坂洋平, 松本明華, 皆月昭則 (釧路工大)
- 9 行政領域を超えた避難を必要とする地域を対象にした避難シミュレーションシステムの開発 ○湯川誠太郎, 畑山満則, 多々納裕一 (京大)

学生セッション [2ZL 会場] (3月9日 (火) 15:30 ~ 17:30)

バイオインフォマティクスと医療 座長 山口 敦子 (DBCLS)

- 1 (講演取消)
- 2 確率的トピックモデルを用いた医学生物学文献情報に基づく仮説生成 ○麻生竜矢, 江口浩二 (神戸大)
- 3 項目応答理論に基づく健康診査における質問項目の分析 ○吉見将太, 黒川悦子, 橋本和夫 (東北大)
- 4 認知症予防システムの開発および検証 ○佐藤大希, 皆月昭則 (釧路工大)
- 5 医療機関との連携を考慮した健康プラットフォームの検討 ○馬林建矢, 伊藤行生, 高橋克弥, 山田敬三, 佐々木淳 (岩手県大)

- 6 在宅医療支援のための平時・災害時対応情報共有システムの開発と導入実験 ○榎本紗耶香, 吉野 孝 (和歌山大), 紀平為子 (関西医療大), 入江真行 (和歌山県医大)
- 7 統合型健康増進支援システム (IHSS) における在宅栄養管理機能の開発 ○伊藤行生, 高橋克弥, 山田敬三, 佐々木淳 (岩手県大)
- 8 福祉施設で用いる紙媒体記録用紙の電子データ化および携帯閲覧システムの開発 ○加藤雄大, 大枝真一 (木更津高専)

学生セッション [3ZL 会場] (3月10日 (水) 9:30 ~ 12:00)

医療情報システム 座長 瀬々 潤 (お茶の水女子大)

- 1 (講演取消)
- 2 肺結核検出におけるベクトル集中度フィルタの効果的利用 ○塩田健介 (静岡大), 澁谷倫子 (山形県産業技術短大庄内校), 杉浦彰彦 (静岡大)
- 3 二周波・二波型マイクロ波ドップラーセンサを用いた人の咀嚼検出手法の提案 ○谷川紗恵子, 金田重郎, 芳賀博英 (同志社大)
- 4 遠隔操作型細隙灯顕微鏡での診断における対象物の大きさの判定 ○相渡敬大, 小池伸弥, 堀内賢一, 郷健太郎, 柏木賢治, 田邊直彦 (山梨大)
- 5 遠隔眼科診療システムにおけるディスプレイ構成方式の効果 ○堀内賢一, 相渡敬大, 小池伸弥, 郷健太郎, 田邊直彦, 柏木賢治 (山梨大)
- 6 骨伝導マイクロフォンを用いた偏咀嚼の検出と改善支援手法の提案 ○袴田 類, 有泉 亮, 芳賀博英, 金田重郎 (同志社大)
- 7 食品に応じた咀嚼運動支援システムの提案 ○雨宮寛敏, 新野 毅, 芳賀博英, 金田重郎 (同志社大)
- 8 顔表情認知を用いた被虐待診断検査システムの考案 ○篠崎健育, 杉浦彰彦 (静岡大), 米村恵一 (木更津高専)

学生セッション [4ZL 会場] (3月10日 (水) 15:30 ~ 17:30)

地域社会 座長 高山 毅 (岩手県大)

- 1 多言語対応・地域情報システムフレームワークの提案 ○陳 実, 山田敬三, 佐々木淳 (岩手県大)
- 2 UGC を用いた地域資源情報発信システムの検討 ○佐々木研弥, 窪田 論, 市川 尚, 阿部昭博 (岩手県大)
- 3 地域社会における社会関係の醸成を支援するサービス (ShowTieUp) の提案 ○家入由佳 (東京工科大), 岡崎博樹 (手仕事工房)
- 4 大学生が主導的に就職活動を行える支援サービスの提案とその試行 ○弥富健太, 上林憲行 (東京工科大), 岡崎博樹 (手仕事工房)
- 5 コールセンター連携電子自治体システムの開発—既存の電子自治体システムとの連携— ○昆野静香, 村田嘉利, 高山 毅, 佐藤永欣, 刈田秀人 (岩手県大)
- 6 コールセンター連携電子自治体システムの開発—携帯電話への拡張— ○刈田秀人, 村田嘉利, 高山 毅, 佐藤永欣, 昆野静香 (岩手県大)
- 7 地域食材データベースと連携した料理情報提供システム「ぐるめサーチャー」の構築 ○伊藤純貴, 倉俣恵祐, 山田敬三, 佐々木淳 (岩手県大)
- 8 (講演取消)

学生セッション [5ZL 会場] (3月11日 (木) 9:30 ~ 12:00)

マーケティング・情報抽出 座長 大場みち子 (日立)

- 1 AISCEAS モデルに基づく観光マーケティングモデルの提案 ○鈴木裕介, 堀川三好, 岡本 東, 菅原光政 (岩手県大)
- 2 体験型観光における地域住民参加型口コミ情報収集システムの構築 ○桑田昂輝, 堀川三好, 岡本 東, 菅原光政 (岩手県大)
- 3 日常的情報ニーズの即時的共有システムの試作 ○杉浦秀幸, 伊藤孝行 (名工大)
- 4 個人向け情報配信システムにおける情報フィルタリング精度改善手法 ○大岡哲也, 松村和紀, 平田孝志, 樋上喜信, 小林真也 (愛媛大)
- 5 ケータイメール送信画面を利用した小店舗広告配信方法の検討 ○朴 必煥, 高橋 修, 白石 陽 (はこだて未来大)
- 6 データマイニングによる携帯音楽プレーヤーのブランド構築 ○三浦和真, 豊谷 純 (日大)
- 7 Q&A コミュニティサイトに見るコンピュータ技術関連質問の特徴分析 ○松川晃大 (東京工科大)
- 8 NPO 法人における情報配信システムの活用 ○中村浩紀, 植竹俊文, 堀川三好, 菅原光政 (岩手県大)

- 9 自動車ユーザの二酸化炭素排出量に対する意識変化の一考察
○沖 光, 皆月昭則 (釧路工大)

学生セッション [6ZL 会場] (3月11日(木) 14:30 ~ 17:00)

商業活動 座長 戸沢 義夫 (産業技術大)

- 1 商店街における個店を対象とした販売管理支援システムの構築
○小田島啓介, 堀川三好, 菅原光政 (岩手県大)
- 2 商店街における競争・協力関係を考慮したレコメンデーションシステム
○及川直樹, 堀川三好, 岡本 東, 菅原光政 (岩手県大)
- 3 アフィリエーションネットワークを用いた実組織活動の経時変化分析に関する考察
○北原友恵, 吉開範章 (日大)
- 4 クーボン情報の多メディア配信による地域活性化モデルの提案
○大竹杏奈 (中京大), 浦 正広 (名大), 久野秀幸 (瀬戸市), 山田雅之 (中京大), 安田孝美 (名大)
- 5 在庫管理機能を取り入れた飲料自動販売機における設置位置評価システムの開発
○佐藤雄哉, 平澤翔太, 鳥谷部歩, 皆月昭則 (釧路工大)
- 6 アルバイトの円滑な共同作業のための店舗用情報システムの活用方法
○齊藤理克, 南野謙一, 渡邊慶和 (岩手県大)
- 7 ユーザ視点に立った購買情報活用システムの提案
○中川優里, 泉井 透, 伊勢川暁, 荒井健太郎, 其田雅徳, 成田雅彦 (産業技術大)
- 8 日韓における通信融合産業の競争促進政策とオープンイノベーションモバイルペイメントを事例に
○趙 章恩 (東大)
- 9 デジタルフォトフレームを活用した小規模デジタルサイネージシステムの構築と評価
○小松一星, 伊藤絃貴, 山田敬三, 佐々木淳 (岩手県大)

学生セッション [12M 会場] (3月9日(火) 9:30 ~ 12:00)

ソーシャルネットワーク 座長 池辺 正典 (文教大)

- 1 幼稚園情報共有サイトに於ける情報検索技術を活用した情報発信・共有の活性化
○佐藤希美, 岡本 東, 堀川三好, 菅原光政 (岩手県大)
- 2 社会ネットワークにおける社会習慣の検出
○一柳有希, Victor Kryssanov (立命館大)
- 3 ネットワーク構造からみた Q&A コミュニティの分析
○浅石卓真, 村山 遼, 河村俊太郎 (東大), 芳鐘冬樹 (筑波大), 鈴木崇史, 相澤彰子 (国立情報学研)
- 4 等身大の私達一若者のコミュニケーションの使い分けと価値観の構築—
○池田理菜, 高橋杏奈, 天笠邦一, 小川克彦 (慶大)
- 5 相談しない高校生一若者のコミュニケーションの使い分けと価値観の構築—
○高橋杏奈, 池田理菜, 天笠邦一, 小川克彦 (慶大)
- 6 ソーシャル・ネットワーク分析を用いた大学新入生の人的ネットワーク構造・成長とそのパフォーマンスに関する調査研究—
エゴセントリックネットワークの視点から—
○菊地峻平, 上林憲行, 川崎 慶 (東京工科大)
- 7 ソーシャルネットワーク分析を用いた大学の新生ゼミクラスのネットワーク構造・成長・パフォーマンスに関する調査研究—
ソシオセントリックネットワークの視点から—
○川崎 慶, 上林憲行, 菊地峻平 (東京工科大)
- 8 比較サイトにおけるユーザー利用プロセスの分析と考察—
自治体行政サービス比較サイト "ジモトク" への応用—
○豊田浩道 (東京工科大), 安井秀行 (アスコエ), 上林憲行 (東京工科大)
- 9 目標中心の行動連鎖モデルに基づく協調型観光情報システムの開発
○高橋恭平, 市川 尚, 窪田 論, 阿部昭博 (岩手県大)

学生セッション [22M 会場] (3月9日(火) 15:30 ~ 17:30)

企業活動と情報 座長 児玉 公信 (情報システム総研)

- 1 食品加工工程における生産計画立案支援システムの構築
○十文字豊, 竹野健夫, 堀川三好, 菅原光政 (岩手県大)
- 2 マルチエージェントによるリアルな街モデルを用いた売上予測
○長尾直昭, 寺内義人, 小原和博 (千葉工大)
- 3 CGM マイニングによる商品選定の評価基準の抽出
○安藤弘道, 小原和博 (千葉工大)
- 4 体感温度を考慮したコンビニエンスストアからの指示にもとづく生産受注配送スケジューリング支援システムの一考察
○板倉佑典, 皆月昭則 (釧路工大)
- 5 農産物産地直売所における入荷・販売計画統合管理システムの開発
○下川原健, 竹野健夫, 堀川三好, 菅原光政 (岩手県大)

- 6 農産物産地直売所における在庫滞留時間を用いた販売分析
○葛西翔太, 竹野健夫, 堀川三好, 菅原光政 (岩手県大)

学生セッション [32M 会場] (3月10日(水) 9:30 ~ 12:00)

大学・芸術 座長 辻 秀一 (東海大)

- 1 持続可能性を重視した学内情報ナビゲーションシステムのアーキテクチャ
○林 利樹, 増永貴世, 中川津菜美, 山内雪路 (阪工大)
- 2 就職活動における企業研究支援システム
○前山侑平, 安留誠吾 (阪工大)
- 3 PBL による電子ファイル投稿受付システムの開発
○森 哲史, 三谷 純, 田中二郎 (筑波大)
- 4 学生による研究室配属業務支援システム開発の取り組みについて
○川崎結花, 韓 貞美, 中村仁美, 西本和幸, 菊池純男, 駒谷昇一, 李 頤, 狩野 均, 北川博之, 田中二郎 (筑波大)
- 5 文系学生における研究組織運営と情報処理学会発表エントリー効果に関する一考察
○鳥谷部歩, 佐藤雄哉, 平澤翔太, 皆月昭則 (釧路工大)
- 6 古代木簡に対する興味を促進する学習システムの試作
○平川千紗, 未代誠仁 (農工大), 馬場 基 (奈良文化財研), 中川正樹 (農工大), 渡辺晃宏 (奈良文化財研)
- 7 歴史資料画像の任意の対応点に基づく比較表示手法の検討
○川北明広 (芝浦工大), 安達文夫 (国立歴史民俗博物館), 徳永幸生 (芝浦工大), 杉山 精 (東京工芸大)
- 8 野外美術館における鑑賞支援システムの開発
○佐藤 歩, 市川 尚, 窪田 論, 阿部昭博 (岩手県大)
- 9 モチーフの奥行き情報を理解するための初心者向け対話的デッサン学習支援システムの検討
○清水和樹, 亀田昌志 (岩手県大)

学生セッション [42M 会場] (3月10日(水) 15:30 ~ 17:30)

ゲーム技術・評価 座長 常盤 拓司 (東大)

- 1 個体と群れの制御を主にしたゲーム AI モデル
○今里雄一, 須藤 智, 恩田憲一 (尚美学園大)
- 2 ゲームの構造分析に基づくアクションゲームデザインシステム
○金 泰建, 三上浩司, 近藤邦雄, 金子 満 (東京工科大)
- 3 RFID を用いた成長型戦略カードゲームの開発
○佐藤祐一, 橋田光代, 片寄晴弘 (関西学院大)
- 4 デジタルボードゲーム「我瓶引水」の開発
○高橋良平, 片寄晴弘, 橋田光代 (関西学院大)
- 5 対戦型テレビゲームにおいて相手プレイヤーの態度が対戦相手への評価に与える影響
○神野将一, 片寄晴弘, 風井浩志 (関西学院大)
- 6 (講演取消)

学生セッション [52M 会場] (3月11日(木) 9:30 ~ 12:00)

エンタテインメントの認知・心理 座長 高田 明典 (フェリス女学院大)

- 1 あなたの服と対話する: Talkin' Closet
○米澤友里, 仲谷義雄 (立命館大)
- 2 女兒向けコミック雑誌テキストの潜在意味分析
○久保千尋, 岡安千明, 河合麻里奈, 楠えりか, 小澤美穂, 小林 碧, 清水彩菜, 千葉理央子, 高田明典 (フェリス女学院大)
- 3 女兒向けコミック雑誌テキストの訴求構造の変遷
○乗上美弥, 留岡里和, 中村衣里, 平井秋佳, 伏脇 渚, 古川晴子, 八島有希, 高田明典 (フェリス女学院大)
- 4 コーパス解析による MMORPG の訴求構造分析
○竹野真帆, 高田明典 (フェリス女学院大)

- 5 (講演取消)
- 6 女性アニメキャラクタの身体的特徴の定性的分析
○岩野成利 (関西学院大)
- 7 テニス選手の戦略・戦術思考を可視化するスポーツシミュレータの開発
○久嶋菜摘, 奥野哲也 (静岡大), 坂根 裕 (デジタルセンセーション), 竹林洋一 (静岡大)

学生セッション [62M 会場] (3月11日(木) 14:30 ~ 17:00)

農業・地域社会 座長 川村 秀憲 (北大)

- 1 農作業データ対応付け支援システム「Harvest」の開発
○藤本和久, 内川智樹, 高田 一, 王 鷗, 山崎宏和 (筑波大), 櫻本直美, 横山和成 (中央農業総合研究センター), 駒谷昇一, 田中二郎 (筑波大)

- 2 電話とFAXを利用した農業情報システムの提案
○船越幸治, 小松一星, 山田敬三, 佐々木淳 (岩手県大)
- 3 農業経営を対象とした営農計画立案支援システムの構築
○小室 良, 植竹俊文, 竹野健夫, 菅原光政 (岩手県大)
- 4 情報共有を目的とした農業経営支援システムの構築
○濱田憲明, 植竹俊文, 竹野健夫, 菅原光政 (岩手県大)
- 5 WebGISを用いた道路管理情報ポータルシステムの提案
○小澤田貴泰, 窪田 諭, 市川 尚, 阿部昭博 (岩手県大)
- 6 モバイルGPSとマッシュアップ技術によるリアルタイム環境意見投稿システム
○堀越永幸, 玉井達也, 綿貫理明 (専修大)
- 7 歩行空間におけるカラーユニバーサルデザイン支援システムの開発
○関 博之, 窪田 諭, 市川 尚, 狩野 徹, 阿部昭博 (岩手県大)
- 8 アドオン型Web Mosaic Viewerの構築
川崎市「しんゆり・芸術のまち」への適用事例より
○福原和貴, 大森達也, 西山洋平,
飯塚泰樹, 飯塚佳代, 吉田享子 (専修大)

学生セッション [1ZN会場] (3月9日(火) 9:30～12:00)

コンテンツ制作 座長 角 薫 (一橋大)

- 1 手本写真を参考に撮影・編集できるデジタルカメラ
○新井淑貴, 市村 哲, 鈴木孝成 (東京工科大)
- 2 Score Following by Particle Filtering for Music Robots
○Takuma Otsuka (京大), Kazuhiro Nakadai (ホンダRLJ),
Toru Takahashi, Kazunori Komatani,
Tetsuya Ogata, Hiroshi G. Okuno (京大)
- 3 おりがみらいふ：折り紙のデジタルな演出の提案
○林 泰子 (東大), 笥 康明 (慶大), 苗村 健 (東大)
- 4 柔軟なシナリオに対応する実世界Edutainmentシステム
○野田祐介, 光原弘幸, 金西計英, 矢野米雄 (徳島大)
- 5 実世界Edutainmentのシナリオ作成を支援するWebシステム
○森本真理, 光原弘幸, 金西計英, 矢野米雄 (徳島大)
- 6 シナリオのテリングに基づくコマ設定とマンガコンテ制作支援
テンプレートの提案
○中島彰一, 菅野太介, 三上浩司,
近藤邦雄, 金子 満 (東京工科大)
- 7 Tablescape Animationにおけるキャラクタ制作ソフトウェアの開発
○山岡潤一, 赤塚大典, 笥 康明 (慶大), 苗村 健 (東大)
- 8 物体の本物の影に動きを与えるディスプレイシステムの提案
○石山雅三, 笥 康明 (慶大)
- 9 Kaon：顔と音のメディアアート ○田中 潤, 太田高志 (東京工科大)

デモセッション [デモ会場]

デー09 (3月9日(火))

- おりがみらいふ：折り紙のデジタルな演出の提案
○林 泰子 (東大), 笥 康明 (慶大), 苗村 健 (東大)

第5分冊「情報爆発」時代に向けた新IT基盤技術

一般セッション [5J会場] (3月11日(木) 9:30~12:00)

情報爆発時代における知識社会形成ガバナンス

座長 後藤 玲子 (茨城大)

- 1 ジニ係数を用いたグローバルデジタルデバイドの数量的評価
○中平勝子, 三上喜貴 (長岡技科大)
- 2 国別トップレベルドメイン名 (ccTLD) の affordability に関する分析: 価格と利用実態の観点から
○上村圭介 (国際大), 三上喜貴, 中平勝子 (長岡技科大), 和島隆典 (早大)
- 3 地域幸福度と住民参画 - 地域ソーシャルメディアを用いた実証分析
○田中秀幸 (東大)
- 4 日本の通信産業のBOP戦略に関する考察
○田中秀幸 (東大), 藤原正弘 (KDDI 研)
- 5 e-Service におけるデータ連携とイノベーション
○須藤 修, 木下裕美子 (東大)
- 6 (講演取消)
- 7 (講演取消)

一般セッション [6J会場] (3月11日(木) 14:30~17:00)

情報爆発時代における対話ロボティクス 座長 角 康之 (京大)

- 1 移動しながら見回りする介護ロボット
○石川直人, 行田将彦, 浅羽健太郎, 小林貴訓, 久野義徳 (埼玉大)
- 2 介護者の意図と周辺状況の観察に基づくロボット車椅子
○金原悠貴, 高野恵利衣, 小林貴訓, 久野義徳 (埼玉大)
- 3 能動的な情報提示に対する眼球運動の反応遅延に基づいた興味推定
○平山高嗣, Jean-Baptiste Dodane, 川嶋宏彰, 松山隆司 (京大)
- 4 頭部動作の計測に基づき質問相手を選択するガイドロボット
○柴田高志, 星 洋輔, 鶴田 憲, 小林貴訓, 久野義徳 (埼玉大)
- 5 対話における発話 - 身体リズムの同調傾向の多様性
○山本知仁, 堀田幸博, 赤川朋也 (金沢工大), 三宅美博 (東工大)
- 6 楽器音イコライザによる楽曲音響特徴変動と類似楽曲検索への応用
○糸山克寿 (京大), 後藤真孝 (産総研), 駒谷和範, 尾形哲也, 奥乃 博 (京大)
- 7 ロボット音声対話における Semi-blind ICA を用いた自己発話キャンセル
○武田 龍 (京大), 中臺一博 (ホンダ RII), 高橋 徹, 駒谷和範, 尾形哲也, 奥乃 博 (京大)
- 8 実環境音声認識のためのロボット聴覚システム開発とパラメータチューニング
○高橋 徹 (京大), 中臺一博 (HRI-JP), 駒谷和範, 尾形哲也, 奥乃 博 (京大)

一般セッション [1K会場] (3月9日(火) 9:30~12:00)

情報爆発時代における大規模画像処理システム

座長 岡田 義広 (九大)

- 1 駅改札シーンにおける人物行動把握のフレームワーク構築
○ズイン ティティ, 上條俊介 (東大)
- 2 HOG 特徴量探索と時空間 MRF の連携による人物トラッキング
○藤村嘉一, 上條俊介 (東大)
- 3 臨界交通流における安全運転支援を目的とした画像センサ群による衝撃波検知
○藤村嘉一, 上條俊介 (東大)
- 4 多様な地球環境データを対象としたマイニングシステムの構築
○生駒栄司, Shakil Ahmad, 小池俊雄, 喜連川優 (東大)
- 5 地球観測データに対するメタデータ登録システムの構築 - データセットドキュメントメタファを利用したメタデータ登録 -
○絹谷弘子 (東大), 清水敏之, 吉川正俊 (京大), 喜連川優 (東大)
- 6 水産資源研究のための粒子追跡シミュレーションインタフェースの作成
○根本利弘 (東大), 五十嵐弘道, 淡路敏之 (海洋研究開発機構), 喜連川優 (東大)
- 7 アジアモンスーン解析のための三次元気象データ可視化システム
○安川雅紀, 田村 徹, 小池俊雄, 喜連川優 (東大)

一般セッション [2K会場] (3月9日(火) 15:30~17:30)

情報爆発時代におけるアルゴリズム高効率化

座長 山口 実靖 (工学院大)

- 1 高さ制約付き無順序木の高速類似検索アルゴリズムについて
○深川大路 (国立情報学研), 阿久津達也 (京大), 高須淳宏, 安達 淳 (国立情報学研)

- 2 索引木の均衡を考慮した類似検索索引手法
○倉沢 央 (東大), 深川大路, 高須淳宏, 安達 淳 (国立情報学研)
- 3 隠れマルコフモデルによるデータストリームのモニタリング手法
○藤原靖宏 (東大), 櫻井保志 (NTT), 喜連川優 (東大)
- 4 XaaS 資源管理へのRDBMS活用手法
○赤星祐平, 藤山健一郎, 是津耕司, 木俣 豊 (NICT), 田中克己 (京大)
- 5 楽曲印象メタデータの特徴的粒度抽出方式
○浦木 (伊地智) 麻子, 清木 康 (慶大)
- 6 テレビ番組の視聴履歴を用いた番組推薦システムの構築
○井川一樹, 福原知宏, 藤井秀樹 (東大), 武田英明 (国立情報学研/東大)

一般セッション [3K会場] (3月10日(水) 9:30~12:00)

情報爆発時代におけるテキスト処理・Wikipedia

座長 乾 健太郎 (奈良先端大)

- 1 自然言語処理における系列ラベリング問題のための高速で厳密な漸次的復号化アルゴリズム
○鍛冶伸裕 (東大), 藤原靖宏 (NTT), 吉永直樹, 喜連川優 (東大)
- 2 組み合わせ素性に基づく分類器の効率的学習法
○吉永直樹, 喜連川優 (東大)
- 3 概念グラフのマッチングによる自然言語テキストの意味検索システムの開発
○高山智史, 石塚 満 (東大), 内田裕士 (UNDL 財団)
- 4 ネットワーク構造を利用した Wikipedia からの意外性のある情報の抽出
○野田陽平, 清田陽司, 中川裕志 (東大)
- 5 Wikipedia と図書館情報資源による調べ方自動提示システム
○坂井 哲, 増田英孝 (電機大), 清田陽司, 中川裕志 (東大)

一般セッション [4K会場] (3月10日(水) 15:30~17:30)

情報爆発時代におけるライフログ・センサー処理

座長 須藤 修 (東大)

- 1 生体情報ライフログを用いた生活習慣病医療システムの設計
○井上創造 (九工大), 中島直樹 (九大), 須藤 修 (東大)
- 2 生体情報ライフログネットワーク構築のケーススタディ
○井上創造 (九工大), 末永俊一郎 (日本ユニシス), 千田 廉 (バイセン), 中島直樹 (九大), 須藤 修 (東大)
- 3 生活習慣病保健指導のための生体情報ライフログ取得実験
○井上創造 (九工大), 鶴田紘子 (カルナヘルスサポート), 中島直樹 (九大), 須藤 修 (東大)
- 4 携帯端末を使った行動情報収集システムの実装と評価実験
○井上創造, 竹森正起 (九工大), 平川 剛 (ネットワーク応用技研), 服部祐一 (東海大)
- 5 行動認識アプリケーション向けドメイン特化型言語の提案
○一野浩太郎, 久住憲嗣 (九大), 井上創造 (九工大), 中西恒夫, 福田 晃 (九大)
- 6 ヒューマンプロブ環境におけるセンサ情報の統合利用
○木實新一, 森田達也, Niwat Thepvilajanapong, 戸辺義人 (電機大)

一般セッション [5K会場] (3月11日(木) 9:30~12:00)

情報爆発時代におけるWeb解析

座長 山名 早人 (早大)

- 1 動画ストリームを対象とした内容検索・配信のためのアクティブルール記述・実行手法
○倉林修一, 清木 康 (慶大)
- 2 雰囲気メタファによる街の偏在情報の集約・提示システム
○宮森 恒, 水口 充, 河合由起子 (京産大), 是津耕司, 木俣 豊 (NICT)
- 3 Web 情報推薦システムにおける推薦精度の向上のための Web 閲覧行動に基づいた暗黙的フィードバック方式の検討
○鷹野孝典 (神奈川工科大), Kin Fun Li (University of Victoria)
- 4 A study on Historical Web Graph Extraction
○楊 征路, 喜連川優 (東大)
- 5 HTML 構造の類似性を利用した大規模スパムブログ収集
○片山太一 (筑波大), 芳中隆幸 (電機大), 宇津呂武仁 (筑波大), 河田容英 (ナビックス), 福原知宏 (東大)
- 6 時系列情報をもつウェブグラフ発達過程の3次元可視化
○伊藤正彦, 豊田正史, 喜連川優 (東大)
- 7 大規模 Web アーカイブにおける時間分解能向上手法の検討
○田村孝之 (三菱), 喜連川優 (東大)

一般セッション [6K会場] (3月11日(木) 14:30~17:00)

情報爆発時代における並列分散処理技術 座長 河野 健二 (慶大)

- 1 動作コア数・動作周波数の動的変更が性能・消費電力へ与える影響の評価および考察 ○八神貴心, 中島達夫 (早大)
- 2 クラスタ向け並列 precosat の開発と性能評価 ○露崎浩太, 村岡崇章, 上田和紀 (早大)
- 3 並列実験による疎行列格納法のオンライン自動チューニング ○須田礼仁 (東大)
- 4 LMNtal 処理系 SLIM のモデル検査機能の並列化 ○小林史佳, 後町将人, 上田和紀 (早大)
- 5 広域分散環境における大規模タスク群の挙動を求め高速シミュレータ ○松本真樹, 佐々木敬泰, 大野和彦, 近藤利夫 (三重大), 中島 浩 (京大)
- 6 ToMo: Two-layer Tree/Mesh Overlay Structure for P2P Live Streaming and Its Application ○Suphakit Awiphan, Jiro Katto (早大)
- 7 データアクセスパターンに基づくデータマイニング手法の分類 ○秋岡明香 (電通大), 村岡洋一, 山名早人, 中島達夫 (早大)
- 8 Jumbo: a data intensive distributed computation platform - design overview and preliminary experiment - ○Sven Groot, 合田和生, 喜連川優 (東大)

学生セッション [6ZC会場] (3月11日(木) 14:30~17:00)

情報爆発時代における Web パーティカル検索

座長 豊田 正史 (東大)

- 1 半教師有り学習に基づく Web 上の人物クラスタリングシステム ○池田雅紀, 佐藤一誠, 吉田 稔, 中川裕志 (東大)
- 2 コミュニティベース Q&A からの類似質問検索手法 ○高橋 輝 (東大), 高須淳宏, 安達 淳 (国立情報学研)
- 3 質問に対する回答を含む Web ページの発見手法 ○高田夏希, 大島裕明 (京大), 小山 聡 (北大), 田中克己 (京大)
- 4 機関リポジトリと外部情報源を連携した関連論文探索手法 ○MANH CUONG NGUYEN, 渡辺陽介, 横田治夫 (東工大)
- 5 異種 XML データに対するファセット検索システムの性能評価 ○駒水孝裕, 天笠俊之, 北川博之 (筑波大)
- 6 属性の共起関係に着目した WWW からの効率的な XML データ抽出 ○SY VIET PHU NGO, 天笠俊之, 北川博之 (筑波大)
- 7 XML 検索技術を利用した検索結果の構成手法 ○櫻 惇志, 波多野賢治 (同志社大), 宮崎 純 (奈良先端大)
- 8 画像の "説得度" を考慮した地域情報検索 ○岩木祐輔, アダム ヤフト, 田中克己 (京大)
- 9 アナロジーに基づく地理情報検索 ○加藤 誠, 大島裕明 (京大), 小山 聡 (北大), 田中克己 (京大)

学生セッション [2ZN会場] (3月9日(火) 15:30~17:30)

情報爆発時代における対話インタラクション座長 川嶋 宏彰 (京大)

- 1 ポスター会話中の音リアクションイベントに基づくホットスポットの抽出 ○須見康平, 河原達也 (京大)
- 2 パージン許容音声対話における LSM による許容発話範囲の拡張 ○松山匡子, 駒谷和範, 高橋 徹, 尾形哲也, 奥乃 博 (京大)
- 3 異なる会話環境における非言語行動の出現パターン分析 ○中田篤志, 角 康之, 西田豊明 (京大)
- 4 多人数会話におけるうなずきの自動検出と機能分析 ○齊賀弘泰, 角 康之, 西田豊明 (京大)
- 5 複数ユーザ対話エージェントとの多人数インタラクションの収集と分析 - 参与構造の推定に向けて - ○福原佑貴, 中野有紀子 (成蹊大)
- 6 発話ダイナミクスにおける発話長と潜時長のモデル推定およびアバターへの実装 ○鴨井一人, 三宅美博 (東工大)
- 7 画像に結び付けられた対話の関連をリンクとして表現するコミュニケーション支援 ○君島拓弥 (はこだて未来大)

学生セッション [3ZN会場] (3月10日(水) 9:30~12:00)

情報爆発時代におけるビジュアルデザイン 座長 佐藤 洋一 (東大)

- 1 注視オブジェクト推定のための動的コンテンツデザインとその評価 ○米谷 竜, 川嶋宏彰, 平山高嗣, 松山隆司 (京大)
- 2 オブジェクトの配置が人に与える印象の定量的評価 ○山崎 翔, 酒井 宏 (筑波大)

- 3 観察角度に依存しない物体認識のニューラルネットモデル ○小林遼太, 山根 健, 森田昌彦 (筑波大)
- 4 選択的不感化ニューラルネットを用いた関数近似器による強化学習 ○新保智之, 山根 健, 田中文英, 森田昌彦 (筑波大)
- 5 特徴注意による図方向知覚の変調 ○沖めぐみ (筑波大), 我妻伸彦 (理研), 酒井 宏 (筑波大)
- 6 周辺変調効果によるゲシュタルト要因の定量的評価 ○近藤慧一, 酒井 宏 (筑波大)
- 7 輪郭の同期 / 非同期による形状知覚の変調 ○松本隆二, 酒井 宏 (筑波大)

学生セッション [4ZN会場] (3月10日(水) 15:30~17:30)

情報爆発時代におけるインタラクティブアプリケーション

座長 宮下 敬宏 (ATR)

- 1 AR 技術を利用した書写学習支援アプリケーションにおける効果の観測 ○七戸貴大, 岩田貴裕, 山邊哲生, 中島達夫 (早大)
- 2 ごっこ遊びによる学習意欲向上に着目した実空間共有型エデュテインメントシステムの開発 ○安藤さゆり, 山本倫也 (関西学院大), 渡辺富夫 (岡山県大)
- 3 鉄道輸送障害情報を用いた非常時の乗換案内法の提案 ○榊田真人 (東京工科大)
- 4 タッチスクリーンデバイスを用いた身体拡張型プレゼンテーション支援システムの開発 ○安保翔太, 山本倫也 (関西学院大), 渡辺富夫 (岡山県大)
- 5 領域型背景差分手法による変化情報を用いた部屋内物体移動検知手法 ○小田嶋成幸, 森 武俊, 下坂正倫, 野口博史, 佐藤知正 (東大)
- 6 サーバ監視システム Nagios を使用した生活監視システムの構築 ○植田浩光, 赤松 徹, 吉田博哉 (神戸情報大)
- 7 ユーザの状態に応じて多様なフィードバックを返す生活習慣改善アプリケーションの提案と考察 ○吉井章人, 白石 幸, 木村浩章, 中島達夫 (早大)
- 8 Persuasive application におけるフィードバックのカスタマイズに関する考察 ○舩橋義雄, 相馬 翔, 蝦子井純, 木村浩章, 中島達夫 (早大)

学生セッション [5ZN会場] (3月11日(木) 9:30~12:00)

情報爆発時代における Web マイニング 座長 中野美由紀 (東大)

- 1 Web オブジェクトの修飾語表現の信憑性検証 ○高橋良平 (京大), 小山 聡 (北大), 大島裕明, 田中克己 (京大)
- 2 検索エンジンを利用した人名の読み仮名抽出 ○酒巻智宏 (東大), 大向一輝, 武田英明 (国立情報学研)
- 3 Duality based Expansion for Relation of Entity Pair ○李 海博, 松尾 豊, 石塚 満 (東大)
- 4 Web からの関連語抽出の役割分類を用いた拡張と精度向上 ○白石卓也, Danushka Bollegala, 石塚 満 (東大)
- 5 狭みこむ検索: 明示的に与えられた観点に基づく補間エンティティの発見 ○旭 直人, 山本岳洋, 中村聡史, 田中克己 (京大)
- 6 Wikipedia における言語間の差異マイニング ○森 竜也, 増田英孝 (電機大), 中川裕志, 清田陽司 (東大)
- 7 Wikipedia のセクションを考慮したリンク解析による関連項目検索手法の提案 ○近藤直樹, 渡辺陽介, 横田治夫 (東工大)
- 8 Web 上の将来情報の分析による予測の信頼性評価 ○金澤健介, Jatowt Adam, 田中克己 (京大)
- 9 Characterizing Link Farm based on its Evolution and Spam Topic ○Young-joo Chung, Masashi Toyoda, Masaru Kitsuregawa (東大)

学生セッション [6ZN会場] (3月11日(木) 14:30~17:00)

情報爆発時代におけるマルチメディア処理 座長 森嶋 厚行 (筑波大)

- 1 調理動作に注目した料理レシピのマルチメディア化の提案 ○道満恵介, カイ承頼 (名大), 高橋友和 (岐阜聖徳学園大), 井手一郎 (名大/国立情報学研), 村瀬 洋 (名大)
- 2 食事ログにおける栄養バランスを考慮した食生活支援システム ○菊米志帆乃 (筑波大), 藤井 敦 (東工大)
- 3 語学番組検索システムにおけるシーン区切り検出手法 ○周 清楠, 渡辺陽介 (東工大), 勝山 裕, 直井 聡 (富士通研), 横田治夫 (東工大)

- 4 ニュース映像間の意味構造を利用した Wikipedia 情報の拡張
○奥岡知樹 (名大), 高橋友和 (岐阜聖徳学園大), 出口大輔 (名大), 井手一郎 (名大/国立情報学研), 村瀬 洋 (名大)
- 5 複数講演コンテンツのダイジェスト自動生成のためのシーン重要度算出手法の評価
○呉 怡, 渡辺陽介, 横田治夫 (東工大)
- 6 映像ストリームとダブルストリームの統合利用のためのモデルの提案
○高橋 翼, 川島英之, 北川博之 (筑波大)
- 7 画像類似度の有向グラフを用いたランキング手法の一提案
○山根遥香, 豊田正史 (東大)
- 8 映像の類似性とアノテーションギャップ分析に基づく映像の信憑性判断支援
○清水 誠, 中村聡史, 田中克己 (京大)
- 学生セッション [1ZP 会場] (3月9日(火) 9:30~12:00)**
情報爆発時代におけるネットワーク技術 座長 石川 佳治 (名大)
- 1 複数無線インタフェース使用時のネットワーク層におけるコネクション集約に関する評価
○宮崎悦子 (お茶の水女子大), Onur Altintas (トヨタ IT 開発センター), 小口正人 (お茶の水女子大)
- 2 複数無線通信方式使用時の制御手法に関する一検討
○松本真紀子, 小口正人, 宮崎悦子 (お茶の水女子大)
- 3 ライフログ収集のためのセンサネットワークと画像ストリーム処理環境の構築
○岩木紗恵子 (お茶の水女子大), 村瀬 勉 (NEC), 小口正人 (お茶の水女子大)
- 4 無線 LAN 環境におけるアクセスポイントのパワー量と帯域不公平性の評価
○安藤玲未 (お茶の水女子大), 村瀬 勉 (NEC), 小口正人 (お茶の水女子大)
- 5 Android の無線 LAN 通信性能に関する一検討
○三木香央理 (お茶の水女子大)
- 6 無線センサネットワークにおけるスリープ制御とデータ補間を用いた通信量削減について
○近藤真也, 神崎映光, 原 隆浩, 西尾章治郎 (阪大)
- 7 サービス指向型ルータのためのパケット単位の文字列探索
○原島真悟, 石田慎一, 西 宏章 (慶大)
- 学生セッション [2ZP 会場] (3月9日(火) 15:30~17:30)**
情報爆発時代における分散処理と運用技術 座長 遠藤 敏夫 (東工大)
- 1 Web サービスのインタフェース変換の動的アスペクト記述
○岩田英一郎, 松本倫子, 吉田紀彦 (埼玉大)
- 2 バックトラックに基づく負荷分散の広域分散環境における評価
○河野卓矢, 八杉昌宏, 平石 拓, 馬谷誠二, 湯淺太一 (京大)
- 3 資源情報の特徴抽出によるモデル化手法と攻撃検知法の提案
○清水裕基 (電通大), 菅谷みどり (JST), 秋岡明香 (電通大/早大), 吉永 努 (電通大)
- 4 i-Path ルータのフロー情報を用いた DoS 攻撃検知法
○野上晋平, 下田晃弘, 後藤滋樹 (早大)
- 5 パターン学習を用いた未知の SQL インジェクション攻撃検知システム
○八木達哉, 秋岡明香, 吉永 努 (電通大)
- 6 ネットワークの可視化による NAT 越え
○戸部和洋, 下田晃弘, 後藤滋樹 (早大)
- 7 無線センサノード群による監視動作を実現するノードプログラムの自動生成
○森 駿介, 梅津高朗, 廣森聡仁, 山口弘純, 東野輝夫 (阪大)
- 8 大規模ログデータの自動解析システム
○松岡拓也, 三木光範, 廣安知之, 吉見真聡 (同志社大)
- 9 遠隔地におけるシステムの稼働状況確認と故障解析支援システム
○今宮久夫, 三木光範, 廣安知之, 吉見真聡 (同志社大)
- 学生セッション [3ZP 会場] (3月10日(水) 9:30~12:00)**
情報爆発時代におけるデータマイニング・アルゴリズム 座長 高須 淳宏 (国立情報学研)
- 1 ヒューリスティクスを用いた Web コンテンツの包含従属性発見の効率化
○弓矢英梨佳, 高橋公海, 森嶋厚行, 杉本重雄, 北川博之 (筑波大)
- 2 因果関係ネットワークの増分的な構築について
○石井裕志, 馬 強, 吉川正俊 (京大)
- 3 コミュニティ知識を用いた機械学習によるイベント情報の構造化
○森近憲行 (東大), 濱崎雅弘 (産総研), 亀田克尚 (東大), 大向一輝 (国立情報学研), 武田英明 (国立情報学研/東大)
- 4 アクセスログ解析による同一作業で使用されたファイル群の発見
○小田切健一, 渡辺陽介, 横田治夫 (東工大)
- 5 ZDD を用いた立体ペントミノパズルの解の列挙
○鈴木 拓, 湊 真一 (北大)
- 6 確率的空間問合せ処理の効率化
○飯島裕一, 石川佳治 (名大)
- 7 高次元状態空間に対する粒子フィルタ IEPF の提案
○VIETPHUONG NGUYEN, 鷲尾 隆 (阪大), 樋口知之 (統計数理研)
- 8 ベイズネットを用いた時系列イベントに対する確率推論処理
○佐藤 亮, 川島英之, 北川博之 (筑波大)
- 9 自己回帰モデルに基づいた電力使用量予測に関する一検討
○高木博宣, 藤井雅弘, 渡辺 裕 (宇都宮大)
- 学生セッション [4ZP 会場] (3月10日(水) 15:30~17:30)**
情報爆発時代における Web 検索技術 座長 江口 浩二 (神戸大)
- 1 単語ペア間の潜在的関係を利用する関係検索エンジン
○Tuan Duc Nguyen, Bollegala Danushka, 石塚 満 (東大)
- 2 潜在的関係を利用する検索システムの対称性による候補語リランキング法
○後藤友和, Tuan Duc Nguyen, Danushka Bollegala, 石塚 満 (東大)
- 3 エンティティの構成要素の安定性を考慮したインタラクティブな Web エンティティ検索とそのレシピ推薦への応用
○佃 洗棋, 中村聡史, 田中克己 (京大)
- 4 ユーザの理解度を考慮した Web 検索結果の適応型ランキング
○中谷 誠, Adam Jatowt, 田中克己 (京大)
- 5 気分距離に基づく名言検索手法の提案
○高岡幸一, 灘本明代 (甲南大)
- 6 クエリに関するトピック量とユーザの総閲覧量を考慮した Web 検索ランキング
○厚見悠太, 大島裕明, 田中克己 (京大)
- 7 緩和検索におけるクエリの構造推定に基づくユーザの意図を反映したランキング手法
○金子恭史, 中村聡史, 田中克己 (京大)
- 8 時間変化を考慮したクラスタリングによる検索クエリの分類
○木田 巧, 豊田正史, 喜連川優 (東大)
- 学生セッション [5ZP 会場] (3月11日(木) 9:30~12:00)**
情報爆発時代におけるストレージ管理 座長 藤原 真二 (日立)
- 1 プライマリ・バックアップ構成を有効利用したストレージシステムの省電力効果見積
○引田諭之, 横田治夫 (東工大) (講演取消)
- 2 広域環境における分散ファイルシステムの性能に関する一考察
○百瀬明日香, 小口正人 (お茶の水女子大)
- 4 iSCSI 遠隔ストレージアクセスの性能向上を実現する汎用的な最適化手法とその評価
○比嘉玲華 (お茶の水女子大), 松原幸助, 岡廻隆夫 (ソフトバンクテレコム), 山口実靖 (工学院大), 小口正人 (お茶の水女子大)
- 5 iSCSI 遠隔ストレージアクセスにおける各層最適化時の VPN 環境への適用
○浅田菜那, 比嘉玲華, 小口正人 (お茶の水女子大)
- 6 仮想マシンクラスタにおけるリソースの負荷バランスに関する一考察
○豊島詩織 (お茶の水女子大), 山口実靖 (工学院大), 小口正人 (お茶の水女子大)
- 学生セッション [6ZP 会場] (3月11日(木) 14:30~17:00)**
情報爆発時代における位置情報処理 座長 原 隆浩 (阪大)
- 1 RFID 書込みによるユビキタス環境 DB サーバの負荷低減手法の提案
○古賀浩史, 富井尚志 (横浜国大)
- 2 DB によって管理される電子タグ付き空間における空間利用者の行動取得
○山田陽彦 (横浜国大)
- 3 プライバシーを考慮した位置情報サービスの実現について
○眞野将徳, 石川佳治 (名大)
- 4 駅 .Locky: 無線 LAN 位置推定を用いた時刻表アプリの開発
○矢野幹樹, 岩崎陽平, 河口信夫 (名大)
- 5 旅行経験に基づく観光地推薦手法の提案
○久原健佑, 灘本明代 (甲南大)
- 6 P2P 技術に基づく空間データベースの統合利用方式
○横山拓也, 石川佳治 (名大)
- 7 モバイル P2P 環境におけるオンデマンド型情報配信
○飯田卓也, 石川佳治 (名大)

デモセッション [デモ会場]

デー 08 (3月11日 (木))

Multimedia Museum System for Cross-Cultural Communication

○佐々木史織, 清木 康 (慶大)

デー 12 (3月10日 (水))

選択的不感化ニューラルネットを用いた表面筋電位信号からの手の動作
推定

○川田浩史, 山根 健 (筑波大),
末光厚生 (北陸先端大), 森田昌彦 (筑波大)

デー 23 (3月10日 (水))

複数国のニュース比較分析システム: NSContrast ○吉岡真治 (北大)

デー 24 (3月9日 (火), 3月10日 (水))

発音クリニック ~音声の構造的表象を用いた外国語・方言発音分析と
その応用~

○峯松信明, 高澤真章, 鈴木雅之, 馬 学彬, 中村綾乃 (東大)

デー 27 (3月10日 (水))

雰囲気メタファによる街の偏在情報の集約・提示システム

○宮森 恒, 水口 充, 河合由起子 (京産大),
是津耕司, 木俣 豊 (NICT)

言語処理学会第16回年次大会

The Sixteenth Annual Meeting of
the Association for Natural Language Processing



2010年3月8日-11日

会場 東京大学

The University of Tokyo

言語処理学会

The Association for Natural Language Processing

言語処理学会第 16 回年次大会委員会

委員長 村上 仁一（鳥取大）
委員 黒橋 禎夫（京大）
鳥澤 健太郎（NICT）
宮尾 祐介（東大）
柏野 和佳子（国語研）

言語処理学会第 16 回年次大会プログラム委員会

委員長 鳥澤 健太郎（NICT）
委員 荒牧 英治（東大）
影浦 峽（東大）
風間 淳一（NICT）
木村 俊也（ミクシィ）
颯々野 学（ヤフー）
新里 圭司（京大）
竹内 孔一（岡大）
田中 久美子（東大）
鶴岡 慶雅（JAIST）
中川 哲治（NICT）
二宮 崇（東大）
橋本 力（NICT）
藤田 篤（公立はこだて未来大）
森 辰則（横浜国大）
渡邊 日出雄（日本 IBM）

言語処理学会第 16 回年次大会実行委員会

委員長 宮尾 祐介（東大）
委員 荒牧 英治（東大）
岡崎 直観（東大）
清水 伸幸（東大）
松崎 拓也（東大）
吉田 稔（東大）

言語処理学会第16回年次大会

開催案内

日時 2010年3月8日(月)～11日(木)

3月8日(月)	チュートリアル	(10:00-17:30)
9日(火)	本会議 第1日	(9:00-18:00)
	Plenary session	(15:30-18:00)
10日(水)	本会議 第2日	(9:30-18:00)
	招待講演	(13:00-14:00)
	総会	(14:30-15:20)
	懇親会	(18:30-21:00)
11日(木)	本会議 第3日	(9:00-18:00)

会場 東京大学 本郷キャンパス
(東京都文京区本郷 7-3-1)

協賛 株式会社毎日新聞社 <http://www.mainichi.co.jp/>
株式会社ミクシイ <http://mixi.co.jp/>
グーグル株式会社 <http://www.google.co.jp/>
共立出版株式会社 <http://www.kyoritsu-pub.co.jp/>

会場案内

全ての催しは、東京大学本郷キャンパスで行われます。

- 一般セッション・特別セッション・テーマセッション
 - A セッション (A1・A2・A3・A4・A5) 理学部2号館講堂
 - B セッション (B1・B2・B3・B4・B5) 赤門総合研究棟 2F 6番教室
 - C セッション (C1・C2・C3・C4・C5) 赤門総合研究棟 1F 7番教室
 - D セッション (D2・D3・D5), 特別セッション (D1・D4) 経済学研究科棟 B1F 1番教室
 - E セッション (E3・E4・E5), テーマセッション (S1・S2) 経済学研究科棟 3F 2番教室
- ポスターセッション
 - PA セッション (PA1・PA2) 福武ホール (スタジオ)
 - PB セッション (PB1・PB2) 福武ホール (ロビー)
- 総会・招待講演
 - 招待講演 安田講堂
 - 総会 赤門総合研究棟 2F 6番教室
- チュートリアル
 - トラック1 (T1-a・T1-b・T1-c) 理学部2号館講堂
 - トラック2 (T2-a・T2-b・T2-c) 赤門総合研究棟 2F 6番教室

- 企業展示

企業展示室 経済学研究科棟 1F コミュニティーラウンジ

- その他

受付・大会本部 工学部新2号館 2F フォーラム

休憩室 赤門総合研究科棟 B1F 8 番教室, 9 番教室

懇親会 東京大学 本郷キャンパス 医学部研究棟 13F Capo PELLICANO

発表者へのご案内

口頭発表・テーマセッション

1. 口頭発表（テーマセッションを除く）の発表時間は1件20分で、講演時間が15分、質疑応答・討論の時間が5分です。テーマセッションにおいても基本的にはこの発表時間に準じますが、各セッションの最後に、それぞれのテーマに関する総括的な議論のための時間をとります。このため、各発表も通常の口頭発表とは異なる進行になる可能性があります（たとえば発表時間が少しずつ短いなど）。部分聴講の際にはご注意ください。
2. 口頭発表・テーマセッションの会場では、プロジェクタが設置されています。ノート型PCの貸し出しは行いませんので、各人でお持ちください。なお、有線・無線LANの設備は提供できませんので、必要な方は各人でご準備ください。
3. セッション開始前に、会場設備のテスト（ノート型PCとプロジェクタの接続確認など）を必ず行ってください。

ポスター発表

1. ポスターセッションは150分間です。セッション開始と同時に始められるようにご準備をお願いいたします。10日午後のポスターセッション（PA2, PB2）は15:30の開始ですが、昼休みにご準備いただいても結構です。
2. 各発表に対して、ポスターボードを1枚ずつ用意いたします。ポスターは、ピンまたはテープで固定してください（ピンもしくはテープは発表者をご用意ください）。なお、セッション終了後はただちに片付けていただくようお願いいたします。
3. 発表申込時に電源を希望された方には、コンセントを用意いたします。配置等の関係で、ポスターからの距離が遠くなることもありますので、長めの電源コードをお持ちいただくようお願いいたします。発表申込時にテーブルを希望された方には、ポスターボードの前に置いてご利用いただく机を用意します。正確な寸法等、最新の情報は年次大会 Web サイトに掲載いたしますので、適宜ご確認ください。
4. 発表申込時に無線LANを希望された方には、ポスター会場にて無線LAN環境を用意いたします。ただし、接続数に限りがありますので、必要な場合のみご使用いただくようお願いいたします。
5. ノート型PCの貸し出しは一切行いませんので、各人でお持ち下さい。また、スペースの関係で、プロジェクターの利用は困難です。画面の大きなノート型PCを用いるなどにより対応してください。

本会議プログラム

S1, S2 はテーマセッション, P はポスターセッション, その他のセッションは口頭発表

3月9日(火)

9:00-12:00	A1:解析 (理学部 2号館講堂)	B1:要約・質問応答 (6番教室)	C1:情報抽出 (1) (7番教室)	D1:情報爆発特別セッション (1) (1番教室)	S1:「言語表現」と「言語」のあいだ (2番教室)
13:00-15:00	A2:評判・感情 (理学部 2号館講堂)	B2:機械翻訳 (1) (6番教室)	C2:対話・音声言語処理 (7番教室)	D2:Web 応用 (1番教室)	S2:協調的な自然言語処理 (2番教室)
15:30-18:00	Plenary session (安田講堂)				

3月10日(水)

9:30-12:00	PA1:ポスター (1) (福武ホール スタジオ)	PB1:ポスター (2) (福武ホール ロビー)
13:00-14:00	招待講演 (安田講堂)	
14:30-15:20	総会 (6番教室)	
15:30-18:00	PA2:ポスター (3) (福武ホール スタジオ)	PB2:ポスター (4) (福武ホール ロビー)
18:30-21:00	懇親会 (医学部研究棟 13F Capo PELLICANO)	

3月11日(木)

9:00-12:00	A3:語彙・辞書 (1) (理学部 2号館講堂)	B3:文書分類 (6番教室)	C3:言い換え・生成 (7番教室)	D3:文脈処理 (1番教室)	E3:意味論・意味解析 (2番教室)
13:00-15:00	A4:教育・応用 (理学部 2号館講堂)	B4:機械翻訳 (2) (6番教室)	C4:言語資源・コーパス (7番教室)	D4:情報爆発特別セッション (2) (1番教室)	E4:心理・認知言語学 (2番教室)
15:30-18:00	A5:語彙・辞書 (2) (理学部 2号館講堂)	B5:機械翻訳 (3) (6番教室)	C5:情報抽出 (2) (7番教室)	D5:テキスト・データマイニング (1番教室)	E5:言語学的分析 (2番教室)

Plenary session

3月9日(火) 言語と知識 ー最新言語処理研究の射程ー

司会 鳥澤健太郎 (NICT)

これからの言語処理とその応用

長尾真 氏 (国立国会図書館 館長)1

総合学術オントロジー

橋田浩一 氏 (産業技術総合研究所 社会知能技術研究ラボ長)2

MASTAR プロジェクト&ALAGIN フォーラム

中村哲 氏 (情報通信研究機構 知識創成コミュニケーション研究センター

副研究センター長)3

一般発表

3月9日(火) **A1:解析**

座長 出羽達也 (東芝)

A1-1 機械翻訳に適した短単位に基づく中国語単語分割について

○王軼謳, 内元清貴, 風間淳一, Kruengkrai Canasai, 鳥澤健太郎 (NICT)4

A1-2 仮名漢字変換ログの活用による言語処理精度の自動向上

○森信介, Graham Neubig (京大)8

A1-3 形態素 n-gram を用いた助詞を含む固有名詞抽出

○西川侑吾, 伊藤直之, 田村直之, 田中慶之, 中川修, 新堀英二 (大日本印刷)12

A1-4 Wikipedia 記事を利用した曖昧性のある表現の固有表現クラス分類

○藤井裕也, 飯田龍, 徳永健伸 (東工大)15

A1-5 大規模ラベルなしデータを利用した係り受け解析の性能検証

○鈴木潤, 磯崎秀樹 (NTT)19

A1-6 係り受け周辺確率に基づく文節間距離

○海野裕也, 坪井祐太 (日本 IBM)23

A1-7 構文解析の分野適応における精度低下要因の分析及び分野間距離の測定手法

○張本佳子, 宮尾祐介, 辻井潤一 (東大)27

A1-8 段階的な部分木間の構造判定に基づく決定的係り受け解析

○北川浩太郎, 田中久美子 (東大)31

A1-9 Recognition of Requisite Part and Effectuation Part in Law Sentences

○Ngo Bach Xuan, Nguyen Minh Le, Akira Shimazu (JAIST)35

3月9日(火) **B1:要約・質問応答**

座長 福本淳一 (立命館)

B1-1 文の内容性と接続性を目的関数とする複数の評価文書の要約

○西川仁, 長谷川隆明, 松尾義博, 菊井玄一郎 (NTT)39

B1-2 文書クラスタの階層構造を利用した代表文の生成

○倉田早織, 加納敏行, 齋藤佳美 (東芝ソリューション)43

B1-3	表層情報と深層情報による半教師あり学習を用いた重要文抽出システム ○天野禎章, 横山晶一 (山形大)47
B1-4	トピック語を網羅する文抽出のための TextRank 向け文間関係尺度の検討 ○金子浩一, 渋木英潔, 中野正寛, 宮崎林太郎, 石下円香, 永井隆広, 森辰則 (横浜国大)51
B1-5	言い換えを用いたテキストの自動評価 ○平原一帆, 難波英嗣, 竹澤寿幸 (広島市立大), 奥村学 (東工大)55
B1-6	単一化に基づく、ゲームのための言語処理インタフェース ○松原康夫, 何航 (文教大)59
B1-7	HOW 型 Q&A システムの構築 ○佐藤瞬, 浦谷則好 (工芸大)63
B1-8	Research on Chinese Cuisine QA Service System ○Ling Xia, Fuji Ren (徳島大)67
B1-9	Exploring Social Q&A Collections for Answering Complex Questions ○Youzheng Wu, Hideki Kashioka (NICT)70

3月9日(火) **C1:情報抽出(1)**

座長 工藤拓 (グーグル)

C1-1	商品の属性と属性値を利用したキャッチコピーの自動作成 ○森本直樹, 玉川洋輔, 牧野正治, 韓東力 (日大)74
C1-2	電子カルテからの副作用関係の自動抽出 ○三浦康秀 (富士ゼロックス), 荒牧英治 (東大), 大熊智子, 外池昌嗣, 杉原大悟, 増市博 (富士ゼロックス), 大江和彦 (東大病院)78
C1-3	特許公報を対象とした従来技術課題の抽出 ○西山莉紗 (日本 IBM)82
C1-4	深い構文解析を用いた関係抽出のための文簡易化 ○三輪誠 (東大), 辻井潤一 (東大/Manchester 大/NaCTeM)86
C1-5	発表取消
C1-6	Web ページの情報発信構成の同定 ○加藤義清, 河原大輔 (NICT), 乾健太郎 (NICT/東北大), 黒橋禎夫 (NICT/京大)90
C1-7	Web ページからの情報発信者の抽出におけるレイアウト情報の利用 ○百瀬亮, 宮崎林太郎, 渋木英潔, 森辰則 (横浜国大)94
C1-8	半教師あり系列ラベリングによるアブストラクトのセクション分割 ○平尾努, 鈴木潤, 磯崎秀樹, 永田昌明 (NTT)98
C1-9	書誌検索における関連語表示法の検討 ○阿辺川武, 高野明彦 (NII)102

3月9日(火) **D1:特別セッション: 情報爆発特別セッション(1)**

座長 颯々野学 (ヤフー)

D1-1	質問応答サイトを用いた意見テキストの収集と極性反転文の検出 ○井上結衣 (筑波大), 藤井敦 (東工大)106
D1-2	取るべき行動を回答する how 型質問応答システムの評価 ○佐々木智 (筑波大), 藤井敦 (東工大)110
D1-3	論文と特許からの技術動向マップの自動構築 ○近藤友樹, 難波英嗣, 竹澤寿幸 (広島市立大)114

D1-4	PLSI を用いたウェブ検索結果の要約	○原島純, 黒橋禎夫 (京大) 118
D1-5	Wikipedia を知識源とするトピック対応付け—ニュースに関連するブログ記事の収集—	○佐藤由紀, 横本大輔, 中崎寛之, 宇津呂武仁 (筑波大), 福原知宏 (東大) 122
D1-6	Wikipedia エントリに関連するブログサイトの収集	○横本大輔, 中崎寛之, 宇津呂武仁 (筑波大), 福原知宏 (東大) 126
D1-7	「犯罪」分野に関連するブログの類型化と自動収集	○阿部佑亮, 中崎寛之, 横本大輔, 宇津呂武仁 (筑波大), 河田容英 (ナビックス), 福原知宏 (東大) 130
D1-8	Web 情報の俯瞰的把握のための主要・対比・対立文の抽出と集約	○河原大輔 (NICT), 乾健太郎 (NICT/東北大), 黒橋禎夫 (NICT/京大) 134
D1-9	WWW から獲得した知識による検索語拡張とレシピ検索タスクにおける評価	○野田雄也, 高橋哲朗 (ニフティ), 橋本力, 鳥澤健太郎 (NICT) 138

3月9日(火) S1:テーマセッション: 「言語表現」と「言語」のあいだ

座長 影浦峽 (東大)

S1-1	統語構造と意味構造との相関から見たモダリティ論と心的態度の接点	○小橋洋平 (東工大) 142
S1-2	言語の「自然態」を捉える言語理論の必要性	○黒田航 (NICT), 寺崎知之 (京大) 146
S1-3	代表性を有するコーパスの設計とサンプリングの実際 —コーパスに基づく言語研究の可能性と限界—	○丸山岳彦 (国語研) 150
S1-4	機器の不具合を記述した日本語と英語のコーパスにおけるオノマトペ	○那須川哲哉, 海野裕也, 村上明子 (日本 IBM) 154
S1-5	社会的圧力が形作る文法: 言語を社会知として見た時何が言えるか	○吉川正人 (慶大) 158

3月9日(火) A2:評判・感情

座長 中川哲治 (NICT)

A2-1	感性表現と単語意味属性を用いた感性情報定量化手法	○高橋いづみ, 浅野久子, 小林のぞみ, 松尾義博, 菊井玄一郎 (NTT) 162
A2-2	レビュー記事からの評判情報抽出の一手法の提案	○梅村真史, 酒井浩之, 増山繁 (豊橋技科大) 166
A2-3	経済新聞記事から抽出した景気動向を示す根拠表現への極性付与手法の提案	○谷口将太, 坂地泰紀, 酒井浩之, 増山繁 (豊橋技科大) 170
A2-4	評価表現に基づくブログ分類の試み—アプレイザル理論を用いて—	○佐野大樹, 丸山岳彦 (国語研) 174
A2-5	2ちゃんねるを対象とした悪口表現の抽出	○石坂達也, 山本和英 (長岡技科大) 178
A2-6	文とテキストに対する感情極性の同時推定	○横野光, 奥村学 (東工大) 182

3月9日(火) **B2:機械翻訳(1)**

座長 荒牧英治(東大)

- B2-1 訳語選択における手掛かり語の選択手法
○綱川隆司, 丸岡良徳, 梶博行(静岡大) . . . 186
- B2-2 対訳文抽出におけるレイアウト情報の利用
○秋本仁志, 伊川洋平, 金山博(日本IBM) . . . 190
- B2-3 意味的等価クラスを用いた日本語機能表現の集約的日中翻訳規則の作成と分析
○劉颯, 長坂泰治, 宇津呂武仁(筑波大), 松吉俊(NAIST) . . . 194
- B2-4 部品化された原文からの機械翻訳文生成
○富士秀, 長瀬友樹, 潮田明(富士通研), 増山顕成(富士通) . . . 198
- B2-5 カタカナ語から英語への翻字翻訳
○鈴木久美(MSR), Colin Cherry(NRC) . . . 202
- B2-6 対訳特許文からの対訳専門用語獲得における同義専門用語集合の分析と同定
○森下洋平, 宇津呂武仁, 山本幹雄(筑波大) . . . 206

3月9日(火) **C2:対話・音声言語処理**

座長 荒木雅弘(京都工繊大)

- C2-1 チャット形式で対話するネットワーキング秘書ボット「YouBot」
○竹形誠司, 田中久美子(東大) . . . 210
- C2-2 Webからの情報抽出に基づく雑談的な対話の生成
○吉野幸一郎, 河原達也(京大) . . . 214
- C2-3 音声対話システムにおける各ユーザの利用履歴を活用したバージン発話のエラー検出
○駒谷和範, 奥乃博(京大) . . . 218
- C2-4 統計的機械翻訳の枠組みを用いた話し言葉の整形
○Graham Neubig, 秋田祐哉, 森信介, 河原達也(京大) . . . 222
- C2-5 文書検索型音声対話システムにおける応答生成の最適化戦略のオンライン学習
○翠輝久, 大竹清敬, 堀智織, 柏岡秀紀, 中村哲(NICT) . . . 226
- C2-6 pLSA学習を用いた音声認識誤りに頑健な質問応答選択手法
○井上僚介, 黒澤義明, 目良和也, 竹澤寿幸(広島市立大) . . . 230

3月9日(火) **D2:Web応用**

座長 木村俊也(ミクシイ)

- D2-1 関西空港の利用行動に関する利用者の立場のブログページの簡単な収集方法
○鷹尾和享(システム科学研) . . . 234
- D2-2 Web情報分析のための大規模Webページの収集・選択・検索
○赤峯享(NICT/NAIST), 加藤義清, 河原大輔, レオン末松豊インティ(NICT),
新里圭司(京大), 乾健太郎(NICT/東北大), 黒橋禎夫(NICT/京大),
木俣豊(NICT) . . . 238
- D2-3 非定型文書を対象としたWebページの発信日付推定
○河合剛巨, 中澤聡, 安藤真一(NEC) . . . 242
- D2-4 ブログを利用した観光情報リンク集の自動構築
○石野亜耶, 小林大祐, 難波英嗣, 竹澤寿幸(広島市立大) . . . 246
- D2-5 雑談システムにおける話題展開の性能向上
○前田和希, 宋キン, 國政裕友樹, 豊田博之, 韓東力(日大) . . . 250

D2-6	ショッピングサイトにおける商品の同一性、類似性の推定手法 ○関根聡 (ランゲージ・クラフト/NYU), 小林暁雄, 坂地泰紀 (豊橋技科大), 竹中孝真 (楽天) 254
------	---

3月9日(火) **S2:テーマセッション: 協調的な自然言語処理**

座長 大塚裕子 (IBS)

S2-1	相互理解の生態心理学: アフォーダンスから捉えるコミュニケーション ○伊澤宜仁 (慶大) 258
S2-2	統合翻訳ホスティング・サイトを用いた協調作業による下訳・修正訳データの収集 ○影浦峯 (東大), 阿辺川武 (NII), 内山将夫, 隅田英一郎 (NICT) 262
S2-3	コミュニケーション創出と支援ツール利用の功罪 ○砂岡和子 (早大) 266
S2-4	英語教材協調開発システム COOLL の設計 ○来住伸子, 吉田葵 (津田塾大), 梶山朋子 (早大), 青柳龍也, 田近裕子 (津田塾大) 270

3月10日(水) **PA1:ポスター (1)**

座長 宇津呂武仁 (筑波大)

PA1-1	生命科学知識の連想検索における提示語の最適化 ○金子周司 (京大), 藤田信之 (NITE), 鶴川義弘 (宮教大) 274
PA1-2	Web ページ検索結果の絞込みのための記述要素の提示 ○久保木武承, 山本和英 (長岡技科大) 278
PA1-3	部分文字列の組み合わせ索引を用いた類似文字列検索 ○吉岡章太郎, 森田和宏, 泓田正雄, 青江順一 (徳島大) 282
PA1-4	講演音声ドキュメント検索のための広域文書類似度と局所文書類似度の統合 ○弥永裕介, 南條浩輝, 吉見毅彦 (龍谷大) 286
PA1-5	スレッド構造と語彙的連鎖を用いたオンラインディスカッションからの重要文・トピックの抽出 ○羽鳥潤 (東大), 村上明子 (日本 IBM) 290
PA1-6	多層ネットワーク型 TextRank による根拠関係を考慮した重要パッセージ抽出 ○永井隆広, 金子浩一, 渋谷英潔, 中野正寛, 宮崎林太郎, 石下円香, 森辰則 (横浜国大) 294
PA1-7	連想知識を用いた端的な要約の生成 ○瀧川和樹 (長岡技科大), 村田真樹, 土田正明, Stijn De Saeger (NICT), 山本和英 (長岡技科大), 鳥澤健太郎 (NICT) 298
PA1-8	リンク解析に基づく複数文書の自動要約 ○酒井明奈, 福本文代 (山梨大) 302
PA1-9	1日観察データを用いた、1 女児の各生活場面における使用品詞の分布 ○中田脩一, 小林春美 (東京電機大), 荻野美佐子 (上智大) 306
PA1-10	S の成分、S の境界 ○塚脇幸代 (フリー) 310
PA1-11	コーパスを用いたテキスト分類指標の検討—BCCWJ の文書構造情報分析を中心に— ○間瀬洋子, 柏野和佳子, 山口昌也, 高田智和 (国語研) 314
PA1-12	回帰木を用いた NS/NNS テキスト分類 ○小林雄一郎 (阪大) 318
PA1-13	Web サイトにおけるクチコミの苦情と返答 —「宿泊予約サイト」を対象に— ○大沢裕子, 郷里里沙, 安田励子 (早大) 322

PA1-14	形態素解析辞書のベンチマークテスト ー IPAdic・NAIST-jdic・UniDic のジャンル別精度比較ー ○小木曾智信, 小椋秀樹, 小磯花絵, 宮内佐夜香, 渡部涼子 (国語研), 伝康晴 (千葉大) 326
PA1-15	2ちゃんねる解析用の形態素解析器の作成 ○早藤健, 建石由佳 (工学院大) 330
PA1-16	証明木作成プログラムを用いた CCG 統語導出の実装 ○尾崎有梨, 櫻井加奈子, 浅井健一, 戸次大介 (お茶大) 334
PA1-17	発表取消	
PA1-18	臨床医療テキストの構造化システム ○荒牧英治 (東大), 三浦康秀, 外池昌嗣, 大熊智子, 杉原大悟, 増市博 (富士ゼロックス), 大江和彦 (東大病院) 337
PA1-19	章立てに注目した論文の研究内容による自動分類 ○島広幸, 建石由佳 (工学院大) 341
PA1-20	PUNDA Numbeats: Proposal of Goroawase Generating System for Japanese ○Pawel Dybala, Michal Ptaszynski, Rafal Rzepka, Kenji Araki (北大) 345
PA1-21	隣接单語で表現した文脈における高頻度文脈の傾向分析 ○増山篤志, 梅村恭司, 阿部洋丈, 岡部正幸 (豊橋技科大) 349
PA1-22	Web コーパスからのノウハウの獲得 ○小澤俊介 (名大), 内元清貴 (NICT), 松原茂樹 (名大) 351
PA1-23	述語と項の分布類似度を利用した非明示的な根拠帰結関係の同定 ○林賢吾, 飯田龍, 徳永健伸 (東工大) 355
PA1-24	Web 文書からの人物情報の抽出 ○西田成臣, 森辰則 (横浜国大) 359
PA1-25	統計値の分布密度推定に基づく動向情報の抽出 ○井上裁都, 鈴木宏哉, 斎藤博昭 (慶大) 363
PA1-26	ショッピングサイトの商品ページタイトルからの商品関連用語の抽出と 商品カタログへの商品ページの紐付け手法 ○小林暁雄, 坂地泰紀 (豊橋技科大), 関根聡 (NYU), 竹中孝真 (楽天) 367
PA1-27	商品ページからの属性・属性値抽出と同一商品クラスタリング手法 ○坂地泰紀, 小林暁雄 (豊橋技科大), 関根聡 (ランゲージ・クラフト/NYU), 竹中孝真 (楽天) 371
PA1-28	英語論文からの表現集の自動生成 ○酒井佑太, 小澤俊介, 杉木健二, 松原茂樹 (名大) 375
PA1-29	括弧表現の抽出・分類に関する研究 ○中山悟, 森田和宏, 泓田正雄, 青江順一 (徳島大) 379
PA1-30	学校非公式サイトにおける有害情報検出 ○松葉達明 (三重大), 榊井文人 (北見工大), 河合敦夫, 井須尚紀 (三重大) 383
PA1-31	対話研究にふさわしい統語的単位の認定基準 ー対話節単位の設計ー ○丸山岳彦 (国語研), 高梨克也 (京大), 吉田奈央 (東工大/国語研) 387
PA1-32	Web 検索と単語 n-gram モデルを用いた文生成手法の性能評価 ○高橋瑞希, Rafal Rzepka, 荒木健治 (北大) 391
PA1-33	同調的対話システムにおけるあいづち挿入タイミング ○神谷優貴, 大野誠寛 (名大), 松原茂樹 (名大/NICT), 柏岡秀紀 (NICT) 395

PA1-34	日本人小学生の空主語文処理プロセス	○Yong Zhai (九大), 隈上麻衣 (CUNY), 坂本勉 (九大) 399
PA1-35	ウェブ上で収集した幼児語彙発達データの信頼性検証	○小林哲生, 永田昌明 (NTT) 403
PA1-36	打点方略が読点配置の適切性に及ぼす影響	○伊藤俊一 (愛教大) 407
PA1-37	SignWriting による日本手話記述システムとその手話単語検索機能	○高瀬友宏, 小川貴大, 竹寫志起, 黒木泰行, 松本忠博 (岐阜大), 加藤三保子 (豊橋技科大), 池田尚志 (岐阜大) 411
PA1-38	英文冠詞誤りの自動校正手法におけるアプローチの違いによる傾向分析	○乙武北斗, 荒木健治 (北大) 415
PA1-39	ブログページ集合からのポスト及びコメントの自動抽出	○吉田光男, 乾孝司, 山本幹雄 (筑波大) 418

3月10日(水) **PB1:ポスター(2)**

		座長 長瀬友樹 (富士通研)	
PB1-1	ターミノロジー理論に基づくオントロジーのマッピング：認知的翻訳アプローチ	○加納史子 (CBS) 422
PB1-2	地名表現の使われ方における多義性の解消	○小島正裕 (龍谷大), 村田真樹 (NICT), 西村涼, 渡辺靖彦 (龍谷大) 426
PB1-3	ポスター会話における指示表現の分析 —参照先との自動対応付けに向けて—	○吉田仙 (NTT), 高梨克也, 河原達也 (京大), 永田昌明 (NTT) 430
PB1-4	名詞の主要語義の推定と語義識別への応用	○江口晃, 新納浩幸, 佐々木稔 (茨城大) 434
PB1-5	LOF と One Class SVM を用いた特異用例の検出	○新納浩幸, 佐々木稔 (茨城大) 438
PB1-6	Web デirectory を利用した名詞のジャンルベクトルの作成	○林華, 新納浩幸, 佐々木稔 (茨城大) 442
PB1-7	ナルの意味解釈 —可能の意味に着目して—	○関秀一 (東北大) 446
PB1-8	引用ト節(句)と共起する語彙と構文 —BCCWJ コーパスに基づく語彙・構文彙の構築に向けて—	○藤井聖子 (東大) 450
PB1-9	名詞における言語化される意味	○保田祥 (神戸大) 454
PB1-10	幼児の日常生活における対話データの分析と名詞概念獲得システム SINCA への適用	○内田ゆず, 荒木健治 (北大) 458
PB1-11	n-gram を用いた日本語テキスト含意認識の検討	○宇高邦弘, 山本和英 (長岡技科大) 462
PB1-12	h 指数を用いたテキストの特徴分析	○鈴木崇史 (NII), 冨坂亮太 (東大), 内山清子, 相澤彰子 (NII) 466
PB1-13	最大エントロピー法の解析的解法	○掛谷英紀 (筑波大) 470

PB1-14	物語生成システムにおける物語言説システムの実装と結果の分析 —語り手と聴き手の相互作用による機構の提案—	○秋元泰介, 小方孝 (岩手県立大) 474
3月10日(水) PA2:ポスター (3)		
		座長 増市博 (富士ゼロックス)
PA2-1	多言語資源作成のための統語属性付与支援 FLASH アプリケーションの開発 ○鈴木慎吾 (京産大), 山崎直樹 (関西大), 堀一成 (阪大) 478	
PA2-2	外来語の表音的類似性を利用した日韓文アライメント ○園尾聡, 熊野明 (東芝) 482	
PA2-3	形態素解析辞書 UniDic における同語異語判別について ○小椋秀樹, 原裕, 小木曾智信, 小磯花絵, 宮内佐夜香 (国語研) 486	
PA2-4	構文情報タグ付き法律文コーパスにおける並列表現の分析とタグ付け誤りの修正 ○加藤竜太, 小川泰弘, 外山勝彦 (名大) 490	
PA2-5	手話ニュースコーパスの構築 ○加藤直人 (NHK) 494	
PA2-6	NICT 京都観光案内音声対話コーパスの構築とその利用 ○大竹清敬, 翠輝久, 堀智織, 柏岡秀紀, 中村哲 (NICT) 498	
PA2-7	日中科学技術対訳コーパス作成における格助詞「より」および類似表現の 多義性と多訳性の分析 ○青木雅子, 蔣イ, 井上聡子, 菊池俊一 (JST) 502	
PA2-8	「現代日本語書き言葉均衡コーパス」を対象とした全文検索システム ○曾根孝明, 小原京子, 斎藤博昭 (慶大) 506	
PA2-9	SLAT 2.0: Corpus Construction and Annotation Process Management ○Dain Kaplan, Ryu Iida, Takenobu Tokunaga (東工大) 510	
PA2-10	語彙知識を用いた日本語テキスト含意認識評価セット構築と認識実験 ○村松祐希, 山本和英 (長岡技科大) 514	
PA2-11	名詞の上位概念を考慮した英文への冠詞付与規則の拡張 ○三宅裕文, 河合敦夫, 井須尚紀 (三重大) 518	
PA2-12	ムーブ分析に基づく英語論文表現データベースの開発 —京都大学学術論文コーパスを用いて— ○金丸敏幸, マスワナ紗矢子 (京大), 笹尾洋介 (Victoria 大), 田地野彰 (京大) 522	
PA2-13	教師のためのレポート評価支援～『コビペ』レポートの検出～ ○峯脇さやか (弓削商船) 526	
PA2-14	書き手の特徴を利用した学生レポートチェックシステムの構築 ○太田貴久, 増山繁 (豊橋技科大) 529	
PA2-15	学習者同士の相互添削にみる作文支援システムの教育効果 ○北村雅則 (名古屋学院大), 加藤良徳 (静岡英和学院大), 棚橋尚子 (奈良教育大), 山口昌也 (国語研) 531	
PA2-16	作文支援システム TEachOtherS における添削の「効率化」 ○山口昌也 (国語研), 北村雅則 (名古屋学院大), 加藤良徳 (静岡英和学院大), 棚橋尚子 (奈良教育大) 535	
PA2-17	統計的語彙情報に基づく日本人学習者の英語習熟度の分析 ○鏑木元 (早大), 安田圭志 (NICT), 山本博史 (近畿大), 匂坂芳典 (早大/NICT) 539	

PA2-18	チャンツに基づいた英語教材生成のためのストレス位置自動判定	○水本智也, 永田亮 (甲南大), 船越孝太郎 (HRI-JP) 543
PA2-19	VOD 講義の字幕を利用した話題検索	○椎名広光 (岡理大), 小林伸行 (山陽学園大), 北川文夫 (岡理大) 547
PA2-20	オンライン語彙獲得を用いたリアルタイムウェブの言語処理	○村脇有吾, 黒橋禎夫 (京大) 551
PA2-21	オンライン協調翻訳環境におけるユーザ用語管理メカニズム	○影浦峽 (東大), 阿辺川武 (NII), 内山将夫, 隅田英一郎 (NICT) 555
PA2-22	文間意味的關係認識による言論マップ生成	○村上浩司, 水野淳太, 後藤隼人, 大木環美, 松吉俊 (NAIST), 乾健太郎 (東北大/NAIST), 松本裕治 (NAIST) 559
PA2-23	具体性と記述長を考慮した質問文自動生成手法の提案	○木村泰知 (小樽商大), 洪木英潔 (横浜国大), 高丸圭一 (ディクテリオ/宇都宮共和大), 森辰則 (横浜国大) 563
PA2-24	モバイル検索システムのための絵文字に対する意味解析	○萩原正人, 水野貴明 (バイドウ) 567
PA2-25	専門用語の専門度の指標に関する一考察	○内山清子, 鈴木崇史, 相澤彰子 (NII) 571
PA2-26	LMF に準拠した WordNet 型意味辞書アクセスのための Web サービス	○Bora Savas, 林良彦 (阪大) 575
PA2-27	コーパスの異なりと単語親密度を活用した日本語共通基礎語彙の抽出	○松田真希子, 児玉茂昭, 竹元勇太, 石坂達也 (長岡技科大), 森篤嗣 (国語研), 川村よし子 (東京国際大), 山本和英 (長岡技科大) 579
PA2-28	Towards Fully Automatic Emoticon Analysis System (^o^)	○Michal Ptaszynski, Pawel Dybala, Rafal Rzepka, Kenji Araki (北大) 583
PA2-29	アスペクトごとの文の重要度と類似性判断に基づく複数レビューの要約	○唯野良介, 嶋田和孝, 遠藤勉 (九工大) 587
PA2-30	レビューの構造と評点を利用したアスペクトと語の対応付け	○山海匡史, 嶋田和孝, 遠藤勉 (九工大) 591
PA2-31	プライバシー保護のための音声中の人名除去手法の検討	○土屋雅稔, 遠藤翔子, 藤井康寿, 中川聖一 (豊橋技科大) 595
PA2-32	音声対話におけるユーザ発話からの口癖検出	○大野誠寛 (名大), 松原茂樹 (名大/JST) 599
PA2-33	トピックモデルを用いた映像コンテンツの理解支援	○岡本昌直, 祖父江美香, 祖父江翔 (岐阜大), 中村明 (三洋電機), 田村哲嗣, 速水悟 (岐阜大) 603
PA2-34	吹き出し型字幕の読みやすさ向上のための改行・改ページの挿入	○木村拓朗, 南條浩輝, 吉見毅彦 (龍谷大) 607
PA2-35	日英特許翻訳における日本語機能表現の集約的英訳可能性の調査	○島内蘭, 長坂泰治, 坂本明子, 宇津呂武仁 (筑波大), 松吉俊 (NAIST) 611
PA2-36	病院での医療文書点訳に特化した自動点訳プログラム「医 Braille」の開発	○菅野亜紀, 大田美香, 村井勇介, 三浦研爾 (神戸大), 相良かおる (西南女学院大), 松浦正子, 池上峰子, 前田英一 (神戸大), 松本裕治 (NAIST), 大島敏子, 高岡裕 (神戸大) 615

- PA2-37 中途視覚障害者向け“触読点字 e-learning”の開発
○大田美香, 三浦研爾, 小田剛, 菅野亜紀, 高岡裕 (神戸大) . . . 619
- PA2-38 みんなの翻訳第2報
○内山将夫 (NICT), 阿辺川武 (NII), 隅田英一郎 (NICT), 影浦峽 (東大) . . . 621
- PA2-39 Khafra: 語順並べ替えモデルに対応した動的計画法に基づく SMT デコーダ
○安田隆浩, 越川満, 乾孝司, 山本幹雄 (筑波大) . . . 625
- PA2-40 意味訳型翻字システムにおけるユーザフィードバックの応用
○黄海湘 (筑波大), 藤井敦 (東工大) . . . 629

3月10日(水) **PB2:ポスター(4)**

座長 丹羽芳樹 (日立)

- PB2-1 翻訳支援のための自動翻訳技術の部品化およびサービス提供
○大倉清司, 長瀬友樹, 潮田明 (富士通研) . . . 633
- PB2-2 日中機械翻訳における「なる」構文の翻訳処理について
○黄曉兵, 池田尚志 (岐阜大) . . . 637
- PB2-3 日英統計翻訳における英辞郎の効果
○東江恵介, 村上仁一, 徳久雅人, 池原悟 (鳥取大) . . . 641
- PB2-4 機械翻訳システム Jaw における機能語独立文節に関する処理
ー Jaw/Chinese における事例ー
○薛明恵, 池田尚志 (岐阜大) . . . 645
- PB2-5 Factored Translation Model を用いた日英間統計的機械翻訳の調査
○小田貴博, 秋葉友良 (豊橋技科大) . . . 649
- PB2-6 統計的機械翻訳における未登録語のグループ化による翻訳
○吉崎大輔 (早大), 山本博史 (近畿大/NICT), 大熊英男 (NICT), 匂坂芳典 (早大/NICT) . . . 653
- PB2-7 英日翻訳におけるいわゆる-ed 型, -ing 型動詞の分析
○阿辺川武 (NII), 植田禎子 (JSA), 影浦峽 (東大) . . . 657
- PB2-8 英作文支援のための大規模な日英対訳表現の抽出
○坂上信也, 馬青 (龍谷大), 村田真樹 (NICT) . . . 660
- PB2-9 英語の主節と副詞節の順序を保持した和訳のための前編集と後編集
○柴田誠, 南條浩輝, 吉見毅彦 (龍谷大) . . . 664
- PB2-10 対訳コーパスを用いた省略可能情報に基づく格フレームの自動獲得
○三上優, 越前谷博, 桃内佳雄 (北海学園大) . . . 668
- PB2-11 ルールベース翻訳を前処理に用いた統計翻訳
○福田智大, 村上仁一, 徳久雅人, 池原悟 (鳥取大) . . . 672
- PB2-12 文単位のパターンを用いた統計翻訳
○西村拓哉, 村上仁一, 徳久雅人, 池原悟 (鳥取大) . . . 676
- PB2-13 機械翻訳における誤りの傾向
○渡辺桂子, 建石由佳 (工学院大) . . . 680
- PB2-14 開発・運用コストの低い機械翻訳評価システム
○山本晋平, 南條浩輝, 吉見毅彦 (龍谷大) . . . 684

3月11日(木) **A3:語彙・辞書(1)**

座長 風間淳一 (NICT)

- A3-1 素性の相対性による分布類似度計算
○朝倉剛史, 山本和英 (長岡技科大) . . . 688

- A3-2 Web から辞書への語義別画像付与の試み
 - 基本語意味データベース Lexeed および Wikipedia を対象に -
 ○藤田早苗, 永田昌明 (NTT) 692
- A3-3 逐語訳によるウイグル語-日本語機械翻訳の研究
 ○マヒムットジャンママットジャン, 岡本紘昭 (朝日大) 696
- A3-4 大規模単言語コーパスと基本語対訳辞書を用いた専門用語の訳語獲得
 ○石川裕貴, 中澤敏明, 黒橋禎夫 (京大) 700
- A3-5 Web デirectory を利用した意味的関連語集合の作成
 ○佐々木稔, 三上健太, 新納浩幸 (茨城大) 704
- A3-6 係り受け関係を考慮した優勢表記辞書の作成
 ○西川彩, 渡辺靖彦, 西村涼, 岡田至弘 (龍谷大) 708
- A3-7 大規模コーパスからの名詞格フレーム構築
 ○河野洋志, 笹野遼平, 黒橋禎夫 (京大) 712
- A3-8 テキストから自動獲得した名詞の分類
 ○村脇有吾, 黒橋禎夫 (京大) 716
- A3-9 中国語 MC-FIB 問題の AQG システムの開発
 ○黄魯南 (東大), 星野綾子 (NEC), 加藤恒昭 (東大) 720

3月11日(木) **B3:文書分類**

座長 森辰則 (横浜国大)

- B3-1 臨床試験計画書の MeSH カテゴリーへの自動分類
 ○佐々木裕 (豊田工大) 724
- B3-2 クラス所属確率を用いたアンサンブル学習
 ○高橋和子 (敬愛大) 728
- B3-3 反復度を用いた文字列の特徴選択によるスパム分類
 ○尾上徹, 岡部正幸, 梅村恭司, 阿部洋丈 (豊橋技科大) 732
- B3-4 圧縮に基づく言語判別
 ○早矢仕裕, 田中久美子 (東大) 736
- B3-5 Web 上のレビュー記事のイデオロギー分析とその応用
 ○橋本悠, 掛谷英紀 (筑波大) 740
- B3-6 国会議事録を教師信号とする大学のイデオロギー分布推定
 ○東宏一 (筑波大), 村田真樹 (NICT), 掛谷英紀 (筑波大) 744
- B3-7 行列分解による多クラス分類とその応用
 ○岡野原大輔 (東大), 辻井潤一 (東大/Manchester 大/NaCTeM) 748

3月11日(木) **C3:言い換え・生成**

座長 藤田篤 (未来大)

- C3-1 構造の不完全さに着目した等位文の述部機能表現補完
 ○泉朋子, 今村賢治, 菊井玄一郎 (NTT) 752
- C3-2 英日翻訳における下訳と修正訳の語彙的/文体的特徴の分析
 ○村山遼, 影浦峽 (東大) 756
- C3-3 国語辞典を使った放送ニュースの名詞の平易化
 ○美野秀弥, 田中英輝 (NHK) 760
- C3-4 敬語表現への自動変換システムの構築
 ○明河直樹, 蒲地俊太郎, 堀智允, 韓東力 (日大) 764

- C3-5 英日機械翻訳における自然な訳文への言い換えシステム
○宮地洋太, 田添文博 (鈴鹿高専), 椎野努 (愛工大) 768
- C3-6 同義語抽出手法を利用した論文用語の特許用語への自動変換
○難波英嗣, 竹澤寿幸 (広島市立大), 内山清子, 相澤彰子 (NII) 772
- C3-7 専門用語の言い換えに着目した解説文リライト支援
－ WEB を介した大規模な読み比べ評価実験システム－
○藤沢仁子 (総研大), 神門典子, 相原健郎 (総研大/NII), 安達淳 (NII) 776
- C3-8 複数文からなる文章読解タスクへのテキスト含意認識の適用可能性の検討
○笠原要, 平博順, 永田昌明 (NTT) 780
- C3-9 The Information Insertion Task with Intermediate Word Representation
○Minh Quang Nhat Pham, Minh Le Nguyen, Akira Shimazu (JAIST) 784

3月11日(木) **D3:文脈処理**

座長 橋本力 (NICT)

- D3-1 文間の限定関係認識：課題設計および分析と予備実験
○大木環美, 村上浩司, 水野淳太 (NAIST), 増田祥子 (NAIST/阪府大),
乾健太郎 (NAIST/東北大), 松本裕治 (NAIST) 788
- D3-2 大語彙の同義語集合からの文脈に応じた語彙選択
○松原勇介 (東大), 辻井潤一 (東大/Manchester 大/NaCTeM) 792
- D3-3 文章構造解析に基づく小論文の論理性的の自動採点
○藤田彬, 田村直良 (横浜国大) 796
- D3-4 非言語情報を用いた協調作業対話における照応解析
○小林俊平, 飯田龍, 徳永健伸 (東工大), 船越孝太郎, 中野幹生 (HRI-JP) 800
- D3-5 述語対の項共有情報を利用した文間ゼロ照応解析
○飯田龍, 徳永健伸 (東工大) 804
- D3-6 LDA の文脈長最適化によるトピック依存 N-gram の高精度化
○中村明 (三洋電機), 速水悟 (岐阜大) 808
- D3-7 日本語テキストにおける読点位置の検出
○村田匡輝, 大野誠寛, 松原茂樹 (名大) 812
- D3-8 照応関係を利用した日本語質問文の生成
○高木想一郎, 飯田龍, 徳永健伸 (東工大) 816
- D3-9 保険約款に対する派生文書の矛盾認識
○丹治広樹, 山本和英 (長岡技科大) 820

3月11日(木) **E3:意味論・意味解析**

座長 竹内孔一 (岡山大)

- E3-1 因子分析による日本語文末表現の機能・叙法分析
○玉城伸仁, 黒橋禎夫 (京大) 824
- E3-2 Generative Lexicon 理論の拡張
○西口純代 (徳島大) 828
- E3-3 連結詞的知覚動詞構文の不定主語に於ける意味制約
○中村文紀 (慶大) 832
- E3-4 A Constrained Semantics for Parsed English Sentences
○Alastair Butler (学振/東北大), Yusuke Miyao (東大), Kei Yoshimoto (東北大),
Jun'ichi Tsujii (東大) 836

- E3-5 述語語義と意味役割の結合学習のための構造予測モデル
○渡邊陽太郎, 浅原正幸, 松本裕治 (NAIST) 840
- E3-6 含意認識を用いた評判分析：仮説オントロジの構築方法の検討
○平博順, 笠原要, 吉田仙, 永田昌明 (NTT), 大友謙一, 柴田知秀, 黒橋禎夫 (京大) 844
- E3-7 文間関係認識のための構造的アライメント
○後藤隼人, 水野淳太, 村上浩司 (NAIST), 乾健太郎 (東北大/NAIST),
松本裕治 (NAIST) 848
- E3-8 モダリティ、真偽情報、価値情報を統合した拡張モダリティ解析
○江口萌, 松吉俊, 佐尾ちとせ (NAIST), 乾健太郎 (東北大/NAIST), 松本裕治 (NAIST) 852
- E3-9 文中の接続助詞「が」に着目した翻訳単位間の意味関係の推定
○酒井浩之 (豊橋技科大), 松原茂樹 (名大), 増山繁, 稲垣康善 (豊橋技科大) 856

3月11日(木) **A4:教育・応用**

座長 内山将夫 (NICT)

- A4-1 A Supporting System for Learning and Using Japanese Sentence Patterns
○Xin Song, Dongli Han (日大) 860
- A4-2 英語版 Wikipedia を対象としたユーザが知らない語を予測する読解支援システム
○江原遥, 二宮崇, 清水伸幸, 中川裕志 (東大) 864
- A4-3 自然言語処理技術の医療現場への応用：視覚障害を有する患者へのサービス向上と
社会復帰支援
○高岡裕, 菅野亜紀, 大田美香 (神戸大) 868
- A4-4 学習効果を最大とするための英文誤り検出の性能評価
○永田亮, 中谷和秀 (甲南大) 872
- A4-5 英語論文作成支援を目的とした日本人大学生の学習者コーパス構築
鈴木千鶴子, スーザン福島, 渡辺洋子, ○金城由美子, 吉原将太 (長崎純心大) 876

3月11日(木) **B4:機械翻訳(2)**

座長 田中英輝 (NHK)

- B4-1 翻訳検証テストのテストカバレッジに関する理論式
○加藤直孝, 松下和憲 (日本IBM), 有澤誠 (慶大) 880
- B4-2 英日翻訳における語順について
○磯崎秀樹 (NTT) 884
- B4-3 並列構造の不正な統語解析結果を統計的に検出する
○加藤鉦三 (信州大), 黒田航 (NICT) 888
- B4-4 Deep Syntactic Structures for String-to-Tree Translation
○Xianchao Wu (東大), Jun'ichi Tsujii (東大/Manchester大/NaCTeM) 892
- B4-5 Japanese-Vietnamese compound noun translation
○Vo Ho Bao Khanh, Shun Ishizaki (慶大) 896
- B4-6 大規模候補リストを利用したトランスリタレーション
○佐藤理史 (名大) 900

3月11日(木) **C4:言語資源・コーパス**

座長 河原大輔 (NICT)

- C4-1 同期文法を用いた構文木付きコーパスの誤り訂正
○加藤芳秀, 松原茂樹 (名大) 904

- C4-2 コーパスへのアノテーションとガイドライン統合的な管理手法
○大内田賢太 (DBCLS), 金進東 (東大), 高木利久 (DBCLS),
辻井潤一 (東大/Manchester 大) 908
- C4-3 点推定と能動学習を用いた自動単語分割器の分野適応
○Graham Neubig, 中田陽介, 森信介 (京大) 912
- C4-4 拡張固有表現タグ付きコーパスの構築 – 白書, 書籍, Yahoo!知恵袋コアデータ –
○橋本泰一 (東工大), 中村俊一 (JSA) 916
- C4-5 対話システムのための「なりきり質問応答」を用いた質問応答ペアの収集とその応用
○東中竜一郎, 堂坂浩二, 磯崎秀樹 (NTT) 920
- C4-6 Web 上のオノマトペの用例を共起単語で絞り込む用例抽出法
○森田一匡, 鈴木良弥 (山梨大) 924

3月11日(木) **D4:特別セッション: 情報爆発特別セッション (2)**

座長 渡辺日出雄 (日本 IBM)

- D4-1 機械学習と種々の素性を用いた編集距離の小さい日本語異表記対の抽出
○小島正裕 (龍谷大), 村田真樹, 風間淳一, 黒田航 (NICT), 藤田篤 (未来大/NICT),
荒牧英治 (東大), 土田正明 (NICT), 渡辺靖彦 (龍谷大), 鳥澤健太郎 (NICT) 928
- D4-2 単語の意味クラスを用いたパターン学習による大規模な意味的關係獲得
○Stijn De Saeger, 鳥澤健太郎, 風間淳一, 黒田航, 村田真樹 (NICT) 932
- D4-3 類推による単語間の意味的關係獲得法
○土田正明 (NICT/東理大), Stijn De Saeger, 鳥澤健太郎, 村田真樹, 風間淳一,
黒田航 (NICT), 大和田勇人 (東理大) 936
- D4-4 動詞含意関係データベースの自動拡張
○橋本力 (NICT/京大), 鳥澤健太郎 (NICT), 黒橋禎夫 (京大/NICT),
藤田篤 (未来大/NICT), 黒田航, ステイン・デ・サーガ, 村田真樹,
風間淳一 (NICT) 940
- D4-5 Web ページの構造解析とメタデータ候補の抽出
○船山弘孝, 洪田和宏, 柴田知秀, 黒橋禎夫 (京大) 944
- D4-6 Wikipedia を利用した日本語 WordNet への用語追加の検討
○山田一郎, 呉鍾勳, 鳥澤健太郎, 黒田航, 風間淳一, 村田真樹 (NICT) 948

3月11日(木) **E4:心理・認知言語学**

座長 伝康晴 (千葉大)

- E4-1 shWiiFit Reduce Dependency Parsing
○浅原正幸 (NAIST) 952
- E4-2 Relation between the word order characteristics and suicide/homicide rates
○Terumasa Ehara (山梨英和大) 956
- E4-3 俳句テキストの語彙分析に基づく知識発見に向けて
○鈴木雅実 (KDDI 研), 皆川直凡 (鳴門教育大) 960
- E4-4 「用法基盤」から「事例基盤」へ: 妥当な言語記憶のモデルを求めて
○吉川正人 (慶大) 962
- E4-5 TYPO Writer: ヒトはどのように打ち間違えるのか?
○荒牧英治 (東大), 宇野良子 (東京農工大), 岡瑞起 (東大) 966

3月11日(木) **A5:語彙・辞書(2)**

座長 新里圭司(京大)

- A5-1 階層的機能表現辞書に基づく日本語機能表現の分析と検出
○長坂泰治, 宇津呂武仁(筑波大), 松吉俊(NAIST), 土屋雅稔(豊橋技科大) ... 970
- A5-2 文脈類似度と表記類似度を用いた教師あり同義語抽出
○森本康嗣, 柳井孝介, 岩山真(日立) ... 974
- A5-3 日本語ワードネット 1.0
○栗林孝行(NICT), Francis Bond(NTU), 黒田航, 内元清貴,
井佐原均, 神崎享子, 鳥澤健太郎(NICT) ... 978
- A5-4 MCCA モデルの日英辞書構築への適用
林克彦, ○福西孝章, 西田昌史, 山本誠一(同志社大) ... 982
- A5-5 文末表現シソーラスの設計と編纂
○榊田達也, 佐藤理史(名大) ... 986
- A5-6 Web 文書にも対応できる日本語異表記の認定基準
○黒田航, 風間淳一, 村田真樹, 鳥澤健太郎(NICT) ... 990
- A5-7 用例に基づくオノマトペ用法辞書の編纂
○古武泰樹, 佐藤理史(名大) ... 994

3月11日(木) **B5:機械翻訳(3)**

座長 二宮崇(東大)

- B5-1 Effects of Integrating Multiple Bilingually-Trained Segmentation Schemes
for Japanese-English SMT
○Michael Paul, Andrew Finch, Eiichiro Sumita(NICT) ... 998
- B5-2 Exploiting Directional Asymmetry in Phrase-table Generation
for Statistical Machine Translation
○Andrew Finch, Eiichiro Sumita(NICT) ... 1002
- B5-3 Word Lattice Decoding を利用した対訳コーパスのない言語からの統計的機械翻訳
○Nguyen Manh Hung, 秋葉友良(豊橋技科大) ... 1006
- B5-4 統計的機械翻訳におけるフレーズ前編集
○竹元勇太, 山本和英(長岡技科大) ... 1010
- B5-5 パラフレーズラティスをを用いた統計的機械翻訳
○大西貴士, 内山将夫, 隅田英一郎(NICT) ... 1014
- B5-6 非パラレルコーパスを用いた統計的機械翻訳の分野適応
○岡田大輔, 綱川隆司, 梶博行(静岡大) ... 1018
- B5-7 文節区切りの学習データを用いた, 日英統計翻訳の検討
○猪澤雅史, 村上仁一, 徳久雅人, 池原悟(鳥取大) ... 1022

3月11日(木) **C5:情報抽出(2)**

座長 鶴岡慶雄(JAIST)

- C5-1 嗅覚語彙の網羅的収集
○安藤豪啓, 栗飯原俊介(東大), 小早川達(産総研), 田中久美子(東大) ... 1026
- C5-2 ブログ記事からの特定の時間帯を表す時間表現の抽出
○廣嶋伸章, 戸田浩之, 松浦由美子, 片岡良治(NTT) ... 1030
- C5-3 Web 検索を利用した人物関係抽出とその評価
○三谷亮介, 田添丈博(鈴鹿高専), 椎野努(愛工大) ... 1034

- C5-4 新聞記事の企業業績発表記事からの製品・部門情報の抽出
○西崎海人, 酒井浩之, 増山繁 (豊橋技科大) ... 1038
- C5-5 製品評価における試験手順の自動生成に向けた手法の検討
○大森信行, 森辰則 (横浜国大) ... 1042
- C5-6 検証計画書テキストにおける属人性に関わる部分の検出
○荻野紫穂, 竹内広宜, 伊川洋平, 秋本仁志, 中田武男, 坂本佳史 (日本 IBM) ... 1046
- C5-7 Web 文書からの利用不可能オブジェクトの自動抽出
○岡嶋穰, 中澤聡, 安藤真一 (NEC) ... 1050

3月11日(木) **D5:テキスト・データマイニング**

座長 那須川哲哉 (日本 IBM)

- D5-1 アイディアを逃さず記録するための操作ログ認識システムの開発
○有賀美明, 秋葉友良 (豊橋技科大) ... 1054
- D5-2 自己組織化マップ SOM による心情を表すオノマトペ分類の再検討
○黒澤義明, 日良和也, 竹澤寿幸 (広島市立大) ... 1058
- D5-3 不要発話特定を導入した通話とコールメモ間のトピック対応付け
ー差分マイニングの性能改善に向けてー
○田村晃裕, 石川開, 安藤真一 (NEC) ... 1062
- D5-4 テキストマイニング分析による日本人英語学習者の第二言語習得への
学習動機評価モデルの検討
○照井雅子 (阪大), 宮永正治 (フリーランス翻訳者), 三崎敦子 (サイマル・アカデミー),
野口ジュディー (武庫川女子大) ... 1066
- D5-5 業種別による新聞記事と株価動向の関係の解析
○廣川敬真 (東京電機大), 吉田稔 (東大), 山田剛一,
増田英孝 (東京電機大), 中川裕志 (東大) ... 1070

3月11日(木) **E5:言語学的分析**

座長 金丸敏幸 (京大)

- E5-1 日本人学習者の英作文における人称代名詞について
○小林雄一郎 (阪大) ... 1074
- E5-2 CCG による日本語文法記述の進捗と展望 ~活用体系・統語構造・意味合成~
○戸次大介 (お茶大) ... 1078
- E5-3 構文的な分かりやすさを評価する可読性評価技術
○祖国威, 加納敏行 (東芝ソリューション) ... 1082
- E5-4 日英コンパラブルコーパスにおける文類照応の指示詞表現の比較分析
○竹井光子 (広島修道大), 吉田悦子 (三重大), 藤原美保 (Willamette 大) ... 1086
- E5-5 文書長に依存しない文書定数
○木村大翼, 田中久美子 (東大) ... 1090
- E5-6 聞き手行動における言い淀みの役割の日英比較分析
○吉田悦子 (三重大), Robin Lickley (Queen Margaret 大) ... 1094

創立50周年記念(第72回)全国大会委員名簿

創立50周年記念(第72回)全国大会 組織委員会

委員長 喜連川 優(東京大学)
副委員長 山本里枝子((株)富士通研究所), 中野美由紀(東京大学)
委員 相田 仁(東京大学), 小島 啓二((株)日立製作所), 坂井 修一(東京大学), 芝田 晃(三菱電機(株)),
武田 浩一(日本アイ・ピー・エム(株)), 田中 謙(北海道大学), 近山 隆(東京大学),
鳥澤健太郎(情報通信研究機構), 中田登志之(日本電気(株)), 西田 豊明(京都大学),
萩谷 昌己(東京大学), 橋田 浩一(産業技術総合研究所), 堀内 浩規((株)KDDI研究所),
松原 仁(公立はこだて未来大学), 丸山 宏(キヤノン(株)), 守安 隆(東芝ソリューション(株))

創立50周年記念(第72回)全国大会 プログラム委員会

委員長 坂井 修一(東京大学), 西田 豊明(京都大学), 丸山 宏(キヤノン(株))
委員 相原 健郎(国立情報学研究所), 大場みち子((株)日立製作所), 大蔭 和仁(東洋大学), 筧 捷彦(早稲田大学),
河野 健二(慶應義塾大学), 五島 正裕(東京大学), 後藤 真孝(産業技術総合研究所), 関 亜紀子(日本大学),
武田 浩一(日本アイ・ピー・エム(株)), 近山 隆(東京大学), 寺田 努(神戸大学), 中川 晋一(情報通信研究機構),
中野美由紀(東京大学), 中村 宏(東京大学), 萩谷 昌己(東京大学), 橋田 浩一(産業技術総合研究所),
深野 暁雄(東京工業大学), 松岡 聡(東京工業大学), 松原 仁(公立はこだて未来大学), 峯松 信明(東京大学),
三宅なほみ(東京大学), 守屋 悦朗(早稲田大学), 山崎 竹視(富士ゼロックス(株)), 山本里枝子((株)富士通研究所),
吉川 正俊(京都大学), 渡辺 弘美(アマゾンジャパン(株))

創立50周年記念(第72回)全国大会 実行委員会

委員長 萩谷 昌己(東京大学)
副委員長 近山 隆(東京大学), 柴崎 亮介(東京大学), 須藤 修(東京大学), 中川 裕志(東京大学), 山口 泰(東京大学)
委員 清田 陽司(東京大学), 須田 礼仁(東京大学), 玉造 潤史(東京大学), 原田 達也(東京大学), 増原 英彦(東京大学),
松崎 公紀(高知工科大学), 宮尾 祐介(東京大学)

創立50周年記念(第72回)全国大会 プログラム編成WG

委員長 坂井 修一(東京大学), 西田 豊明(京都大学), 丸山 宏(キヤノン(株))
委員 天笠 俊之(筑波大学), 石原 丈士((株)東芝), 伊藤 彰則(東北大学), 伊藤 正彦(東京大学), 上田 浩(群馬大学),
遠藤 敏夫(東京工業大学), 大和田 茂((株)ソニーCS研究所), 緒方 淳(産業技術総合研究所),
加藤 由花(産業技術総合研究所), 金井 秀明(北陸先端科学技術大学院大学),
川島 英之(筑波大学), 岸本 章宏(東京工業大学), 吉瀬 謙二(東京工業大学), 木野 泰伸(筑波大学),
児玉 公信((株)情報システム総研), 小塚 宏(三菱電機(株)), 齋藤 孝道(明治大学), 柴山 悦也(東京大学),
渋谷 哲朗(東京大学), 須賀 祐治((株)インターネットインシアティブ), 高木 真一(早稲田大学), 塚田 浩二(お茶の水女子大学),
豊田 正史(東京大学), 中野美由紀(東京大学), 中村 祐一(日本電気(株)), 並木美太郎(東京農工大学),
二宮 崇(東京大学), 野中 誠(東洋大学), 福田 浩章(慶應義塾大学), 藤代 一成(慶應義塾大学),
堀 幸雄(香川大学), 堀川 隆(日本電気(株)), 村上 誓((独)情報通信研究機構), 森 武俊(東京大学),
柳井 啓司(電気通信大学), 山下 博之((独)情報処理推進機構), 吉岡 亮衛(国立教育政策研究所),
和田 勉(長野大学), 渡辺知恵美(お茶の水女子大学)

創立50周年記念(第72回)全国大会「今ドキッのIT@御殿下記念館2010」委員会

委員長 相田 仁(東京大学)
副委員長 近山 隆(東京大学)
委員 中野美由紀(東京大学), 中山 雅哉(東京大学), 横山 大介(東京大学)

今大会では、東京大学様より会場のご提供を頂き誠にありがとうございました。
ここに厚くお礼申し上げます。

社団法人 情報処理学会